

Novell Designer for Identity Manager 3:

1.2

www.novell.com

管理ガイド

2006年7月14日



Novell®

保証と著作権

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、本書の内容または本書に起因する結果に関して、いかなる表示も行いません。また、本書の商品性、および特定用途への適合性について、いかなる黙示の保証も行いません。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、本書の内容を改訂または変更する権利を常に留保します。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、このような改訂または変更を個人または事業体に通知する義務を負いません。

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、ノベル製ソフトウェアの使用に起因する結果に関して、いかなる表示も行いません。また、商品性、および特定目的への適合性について、いかなる黙示の保証も行いません。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、ノベル製ソフトウェアの内容を変更する権利を常に留保します。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、このような変更を個人または事業体に通知する義務を負いません。

本契約の締結に基づいて提供されるすべての製品または技術情報には、米国の輸出管理規定およびその他の国の貿易関連法規が適用されます。お客様は、取引対象製品の輸出、再輸出または輸入に関し、国内外の輸出管理規定に従うこと、および必要な許可、または分類に従うものとします。お客様は、現在の米国の輸出除外リストに掲載されている企業、および米国の輸出管理規定で指定された輸出禁止国またはテロリスト国に本製品を輸出または再輸出しないものとします。お客様は、取引対象製品を、禁止されている核兵器、ミサイル、または生物化学兵器を最終目的として使用しないものとします。本ソフトウェアの輸出については、www.novell.co.jp/info/exports/expmtx.html または www.novell.com/ja-jp/company/exports/ もあわせてご参照ください。弊社は、お客様が必要な輸出承認を取得しなかったことに対し如何なる責任も負わないものとします。

Copyright © 2006 Novell, Inc. All rights reserved. 本書の一部または全体を無断で複製、写真複写、検索システムへの登録、転載することは、その形態を問わず禁止します。

本書に記載された製品で使用されている技術に関連する知的所有権は、弊社に帰属します。これらの知的所有権は、<http://www.novell.com/company/legal/patents/> に記載されている 1 つ以上の米国特許、および米国ならびにその他の国における 1 つ以上の特許または出願中の特許を含む場合があります。

Novell, Inc.
404 Wyman Street, Suite 500
Waltham, MA 02451
U.S.A.
www.novell.com

オンラインマニュアル：本製品とその他の Novell 製品のオンラインヘルプにアクセスする場合や、アップデート版を入手する場合は、www.novell.com/documentation をご覧ください。

Novell の商標

Novell の商標一覧については、[商標とサービスの一覧 \(http://www.novell.com/company/legal/trademarks/tmlist.html\)](http://www.novell.com/company/legal/trademarks/tmlist.html) を参照してください。

第三者の商標

第三者の商標は、それぞれの所有者に属します。

目次

このガイドについて	9
1 Designer のインストール	11
1.1 要件	11
1.1.1 システム要件	11
1.1.2 プラットフォームの要件	11
1.2 インストール	11
1.2.1 Eclipse がインストールされていない場合の Designer のインストール	11
1.2.2 システム上に Eclipse がインストールされている場合の Designer のインストール	12
2 はじめに	15
2.1 新機能	15
2.2 Designer の機能とツール	15
2.2.1 Designer の機能	16
2.2.2 生産性の高い環境	23
2.2.3 開発者向けの拡張機能とツール	24
2.3 対象ユーザ	24
2.4 IDM 3 エンジンが必要とする機能	25
2.4.1 ドライバセットおよびドライバのログイベント	25
2.4.2 ポリシースクリプト	27
2.4.3 エンタイトルメントのサポート	27
2.4.4 ワークフローベースのプロビジョニングのサポート	28
2.5 Designer と iManager との関係	28
3 識別ソリューションの提供	31
3.1 セキュリティ：ベストプラクティス	31
3.2 識別情報の問題の解決	32
3.3 Designer の使用方法	36
3.3.1 新しいソリューションの設計	36
3.3.2 既存のソリューションの再設計	37
3.3.3 実際のシステムでの作業	37
4 ヘルプの表示	39
4.1 ヘルプキー	40
4.2 初期ページからのリンク	42
4.3 情報の参照	43
4.4 文脈依存型ヘルプの表示	44
4.5 Web へのリンク	46
4.6 デモの表示	46
4.7 情報の検索	47
4.8 ブラウザとヘルプサーバのカスタマイズ	47
5 モデルの構築	49
5.1 プロジェクトの作成	49

5.2	モデラへのアクセス	52
5.2.1	項目の移動	55
5.2.2	インライン編集	55
5.2.3	ツールチップとツールバー	56
5.3	モデリングモードの選択	56
5.3.1	開発者モード	58
5.3.2	設計者モード	59
5.3.3	データフローモード	63
5.3.4	テーブルモード	64
5.4	パレットからの作業	65
5.4.1	パレット操作	65
5.4.2	フライアウトパレット	66
5.4.3	パレットのサイズ変更	67
5.4.4	パレットの固定	67
5.4.5	フォルダとアプリケーションの配置	68
5.4.6	レイアウトの変更	69
5.4.7	パレットのキーボード操作	70
5.5	コピーと貼り付け	70
5.5.1	アプリケーションのコピー	71
5.5.2	ドライバセットのコピー	72
5.5.3	アイデンティティボルトのコピー	73
5.5.4	ドメイングループのコピー	74
5.5.5	エディタ間のコピー	74
5.6	ドメイングループによる整理	75
5.6.1	主な機能	76
5.6.2	ドメイングループの作成	76
5.6.3	ドメイングループの最小化 (縮小表示)	78
5.6.4	ドメイングループの復元	79
5.6.5	ドメイングループの最大化	80
5.6.6	隣接する項目の自動配置	80
5.6.7	新しいドメイングループへのグループ化	80
5.6.8	ドメイングループのグループ解除	81
5.6.9	コンテンツのクリア	82
5.6.10	ドメイングループのアイコンの変更	83
5.7	アプリケーションの接続	84
5.7.1	自動接続	84
5.7.2	接続ターゲットの強調表示	84
5.7.3	オブジェクトの自動作成	85
5.7.4	自動再描画	85
5.7.5	手動接続	85
5.7.6	eDir-to-eDir 接続	86
5.7.7	複数のドライバ接続	87
5.7.8	接続の直線化	88
5.7.9	再接続	89
5.7.10	ドライバアイコン	89
5.7.11	選択されたドライバ	90
5.7.12	インポート済みオブジェクトの自動レイアウト	90
5.7.13	ショートカットキー	90
5.8	コンポーネントの整列とレイアウト	91
5.8.1	整列のヒント	92
5.8.2	ルーラの使用	92
5.8.3	グリッドの使用	94
5.8.4	アプリケーションの配置	96
5.8.5	自動レイアウト	97
5.9	複数のオブジェクトの編集	98
5.10	AD ドメインコントローラのモデリング	98
5.10.1	接続の設定	99

5.10.2	コントローラの検出	99
5.10.3	ドメインコントローラについての情報	100
5.11	モデルの保存	100
6	ユーザアプリケーションのコンポーネントの設計	101
7	プロジェクトの管理	103
7.1	ワークスペースの指定	103
7.1.1	プロジェクトファイルの形式	104
7.1.2	テキストエディタによる編集	105
7.2	パースpekティブ管理	107
7.2.1	パースpekティブの開き方	108
7.2.2	パースpekティブのリセット	109
7.2.3	パースpekティブの閉じ方	109
7.3	ビューの管理	109
7.3.1	ビューの開き方	110
7.3.2	ビューの移動	110
7.3.3	ビューの最小化と最大化	111
7.3.4	ビューの閉じ方	111
7.3.5	ビューウィンドウの再オープン	112
7.3.6	ファーストビューの作成	112
7.4	[Project (プロジェクト)] ビュー	113
7.4.1	プロジェクトの表示と編集: [Project (プロジェクト)] ビュー	113
7.5	[Outline (アウトライン)] ビュー	121
7.5.1	アクティブなエディタの内容表示: [Outline (アウトライン)] ビュー	122
7.6	[Navigator (ナビゲータ)] ビュー	131
7.7	[Policy Set (ポリシーセット)] ビュー	136
7.8	[Properties (プロパティ)] ビュー	136
7.8.1	スピナーコントロール	137
7.8.2	DNセルエディタ	137
7.8.3	論理値の編集	138
7.8.4	キーボード操作のヒント	138
7.8.5	列幅のサイズ変更	138
7.8.6	概要テーブル	138
7.9	[Search Results (検索結果)] ビュー	139
7.10	[Tasks (タスク)] ビュー	140
7.11	[Trace (トレース)] ビューと [Error Log (エラーログ)] ビュー	141
8	Designer へのインポート	143
8.1	プロジェクトのインポート	144
8.1.1	アイデンティティポールのプロジェクトのインポート	144
8.1.2	ファイルシステムからのプロジェクトのインポート	149
8.1.3	iManager からのプロジェクトのインポート	151
8.2	アイデンティティポールのドライバセットまたはドライバのインポート	152
8.2.1	アイデンティティポールのドライバセットのインポート	153
8.2.2	アイデンティティポールのドライバのインポート	158
8.3	ドライバ環境設定ファイルのインポート	160
8.3.1	ファイルシステムからの Identity Manager プロジェクトのインポート	160
8.3.2	[Modeler (モデラ)] ビューのファイルからのドライバ環境設定のインポート	161
8.3.3	[Outline (アウトライン)] ビューでファイルからドライバ環境設定をインポート	163
8.4	アイデンティティポールのチャネル、ポリシー、スキーマ項目のインポート	165
8.4.1	チャネルのインポート	166
8.4.2	ポリシーのインポート	169

8.4.3	スキーマのインポート	171
8.5	比較機能の使用	174
8.5.1	ドライバオブジェクトをインポートするときに比較を使用する	174
8.5.2	チャンネルオブジェクトでの比較の使用	177
8.5.3	ポリシーでの比較の使用	177
8.5.4	属性と Designer のプロパティとの照合	178
8.6	エラーメッセージと解決法	180
9	エンタイトルメント	181
9.1	エンタイトルメントの設計	181
9.1.1	用語	182
9.1.2	エンタイトルメントの必要条件	182
9.1.3	エンタイトルメントをサポートする、設定済みの Identity Manager ドライバ	183
9.1.4	Identity Manager ドライバでのエンタイトルメントの有効化	184
9.2	エンタイトルメントウィザードを介したエンタイトルメントの作成	185
9.2.1	値なしエンタイトルメント	186
9.2.2	外部アプリケーションを照会する値ありエンタイトルメント	188
9.2.3	管理者定義のエンタイトルメント (リスト付き)	193
9.2.4	管理者定義のエンタイトルメント (リストなし)	196
9.3	エンタイトルメントの編集と表示	198
9.3.1	エンタイトルメントの [XML Source (XML ソース)] ビューと [XML Tree (XML ツリー)] ビュー	200
9.3.2	Novell エンタイトルメント DTD の使用	203
9.4	エンタイトルメントの管理	203
10	ポリシーの作成と管理	205
11	電子メール通知テンプレートの設定	207
11.1	通知テンプレートの表示	207
11.2	通知テンプレートの編集	208
11.3	通知テンプレートの追加	212
11.4	電子メールサーバの設定	213
12	スキーマの管理	215
12.1	Schema Manager (スキーママネージャ) へのアクセス	216
12.2	クラスと属性の作成	217
12.2.1	eDirectory クラスの作成	217
12.2.2	eDirectory 属性の作成	220
12.3	スキーマの変更	225
12.3.1	クラスに関するフィールド	226
12.3.2	属性に関するフィールド	230
12.3.3	スキーマ定義の削除	232
12.3.4	スキーマの変更	232
12.3.5	スキーマ定義の名前変更	232
12.4	スキーマの展開	234
12.4.1	スキーマの展開	235
12.4.2	Schema Deploy Wizard (スキーマ展開ウィザード)	242
12.5	スキーマのインポート	243
12.5.1	スキーマのインポート	243
12.5.2	スキーマインポートウィザード	253
12.6	Application Schema (アプリケーションスキーマ)	254
12.6.1	アプリケーションスキーマの管理	255

12.6.2	アプリケーションスキーマのリフレッシュ	257
12.7	eDirectory スキーマ情報	258
12.8	eDirectory から LDAP までスキーママッピングの表	262
13	データフローの管理	271
13.1	データフロービュー	271
13.1.1	データフロービューへのアクセス	272
13.1.2	モデラのフロー矢印	273
13.1.3	属性の同期方法の表示	274
13.1.4	データフローの変更	275
13.2	データフローエディタへのアクセス	276
13.2.1	キーボード操作	278
13.3	データの表示	279
13.3.1	フィルタビュー	279
13.3.2	オブジェクトフィルタ	280
13.3.3	アイデンティティボルトの固定	281
13.3.4	アイデンティティボルトの展開表示と縮小表示	281
13.3.5	eDirectory への切り替え	283
13.3.6	eDir-to-eDir ドライバ	284
13.3.7	パスワードビュー	285
13.4	項目の追加	286
13.4.1	項目の追加と削除	286
13.4.2	アイデンティティボルトの追加	287
13.4.3	アプリケーションの追加	288
13.4.4	クラスと属性の追加	289
13.4.5	非フィルタ属性の追加	290
13.5	項目の編集	291
13.5.1	項目の編集	292
13.5.2	非フィルタ属性の編集	293
13.5.3	スキーマの管理	293
13.5.4	フローの削除	293
13.5.5	データフローの変更	294
13.6	HTML レポートの生成と書式設定	294
13.6.1	HTML レポートの生成	295
13.6.2	HTML 列の書式設定	297
13.7	パスワードの統合	298
14	Designer 内のオブジェクトの設定	301
14.1	オブジェクトプロパティの表示	301
14.1.1	[Properties (プロパティ)] ビュー	301
14.1.2	[Properties (プロパティ)] ダイアログボックス	302
14.1.3	操作	302
14.2	アイデンティティボルトの管理	303
14.2.1	アイデンティティボルトの追加	303
14.2.2	アイデンティティボルトプロパティの編集	303
14.3	ドライバセットの管理	304
14.3.1	[Driver Set General (ドライバ設定全般)] オプション	305
14.3.2	ドライバセットサーバリストの設定	305
14.3.3	ドライバセットのグローバル構成値	306
14.3.4	ドライバセットのログレベル	306
14.3.5	ドライバセットのトレースレベル	306
14.4	ドライバの管理	309
14.4.1	ドライバパラメータ	309
14.4.2	ドライバのグローバル構成値	310

14.4.3	ドライバマニフェスト	310
14.4.4	ドライバの名前付きパスワード	311
14.4.5	ドライバアイコン	311
14.4.6	ドライバのログレベル	312
14.4.7	ドライバトレースレベル	313
14.4.8	ドライバ全般の設定	315
14.4.9	ドキュメント生成用リモートローダクライアント環境設定の追加	315
14.5	アプリケーションプロパティの設定	316
15	システムツール	317
15.1	Web ブラウザを開く	317
15.2	iManager の起動	318
15.3	プロジェクトの検査	318
15.3.1	プロジェクトの検査方法	319
15.3.2	Project Checker (プロジェクトチェッカー) のカスタマイズ	322
15.3.3	検査される項目	324
15.4	ディレクトリオブジェクトの管理	327
15.4.1	ツールベース方式	328
15.4.2	タスクベース方式	329
15.4.3	eDirectory Object Manager の使用	329
15.4.4	高度な編集	331
15.5	アプリケーションとリソースのリモート制御	331
15.5.1	リモート接続の設定	332
15.5.2	ビューアのカスタマイズ	333
15.6	ドライバおよびアプリケーション用のアイコンのカスタマイズ	334
15.6.1	新しいアイコンの作成	334
15.7	Designer の更新	340
16	プロジェクトの文書化	343
16.1	ドキュメントスタイルの作成	343
16.1.1	ドキュメントスタイルの作成	343
16.1.2	スタイルとプロジェクトのさまざまな組み合わせ	347
16.2	スタイルのセクションのカスタマイズ	358
16.2.1	スタイルのセクションの編集	359
16.3	ドキュメントの生成	359
16.4	ドキュメントスタイルの高度な編集	363
16.4.1	高度な編集モードの内容	364
16.4.2	操作チュートリアル	371
16.4.3	ダブルバイトのサポート	377
16.4.4	Styles Template Library (スタイルテンプレートライブラリ) への Style File (スタイルファイル) の保存	378
16.5	ドキュメント生成時に発生する問題のトラブルシューティング	379
17	展開とエクスポート	381
17.1	プロジェクトのアイデンティティボールドへの展開	382
17.2	ドライバセットのアイデンティティボールドへの展開	383
17.2.1	eDir2eDir の展開と SSL/TLS	384
17.3	ドライバのアイデンティティボールドへの展開	384
17.4	チャネルのアイデンティティボールドへの展開	386
17.5	ポリシーのアイデンティティボールドへの展開	387
17.6	比較機能の使用	388
17.6.1	ドライバオブジェクト展開時の比較の使用	389

17.6.2	チャンネルオブジェクトを展開する前の比較の使用	392
17.6.3	ポリシーを展開する前の比較の使用	392
17.6.4	属性と Designer のプロパティとの照合	392
17.7	プロジェクトのエクスポート	392
17.8	ファイルへのエクスポート	395
17.8.1	[エクスポート] コンテキストメニュー	395
17.8.2	[Modeler (モデラ)] ビューからの環境設定ファイルのエクスポート	396
17.8.3	[Outline (アウトライン)] ビューからの環境設定ファイルのエクスポート	397
17.9	展開済みオブジェクトのトラブルシューティング	399
18	初期設定	401
18.1	[初期設定] ページ	401
18.2	初期設定: 一般	401
18.2.1	外観	402
18.2.2	ケーパビリティ	404
18.2.3	比較/パッチ	404
18.2.4	コンテンツタイプ	404
18.2.5	エディタ	405
18.2.6	キー	406
18.2.7	パースペクティブ	407
18.2.8	起動とシャットダウン	407
18.2.9	Web ブラウザ	408
18.3	初期設定: Designer for IDM	408
18.3.1	アップデート、プロンプト、Web ブラウザ	408
18.3.2	環境設定	411
18.3.3	ドキュメントの生成	414
18.3.4	エンタイトルメント	415
18.3.5	インポート/展開	415
18.3.6	モデラ	417
18.3.7	ポリシービルダ	422
18.4	初期設定: ヘルプ	426
18.4.1	ヘルプサーバ	426
18.5	Independent Driver Services (独立ドライバサービス)	427
18.6	初期設定: プロビジョニング	427
18.7	初期設定: XML	427
18.7.1	Novell XML エディタ	427
18.7.2	[XML Tree (XML ツリー)] ビュー	427
19	Designer のトラブルシューティング	429
19.1	エラーログの表示	429
19.1.1	メニューの使用	429
19.1.2	ファイルシステムの参照	430
19.2	トレースメッセージの有効化	430
19.3	ロードされたプラグインの確認	432
19.4	Identity Manager オブジェクトの展開	432
19.4.1	展開エラーの例	434
19.4.2	空のサーバリストが設定されたドライバの展開	435
19.4.3	エラーメッセージと解決法	436
19.5	ドキュメント生成時の問題	450
19.5.1	メモリの問題	450
19.5.2	レポートされた追加アイデンティティポールのスキーマ項目の編集	452
19.6	バグとフィードバックの送付	455

A Identity Manager: 概要	459
A.1 識別情報、アクセス、およびグループの管理	459
A.2 Identity Manager の動作	460
B Designer のアーキテクチャ	461
B.1 構築基盤としての Eclipse テクノロジ	461
B.2 コアモデルで使用されている Eclipse Modeling Framework	461
C ドキュメントジェネレータのコアサポートテンプレート	463
C.1 dgSection.xml	463
C.2 dgFormat.xml	464
C.3 idmConfig.xml	466
C.4 idmUtil.xml	467
D クイックリファレンス：メニューオプション	469
D.1 [File (ファイル)] メニューのオプション	469
D.2 [Edit (編集)] メニューのオプション	472
D.3 [View (表示)] メニューのオプション	473
D.4 [Navigate (ナビゲート)] メニューのオプション	474
D.5 [Project (プロジェクト)] メニューのオプション	474
D.6 [Tools (ツール)] メニューのオプション	476
D.7 [Model (モデル)] メニューのオプション	476
D.8 [Live (ライブ)] メニューのオプション	482
D.9 [Window (ウィンドウ)] メニューのオプション	483
D.10 [Help (ヘルプ)] メニューのオプション	492
E モデラの操作	495
E.1 モデラの右クリック操作	495
E.2 キーボード操作	505
F 主要な用語	507

このガイドについて

Designer for Identity Manager は、Identity Manager ベースのソリューションの設計、テスト、文書化および展開が可能な、生産性の高い環境です。

初心者でもウィザードを使用することで識別情報管理ソリューションを構築できます。知識と経験が豊富なユーザは、ウィザードを省略して詳細設定を直接操作することもできます。

対象読者

このガイドは、IT 関連の専門家、開発者、コンサルタント、販売担当エンジニア、設計者またはシステムデザイナーおよびシステム管理者を対象としています。

ご意見やご要望

このマニュアルおよび本製品に含まれるその他のマニュアルに関するご意見やご要望をお聞かせください。オンラインヘルプの各ページの下部にあるユーザコメント機能を使用するか、または www.novell.com/documentation/feedback.html にアクセスして、ご意見をお寄せください。

最新のマニュアル

『Designer for Identity Manager: 管理ガイド』の最新バージョンは、[Identity Manager の Web サイト \(http://www.novell.com/identity/access/identity_integration\)](http://www.novell.com/identity/access/identity_integration) で確認できます。

表記規則

Novell® のマニュアルでは、手順に含まれる複数の操作および相互参照パス内の項目を分けるために、大なり記号 (>) を使用しています。

商標記号 (®、™ など) は、Novell の商標を示します。アスタリスク (*) は第三者の商標を示します。

プラットフォームによってはパス名にバックスラッシュ (円記号) が使用される場合とスラッシュが使用される場合がありますが、パス名の表記にはバックスラッシュを使用しています。Linux* や UNIX* などの、スラッシュを必要とするプラットフォームのユーザは、ソフトウェアで要求されるとおりに、スラッシュを使用する必要があります。

その他のマニュアル

- ◆ [Identity Manager 3.0 インストールガイド](#)
- ◆ [Novell Identity Manager 3.0 管理ガイド](#)
- ◆ [ポリシービルダとドライバのカスタマイズガイド](#)
- ◆ [Identity Manager ユーザアプリケーション: ユーザーズガイド \(http://www.novell.com/documentation/idm/index.html?page=/documentation/idm/ugpro/data/bookinfo.html\)](http://www.novell.com/documentation/idm/index.html?page=/documentation/idm/ugpro/data/bookinfo.html)
- ◆ [Identity Manager User Application: Design Guide \(http://www.novell.com/documentation/idm/index.html?page=/documentation/idm/dgpro/data/bookinfo.html\)](http://www.novell.com/documentation/idm/index.html?page=/documentation/idm/dgpro/data/bookinfo.html)
- ◆ [ドライバ用各種ガイド \(http://www.novell.com/documentation/idmdrivers/index.html\)](http://www.novell.com/documentation/idmdrivers/index.html)

Designer のインストール

1

- ◆ 11 ページのセクション 1.1 「要件」
- ◆ 11 ページのセクション 1.2 「インストール」

1.1 要件

- ◆ 11 ページのセクション 1.1.1 「システム要件」
- ◆ 11 ページのセクション 1.1.2 「プラットフォームの要件」

1.1.1 システム要件

- ◆ 最小解像度 :1024 x 768。Designer の推奨解像度は、1280 x 1024。
- ◆ 512MB の RAM(推奨)。
- ◆ 1GB の空きディスク容量 (推奨)。
- ◆ 1GHz の処理速度。
- ◆ Gettext ユーティリティ (Linux のみ)。

Linux の場合、Designer のサポートパッケージ (NDSbase および NICI) をインストールする際に、ある種の Linux コアユーティリティが必要です。GNU gettext ユーティリティにより、国際化および多言語のメッセージに対応するためのフレームワークが提供されます。Designer をインストールする前に、このパッケージがインストールされていることを確認してください。YaST を使用すると、依存関係およびインストール済みのパッケージを確認できます。

1.1.2 プラットフォームの要件

Designer は次のプラットフォームにインストールできます。

- ◆ Windows 2000 以降
- ◆ Novell® Linux Desktop、SUSE® Linux、または KDE または GNOME* をサポートしているその他の Linux 配布パッケージ。

1.2 インストール

- ◆ 11 ページのセクション 1.2.1「Eclipse がインストールされていない場合の Designer のインストール」
- ◆ 12 ページのセクション 1.2.2 「システム上に Eclipse がインストールされている場合の Designer のインストール」

1.2.1 Eclipse がインストールされていない場合の Designer のインストール

Designer は Eclipse 環境で動作するため、Designer をワークステーションにインストールすると Eclipse もインストールされます。

ファイルのダウンロード

- 1 各自のシステムに適している .iso イメージまたは .zip ファイルをダウンロードします。

次の場所からダウンロードできます。

- ◆ ノベル用ダウンロード (<http://download.novell.com/index.jsp>)
- ◆ Cool Solutions (<http://www.novell.com/cool solutions/dirxml/designer/>)

- 2 .iso イメージをダウンロードしたら、このイメージを Identity Manager CD または DVD として焼き付けます。

Windows でのインストール

- 1 Identity Manager CD または .zip ファイルから、`\nt\designer\install.exe` を実行します。

`\nt` ディレクトリにも、`install.exe` ファイルが入っています。ただし、このファイルはメタディレクトリシステム用です。designer ディレクトリ内の `install.exe` ファイルを使用してください。

- 2 Designer を実行するには、デスクトップ上の [Designer] アイコンをクリックします。

Linux でのインストール

eDirectory™ ベースコンポーネントおよび NICI をインストールするには、root 権限が必要です。これらのコンポーネントをインストールするため、インストールプログラムにより、root パスワードの入力を促すメッセージが表示されます。

Linux 上にインストールするには：

- 1 Identity Manager CD または .zip ファイルから、`/linux/designer/install` を実行します。

`/linux` ディレクトリにも、`install.bin` ファイルが入っています。ただし、このファイルはメタディレクトリシステム用です。designer ディレクトリ内の `install.bin` ファイルを使用してください。

- 2 Designer を実行するには、デスクトップ上の [Designer] アイコンをクリックします。

1.2.2 システム上に Eclipse がインストールされている場合の Designer のインストール

Designer のインストールでは、Designer for Identity Manager とともに、Eclipse もインストールされます。Eclipse がシステム上にすでにインストールされている場合は、Designer のインストールのみを実行して、別の場所に Designer を配置します。Designer を実行して、既存の Eclipse もそのまま実行することができます。

Designer for Identity Manager は、既存の Eclipse インストールに統合することができます。この節では、この方法について説明します。

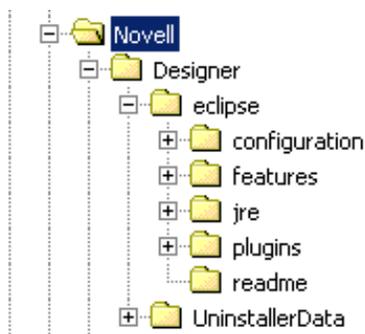
注：Designer およびサードパーティ製の Eclipse プラグインとの相互作用が想定されるため、Designer を既存の Eclipse へインストールする場合のサポートは提供されません。

この節の手順は、Designer 1.1 より古いバージョンでは使用できません。古いバージョンについては、[Cool Solutions Web サイト \(http://www.novell.com/coolsolutions/dirxml/designer/existinginstall_instructions.html\)](http://www.novell.com/coolsolutions/dirxml/designer/existinginstall_instructions.html) を参照してください。

ファイルのダウンロード

- 1 Eclipse のバージョンが 3.2 より古い場合は、Eclipse 3.2 をダウンロードしてインストールします。
- 2 最新の EMF (SDK) および GEF (SDK) を [Eclipse Web サイト \(http://www.eclipse.org/downloads/\)](http://www.eclipse.org/downloads/) からダウンロードしてインストールします。
- 3 Designer for Identity Manager をダウンロードします。
次の場所からダウンロードできます。
 - ◆ ノベル用ダウンロード (<http://download.novell.com/index.jsp>)
 - ◆ Cool Solutions (<http://www.novell.com/coolsolutions/dirxml/designer/>)
- 4 .iso イメージをダウンロードしたら、このイメージを CD または DVD に焼き付けます。

ファイルのコピー



Designer のインストールディレクトリは、通常は `c:\program files\novell\designer` です。Designer により、Eclipse は、`eclipse` ディレクトリに `features` および `plugins` のサブディレクトリとともにインストールされます。

Eclipse を先にインストールした場合でも、Designer のインストールによって `eclipse` ディレクトリ、`features` サブディレクトリ、および `plugins` サブディレクトリが作成されます。

- 1 `com.novell` で始まるすべてのディレクトリを、Designer の `eclipse\features` サブディレクトリから、先にインストールした `eclipse\features` サブディレクトリにコピーします。
- 2 次のファイルを Designer のインストールディレクトリから既存の Eclipse の `plugins` ディレクトリにコピーします。
 - ◆ `doc_1.00.jar` ファイル (`com.novell.soa.xml.ui.editor.doc_1.0.0.jar`)
 - ◆ `enhancements_1.0.0` ディレクトリ (`org.eclipse.enhancements_1.0.0`)
 - ◆ `com.novell` で始まるすべてのフォルダ

- ◆ 15 ページのセクション 2.1 「新機能」
- ◆ 15 ページのセクション 2.2 「Designer の機能とツール」
- ◆ 24 ページのセクション 2.3 「対象ユーザ」
- ◆ 25 ページのセクション 2.4 「IDM 3 エンジンが必要とする機能」
- ◆ 28 ページのセクション 2.5 「Designer と iManager との関係」

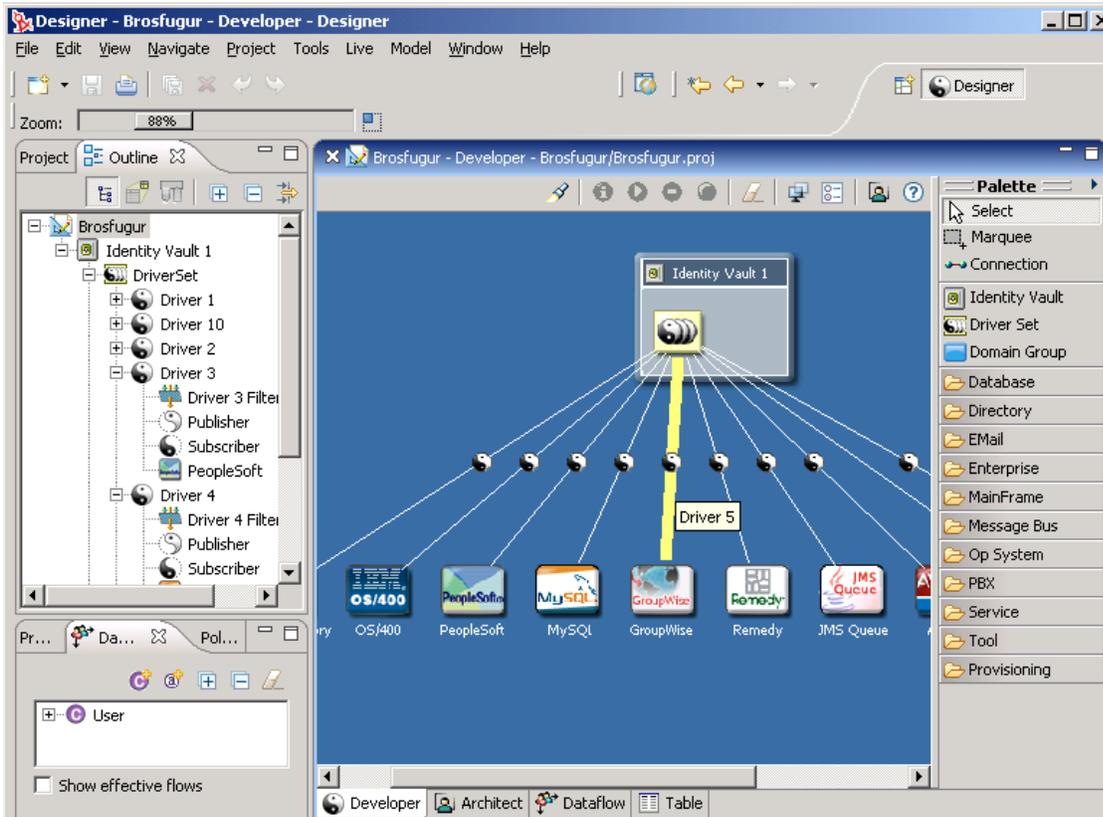
2.1 新機能

Designer の新機能を確認するには、[ヘルプ] > [what's new (新機能)] の順にクリックします。

2.2 Designer の機能とツール

Designer は、Identity Manager の設定と展開を行うための、強力でグラフィカルなツールセットです。

図 2-1 Designer の [Outline (アウトライン)] ビュー、モデラおよびパレット



Designer ツールでは、次の作業を行うことができます。

- ◆ プロジェクトを携行し、オフラインで作業し、プロジェクトをディスクに保存する。
- ◆ プロジェクトを長時間開いたままにする。
- ◆ 同時に複数のプロジェクトで作業する。
- ◆ 処理はローカルの CPU で実行されるため、高性能な処理が行える。
- ◆ クリック回数を少なく、サブウィンドウのサイズ変更やクローズの手間を減らしたインタフェースで、スムーズに作業を行える。
- ◆ 開発およびデバッグ環境を組み込むことで、編集やデバッグに必要な他のクライアントベースツールが統合されている。

2.2.1 Designer の機能

Designer には、使いやすい機能が豊富に備わっています。

- ◆ 16 ページの「主要なアプリケーションサービスとフレームワーク」
- ◆ 17 ページの「インストール」
- ◆ 17 ページの「エンタープライズモデラ」
- ◆ 18 ページの「[Project (プロジェクト)] ビュー」
- ◆ 18 ページの「[Outline (アウトライン)] ビュー」
- ◆ 19 ページの「インポートと展開」
- ◆ 19 ページの「XML エディタ」
- ◆ 19 ページの「環境設定の管理」
- ◆ 19 ページの「ポリシー管理」
- ◆ 21 ページの「ポリシーのシミュレーション」
- ◆ 21 ページの「[データフロー] ビューとエディタ」
- ◆ 22 ページの「エンタイトルメント」
- ◆ 22 ページの「電子メール通知テンプレート」
- ◆ 22 ページの「ドキュメントジェネレータ」
- ◆ 23 ページの「ディレクトリツール」

主要なアプリケーションサービスとフレームワーク

- ◆ 基本的なビュー: エラーログ、Outline (アウトライン)、Project (プロジェクト)、Navigator (ナビゲータ)、タスク
- ◆ 完全にインデックス化された、検索可能なヘルプシステム
- ◆ 一般的な「元に戻す」/「やり直し」の機能
- ◆ 内部的な共通サービス: ユーティリティ、API、ウィジェットおよびリソースキャッシュ
- ◆ ログファイルおよびトレースファイル
- ◆ パースペクティブ管理: 開く、閉じる、コピーおよびリセット
- ◆ 初期設定: 外観、フォント、色、スタイル、ファイルの関連付けおよび履歴

- ◆ テキストエディタ :CUA キーボード、タブ、印刷マージン、行番号、色、初期設定、検索 / 置換、ブックマーク、行移動、印刷
- ◆ ツールバー、メニューバー、ウェルカムバー、パースペクティブバー、およびファーストビューバー
- ◆ 入力を制御する初期設定が備わったトレースビュー
- ◆ ビューとエディタの管理
- ◆ 初期ページ : 新機能、更新および Flash によるデモ

インストール

- ◆ 新しいプラグインのインストール、インストール済みプラグインの管理、および必要に応じて前のバージョンに戻す機能
- ◆ Designer アイコンをデスクトップに配置するオプション
- ◆ Designer をインストールプログラムから直接起動するオプション
- ◆ 更新のオン / オフを切り替える設定が備わった、更新の自動 (または手動) 確認機能

エンタープライズモデラ

- ◆ 位置合わせ機能 : グリッド、スナップ、ルーラ、配置、およびヒント
- ◆ 自動レイアウト : 星形、円形、半円形、拡大または縮小
- ◆ エディタ内およびエディタ間でのコピーと貼り付け
- ◆ 色のテーマ
- ◆ 削除 (複数選択機能あり)
- ◆ ドライバ環境設定ウィザードの統合
- ◆ グラフィカルな [データフロー] ビューおよびデータフローの矢印を操作する機能 : フィルタ、スキーマおよびマッピングポリシーを視覚的に更新
- ◆ 装飾サポート : ボールトからツリーへの変更、ドライバをリモートまたはファイアウォールを介した通信としてマーク、リソースアイコン (ヘルプデスク、ログ、および監査)
- ◆ ドメイングループの管理 : グループの追加、グループの解除、グループのネスト、クリア、最小化 / 最大化、すべてを展開 / 縮小、自動サイズ調整、アイコンライブラリ
- ◆ アイデンティティボールト、ドライバセット、アプリケーション、ドメイングループおよびリソースのドラッグアンドドロップ
- ◆ エディタ間における統合
- ◆ モデリングパレット : 初期設定で設定可能なドラッグアンドドロップ、フォルダ
- ◆ グラフィックスナップショットサービス
- ◆ ヘルプ : 文脈依存型、検索、参照およびデモ
- ◆ 概要レベルの設計者モードと詳細レベルの開発者モード
- ◆ タイトルおよびラベルのインライン編集
- ◆ 統合された階層構造の [Outline (アウトライン)] ビュー
- ◆ キーボード操作
- ◆ アイコンの編集

- ◆ ライン接続の管理：自動接続、自動強調表示、マウス引力、グループを縮小したときのラインの縮小、ラインの整列、再接続、eDir-to-eDir 接続、マルチドライバ接続
- ◆ 初期設定：表示動作、プロンプトおよび自動ウィザードのための多数の初期設定
- ◆ ささまざまな用紙サイズに合わせるオプションを備えた印刷サポート
- ◆ モデルの検索：大文字と小文字の区別が可能、エディタとの統合、クラス別検索
- ◆ 選択枝の管理：マーカーおよび選択ツール、外部ビューによって同期された選択枝、すべてを選択、および選択枝の拡張または削除
- ◆ 統合されたサービス：ドライバの開始または停止、ドライバ情報、インポートまたは展開
- ◆ アプリケーションを含むアプリケーションを用いたサブアプリケーションのモデリング
- ◆ テーブルエディタ：列のソートおよびエディタの起動
- ◆ ズーム、パンおよびスキャン（サムネイルビュー）

[Project (プロジェクト)] ビュー

- ◆ プロジェクトのコピー
- ◆ プロジェクトの削除
- ◆ 新しい Identity Manager プロジェクトウィザードによるプロジェクト作成
- ◆ すべてを展開 / 縮小
- ◆ ヘルプを使用した開始プロセス
- ◆ ディレクトリまたはファイルシステムからのインポート
- ◆ プロジェクトの移動
- ◆ マルチプロジェクトサポート
- ◆ プロジェクトドキュメントフォルダとコンテンツ管理

[Outline (アウトライン)] ビュー

- ◆ 新しい項目の作成：ボールト、ドライバ、ドライバセットおよびアプリケーション
- ◆ 選択された項目の削除
- ◆ 統合されたエディタの起動
- ◆ すべてを展開 / 縮小
- ◆ ドライバ環境設定ファイルへのエクスポート：
- ◆ 任意のオブジェクトのみを表示するためのビューのフィルタリング
- ◆ すべてのプロジェクト項目を階層的に一覧表示
- ◆ [Modeler Thumbnail (モデラサムネイル)] ビューと [Policy Flow (ポリシーフロー)] ビューのホスト
- ◆ インポート / 展開の統合
- ◆ 展開した状態および選択内容の保存と復元
- ◆ モデラによる選択枝の同期
- ◆ 元に戻す / やり直し

インポートと展開

- ◆ グループ、アイデンティティボールド、ドライバセット、ドライバ、ポリシー、チャンネルおよび電子メールテンプレートの展開
- ◆ 既存のIdentity Managerソリューションをディレクトリからプロジェクトへインポート
- ◆ ドライバセット、ドライバ、ポリシーおよびチャンネルのインポート
- ◆ 両側の eDir-to-eDir ドライバのインポート
- ◆ ドライバ環境設定ファイルのインポートと展開：
- ◆ マルチサーバ環境の処理
- ◆ ドライバのセキュリティの設定
- ◆ 衝突時の上書きを容易に保護
- ◆ 展開する前に変更内容を表示

XML エディタ

- ◆ ポリシーの管理と環境設定の編集に使用される
通知テンプレートでは、HTML エディタを使用できる
- ◆ [Outline (アウトライン)] ビューのサポート
- ◆ 検索と置換
- ◆ 構文の強調表示
- ◆ 自動提示
- ◆ 自動挿入とタグ

環境設定の管理

- ◆ アプリケーションの編集：名前、タイプ、アイコン、環境および管理者メモ
- ◆ ドライバの編集：グローバル構成値 (GCV)、ログレベル、モジュール、認証、ドライバパラメータ、起動オプション、ドライバマニフェスト、名前付きパスワード、アイコンおよびトレース
- ◆ ドライバセットの編集：GCV、サーバ、トレースおよびログレベル
- ◆ 電子メールテンプレートの編集：コレクション、電子メール通知サーバ、およびトランクスをサポートしているすべてのテンプレートコンテンツ
- ◆ アイデンティティボールドの編集：資格情報、管理者メモおよびサーバリスト
- ◆ リソースの編集：名前、タイプ、アイコン、管理者メモ
- ◆ サーバの編集：名前、コンテキスト、ホスト、DN 名、メモおよびコンテンツ情報
- ◆ [Properties (プロパティ)] ビュー：列のサイズ変更、階層的なグループ、インラインエディタとエディタの起動、および選択した複数項目の同時編集のサポート

ポリシー管理

- ◆ 20 ページの「[Policy Flow (ポリシーフロー)] ビュー」
- ◆ 20 ページの「フィルタエディタ」
- ◆ 20 ページの「スキーママップエディタ」

- ◆ 20 ページの「ポリシービルダ」

[Policy Flow (ポリシーフロー)] ビュー

- ◆ ポリシーの並べ替え、追加、削除 (ポリシースクリプトまたは XSLT)
- ◆ ポリシーエディタの統合
- ◆ アプリケーションとアイデンティティボールド間のポリシーフローの表示
- ◆ [Policy Set (ポリシーセット)] ビューでポリシーセットの詳細を表示
- ◆ [Outline (アウトライン)] ビューで、[Policy Set (ポリシーセット)] ビューのポリシーを階層構造で表示

フィルタエディタ

- ◆ クラスと属性の追加
- ◆ フィルタのコピー
- ◆ 削除
- ◆ 複数選択機能
- ◆ キーボード操作
- ◆ スキーマのリフレッシュ
- ◆ すべてを展開 / 縮小
- ◆ デフォルト値の設定
- ◆ ホームディレクトリの作成
- ◆ メンバーテンプレートを追跡
- ◆ マージ権限
- ◆ 変更の最適化
- ◆ 元に戻す / やり直し
- ◆ XML エディタの統合

スキーママップエディタ

- ◆ クラスと属性の追加
- ◆ 削除
- ◆ 複数選択機能
- ◆ キーボード操作
- ◆ スキーマのリフレッシュ
- ◆ すべてを展開 / 縮小
- ◆ クラスに依存しない処理
- ◆ 統合された XML エディタ

ポリシービルダ

- ◆ ポリシースクリプトの作成と編集
- ◆ ルールの定義 : 条件、アクション、グループ
- ◆ 事前定義されたルールのサポート

- ◆ 生産性を強化
- ◆ ネストされたインラインエディタ
- ◆ キーボード操作
- ◆ エディタ内およびエディタ間でのコピーと貼り付け
- ◆ ドラッグアンドドロップ
- ◆ 統合されたヘルプ
- ◆ ポリシー作成ウィザード
- ◆ インポート / エクスポート
- ◆ ネームスペースの編集
- ◆ すべてを展開 / 縮小
- ◆ 並べ替え
- ◆ 統合された電子メールテンプレート
- ◆ 統合されたグローバル構成値
- ◆ 統合されたスキーマ
- ◆ ささまざまな表示設定
- ◆ 引数ビルダおよびトークンエディタ
- ◆ 元に戻す / やり直し
- ◆ 検証
- ◆ 統合された XML エディタ

ポリシーのシミュレーション

- ◆ [Policy Flow (ポリシーフロー)] ビューおよび [Policy Set (ポリシーセット)] ビューからのシミュレーションウィザードの起動
- ◆ サンプルの入力ドキュメントのロード: ユーザの追加、削除、クエリ、変更および関連付け
- ◆ インライン XML エディタを使用した入力ドキュメントの編集
- ◆ クエリドキュメントの入力
- ◆ 出力ドキュメントのレンダリング
- ◆ イベント処理に関するメタディレクトリエンジンのログの確認
- ◆ ログのクリア
- ◆ シミュレートするポリシーセットの選択
- ◆ ポリシーからポリシーへの連続シミュレート

[データフロー] ビューとエディタ

- ◆ すべてのシステムとアイデンティティポールの間でデータを送信可能にしているフィルタの表示
- ◆ 異なるシステムを介したパスワードフローの表示
- ◆ 一ヶ所からのドライバセット、ドライバ、フィルタ、アイデンティティポールの追加、削除および編集

- ◆ データフローとパスワードフローに関する HTML レポートの生成

エンタイトルメント

- ◆ 条件を設定し、その条件が一致した場合に、ビジネスリソースへのアクセス権を付与したり、取り消したりするイベントの開始
- ◆ 役割ベースエンタイトルメント(自動)およびワークフローのプロビジョニングのエンタイトルメント(承認が必要)の使用
- ◆ エンタイトルメントウィザードのグラフィカルインターフェースによる、使用可能なエンタイトルメントのタイプの作成
- ◆ 複数のドライバについて、すでにエンタイトルメントが含まれている設定済みファイルを使用
- ◆ 次の2つのパッケージによるエンタイトルメントの管理: 役割ベースエンタイトルメントポリシーを使用する iManager、またはワークフローのエンタイトルメント用のユーザアプリケーション

電子メール通知テンプレート

- ◆ パスワードを忘れた場合のヒントをユーザに提供
- ◆ 電子メールによる新しいパスワードの通知
- ◆ パスワードがリセットされなかった、または同期されなかった理由の表示
- ◆ テンプレートの追加またはインポート
- ◆ 電子メールメッセージのカスタマイズ

ドキュメントジェネレータ

- ◆ ボタンをクリックすることでプロジェクトに関する PDF ドキュメントを生成
- ◆ ドキュメントの内容の編集: タイトル、名前、法的な免責事項、エクゼクティブサマリーおよび概要
- ◆ ドキュメントスタイル(テンプレート)を編集することにより、スタイルおよび内容を自由にフォーマット
- ◆ リンク処理が可能な付録および目次の生成
- ◆ 凡例付きのグラフィカルなフィルタポリシーテーブルの生成
- ◆ ポリシービルダのルールテーブルの生成
- ◆ すべてのポールの、ドライバセット、ドライバおよびポリシーに関する詳細情報の生成
- ◆ スキーマテーブルの生成
- ◆ サーバ環境設定テーブルの生成
- ◆ モデル図も含む生成
- ◆ [Project (プロジェクト)] ビューにおける複数のスタイルの管理と表示
- ◆ ページ番号の指定

ディレクトリツール

- ◆ オブジェクトを選択するためのディレクトリブラウザ：タイプ別でフィルタ処理、他のポータルへの切り替え
- ◆ ディレクトリまたは .sch ファイルへのスキーマのインポートおよび展開
- ◆ オフラインで初めからモデリングを行うための eDirectory™ スキーマの使用
- ◆ スキーマ属性の管理：追加、名前変更、削除、制約の設定、構文、サイズ、使用されるクラスの表示、階層の定義、および必須属性、ネーミング属性、オプション属性の指定
- ◆ スキーマクラスの管理：追加、名前変更、削除、クラスフラグの設定、階層の定義、および必須属性、ネーミング属性、オプション属性の指定
- ◆ プロジェクト内に行った変更のみを表示するためのスキーマ管理フィルタ
- ◆ 展開を実行する前にオブジェクトの妥当性と完全性を確認
- ◆ デスクトップアプリケーションとリソースをリモートで制御
- ◆ iManager の起動と使用
- ◆ ディレクトリオブジェクトの管理

2.2.2 生産性の高い環境

次の機能により、生産性の高い環境を実現します。

- ◆ リッチクライアント環境：ネイティブアプリケーションの外観と操作方法を備えた、生産性の高いリッチクライアント環境で作業できる
- ◆ 非接続モード：外出中、オフラインのモバイル環境でも作業できる
- ◆ 強力で視覚的なエディタ、最小限のポップアップ、十分に同期化されたビューを活用したレイアウトで、生産性を最大限に高める
- ◆ 強力なウィンドウ、ビュー、パースペクティブ、およびツール管理
- ◆ ソリューションを設定するための手順の簡略化
- ◆ プロジェクトの開始および設定に役立つウィザード
- ◆ オブジェクトの自動作成、自動値設定、自動接続、自動レイアウト
- ◆ エディタ内およびエディタ間での強力なコピーと貼り付け機能
- ◆ クライアントのみが実行可能な方法で、すべてのエディタでフルキーボードをサポート
- ◆ ほとんどのエディタおよびビューで完全な「元に戻す」/「やり直し」が可能
- ◆ UI を基本的なビューから詳細なビューに拡大表示する機能
- ◆ 必要最大限または必要最小限の情報を表示するため、主なビューをフィルタ処理する機能
- ◆ 構文の強調表示、自動提示、および検索と置換機能を備えた、統合された XML エディタ
- ◆ 効率的でコンパクト、強力で生産性の高いオフライン用スキーマ管理ツール
- ◆ 入力の手間を省くフィールドの値履歴
- ◆ 多くの環境設定および設定値により、製品の使用方法に合わせて UI をカスタマイズ
- ◆ アクセスと表示が容易なログとトレース

- ◆ 画面に対応した詳細なヘルプおよび強力な検索機能を持つヘルプシステム
- ◆ 手早く簡単なインストール
- ◆ 自動更新
自動更新インストールにより、更新は自動的に通知され、取得されます。

2.2.3 開発者向けの拡張機能とツール

- ◆ 出荷バージョンにない機能を簡単に追加およびモデル化できます。
たとえば、独自のアプリケーション、ドライバ、リソース、およびアイコンを追加できます。
- ◆ 別のエディタを使用するように **Designer** を設定できます。
すべてのファイルタイプ (たとえば、.xml および .txt など) で選択したエディタを使用するように設定できます。Eclipse ベースのエディタが最適ですが、さまざまな生成物 (たとえば、ワープロドキュメントやスプレッドシートなど) を含めることもできます。ネイティブエディタは、プラットフォームでサポートされている場合は自動的に **Designer** に統合されます。
- ◆ **Java*** で開発およびデバッグできます。
Designer プラグインを Eclipse の完全インストールにインストールした場合、**Java** 開発およびデバッグ、**ANT**、**C#**、**UML** モデリングを、**Designer** と平行してすべて同じツールで行うことができます。これは、**Identity Manager** ドライバプログラム (**Java** または **C**) がツールをすべてまとめようとする場合、特に価値があります。
- ◆ **パブリック API** を使用できます。
Identity Manager では、完全に公開されたパブリック **Eclipse API** (基となるプロジェクトデータモデルであり、その形式はオープンな業界標準と一貫性があります) に加えて、公開された **Eclipse** 拡張ポイントも使用しています。
未公開ではありますが、独自の統合ウィザード、エディタ、プロセス、ビュー、メニュー、ツールバー項目またはヘルプページを容易に追加できるようにするための強力な **API** セットと拡張ポイントを開発中です。主な場所で、**Eclipse** ですでに提供されているパブリック **API** および拡張ポイントを使用できます。さらに強力な機能とオプションを提供するため、**Eclipse** 標準に基づいた **API** と拡張ポイントの開発も検討しています。
これらの **API** は弊社で使用しています。内部の開発者の多くが現在使用中です。動作が十分に安定していることを確認後、公開される予定です。後から **API** を追加するのではなく、最初から構築しています。独自のアプローチを採用するのではなく、**Eclipse** で示されたオープンモデル、パターン、**API** 標準を完全にサポートします。
将来、**Eclipse** 関連の書籍の情報と弊社の拡張ポイントの知識を使用すれば、**Designer** に豊富なコンテンツを追加することができるはずです。豊富な書籍、リソースおよび **Eclipse** コミュニティ内のフォーラムを使用すれば、必要な情報はほとんど揃うでしょう。弊社の **API** にアクセスせず現状の環境で、すでにこうしたコンテンツの構築に成功している開発者もいます。

2.3 対象ユーザ

Designer は、次のようなユーザを対象として作成されました。

- ◆ エンタープライズ IT 開発者

- ◆ コンサルタント
- ◆ 販売担当エンジニア
- ◆ 設計者またはシステムデザイナー
- ◆ システム管理者

このツールは、次のような IT 専門家向けです。

- ◆ ディレクトリ、データベース、およびそれらの情報環境をよく理解している IT 専門家
- ◆ 識別情報ベースのソリューションのデザイナーまたは設計者としての役割がある IT 専門家

必ずしも開発者やプログラマではなくても、このツールを最大限に活用できます。また、開発者が必要に応じて拡張できるようにさまざまな機能も用意されています。

識別情報管理ソリューションの構築には、ウィザードを使用してこのツールを簡単に学習し利用できます。高度な知識を持つユーザは、ウィザードを省略して、直接詳細レベルで操作できます。

Designer は、組織における戦略的意思決定者に対して Identity ソリューションの主要な概念を伝えるための、効果的で価値のあるツールとしても利用できます。この場合、視覚的なモデラと、Designer データのキャプチャおよび表示を行うドキュメントの両方を使用できます。

2.4 IDM 3 エンジンが必要とする機能

Designer 1.2 の次の機能は、Identity Manager 3.0 より古いバージョンがインストールされた Identity Manager エンジン上では動作しません。

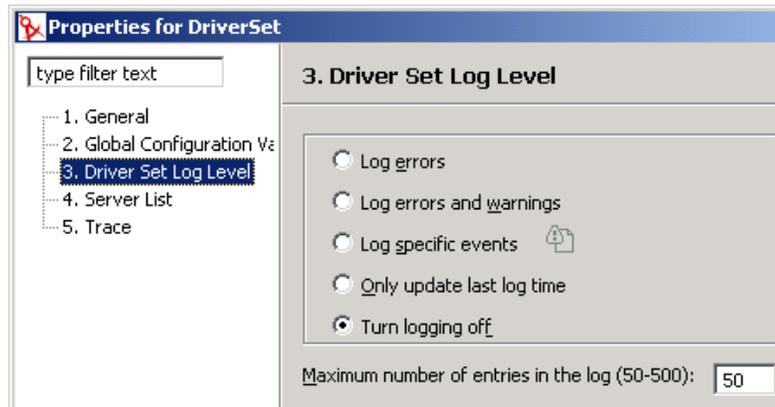
- ◆ ドライバセットおよびドライバのログイベントの機能拡張
- ◆ ポリシースクリプト内の変更
- ◆ エンタイトルメントのサポート
- ◆ ワークフローベースのプロビジョニングのサポート

2.4.1 ドライバセットおよびドライバのログイベント

ドライバセットで機能しないプロパティを識別するには：

- 1 モデラで、ドライバセットを右クリックします。
- 2 [プロパティ] を選択します。

- 3 [Driver Set Log Level (ドライバセットのログレベル)] > [特定のイベントを記録] の順に選択します。



- 4 [展開] アイコンをクリックします。

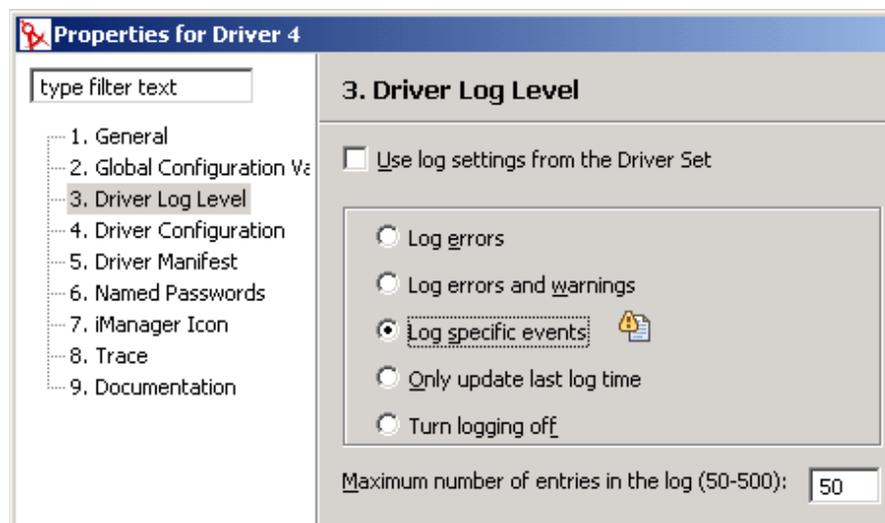


- 5 オプションを選択します。

バージョン 3.0.3 アイコンが付いている項目は、3.0 よりも古い Identity Manager エンジン上では動作しません。

ドライバで機能しないプロパティを識別するには：

- 1 モデラで、ドライバを右クリックします。
- 2 [プロパティ] を選択します。
- 3 [Driver Log Level (ドライバのログレベル)] > [特定のイベントを記録] の順に選択します。



このオプションが淡色表示されている場合、そのドライバはドライバセットからのプロパティを使用しています。

4 [展開] アイコンをクリックします。



5 オプションを選択します。

バージョン 3  アイコンが付いている項目は、3.0 よりも古い Identity Manager エンジン上では動作しません。

2.4.2 ポリシースクリプト

Identity Manager 3 のポリシースクリプトで変更された点は次のとおりです。

- ◆ do-implement-entitlement が追加されました。do-for-each が更新され、暗黙の do-implement-entitlement が組み込まれました。
- ◆ ノードセットコンテキスト内で entitlement-impl を返し、エンタイトルメントの付与と取り消しに関する動作を変更するため、token-entitlement、token-added-entitlement、および token-removed-entitlement が更新されました。
- ◆ エンタイトルメントの付与と取り消しに関する動作を変更するため、if-entitlement が追加されました。
- ◆ 用語の一貫性を保つため、「nodeset」となっている箇所はすべて「node-set」に変更されました。
- ◆ 複数のコメントとコメント名をサポートするため、comment が更新されました。

2.4.3 エンタイトルメントのサポート

Designer 1.1 で作成されたエンタイトルメントは、Identity Manager 3.0 以前の Identity Manager エンジンでは動作しません。

次の表では、Identity Manager 2 のエンタイトルメントと Identity Manager 3.0 のエンタイトルメントを比較しています。

表 2-1 比較 : Identity Manager 2 と Identity Manager 3 のエンタイトルメント

Identity Manager 2	Identity Manager 3
エンタイトルメントの定義は、DirXML® ドライバオブジェクト上のドライバマニフェスト内に、XML としてのみ存在していました。	エンタイトルメントの定義は、DirXML ドライバオブジェクトに含まれる DirXML エンタイトルメントオブジェクトとして保存されます。
エンタイトルメントは、ドライバポリシーを使用して実装されます。	エンタイトルメントは、ドライバポリシーを使用して実装されます。
役割ベースエンタイトルメントでは、ダイナミックメンバーシップ (デフォルト) を使用したり、または別途スタティックに含めたり除外したりできます。	役割ベースエンタイトルメントでは、ダイナミックメンバーシップ (デフォルト) を使用したり、または別途スタティックに含めたり除外したりできます。
ワークフローのエンタイトルメントはありません。	ワークフローのエンタイトルメントがあります。

Identity Manager 2	Identity Manager 3
エンタイトルメントは、 aux クラス属性をオブジェクトに追加することによって付与と取り消しが行われます。	エンタイトルメントは、 aux クラス属性をオブジェクトに追加することによって付与と取り消しが行われます。
ステータスのトラッキング機能はありません。	Identity Manager エンジンを使用して、 aux クラス属性の 1 つに対し、ステータスをトラッキングできます。
1 つのドライバセット内で実行できるエンタイトルメントサービスドライバは 1 つだけです。	1 つのドライバセット内で実行できるエンタイトルメントサービスドライバは 1 つだけです。
1 つのドライバセットは、1 つのサーバにのみ関連付けることができます。	1 つのドライバセットは複数のサーバに関連付けることができます。

モデラまたは [Outline (アウトライン)] ビューからエンタイトルメントウィザードにアクセスできます。

モデラから：

- 1 ドライバを右クリックします。
- 2 [エンタイトルメント] > [エンタイトルメントの追加] の順に選択します。

[Outline (アウトライン)] ビューから：

- 1 ドライバを右クリックします。
- 2 [エンタイトルメントの追加] を選択します。

2.4.4 ワークフローベースのプロビジョニングのサポート

ワークフローベースのプロビジョニングとは、ユーザアクセスを管理して、組織内のリソースのセキュリティを保護する処理を意味します。ユーザがリソースを要求すると、適切な権限を持つ 1 人または複数の個人 (受任者や代理を含む) がその要求を承認または拒否できます。ユーザは要求のステータスを表示できます。

ワークフローベースのプロビジョニングのサポートは、Identity Manager 3 の主要な機能で、Identity Manager 2 ではサポートされていません。

2.5 Designer と iManager との関係

iManager の主な用途は管理です。展開されたソリューションの管理および監視における新機能により、iManager は常に更新されます。

iManager の Web ベース環境には、次の利点があります。

- ◆ リモートアクセス
- ◆ 中央型管理
- ◆ 役割のサポート
- ◆ Web ベースのツールとの統合

iManager と Designer には類似点がありますが、それらの機能とユーザの操作性は、それぞれの対象ユーザおよび環境に合わせて最適化されています。これらには互換性がありま

す。互いに、ドライバセットやドライバなどの情報をエクスポートできます。また、いくつかの主要な共通ユーザインタフェース要素が類似しているため、ツール間を効率的に移動できます。

識別ソリューションの提供

- ◆ 31 ページのセクション 3.1 「セキュリティ：ベストプラクティス」
- ◆ 32 ページのセクション 3.2 「識別情報の問題の解決」
- ◆ 36 ページのセクション 3.3 「Designer の使用方法」

3.1 セキュリティ：ベストプラクティス

Designer for Identity Manager を使用する場合は、ベストプラクティスを守ってください。

権利の制限

アイデンティティボールドの管理者パスワードをコンサルタントに付与する前に、その管理者に割り当てる権限を、コンサルタントがアクセスしなければならないツリーのエリアに限定します。このようにすることで、機密データが悪用されたり、破損されたり、意図しない危険にさらされることのないように保護します。

パスワードの変更

コンサルタントが作業を完了した後は、このコンサルタントが使用したユーザ（たとえば admin）のパスワードを変更します。コンサルタントが使用する特別なユーザ（たとえば consadmin）を作成した場合は、このユーザを削除するか、またはパスワードを変更します。このようにすることでアクセスを制限し、コンサルティングプロセスを締めくくることができます。

.proj ファイルの削除または保存

プロジェクトファイル (.proj) は削除するか、または会社のディレクトリに保存します。

Designer の .proj ファイルは、会社のプロジェクトサイトに残します。コンサルタントは、プロジェクトの完了後にファイルを取得することはできません。

必要でないファイルの削除

プロジェクトファイル、ログファイル、およびトレースファイルが不要でなくなったら、それらを削除します。これらのファイルには機密情報が含まれている可能性があります。

ファイルの確認

ラップトップの廃棄または売却を行う前に、プロジェクトファイルが削除されていることを確認します。こうした処理を怠ると、機密情報の漏洩につながる可能性があります。

接続の保護

Designer からアイデンティティボールドサーバへの接続は、物理的にセキュアな状態を保つようにします。セキュアな環境を確立できない場合、何者かによるネットワークの監視、機密情報の漏洩などの危険性があります。

ドキュメントの取り扱い

ドキュメントジェネレータを使用してドキュメントを作成する場合、ドキュメントの取り扱いには注意します。これらのドキュメントには、パスワードおよび機密データがクリアテキストで含まれている場合があります。

暗号化された属性を用いた操作

Designer で eDirectory™ 属性の読み込みや書き込みが必要な場合は、その属性にマークを付けて暗号化し、ネットワークを介してクリアテキストで読み込めるようにできます。こうすることで属性の暗号化が可能になり、その一方で容易には属性を取得できなくなります。

機密性の高いパスワードの取り扱い

機密性の高いパスワードは保存しないでください。

現在、Designer プロジェクトは暗号化されていません。パスワードはエンコードされているだけです。このため、パスワードを保存した Designer プロジェクトは共有しないでください。

セッションのパスワードを保存して、プロジェクトにパスワードを保存しないようにするには：

- 1 展開された [Outline (アウトライン)] ビューで、アイデンティティボールドを右クリックします。
- 2 [プロパティ] を選択します。
- 3 [環境設定] ページでパスワードを入力し、[OK] をクリックします。

パスワードは、1セッションにつき1度入力できます。プロジェクトを閉じると、パスワードは消失します。

パスワードをプロジェクトに保存するには、手順1～3を実行し、[保存]を選択してから [OK] をクリックします。

ユーザアプリケーション使用時のセキュリティ

ユーザアプリケーションに関するセキュリティの問題については、『Identity Manager ユーザアプリケーション：管理ガイド (<http://www.novell.com/ja-jp/documentation/idm/index.html>)』の「セキュリティ (<http://www.novell.com/documentation/idm/index.html?page=/documentation/idm/agpro/data/b2gx72y.html>)」の節を参照してください。

3.2 識別情報の問題の解決

- 1 目標を明らかにします。

プロジェクトに携わる者全員が同じ用語を使用するようにします。たとえば、パスワード同期およびシングルサインオンは、2つの異なる技術を表します。

また、「メタディレクトリ」の意味と用法を、プロジェクトに携わる全員とのやりとりにおいて明確にします。

実行しようとしている対象の全体図を明確に記録します。

- 2 ビジネスプロセスを明らかにします。

Identity Manager を使用して自動化しようとしているプロセスは、すでに定義され、記録されている、ということがよくあります。

注意してください。プロセスが存在していても、それがどのように動作するのかを人々は完全に理解していないのが普通です。

ビジネスプロセスを明確に記録し、そのプロセスを全員が理解できるようにします。

3 すべてのシステムを識別します。

システムと既存のシステムとの接続インタフェースをすべて識別します。このようにすることで、頭の中にある最初の計画システムを元に、システムの増減を調整できます。

テレフォニーシステムの場合、API インタフェースは複雑であることが多いので注意してください。

SQL ベースのシステムの中には、非常に複雑なデータベースの関係モデルを持つものがあります。モデルが実際にどのように動作するか、理解している者が周囲にいない可能性もあります。

必要なアイデンティティポールの数、その配置場所、その接続先を確認します。

Designer で実行すること : このプロセスを実行する場合は、**Designer** の設計者用モデルを使用します。エンタープライズの図を作成して、各システムとそれらのシステムを管理するユーザの主要な情報を入手すると、役立ちます。

プロジェクトを開始するときは、目標の達成には「人の管理」という側面が非常に重要であることを念頭においてください。システムを識別するときは、組織内のさまざまな部署のシステムにアクセスを開始する必要があります。

4 上流工程のデータ同期フローを定義します。

同期化するさまざまな情報タイプを定義します。従業員のタイプにも違いがあるのが一般的です (たとえば、内部または外部)。

異なるタイプの情報間には、関係と依存関係があることに注意してください (たとえば、従業員、マネージャ、組織または場所)。

この手順を十分に実行することが、データとポリシーのニーズを定義するのに役立ちます。

Designer で実行すること : これらのデータフローは、設計者モードまたは開発者モードの [データフロー] ビューを使用して設計できます。

5 同期化するオブジェクトと属性を定義します。

データとその関係を判別し、特定のアイデンティティポールのおよびアプリケーションオブジェクトのタイプと属性にデータをあてはめます。

属性に関するマージの動作、パススルー、通知およびリセットを定義します。

元のイベントに基づいて、追加操作を識別し、導き出します。

一致、作成、配置の動作属性を識別します。

Designer で実行すること : [タスク] ビューを使用して、こうした情報のすべてを取得するか、または [Document Generation (ドキュメントの生成)] フォームでセクションに情報を追加します。[タスク] ビューで情報を取得する利点は、実装のフェーズに移行して、要件に基づいてポリシーを作成するときにタスクを区別できることです。

また、**Designer** プロジェクトに [Navigator (ナビゲータ)] ビューを通じてファイル (ワープロドキュメント、スプレッドシート、プレゼンテーション) を含めることもできます。デフォルトでは、[Navigator (ナビゲータ)] ビューでは、こうしたドキュメ

ントを編集および表示するための適切なネイティブアプリケーションが起動します。ネイティブアプリケーションは、プラットフォームがサポートしている限りは、**Designer** に統合されます。必要に応じて、別のエディタを使用するように **Designer** を設定することもできます。このビューには、**Designer** プロジェクトに含めて編集することができるドキュメントタイプのオプションが多数あります。

6 要件を検討するためのドキュメントを作成します。

これまで検討したことをすべて文書化します。

概要レベルの受け入れ提案を作成します。

インフラストラクチャを記述します。

プロジェクトのスケジュールを作成します。

Designer で実行すること : **Designer** のドキュメントジェネレータを使用すると、上流工程のデザイン、システム、および基本的なデータフローを把握できます。また、プロジェクトを説明するためにドキュメント内のセクションに記入したり、独自のセクションを作成したり (あるいはその両方) できます。

7 技術的な詳細を記入します。

設計者モードで作成した上流工程の図を使用し、これを詳細な図に移行して、全体のソリューションの設定に使用できます。

アイデンティティポータル上のサーバおよび認証情報を設定します。

ドライバセットおよびドライバを作成します。各ポールのドライバセットの数を決定します。各ドライバセットに関連付けるドライバ、およびドライバセットが動作するサーバを定義します。各ドライバで、ドライバ環境設定ウィザードを実行します。

ドライバポリシーを作成します。できる限り、グローバル構成値 (GCV) を定義して、これを使用するようにします。GCV を定義すると、保守が容易になります。

Designer で実行すること : モデラを開発者モードで使用する場合は、[Outline (アウトライン)] ビュー、[Policy Flow (ポリシーフロー)] ビューおよびすべてのオブジェクトのプロパティダイアログボックス、フィルタエディタ、スキーママップエディタ、電子メールテンプレートエディタ、ポリシービルダエディタ、およびその他の機能を使用します。

注 : これまでの 6 つの手順では、識別ソリューションをはじめから作成していると仮定しています。

一方、既存のソリューションを用いた作業にも **Designer** を使用できます。プロジェクトを作成して、既存のドライバセット、ドライバ、ポリシーおよび環境設定をすべてインポートできます。**Designer** により、すべてのコンポーネントを 1 つの完全なソリューションとして表し、管理することが容易になります。既存のポリシーまたは環境設定を編集し、新しい要素を追加してから展開しなおすことができます。

既存のソリューションに **Designer** を使用する場合の利点はいくつかあります。次のことを実行できます。

- ◆ 生産性の高い開発環境で作業する。
- ◆ オフラインで気軽に作業する。
- ◆ バージョン管理およびバックアップをローカルファイルシステムで行う。
- ◆ シミュレートする。
- ◆ プロジェクト用のドキュメントを生成する。

8 個別にテストします。

プロジェクト計画のドキュメントと要件を基本として使用します。

すべてのポリシーをテストします。**Designer** ツールに加え、プロジェクト (またはその一部) をテスト環境に展開して、より詳細にテストすることもできます。

結果のレポートを生成します。

Designer で実行すること : **Designer** のポリシーシミュレータを使用すると、ポリシーのシミュレーションとデバッグを十分に実行することができます。使い方はとても簡単で、さまざまな問題を想定して支援するので、オフラインでの開発に適しています。

9 運用環境を構築します。

既存の運用環境は、できるだけミラーリングしてください。

次のことを確認します。

- ◆ すべての **Identity Manager** エンジンとドライバがインストールされている。
- ◆ すべてのサーバに正しい IP アドレスが設定されている。
- ◆ ドライバの接続先アプリケーションが適切に配置されている。

予防措置として、先に完全なテスト環境または準備用の環境に展開することも考えられます。その場合は、これまでの手順のすべてを、その環境にも適用してください。

Designer で実行すること : 以降の手順を簡略化するため、ボタンをクリックして、プロジェクトのすべての環境設定を完全な PDF ドキュメントで取得し、このドキュメントをコンピュータとソフトウェアの設定に使用します。

10 不要なデータを整理します。

展開する前に、データに不要なものが含まれていないか確認します。

次のことを確認します。

- ◆ 各ユーザに一意で正しい形式の ID が与えられている。
- ◆ すべてのユーザおよび他のオブジェクトが所定の場所に配置されている。
- ◆ オブジェクトが重複していない。
- ◆ 余分なまたは不要なオブジェクトが存在しない。

11 運用環境に展開します。

運用システムが正常に稼動していることを確認します。コンピュータが起動し、動作しているなどです。

展開する前に、プロジェクトを適切な方法でテスト済みであるかを確認します。

独立したテスト環境または準備用の環境に展開するためにプロジェクトを事前設定している場合は、各アイデンティティポールの IP アドレス (および GCV) を変更してから、運用環境に展開する必要があります。

展開した後は、すぐにテストを実行して、必要な修正を行ってプロジェクトのすべてまたは一部を展開しなします。

Designer で実行すること : 今後、この領域に関して **Designer** で実行できる内容が強化される予定です。現在のところ、次のヒントがこのプロセスの実行に役立ちます。

- ◆ [Project (プロジェクト)] ビューで、プロジェクトの完全なコピーをとります。
これにより、運用環境用の IP アドレスを入力して、古いアドレスは残したままにしておけるので、準備用のプロジェクト「**Staging**」と運用環境用のプロジェクト「**Production**」の両方を保持できます。この方法では、ポリシーなどを一方のプロジェクトで変更した場合、他方のプロジェクトでもそのポリシーを同期化

しなければならない点が不便です。Designer では、プロジェクト間でコピーと貼り付けを実行することで、同期処理を簡単に行うことができます。

- ◆ GCV を常に使用して、ポリシーを容易に移動できるようにします。
環境に依存する値がある場合、別の環境に切り替えたときに GCV を編集するだけですみます。
- ◆ モデラのテーブルエディタを使用します。
このエディタにより、任意のタイプ (すべてのアイデンティティボルト、すべてのサーバなど) のオブジェクトに素早く簡単にアクセスして、値の確認や変更ができます。
- ◆ プロジェクトを文書化します。
[Document Generation (ドキュメントの生成)] は、環境設定の理解に役立てるため、いつでも利用できます。

12 運用システムを文書化、バックアップ、および維持します。

Designer で実行すること : ドキュメントジェネレータを実行して、ドキュメントを保存します。

[Project (プロジェクト)] ビューで、プロジェクトのコピーを作成します。コピーをとっておくと、何らかの理由で元の状態に戻したり、運用システムを再び設定する必要がある場合に役立ちます。

時間の経過に伴って、システムやポリシーの追加作業、運用環境での変更作業などが発生します。システムの管理には **iManager** を使用します (特に、変更が管理上のタスクである場合)。その後で、変更内容をローカルの **Designer** プロジェクト内に再びインポートします。

変更を行う必要があるが、開発環境の方が適している場合は (ポリシーのデバッグ、ポリシーの開発、新規システムの追加など)、**Designer** を続けて使用するのがベストプラクティスです。毎回変更を行うごとに、プロジェクト、または変更したサブ要素のみを展開します。

長期にわたって、プロジェクトの改版や拡張を行う場合は、常に [Document Generation (ドキュメントの生成)] を履歴情報として使用してください。

今後、より高度なインポートまたは展開の確認、トラッキング、および差分ツールと環境の同期を維持するため、さまざまなツールが利用できるようになる予定です。

3.3 Designer の使用方法

- ◆ 36 ページのセクション 3.3.1 「新しいソリューションの設計」
- ◆ 37 ページのセクション 3.3.2 「既存のソリューションの再設計」
- ◆ 37 ページのセクション 3.3.3 「実際のシステムでの作業」

3.3.1 新しいソリューションの設計

- 1 Designer を起動します。
- 2 新規プロジェクトウィザードを使用して、プロジェクトを開くかまたは作成します。
- 3 モデラパレットから項目をドラッグアンドドロップします。
- 4 項目の設定値および環境設定を編集します (名前、IP アドレス、パスワードなど)。

- 5 ポリシービルダおよび他のポリシーエディタを使用して、システム間で共有するデータのポリシーを作成します。
- 6 作業内容を確認します。
- 7 ドキュメントジェネレータを使用して、プロジェクトのドキュメントを生成し、その内容を他の人と検討します。
- 8 プロジェクトを実際のシステムに展開します。

3.3.2 既存のソリューションの再設計

- 1 Designer を起動します。
- 2 新しいプロジェクトを開くかまたは作成します。
- 3 Identity Management 要素 (ドライバ、ドライバセット) を作業ディレクトリからインポートします。
- 4 要素の設定と環境設定を編集します (名前、IP アドレスおよびパスワードなど)。
- 5 ポリシービルダおよび他のポリシーエディタを使用して、システム間で共有するデータのポリシーを作成します。
- 6 作業内容を確認します。
- 7 ドキュメントジェネレータを使用して、プロジェクトのドキュメントを生成し、その内容を他の人と検討します。
- 8 プロジェクトを実際のシステムに再び展開します。

3.3.3 実際のシステムでの作業

Designer の基本となるモデル/パラダイムは、ソリューションをインポートして、これらを Designer 環境で設定し、ソリューションの準備ができた時点で展開することです。このアプローチは、次のような目的を最適化するためにとられています。

- ◆ オフラインでの作業
- ◆ 生産性の高い開発
- ◆ 実動システムに手を入れる前に設定とテストを行い、安全なモデルにする

本ツールは、開発者および設計者を主な対象読者としています。

便宜上、Designer では、開発者が効率的に次の作業を行えるようにするため、キー操作が利用できます: 実際のツリーの参照、ドライバステータスの確認、ドライバの開始/停止、ドライバセキュリティの設定。[Live Operations (ライブ操作)] オプションの機能は、エンドシステム上でただちに反映されます。これらの操作は、Designer のユーザインタフェースで明確にグループ化されるため、実環境で作業中かどうかはすぐわかるようになっています。

ヘルプの表示

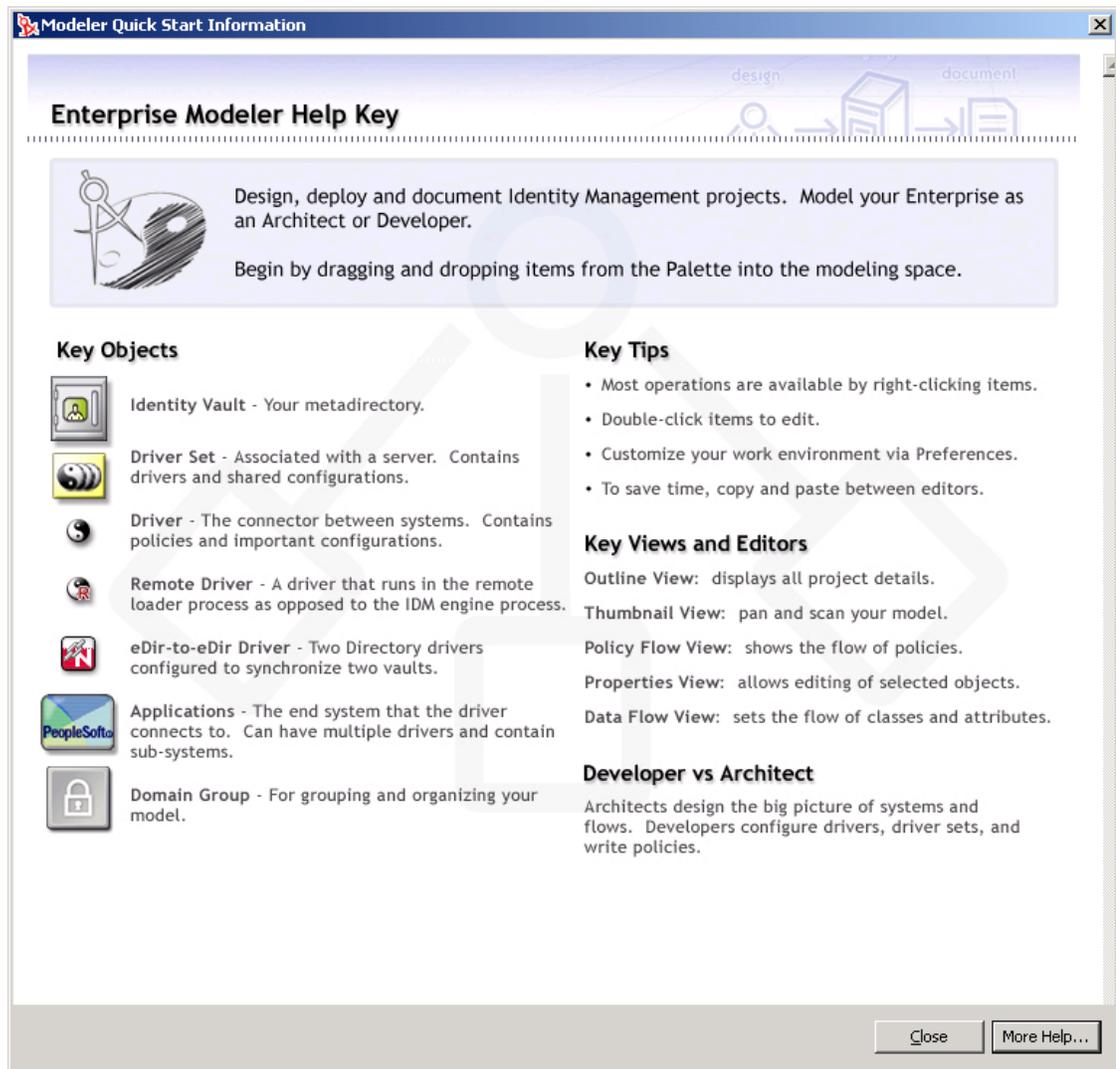
4

Designer についての情報は、ローカルのヘルプシステム、readme.txt ファイル、およびオンラインマニュアルにあります。ヘルプシステムの情報はローカライズされていません。ローカライズされた情報が必要な場合は、[Novell マニュアルの Web サイト \(http://www.novell.com/documentation\)](http://www.novell.com/documentation) で、『Designer for Identity Manager: 管理ガイド』を参照してください。

- ◆ 40 ページのセクション 4.1 「ヘルプキー」
- ◆ 42 ページのセクション 4.2 「初期ページからのリンク」
- ◆ 43 ページのセクション 4.3 「情報の参照」
- ◆ 44 ページのセクション 4.4 「文脈依存型ヘルプの表示」
- ◆ 46 ページのセクション 4.5 「Web へのリンク」
- ◆ 46 ページのセクション 4.6 「デモの表示」
- ◆ 47 ページのセクション 4.7 「情報の検索」
- ◆ 47 ページのセクション 4.8 「ブラウザとヘルプサーバのカスタマイズ」

4.1 ヘルプキー

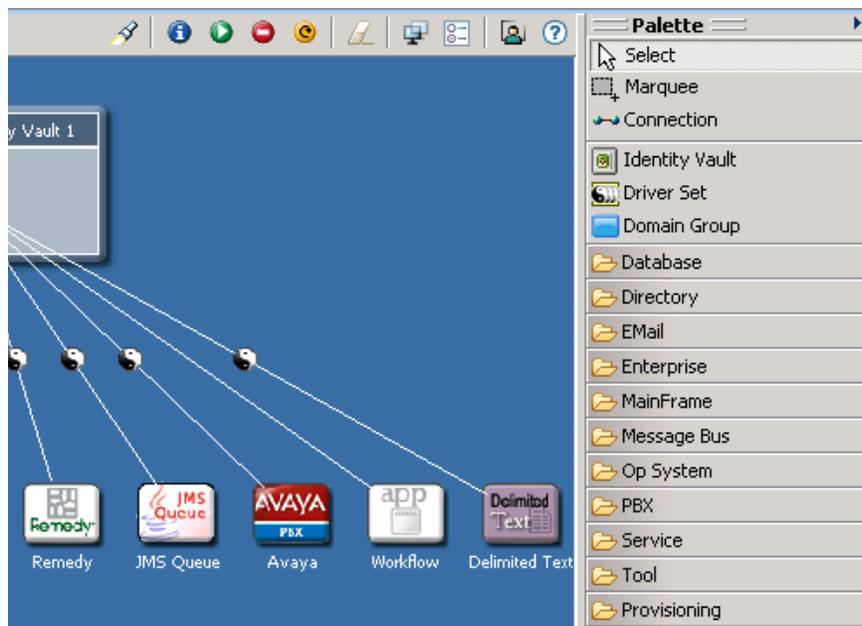
図 4-1 モデラのヘルプキー



ヘルプキーにより、モデラ内に配置して操作できるオブジェクトのほか、モデラまわりの機能（ビューなど）の概要が確認できます。

ヘルプキーにアクセスするには、モデラのツールバーで、ヘルプアイコン(?)をクリックします。

図 4-2 モデラとツールバー



モデラについての追加情報を表示するには、ヘルプキーで [More Help (ヘルプ詳細)] をクリックします。このボタンにより、「Designer for Identity Manager」ヘルプブックのモデラヘルプのトピックが表示されます。

4.2 初期ページからのリンク

Designer が起動すると、初期ページが表示されます。この画面からは、製品の概要の表示、新機能の参照、プロジェクトの作成または Designer の実行を簡単に行うことができます。

図 4-3 初期ページ



初期ページのオプションを操作するには、次のアイコンをクリックします。

表 4-1 初期ページのアイコン

アイコン	名前	説明
	概要	<ul style="list-style-type: none">◆ Designer の概要と基本情報を表示します。◆ Flash のデモを起動し、Designer の各種タスクについて紹介します。
	新機能	<ul style="list-style-type: none">◆ このリリースの新機能を説明します。◆ Designer を更新できるようにします。◆ readme ファイルへリンクします。
	ワークベンチ	<ul style="list-style-type: none">◆ Designer を起動します。
	ホーム、戻る、進む、カスタマイズ	<ul style="list-style-type: none">◆ 初期画面に戻ったり、前のページや次のページへ移動したり、初期画面をカスタマイズできるようにします。

[Welcome (ようこそ)] バーが Designer の右下隅に表示されます。

図 4-4 [Welcome (ようこそ)] バー



[Welcome (ようこそ)] バーのアイコンにより、初期ページに戻ったり、Designer の概要を表示したり、新機能のセクションに移動したりします。

初期ページは、[Welcome (ようこそ)] の隣にある [X] をクリックすることで、いつでも閉じることができます。

図 4-5 [閉じる] アイコン

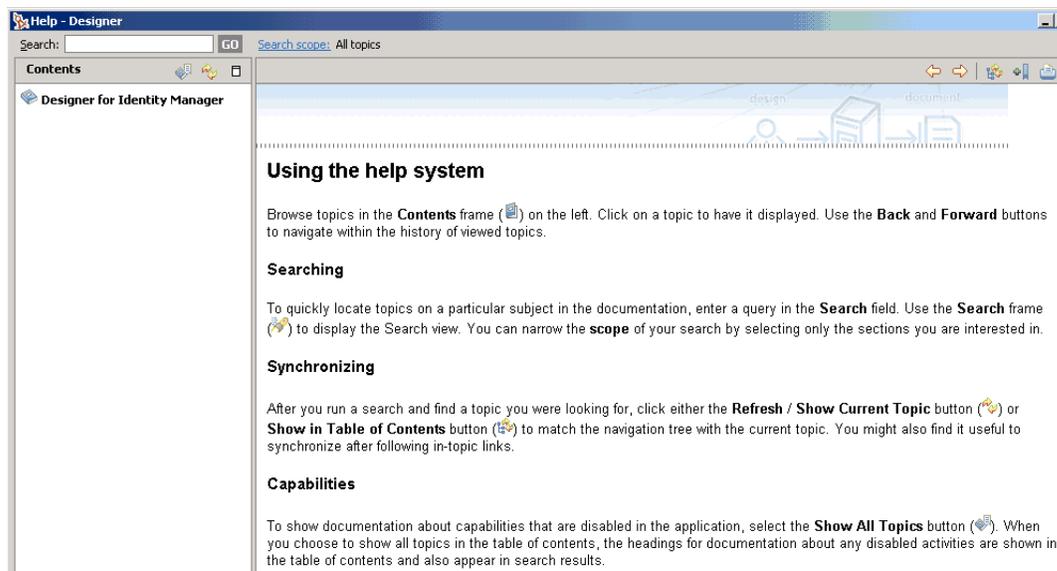


初期ページに戻るには、[ヘルプ] > [Welcome (ようこそ)] の順にクリックします。

4.3 情報の参照

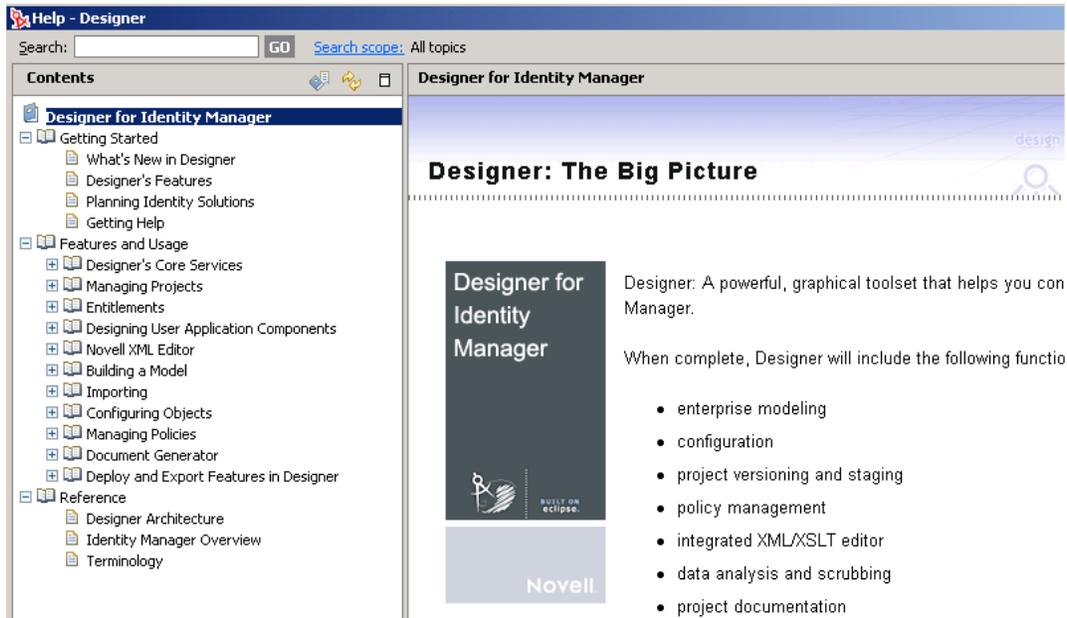
ヘルプトピックをすべて参照するには、組み込まれた Web ブラウザを使用します。

- 1 メインメニューから、[ヘルプ] > [Help Contents (ヘルプコンテンツ)] の順に選択します。



[Using the help system (ヘルプシステムの使用)] では、ヘルプシステムを参照し、使用するためのアイコンについて説明しています。

2 [Contents (コンテンツ)] ペインで、[Designer for Identity] を選択します。

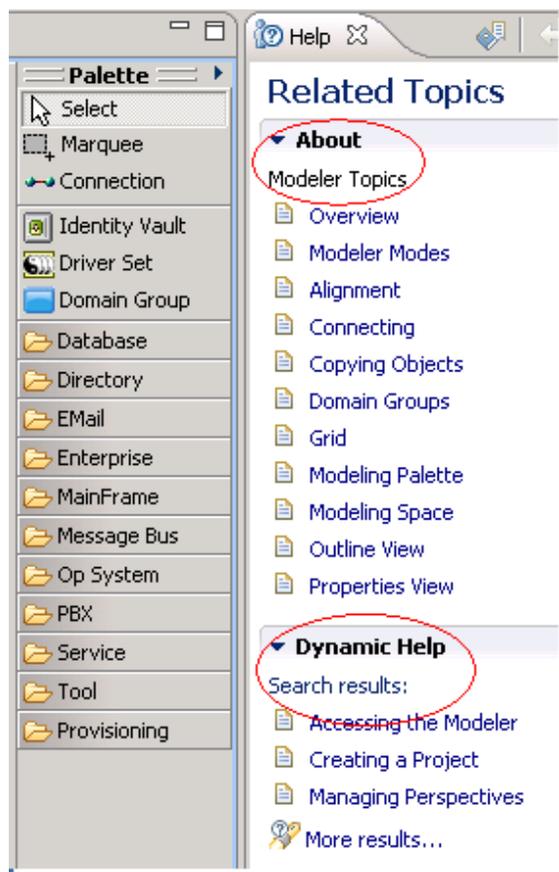


3 参照するトピックに移動します。

4.4 文脈依存型ヘルプの表示

1 F1 キーを押すか、または  をクリックします。

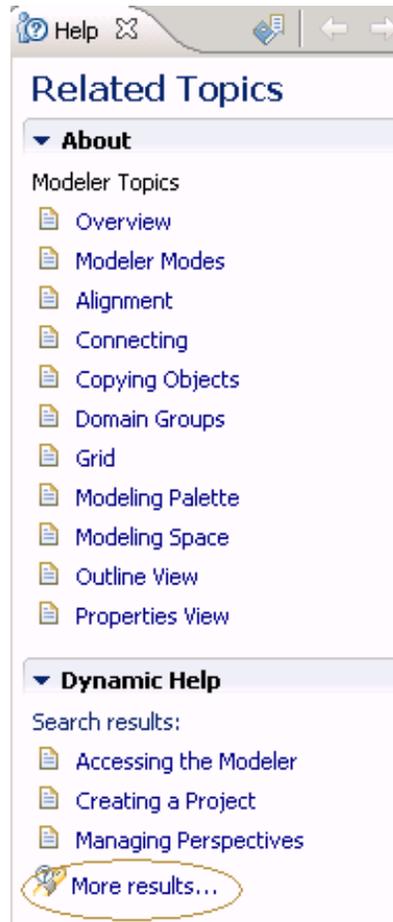
- 2 [About (表示する項目)] および [Dynamic Help (ダイナミックヘルプ)] の下にあるリンクをクリックします。



4.5 Web へのリンク

Google* または Eclipse のヘルプシステムで見つかった検索結果を表示するには、[More results (詳細結果)] > [Web Search (Web 検索)] の順にクリックします。

図 4-6 Google および Eclipse での関連トピック



4.6 デモの表示

Designer の動作方法を確認するには、初期ページで利用できるデモを表示します。

- 1 [ヘルプ] > [Welcome (ようこそ)] の順に選択します。
- 2 [概要] アイコンを選択します。

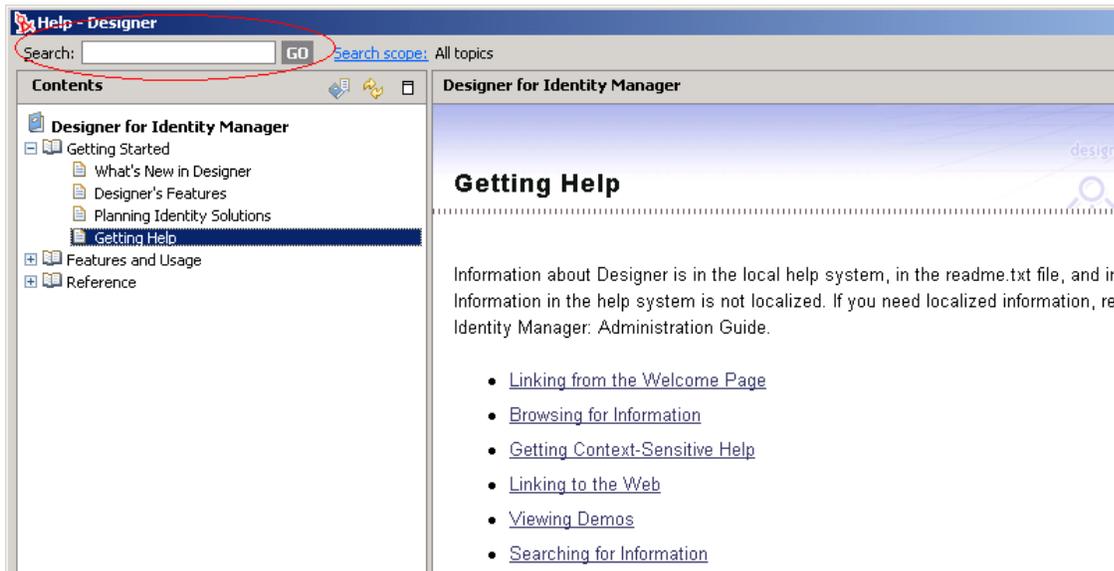


- 3 デモを選択します。
 - ◆ プロジェクトとモデリング
 - ◆ インポート
 - ◆ データフロー

- ◆ 電子メールテンプレート
- ◆ ポリシー管理とシミュレーション
- ◆ ドキュメントの生成の概要

4.7 情報の検索

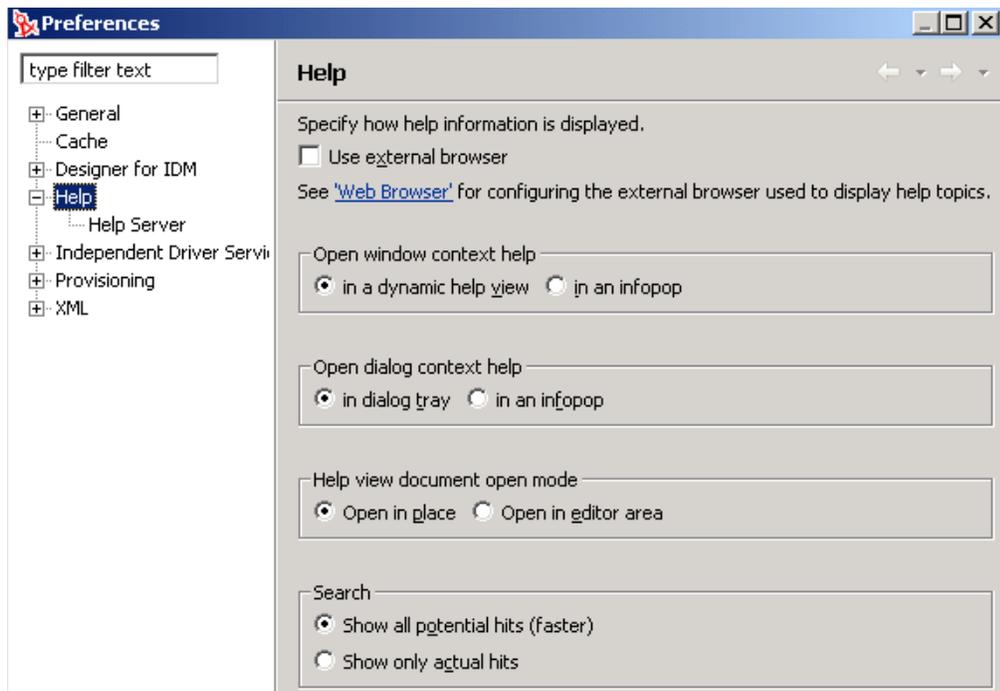
- 1 [ヘルプ] > [検索] の順に選択します。
- 2 [検索] フィールドにトピックを入力し、[開始] をクリックします。
[ヘルプ] > [Help Contents (ヘルプコンテンツ)] の順に選択してから、[Contents (コンテンツ)] ペインの上にある [検索] オプションを使用することもできます。



4.8 ブラウザとヘルプサーバのカスタマイズ

- 1 メインメニューで、[Window (ウィンドウ)] > [Preferences (初期設定)] の順にクリックします。

- 2 [ヘルプ] を選択し、変更を加えたら、[OK] をクリックします。

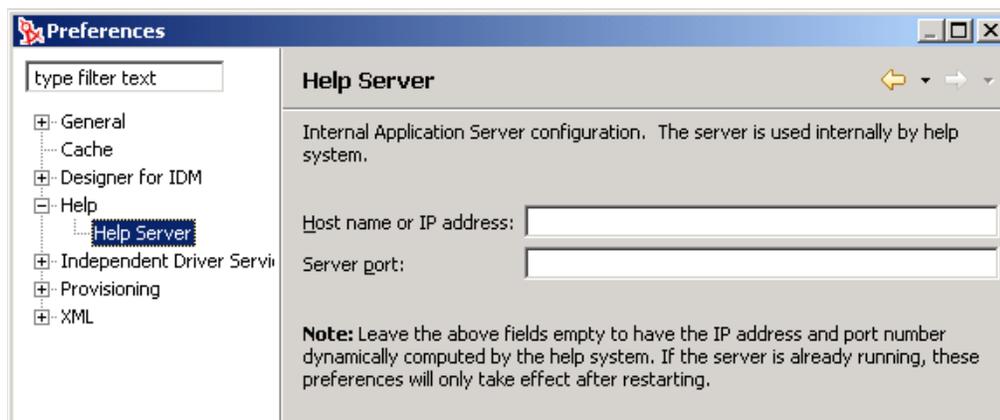


Designer は Eclipse 上に構築されているため、ヘルプサーバの機能を使用できます。これは独自のツールを作成するための開発ツールです。チーム全体で Eclipse を使用しているチーム環境の場合、共通のヘルプサーバを設定して、このサーバでイントラネット内のファイルやコンテンツを管理する場合があります。

詳細については、ヘルプおよびヘルプサーバを参照してください。

- ◆ [初期設定] の [ヘルプ] セクションを参照します。
- ◆ Eclipse の Web サイトを参照します。

- 3 (オプション) [ヘルプ] を展開してから、[Help Server (ヘルプサーバ)] をクリックします。



- 4 (オプション) ヘルプサーバに関する変更を加えたら、[OK] をクリックします。

モデルの構築

モデルを構築するには、プロジェクトを作成してから、パレットからモデラに項目をドラッグします。

- ◆ 49 ページのセクション 5.1 「プロジェクトの作成」
- ◆ 52 ページのセクション 5.2 「モデラへのアクセス」
- ◆ 56 ページのセクション 5.3 「モデリングモードの選択」
- ◆ 65 ページのセクション 5.4 「パレットからの作業」
- ◆ 70 ページのセクション 5.5 「コピーと貼り付け」
- ◆ 75 ページのセクション 5.6 「ドメイングループによる整理」
- ◆ 84 ページのセクション 5.7 「アプリケーションの接続」
- ◆ 91 ページのセクション 5.8 「コンポーネントの整列とレイアウト」
- ◆ 98 ページのセクション 5.9 「複数のオブジェクトの編集」
- ◆ 98 ページのセクション 5.10 「AD ドメインコントローラのモデリング」
- ◆ 100 ページのセクション 5.11 「モデルの保存」

5.1 プロジェクトの作成

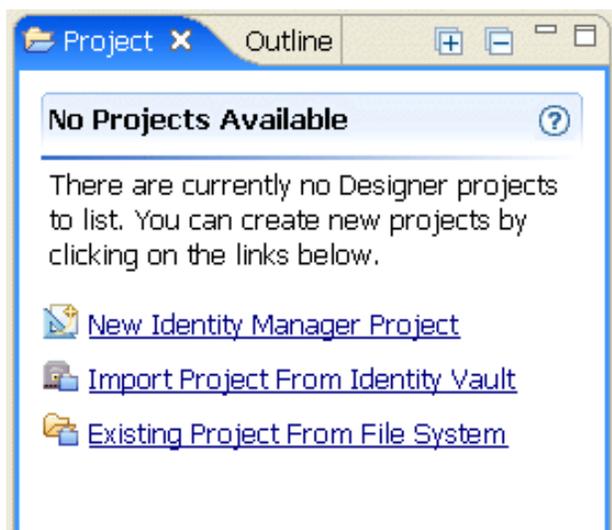
重要 : Designer 1.2 よりも古い Designer で作成されたプロジェクトは、Designer 1.2 でも動作します。ただし Designer 1.2 で作成されたプロジェクトは、Designer 1.1 以前では動作しません。

プロジェクトが存在しない場合

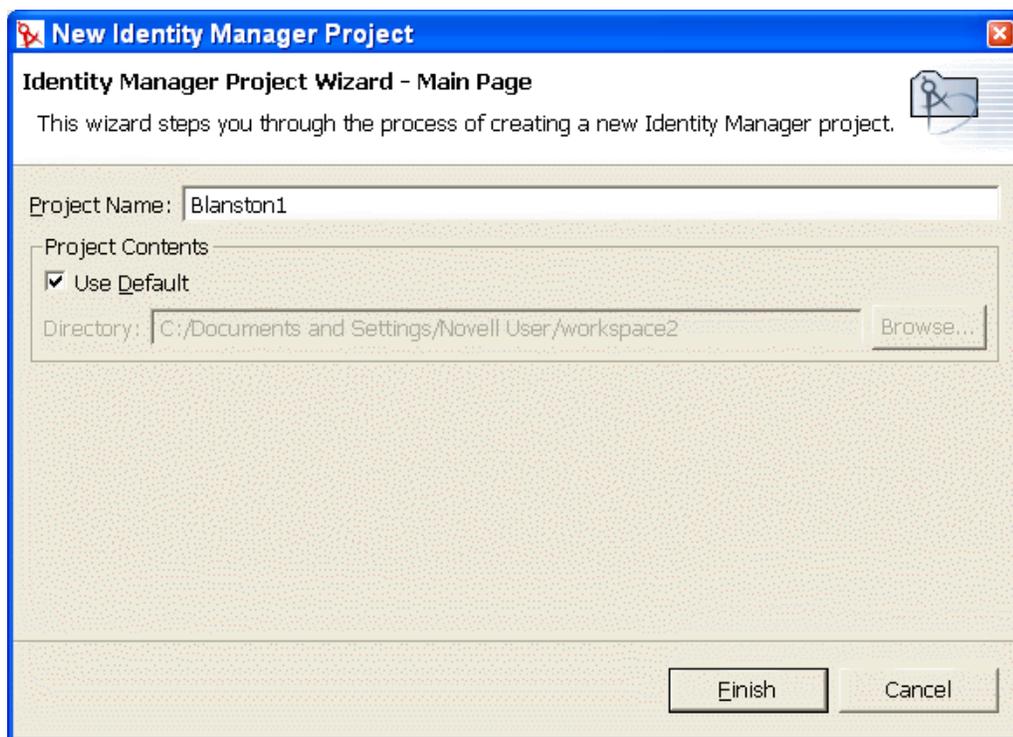
- 1 Designer パースペクティブ (右上隅) が選択されていることを確認します。



- 2 Designer を開始したばかりで、[Project (プロジェクト)] タブにプロジェクトがない場合は、次のウィンドウが表示されます。



- 3 [New Identity Manager Project (新規 Identity Manager プロジェクト)] をクリックして、Identity Manager プロジェクトウィザードを起動します。

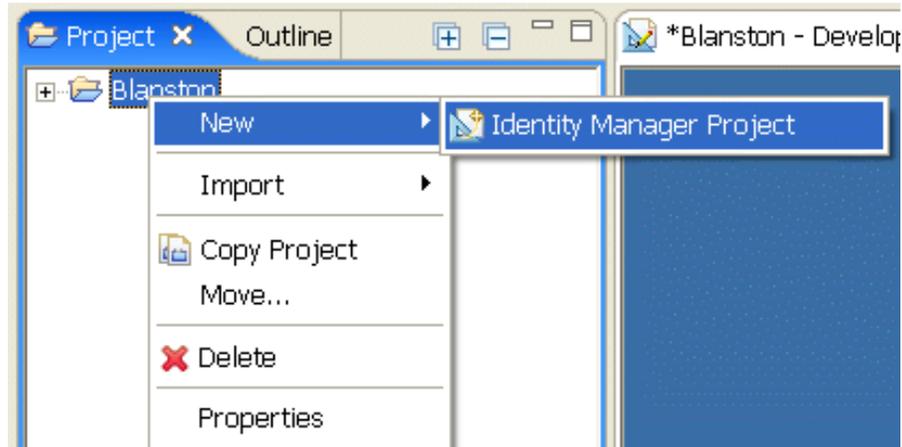


- 4 プロジェクトの名前を入力し、[終了] をクリックします。

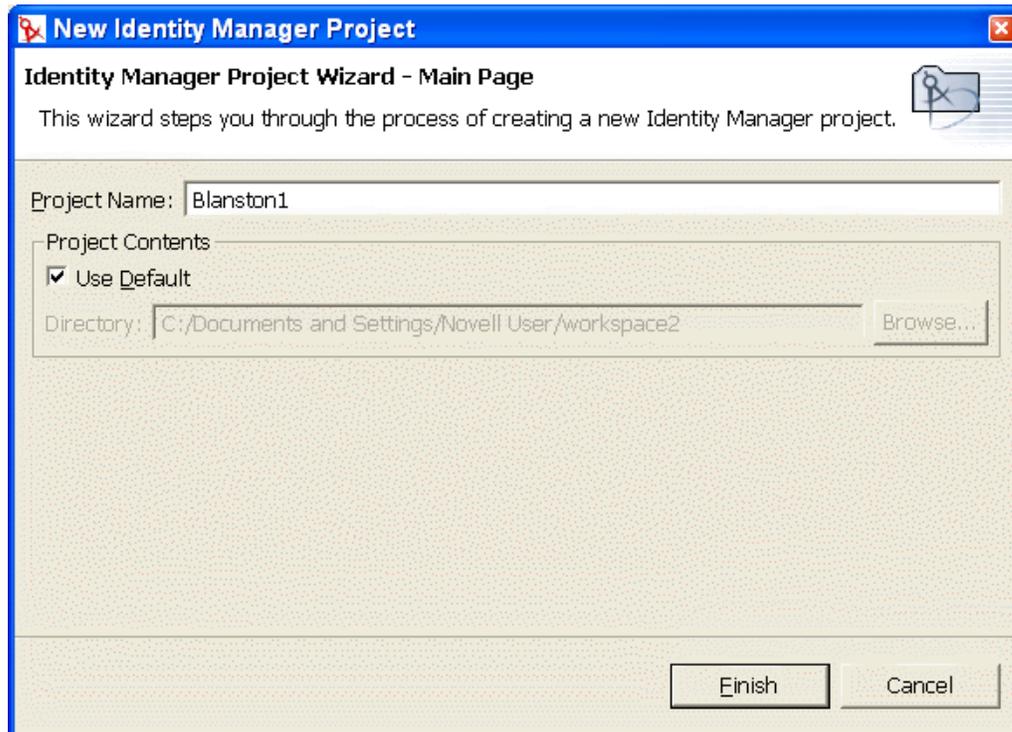
プロジェクトを追加作成する場合

Identity Manager プロジェクトを作成するには：

- 1 [Project (プロジェクト)] ビューのペインを右クリックして、[New (新規作成)] > [Identity Manager Project (Identity Manager プロジェクト)] の順にクリックします。



- 2 Identity Manager プロジェクトウィザードのメインページで、プロジェクトの名前を指定します。

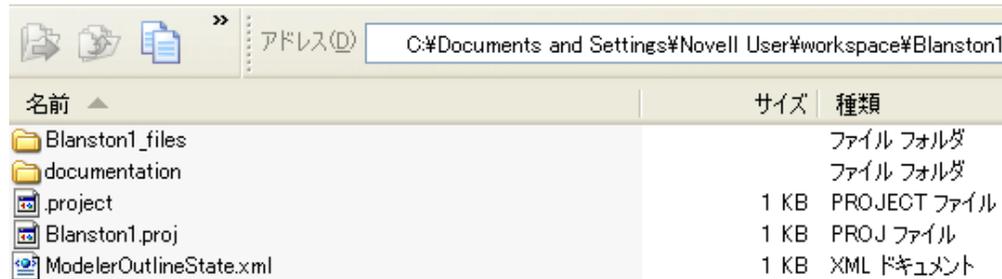


Designer により、ローカルディレクトリにプロジェクトが保存されます。このディレクトリは、Designer をインストールしたときに指定したものです。通常、このディレクトリは、デフォルトで c:\Documents and Settings\Username\workspace に作成されま

す。別のディレクトリを指定するには、[Use Default (デフォルトを使用)] を選択解除してから、目的のディレクトリを参照して選択します。

3 [終了] をクリックします。

格納されたプロジェクトはプロジェクト名を使用したディレクトリ構造をもち、初期ディレクトリに拡張子 .proj および .project が付いたファイルが含まれます。この例では、プロジェクトは Windows ワークステーション上の c:\Documents and Settings\Novell User\workspace\Blanston1 ディレクトリに保存されます。



名前 ▲	サイズ	種類
Blanston1_files		ファイル フォルダ
documentation		ファイル フォルダ
.project	1 KB	PROJECT ファイル
Blanston1.proj	1 KB	PROJ ファイル
ModelerOutlineState.xml	1 KB	XML ドキュメント

[Project (プロジェクト)] ビューにプロジェクト名が表示されます。プロジェクト名の下にあるシステムモデルアイコンを選択すると、その新しいプロジェクトのモデラ (エディタ) が開きます。

プロジェクトをインポートする場合

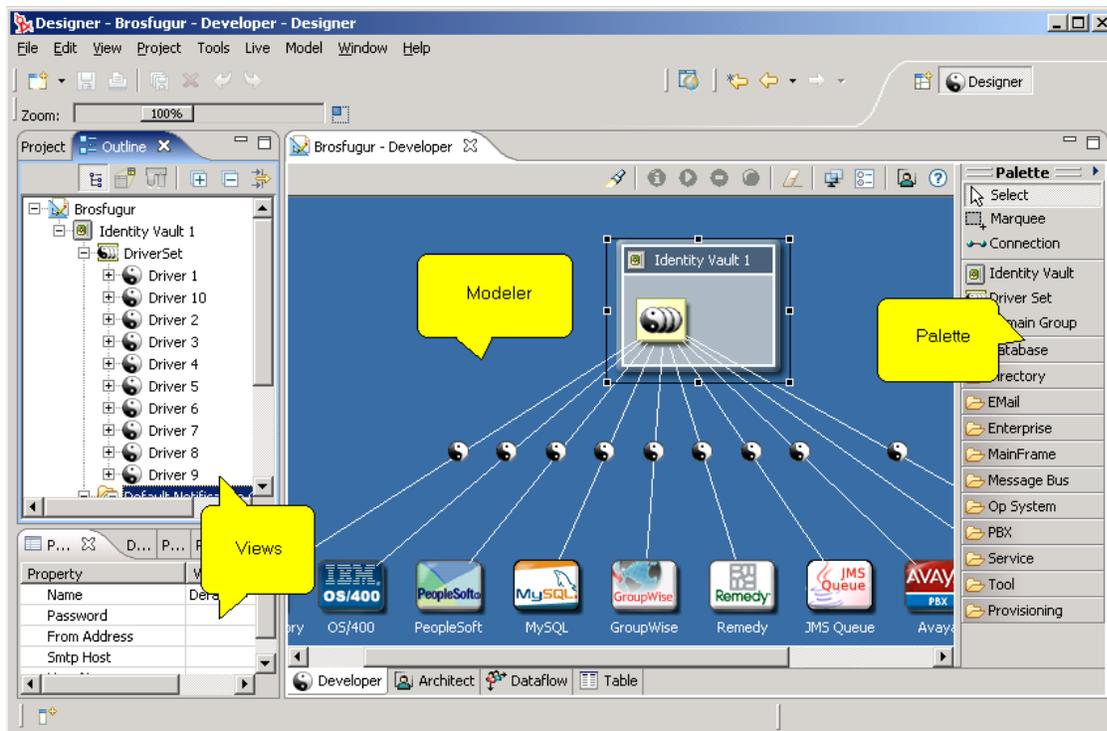
アイデンティティボールドまたはファイルシステムからプロジェクトをインポートする場合は、[143 ページの第 8 章「Designer へのインポート」](#)を参照してください。

5.2 モデラへのアクセス

モデラスペースは、主な作業領域です。プロジェクトを設計するためのエディタです。メインの作業スペースであり、Designer で対話的に作業を行うための領域になります。他の

すべてのエディタ、ビューおよびダイアログボックスにより、モデラの機能をサポートします。

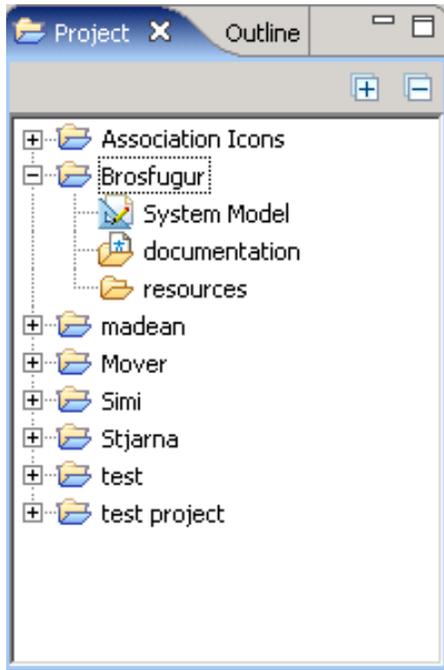
図 5-1 Designer のモデラ



作業を開始するには、プロジェクトを作成し、パレットからモデラスペースに項目をドラッグします。その後で項目を配置し、設定します。

モデラが表示されない場合は、次の手順に従います。

- 1 [Project (プロジェクト)] ビューでプロジェクトを展開します。

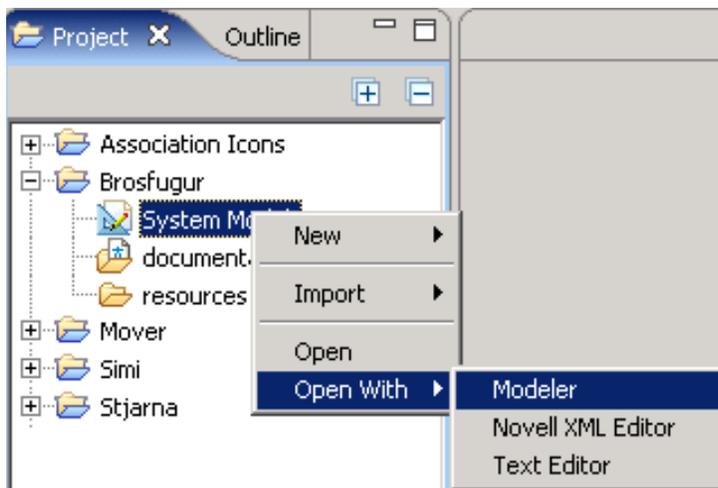


プロジェクトをまだ作成していない場合は、作成します。

- 2 [System Model (システムモデル)] をダブルクリックします。

デフォルトでは、モデラスペースにモデラエディタが開きます。別のエディタを選択するには：

- 1 [Project (プロジェクト)] ビューでプロジェクトを展開します。



- 2 [System Model (システムモデル)] を右クリックします。
- 3 [Open With (アプリケーションから開く)] を選択します。

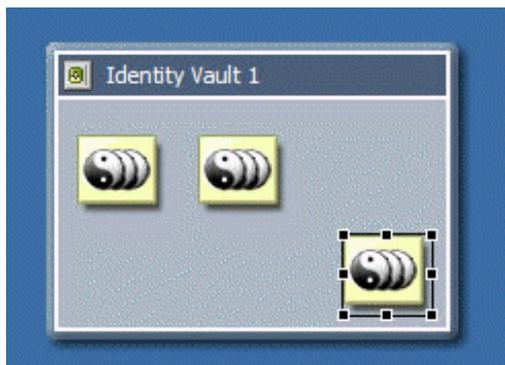
4 エディタを選択します。

5.2.1 項目の移動

モデラスペース内に配置した項目は、ドラッグして新しい場所に移動できます。モデラではオブジェクトを配置できない場所に、誤ってオブジェクトを移動できないようになっています。たとえば、アイデンティティボールドの外にあるドライバセットをモデリングスペースに移動したり、アイデンティティボールド内にアプリケーションをドロップしたりすることはできません。ドメイングループへのオブジェクトのドラッグ、または、アイデンティティボールドからアイデンティティボールドへのドライバセットのドラッグはいつでも可能です。

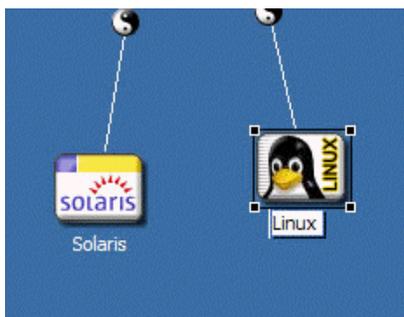
ドライバセットをアイデンティティボールドにドラッグすると、識別ボールドは、ドライバセットのサイズに応じて拡大または縮小するので、ボールドのサイズを手動で調整する必要はありません。この動作は、[Preferences (初期設定)] でオン/オフを切り替えることができます。417 ページのセクション 18.3.6 「モデラ」を参照してください。

図 5-2 展開された識別ボールド内のドライバセットの例



5.2.2 インライン編集

図 5-3 インライン編集



オブジェクトの名前を編集するには、次のいずれかを実行します。

- ◆ 項目を選択し、F2 キーを押してからラベルを編集します。
- ◆ 項目をダブルクリックしてから、[名前] フィールドを編集します。

モデラでは、ドライバラインを含むどの項目タイプもインライン編集できます。

5.2.3 ツールチップとツールバー

ツールチップ。マウスマウスカーソルをモデラ内のオブジェクト上に移動すると、ツールチップにそのオブジェクトの名前が表示されます。

ツールバー。

図 5-4 モデラツールバー



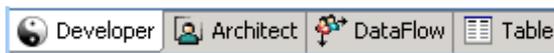
モデラツールバーからは、頻繁に使用する機能へ素早くアクセスできます。

- ◆ 検索
- ◆ ドライバのステータスの確認 (ドライバセットまたはアイデンティティボールドを選択した場合は [Live (ライブ)] メニューからも利用可能)
- ◆ ドライバの起動、停止または再起動 (ドライバセットまたはアイデンティティボールドを選択した場合は [Live (ライブ)] メニューからも利用可能)
- ◆ すべての項目のクリア
- ◆ モデルのスナップショットの保存
- ◆ モデラの初期設定の起動
- ◆ Designer の使用方法に関するデモの表示
- ◆ ヘルプの表示

5.3 モデリングモードの選択

モデラにはボタンの付いたタブがあり、モデリングモードに応じて切り替えることができます。こうしたモードにはそれぞれ利点があり、実行しようとしているタスクや割り当てられている役割に応じて使い分けます。

図 5-5 モデラのモード

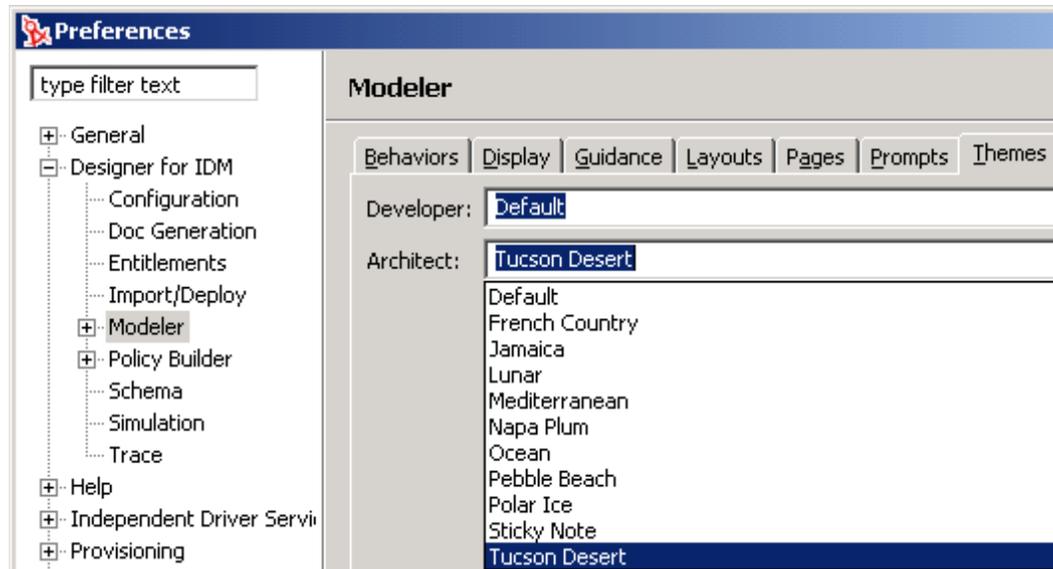


モードは、選択内容、データ、コンテンツで互いに同期化されます。[Outline (アウトライン)] ビューおよび [Thumbnail (サムネイル)] ビューとも同期化されます。

モデラエディタでモードを切り替えると、上部にあるこのエディタのタブに現在のモードが表示されます。

デフォルトでは、テーマの初期設定は各モードごとに異なっています。モデラの初期設定で各テーマをそれぞれ設定するには：

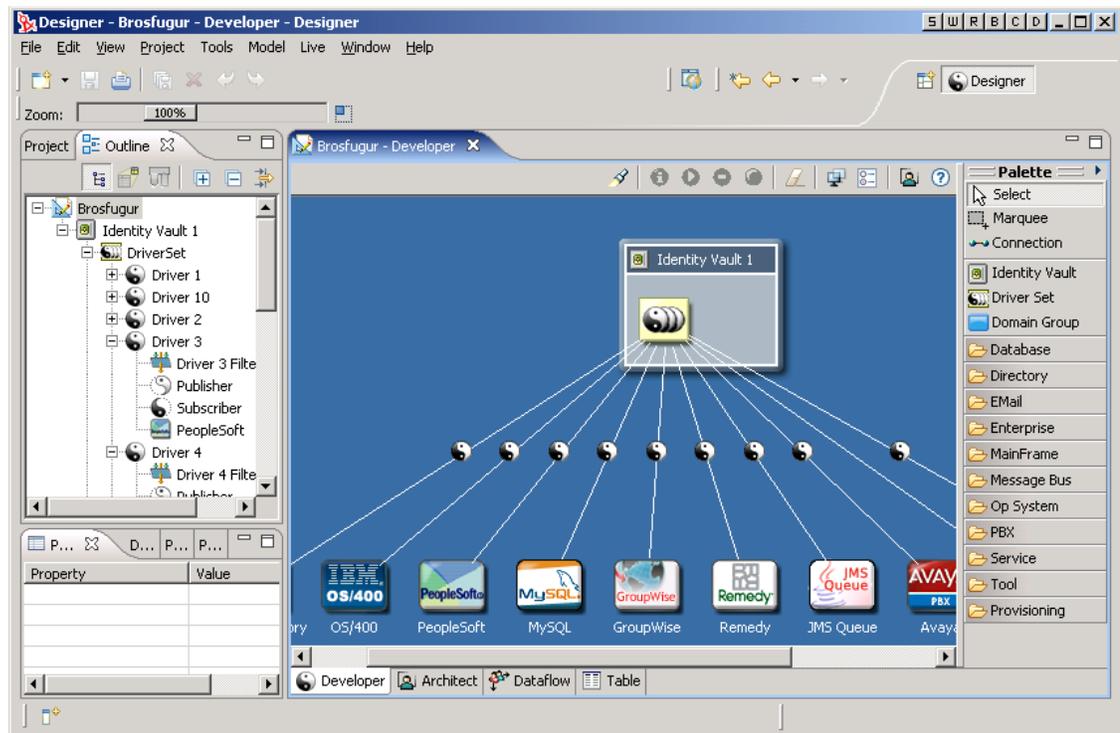
- 1 [Window (ウィンドウ)] > [初期設定] > [Designer for Identity Manager] の順にクリックします。



- 2 [Modeler (モデラ)] > [Theme (テーマ)] の順にクリックします。
- 3 テーマを選択して、[OK] をクリックします。

5.3.1 開発者モード

図 5-6 開発者モード



ドライバセット、ドライバ、ポリシーおよびアプリケーションで詳細レベルの作業を行う場合は、開発者モードを使用します。このモードでは、識別ソリューションを完全に構築し、展開するのに必要な視覚的な要素および環境設定の詳細を管理できます。

開発者モードでは、パレットでアプリケーションとシステムが分類されます。モデラの初期設定を使用すると、こうした分類がアルファベット順で表示されるようにカスタマイズできます。[422 ページの「パレット」](#)を参照してください。

ラベルでの作業

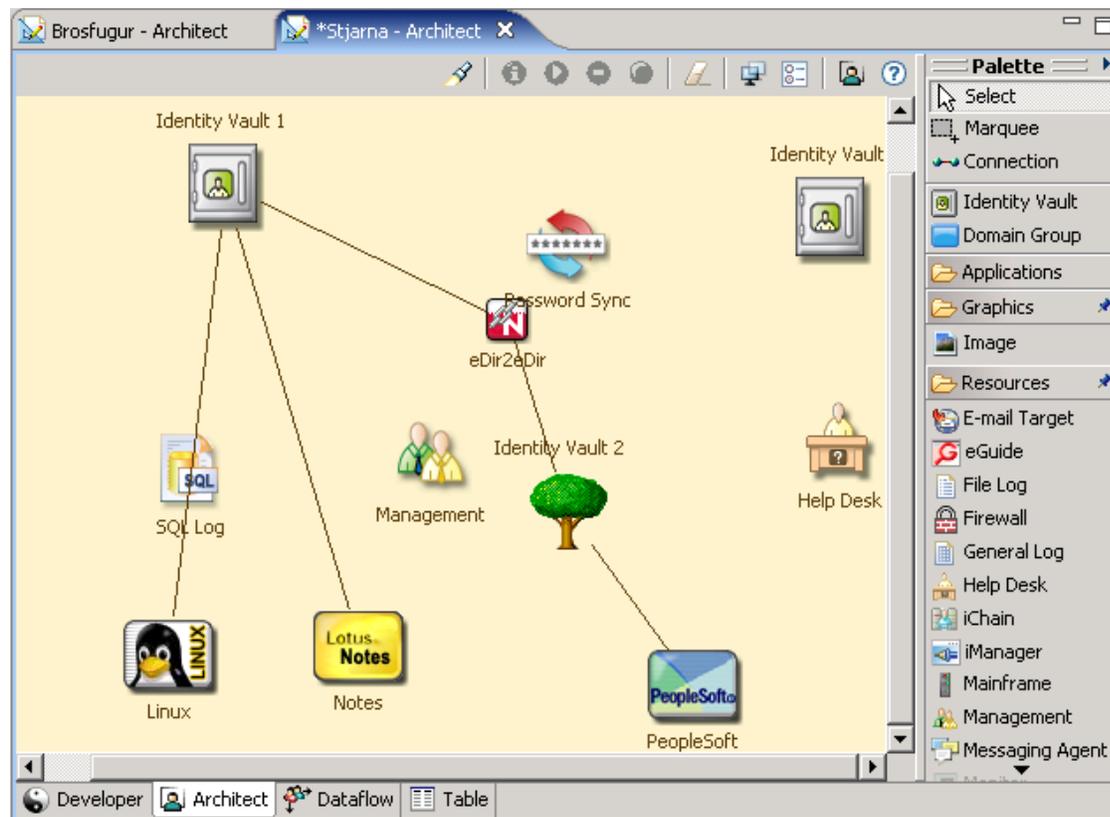
図 5-7 アプリケーションのラベル



デフォルトでは、開発者モードと設計者モードの両方で、モデラのアプリケーションアイコンの下にラベルが表示されます。設計者モードでは、アイデンティティボルトアイコンの上にも表示されます。モデラの初期設定を使用すると、これらのラベルを非表示に設定できます。[417 ページのセクション 18.3.6「モデラ」](#)を参照してください。

5.3.2 設計者モード

図 5-8 設計者モード



設計者モードは、上流工程で作業する場合に使用します。上流工程ではドライバ、ドライバセットまたはポリシーは表示されないため、システムに重点が置かれます。このモードでは広域的な設計を行います。設計者とビジネス戦略担当者にとっては、より直感的な作業になります。

このモードは、各プロジェクトを開始するときを使用するのが一般的です。通常、組織内のさまざまな人と相談しながら、エンタープライズの正確な図面を時間をかけて作成することになります。そのような場合は、所有者、連絡先、コンピュータ環境、ソフトウェアのバージョンおよび認証の資格情報など、各システムの主要な情報を入手してください。こうしたプロセスを経たら、プロジェクトの要件を定義し、取り扱うデータの予測を開始して、プロジェクトにそれらの情報を取り込みます。

準備が整ったら、開発者モードに切り替えて、作業中のソリューションの技術的な詳細を調査します。プロジェクトのサイズおよびチームのメンバー構成に応じて、Designer の設計者モードを利用した上流工程のソリューション構築は、設計者とデザイナーに依頼することもできます。その後で、ポリシーの作成とシステムの設定に詳しい、識別ソリューションの開発者にプロジェクトを送信します。双方で同一プロジェクトを共有できます。

設計者モードのモデラでは、任意のリソースをアプリケーション、画像または識別ボードなどのリソースと関連付けられます。接続ラインにより、どのような関連性も表現できるため、設計者モードは汎用の概要レベルのビジネスモデラとして使用できます。開発者モードに切り替えると、設計者モードのラインは表示されません。

リソースには関連付けられた接続情報があります。リソースを使用すると、実際の操作を行ったり、環境内の他の要素 (Identity Manager インフラストラクチャに含まれていなくてもよい) をリモートコントロールすることができます。

設計者モードのパレット

設計者モードのパレットでは、すべてのアプリケーションとリソースが、それぞれ専用のフォルダ内でアルファベット順に表示されます。

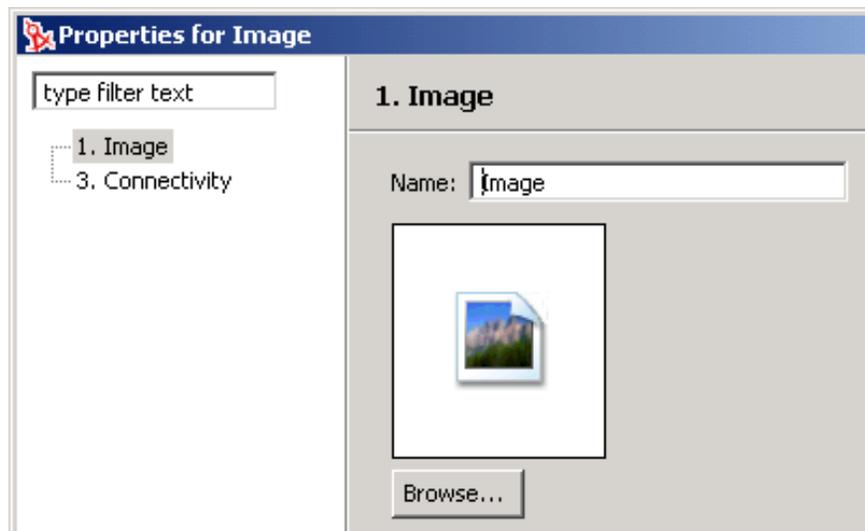
設計者モードでは、パレットには画像アイコンを含む Graphics (グラフィック) フォルダが表示されます。このアイコンをモデラにドラッグすると、標準グラフィックが展開されます。

図 5-9 画像アイコン



このアイコンのプロパティを編集するには：

図 5-10 画像アイコンのプロパティ



- 1 アイコンを右クリックして [プロパティ] を選択します。
- 2 [名前] フィールドで、見出しを入力します。
- 3 グラフィックを参照して選択してから、[OK] をクリックします。

インポートする前に、グラフィックのサイズを縮小しなければならない場合があります。

モデラにインポートした画像は、ドラッグ、変更、ラインでの接続、整列または配置、削除が可能です。

設計者モードでの上流工程のデータフロー

設計者モードでのデータフローを設定するには：

- 1 アプリケーションとアイデンティティポールの間にあるラインを右クリックします。
- 2 [データフロー] を選択します。
- 3 同期および通知のイベントを指定したら、[OK] をクリックします。

このオプションは、開発者モードでの場合と同じような感覚で使用できます。ただし設計者モードでは、詳細 (スキーマ、フィルタおよびマッピングポリシー) のすべては、Designer によって自動設定されます。これらの詳細では、データフローウィザードは表示されません。展開を実行する前に、開発者モードを使用して詳細を編集できます。

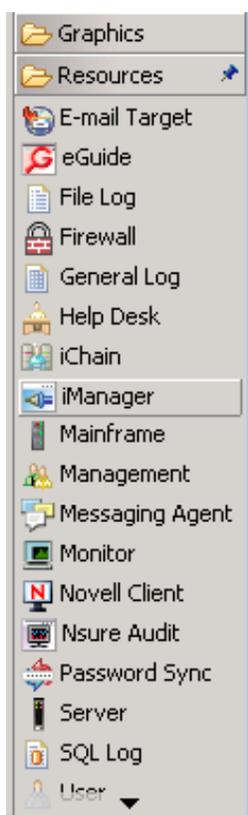
タスク

設計者モードでは、次のタスクを実行できます。

- ◆ 接続項目を揃える (端)。91 ページのセクション 5.8「コンポーネントの整列とレイアウト」を参照してください。
- ◆ パスワード同期アイコンを表示し、同期を編集する。298 ページのセクション 13.7「パスワードの統合」を参照してください。
- ◆ eDir-to-eDir を自動接続する。
- ◆ ドライバのラインを削除したときに、ドライバの削除を確認するプロンプトを表示する。
- ◆ モデル内にリソースを表示する。

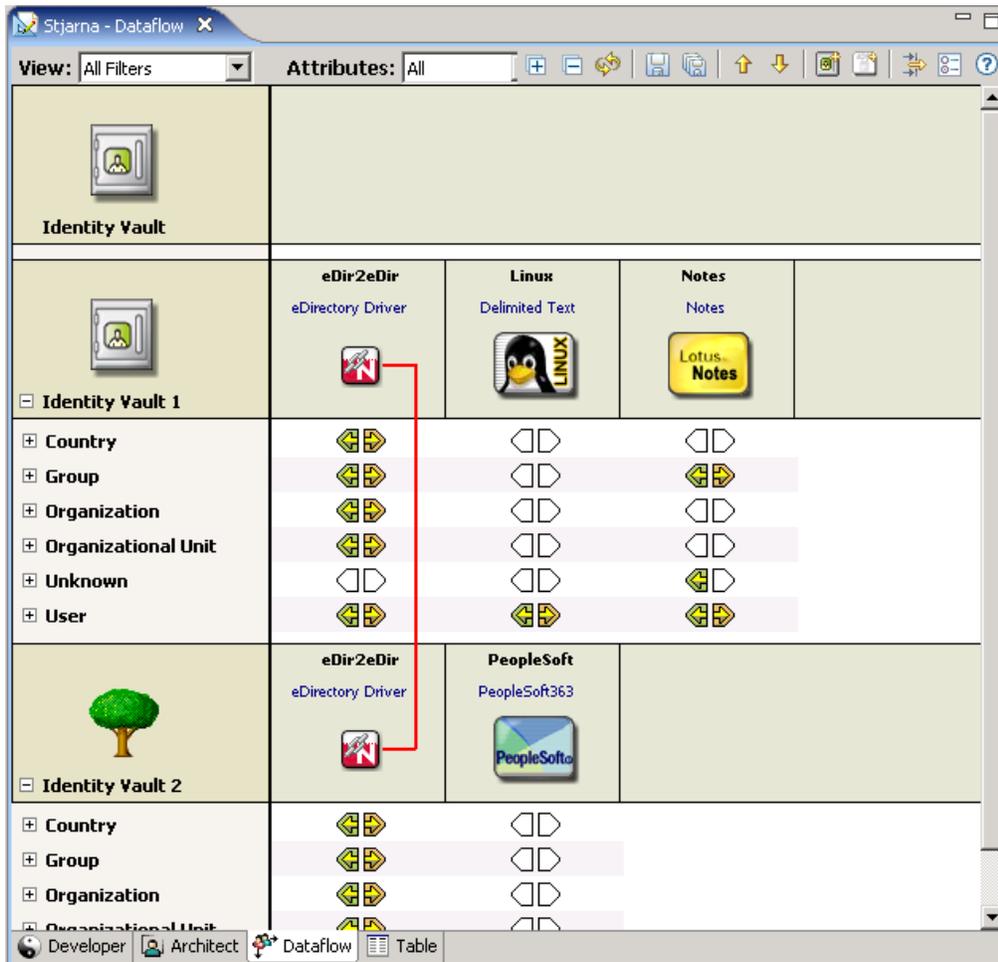
パレットの Resources (リソース) フォルダを開いて、リソースをモデラにドラッグし、リソースを接続します。

図 5-11 Resources (リソース) フォルダ内の項目



5.3.3 データフローモード

図 5-12 データフローモード



データフローモードではデータフローエディタを起動し、システムとアイデンティティボールド間のデータフローを制御するフィルタがすべて表示されます。

データフローモードは、オブジェクトを追加、変更または同期した場合に、モデルおよび [Outline (アウトライン)] ビューと同期化されます。各サーバからパスワードがどのように送信されるかも表示できます。271 ページの第 13 章「データフローの管理」を参照してください。

5.3.4 テーブルモード

図 5-13 テーブルモード

Name	Type	Container	Details
Linux	Application	Modeler Workspace	
Notes	Application	Modeler Workspace	
PeopleSoft	Application	Modeler Workspace	
eDir2eDir	Application	Modeler Workspace	
Modeler Workspace	Domain	Stjarna	
eDirectory Driver	Driver	DriverSet	Log Off, Limit 50, Trace None, File None,
eDirectory Driver	Driver	DriverSet	Log Off, Limit 50, Trace 0, File , Trace Na
Notes	Driver	DriverSet	Log Off, Limit 50, Trace None, File None,
PeopleSoft363	Driver	DriverSet	Log Off, Limit 50, Trace None, File None,
Delimited Text	Driver	DriverSet	Log Off, Limit 50, Trace None, File None,
Driver Set	DriverSet	Identity Vault	Context None, Log Off, Limit 50, Trace M
DriverSet	DriverSet	Identity Vault 1	Context None, Log Off, Limit 50, Trace M
DriverSet	DriverSet	Identity Vault 2	Context None, Log Off, Limit 50, Trace M
Delimited Text Filter	FilterPolicy	Delimited Text	Size: 915
eDirectory Driver Filter	FilterPolicy	eDirectory Driver	Size: 7240
eDirectory Driver Filter	FilterPolicy	eDirectory Driver	Size: 7240

グローバルテーブルエディタでは、プロジェクト内のすべてのリソースが一覧表示されます。このテーブルをスクロールして、重要な情報に素早く目を通すことができます。特定タイプの項目を探して、その設定を編集することができます。

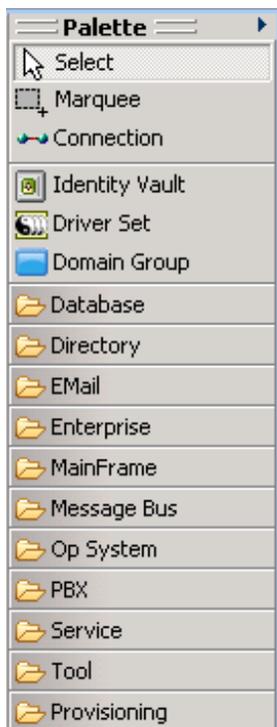
テーブル内のエントリを編集するには、行をダブルクリックしてから [Open With (アプリケーションから開く)] をクリックし、エディタを選択します。

テーブル内の項目を選択すると、Designer は選択内容を [Outline (アウトライン)] ビューと同期化して、選択したコンテナを表示できるようにします。

リストをソートするには、列見出しをクリックします。

5.4 パレットからの作業

図 5-14 Designer のパレット



パレットは、モデラに追加するすべての項目のソースになります。モデルを構築するには、次のいずれかを実行します。

- ◆ パレットからモデラスペースに項目をドラッグアンドドロップします。
アプリケーションをドラッグアンドドロップすると、直近のドライバセットに自動接続されます。
- ◆ パレット内の項目をクリックしてから、その項目を配置するモデラスペース内でクリックします。

5.4.1 パレット操作

表 5-1 パレット操作

操作	説明
Connection (接続)	モデラスペースで項目を接続します。
アイデンティティボールド	モデラスペース内にアイデンティティボールドを配置します。
ドライバセット	アイデンティティボールド内に eDirectory ドライバセットオブジェクトを配置します。接続するすべてのアプリケーションは、2つのアプリケーション間のハブとしてドライバセットオブジェクトを使用します。

操作	説明
Domain Group (ドメイングループ)	モデラスペースで項目のグループ化や分類を行います。
フォルダ	アプリケーションは、フォルダ内で分類されます。フォルダを開いたり閉じたりするには、フォルダをクリックします。他のフォルダを開いているときでも、フォルダが完全に閉じられないようにするには、ピンのアイコンをクリックします。ピンがクリックされていないフォルダは、他のフォルダを開くと自動的に閉じられます。
アプリケーション	接続可能なさまざまなアプリケーションは、タイプ別にグループ化されます。こうしたアプリケーションはモデラスペースにドラッグアンドドロップして、編集を開始できます。モデラにより、ドライバを表す接続ラインが自動的に追加されます。
スクロール矢印	方向を示す小さい矢印です。フォルダに多数の項目がある場合や、画面の領域が限られている場合に、スクロール矢印が表示されます。フォルダの内容をスクロールするには、この矢印をクリックします。

汎用アプリケーションの使用

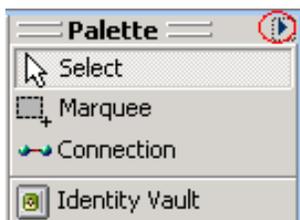
図 5-15 パレットでの汎用アプリケーションのオプション



シナリオ：汎用アプリケーション。Fridrik は、自分専用の項目とグラフィックを使用して、自分が使用しているバージョンの Designer でプロジェクトを作成します。Fridrik からあなたにプロジェクトが転送されますが、あなたの Designer のバージョンでは、それらの項目を読み込むことができません。あなたの Designer は、転送されたオブジェクトを汎用アプリケーションとしてレンダリングします。

5.4.2 フライアウトパレット

図 5-16 パレットのコントロール矢印



パレットを非表示にするには、パレット上の小さいコントロール矢印をクリックします。パレットが縮小表示に切り替わります。

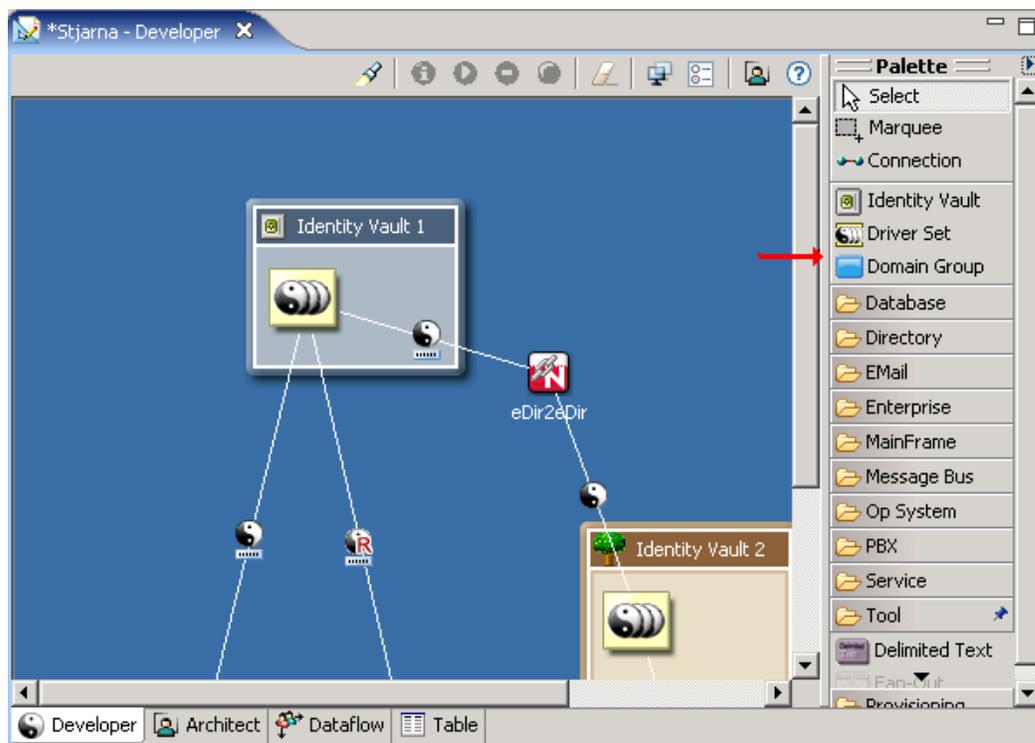
パレットを再び開き、開いたままにするには、この矢印をクリックします。

パレットを一時的に開くには、コントロール矢印の下の、縮小表示になっているパレットの上にカーソルを移動します。パレットがただちに開きます。これがフライアウトモードです。

パレットをフライアウトモードから変更するには、コントロール矢印を再びクリックします。この状態は、次にアプリケーションを実行したときも維持されます。

5.4.3 パレットのサイズ変更

- 1 モデラスペースとの境界をクリックします。



- 2 このラインをドラッグします。

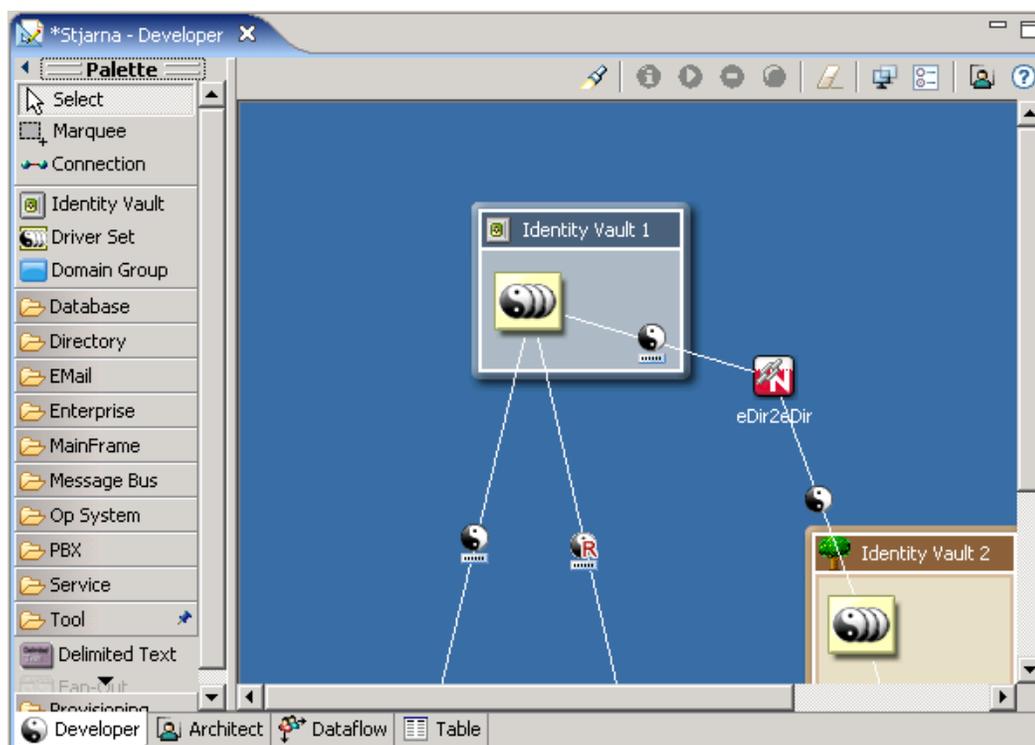
このサイズは、次にアプリケーションを実行したときも維持されます。

5.4.4 パレットの固定

パレットをモデラスペースの左または右に固定するには：

- 1 パレット上方のヘッダをクリックします。
- 2 パレットを目的の場所にドラッグします。

この場所は、次にアプリケーションを実行したときも維持されます。

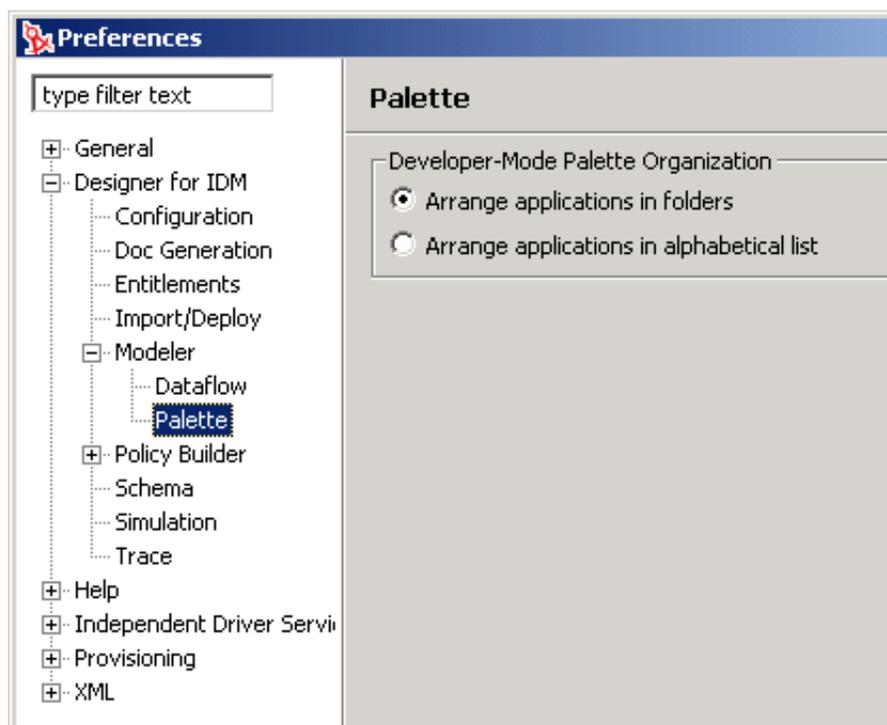


5.4.5 フォルダとアプリケーションの配置

デフォルトでは、アプリケーションはフォルダ内に配置されます。

アプリケーションをフォルダ内ではなくアルファベット順に配置するには：

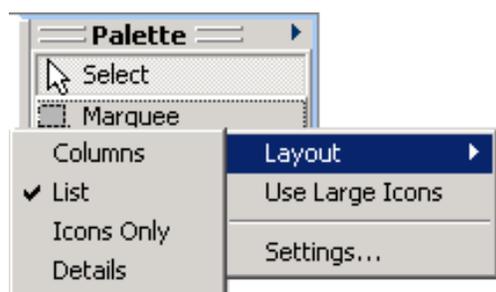
- 1 [Window (ウィンドウ)] > [Preferences (初期設定)] > [Designer for IDM (IDM の Designer)] > [Modeler (モデラ)] > [Palette (パレット)] の順にクリックします。



- 2 [Arrange applications in alphabetical list (アプリケーションをアルファベット順に配置する)] を選択し、[OK] をクリックします。

5.4.6 レイアウトの変更

- 1 パレットを右クリックします。



- 2 [レイアウト] を選択します。
- 3 オプションを選択します。

設定	説明
Layout: Columns (レイアウト : 列)	フォルダとアプリケーションを列で表示します。

設定	説明
Layout: List (レイアウト: リスト)	フォルダとアプリケーションをリストで配置します。
Layout: Icons Only (レイアウト: アイコンのみ)	説明ラベルを非表示にします。
Layout: Details (レイアウト: 詳細)	パレットのアイコンに簡単な説明を表示します。
Use Large Icons (大きいアイコンを使用)	アプリケーションのアイコンのサイズを切り替えます。
設定	レイアウトとアイコンのサイズを1つのダイアログボックスで設定できるようにします。フォルダ(引き出し)の動作を制御します。

5.4.7 パレットのキーボード操作

表 5-2 パレットのキーボード操作

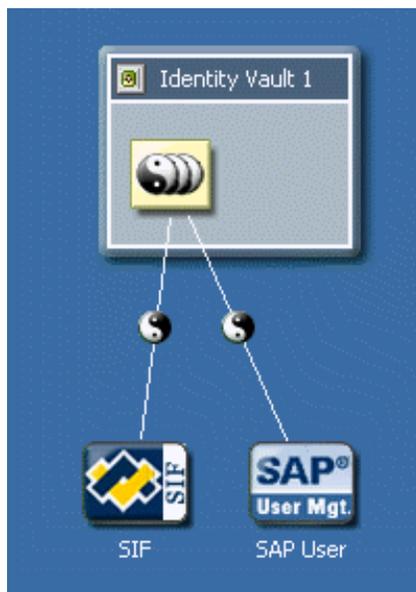
キー操作	説明
左矢印	開いているフォルダを縮小します。アプリケーションではなく、フォルダにフォーカスが置かれている必要があります。
右矢印	縮小表示のフォルダを開きます。開いているフォルダへ移動します。
上矢印	すぐ上のフォルダに移動します。
下矢印	すぐ下のフォルダに移動します。

5.5 コピーと貼り付け

- ◆ 71 ページのセクション 5.5.1 「アプリケーションのコピー」
- ◆ 72 ページのセクション 5.5.2 「ドライバセットのコピー」
- ◆ 73 ページのセクション 5.5.3 「アイデンティティボルトのコピー」
- ◆ 74 ページのセクション 5.5.4 「ドメイングループのコピー」
- ◆ 74 ページのセクション 5.5.5 「エディタ間のコピー」

5.5.1 アプリケーションのコピー

図 5-17 コピーするアプリケーション



次のものは、同じエディタ内や他のエディタにコピーして貼り付けることができます。

- ◆ カスタムアプリケーションなどのアプリケーション
- ◆ 接続されていないアプリケーション
- ◆ ドライバアイコン

- 1 アプリケーションまたはドライバアイコンを選択します。
- 2 Ctrl+C キーを押してから、Ctrl+V キーを押します。

コピーと貼り付けの操作へは、[Clipboard (クリップボード)] コンテキストのメニューからもアクセスできます。(現在のところ、メインメニューからはアクセスできません)

同じエディタ内でアプリケーションをコピーすると、Designer は、そのアプリケーションのすべての属性およびすべてのサブ要素をコピーします。そのため、アプリケーションが接続されているすべてのドライバと、そのドライバに格納されているすべてのポリシーもコピーされます。新しいアプリケーションは、デフォルトで前回アプリケーションが接続されていたのと同じドライバセットに接続されます。

同じエディタまたは他のエディタで、アプリケーションを別のドライバセットにコピーするには：

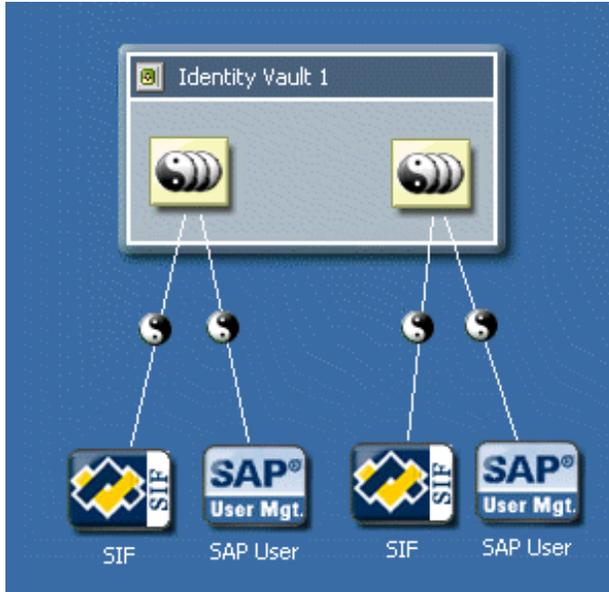
- 1 アプリケーションを選択します。
- 2 Ctrl+C キーを押します。
- 3 アプリケーションの接続先になるターゲットドライバセットを選択します。
- 4 Ctrl+V キーを押します。

ターゲットドライバセットを選択せずにアプリケーションをコピーして貼り付けると、コピーが作成され、現在のドライバセットに接続されます。

複数のアプリケーションを選択し、これらをコピーして貼り付けることができます。

5.5.2 ドライバセットのコピー

図 5-18 ドライバセット



同じエディタまたは他のエディタの、同じアイデンティティボールド内または他のアイデンティティボールド内でドライバセットをコピー、および貼り付けることができます。

- 1 ドライバセットを選択します。
- 2 Ctrl+C キーを押してから、Ctrl+V キーを押します。

同じエディタ内でドライバセットをコピーすると、Designer は、次に示すドライバセットのすべての属性をコピーします。

- ◆ そのドライバセットに接続されているすべてのドライバ
- ◆ そのドライバに含まれるすべてのポリシー
- ◆ すべてのターゲットアプリケーション

別のエディタにコピーするには：

- 1 ドライバセットを選択します。
- 2 Ctrl+C キーを押します。
- 3 ドライバセットのコピー先となる他のモデラエディタで、ターゲットのアイデンティティボールドを選択します。
- 4 Ctrl+V キーを押します。

デフォルトでは、新しいドライバセットは、コピー元の同じアイデンティティボールド内に作成されます。ただし、他のアイデンティティボールドを選択した場合は、ドライバセットはそのアイデンティティボールドにコピーされます。

コピーして貼り付けたら、既存のオブジェクトと重複しないように、貼り付けられたオブジェクトを最適な場所に移動する必要があります。この操作を行うには、貼り付けた直後の選択された状態で、適宜移動します。オブジェクトを簡単に選択する方法：

- 1 ドライバセットを右クリックします。
- 2 [Select All Connected Applications (接続されたすべてのアプリケーションを選択)] を選択します。
- 3 選択されたアプリケーションの 1 つを移動します。
接続されたすべてのアプリケーションが同時に移動します。

ドライバセットをコピーすると、同じ設定が維持されますが、選択されたサーバはコピーされずに空白になります。この例外は、Identity Manager のエンジンが、同じサーバに関連付けられているアイデンティティボールド上で複数のドライバセットを許可しないために発生します。そのため、新しいドライバセット用にサーバを設定する必要があります。アイデンティティボールドをコピーすると、Designer はドライバセットをコピーします。新しいドライバセットには同じサーバ設定が適用されています。

複数のドライバセットを選択して、これをコピーして貼り付けることができます。複数のドライバ接続をコピーするには、それらのドライバを含むドライバセットまたはアイデンティティボールドをコピーする必要があります。Designer 1.2 では、複数のドライバ接続を持つアプリケーションをコピーすると、アプリケーションとそのドライバの 1 つだけがコピーされます。

5.5.3 アイデンティティボールドのコピー

アイデンティティボールドをコピーしたら、同じエディタ内、同じモデラスペース内の他のエディタ、または特定のドメイングループ内に貼り付けることができます。

- 1 アイデンティティボールドを選択します。
- 2 Ctrl+C キーを押します。
- 3 何も選択しないか、またはアイデンティティボールドのコピー先となるターゲットドメイングループ (同じエディタまたは他のエディタ内) を選択します。
何も選択しない場合、新しいアイデンティティボールドは、現在のエディタ内のコピー元アイデンティティボールドの右側にコピーされます。
- 4 Ctrl+V キーを押します。

新しいアイデンティティボールドはコピー元アイデンティティボールドの右側に表示され、そのサイズはコピー元アイデンティティボールドと同じです。

アイデンティティボールドをコピーすると、Designer は、そのアイデンティティボールドのすべての要素をコピーします。要素には、サーバ、電子メールテンプレート、ドライバセットおよび接続されたアプリケーションが含まれます。

複数のアイデンティティボールドを選択し、これらをコピーして貼り付けることができます。

5.5.4 ドメイングループのコピー

ドメイングループをコピーしたら、同じエディタ内、同じモデラスペース内の他のエディタ、または特定のドメイングループ内に貼り付けることができます。

1 ドメイングループを選択します。

2 Ctrl+C キーを押します。

3 新しいドメイングループの場所を選択します。

何も選択しない場合、新しいドメイングループは、現在のエディタ内のコピー元ドメイングループの右側にコピーされます。

4 Ctrl+V キーを押します。

新しいドメイングループはコピー元ドメイングループの右側に表示され、そのサイズはコピー元ドメイングループと同じです。

同じエディタ内でドメイングループをコピーすると、Designer は、そのドメイングループのすべての属性をコピーします。ただし、Designer はすべてのサブ要素をコピーしません。

複数のドメイングループを選択し、これらをコピーして貼り付けることができます。

5.5.5 エディタ間のコピー

2つのエディタ間でコピーして貼り付けるには：

1 [Project (プロジェクト)] ビューを使用して、2つのプロジェクトを開きます。

一方のプロジェクトがアクティブになります。他方のプロジェクトのタブは、モデラの上部に表示されます。

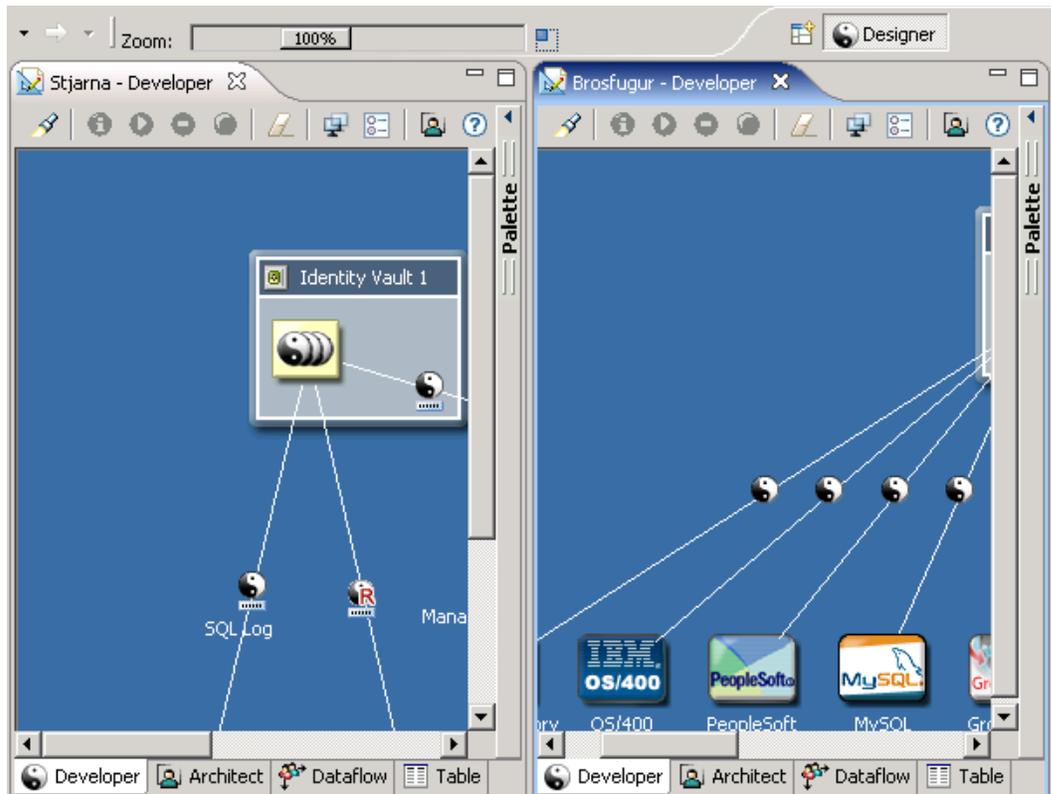
2 パレットのタイトルバーでコントロール矢印をクリックし、パレットを閉じます。



3 他方のプロジェクトのタブをクリックし、モデラの右側の境界に向かってドラッグします。

境界に近づくとタブがフォルダ型のアイコンに変化し、境界では矢印に変化します。

4 マウスを放します。



5 一方のエディタから他方のエディタに項目をコピーします。

5.6 ドメイングループによる整理

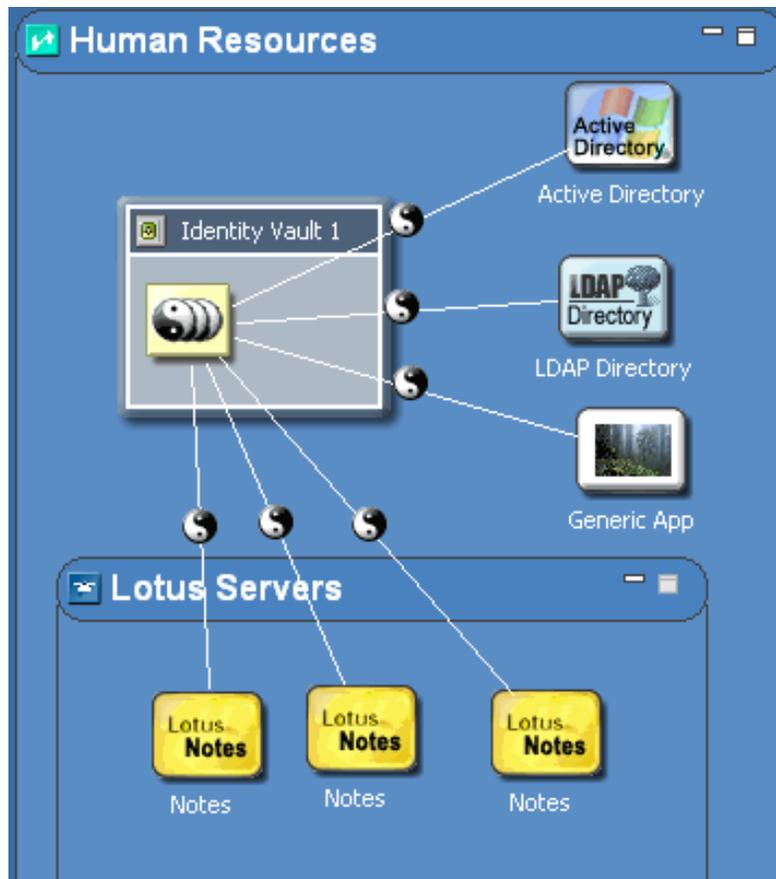
図 5-19 パレット上のドメイングループオブジェクト



ドメイングループによってモデルを論理的にグループ化することで、わかりやすい図にすることができます。ドメイングループには技術的な機能はないため、アイデンティティポールの内に保存されている項目や関係に与える影響はありません。このオプションは、モデラ内で項目を整理し、わかりやすくするツールです。

エンタープライズ全体をモデリングする場合、その規模にかかわらず、ドメイングループの使用が重要な役割を果たします。エンタープライズを整理して図示するという要望に基づいて、管理可能で有益なモデルを論理的に作成できます。

図 5-20 モデラにおけるドメイングループ



5.6.1 主な機能

- ◆ [Properties (プロパティ)] ビューからのグループ名の変更。
- ◆ グループへの / グループからのドラッグアンドドロップ。
- ◆ グループの最小化または復元。
- ◆ グループ内での項目の移動。
- ◆ グループ内での項目の削除。
- ◆ グループ内でのグループのネスト (無制限)。
- ◆ グループのサイズ変更。(最小サイズを強制適用)
- ◆ グループの解除。子グループを残したままのグループの削除。

5.6.2 ドメイングループの作成

- 1 パレットからモデラスペースにドメイングループをドラッグアンドドロップします。
- 2 ドメイングループ内の項目を整理します。

他のドメイングループを追加するには、ドメイングループ内で右クリックして、[Add Domain Group (ドメイングループの追加)] を選択します。

アイデンティティボールドを追加するには、次のいずれかを実行します。

- ◆ パレットからアイデンティティボールドをドラッグします。
- ◆ ドメイングループ内で右クリックして、[Add Identity Vault (アイデンティティボールドの追加)] を選択します。

[Add Server to Identity Vault (アイデンティティボールドへサーバを追加)] ダイアログボックスが表示されます。[Specify a Server (サーバを指定)] を選択すると、Designer により、eDirectory™ サーバを選択またはサーバを直接指定するためのダイアログボックスが表示されます。

ドライバセットを追加するには：

- 1 アイデンティティボールド内で右クリックします。
- 2 [Add Driver Set (ドライバセットの追加)] を選択します。

アプリケーションを追加するには：

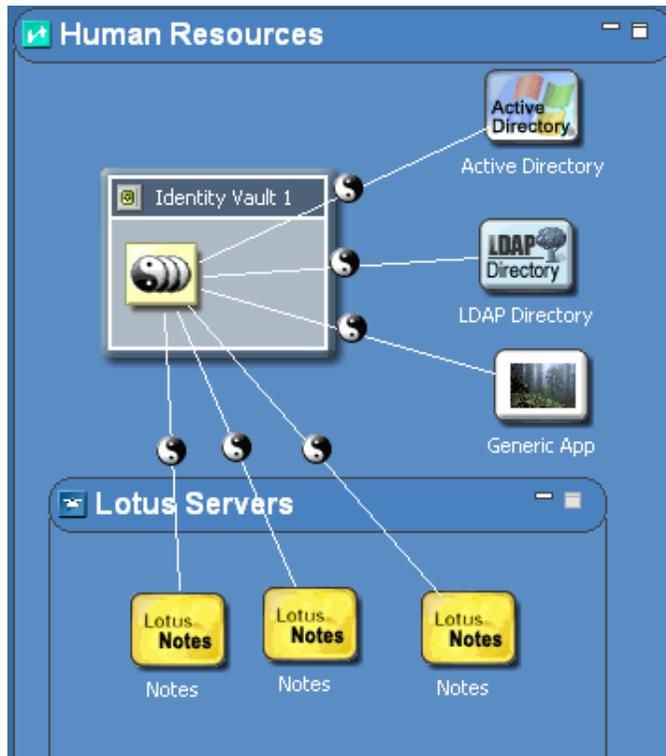
- 1 ドライバセットオブジェクトを右クリックします。
- 2 [Add Connected Applications (接続アプリケーションの追加)] を選択します。

アプリケーションは、一番右のアプリケーションの右側に追加されます。これが最初のアプリケーションである場合、ドライバセットの下に配置されます。

アプリケーションのデフォルトは、汎用アプリケーションタイプになります。このタイプを変更するには：

- 1 アプリケーションを右クリックして [プロパティ] を選択します。
- 2 別のアプリケーションを選択し、[OK] をクリックします。

図 5-21 ドメイングループ



選択した項目をドメイングループに追加すると、そのドメイングループは展開されます。ドメイングループの端に項目を追加すると、そのドメイングループ内に項目が収まるように境界が拡張します。ドメイングループから項目をドラッグすると、項目をグループから削除できます。

ドメインはネストできます。ネストされたドメインを展開すると、外側の(ホスト側)ドメインは自動的にサイズが増えます。親ドメインのサイズを手動でサイズ変更する必要はありません。拡張されることによって、ホスト側ドメインにネスト側ドメインが表示されるため、ネスト側ドメインが削除されることはありません。

5.6.3 ドメイングループの最小化(縮小表示)

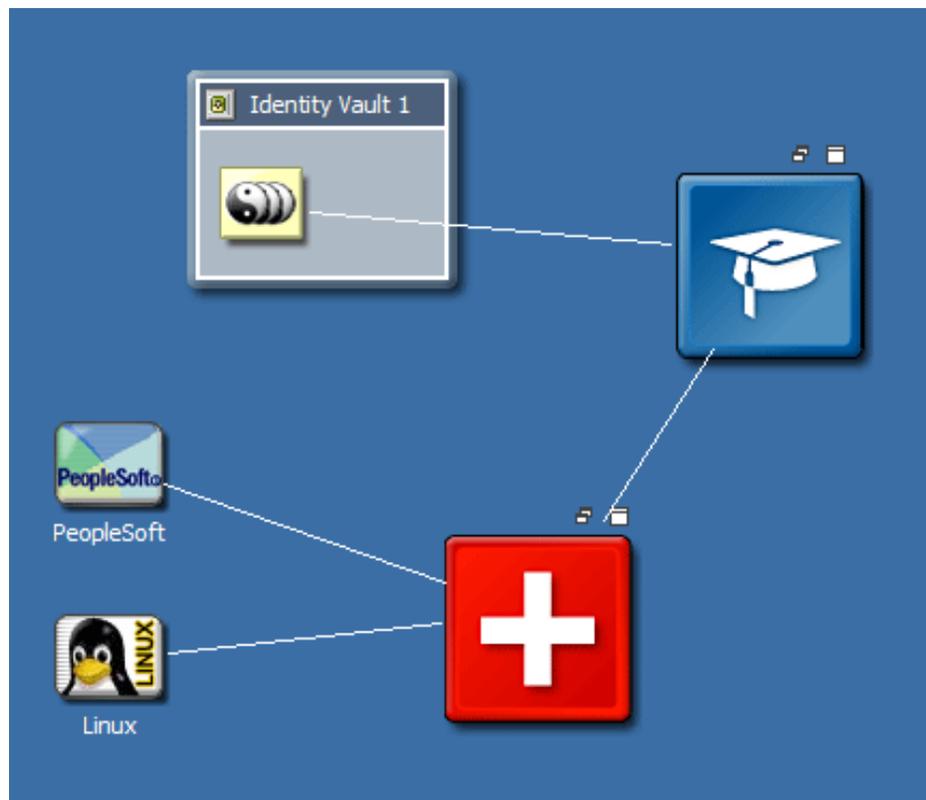
ドメイングループを最小化するには、[Minimize (最小化)]  ボタンをクリックします。ドメイングループを最小化すると、デフォルトではランダムアイコンになります。[プロパティ] を使用して、表示するアイコンを選択できます。(83 ページの「ドメイングループのアイコンの変更」を参照) アイコンおよび最小化された状態のグループは、プロジェクトファイルに保存されます。

グループが最小化されると、その内容を表示したり、新しい項目をそのグループにドラッグすることもできなくなります。ただし、グループそのものを移動、名前変更または削除することはできます。

グループを最小化すると、項目に接続されていたラインは、グループに接続されます。この機能により、グループ内の項目とグループ外の項目との間に関係があることを確認でき

ます。オブジェクトによっては、その関係や他の関連グループの状態を示す複数のラインが、1つのラインに縮小表示される場合があります。

図 5-22 縮小表示されたグループ



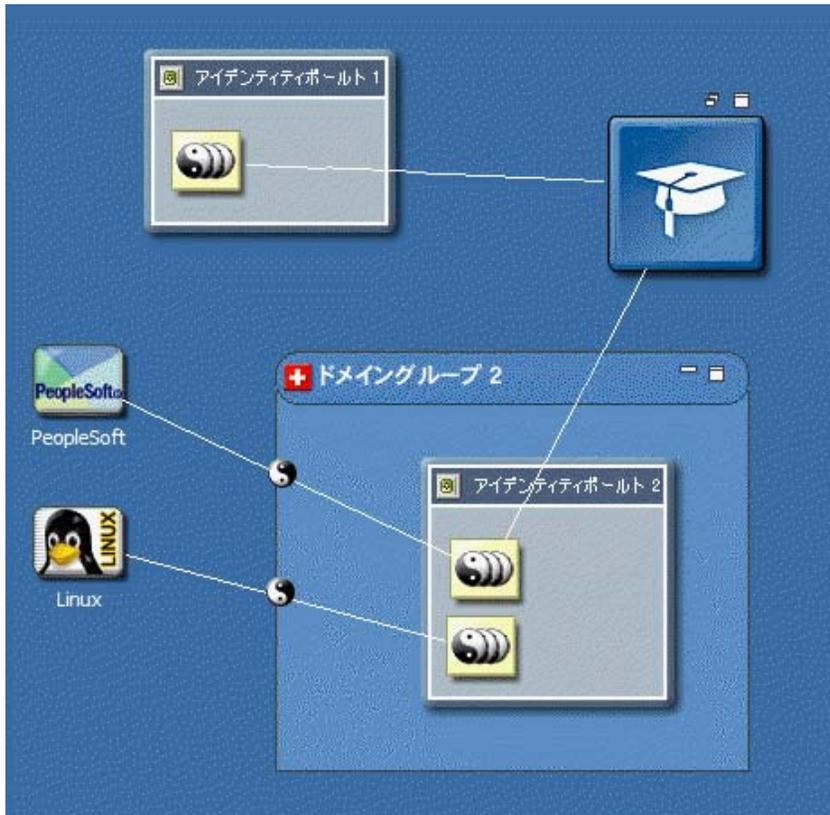
グループを展開すると、ラインは実際に接続されている項目に対して接続されます。この機能は、ネストされているグループのどのレベルでも動作します。

5.6.4 ドメイングループの復元

ドメイングループを元のサイズに復元するには、[Restore (復元)] ボタンをクリックします。

5.6.5 ドメイングループの最大化

図 5-23 [Maximize (最大化)] ボタン



ドメイングループを最大化するには、[Maximize (最大化)] ボタンをクリックします。グループが最大サイズにまで展開されます。元のサイズに戻すには、[Restore (復元)] ボタンをクリックします。

最大化できるのは、最初のレベルのグループだけです。内部のグループでは最大化機能は無効になります。

5.6.6 隣接する項目の自動配置

ドメイングループを展開または縮小するときに、隣接する項目も連動させるようにするには、Ctrl キーを押しながらドメイングループを展開または縮小します。ドメイングループの右側または下側にある項目が影響を受けます。

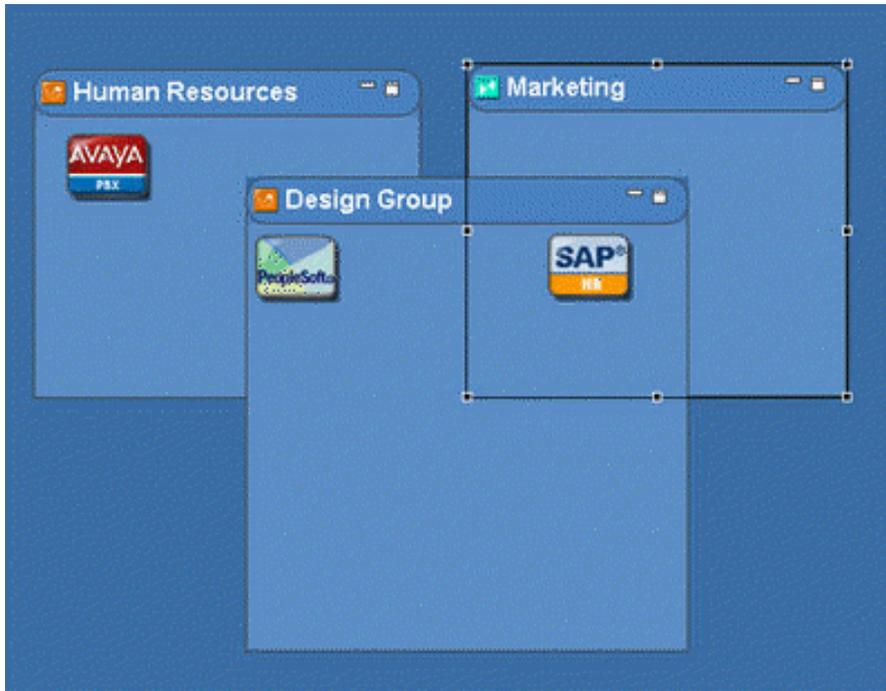
5.6.7 新しいドメイングループへのグループ化

- 1 モデラで、複数の項目を選択します。
- 2 右クリックし、[Add to Group (グループの追加)] を選択します。

モデラにより、新しいドメイングループが作成され、これらの項目が所定の間隔を保ちながら追加されます。このプロセスでは、元の項目がどの場所にあっても、その場所から削除され、新しいグループ内の適切な場所に配置されます。

次の図では、新しいドメイングループに追加され、元のグループからは削除される、2つのアプリケーションを示しています。

図 5-24 新しいドメイングループへのグループ化



5.6.8 ドメイングループのグループ解除

図 5-25 ドメイングループのグループ解除

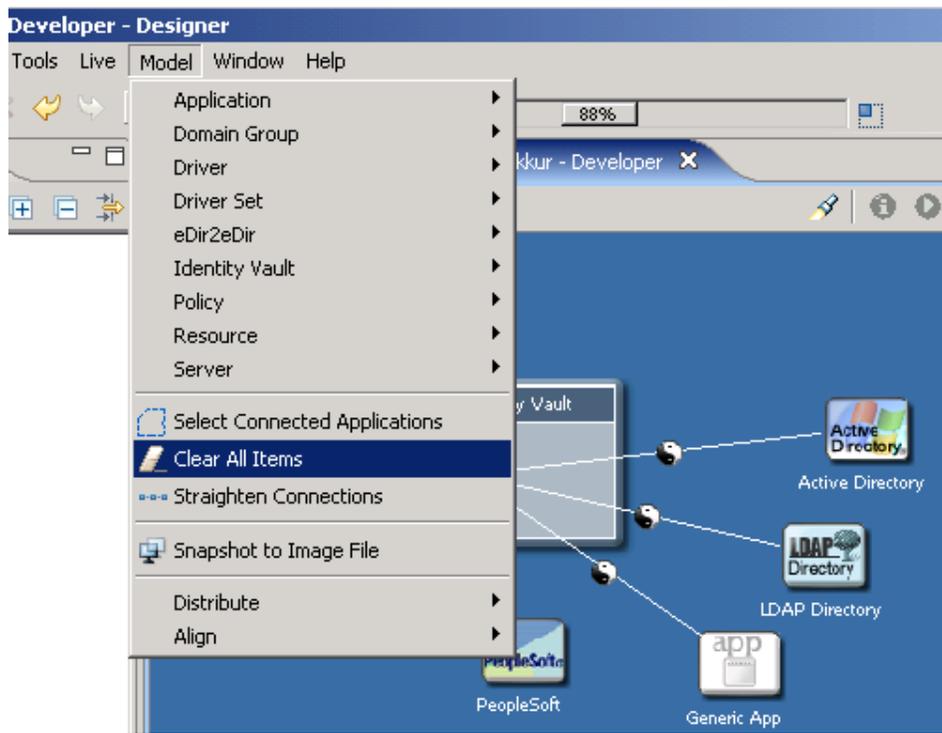


- 1 ドメイングループを選択します。
- 2 右クリックし、[Ungroup (グループの解除)] を選択します。

このプロセスでは、ドメイングループは削除されますが、すべてのコンテンツはそのまま残り、削除はされません。これが項目のグループ解除の動作です。現在作業しているモデラのレベルによっては、グループ解除された項目は、親グループまたはメインのモデリングスペースに自動的に追加されます。

5.6.9 コンテンツのクリア

図 5-26 すべての項目のクリア



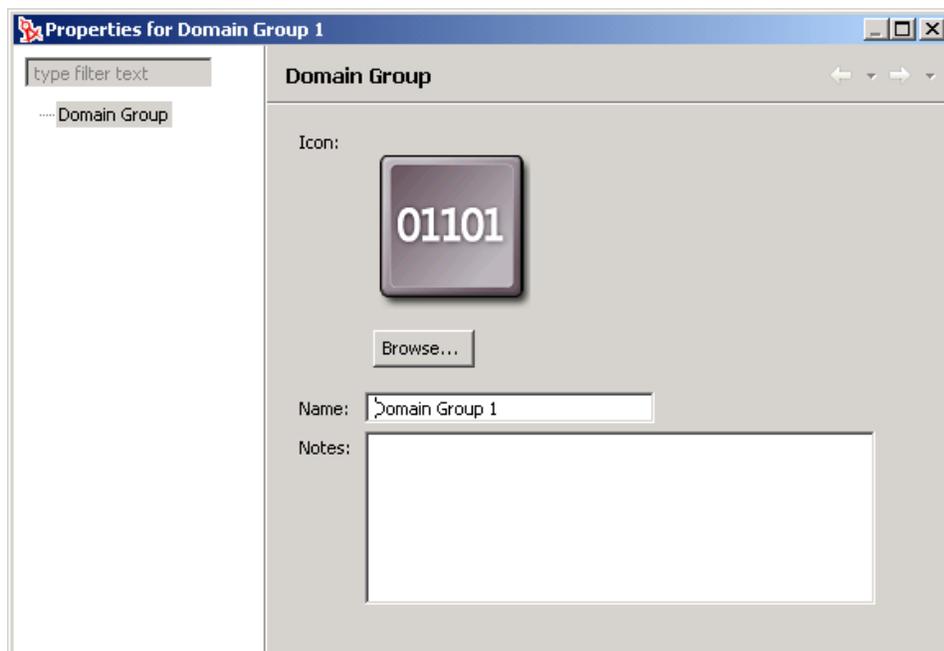
モデラからすべてのコンテンツを削除するには、[Model (モデル)] をクリックしてから、[Clear All Items (すべての項目のクリア)] を選択します。

ドメイングループからすべてのコンテンツを削除するには、右クリックしてから [Clear Domain Contents (ドメインコンテンツのクリア)] を選択します。

モデラスペースをクリアする前に、Designer によってプロンプトが表示されます。

5.6.10 ドメイングループのアイコンの変更

1 モデラでドメイングループ項目を右クリックし、[プロパティ] を選択します。



2 画像を参照して選択します (たとえば、finance.png)。

ドメイングループのコンポーネントのアイコンは、モデラのプラグインディレクトリの Group サブディレクトリにあります。デフォルトでは、Group ディレクトリが開きます。

Designer では、.GIF、.JPEG、.PNG、および Windows .BMP の各形式がサポートされています。Group ディレクトリに自作のアイコンを追加できます。

3 [開く] をクリックし、[OK] をクリックします。

ドメイングループのタイトルバーに、画像が 16x16 の大きさに縮小された状態で表示されます。

ドメイングループ項目を追加すると、Designer は新しいドメイングループのアイコンを、Group ディレクトリからランダムに割り当てます。

キーボード操作

表 5-3 ドメイングループのキーボード操作

キー操作	説明
Alt+ 下矢印	ドメイングループ内に移動
Alt+ 上矢印	ドメイングループ外に移動
Delete	選択された項目を削除

5.7 アプリケーションの接続

- ◆ 84 ページのセクション 5.7.1 「自動接続」
- ◆ 84 ページのセクション 5.7.2 「接続ターゲットの強調表示」
- ◆ 85 ページのセクション 5.7.3 「オブジェクトの自動作成」
- ◆ 85 ページのセクション 5.7.4 「自動再描画」
- ◆ 85 ページのセクション 5.7.5 「手動接続」
- ◆ 86 ページのセクション 5.7.6 「eDir-to-eDir 接続」
- ◆ 87 ページのセクション 5.7.7 「複数のドライバ接続」
- ◆ 88 ページのセクション 5.7.8 「接続の直線化」
- ◆ 89 ページのセクション 5.7.9 「再接続」
- ◆ 89 ページのセクション 5.7.10 「ドライバアイコン」
- ◆ 90 ページのセクション 5.7.11 「選択されたドライバ」
- ◆ 90 ページのセクション 5.7.12 「インポート済みオブジェクトの自動レイアウト」
- ◆ 90 ページのセクション 5.7.13 「ショートカットキー」

5.7.1 自動接続

モデラスペース内にアプリケーションをドラッグするときに、モデラにドライバセットがある場合は、Designer によってドライバセットオブジェクトとアプリケーションの間に接続ラインが自動的に引かれます。

パレットの接続機能を使用して、アイデンティティボールドにアプリケーションを接続する場合は、アイデンティティボールドでドライバラインを開始したり終了したりできます。このラインにより、アイデンティティボールド内のドライバセットに自動接続されます。

アイデンティティボールドに複数のドライバセットがある場合は、接続機能は、ドライバラインを最初のドライバセットに接続します。この機能は、複数のドライバ接続の場合でも動作します。

複数のドライバのドライバラインは曲げることができます。ラインが重ならないように角度を付けて配置できます。また、複数のドライバ接続を接続しなおすこともできます。

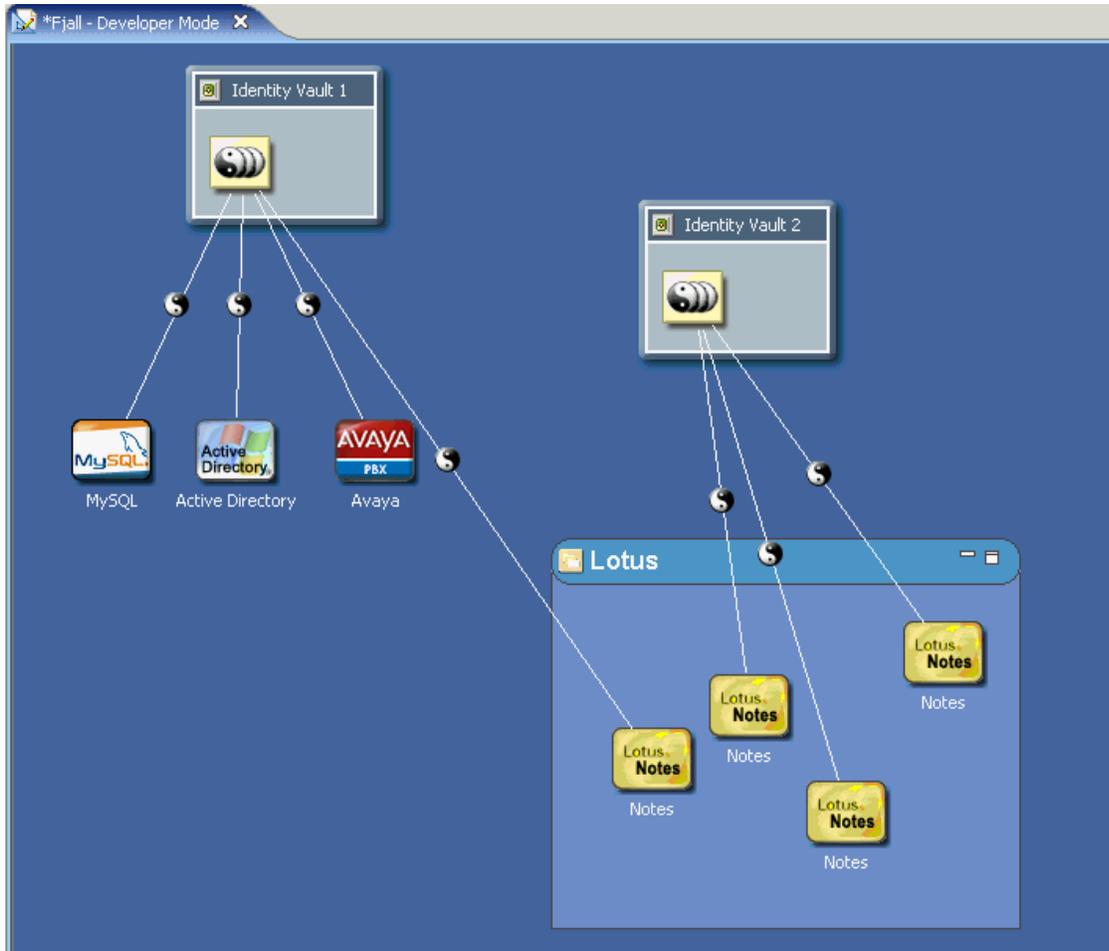
アイデンティティボールドの1つのドメイングループ内に複数のドライバ接続がある場合、そのドメイングループを最小化すると、複数のドライバ接続のすべてが1つのラインで示されます。

5.7.2 接続ターゲットの強調表示

モデラスペース内でアプリケーションをドラッグする場合、直近のアイデンティティボールドおよびそのアイデンティティボールド内の直近のドライバセットが強調表示されます。

す。この強調表示は、アプリケーションをドロップするときにアプリケーションが接続される項目を示します。

図 5-27 接続されたオブジェクト



5.7.3 オブジェクトの自動作成

アプリケーションをモデラスペースにドロップしたときに、このスペースにアイデンティティボールドがない場合は、Designer によってアイデンティティボールドが自動的に作成されます。

5.7.4 自動再描画

項目を移動すると、ラインも自動的に再描画されます。

5.7.5 手動接続

ドライバセットにアプリケーションを手動で接続するには：

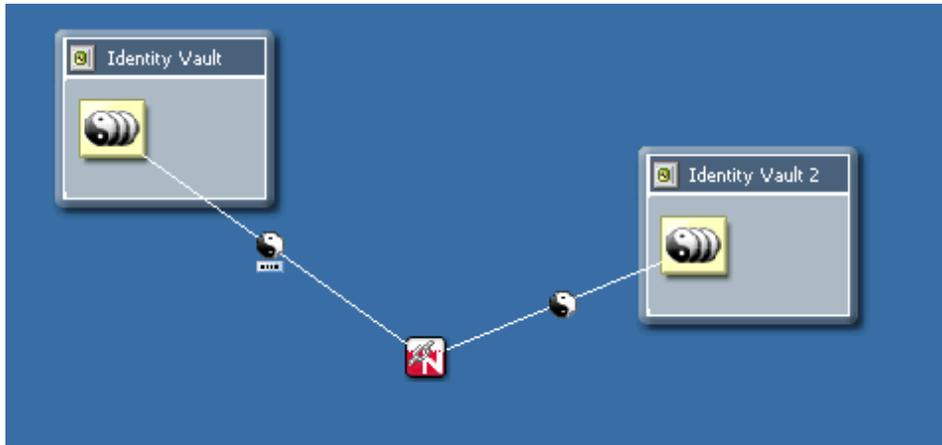
- 1 パレットで、[Connection (接続)] をクリックします。
- 2 アプリケーションとドライバセットの間にラインを引きます。

アプリケーションを再接続するには、ドライバラインを選択してから、そのラインの一方を他のドライバセットまたはアプリケーションにドラッグします。

ドラッグすることで、直近の接続可能ポイントにラインが引き寄せられます。この機能により、接続可能な項目および項目の接続先がわかります。接続できない項目を接続しようとする、カーソルにそのことが表示されるか、または項目をドロップしても何も起こりません。

5.7.6 eDir-to-eDir 接続

図 5-28 eDir-to-eDir 接続



eDir-to-eDir 接続は、特別なタイプの接続です。Identity Manager 環境では頻繁に使用されます。この接続は、2つの eDirectory ドライバを設定して、互いに直接通信させるようにする方法です。(他のタイプのドライバと直接通信できるドライバはありません) このタイプの接続は、ローカルのディレクトリツリーをメタディレクトリのアイデンティティボールドと同期させる場合に使用されるのが一般的です。

eDir-to-eDir 接続を作成するには、次のいずれかを実行します。

- ◆ 2つのアイデンティティボールド間でラインをドラッグする
- ◆ 2つのドライバセット間でラインをドラッグする

2つの eDirectory アプリケーション間をラインで接続すると、そのラインは自動的に eDir-to-eDir 接続に変わります。284 ページのセクション 13.3.6 「eDir-to-eDir ドライバ」の図を参照してください。

eDir-to-eDir 接続を解除するには、eDir 項目を右クリックしてから [Disconnect eDir-to-eDir (eDir-to-eDir 接続の解除)] を選択します。Designer により、2つの eDirectory アプリケーションが新たに作成され、各ドライバはそれぞれのアプリケーションにリダイレクトされます。新しいドライバは作成されません。データも失われません。Designer は同じドライバを維持します。

eDir-to-eDir 接続の一方を削除すると、Designer は、残った他方を eDirectory アプリケーションに対する通常のドライバ接続に変換します。

5.7.7 複数のドライバ接続

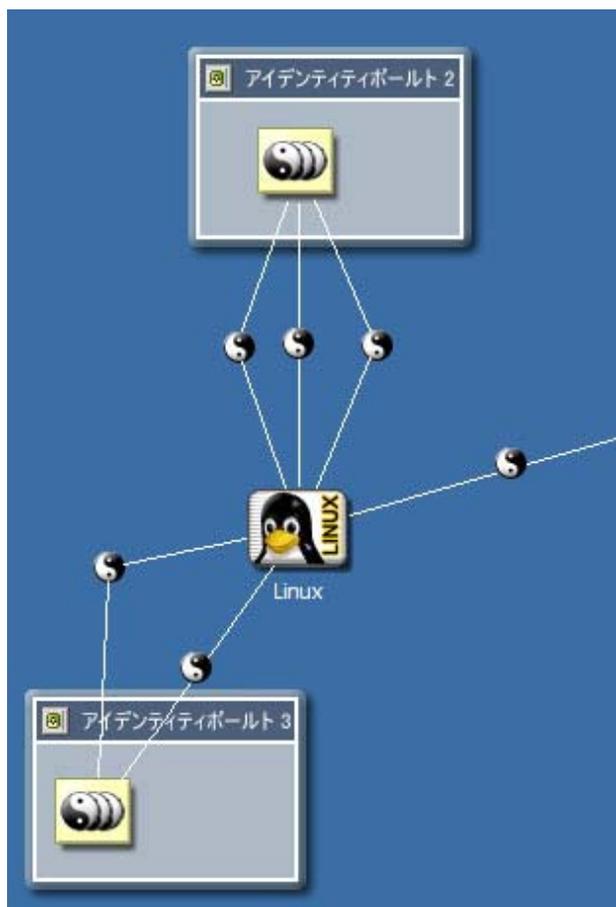
1つのドライバセットから複数のドライバを1つのアプリケーションに接続するには：

- 1 パレットで、[Connection (接続)] を選択します。
- 2 ドライバセットとアプリケーションを繰り返し接続します。

接続するたびに、新しいラインが追加されます。すべてのラインは曲げられるため、ラインが重なることはありません。モデルを見やすくするには、アプリケーションをデフォルトの位置から少し移動する必要があるかもしれません。

複数のドライバを1つのアプリケーションに接続することもできます。この場合、事実上、アプリケーションをハブのように動作させることになります。各ドライバは、必要に応じて、同じまたは別のアプリケーションまたはシステムに接続して認証を受けます。各ドライバは、アプリケーションまたはシステムの同じパートまたは別のパート(データベース内の別のテーブルなど)にアクセスできます。モデラでは、必要に応じてレイアウトを作図できます。

図 5-29 複数のドライバ接続



5.7.8 接続の直線化

接続ラインを直線にするには：

- 1 モデラで、1つ以上の項目を右クリックします。



- 2 [Straighten Connection (接続の直線化)] を選択します。

選択した項目によって、直線化の対象となるものが異なります。

表 5-4 接続の直線化

選択された項目	直線化の対象となるもの
ドライバ	ドライバのライン
アプリケーション	接続先ドライバへのライン
アイデンティティポールド	アイデンティティポールド内のドライバセットから引かれているすべてのライン
ドメイングループ	ドメイングループ内のすべて
プロジェクト (モデラの背景をクリックすること で選択)	プロジェクト内のすべて

ラインは、上下左右のずれが 20 ピクセル未満である場合にのみ直線化されます。この操作の目的は、ほとんど直線であるラインを微調整することで、完全な直線にすることです。

この微調整によって、細心の注意を払って項目を完全な位置にドラッグして、ピクセルを微調整する必要がなくなります。ラインがほとんど直線でない場合は、そのままになります。実際に、[Straighten Connection (接続の直線化)] 操作は、選択された項目が直線化の対象とみなされない場合は無効になります。選択された項目のうちいくつかは直線化の対

象であっても、他が対象でない場合は、操作は有効ですが、対象のラインだけが直線化されます。

5.7.9 再接続

コンポーネントを再接続するには、次のいずれかを実行します。

- ◆ ライン(ドライバ)の端をアプリケーションから他のアプリケーションにドラッグします。
- ◆ ライン(ドライバ)の端をドライバセットから他のドライバセットにドラッグします。

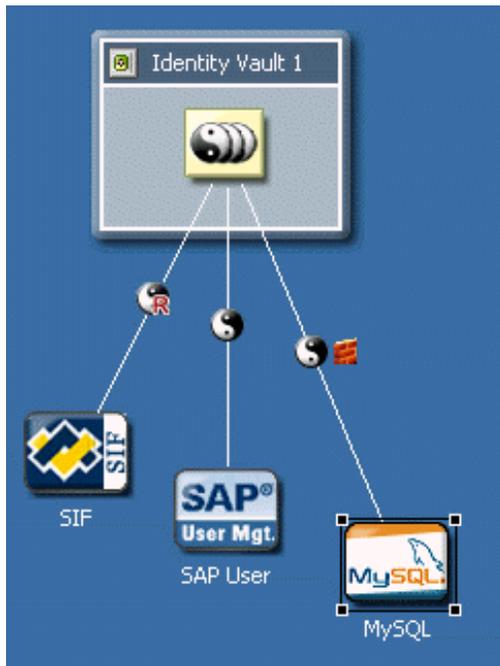
5.7.10 ドライバアイコン

表 5-5 ドライバアイコン

アイコン	説明
	ドライバ。ドライバセットオブジェクトとアプリケーションとの間にあるライン全体が、ドライバを表しています。
	リモートドライバ。
	ファイアウォール。ドライバがファイアウォールを介して通信していることを示しています。

次の図は、これらのアイコンを示しています。

図 5-30 ドライバアイコン



ドライバアイコンの表示を有効または無効にするには：

- 1 ドライバラインを右クリックします。
- 2 有効または無効にするオプションを選択します ([Mark as Firewall (ファイアウォールとしてマーク)] など)。

5.7.11 選択されたドライバ

マウスをドライバ上に移動すると、ラインが太くなり、はっきりと表示されます。このラインをクリックして、操作することができます。

5.7.12 インポート済みオブジェクトの自動レイアウト

ディレクトリからオブジェクトをインポートすると、これらのオブジェクトは自動的に配置され、ラインで接続され、オブジェクトに一致するアイコンおよび直近の関連付けを割り当てられます。

たとえば、ドライバセットオブジェクトをインポートすると、**Designer** は、すべてのドライバをインポートして、それらをラインで接続します。また、各ドライバは1つのアプリケーションアイコンを指しています。アプリケーションアイコンには、次のものがあります。

- ◆ 実際のアプリケーションのアイコン (Avaya または PeopleSoft など)
- ◆ ドライバに格納されている画像
四角形のアプリケーションアイコンに埋め込まれた画像です。
- ◆ 汎用アプリケーションのアイコン
ドライバ上に画像が格納されていない場合、**Designer** は次のアプリケーションのいずれかのアイコンを使用します。
 - ◆ 汎用
 - ◆ JDBC
 - ◆ LDAP
 - ◆ 区切りテキスト

自動レイアウトのメカニズムでは、選択済みのレイアウトトポロジを使用します。デフォルト値は「Fan Out - Bottom (扇形 - 下部)」です。この設定は、[Preferences (初期設定)] でカスタマイズできます。[417 ページのセクション 18.3.6 「モデラ」](#) を参照してください。

5.7.13 ショートカットキー

表 5-6 接続のキーボード操作

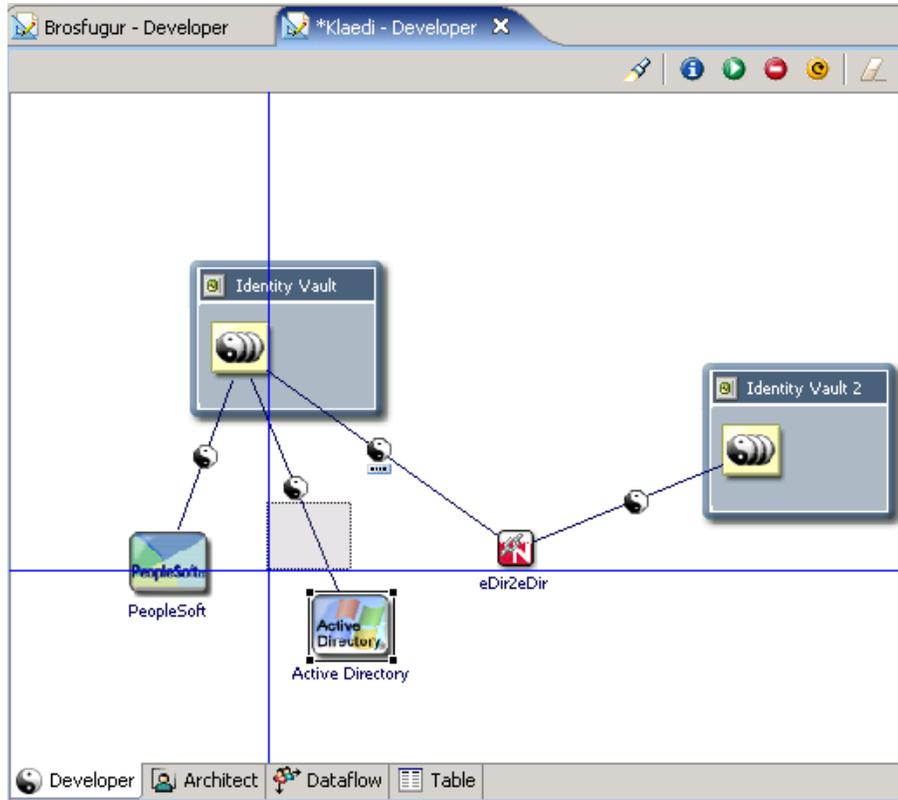
キー操作	説明
/	項目の次の接続に移動
\	項目の前の接続に移動

また、整列と位置合わせ(左、中央または右)は、項目ごとの設定値としてプロジェクトに保存されるため、これ以降も維持されます。

5.8.1 整列のヒント

項目をドラッグして隣接する項目と水平方向または垂直方向に整列するときに、水平方向および垂直方向の「ヒント」となるラインを自動表示できます。

図 5-31 整列のヒント



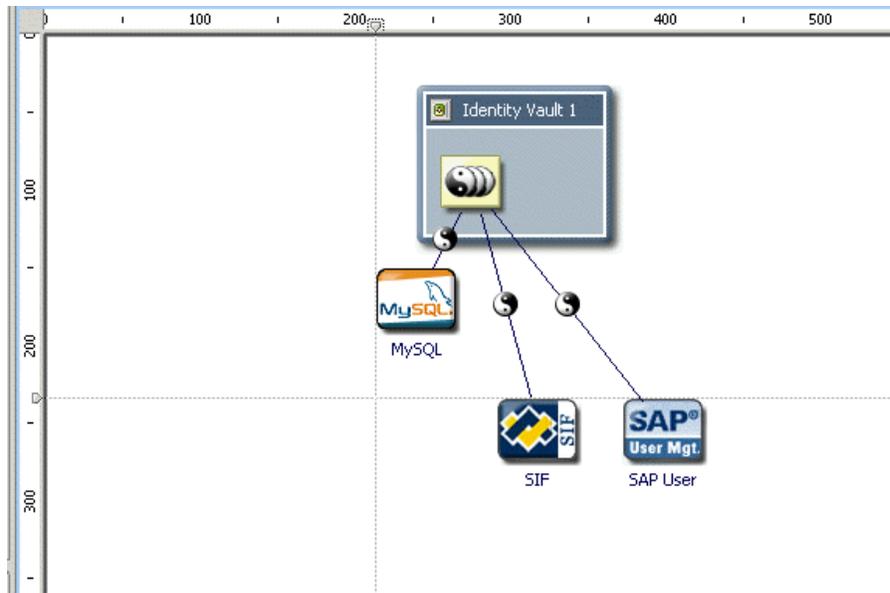
整列のヒント機能は、デフォルトではオフになっています。この機能をオンにするには、[View (表示)] > [Alignment Hints (整列のヒント)] の順にクリックします。

項目をドラッグして隣接する項目と水平方向または垂直方向に整列しようとする時、水平方向および垂直方向の「ヒント」となるラインが表示されます。

5.8.2 ルーラの使用

水平方向および垂直方向のルーラをオンにするには：

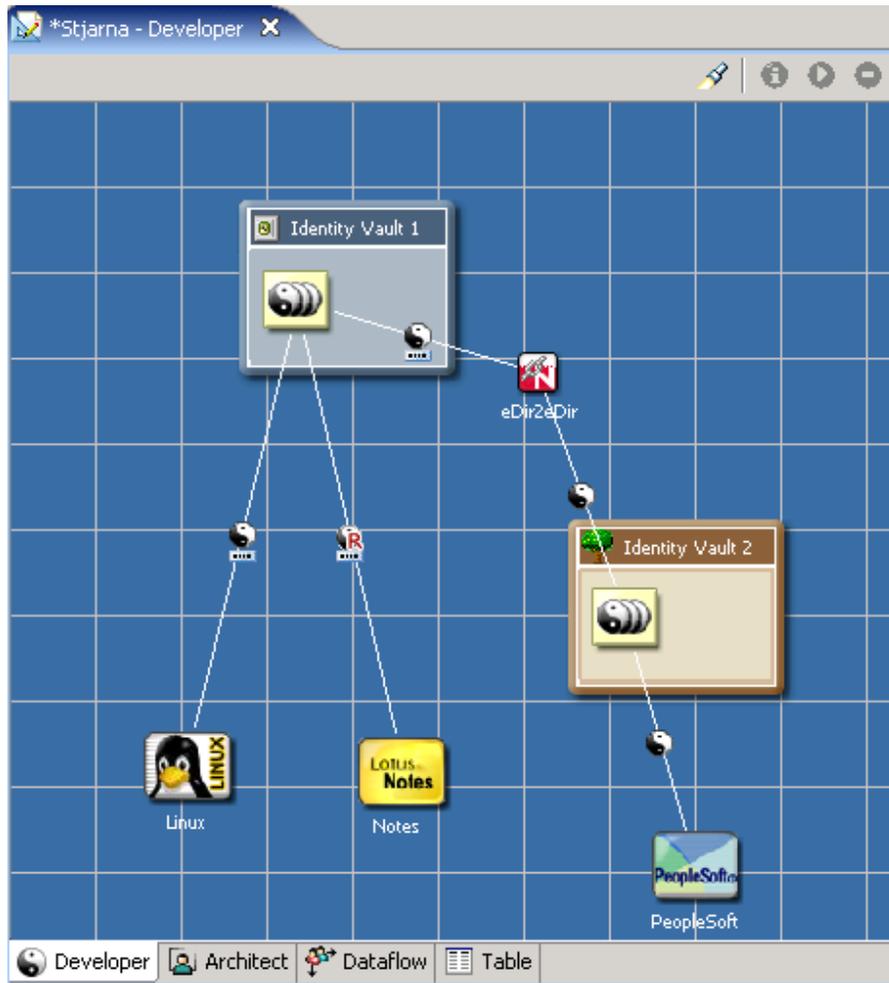
- 1 モデラスペースをクリックしてアクティブにします。
- 2 [View (表示)] > [Rulers (ルーラ)] の順にクリックします。



ガイド(ライン)を作成するには、いずれかのルーラをクリックします。
項目をガイドに固定するには、モデル内の項目をラインにドラッグします。
固定されたすべての項目を同時に移動するには、ラインをドラッグします。

5.8.3 グリッドの使用

図 5-32 モデラのグリッド



グリッドがオンの場合、グリッドのスナップ機能もオンになります。

グリッドのラインをオンまたはオフにするには：

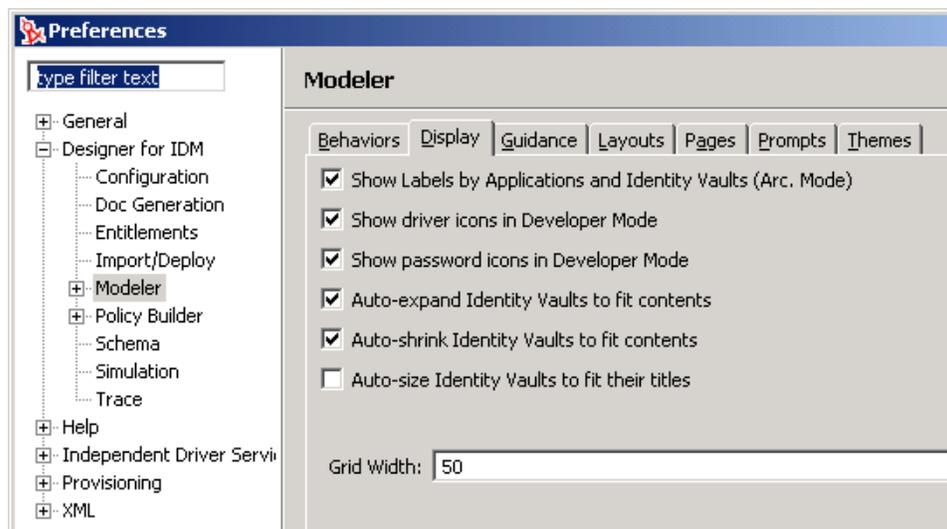
- 1 モデラをクリックし、モデラがアクティブビューの状態にします。
- 2 [View (表示)> [Grid (グリッド)] の順にクリックします。

オブジェクトをグリッドに合わせないようにするには、Alt キーを押し続けることでグリッドのスナップを一時的にオフにします。(Linux では、この機能はサポートされていません)

上下または左右で等間隔に揃えるには、Shirt キーを押しながら項目をドラッグします。

グリッドサイズを変更するには：

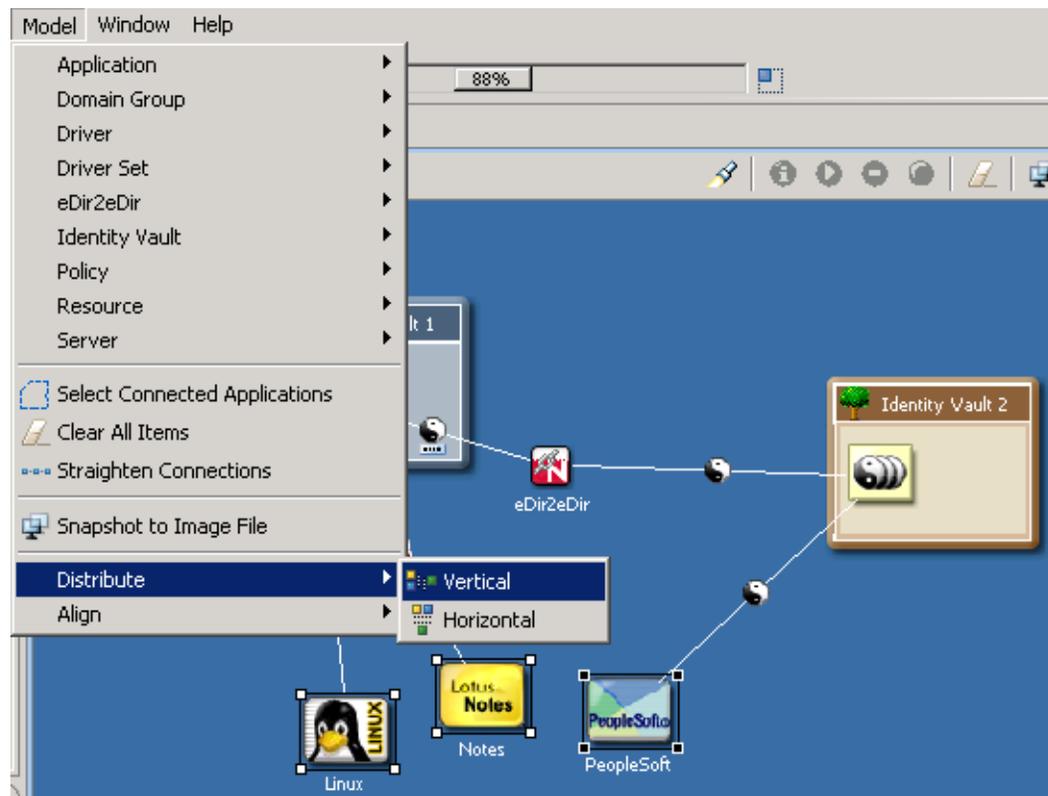
- 1 [Window (ウィンドウ)] > [Preferences (初期設定)] > [Designer for IDM (IDM の Designer)] > [Modeler (モデラ)] > [Display (表示)] の順にクリックします。



- 2 [Grid Width (グリッド幅)] フィールドに値を入力します。

5.8.4 アプリケーションの配置

図 5-33 アプリケーションの配置



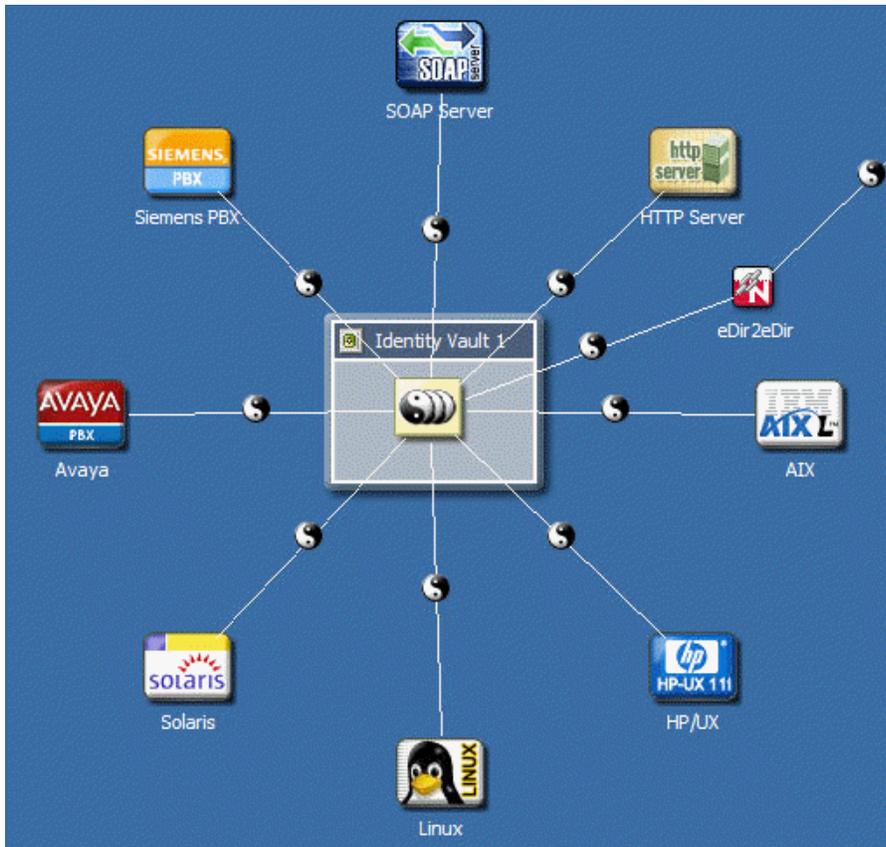
水平方向または垂直方向にアプリケーションを等間隔に配置するには：

- 1 3 つ以上の項目を選択します。
- 2 [Model (モデル)] > [Distribute (配置)] の順に選択します。
- 3 配置方法を選択します ([Vertical (垂直)] など)。

5.8.5 自動レイアウト

Designer には、数多くのレイアウトトポロジが事前定義されています。円形、半円形、星形、ボックスおよびさまざまな扇形のレイアウトです。

図 5-34 円形のレイアウト



これらのレイアウトは、ドライバセットごとに設定されます。そのため、各ドライバセットには固有のレイアウトを設定できます。

レイアウトを選択するには：

- 1 ドライバセットを右クリックし、[Arrange Applications (アプリケーションの配置)] を選択します。
- 2 配置方法を選択します ([Fan Out—Left (扇形—左)] など)。
モデルに無効なレイアウトがある場合、そのレイアウトオプションは淡色表示になります。

レイアウトを設定すると、接続するアプリケーションはレイアウトに従って自動配置されます。特定の接続済みオブジェクト (たとえば、接続されているが異なるドメイングループ内にある複数のドライバ接続、eDir-to-eDir 接続、およびアプリケーション) は無視されます。これらはレイアウトには含まれないため、レイアウト操作には影響ありません。

モデラのコンテキストのメニューにある [Arrange Applications (アプリケーションの配置)] サブメニューのオプションにより、レイアウトの配置を拡大したり縮小したりできま

す。このオプションでは、スライダウィジェットをドラッグすることで、レイアウトのスポークの長短を調節することができます。

インポートで使用するレイアウト

インポートする新しいドライバセットで使用するレイアウトを指定するには：

- 1 [Window (ウィンドウ)] > [Preferences (初期設定)] > [Designer for IDM (IDM の Designer)] の順に選択します。
- 2 [Modeler (モデラ)] > [Layouts (レイアウト)] の順にクリックします。
- 3 配置方法を選択し ([Half Circle (半円形)] など)、[OK] をクリックします。

5.9 複数のオブジェクトの編集

複数のオブジェクトを同時に開いて編集することができます。これらのオブジェクトは、同じタイプ (ポリシーなど) である必要があります。

オブジェクトを編集できるかどうかを確認するには、そのオブジェクトを右クリックします。メニュー項目に [Edit (編集)] が表示される場合、そのオブジェクトは編集できます。

- 1 [Outline (アウトライン)] ビューで、編集するオブジェクトを含むプロジェクトを展開します。
- 2 オブジェクトを選択します。
- 3 右クリックし、[編集] を選択します。
- 4 オブジェクトを編集します。

エディタ間でコピーして貼り付けることができます。データは同じタイプである必要があります。

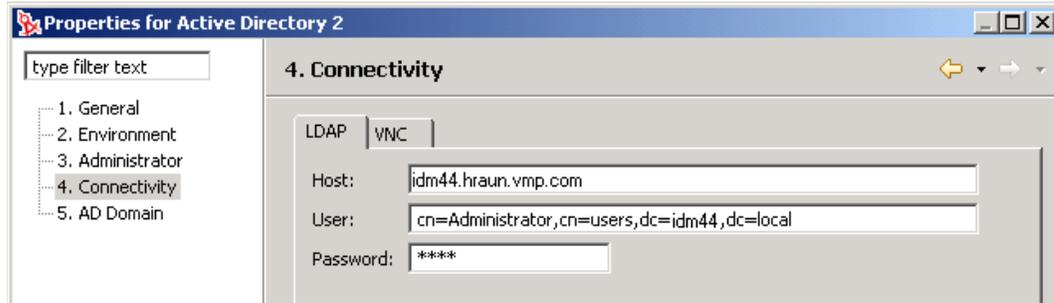
5.10 AD ドメインコントローラのモデリング

- ◆ 99 ページのセクション 5.10.1 「接続の設定」
- ◆ 99 ページのセクション 5.10.2 「コントローラの検出」
- ◆ 100 ページのセクション 5.10.3 「ドメインコントローラについての情報」

5.10.1 接続の設定

Active Directory システムに対して LDAP 接続を設定することで、ドメインコントローラを検出できるようにします。

- 1 AD アプリケーションを右クリックし、[Properties (プロパティ)] > [Connectivity (接続)] の順に選択します。

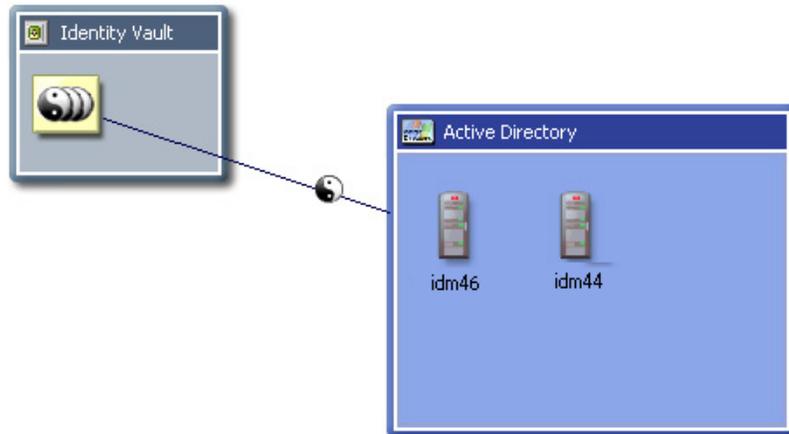


- 2 LDAP 認証情報をすべて入力します。

[Host (ホスト)] フィールドから [User (ユーザ)] フィールドにタブで移動すると、Designer はユーザのフルコンテキストを自動作成します。このコンテキストは編集できます。

5.10.2 コントローラの検出

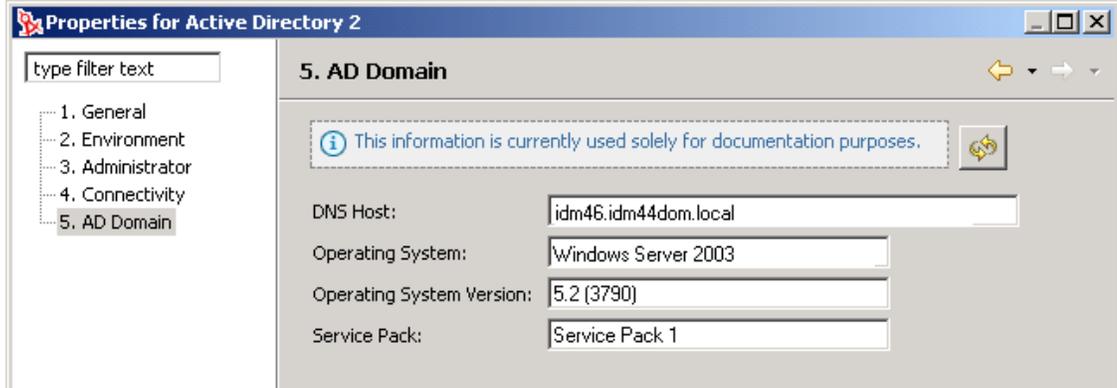
- 1 Active Directory アプリケーションを右クリックします。
- 2 [Discover Domain Controllers (ドメインコントローラの検出)] を選択します。



Designer がコントローラを検出すると、それらのコントローラを配置し、Active Directory アプリケーションをコンテナとして展開します。

5.10.3 ドメインコントローラについての情報

各コントローラについての情報は、モデラ内にロードされます。この情報を表示するには、ドメインコントローラオブジェクトを編集して、[AD Domain (AD ドメイン)] ページを選択します。



LDAP 接続情報が入力されている場合は、[Refresh (更新)] ボタンをクリックして、システムから情報を読み込むことができます。

5.11 モデルの保存

デザインを保存するには、次のいずれかを実行します。

- ◆ メインメニューから、[File (ファイル)] > [Save (上書き保存)] (または [Save All (すべて保存)]) の順に選択します。
- ◆ メインメニューから、[File (ファイル)] > [Close (閉じる)] > [Yes (はい)] の順に選択します。
- ◆ モデラのタブで、[X] をクリックしてから、[はい] を選択します。

ユーザアプリケーションのコンポーネントの設計

6

Designer を使用したユーザアプリケーションのコンポーネントの作成方法については、『Identity Manager User Application: Design Guide (<http://www.novell.com/documentation/idm/index.html?page=/documentation/idm/dgpro/data/bookinfo.html>)』を参照してください。このガイドでは、プロビジョニングビュー、ディレクトリ抽出化レイヤエディタ、およびプロビジョニング要求定義エディタの使用方法について説明しています。

プロジェクトの管理

Designer には、プロジェクトを管理するためのビューが数多く用意されています。これらのビューの多くでは、[Modeler (モデラ)] ビューに表示されるさまざまな要素を管理したり、作成中のプロジェクトを別の観点から確認したりできます。たとえば、[Project (プロジェクト)] ビューには、作成済みのすべてのプロジェクトが表示され、[Outline (アウトライン)] ビューには、作成済みのオブジェクトとそのオブジェクトに追加されたオブジェクトがすべて表示されます。[Navigator (ナビゲータ)] ビューには、プロジェクト用に作成されたすべてのファイルと、それぞれのファイルタイプと場所が表示されます。

[Modeler (モデラ)] ビューの詳細については、[49 ページの第 5 章「モデルの構築」](#)を参照してください。使用可能なツールおよびサービスの詳細については、[317 ページの第 15 章「システムツール」](#)を参照してください。ポリシーの詳細については、[205 ページの第 10 章「ポリシーの作成と管理」](#)を参照してください。

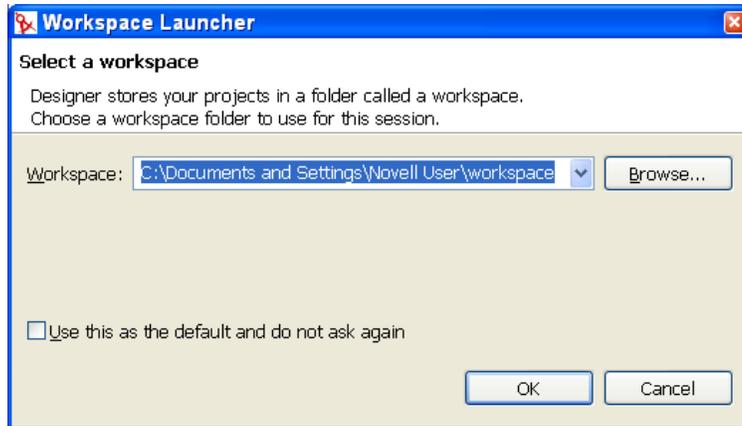
- ◆ [103 ページのセクション 7.1 「ワークスペースの指定」](#)
- ◆ [107 ページのセクション 7.2 「パースpekティブ管理」](#)
- ◆ [109 ページのセクション 7.3 「ビューの管理」](#)
- ◆ [113 ページのセクション 7.4 「\[Project \(プロジェクト\)\] ビュー」](#)
- ◆ [121 ページのセクション 7.5 「\[Outline \(アウトライン\)\] ビュー」](#)
- ◆ [131 ページのセクション 7.6 「\[Navigator \(ナビゲータ\)\] ビュー」](#)
- ◆ [136 ページのセクション 7.7 「\[Policy Set \(ポリシーセット\)\] ビュー」](#)
- ◆ [136 ページのセクション 7.8 「\[Properties \(プロパティ\)\] ビュー」](#)
- ◆ [139 ページのセクション 7.9 「\[Search Results \(検索結果\)\] ビュー」](#)
- ◆ [140 ページのセクション 7.10 「\[Tasks \(タスク\)\] ビュー」](#)
- ◆ [141 ページのセクション 7.11 「\[Trace \(トレース\)\] ビューと \[Error Log \(エラーログ\)\] ビュー」](#)

7.1 ワークスペースの指定

ワークスペースとは、プロジェクトと設定が保存されるローカルハードドライブ上のディレクトリのことです。ワークスペースディレクトリは、Designer を起動するたびに指定します。ただし、[Use this as the default and do not ask again (このディレクトリをデフォルト

として使用し、次回はこのメッセージを表示しない] オプションを選択して、ワークスペースの起動ウィンドウをスキップする場合を除きます。

図 7-1 ワークスペースディレクトリの選択



の Windows* ワークステーションのデフォルトワークスペースディレクトリは、一般的には Documents and Settings\ユーザ名\workspace になります。

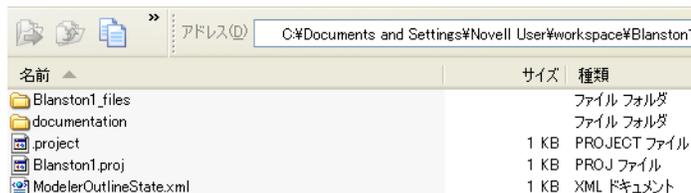
[File (ファイル)] > [Switch Workspace (ワークスペースの切り替え)] の順に選択すると、他のワークスペースに切り替えられます。Designer はただちに再起動して、新しいワークスペースをロードし、ワークスペース内に保存されているプロジェクトと設定をロードします。ワークスペースが存在しない場合は、Designer によって作成されます。

ワークスペースは複数持つことができます。

7.1.1 プロジェクトファイルの形式

すべてのプロジェクトはファイルシステム上のディレクトリに保存されます。Windows ワークステーションの場合、デフォルトでは C:\Documents and Settings\ユーザ名\workspace ディレクトリになります。ただし、プロジェクトを作成するときのディレクトリを指定できます。(49 ページのセクション 5.1 「プロジェクトの作成」を参照) データとグラフィカルなレイアウト情報はすべて、プロジェクト名に対応するディレクトリに保存されます。たとえば、次のファイルは \workspace\Blanston3 ディレクトリに保存されます。

図 7-2 ローカルのディレクトリ構造



プロジェクトのディレクトリ内にある主なファイルは .proj ファイルです。このファイルでは、XMI (XML メタデータ交換形式) と呼ばれる業界標準の XML 形式を使用しています。このファイルを直接編集する必要はありません。

XMI とは

XMI は、分散された異種環境における、モデリングツール間およびツールとメタデータリポジトリ間のメタデータ交換を容易にします。XMI には主要な 3 つの業界標準が統合されています。

- ◆ XML (拡張可能マークアップ言語、W3C 標準)
- ◆ UML (統一モデリング言語、OMG モデリング標準)
- ◆ MOF (Meta Object Facility、OMG モデリングおよびメタデータリポジトリの標準)

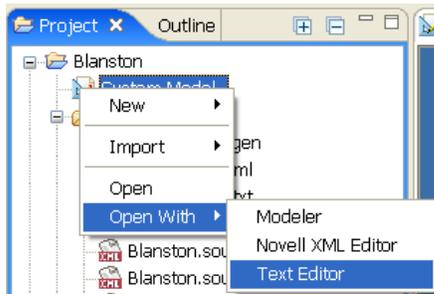
これら 3 つの標準を XMI に統合することで、OMG および W3C のメタデータとモデリング技術が組み込まれます。この統合により、分散システムの開発者はオブジェクトモデルや他のメタデータを共有することができます。XMI を MOF および UML と併用することで、OMG リポジトリアーキテクチャの核が形成され、オブジェクト指向のモデリングおよび設計ツールを相互に統合したり、MOF ベースの拡張可能なリポジトリフレームワークと統合したりできるようになります。

XMI の詳細については、[XML Metadata Interchange \(XMI\) \(http://www.oasis-open.org/cover/xmi.html\)](http://www.oasis-open.org/cover/xmi.html) を参照してください。

7.1.2 テキストエディタによる編集

テキストエディタにより、[Project (プロジェクト)] ビューにリスト表示されたプロジェクトや他の項目を編集できます。このエディタを使用するには：

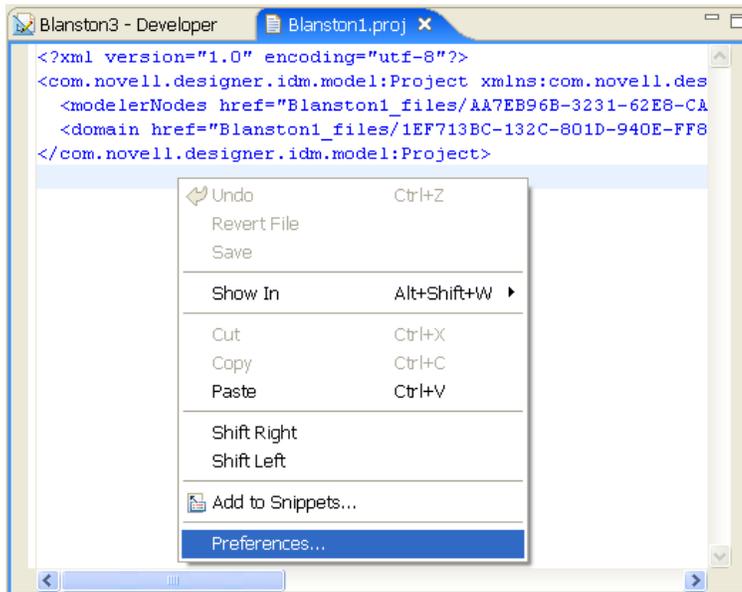
- 1 [Project (プロジェクト)] ビューでプロジェクトを展開します。
- 2 [System Model (システムモデル)] アイコンを右クリックし、[Open With (アプリケーションから開く)] > [Text Editor (テキストエディタ)] の順に選択します。



プロジェクトがすでに開いている場合は、これを閉じてからテキストエディタを選択します。

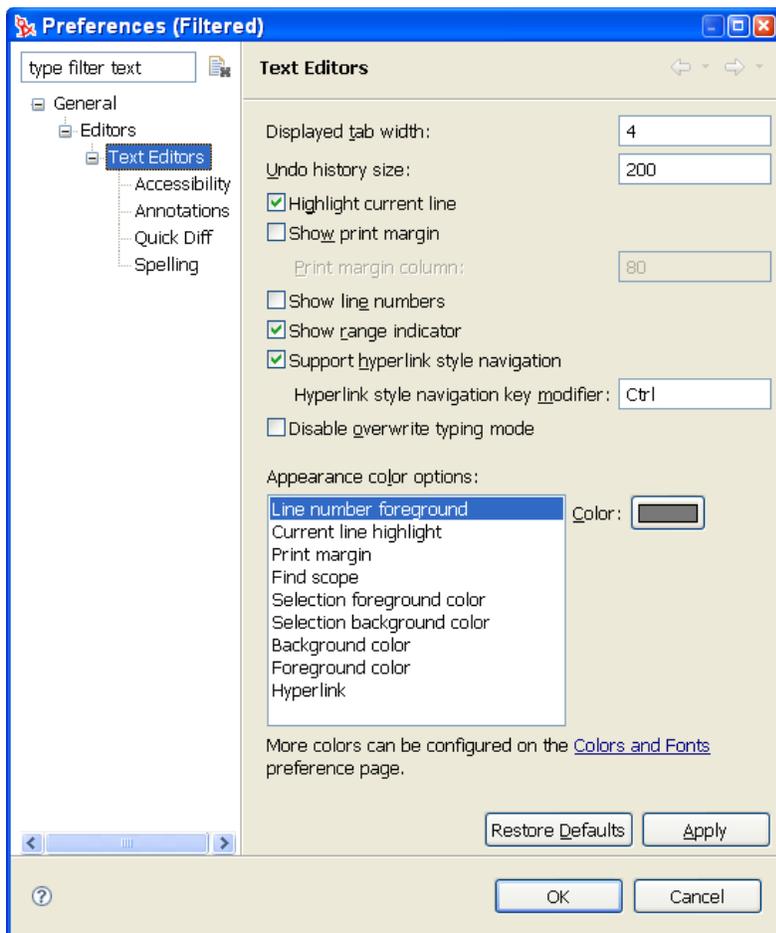
次の図に、テキストエディタを示します。エディタを右クリックすると、メニューが使用できます。

図 7-3 テキストエディタのメニュー



次の図に、テキストエディタの初期設定を示します。

図 7-4 初期設定：テキストエディタ



設定の詳細については、406 ページの「テキストエディタ」を参照してください。

7.2 パースペクティブ管理

パースペクティブとは、関連するビューとエディタのコレクションです。次のパースペクティブを使用できます。

- ◆ **Designer**

識別情報管理ソリューションの設計と展開に役立つ、ビュー（プロジェクト、アウトライン、プロパティ、タスク）およびエディタ（モデラまたはポリシーエディタ）が利用できます。

- ◆ **Resource (リソース)**

一般的なパースペクティブです。このパースペクティブは、Designer 以外のプロジェクト用に使用できます。

- ◆ **XML**

XML 開発用です。

- ◆ **Debug (デバッグ)**

XML 開発用です。

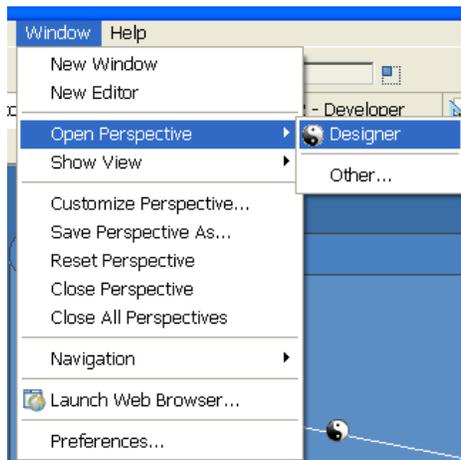
- ◆ 108 ページのセクション 7.2.1 「パースペクティブの開き方」
- ◆ 109 ページのセクション 7.2.2 「パースペクティブのリセット」
- ◆ 109 ページのセクション 7.2.3 「パースペクティブの閉じ方」

7.2.1 パースペクティブの開き方

Designer のパースペクティブは、このアプリケーションをはじめて起動すると開かれ、アクティブになります。パースペクティブを閉じて、再び開く場合は、メニューまたはパースペクティブバーを使用します。

メニューからパースペクティブを開く方法

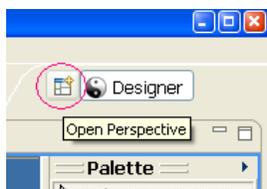
- 1 メインメニューから、[Window (ウィンドウ)] >Open Perspective (パースペクティブを開く) の順にクリックします。



- 2 [Designer] を選択します。
- 3 [OK] をクリックします。

パースペクティブバーからパースペクティブを開く方法

- 1 メインのパースペクティブバー (右側、ツールバーと同じ高さにあります) で、[Perspective Switcher (パースペクティブの切り替え)] アイコンをクリックします。



- 2 リストから、[Designer] を選択し、[OK] をクリックします。
[Designer] ラベルをダブルクリックしても同じ操作ができます。

7.2.2 パースペクティブのリセット

モデラワークスペースで項目を移動またはサイズ変更した後は、パースペクティブを元のレイアウトに戻した方がよい場合があります。ワークスペース内の項目をすばやくリセットするには：

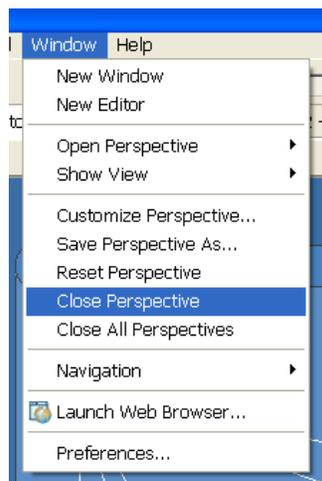
- 1 メインメニューから、[Window (ウィンドウ)] をクリックします。
- 2 [Reset Perspective (パースペクティブをリセット)] をクリックします。

7.2.3 パースペクティブの閉じ方

次のいずれかを実行します。

- ◆ メインメニューから、[Window (ウィンドウ)] > [Close Perspective (パースペクティブを閉じる)] (または [Close All Perspectives (すべてのパースペクティブを閉じる)]) の順に選択します。

図 7-5 パースペクティブを閉じるためのオプション



- ◆ パースペクティブバーで、パースペクティブを右クリックしてから [Close (閉じる)] をクリックします。

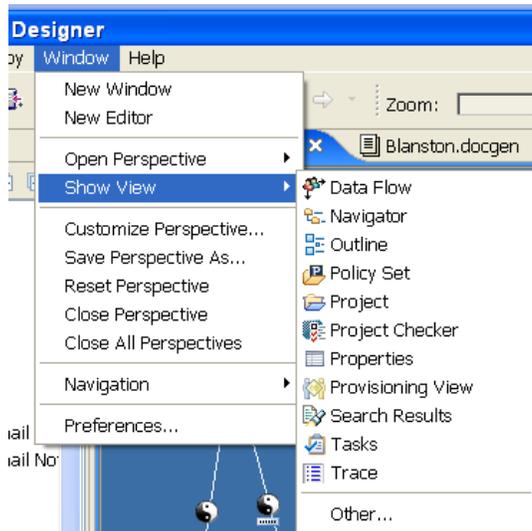
7.3 ビューの管理

ビューにより、プロジェクトを表示したり編集したりできます。

- ◆ 110 ページのセクション 7.3.1 「ビューの開き方」
- ◆ 110 ページのセクション 7.3.2 「ビューの移動」
- ◆ 111 ページのセクション 7.3.3 「ビューの最小化と最大化」
- ◆ 111 ページのセクション 7.3.4 「ビューの閉じ方」
- ◆ 112 ページのセクション 7.3.5 「ビューウィンドウの再オープン」
- ◆ 112 ページのセクション 7.3.6 「ファーストビューの作成」

7.3.1 ビューの開き方

図 7-6 開くビューの選択



ビューを開くには、[Windows (ウインドウ)] > [Show View (ビューの表示)] の順に選択します。

ビューの一覧を絞り込むには、ビューフィルタを使用します。

- 1 [Window (ウインドウ)] > [Show View (ビューの表示)] > [Other (その他)] の順に選択します。
- 2 編集ボックスで、表示するビューの名前 ([Trace (トレース)] など) を入力します。



これらのビューでは、開く、最大化、閉じるの操作のほか、配置を変更したり、またはファーストビューにしたりできます。

ビューをすばやく展開するには、ビューのタブをダブルクリックします。

7.3.2 ビューの移動

ビューを移動するには、そのビューのタブをクリックしてから、次の場所のいずれかにドラッグします。

- ◆ Designer の左、下、上または右

- ◆ 他のビューと重ねる
- ◆ Designer の外側、デスクトップ上に配置する

ビューが 2 つ以上開いている場合は、その順序を切り替えられます。

7.3.3 ビューの最小化と最大化

ビューを最小化するには、次のいずれかを実行します。

- ◆ ビューのタイトルバーで、[Minimize (最小化)] ボタン  をクリックします。
- ◆ Ctrl+M キーを押します。

ビューを元のサイズに戻すには、ビューのタイトルバーで [Restore (復元)] ボタンをクリックします。

ビューまたはエディタを最大化するには、次のいずれかを実行します。

- ◆ ビューのタブをダブルクリックします。
- ◆ [Maximize (最大化)] ボタン  をクリックします。
- ◆ Ctrl+M キーを押します。

展開されると、ビューまたはエディタがアプリケーションスペース全体に表示されます。この機能により、作業スペースを最大限に活用できます。

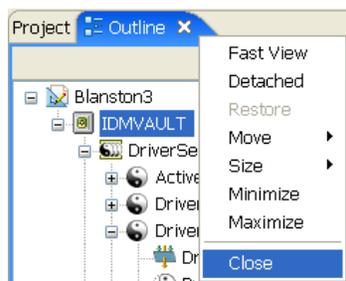
エディタまたはビューを元の大きさに戻すには、ビューのタブをダブルクリックします。

7.3.4 ビューの閉じ方

ビューまたはエディタを閉じるには、次のいずれかを実行します。

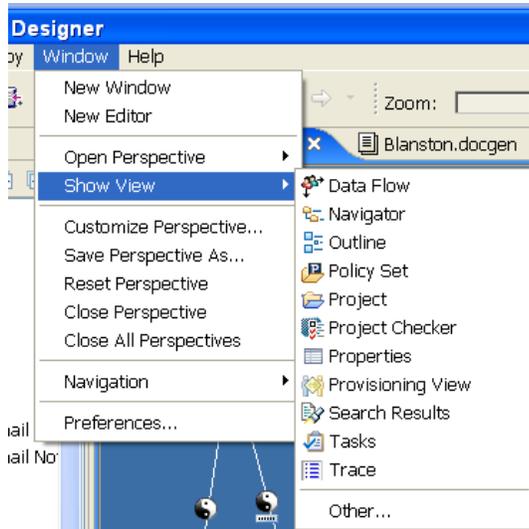
- ◆ タイトルバーで [X] をクリックします。
- ◆ タイトルバーを右クリックしてから、[Close (閉じる)] を選択します。

図 7-7 ビューを閉じるためのオプション



7.3.5 ビューウィンドウの再オープン

- 1 メインメニューから、[Window (ウィンドウ)] > [Show View (ビューの表示)] の順に選択します。



- 2 ビューのいずれか1つを選択します ([Navigator (ナビゲータ)] など)。

[Window (ウィンドウ)] > [Show View (ビューの表示)] > [Other (その他)] の順に選択してから、[Designer for Identity Manager (Identity Manager の Designer)] の下でビューを1つ選択します ([Projects (プロジェクト)] など)。

7.3.6 ファーストビューの作成

ファーストビューにより、任意のタイプのビューでデスクトップが乱雑にならないように、アクセスのしやすさは保ったまま、これらのビューを効率的に管理することができます。ビューをファーストビューに変換するには、次のいずれかを実行します。

- ◆ ビューを、メインのアプリケーションウィンドウの左下隅にドラッグします。

ビューが、モデラの左下でアイコンに変わります。このアクションは、[Modeler (モデラ)] ビューでは動作しません。



このアイコンをクリックすると、ビューが表示されます。再度クリックすると、ビューはアイコンの状態に戻ります。

- ◆ エディタのタブを右クリックし、[Fast View (ファーストビュー)] を選択します。

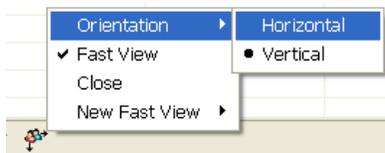
ファーストビューを標準のビューに戻すには：

- 1 [Fast View (ファーストビュー)] アイコンを右クリックします。
- 2 [Fast View (ファーストビュー)] を選択します。

次のオプションも設定できます：

- ◆ ファーストビューを水平または垂直に表示するかどうか ([Orientation (方向)] オプション)

図 7-8 ファーストビューのオプション

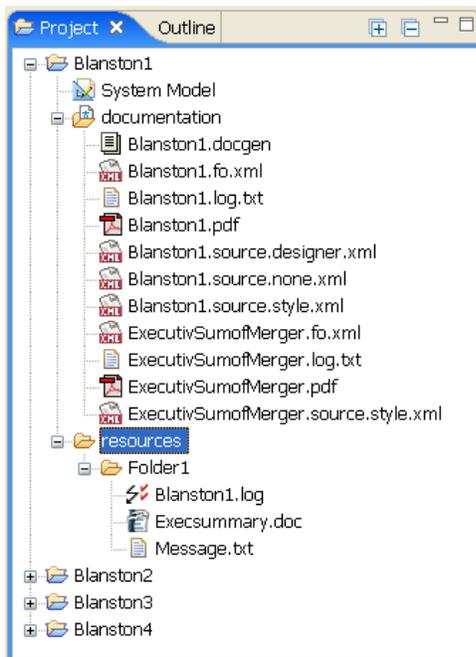


- ◆ ファーストビューを固定する場所

7.4 [Project (プロジェクト)] ビュー

Designer の [Project (プロジェクト)] ビューには、すべてのプロジェクトがリスト表示され、どのプロジェクトでも検索、開く、表示、移動、管理、閉じるまたは削除などの操作をすばやく行えます。

図 7-9 [Project (プロジェクト)] ビュー

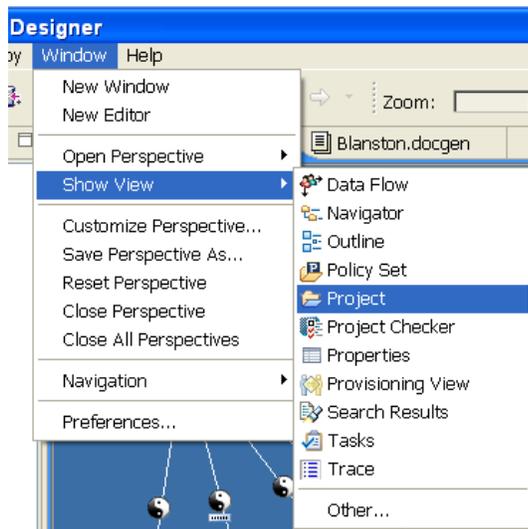


7.4.1 プロジェクトの表示と編集 : [Project (プロジェクト)] ビュー

[Project (プロジェクト)] ビューを開くには：

- 1 Designer の左上のビューで、[Project (プロジェクト)] タブをクリックします。

- 2 ビューが表示されていない場合は、メインメニューから [Window (ウインドウ)] > [Show View (ビューの表示)] の順にクリックしてから、[Project (プロジェクト)] をクリックします。



[Project (プロジェクト)] ビューから実行できるタスク

[Project (プロジェクト)] ビューからは、次の操作を実行できます。

表 7-1 [Project (プロジェクト)] ビューでの操作

操作	説明
作成	プロジェクトは、使いやすいウィザードを使用して作成できます。プロジェクトは、ファイルシステムまたはアイデンティティポータルからインポートすることもできます。フォルダを右クリックすることで、新しいフォルダや、そのフォルダ内で新しいファイルを作成できます。
インポート	プロジェクトは、アイデンティティポータル、iManager エクスポートファイル、またはファイルシステムからインポートできます。
開く	[System Model (システムモデル)] アイコンをダブルクリックすると、プロジェクトが [Modeler (モデラ)] ビュー内に開かれます。開こうとしている項目に対して複数のエディタが登録されている場合、どのエディタで開くかを選択できます。 モデラ内の [Project Name (プロジェクト名)] タブをダブルクリックすると、モデラが全画面表示になります。もう一度 [Project Name (プロジェクト名)] タブをダブルクリックすると、モデラはデフォルトのビューサイズに戻ります。[Project (プロジェクト)] タブのほか、すべてのタブでこの操作を行えます。
削除	プロジェクト (または複数のプロジェクト) を削除するには、プロジェクトを右クリックしてから、[Delete (削除)] を選択します。または、プロジェクトを選択してから、Delete キーを押します。
コピーと貼り付け	[Copy (コピー)] と [Paste (貼り付け)] により、プロジェクト間でファイルをコピーできます。> ドキュメントフォルダのファイルを他のドキュメントフォルダにドラッグアンドドロップすることで、コピーと貼り付けをメニューから選んだときと同じ操作ができます。

操作	説明
ドラッグアンドドロップ	ファイルは、プロジェクトから他のプロジェクトに、および documentation または resource フォルダから他のフォルダに、ドラッグアンドドロップできます。
プロパティの表示	プロジェクトのプロパティは、プロジェクトを右クリックして、[Properties (プロパティ)] を選択することで表示できます。便宜上、[Properties (プロパティ)] ビューは [Project (プロジェクト)] ビューのすぐ下にあり、プロパティの内容は編集できます。
保存	<p>プロジェクトをはじめて作成したときは、すでにファイルシステム内に作成されているため、明示的に保存する必要はありません。プロジェクトを変更し(エディタを使用した変更)、そのプロジェクトを終了しようとする、作業内容を保存できるように [Save Resources (リソースの保存)] ダイアログボックスが表示されます。</p> <p>エディタでプロジェクトを開いた後に手動で保存するには、次のいずれかを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ メインメニューで、[File (ファイル)] > [Save (保存)] (または [Save All (すべて保存)]) の順にクリックします。 ◆ メインメニューで、[File (ファイル)] > [Close (閉じる)] (または [Close All (すべて閉じる)]) の順にクリックするか、モデラのタブで [X] をクリックします。エディタで何らかの変更を加えた場合、保存するためのプロンプトが表示されます。 ◆ [保存] アイコンをクリックします。 <p>ファイル形式の詳細については、105 ページのセクション「XMI とは」を参照してください。</p>

[**Project Group (プロジェクトグループ)**] ビュー内のタブを右クリックすると、次の機能を実行できます。

図 7-10 プロジェクト機能のオプション

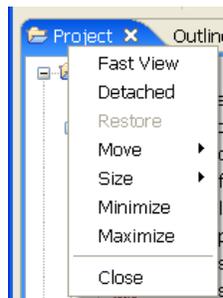


表 7-2 右クリックの操作

操作	説明
Fast View (ファーストビュー)	[Project (プロジェクト)] ビューを、 Designer 画面の左下隅に配置します。

操作	説明
Detached (切り離し)	<p>[Project (プロジェクト)] ペインを右上から切り離します。このペインは Designer ウィンドウ内の別の場所に移動できます。ペインのサイズは、配置先の領域に合わせて調整されます。この Eclipse の機能により、Designer ユーティリティの外観を自分用にデザインできます。</p> <p>左上にペインを再び固定するには、切り離したペインを [Outline (アウトライン)] ペインと [Navigator (ナビゲータ)] ペインのすぐ下にドラッグし、色の付いた [Project (プロジェクト)] バーの下に配置します。[Outline (アウトライン)] タブと [Navigator (ナビゲータ)] タブの隣にフォルダアイコンが現れたら、マウスボタンを放します。</p>
Restore (復元)	縮小表示されたペインを標準のサイズに戻します。
Move (移動)	[Move View (ビューの移動)] では、選択されたタブを Designer ウィンドウ内の他の場所に移動できます。[Move Tab Group (タブグループの移動)] では、グループに接続されたすべてのタブを Designer ウィンドウ内の別の場所に移動できます。
Size (サイズ)	タブグループのペインのサイズを調整できます。
Minimize (最小化)	選択したタブのペインを縮小表示できます。各タブの右隅にある [Minimize (最小化)] アイコンおよび [Maximize (最大化)] アイコンをクリックしても同じ操作ができます。
Maximize (最大化)	縮小表示されたペインを標準のサイズに戻します。各タブの右隅にある [Minimize (最小化)] アイコンおよび [Maximize (最大化)] アイコンをクリックしても同じ操作ができます。
Close (閉じる)	タブを閉じます。閉じられたタブを再び開くには、[Window (ウィンドウ)] > [Show View (ビューの表示)] > [Project (プロジェクト)] の順に選択します (または開きたいタブを選択)。

[Project (プロジェクト)] タブの右にあるアイコンは、開いているタブに基づいて変化します。[Project (プロジェクト)] タブを選択すると、次のアイコンが表示されます。

図 7-11 [Project (プロジェクト)] タブのアイコン



表 7-3 [Project (プロジェクト)] タブのアイコン

名前	説明
Expand Selected Elements (選択した要素を展開) (+)	<p>選択した項目の中にあるすべてを表示します。たとえば、[Project (プロジェクト)] タブでこのアイコンを選択すると、すべてのプロジェクト内のすべての項目が表示されます。[Outline (アウトライン)] タブで、ドライバを選択してからこのアイコンをクリックすると、そのドライバに関連付けられたすべての項目が展開されます。</p>
	

名前

説明

Collapse Selected Elements (選択した要素を縮小表示 (-)) 選択したすべての項目を縮小表示します。たとえば、[Project (プロジェクト)] タブでこのアイコンを選択すると、すべての項目が縮小され、プロジェクトのタイトルだけが表示されます。[Outline (アウトライン)] タブで、ドライバを選択してからこのアイコンをクリックすると、そのドライバに関連付けられたすべての項目が縮小表示されます。



Minimize/Maximize (最小化 / 最大化) [Minimize (最小化)] により、選択したタブのビューを縮小表示できます。縮小表示されたペインを標準のサイズに戻すには、[Maximize (最大化)] を使用します。



[Project (プロジェクト)] ビューで表示されるもの

[Project (プロジェクト)] タブをクリックしたときに表示されるものは、何を開いているかによって異なります。次の図は [Project (プロジェクト)] タブが開かれているところで、プロジェクトで表示可能なほとんどの項目が表示されています。

図 7-12 [Project (プロジェクト)] ビューのアイコン

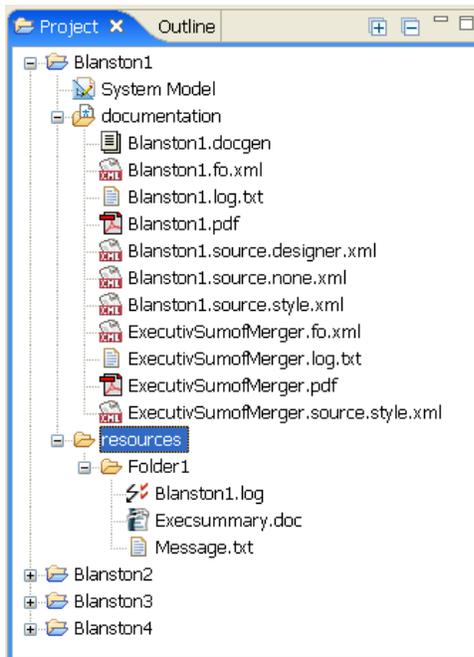
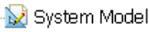


表 7-4 [Project (プロジェクト)] ビューのアイコン

アイコン名	説明
Project Name (プロジェクト名)	<p>作成済みのプロジェクトの名前。選択されたワークスペースディレクトリに保存されているプロジェクトの名前です。プロジェクト名をダブルクリックすると、そのプロジェクトのエントリが展開 / 縮小されます。</p>
	<p>プロジェクト名を右クリックすると、次の操作を実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ Identity Manager プロジェクトを新規に作成する。 ◆ Identity Manager プロジェクトを次からインポートする： <ul style="list-style-type: none"> ◆ アイデンティティボールド ◆ iManager エクスポートファイル ◆ ファイルシステム ◆ プロジェクトのコピーを作成する。 ◆ プロジェクトを他のワークスペースに移動する。 ◆ プロジェクトを更新する。 ◆ プロジェクトのプロパティウィンドウを表示する。 ◆ プロジェクトを削除する。
System Model (システムモデル)	<p>[System Model (システムモデル)] エントリをダブルクリックすると、プロジェクトが [Modeler (モデラ)] ビュー内に開かれます。必要に応じてプロジェクトを変更するため、ドライバセット、ドライバ、チャネル、またはポリシーを作成したり、これらをモデラにインポートすることができます。その後で、ドライバセット、ドライバ、チャネルまたはポリシーを、Identity Manager システム内に展開できます。</p>
	<p>[System Model (システムモデル)] を右クリックすると、次の操作ができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ Identity Manager プロジェクトを新規に作成する。 ◆ Identity Manager プロジェクトを次からインポートする： <ul style="list-style-type: none"> ◆ アイデンティティボールド ◆ iManager エクスポートファイル ◆ ファイルシステム ◆ モデラでプロジェクトを開く。 ◆ モデラ、テキストエディタ、または Novell® XML エディタでプロジェクトを開く。

アイコン名**説明**

Documentation (ドキュメント)



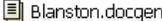
documentation フォルダ内に保存されたすべてのファイルを表示します。たとえば、Blanston1 の中には、XML ソースファイル (アイコン)、2 つの PDF ドキュメント (アイコン)、およびログファイルがあります。さらに、Blanston2 には、PDF、RTF、およびテキストファイルなどの、生成されるすべてのドキュメントのテンプレートに使用可能なドキュメントジェネレータのスタイル (* アイコンの付いた .docgen) が格納されています。

documentation フォルダを右クリックすると、次の操作を実行できます。

- ◆ Identity Manager プロジェクトを新規に作成する。
- ◆ 新しいファイルを作成する。
- ◆ ウィザードを開いて、ドキュメントのエクスポートテンプレートを作成する。ウィザードでは、スタイル (拡張子 .docgen の付いたテンプレート) を documentation フォルダ内に生成します。(詳細については、[343 ページの第 16 章「プロジェクトの文書化」](#)を参照してください)
- ◆ Identity Manager プロジェクトを次からインポートする：
 - ◆ アイデンティティポールド
 - ◆ iManager エクスポートファイル
 - ◆ ファイルシステム
- ◆ ファイルまたはフォルダをインポートする。
- ◆ documentation フォルダをコピーする。
- ◆ 項目を documentation フォルダに貼り付ける。
- ◆ フォルダのビューを更新する。

Documentation の下のエントリを右クリックすると、ファイルをテキストエディタまたはシステムエディタで開くことができます。

- ◆ Windows* コンピュータの場合、.txt ファイルは、デフォルトでは Notepad で開かれる。
- ◆ Windows コンピュータの場合、.pdf ファイルは、Adobe* Reader がそのコンピュータにインストールされていれば、Adobe Reader で開かれる。
- ◆ テキストエディタまたはシステムエディタでファイルを開く。ファイルをダブルクリックして、そのファイルタイプに割り当てられたデフォルトエディタを使用することもできます。
- ◆ [Copy (コピー)] と [Paste (貼り付け)] を使用して、ドキュメントファイルを別のプロジェクトやフォルダにコピーする。
- ◆ Identity Manager プロジェクトを新規に作成する。
- ◆ Identity Manager プロジェクトを次からインポートする：
 - ◆ アイデンティティポールド
 - ◆ iManager エクスポートファイル
 - ◆ ファイルシステム
- ◆ フォルダの内容を更新する。
- ◆ ファイルの名前を変更する。
- ◆ ファイルを削除する。
- ◆ .docgen ファイルを右クリックすると、このスタイルに対してドキュメントジェネレータを実行できる。

アイコン名	説明
Resources (リソース)  resources	<p>各プロジェクトの下にある resources フォルダにより、Designer プロジェクトに含めるファイルを配置できます。たとえば、DSTrace、HTML、XML、Open Office などのファイルをこのフォルダに配置した後に、ファイルをダブルクリックすると、Eclipse 内またはファイルシステム上のデフォルトエディタを使用して、これらのファイルを編集できます。ファイルは、デスクトップまたはお気に入りのファイルブラウザからドラッグアンドドロップできます。</p> <p>resources フォルダを右クリックすると、次の操作を実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ Identity Manager プロジェクトを新規に作成する。 ◆ 新しいフォルダを追加する。 ◆ 新しいファイルを追加する。 ◆ Identity Manager プロジェクトを次からインポートする： <ul style="list-style-type: none"> ◆ アイデンティティボールド ◆ iManager エクスポートファイル ◆ ファイルシステム ◆ ファイルのインポート ◆ フォルダのインポート ◆ フォルダのビューを更新する。 ◆ サブフォルダを開く、名前変更する、削除する。
.docgen ファイル  Blanston.docgen	<p>.docgen ファイルエントリを右クリックすると、次の作業を実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ Identity Manager プロジェクトを新規に作成する。 ◆ Identity Manager プロジェクトを次からインポートする： <ul style="list-style-type: none"> ◆ アイデンティティボールド ◆ iManager エクスポートファイル ◆ ファイルシステム ◆ .docgen ファイルをスタイルエディタで開く。.docgen ファイルをダブルクリックすることでも、同じ操作ができます。 ◆ ファイルを更新し、名前変更する。 ◆ .docgen ファイルコピーと削除。ドキュメントファイルを別のプロジェクトやフォルダにコピーするには、[Copy (コピー)] と [Paste (貼り付け)] を使用します。 ◆ このスタイルのドキュメントを生成する。

アイコン名**説明**

その他のファイルタイプ

resources フォルダには、多種多様のファイルを格納できるため、ファイルの拡張子に基づいたさまざまなアイコンが表示されます。



これらのファイルのアイコンを右クリックすると、次の作業を実行できます。

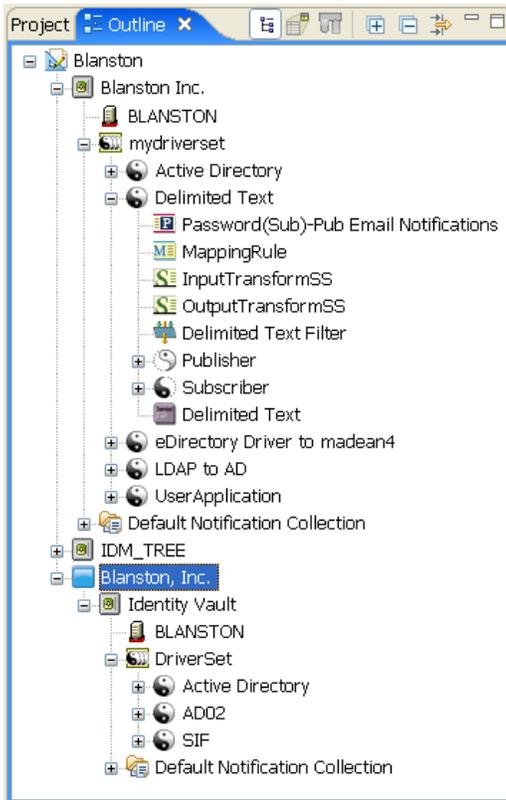
- ◆ Identity Manager プロジェクトを新規に作成する。
- ◆ Identity Manager プロジェクトを次からインポートする：
 - ◆ アイデンティティポータル
 - ◆ iManager エクスポートファイル
 - ◆ ファイルシステム
- ◆ ファイルのコピーと削除。ドキュメントファイルを別のプロジェクトやフォルダにコピーするには、[Copy (コピー)] と [Paste (貼り付け)] を使用します。
- ◆ テキストエディタまたはシステムエディタでファイルを開く。ファイルをダブルクリックすることで、Designer にそのファイルのエディタを選択させることもできます。
- ◆ ファイルを更新し、名前変更する。

7.5 [Outline (アウトライン)] ビュー

[Outline (アウトライン)] ビューには、アクティブなエディタの概要が表示されます。その内容はさまざまで、エディタごとに異なります。

- ◆ Designer の標準的なエディタの場合、現在のモードに応じて、情報のツリービュー、サムネイルのグラフィカルビューまたはポリシーフロービューが表示されます。
- ◆ [Navigator (ナビゲータ)] ビューの XML ファイルで、(Designer エディタの一部である埋め込み XML エディタではない)XML エディタを開くと、XML ドキュメントのツリービューが表示されます。

図 7-13 [Outline (アウトライン)] タブとビュー



7.5.1 アクティブなエディタの内容表示：[Outline (アウトライン)] ビュー

通常、[Outline (アウトライン)] タブは、[Project (プロジェクト)] タブまたは [Navigator (ナビゲータ)] タブの隣に表示されます。表示されていない場合は、[Window (ウィンドウ)] > [Show View (ビューの表示)] > [Outline (アウトライン)] の順にクリックします。

[Outline (アウトライン)] ビューで実行できるタスク

[Project Group (プロジェクトグループ)] ビュー内のタブを右クリックすると、114 ページのセクション「[Project (プロジェクト)] ビューから実行できるタスク」の最初で説明している機能を実行できます。[Outline (アウトライン)] タブの右側にもアイコンがあります。[Outline (アウトライン)] タブを選択すると、次のアイコンが表示されます。

図 7-14 [Outline (アウトライン)] タブのアイコン



表 7-5 [Outline (アウトライン)] タブのアイコン (向かって左から右)

アイコン名	説明
 Show Model Outline (モデルアウトラインの表示)	デフォルト。[Outline (アウトライン)] タブにプロジェクトのアウトラインを表示します。
 Show Thumbnail of Modeler (モデルのサムネイルの表示)	[Modeler (モデラ)] ビューに表示される項目をサムネイルで表示します。
 Show Policy Flow (ポリシーフローの表示)	[Outline (アウトライン)] ビューでドライバを選択し、このアイコンをクリックすると、そのドライバのポリシーフローの作業モデルが表示されます。[Policy Flow (ポリシーフロー)] モデラ内の項目をクリックすると、このレベルで作成されたポリシーを表示できます。ポリシーおよびポリシーセットマネージャの詳細については、『 ポリシービルダとドライバのカスタマイズガイド 』を参照してください。
 Expand Selected Elements (選択した要素を展開)(+)	選択した項目の中にあるすべてを表示します。たとえば、[Outline (アウトライン)] ビューで、プロジェクト名を選択してからこのアイコンをクリックすると、そのプロジェクト内のすべての項目が表示されます。ドライバを選択してからこのアイコンをクリックすると、そのドライバに関連付けられたすべての項目が展開されます。
 Collapse Selected Elements (選択した要素を縮小表示)(-)	選択したすべての項目を縮小表示します。たとえば、[Outline (アウトライン)] ビューで、プロジェクト名を選択してからこのアイコンをクリックすると、そのプロジェクト名のすべての項目が縮小表示されます。ドライバを選択してからこのアイコンをクリックすると、そのドライバに関連付けられたすべての項目が縮小表示されます。
 Filter (フィルタ)	[Filter (フィルタ)] アイコンを有効にすると、[Outline (アウトライン)] タブに表示する項目を選択できます。フィルタには、アイデンティティポールド、サーバ、ドライバセット、ドライバ、発行者、購読者、ポリシー、エンタイトルメント、アプリケーション、電子メール通知テンプレートおよびリソースが含まれます。
	たとえば、[Outline (アウトライン)] ビューからエンタイトルメントを表示しないようにするには、フィルタをクリックして、[Entitlement (エンタイトルメント)] チェックボックスを選択解除します。これにより、[Outline (アウトライン)] ビューにエンタイトルメントオブジェクトが表示されなくなります。このフィルタが有効な場合でも、モデラでエンタイトルメントの追加と編集ができます。

アイコン名	説明
Minimize/ Maximize (最小化/最大化)	[Minimize (最小化)] により、選択したタブのビューを縮小表示し、[Maximize (最大化)] により、縮小表示したペインを標準のサイズに戻します。



[Outline (アウトライン)] ビューのタブ

[Outline (アウトライン)] タブをクリックしたときに表示できるものは、何を開いているかによって異なります。次の図は [Outline (アウトライン)] タブが開かれているところで、プロジェクト内で表示可能なほとんどの項目が表示されています。[Outline (アウトライン)] ビューで1つ以上の項目を選択すると、モデラでも同様の選択が実施されます。モデラにその項目が表示されていない場合は、自動的にビュー内にスクロールされます。

項目がモデラに追加されるか、またはモデラから削除されると、その内容は [Outline (アウトライン)] ビューに自動的に反映されます。このビューのこのような操作を元に戻すには、右クリックして [Undo (元に戻す)] または [Redo (やり直し)] を選択します。

図 7-15 プロジェクト内で表示可能な項目

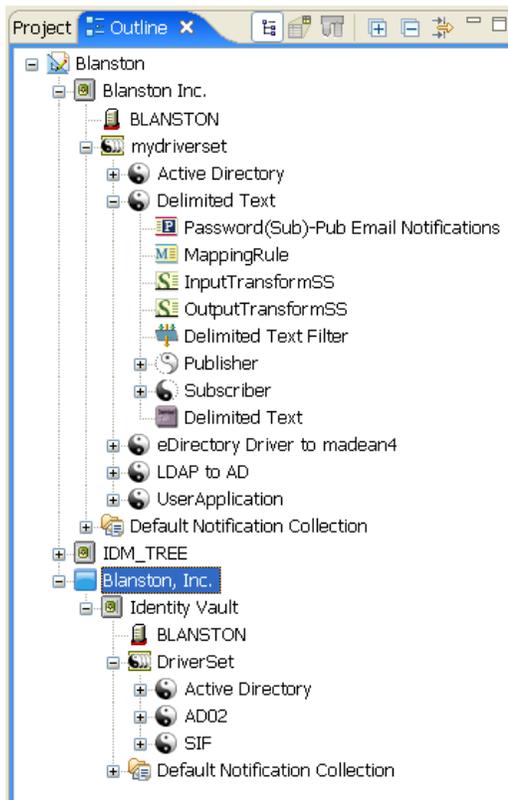


表 7-6 プロジェクト内で表示できる項目

アイコン名	説明
Project Name (プロジェクト名)	作成するときのプロジェクトの名前。これは、 <code>workspace\project name</code> ディレクトリに保存されるプロジェクトの名前です。プロジェクト名を右クリックすると、次の操作を実行できます。
	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ドライバセットを環境設定ファイルにエクスポートする。 ◆ プロジェクトを文書化する。 ◆ [Live Operations (ライブ操作)] オプションから次を実行する： <ul style="list-style-type: none"> ◆ アイデンティティボールドからのドライバセットのインポート ◆ すべてのドライバセットの展開 ◆ プロジェクトを削除する。 ◆ ドメイン、アイデンティティボールドまたはアプリケーションを追加する。 ◆ このオブジェクトに関連付けられた [Properties (プロパティ)] ウィンドウを表示する。
アイデンティティボールド	アイデンティティボールドは、Identity Manager がインストールされている eDirectory™ ツリーを表します。アイデンティティボールドを右クリックすると、次の作業を実行できます。
	<ul style="list-style-type: none"> ◆ アイデンティティボールドの環境設定をファイルにエクスポートする。 ◆ アイデンティティボールドに関するドキュメントを生成する。 ◆ [Live Operations (ライブ操作)] で次を実行する： <ul style="list-style-type: none"> ◆ 電子メールテンプレートのインポートと展開 ◆ eDirectory からのドライバセットのインポート ◆ すべてのドライバセットの比較 ◆ アイデンティティボールドの展開 ◆ iManager の起動 ◆ アイデンティティボールドを削除する。 ◆ プロジェクトにドライバセットまたはサーバオブジェクトを追加する。 ◆ このオブジェクトに関連付けられた [Properties (プロパティ)] ウィンドウを表示する。

アイコン名	説明
 <p>Domain Group (ドメイングループ)</p>	<p>ドメイングループにより、プロジェクトを細かくグループ分けすることができます。ドメインオブジェクトを右クリックすると、次の作業を実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ ドライバセットを環境設定ファイルにエクスポートする。 ◆ ドメインに関するドキュメントを生成する。 ◆ [Live Operations (ライブ操作)] で次を実行する： <ul style="list-style-type: none"> ◆ アイデンティティポールトからのインポート ◆ すべてのドライバセットの展開 ◆ 削除する。 ◆ ドメインオブジェクトを追加する。 ◆ アイデンティティポールトオブジェクトを追加する。 ◆ アプリケーションオブジェクトを追加する。 ◆ このオブジェクトに関連付けられた [Properties (プロパティ)] ウィンドウを表示する。 <p>[Document this Group (このグループを文書化)] を選択して生成されるドキュメントには、ドメイングループ外にある項目が含まれます。ドメインに隣接しているドライバは、ドキュメントに含まれます。</p>
<p>サーバオブジェクト</p> 	<p>このサーバオブジェクトは、Identity Manager がインストールされているツリー内のサーバです。サーバオブジェクトを右クリックすると、次の作業を実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ サーバオブジェクトを削除する。 ◆ このオブジェクトに関連付けられた [Properties (プロパティ)] ウィンドウを表示する。
<p>ドライバセット</p> 	<p>ドライバセットは、1 か所に格納されている Identity Manager ドライバのコレクションです。ドライバセットを右クリックすると、次の作業を実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ ドライバセットを環境設定ファイルにエクスポートする。 ◆ ドライバセットに関するドキュメントを生成する。 ◆ 保存済みの XML ファイルからドライバ環境設定をインポートする (iManager)。 ◆ ドライバ環境設定をファイルにインポートまたはエクスポートする。 ◆ [Live Operations (ライブ操作)] で次を実行する： <ul style="list-style-type: none"> ◆ ドライバのインポート ◆ ドライバセットの展開 ◆ 属性のインポートと展開 ◆ Designer 内のドライバセットとアイデンティティポールトに展開されたドライバセットとの比較 ◆ ドライバセットを削除する。 ◆ ドライバオブジェクトをドライバセットに追加する。 ◆ このオブジェクトに関連付けられた [Properties (プロパティ)] ウィンドウを表示する。 <p>[Document Selection (ドキュメント選択)] を選択して生成されるドキュメントには、ドライバセット外にあるほとんどの項目が含まれます。パースペクティブの関係で、ドキュメントには、子オブジェクトおよび親オブジェクトが含まれます。</p>

アイコン名**説明**

ドライバオブジェクト



ドライバオブジェクトは、**Identity Manager** を実行している **eDirectory** ツリーにアプリケーションを接続するチャンネル、ポリシー、ルール、およびフィルタのコレクションです。各ドライバではさまざまなタスクが実行されますが、ポリシー、ルールおよびフィルタによってこれらのタスクを実行するデータ操作方法がドライバに伝えられます。

ドライバオブジェクトを右クリックすると、次の作業を実行できます。

- ◆ エンタイトルメントを追加する。
- ◆ このドライバに関するドキュメントを生成する。
- ◆ ドライバオブジェクトのポリシーセットを表示する。
- ◆ **[Add Policy (ポリシーの追加)]** で次を実行する：
 - ◆ **DirXML®** スクリプトの追加
 - ◆ スキーママッピングファイルの追加
 - ◆ **XSLT** スタイルシートの追加
 - ◆ 既存のポリシーのコピー
- ◆ ドライバを環境設定ファイルにエクスポートする。
- ◆ 関連付けられたサーバにパスワードを同期する。
- ◆ サーバ間でサーバ特有のデータをコピーする。この操作を実行するには、ドライバセットに関連付けられた 1 つ以上のサーバが必要です。ドライバセットのプロパティページにアクセスして、ドライバセットにサーバを追加します。コピー可能なレプリカデータは次のとおりです。
 - ◆ グローバル構成値
 - ◆ 名前付きパスワード
 - ◆ ドライバの認証情報
 - ◆ ドライバの起動オプション
 - ◆ ドライバパラメータ
- ◆ **[Live Operations (ライブ操作)]** で次を実行する：
 - ◆ ポリシーのインポート
 - ◆ チャンネルのインポート
 - ◆ ドライバまたはサブオブジェクトのあるドライバの展開
 - ◆ **Designer** 内のドライバとアイデンティティボールドに展開されたドライバとの比較
 - ◆ ドライバのセキュリティの設定
- ◆ ドライバオブジェクトを削除する。
- ◆ ドライバでポリシー変換のシミュレートプログラムを実行する。
- ◆ このオブジェクトに関連付けられた **[Properties (プロパティ)]** ウィンドウを表示する。

[Document Selection (ドキュメント選択)] を選択して生成されるドキュメントには、ドライバ外にあるほとんどの項目が含まれます。パースペクティブの関係で、ドキュメントには、子オブジェクトおよび親オブジェクトが含まれます。

アイコン名	説明
発行者チャネル 	<p>チャンネルとは、ルールとポリシーの組み合わせであり、Designer では、ドライバ全体ではなくチャンネルをインポートできます。購読者チャンネルと発行者チャンネルは、それぞれ情報フローの方向を示しています。</p> <p>発行者チャンネルは、アプリケーション、データベース、.csv ファイルなどからイベントを受け取り、このイベントをアイデンティティポータルに送信します。チャンネルのイベントが通信を行う必要はありません。</p> <p>発行者チャンネルまたは購読者チャンネルを右クリックすると、次の作業を実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ [Credential Provisioning (資格情報のプロビジョニング)] で次を実行する： <ul style="list-style-type: none"> ◆ 新しいアプリケーションオブジェクトの追加 ◆ 新しいリポジトリオブジェクトの追加 [Add Policy (ポリシーの追加)] で次を実行する： <ul style="list-style-type: none"> ◆ DirXML スクリプトの追加 ◆ スキーママッピングファイルの追加 ◆ XSLT スタイルシートの追加 ◆ 既存のポリシーのコピー ◆ チャンネルの環境設定をファイルにエクスポートする。 ◆ [Live Operations (ライブ操作)] で次を実行する： <ul style="list-style-type: none"> ◆ ポリシーのインポート ◆ チャンネルの展開 ◆ Designer 内のチャンネルとアイデンティティポータルに展開されたドライバチャンネルとの比較 ◆ チャンネルでポリシー変換のシミュレートプログラムを実行して、チャンネルが正しく動作しているかを確認する。 ◆ このオブジェクトに関連付けられた [Properties (プロパティ)] ウィンドウを表示する。
購読者チャネル 	<p>チャンネルとは、ルールとポリシーの組み合わせであり、Designer では、ドライバ全体ではなくチャンネルをインポートできます。購読者チャンネルは、アイデンティティポータルからイベントを受け取り、このイベントをアプリケーション、データベース、.CSV ファイルなどの受信側システムに送信します。(右クリックのアクションについては上記の発行者チャンネルを参照)</p>

アイコン名	説明
 <p>ポリシー</p>	<p>ポリシーとはルールと引数のコレクションであり、アプリケーションを設定して eDirectory との間でイベントを送受信できるようにします。ポリシーは、eDirectory やアプリケーションから受信するデータを操作するために使用します。各ドライバはさまざまなタスクを実行しますが、ポリシーは、それらのタスクを実行するためにデータを操作する方法をドライバに伝えます。</p> <p>ポリシーオブジェクトを右クリックすると、次の作業を実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ ポリシー環境設定をファイルにエクスポートする。 ◆ [Live Operations (ライブ操作)] で次を実行する： <ul style="list-style-type: none"> ◆ ポリシーの展開 ◆ Designer 内のポリシーとアイデンティティボールドに展開されたドライバまたはチャンネルポリシーとの比較 ◆ ポリシーオブジェクトを編集、複製、名前を付けて保存、および削除する。 ◆ ポリシーでポリシー変換のシミュレートプログラムを実行して、ポリシーが正しく動作しているかを確認する。 ◆ このオブジェクトに関連付けられた [Properties (プロパティ)] ウィンドウを表示する。
 <p>スキーママッピング</p>	<p>スキーママッピングにより、Identity Manager は、接続システムを変更することなく、接続システムに情報を同期することができます。スキーマは、接続システムに対し、すべてのクラスと属性を変換します。</p> <p>スキーママッピングを右クリックすると、次の作業を実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ スキーママッピングのポリシー環境設定を XML ファイルにエクスポートする。 ◆ [Live Operations (ライブ操作)] で次を実行する： <ul style="list-style-type: none"> ◆ ポリシーの展開 ◆ Designer 内のポリシーとアイデンティティボールドに展開されたドライバまたはチャンネルポリシーとの比較 ◆ ポリシーオブジェクトを編集、コピー、名前を付けて保存、および削除する。 ◆ ポリシーでポリシー変換のシミュレートプログラムを実行して、ポリシーが正しく動作しているかを確認する。 ◆ このオブジェクトに関連付けられた [Properties (プロパティ)] ウィンドウを表示する。
 <p>ソースオブジェクト</p>	<p>リソースオブジェクトには、アプリケーション SSO オブジェクトとリポジトリ SSO オブジェクトがあります。リソースオブジェクトをダブルクリックすると、そのオブジェクトがエディタで開かれます。</p> <p>リソースオブジェクトを右クリックすると、次の作業を実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ リソースのポリシー環境設定をファイルにエクスポートする。 ◆ [Live Operations (ライブ操作)] で次を実行する： <ul style="list-style-type: none"> ◆ ポリシーの展開 ◆ Designer 内のポリシーとアイデンティティボールドに展開されたドライバまたはチャンネルポリシーとの比較 ◆ ポリシーオブジェクトを編集、複製、名前を付けて保存、および削除する。 ◆ このオブジェクトに関連付けられた [Properties (プロパティ)] ウィンドウを表示する。

アイコン名	説明
XSLT	<p>XSLT は、XSLT スタイルシートを表し、DirXML スクリプトの代わりに使用されま す。</p> <p> XSLT オブジェクトを右クリックすると、次の作業を実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ XSLT スタイルシート の環境設定を XML ファイルにエクスポートする。 ◆ [Live Operations (ライブ操作)] で次を実行する： <ul style="list-style-type: none"> ◆ スタイルシート の展開 ◆ Designer 内のスタイルシートとアイデンティティボールドに展開されたド ライバまたはチャンネルのスタイルシートとの比較 ◆ オブジェクトを編集、複製、名前を付けて保存、および削除する。 ◆ スタイルシートでポリシー変換のシミュレートプログラムを実行して、スタイル シートが正しく動作しているかを確認する。 ◆ このオブジェクトに関連付けられた [Properties (プロパティ)] ウィンドウを表 示する。
フィルタ	<p>フィルタにより、オブジェクトを送信できます。アイデンティティボールドとの間 で、オブジェクト (グループ、ユーザおよびそれらに関連付けられた属性) の送受信 を制限するゲートキーパです。</p> <p> フィルタオブジェクトを右クリックすると、次の作業を実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ [Live Operations (ライブ操作)] で、既存の eDirectory ツリー内にフィルタを展開 する。 ◆ オブジェクトをクリア、編集および保存する。 ◆ フィルタでポリシー変換のシミュレートプログラムを実行して、フィルタが正し く動作しているかを確認する。
アプリケー ションオブ ジェクト	<p>アプリケーションオブジェクトは、データベース、アプリケーション、または .CSV ファイルなどの接続システムを表します。</p> <p>アプリケーションオブジェクトを右クリックすると、次の作業を実行できます。</p> <p></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ アプリケーションオブジェクトに関するドキュメントを生成する。 ◆ [Live Operations (ライブ操作)] で、eDir-to-eDir 接続である場合は eDir-to-eDir 証 明書を作成する。 ◆ オブジェクトを削除する。 ◆ eDir-to-eDir 接続である場合は、SSL/TLS の接続のアクティベーションを設定す る。 ◆ このオブジェクトに関連付けられた [Properties (プロパティ)] ウィンドウを表 示する。 <p>[Document Selection (ドキュメント選択)] を選択して生成されるドキュメントには、 ドライバ外にあるほとんどの項目が含まれます。パースペクティブの関係で、ドキュ メントには、ドライバオブジェクトおよびそのドライバオブジェクトの親オブジェク トが含まれます。</p>

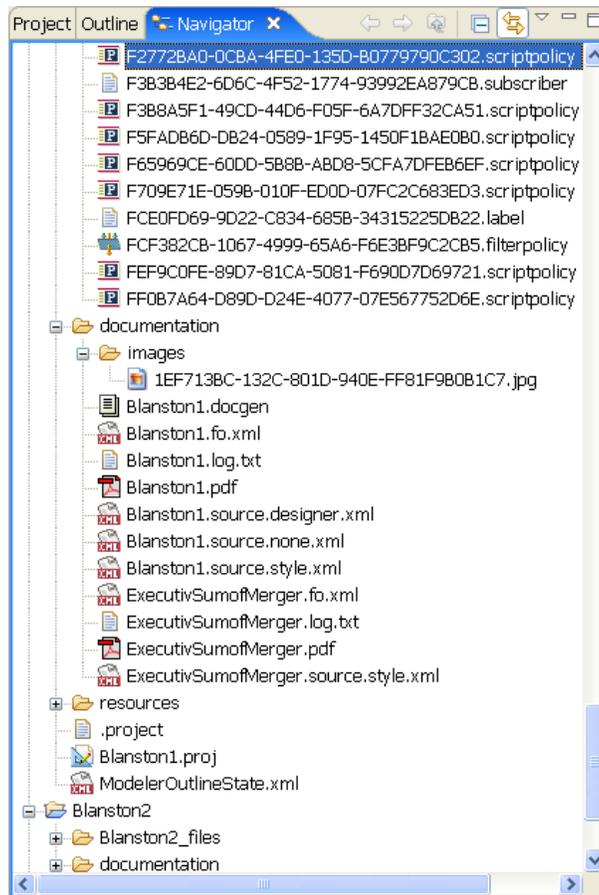
アイコン名	説明
エンタイトルメントオブジェクト	<p>エンタイトルメントオブジェクトは、購読者チャンネルに割り当てられたエンタイトルメントを表します。</p> <p>エンタイトルメントオブジェクトを右クリックすると、次の作業を実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ エンタイトルメントの環境設定を XML ファイルにエクスポートする。 ◆ [Live Operations (ライブ操作)] で次を実行する： <ul style="list-style-type: none"> ◆ エンタイトルメントの展開 ◆ Designer 内のエンタイトルメントとアイデンティティボールドに展開されたエンタイトルメントとの比較 ◆ オブジェクトを編集および削除する。
Default Notification Collection (デフォルトの通知コレクション)	<p>すべての通知テンプレートのプレースホルダです。</p> <p>通知コレクションオブジェクトを右クリックすると、次の作業を実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ [Live Operations (ライブ操作)] で次を実行する： <ul style="list-style-type: none"> ◆ 電子メールテンプレートの展開 ◆ アイデンティティボールドからの電子メールテンプレートのインポート ◆ Designer 内の通知コレクションとアイデンティティボールドに展開された通知コレクションとの比較 ◆ 通知テンプレートをファイルからインポートする。 ◆ 新しい通知テンプレートを作成する。 ◆ このオブジェクトに関連付けられた [Properties (プロパティ)] ウィンドウを表示する。
Notification Object (通知オブジェクト)	<p>通知テンプレートです。</p> <p>通知オブジェクトを右クリックすると、次の作業を実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ [Live Operations (ライブ操作)] で次を実行する： <ul style="list-style-type: none"> ◆ 電子メールテンプレートの展開 ◆ Designer 内の通知オブジェクトとアイデンティティボールドに展開された通知オブジェクトとの比較 ◆ テンプレートを編集または保存する。 ◆ テンプレートを複製または削除する。 ◆ このオブジェクトに関連付けられた [Properties (プロパティ)] ウィンドウを表示する。

7.6 [Navigator (ナビゲータ)] ビュー

[Navigator (ナビゲータ)] ビューでは、ワークスペース内にあるファイルリソースを管理および表示します。プロジェクトやファイルがファイルシステムに実際に存在している状態を確認できます。ファイルやフォルダを追加したり、それらをプロジェクトやワークスペースに追加したりできます。これらの項目が、識別ソリューションの動作に変更を加え

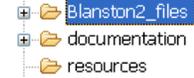
たり、影響を及ぼすことはありません。ただし、プロジェクトやワークスペースに関連付ける情報の一部を便宜的に添付することはできます。

図 7-16 [Navigator (ナビゲータ)] ビュー



[Navigator (ナビゲータ)] ビューで実行できる作業は、次のとおりです。

表 7-7 [Navigator (ナビゲータ)] ビューのアイコン

アイコン名	説明
Project Name (プロジェクト名)	<p>作成済みのプロジェクトの名前。これは、選択されたワークスペースディレクトリに保存されているプロジェクトの名前です。プロジェクト名をダブルクリックすると、そのプロジェクトのエントリが展開 / 縮小されます。</p>
	<p>プロジェクト名を右クリックすると、次の操作を実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 新しいオブジェクトを作成する。 ◆ Identity Manager プロジェクトを新規に作成する。 ◆ 新しいプロビジョニング生成物を作成する。 ◆ 作成ウィザードを有効にして新しいフォルダリソースを作成する。 ◆ このプロジェクトのワークスペースだけを表示する。 ◆ プロジェクトをコピー、貼り付け、削除、移動および名前変更する。 ◆ プロジェクトをインポートおよびエクスポートする。 ◆ プロジェクトを更新する。 ◆ プロジェクトまたは関係のないプロジェクトを閉じる。 ◆ プロジェクトの [Properties (プロパティ)] ウィンドウを表示する。
プロジェクトファイルのフォルダとサブフォルダ	<p>ファイルのフォルダには、作成したプロジェクトのファイルが格納されています。ファイルのディレクトリ内には、このプロジェクトで作成したドキュメントやリソースのフォルダ、およびその他のフォルダがあります。</p>
	<p>プロジェクトフォルダ名のいずれかを右クリックすると、次の作業を実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 新しいプロジェクトを作成する。 ◆ Identity Manager プロジェクトを新規に作成する。 ◆ 新しいプロビジョニング生成物を作成する。 ◆ 作成ウィザードを有効にして新しいフォルダリソースを作成する。 ◆ このプロジェクトのワークスペースだけを表示する。 ◆ ディレクトリを新しいウィンドウで開く。 ◆ フォルダをコピー、貼り付け、削除、移動および名前変更する。 ◆ プロジェクトをインポートおよびエクスポートする。 ◆ プロジェクトを更新する。 ◆ プロジェクトの [Properties (プロパティ)] ウィンドウを表示する。

アイコン名	説明
-------	----

すべてのファイルタイプ
すべてのプロジェクトフォルダには多種多様なファイルを格納できるため、ファイルの拡張子に基づいたさまざまなアイコンが表示されます。これらのファイルのアイコンを右クリックすると、次の作業を実行できます。



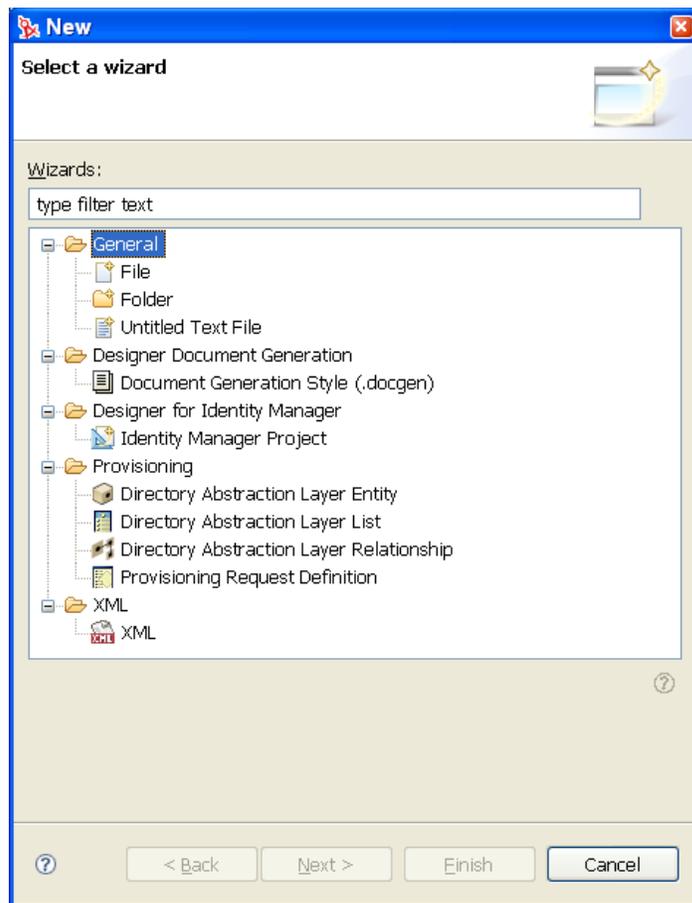
- ◆ 新しいプロジェクトを作成する。
- ◆ Identity Manager プロジェクトを新規に作成する。
- ◆ 新しいプロビジョニング生成物を作成する。
- ◆ 作成ウィザードを有効にして新しいフォルダリソースを作成する。
- ◆ ファイルを Designer によって選択されたエディタで開く。
- ◆ 次の選択肢でファイルを開く：
 - ◆ テキストエディタ
 - ◆ システムエディタ
 - ◆ インブレースエディタ
 - ◆ デフォルトエディタ
 - ◆ XML ファイルの場合は XML エディタを選択。
 - ◆ Proj ファイルの場合はモデラを選択。
 - ◆ フィルタファイルの場合はフィルタエディタを選択。
 - ◆ ポリシーファイルの場合はポリシービルダエディタを選択。
- ◆ ファイルをコピー、貼り付け、削除、移動および名前変更する。
- ◆ ファイルをインポートおよびエクスポートする。
- ◆ ファイルを更新する。
- ◆ XML ファイルで独立したドライバサービスを使用して、スキーマの開始、停止またはリフレッシュを実行する。
- ◆ ファイルの [Properties (プロパティ)] ウィンドウを表示する。

[Navigator (ナビゲータ)] ビューでは、プロジェクト内にドキュメントを移動して、これを選択したエディタで編集することができます。たとえば、Word* または PowerPoint* のドキュメントを追加し、これらをダブルクリックします。他のエディタと同じように、ネイティブアプリケーションが Designer 内にロードされ、ドキュメントの表示と編集ができます。(この機能は Windows でのみ動作します)

プロジェクト内では、どのレベルでも、リンクされたリソースを作成できます。これにより、プロジェクト構造内のファイルシステムのどの場所からでもリソースを配置することができます。その際、下位のリンクされた他のリソースも含まれます。同じリソースは、同じプロジェクトにリンクできます。

- 1 [Window (ウィンドウ)] > [Show View (ビューの表示)] > [Navigator (ナビゲータ)] の順に選択します。
- 2 [Navigator (ナビゲータ)] ビューで、プロジェクトを右クリックし、[New (新規作成)]>More Projects (その他のプロジェクト)] の順に選択します。

- 3 [General (一般)] フォルダを展開します。



- 4 [Folder (フォルダ)] を選択し、[Next (次へ)] をクリックします。
- 5 [Advanced (詳細)] をクリックし、[Link a folder in the filesystem (ファイルシステム内でフォルダをリンク)] を選択します。
- 6 フォルダを参照して選択し、[OK] をクリックし、[Finish (終了)] をクリックします。

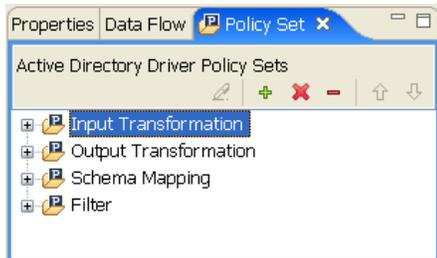
Designer により、このフォルダへのリンクがプロジェクトの直下に作成されます。これでこのフォルダへ簡単にアクセスできます。

同じようにして、ファイルへのリンクも作成できます。

7.7 [Policy Set (ポリシーセット)] ビュー

[Policy Set (ポリシーセット)] ビューには、ポリシーのリストとツールバーが表示されます。

図 7-17 [Policy Set (ポリシーセット)] ビュー



このリストには、選択したポリシーセットに含まれるすべてのポリシーが表示されます。変換中は、リスト内のポリシーが上から順に実行されます。

ツールバーには、リストに表示されたポリシーを管理するためのボタンとドロップダウンメニューがあります。ポリシーを管理するには、ポリシーの処理順序を編集、削除、移動、または変更します。

[Policy Set (ポリシーセット)] ビューでのレンダリング方法は、[Outline (アウトライン)] ビューがどのモードであるかによって異なります。[Tree (ツリー)] モードである場合、[Policy Set (ポリシーセット)] ビューのポリシーは、階層構造で表示されます。ただし、[Policy Flow (ポリシーフロー)] モードである場合、ビューには選択したポリシーセット内のポリシーがフラットなリストで表示されます。

[ポリシービルダ] ビューでポリシーを開くには、ポリシーをダブルクリックします。ポリシーの詳細については、[205 ページの第 10 章「ポリシーの作成と管理」](#)を参照してください。

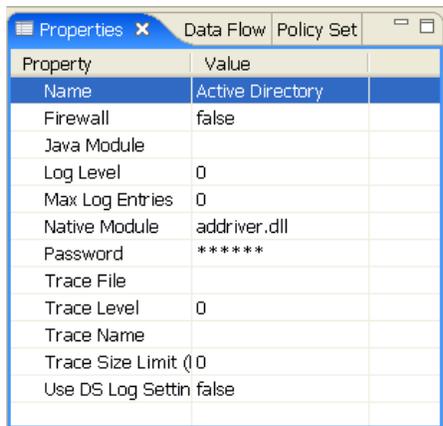
7.8 [Properties (プロパティ)] ビュー

[Properties (プロパティ)] ビューには、キーと値のペアに関する情報 (Max Log Entries 2 など) が表示されます。表示される情報は、アクティブなビューによって異なります (モデラまたはアウトラインなど)。

[Properties (プロパティ)] ビューでは、頻繁に情報を編集します。たとえば、モデラでドライバを選択した後、[Properties (プロパティ)] ビューに表示されている [Trace Level (

トレースレベル] の値をすぐに編集します。アイデンティティポールの管理者設定も、表示と編集ができます。

図 7-18 Active Directory ドライバの [Properties (プロパティ)] ビュー

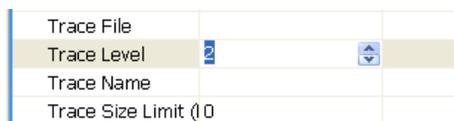


Property	Value
Name	Active Directory
Firewall	false
Java Module	
Log Level	0
Max Log Entries	0
Native Module	adriver.dll
Password	*****
Trace File	
Trace Level	0
Trace Name	
Trace Size Limit (KB)	0
Use DS Log Settings	false

- ◆ 137 ページのセクション 7.8.1 「スピナーコントロール」
- ◆ 137 ページのセクション 7.8.2 「DN セルエディタ」
- ◆ 138 ページのセクション 7.8.3 「論理値の編集」
- ◆ 138 ページのセクション 7.8.4 「キーボード操作のヒント」
- ◆ 138 ページのセクション 7.8.5 「列幅のサイズ変更」
- ◆ 138 ページのセクション 7.8.6 「概要テーブル」

7.8.1 スピナーコントロール

図 7-19 スピナーコントロール



Trace File	
Trace Level	2
Trace Name	
Trace Size Limit (KB)	0

[Properties (プロパティ)] ビューの数値を編集するときは、数値を増減できるように Designer によってスピナーコントロールが表示されます。

スピナーの最大値は、属性タイプに基づいて適切に設定されます。たとえば、ログエントリの最大値は 500 です。

7.8.2 DN セルエディタ

図 7-20 DN セルエディタ



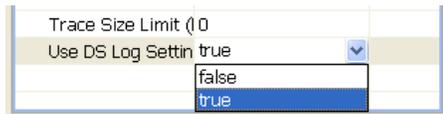
Deploy Context	domain.blanston
----------------	-----------------

DN 構文を入力して属性を編集するには (ドライバセットの [Deploy Context (展開コンテキスト)] など):

- 1 [Deploy Context(展開コンテキスト)] をクリックします。
- 2 コンテキストの識別名を入力します。
[参照] ボタンをクリックしてから、eDirectory ブラウザでオブジェクトを参照して選択することもできます。この場合では、ドライバセットを展開するコンテナの識別名を選択しています。

7.8.3 論理値の編集

図 7-21 論理値のドロップダウンリスト



論理値を編集するには、ドロップダウンリストから、[true] または [false] を選択します。

7.8.4 キーボード操作のヒント

表 7-8 キーボード操作のヒント

タスク	説明
現在のセルエディタの値を保存して、次のエディタに移る	Tab、Enter、上矢印、または下矢印キーを押します。
前の値に戻る	Shirt+Tab キーを押します。値の最上位または最下位に達した場合は、元に戻って繰り返されます。
[Properties (プロパティ)] ビューを終了する	進むには、Ctrl+Tab キーを押します。戻るには、Ctrl+Shirt+Tab キーを押します。

7.8.5 列幅のサイズ変更

[Properties (プロパティ)] ビューの列幅を変更すると、これらの列幅はユーザの初期設定に永続保存されます。[Properties (プロパティ)] ビューを再度開くかまたは Designer を再起動すると、変更後の列幅で表示されます。

7.8.6 概要テーブル

次の表は、[Properties (プロパティ)] ビューでできることをまとめたものです。

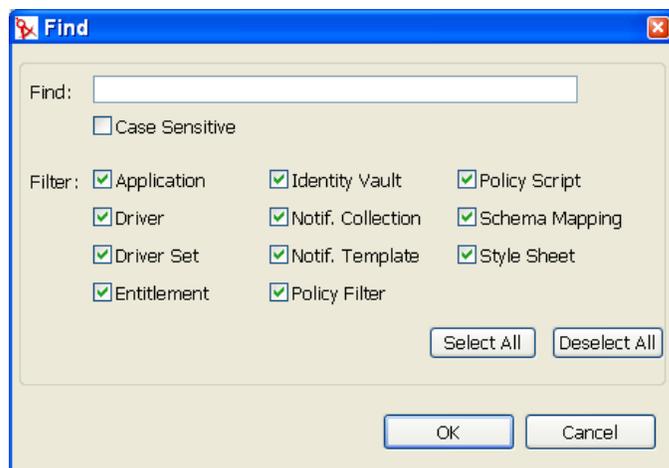
機能	説明
開く	ビューが表示されてない場合は、[Window (ウィンドウ)] > [Show View (ビューの表示)] > [Properties (プロパティ)] の順に選択します。

機能	説明
編集	モデラまたは [アウトライン] ビューで選択した項目の設定を編集できます。
マルチ編集	複数の項目を選択した場合は、それらの項目に共通する設定を編集できます。たとえば、2つの項目に名前が設定されている場合に、両方の項目を選択して、一度だけ名前を編集すると、両方の項目の名前が変更されます。この機能により、任意の編集操作の生産性を向上させることができます。
保存	[保存] をクリックすると、すべての変更がプロジェクトファイルに保存されます。プロジェクトを再度開くと、すべての設定が復元されます。
論理値エディタ	論理値 ([true] または [false]) をクリックすると、true は false に、false は true に切り替わります。

7.9 [Search Results (検索結果)] ビュー

プロジェクト全体にわたって検索するには：

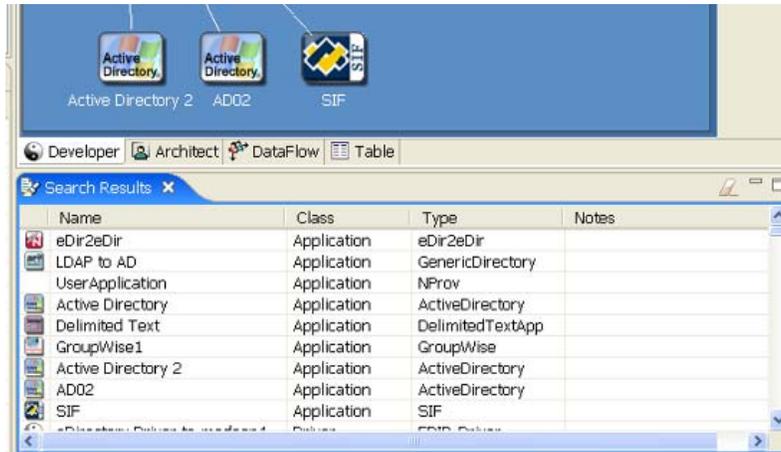
- 1 [Modeler (モデラ)] ビューをアクティブにして、Ctrl+F キーを押します。



- 2 大文字と小文字を区別して検索するかどうかを選択します。
- 3 オブジェクトタイプを絞り込みます。
- 4 [OK] をクリックします。

検索結果がクラス、タイプおよび名前別にソートされた状態で [Search Results (検索結果)] ビューに表示されます。別の列をソートするには、その列見出しをクリックします。

図 7-22 [Search Results (検索結果)] ビュー



[Search Results (検索結果)] ビューが表示されていない場合は、検索を実行すると開きます。

[Search (検索)] ビューで項目 (ポリシーなど) を選択すると、対応する項目 (ドライバ など) がモデラで選択されます。

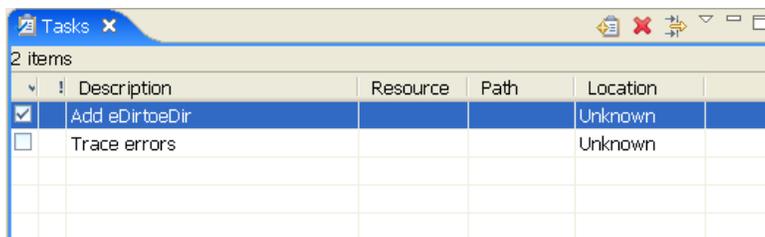
項目をダブルクリックすると、適切なダイアログボックスまたはエディタが起動します。他のエディタで項目を開くには、その項目を右クリックします。

[Search (検索)] ビューをクリアするには、[Search (検索)] ビューのツールバーの [Clear (クリア)] アイコンをクリックします。

[Search (検索)] ダイアログボックスを続けて呼び出すと、Designer は、直前に実行した検索設定を表示します。

7.10 [Tasks (タスク)] ビュー

図 7-23 [Tasks (タスク)] ビュー



[Tasks (タスク)] ビューでは、識別情報を管理するときにメモを作成し、優先度をつけることができます。このビューは参考用に使用します。このビューには何でも配置できます。ソリューションの機能に影響を与えることはありません。

このビューで実行できる作業は、次のとおりです。

- ◆ タスクの追加

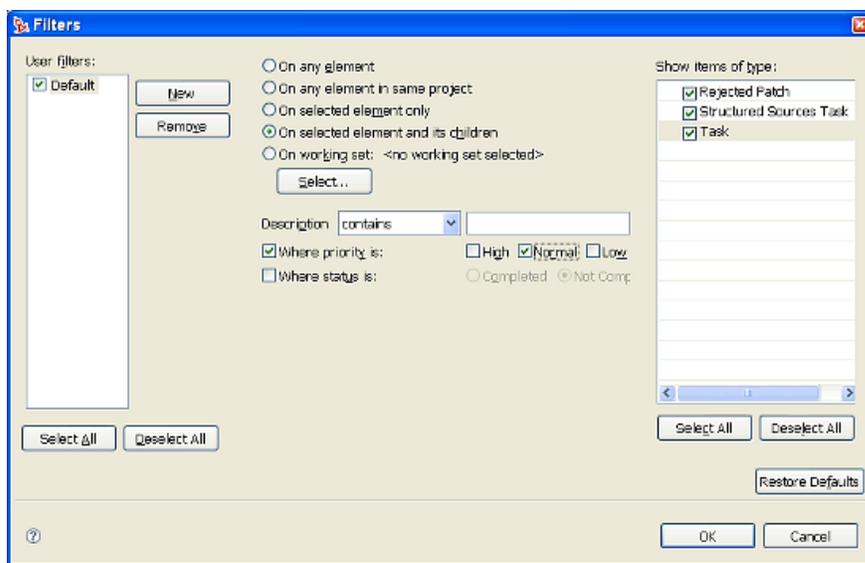
- ◆ タスクの削除
- ◆ 完了ステータスのフィルタ処理
- ◆ 優先度のフィルタ処理
- ◆ 説明のテキストのフィルタ処理
- ◆ 優先度のフィルタ処理
- ◆ 完了した場合のマーキング
- ◆ 説明の入力
- ◆ 優先度の設定
- ◆ すべてのフィールドのソート

タスクを追加するには：

- 1 [Window (ウィンドウ)] > [Show View (ビューの表示)] > [Tasks (タスク)] の順に選択して、[Tasks (タスク)] ビューを開きます。
- 2 [Tasks (タスク)] ビュー内で右クリックし、[Add Task (タスクの追加)] をクリックします。
- 3 [Description (説明)] フィールドに名前を入力し、優先度を選択したら、[OK] をクリックします。

タスクをフィルタ処理するには：

- 1 フィルタアイコン  をクリックします。
- 2 フィルタを選択して、[OK] をクリックします。



7.11 [Trace (トレース)] ビューと [Error Log (エラーログ)] ビュー

[Trace (トレース)] ビューと [Error Log (エラーログ)] ビューは、Designer のトラブルシューティングに役立ちます。詳細については、429 ページの第 19 章「Designer のトラブルシューティング」を参照してください。

Designer へのインポート

8

Designer のインポート機能により、定義済みのプロジェクトに次の項目をインポートできます。

- ◆ ファイルシステムまたはアイデンティティポールド(eDirectory™)からのプロジェクト
- ◆ ドライバセット
- ◆ 個々のドライバ
- ◆ チャネル
- ◆ ポリシー
- ◆ スキーマ

プロジェクトの複雑さによっては、インポートすることで、ドライバ、チャネルおよびポリシーの作成と再作成にかかる時間を節約できます。たとえば、ドライバ、チャネルまたはポリシーを作成したら、これらを新しいプロジェクトにインポートして、新しい環境で実行できるように変更すると、各ドライバ、チャネル、ポリシーを初めから作成する必要はなくなります。

プロジェクト、ドライバ、チャネル、スキーマおよびポリシーは、Identity Manager システム (アイデンティティポールド) が動作している既存の eDirectory ツリーから、またはファイルシステムにあるエクスポートされたプロジェクトからインポートします。

Designer では、展開機能を使用して、ドライバ、チャネルおよびポリシーを、アイデンティティポールド内のメタディレクトリサーバに保存します。エクスポート機能を使用すると、プロジェクト、ドライバ、チャネルおよびポリシーを、ローカル、リムーバブルまたはネットワークのディレクトリに保存できます。

何をインポートできるかは、プロジェクト内のどのレベルで作業しているかによって異なります。たとえば、[File (ファイル)] > [Import (インポート)] レベルでは、ファイルシステムまたはアイデンティティポールドからプロジェクトをインポートできます。プロジェクトレベルではドライバセット、ドライバ、チャネルおよびポリシーを、ドライバレベルではチャネルおよびポリシーを、チャネルレベルではポリシーをインポートできます。

インポートの実行時は、暗号化されているものはインポートされません。この中には、名前付きパスワード、電子メール通知、既存の証明書、Secure Login 管理者パスワードなどがあります。

- ◆ [144 ページのセクション 8.1 「プロジェクトのインポート」](#)
- ◆ [152 ページのセクション 8.2 「アイデンティティポールドからのドライバセットまたはドライバのインポート」](#)
- ◆ [160 ページのセクション 8.3 「ドライバ環境設定ファイルのインポート」](#)
- ◆ [165 ページのセクション 8.4 「アイデンティティポールドからのチャネル、ポリシー、スキーマ項目のインポート」](#)
- ◆ [174 ページのセクション 8.5 「比較機能の使用」](#)
- ◆ [180 ページのセクション 8.6 「エラーメッセージと解決法」](#)

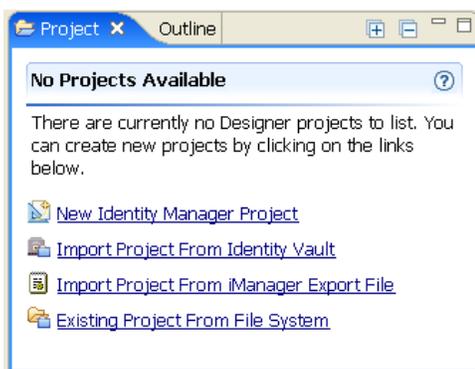
8.1 プロジェクトのインポート

- ◆ 144 ページのセクション 8.1.1 「アイデンティティボールドからのプロジェクトのインポート」
- ◆ 149 ページのセクション 8.1.2 「ファイルシステムからのプロジェクトのインポート」
- ◆ 151 ページのセクション 8.1.3 「iManager からのプロジェクトのインポート」

Designer のインポート機能により、ファイルシステムからまたはアイデンティティボールド (eDirectory) から、プロジェクトをインポートできます。何をインポートできるかは、プロジェクト内のどのレベルで作業しているかによって異なります。eDirectory オブジェクトをインポートするには、設計しているアイデンティティボールドに関連付けられた eDirectory ツリーにアクセスするための、十分な権利を持っている必要があります。

Designer ユーティリティを初めて開き、[Welcome (ようこそ)] ビューを閉じた場合、現在使用できるプロジェクトは表示されません。

図 8-1 初期の [No Projects Available (プロジェクトがありません)] ビュー



[No Project Available(プロジェクトがありません)] ビューからは、次のことが実行できます。

- ◆ Identity Manager プロジェクトを新規に作成する
- ◆ Identity Manager システム(アイデンティティボールド)から既存のプロジェクトをインポートする
- ◆ iManager エクスポートファイルから既存のプロジェクトをインポートする
- ◆ ファイルシステムから既存のプロジェクトをインポートする

Identity Manager プロジェクトを新規作成するには、49 ページのセクション 5.1 「プロジェクトの作成」を参照してください。

8.1.1 アイデンティティボールドからのプロジェクトのインポート

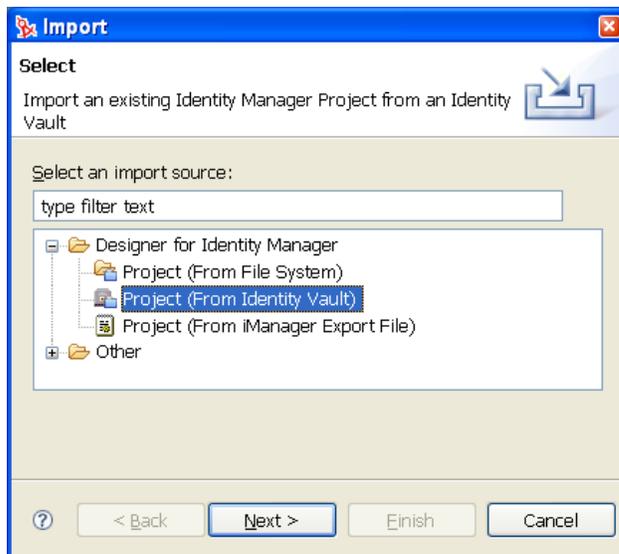
1 [File (ファイル)] > [Import (インポート)] の順にクリックします。

または

[Project (プロジェクト)] ビューの [No Projects Available (プロジェクトがありません)] から、[Import Project From Identity Vault (アイデンティティボールドからのプロジェクトのインポート)] をクリックし、145 ページのステップ 3 へ進みます。

2 [Import (インポート)] ウィンドウから、項目を選択します。[Next (次へ)] をクリックします。

[Designer for Identity Manager (Identity Manager の Designer)] 見出しの下にある、Identity Manager Project (From Identity Vault) (Identity Manager プロジェクト (アイデンティティボールドから)) を選択します。



[Import (インポート)] ウィンドウでは、[Designer for Identity Manager (Identity Manager の Designer)] などのタブにある選択肢を使用できます。[Designer for Identity Manager (Identity Manager の Designer)] タブの選択肢は次のとおりです。

- ◆ 既存の Identity Manager プロジェクトをファイルシステムからインポートする (プロジェクトには有効な .project ファイルが含まれている必要がある)。
- ◆ 既存の Identity Manager プロジェクトをアイデンティティボールドからインポートする。
- ◆ 既存の Identity Manager プロジェクトを iManager エクスポートファイル (ドライバセットまたはドライバ) からインポートする。

3 [Project (From Identity Vault) (プロジェクト (アイデンティティボールドから))] ウィンドウで、新しいプロジェクトの名前を入力します。このプロジェクトのコンテンツ

を保存する場所を選択します (Windows ワークステーションの場合、デフォルトは C:\Documents and Settings\Username\workspace)。[Next (次へ)] をクリックします。

The screenshot shows a dialog box titled "Project (From Identity Vault)" with a sub-header "Give Project Name And Location". The instruction reads "Give this project a name and choose a location." Below this, there is a text input field for "Project Name" containing the text "Blanston". Underneath, there is a section for "Project Contents" with a checked checkbox labeled "Use Default". Below that is a "Directory:" label followed by a text input field containing "C:/Documents and Settings/Novell User/workspace4" and a "Browse..." button. At the bottom of the dialog are four buttons: "< Back", "Next >", "Finish", and "Cancel".

- 4 [Import Project From Identity Vault (アイデンティティボールドからのプロジェクトのインポート)] ウィンドウで、選択しているアイデンティティボールド (eDirectory) への認証に必要な情報を指定します。[Host Name (ホスト名)] フィールドでは、アイデンティティボールドのツリー名または IP アドレスのいずれかを指定できます。

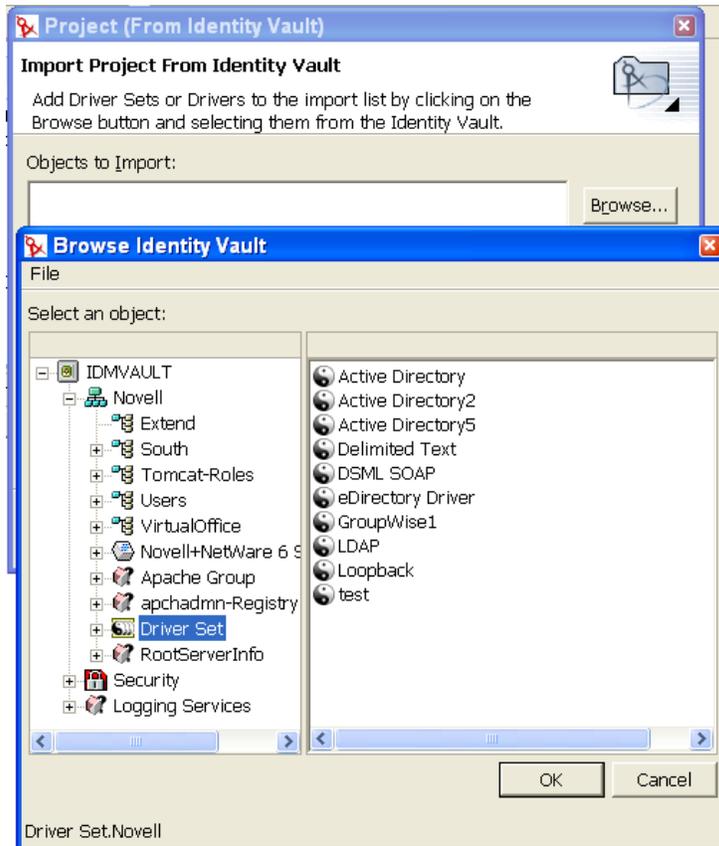
The screenshot shows the same dialog box, now at the "Enter Authentication Information" step. The instruction reads "Enter information to authenticate to the Identity Vault of your choice." There are three main input fields: "Host Name:" with a dropdown menu showing "192.168.14.199" and a help icon; "User Name:" with a dropdown menu showing "admin.blanston" and a help icon; and "Password:" with a masked input field showing "*****". Below the password field is a checkbox labeled "Save password" which is currently unchecked. At the bottom are four buttons: "< Back", "Next >", "Finish", and "Cancel".

- 5 [User Name (ユーザ名)] および [Password (パスワード)] フィールドに入力します。

[Save Password (パスワードの保存)] を選択すると、Designer にパスワードが記憶されます。パスワードを保存しない場合は、Designer を閉じた後に Designer オブジェクトをインポート、展開、または Designer オブジェクトとアイデンティティボールドと比較する場合に、再度認証が必要になります。

注：履歴ドロップダウンリストを使用して、以前に入力した値をリストから選択することができます。

- 6 [Next (次へ)] をクリックします。
- 7 [Import Project From Identity Vault (アイデンティティボールドからのプロジェクトのインポート)] ウィンドウで、インポートするドライバセットまたはドライバの識別名を入力するか、または [Browse (参照)] ボタンをクリックして、eDirectory 内のオブジェクトを選択します。[OK] をクリックし、[Finish (終了)] をクリックします。

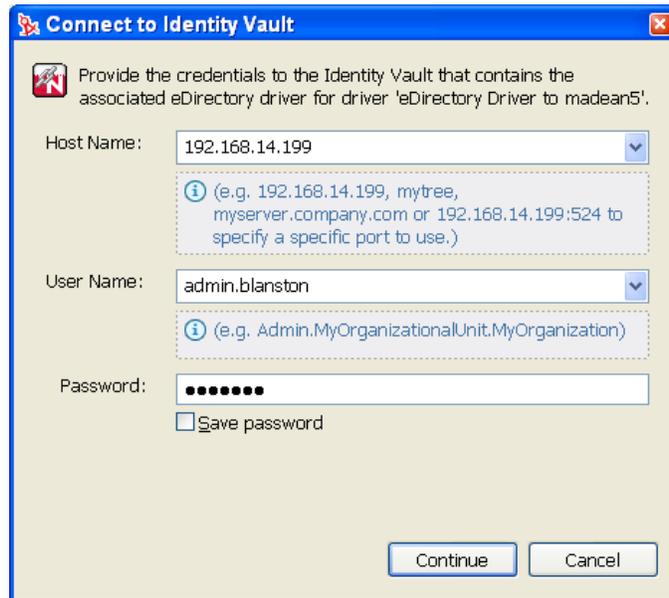


インポート操作を行うときは、複数のドライバセットをインポートできます。インポートするさまざまなオブジェクトを参照し、それらをリストに追加するだけです。参照しない場合には、[Add (追加)] ボタンをクリックしてから、インポートするオブジェクトの DN を入力することもできます。

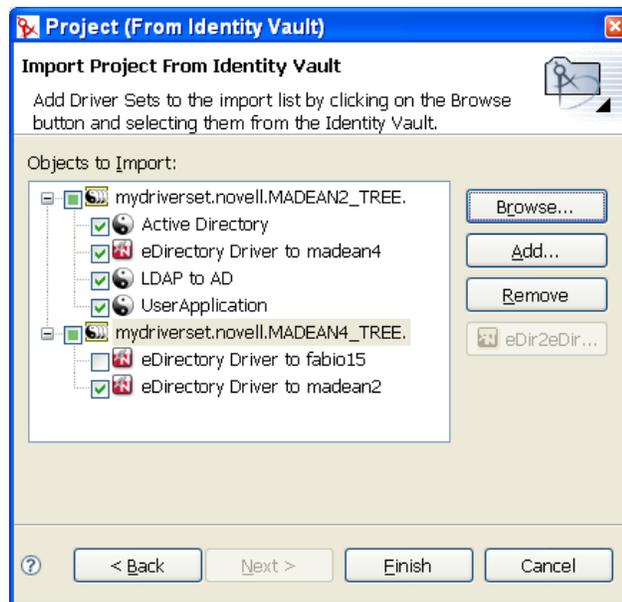
注：サーバに関連付けられていないドライバセットには、そのドライバセットのアイコンの右下に赤い「-」記号が表示されます。こうしたドライバセットを展開するには、サーバを関連付ける必要があります。

- 8 (条件付き) 複数の eDirectory ドライバをインポートする場合は、[Objects to Import (インポートするオブジェクト)] ウィンドウで eDirectory ドライバを選択し、[eDir2eDir] ボタンをクリックして [Connect to Identity Vault (アイデンティティボールドに接続)] ウィンドウを表示します。このウィンドウでは、関連付けられたドライバを他の eDirectory ツリー内にインポートできます。SSL/TLS を有効にした場合は特に、両方の eDirectory ドライバをインポートすることをお勧めします。ユーザ名お

よびパスワードを指定し、[Continue (続行)] をクリックします。(eDirectory ドライバを1つだけインポートする場合は、この手順をスキップします)

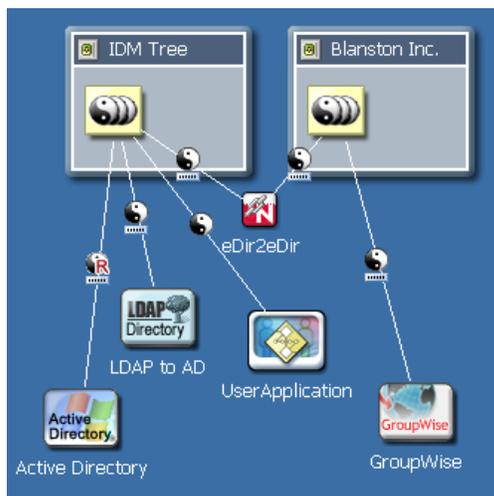


- 9 (条件付き) ユーザ名とパスワードを指定して、[Continue (続行)] を選択して両方の eDirectory ドライバをインポートすると、対応する eDirectory ドライバを選択するための [Browse Identity Vault (アイデンティティボールの参照)] ウィンドウが表示されます。ドライバを選択し、[OK] をクリックします。



[Project (From Identity Vault) (プロジェクト (アイデンティティボールからのプロジェクト))] ウィンドウに戻ったら、ドライバを選択または選択解除して、ドライバセット内のインポート対象ドライバのみを選択できます。

- 10 [Finish (終了)] をクリックします。両方のドライバを使用可能にすることで、選択した他のドライバと同様に、2つの eDirectory ドライバ間のデータフローを完全に表示することができます。



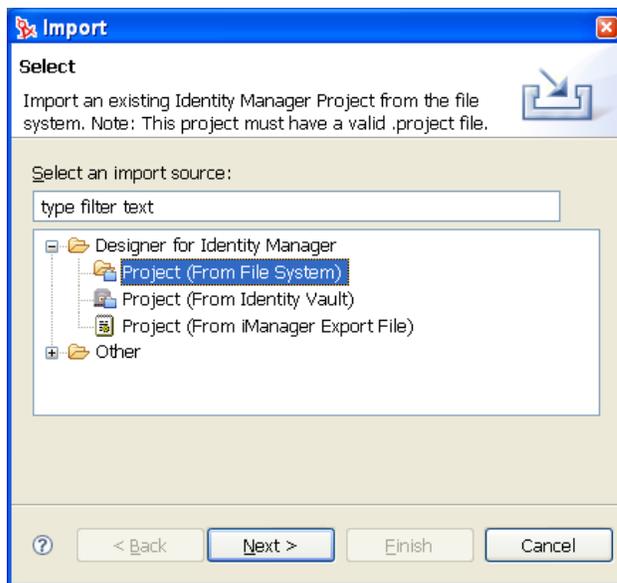
8.1.2 ファイルシステムからのプロジェクトのインポート

- 1 [File (ファイル)] > [Import (インポート)] の順にクリックします。

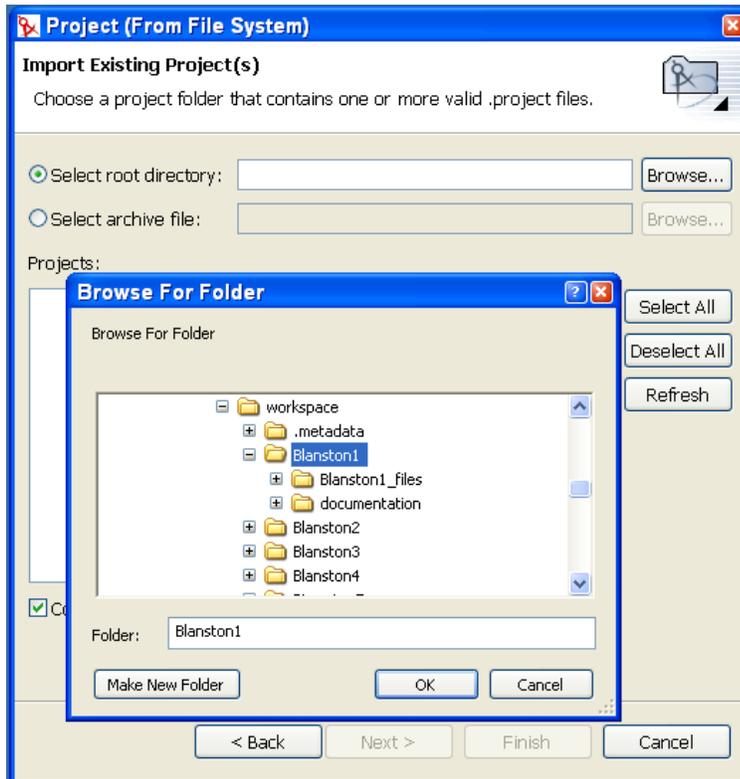
または

[No Projects Available (プロジェクトがありません)] ビューから [Existing Project From File System (ファイルシステムの既存のプロジェクト)] をクリックし、[145 ページのステップ 3](#) へ進みます。

- 2 [Import (インポート)] ウィンドウから、[Designer for Identity Manager (Identity Manager の Designer)] > [Project (From File System) (プロジェクト (ファイルシステムから))] の順に選択し、[Next (次へ)] をクリックします。



- 3 プロジェクトが保存されているディレクトリを入力するか、または参照します。



- 4 エクスポートされたプロジェクトがプロジェクトの拡張子で保存されているディレクトリを選択します。有効なプロジェクトファイルは選択されたディレクトリ内にあるはずですが、ない場合は [Project (プロジェクト)] ウィンドウに表示されません。インポートするプロジェクトが複数あり、それらが同じディレクトリにある場合は、プロジェクトのすぐ上のディレクトリを選択して、[OK] をクリックします。[Project (プロジェクト)] ウィンドウで、任意のプロジェクトを選択または選択解除して、[Finish (終了)] をクリックします。
- 5 ワークステーションのローカルワークスペース内にプロジェクトのコンテンツをコピーするため、[Copy Project into Workspace (ワークスペース内にプロジェクトをコピー)] オプションが選択されていることを確認します。このバージョンよりも古いバージョンのプロジェクトをインポートすると、プログラムはコンテンツをワークスペース内にコピーしませんが、そのプロジェクトがインポートされた場所を指し示します。プロジェクトに行った変更は、ローカルワークスペースではなくインポート先の場所に保存されます。その他のインポートではすべてローカルワークスペースにコピーされるため、少々混乱を招くかもしれません。

[Import Project from File System (ファイルシステムからのプロジェクトのインポート)] 機能を使用して、他のワークスペースからプロジェクトをインポートすることもできます。

検索を開始するベースまたはルートディレクトリを入力することで、複数のプロジェクトを一度にインポートすることもできます。インポートウィザードにより、選択されたディレクトリおよびそのサブディレクトリのすべてで、インポートが可能な Designer プロジェクトが検索されます。その後で、Designer にインポートするプロジェクトを、チェックボックスを使用して選択します。同じ名前のプロジェクトがす

で Designer 内に存在する場合は、そのプロジェクトをインポートできないため、リストから選択することはできません。

- 6 プロジェクトは、ZIP または TAR アーカイブからもインポートできます。[Select archive file (アーカイブファイルの選択)] をクリックして、エクスポートされたプロジェクトが拡張子 .zip または .tar で保存されているディレクトリを選択します。アーカイブ全体で、インポート可能な Designer プロジェクトが検索されます。

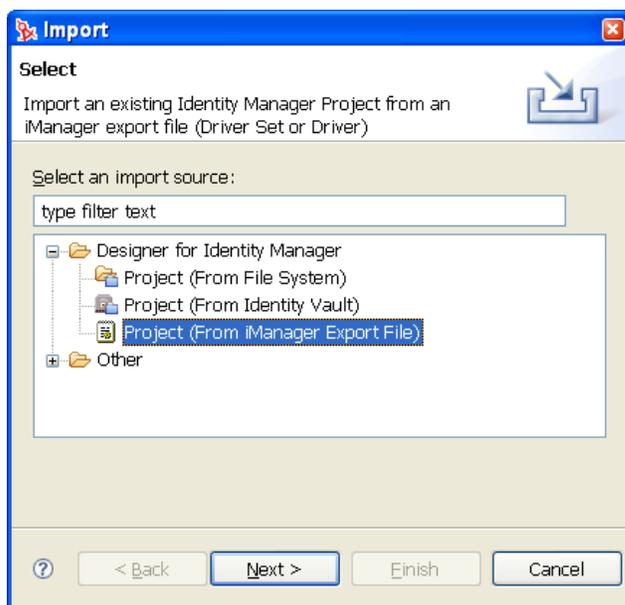
8.1.3 iManager からのプロジェクトのインポート

新しい Designer プロジェクトは、iManager の .xml エクスポートファイルを選択して作成できます。この作業には、Novell® の事前設定済みファイルと同じように、ドライバセットおよびドライバのエクスポートが含まれます。

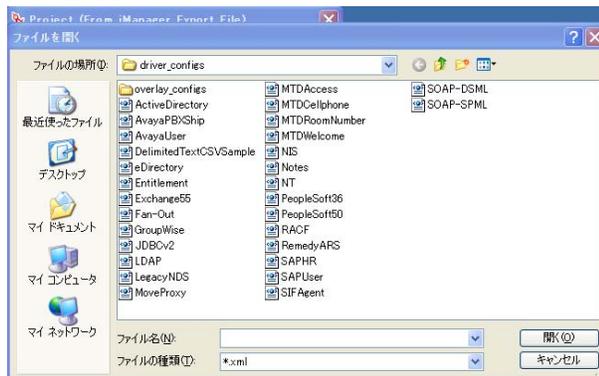
- 1 [File (ファイル)] > [Import (インポート)] > [Designer for Identity Manager (Identity Manager の Designer)] > [Project (From iManager Export File) (プロジェクト (iManager エクスポートファイルから))] の順にクリックします。

または

[No Projects Available (プロジェクトがありません)] ビューから [Project (From iManager Export File) (プロジェクト (iManager エクスポートファイルから))] をクリックし、[145 ページのステップ 3](#) へ進みます。



- 2 プロジェクト名を入力します。プロジェクトでデフォルトの workspace ディレクトリを使用するか、またはプロジェクトをインポートするディレクトリを入力または参照します。[次へ] をクリックします。



- 3 エクスポートされるプロジェクトを拡張子 .xml を付けて保存するディレクトリを選択し、[Open (開く)] をクリックしてから [Finish (終了)] をクリックします。
- 4 ドライバセットまたはドライバをプロジェクトにインポートする場合、インポートしているドライバ内の値を有効にするかどうかを尋ねられます。この時点でドライバ環境設定を有効にしない場合は、[No (いいえ)] をクリックします。
有効にする場合は、[Yes (はい)] をクリックして、プロジェクトのインポートを続行します。ドライバセット内の各ドライバ、または選択された各ドライバに対して表示される、[Import Information Requested (要求された情報のインポート)] ダイアログボックスのすべてに、要求された情報を入力します。
- 5 ドライバセット内の各ドライバ、または選択された各ドライバに対して表示される、[Import Information Requested (要求された情報のインポート)] ウィンドウのすべてに、要求された情報を入力します。[Import Information Requested (要求された情報のインポート)] ウィンドウには、選択された各ドライバからのそれぞれのドライバ情報が含まれます。

8.2 アイデンティティボールトからのドライバセットまたはドライバのインポート

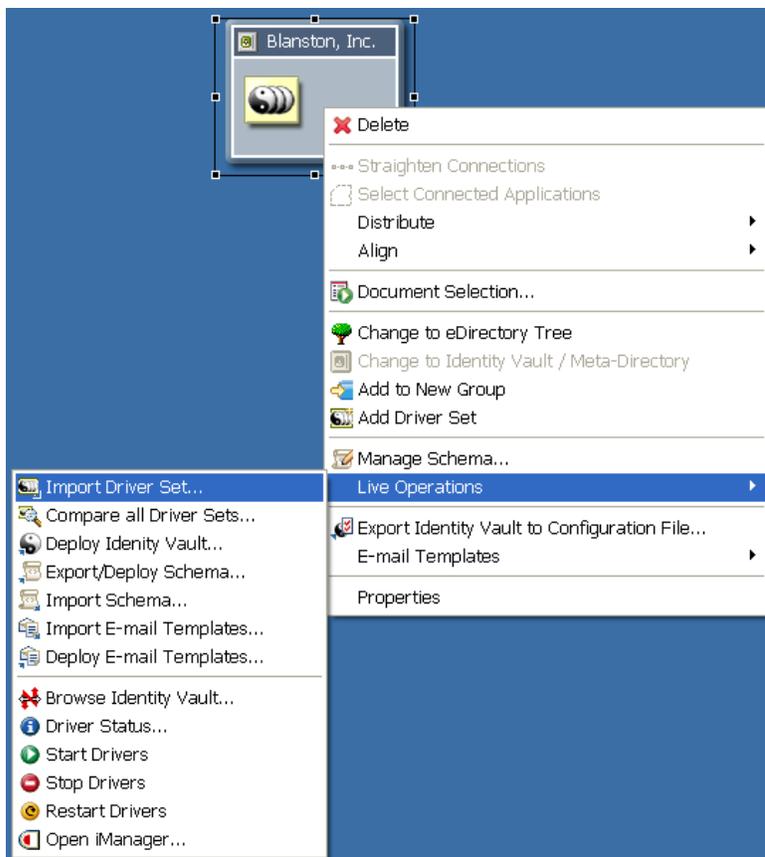
- ◆ 153 ページのセクション 8.2.1 「アイデンティティボールトからのドライバセットのインポート」
- ◆ 158 ページのセクション 8.2.2 「アイデンティティボールトからのドライバのインポート」

eDirectory オブジェクトをインポートするには、アイデンティティボールトに関連付けられている eDirectory ツリーにアクセスする必要があります。

8.2.1 アイデンティティポールのドライバーセットのインポート

Identity Manager ドライバセットオブジェクト (および含まれるすべてのドライバ) を、開発者モードのモデラでアイデンティティポールのインポートするには、次の手順に従います。

- 1 [Modeler (モデラ)] ビューで、アイデンティティポールのアイコンを右クリックして、[Live Operations (ライブ操作)] > [Import Driver Set (ドライバセットのインポート)] の順にクリックします。



- 2 (条件付き) アイデンティティポールの作成時に含まれるドライバーセットが空である場合、選択したアイデンティティポールのドライバーセットアイコンを削除するかどうかを尋ねられます。[Yes (はい)] をクリックします。
- 3 (条件付き) [Modeler (モデラ)] ビューで最初にアイデンティティポールのアイコンを作成したときに認証情報を入力した場合は、[Project (プロジェクト)] ビューの下にある [Properties (プロパティ)] を表示します。選択したアイデンティティポールの認証資格情報を指定し、手順 5 に進みます。
- 4 (条件付き) 認証情報をまだ入力していない場合は、今指定してください。[Identity Vault Credentials (アイデンティティポールの資格情報)] ウィンドウで、ホスト名、ユーザ名およびパスワードの情報を入力します。

接続とユーザ情報に適用される場合は、ドロップダウンリストを使用します。[Save Password (パスワードの保存)] オプションにより、このアイデンティティポールの後に接続する場合にもパスワード情報を維持できます。このオプションを使用しな

い場合は、次回に Designer を開くときにも [Identity Vault Credentials (アイデンティティポールド資格情報)] ウィンドウが表示されます。[OK] をクリックします。

- 5 [Import from eDirectory (eDirectory からのインポート)] ウィンドウで、[Browse (参照)] ボタンをクリックしてドライバセットを参照します。



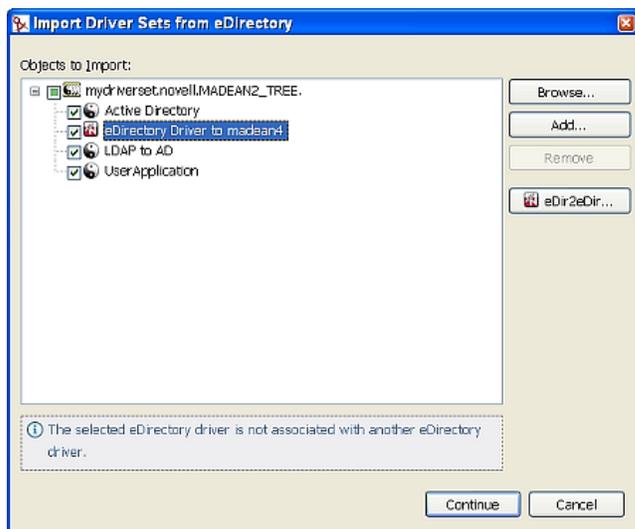
- 6 インポートするドライバセットを選択し、[OK] をクリックして、[Import Driver Set from eDirectory (eDirectory からのドライバセットのインポート)] ウィンドウの [Objects to Import (インポートするオブジェクト)] リストにドライバセットを配置します。その後で、インポートしないドライバを、そのドライバの名前の隣にあるボックスを選択解除することで除外します。ドライバセットを誤って選択した場合は、そのドライバセットを選択して [Remove (削除)] をクリックします。それ以外の場合は、[Continue (続行)] をクリックします。

インポート操作を行うときは、複数のドライバセットをインポートできます。インポートするさまざまなオブジェクトを参照し、それらを [Object to Import (インポートするオブジェクト)] リストに追加するだけです。[Add (追加)] ボタンをクリックしてから、インポートするオブジェクトの識別名を入力することもできます。

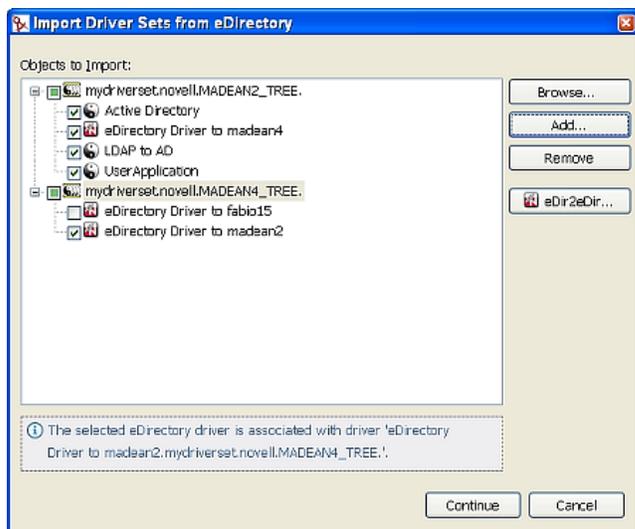
注：サーバに関連付けられていないドライバセットには、そのドライバセットのアイコンの右下に赤い「-」が表示されます。こうしたドライバセットを展開するには、サーバを関連付ける必要があります。

選択した eDirectory ツリーに対してアプリケーションを認証できない場合は、エラーが表示されます。

- 7 (条件付き) 1つまたは複数の eDirectory ドライバをインポートしている場合は、[Objects to Import (インポートするオブジェクト)] ウィンドウでその eDirectory ドライバを選択し、[eDir2eDir] ボタンをクリックします。



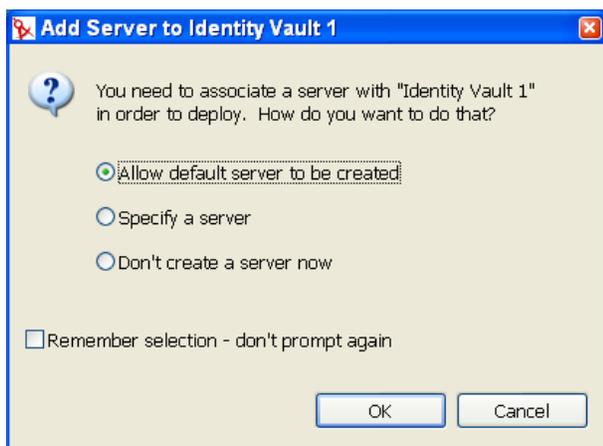
- 8 (条件付き) ユーザ名とパスワードを入力し、[Continue (続行)] をクリックして両方の eDirectory ドライバをインポートすると、対応する eDirectory ドライバを選択するための [Browse Identity Vault (アイデンティティボルトの参照)] ウィンドウが表示されます。ドライバを選択し、[OK] をクリックします。



[Import Driver Sets from eDirectory (eDirectory からのドライバセットのインポート)] ウィンドウに戻ったら、ドライバを選択または選択解除して、インポートするドライバセット内のドライバのみを選択できます。

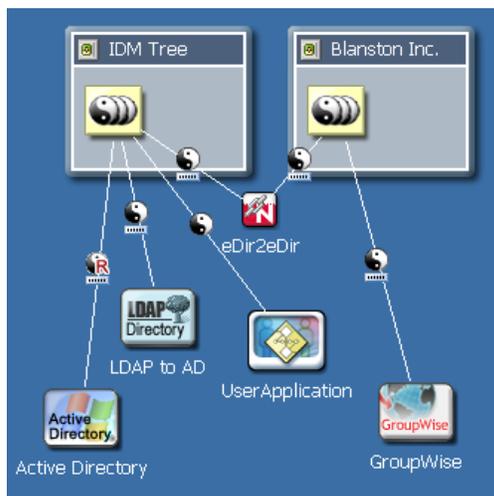
- 9 [Continue (続行)] をクリックします。この操作により、[Import Summary (インポートの概要)] ウィンドウが開き、Designer にインポートしようとしているすべてのドライバセットオブジェクトが表示されます。この概要では、[Compare (比較)] ウィンドウと同じ形式が使用されます (詳細については、[174 ページのセクション 8.5 「比較機能の使用」](#)を参照)。[Import (インポート)] をクリックして続行します。

- 10 (オプション) インポート操作が処理されるときに、サーバをアイデンティティボールドに関連付けるように求められます。

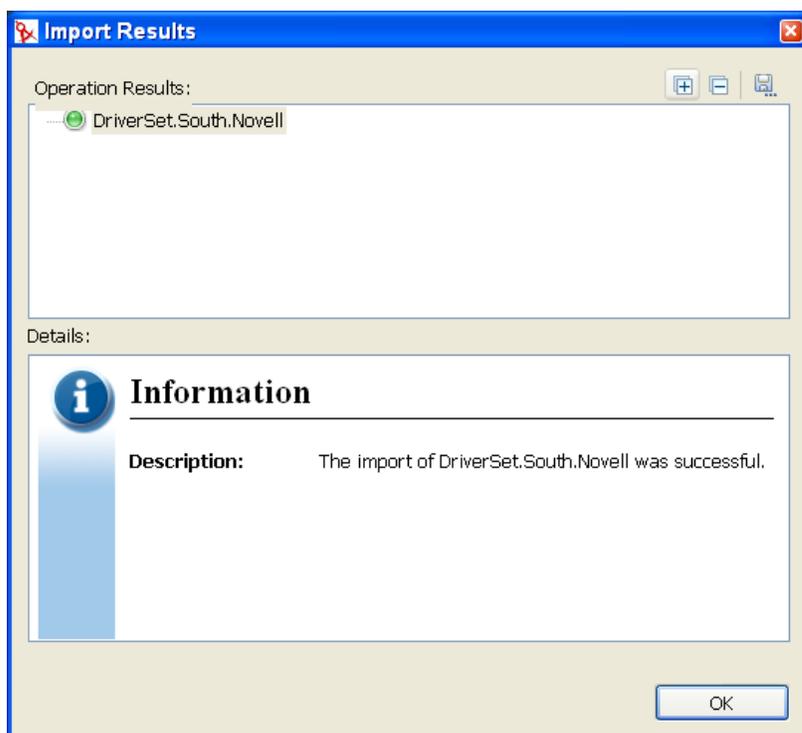


- ◆ [Allow Default Server to Be Create (デフォルトのサーバを作成する)] オプションを選択すると、プロジェクトに実際のサーバを指定するまでの間、グローバル構成値およびこのオブジェクトに関連付けられた他の要素を使用して、ダミーサーバを作成します。ドライバセットを展開する場合は、正しいアイデンティティボールドサーバが指定されていることを確認する必要があります。
 - ◆ [Specify a Server (サーバを指定)] オプションを選択すると、資格情報画面が開き、このプロジェクトのアイデンティティボールドサーバのホストサーバ、ユーザ名およびパスワードを指定できます。
 - ◆ Don't Create a Server Now (今はサーバを作成しない)] オプションを選択すると、このプロジェクトの関連付けをすべてスキップします。このドライバセットを展開する前に、ホスト情報を入力する必要があります。Remember Selection-Don't Prompt Again (選択を保存 - 今後この画面を表示しない)] オプションを選択すると、ここで選択したサーバオプションは保存されるため、次も Designer でアイデンティティボールドとサーバを関連付ける必要がなくなります。
- 11 アクションを設定する場合は、[OK] をクリックしてインポート手順を続行します。

- 12 [Finish (終了)] をクリックします。手順 5 を選択した場合は、選択した他のドライバと同様に、2つの eDirectory ドライバ間のデータフローを完全に表示することができます。



- 13 ドライバセットをインポートすると、[Import Results (インポートの結果)] ウィンドウが表示され、インポート手順に問題があったかどうかが表示されます。

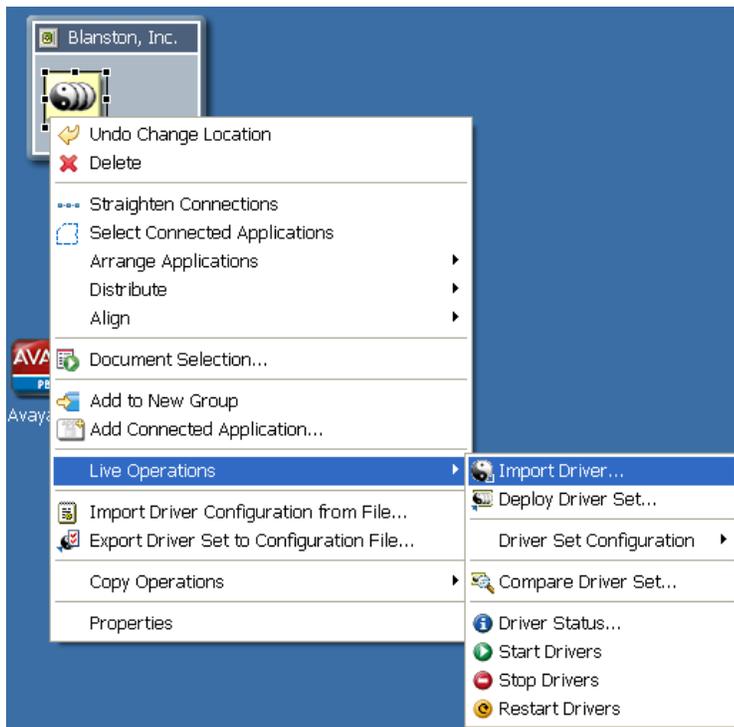


インポート手順でのエラーは、赤いアイコンと共に表示され、操作結果に関連するエラー説明が表示されます。複数のエラーがある場合は、エラーを選択すると、[Details (詳細)] > [Description (説明)] フィールドにエラーの説明が表示されます。詳細については、[436 ページの「エラーメッセージと解決法」](#)を参照してください。[OK] をクリックしてインポートプロセスを終了します。

8.2.2 アイデンティティボールドからのドライバのインポート

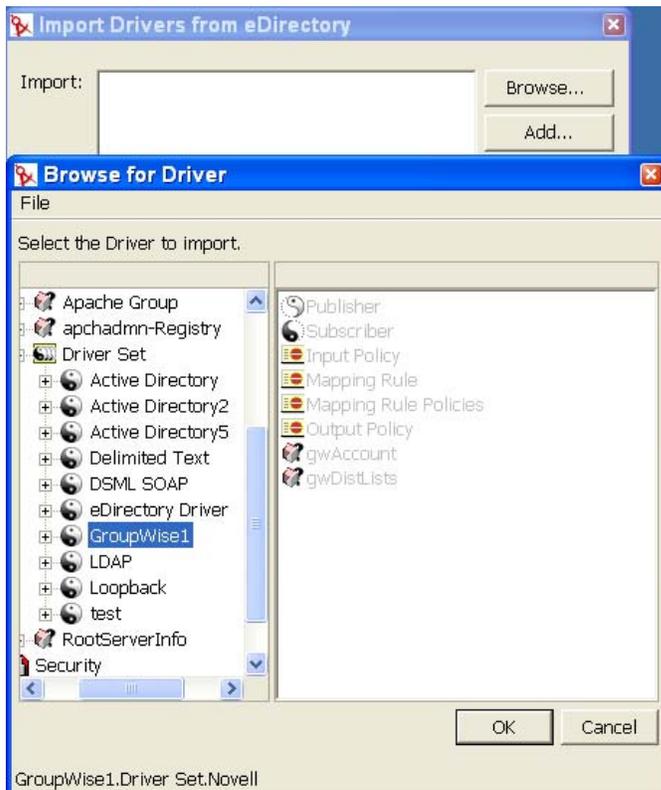
Identity Manager ドライバオブジェクト (およびこのオブジェクトに含まれるすべてのチャンネルとポリシー) をドライバセットに展開するには :

- 1 モデラでアイデンティティボールドを選択します。
- 2 アイデンティティボールドの [Properties (プロパティ)] ビューで認証資格情報が正しいことを確認します。
- 3 アイデンティティボールドでドライバセットオブジェクトを右クリックし、[Live Operations (ライブ操作)] > [Import Driver (ドライバのインポート)] の順に選択します。



- 4 (条件付き) アイデンティティボールドが eDirectory ツリーに認証されていない場合、[Identity Vault Credentials (アイデンティティボールド資格情報)] ウィンドウが表示され、ホスト名、ユーザ名、およびパスワードの入力が求められます。情報を入力して、[Next (次へ)] をクリックします。

- 5 [Import Drivers from eDirectory (eDirectory からのドライバのインポート)] ウィンドウで、[Browse (参照)] をクリックして、eDirectory ツリーからドライバオブジェクトを選択します。



- 6 [OK] をクリックして [Import from eDirectory (eDirectory からのインポート)] ウィンドウにドライバを配置したら、[Continue (続行)] をクリックして [Import Summary (インポートの概要)] ウィンドウを表示します。このウィンドウでは、Designer にインポートしようとしているすべてのドライバオブジェクトを確認できます。この概要では、[Compare (比較)] ウィンドウと同じ形式が使用されますが、オブジェクトをインポートしているため、[Reconcile Action (アクションの調整)] オプションは使用できません (詳細については [174 ページのセクション 8.5 「比較機能の使用」](#) を参照)。

選択した eDirectory ツリーに対してアプリケーションを認証できない場合は、エラーが表示されます。

- 7 [Import (インポート)] をクリックして続行します。
- 8 [Import Results (インポートの結果)] ウィンドウで、インポートが計画どおりに実行された場合は [OK] をクリックします。
- 実行できなかった場合は、操作結果に関するエラー説明を確認します。複数のエラーがある場合は、エラーを選択すると、[Details (詳細)] > [Description (説明)] フィールドにエラーの説明が表示されます。 [436 ページの「エラーメッセージと解決法」](#) を参照してください。

- 9 (条件付き) 1 つまたは複数の eDirectory ドライバをインポートしている場合は、[Objects to Import (インポートするオブジェクト)] ウィンドウでその eDirectory ドライバを選択し、[eDir2eDir] ボタンをクリックします。他の eDirectory ツリーのユーザ名とパスワードを入力し、[Continue (続行)] を選択して両方の eDirectory ドライ

バをインポートすると、対応する eDirectory ドライバを選択するための [Browse Identity Vault (アイデンティティボールの参照)] ウィンドウが表示されます。ドライバを選択し、[OK] をクリックします。[Import Drivers from eDirectory (eDirectory からのドライバのインポート)] ウィンドウに戻ります。

8.3 ドライバ環境設定ファイルのインポート

この機能は、Identity Manager ドライバ環境設定ファイルを、プロジェクト用に選択したドライバセットにインポートする場合に使用します。[Import Driver Configuration from File (ファイルからのドライバ環境設定のインポート)] には「ドライバ」という言葉が使われていますが、実際にはドライバセット、個々のドライバ、ドライバチャンネル、またはポリシーとなる XML 環境設定ファイルがインポートされます。ポリシーのみが含まれるドライバ環境設定ファイルをインポートすると、Designer はチャンネル、ドライバまたはドライバセットなどの親コンテナとなるオブジェクトのフレームワークを作成します。こうした親コンテナオブジェクトには属性がなく、ポリシーが格納されるチャンネル、ドライバ、またはドライバセットのフレームワークのみを提供します。

これらの環境設定ファイルは XML 形式であり、[Export Driver To Configuration File (環境設定ファイルへのドライバのエクスポート)] 機能を使用すると、ローカル、リムーバブル、またはネットワークのディレクトリに保存できます。インポートするドライバ環境設定を選択すると、ドライバの設定およびポリシーの作成に使用されるドライバ固有情報の指定を求めるメッセージが表示されます。エクスポートされた .xml ファイルは、Identity Manager 2.0.2 以降の iManager ドライバ環境設定ファイルのプラグインで使用するファイルと互換性があります。そのため、環境設定ファイルを Designer からエクスポートして、これらのファイルを iManager または Designer のインポート機能を使用してインポートできます。

[Driver Configuration from File (ファイルからのドライバ環境設定のインポート)] オプションは、バックアップの方法として使用できます。たとえば、Active Directory ドライバ内のポリシーグループで作業している場合に、[Export Driver to Configuration File (環境設定ファイルへのドライバのエクスポート)] を使用して、作業内容をバックアップできます。その際、エクスポートファイルに日付を追加することで、これをもとに Active Directory ドライバに使用するドライバ環境設定を選択できるようになります。不具合が発生した場合に、ベースドライバをインポートしなおすことができます。このエクスポート/インポート機能は、作業中のポリシーだけをエクスポートおよびインポートする場合にも使用できます。

ファイルからドライバ環境設定をインポートする方法には次の 3 つがあります。

- ◆ 160 ページのセクション 8.3.1「ファイルシステムからの Identity Manager プロジェクトのインポート」
- ◆ 161 ページのセクション 8.3.2「[Modeler (モデラ)] ビューのファイルからのドライバ環境設定のインポート」
- ◆ 163 ページのセクション 8.3.3「[Outline (アウトライン)] ビューでファイルからドライバ環境設定をインポート」

8.3.1 ファイルシステムからの Identity Manager プロジェクトのインポート

[Import an Identity Manager Project from File System (ファイルシステムからの Identity Manager プロジェクトのインポート)] オプションでは、[Export (エクスポート)] >

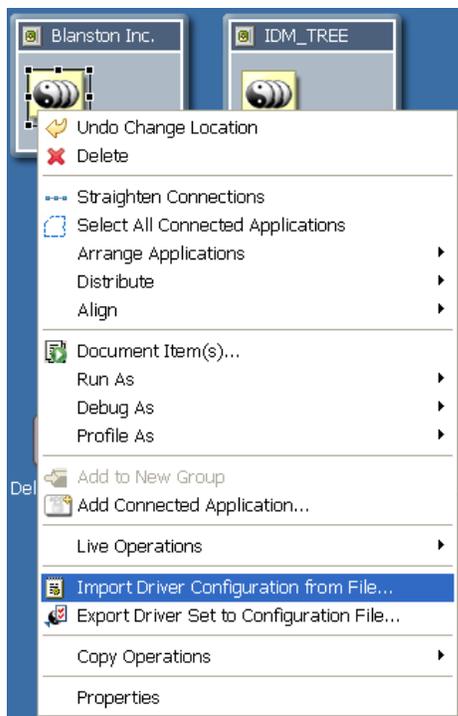
[File System (ファイルシステム)] オプションを使用してファイルシステムに保存された Identity Manager プロジェクトをインポートできます。プロジェクトには、完全なインポートを実施するプロジェクトの有効な .project ファイル、および付随するファイル構造が含まれている必要があります。このトピックは、[149 ページのセクション 8.1.2 「ファイルシステムからのプロジェクトのインポート」](#) で説明されています。

8.3.2 [Modeler (モデラ)] ビューのファイルからのドライバ環境設定のインポート

ドライバ環境設定ファイルには、1 つまたは複数のドライバ環境設定を含めることができます。以前にエクスポートした環境設定ファイル、または Designer に付属している事前設定された .xml ドライバ環境設定のいずれかをインポートできます。

1 つまたは複数の Identity Manager ドライバ環境設定を含むドライバ環境設定ファイルをドライバセットにインポートするには：

- 1 [モデラ] ビューでアイデンティティボールドを選択します。
- 2 アイデンティティボールドでドライバセットオブジェクトを右クリックし、[Import Driver Configuration from File (ファイルからのドライバ環境設定のインポート)] を選択します。

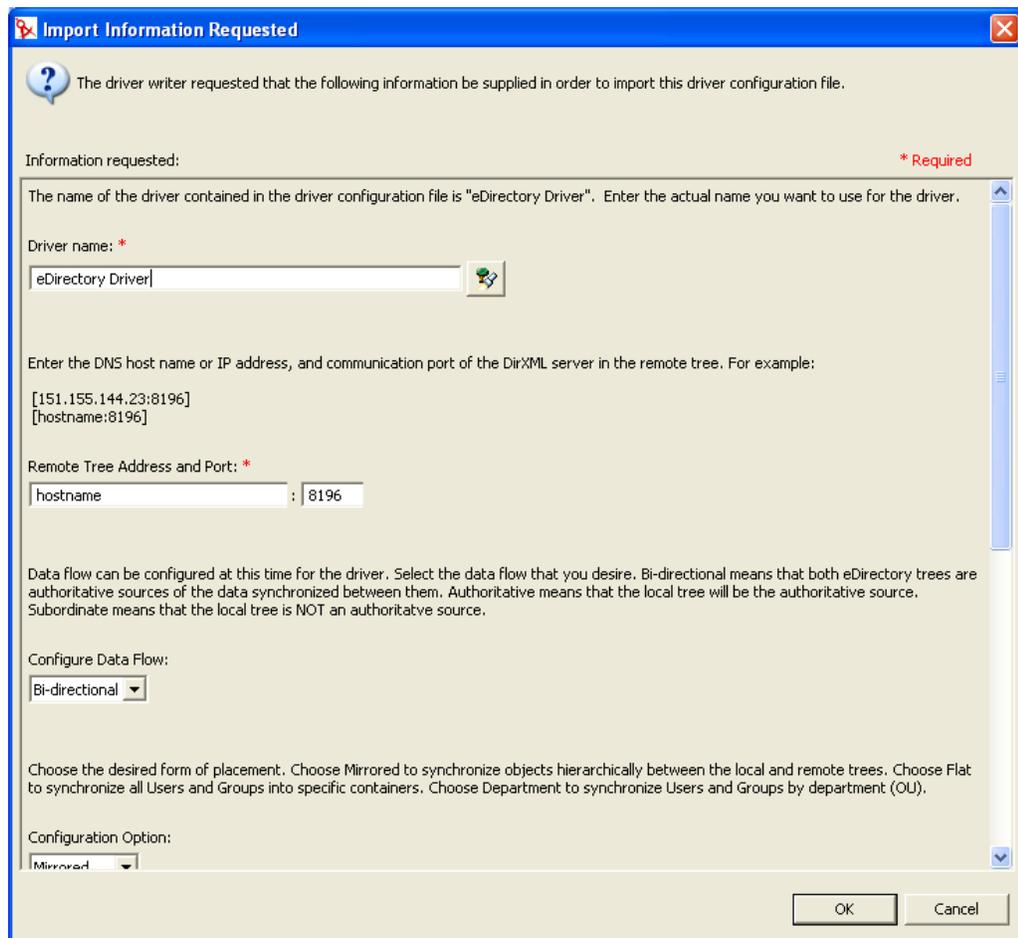


- 3 [Import a Driver Configuration from File (ファイルからのドライバ環境設定のインポート)] ウィンドウで、環境設定ファイルの名前を入力するか、.xml ファイルを参照して選択します。

参照機能を使用すると、Designer はデフォルトで、Designer に付属している Identity Manager ドライバテンプレートが保存されている、Windows ワークステーション上の C:\Program Files\Novell\Designer\eclipse\plugins\com.novell.designer.idm_2.0.0.x\defs\driver_configs

ディレクトリを参照します。Linux ワークステーションの場合、デフォルトドライバは C:\home\username\designer\eclipse\plugins\com.novell.designer.idm_2.0.0.x\defs\driver_configs ディレクトリに保存されます (idm_2.0.0 に続く「x」の数字は、Designer のビルド番号です)。これらのドライバファイルのいずれかを使用するか、またはエクスポートされた環境設定ファイルを含むディレクトリを参照できます。

- 4 ドライバ環境設定ファイルの [Import Information Requested (要求された情報のインポート)] に入力して、インポートの内容を指定します。



入力形式はさまざまで、選択したドライバ環境設定によって異なります。ファイルが保存されている場合は、ドライバ名のみを指定します。ドライバ単体またはドライバのコレクション(ドライバセット)をインポートできます。ドライバセットをインポートする場合は、[Import Information Requested (要求された情報のインポート)] をインポート対象の各ドライバごとに指定します。

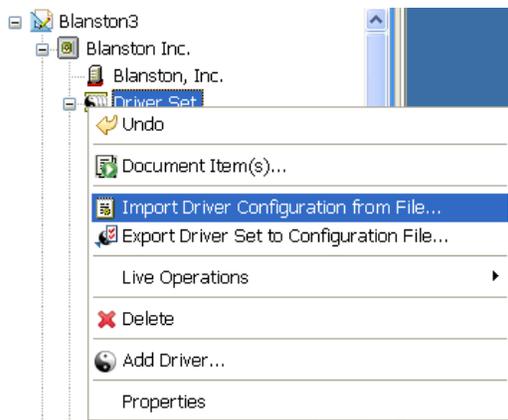
注: [Import Wizard (インポートウィザード)] ダイアログで要求された情報を入力しなかった場合、ドライバ環境設定は完了しません。完了しない場合、エクスポートされたドライバも不完全なものになります。エクスポートしたドライバ環境設定ファイルに対し、環境設定ウィザードを使用しないでください。ウィザードを使用すると、[Import Information Requested (要求された情報のインポート)] フォームが開きますが、このフォームはデフォルトのドライバファイルから呼び出されたものであるため、エクスポートしたドライバファイルが上書きされてしまいます。

- 5 [OK] をクリックします。[Import Configuration Results (環境設定インポートの結果)] ウィンドウで、[OK] をクリックします。

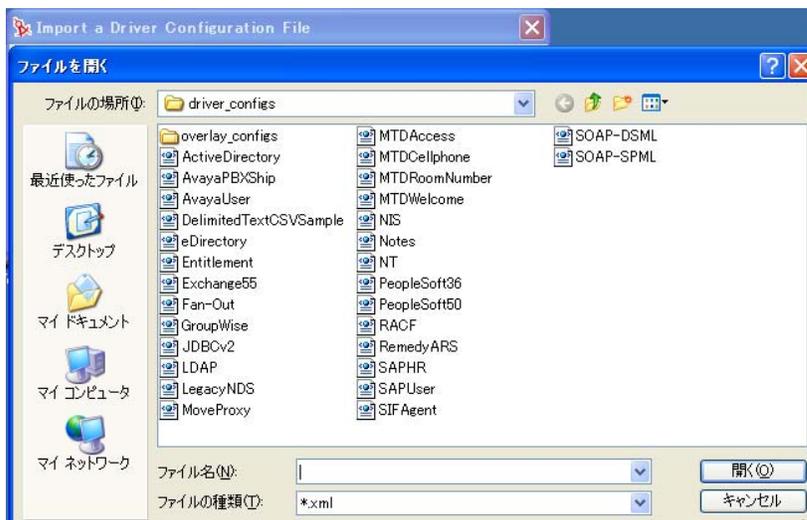
8.3.3 [Outline (アウトライン)] ビューでファイルからドライバ環境設定をインポート

[Outline (アウトライン)] ビューを使用して、ドライバセット、ドライバ、チャネル、およびポリシーの設定ファイルをファイルシステムからインポートできます。

- 1 [Project (プロジェクト)] ビューでプロジェクト名の下に [System Model (システムモデル)] アイコンをダブルクリックします。この操作により、[Modeler (モデラ)] ビューにプロジェクトモデルが表示されます。
- 2 [Outline (アウトライン)] タブをクリックします。
- 3 ドライバセットオブジェクトを右クリックして、[Import Driver Configuration from File (ファイルからのドライバ環境設定のインポート)] を選択します。



- 4 [OK] をクリックします。
- 5 [Import a Driver Configuration from File (ファイルからのドライバ環境設定のインポート)] ウィンドウで、環境設定ファイルの名前を入力するか、.xml ファイルを参照して選択します。

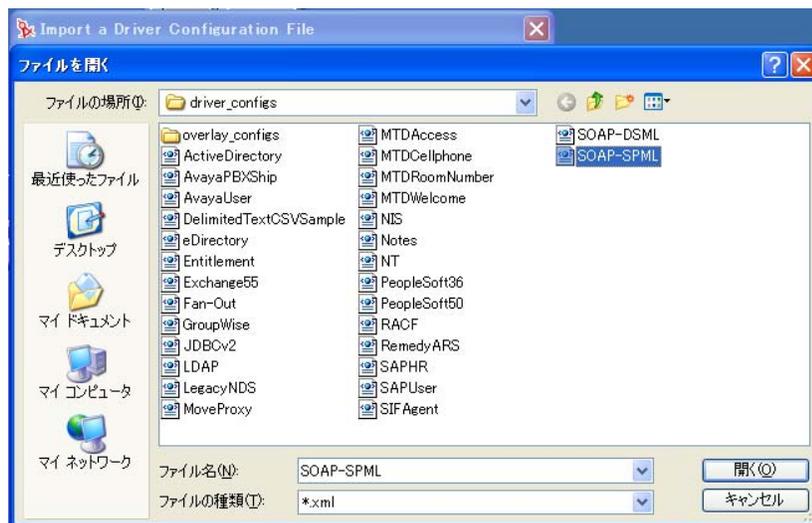


エクスポート機能を介して、ドライバセットまたはドライバオブジェクトの名前が使用されます。この例では、エクスポートされた LDAP ドライバが使用され、すぐにインポートされます。

- 6 [開く] をクリックし、[OK] をクリックして設定ファイルをインポートします。

ドライバセットにポリシーをインポートする

- 1 [Outline (アウトライン)] ビューで、[ドライバセット] アイコンをクリックして、[Import a Driver Configuration from File (ファイルからのドライバ環境設定のインポート)] をクリックします。
- 2 [Import a Driver Configuration from File (ファイルからのドライバ環境設定のインポート)] ウィンドウで、環境設定ファイルの名前を入力するか、.xml ファイルを参照して選択します。

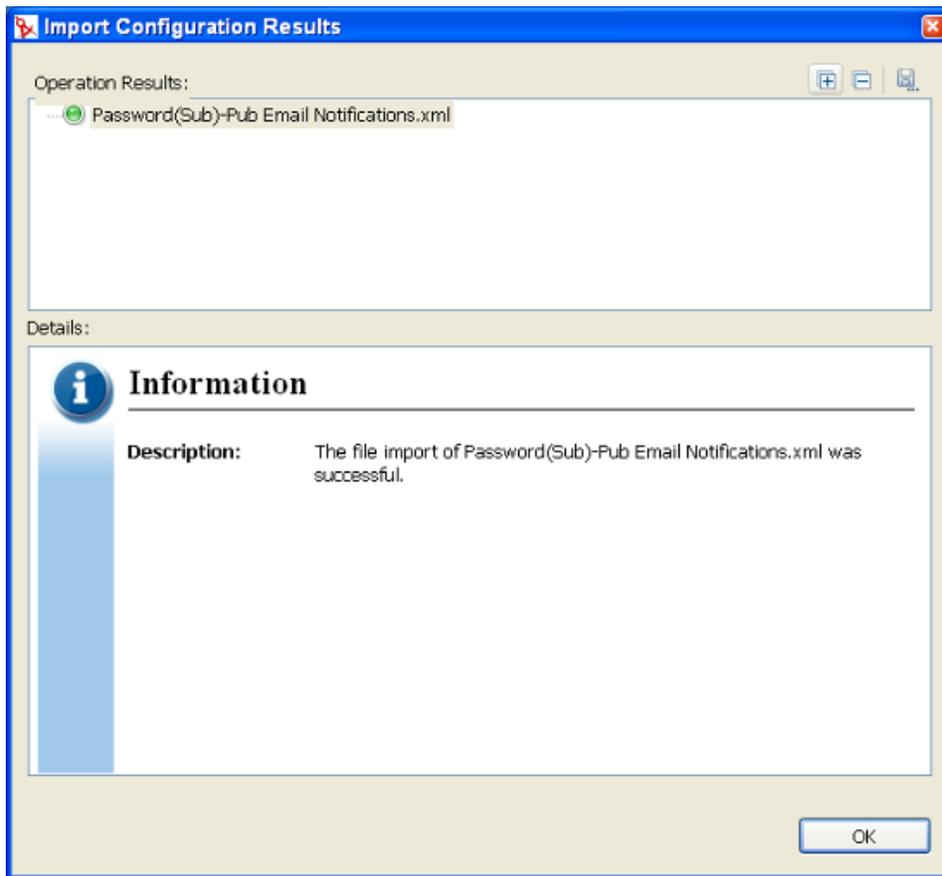


- 3 [開く] をクリックし、[保存] をクリックして、選択したポリシーをインポートします。

各ポリシーは、独自の .xml ファイルに保存されます。デフォルトでは、選択したポリシーまたはルールの名前が使用されます。

- 4 [Perform Prompt Validation (プロンプト検証の実行)] ウィンドウで、必要なドライバ情報を入力するかどうかを尋ねるメッセージが表示されます。[はい] と答えると、ステップ 5 で説明するように [Import Information Requested (要求された情報のインポート)] ダイアログボックスが表示され、必須フィールドすべてに値を設定する必要があります。[いいえ] と答えても、[Import Information Requested (要求された情報のインポート)] ダイアログボックスが表示されますが、必須情報を入力する必要はありません。
- 5 必要に応じてドライバ設定ファイルの情報のインポートフォームに入力して、インポートを完了します。ポリシーは、スケルトンドライバ環境設定構造で保存されます。この構造がポリシーの常駐場所を示します。この場合は、ドライバがすでに存在しているので、そのドライバ向けのインポート済みポリシーが最初に書き込まれています。

- 6 ポリシーまたはルールをインポートすると、[Import Configuration Results (環境設定インポートの結果)] ウィンドウが表示され、インポート手順に問題があったかどうかが表示されます。



インポート手順でのエラーは、赤いアイコンと共に表示され、操作結果に関連するエラー説明が表示されます。複数のエラーがある場合は、エラーを選択すると、[詳細] > [説明] フィールドにエラーの説明が表示されます。詳細については、[436 ページの「エラーメッセージと解決法」](#)を参照してください。

- 7 [OK] をクリックしてインポートプロセスを終了し、[Import Configuration Results (環境設定インポートの結果)] ウィンドウを閉じます。

8.4 アイデンティティボルトからのチャネル、ポリシー、スキーマ項目のインポート

チャネルとは、ルールとポリシーの組み合わせであり、Designer では、ドライバ全体ではなくチャネルにインポートできます。購読者チャネルと発行者チャネルは、それぞれ情報フローの方向を示しています。購読者チャネルは、eDirectory からイベントを受け取り、そのイベントをアプリケーション、データベース、.CSV ファイルなどの受信側システムに送信します。発行者チャネルは、アプリケーション、データベース、.CSV ファイルなどからイベントを受け取り、そのイベントを eDirectory に送信します。購読者チャネルと

発行者チャンネルはお互い独立しているので、一方のチャンネル上でのアクションは、もう一方のチャンネルには影響を与えません。

- ◆ 166 ページのセクション 8.4.1 「チャンネルのインポート」
- ◆ 169 ページのセクション 8.4.2 「ポリシーのインポート」
- ◆ 171 ページのセクション 8.4.3 「スキーマのインポート」

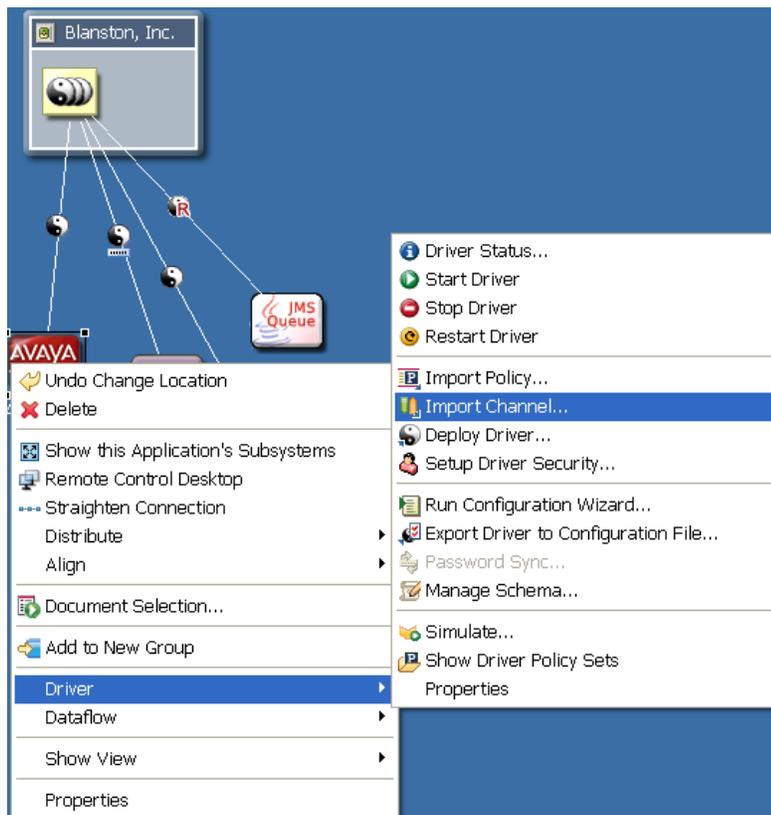
8.4.1 チャンネルのインポート

Identity Manager チャンネル (購読者チャンネルまたは発行者チャンネル) オブジェクト (および含まれているすべてのポリシー) をドライバにインポートする

- 1 [Modeler (モデラ)] ビューでドライバオブジェクトまたはアプリケーションオブジェクトを選択します。ドライバオブジェクトは、アイデンティティポータルとアプリケーションオブジェクトの間にあるラインで表され、そのライン上に円形のアイコンが表示されます。アプリケーションオブジェクトは、ドライバオブジェクトを介してアイデンティティポータルに接続します。
- 2 ドライバオブジェクトを右クリックして、[Live Operations (ライブ操作)] > [Import Channel (チャンネルのインポート)] の順にクリックします。

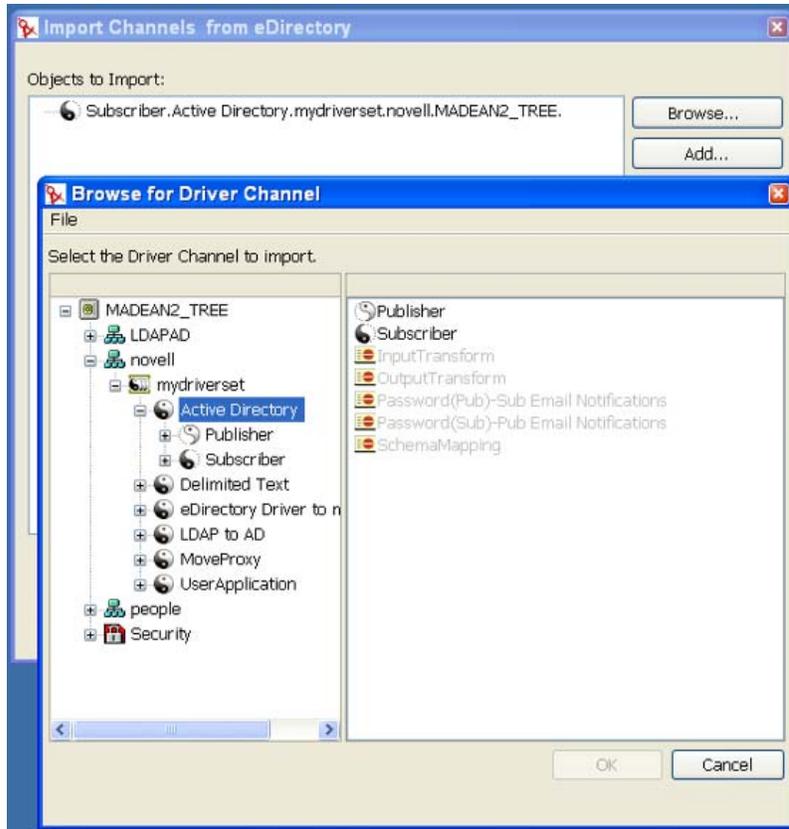
または

アプリケーションオブジェクトを右クリックして、[ドライバ] > [Import Channel (チャンネルのインポート)] の順にクリックします。



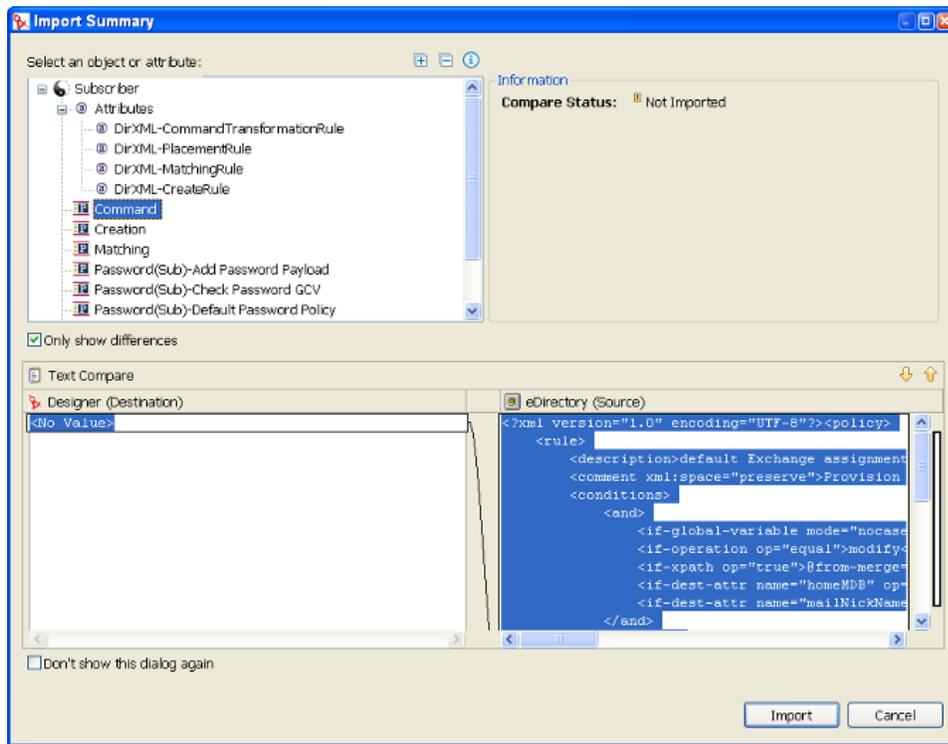
Designer では、アイデンティティポルトで指定されている eDirectory ツリーに対して認証できないときに、前に認証資格情報を指定していない場合やパスワードを保存していない場合は、[Identity Vault Credentials (アイデンティティポルト資格情報)] ウィンドウが表示されます。適切な情報を入力して [OK] をクリックします。

- 3 [Import Channels from eDirectory (eDirectory からのチャンネルのインポート)] ウィンドウで、対応するドライバの下の eDirectory ツリーから発行者または購読者チャンネルオブジェクトを参照して選択します。複数のチャンネルを一度にインポートできます。たとえば、両方のチャンネルをインポートする場合は、一方のチャンネルを選択して [OK] をクリックした後、次のチャンネルを参照し、それを選択して [OK] をクリックします。



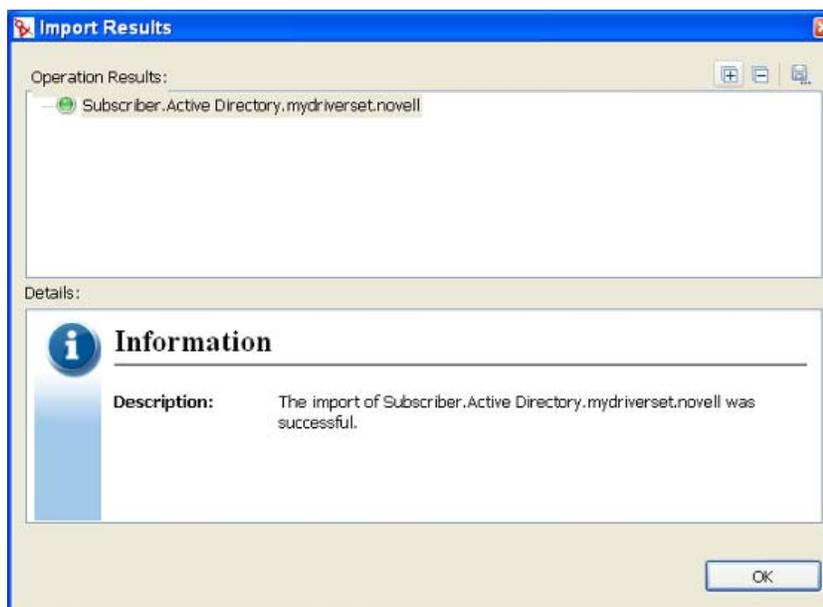
- 4 [続行] をクリックします。

- 5 チャンネルをインポートすると、[Import Summary (インポートの概要)] ウィンドウが表示され、eDirectory (インポート元) と Designer (インポート先) の相違点が表示されます。



チャンネル内のこの異なるオブジェクトをクリックすると、2つのドライバの違いを確認できます。すべてのチャンネル情報は、インポート手順によって上書きされますが、その他のドライバには影響はありません。[インポート] をクリックします。

比較の詳細については、[174 ページのセクション 8.5 「比較機能の使用」](#) を参照してください。



インポート手順で問題が発生した場合、そうした問題は [Import Results (インポートの結果)] ウィンドウに赤いアイコンと共に表示され、操作結果に関連するエラー説明が表示されます。複数のエラーがある場合は、エラーを選択すると、[詳細] > [説明] フィールドにエラーの説明が表示されます。詳細については、[436 ページの「アイデンティティポールの環境設定エラー」](#)を参照してください。

6 [OK] をクリックしてインポートプロセスを終了します。

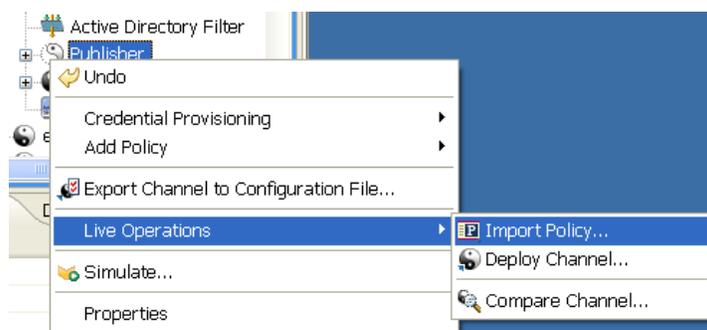
8.4.2 ポリシーのインポート

ポリシーとはルールと引数のコレクションであり、アプリケーションと eDirectory との受信データを変換できるようにするものです。ポリシーを使用して、eDirectory や接続システムから受信するデータを操作します。各ドライバでさまざまなタスクが実行され、ポリシーによって、データを操作してそれらのタスクを実行する方法がドライバに伝えられます。

何よりもポリシーのインポート機能を使用する可能性があります。たとえば、どのアプリケーションからの情報であっても、“Manager” というタイトルのユーザを特定のコンテナに配置できるようポリシーを設定したり、この情報を複数のドライバに配置することができます。ただし、各アプリケーションは異なるため、ポリシー内で引数およびルールを変更して、そうした違いを反映させる必要があります。ポリシーの詳細については、『[ポリシービルダとドライバのカスタマイズガイド](#)』を参照してください。

eDirectory ポリシーオブジェクト (たとえば、ルールまたはスタイルシート) をドライバまたはチャンネル (購読者または発行者) にインポートする

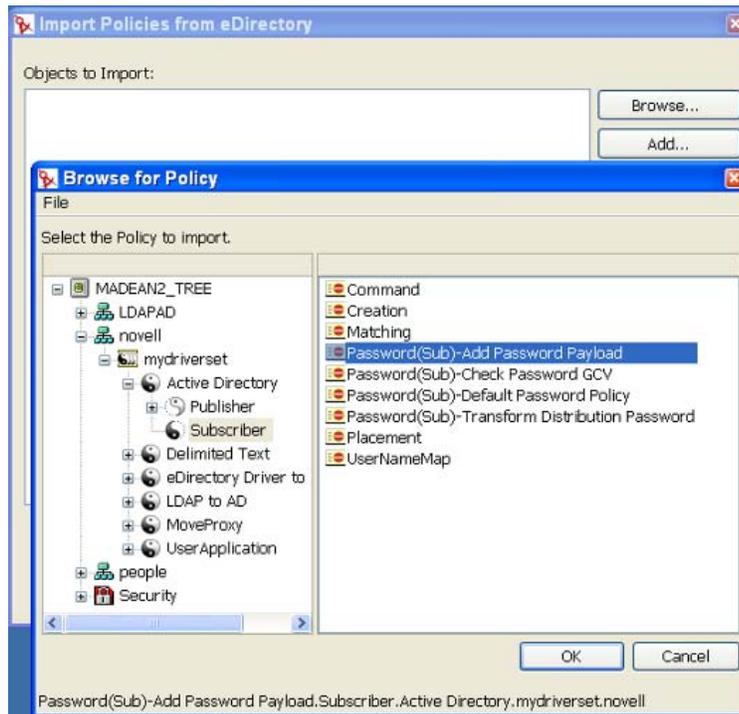
- 1 [Modeler (モデラ)] ビューでドライバを選択するか、[Outline (アウトライン)] タブをクリックして [Outline (アウトライン)] ビューからドライバオブジェクトまたはチャンネルオブジェクトを選択します。
- 2 選択したアイデンティティポールの [プロパティ] ビューで認証資格情報が正しいことを確認します。
- 3 ドライバオブジェクトまたはチャンネルオブジェクトを右クリックして、[Live Operations (ライブ操作)] > [ポリシーのインポート] の順にクリックします。



アプリケーションでは eDirectory ツリーに対して認証できないときに、前に認証資格情報を指定していない場合やパスワードを保存していない場合は、[Identity Vault Credentials (アイデンティティポールの資格情報)] ウィンドウが表示され、ホスト名、ユーザ名、およびパスワードの入力が求められます。適切な情報を入力して [OK] をクリックします。

- 4 [Import Policies from eDirectory (eDirectory からのポリシーのインポート)] ウィンドウで、[追加] をクリックし、ポリシー識別名を [追加] ウィンドウに入力して、[OK] をクリックします。

[参照] をクリックして、ポリシーオブジェクトを eDirectory ツリーから選択します。ポリシーは、選択したドライバの発行者または購読者チャンネルの下またはドライバの下にあります。必ず適切なポリシーと適切なチャンネルまたはドライバオブジェクトとを対応させてください。



- 5 [OK] をクリックし、[続行] をクリックしてポリシーをインポートします。

[Import Summary (インポートの概要)] ウィンドウが表示され、eDirectory (インポート元) と Designer (インポート先) の相違点が示されます。ポリシー内のこの異なるオブジェクトをクリックすると、2つのドライバの違いを確認できます。選択したすべてのポリシー情報は、インポート手順によって上書きされますが、その他のドライバには影響はありません。

- 6 [インポート] をクリックします。

インポート元ポリシーに Designer のポリシーと同じ値が含まれている場合は、そのポリシーをインポートすることはできません。(比較機能の詳細については、[174 ページのセクション 8.5 「比較機能の使用」](#)を参照してください。)

この操作により、[Import Results (インポートの結果)] ウィンドウが表示されます。インポート手順で問題が発生した場合、そうした問題は赤いアイコンと共に表示され、操作結果に関連するエラー説明が表示されます。複数のエラーがある場合は、それぞれのエラーを選択すると、[詳細] > [説明] フィールドにエラーの説明が表示されます。詳細については、[436 ページのセクション 19.4.3 「エラーメッセージと解決法」](#)を参照してください。

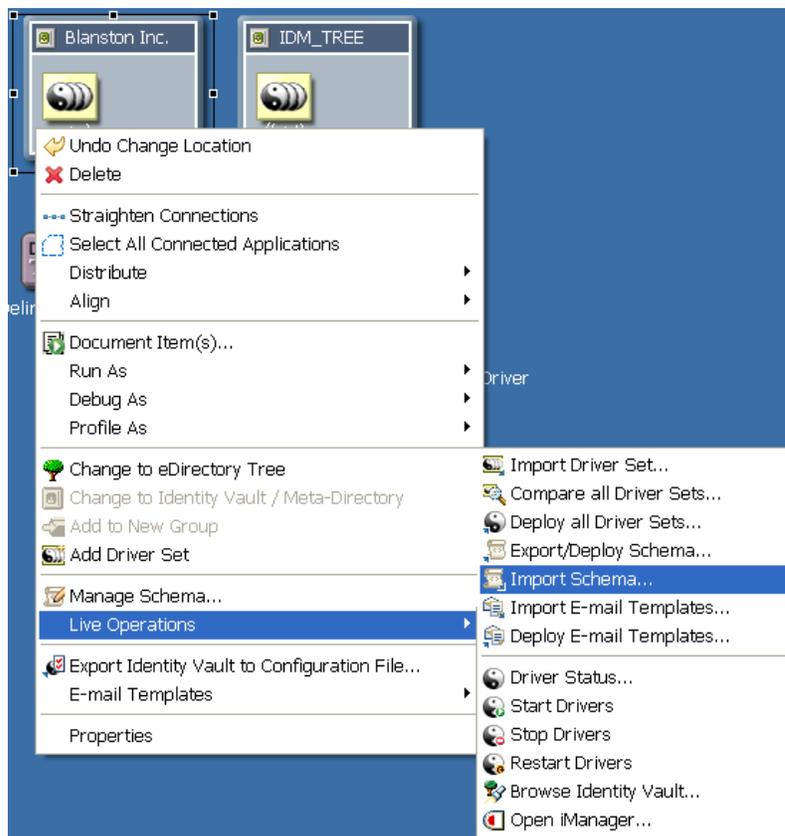
- 7 [OK] をクリックしてインポートプロセスを終了します。

- 8 ポリシーの設計の詳細については、Designer ユーティリティの Policy Builder およびポリシー管理に関するヘルプトピックを参照してください。『ポリシービルダとドライバのカスタマイズガイド』も参照してください。

8.4.3 スキーマのインポート

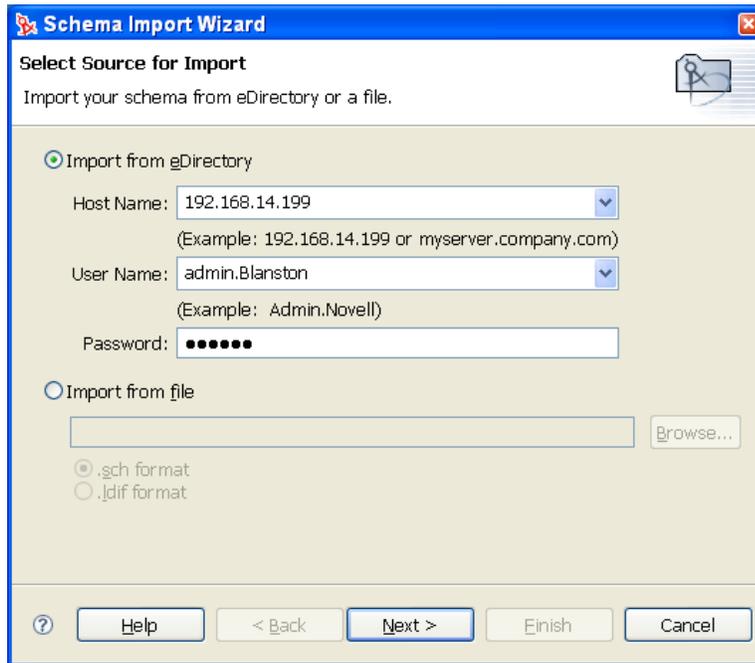
アイデンティティボールドまたは .sch ファイルからスキーマをプロジェクトにインポートできます。スキーマをインポートする場合は、アイデンティティボールドスキーマ全体を選択する (非推奨) か、アイデンティティボールドとプロジェクトとのスキーマの相違点だけを選択することができます。

- 1 Designer の [Modeler (モデラ)] ビューでプロジェクトを開きます。アイデンティティボールドを右クリックして、[Live Operations (ライブ操作)] > [Import Schema (スキーマのインポート)] の順にクリックします。



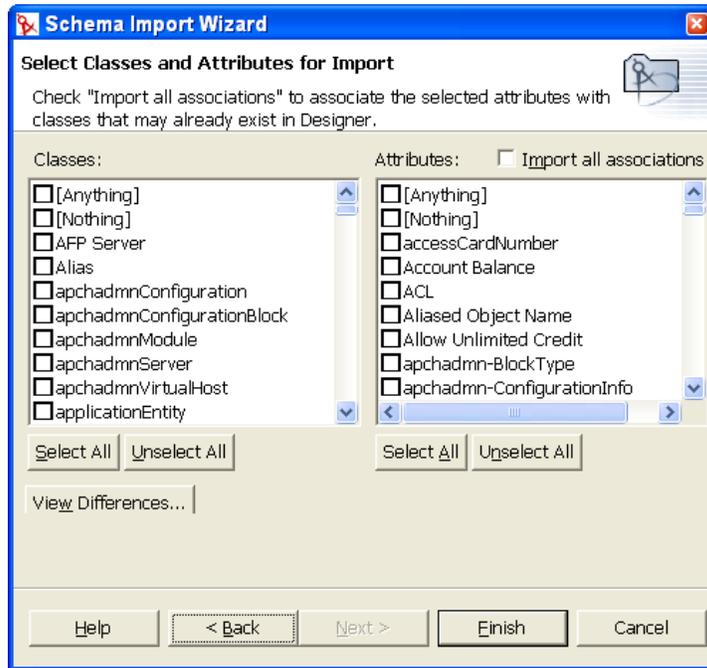
- 2 [Select Source for Import (インポートするソースの選択)] ページで、実際のアイデンティティボールドに接続している場合は [Import from eDirectory (eDirectory からインポート)] を選択し、スキーマファイルをローカルに保存 ([参照] ボタンを使用し

て .sch または .ldif 形式のファイルの場所を指定) した場合は [Import from File (ファイルからインポート)] を選択します。

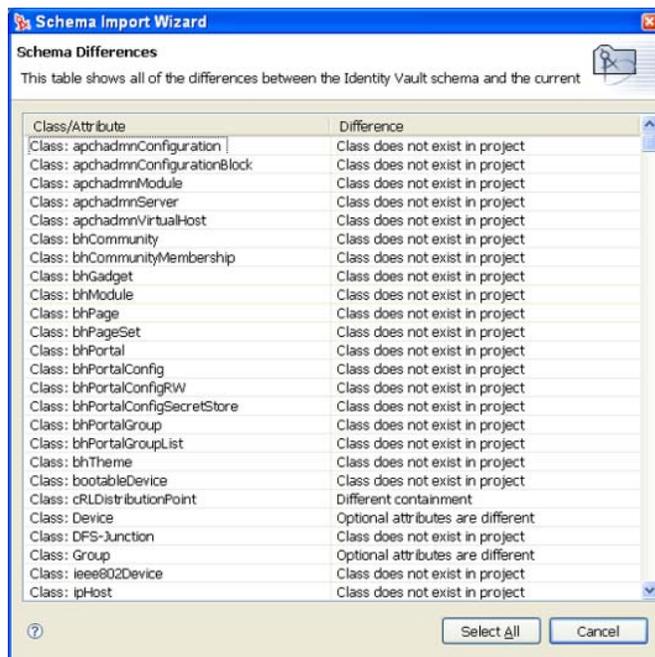


- 3 [Import from eDirectory (eDirectory からインポート)] の選択に基づいて、接続情報としてホスト名、ユーザ名、およびパスワードを入力します。
[ホスト名] および [ユーザ名] のエントリには、これらのフィールドに最後に入力した情報を保存するドロップダウンメニューがあり、こうしたエントリの入力に利用できます。
- 4 [次へ] をクリックします。
- 5 インポートするクラスと属性を決定します。[Select Classes and Attributes for Import (インポートするクラスと属性の選択)] ページで、クラスや属性をはじめとする、アイデンティティポールのスキーマのすべてを選択できます。ただし、このようにすると、プロジェクトを文書化したときにドキュメントが非常に大きくなります (600 ページ以上。この問題の詳細については、[450 ページのセクション 19.5 「ドキュメント生成時の問題」](#)を参照してください)。すべてのクラスと属性をインポートする場合は、[すべて選択] をクリックし、[終了] をクリックして、ステップ 8 にスキップします。

インポートするクラスと属性だけを選択します。アイデンティティボールドとプロジェクトとのスキーマの相違点だけをインポートする場合は、[View Differences (相違点の表示)] をクリックし、ステップ 5 に進みます。



- 6 [Schema Differences (スキーマの相違点)] ページに、アイデンティティボールドとプロジェクトとのスキーマの違いが表示されます。



- 7 スキーマの相違点をインポートするだけの場合は、[すべて選択] をクリックします。それ以外の場合は、[キャンセル] をクリックします。

- 8 [すべて選択] を選択すると、[Select Classes and Attributes for Import (インポートするクラスと属性の選択)] ページに戻り、[Classes (クラス)] および [Attributes (属性)] 見出しでスキーマの相違点がオンにされた状態で表示されます。デフォルトでは、[Import All Associations (すべての関連付けのインポート)] ボックスも選択されています。このチェックボックスをオンにしたまま [終了] をクリックします。[Check Differences (相違点のチェック)] ページの [キャンセル] を選択した場合は、ここでスキーマを選択して [終了] をクリックします。
- 9 [Schema Import Wizard (スキーマインポートウィザード)] ウィンドウで、[OK] をクリックします。
相違点をログファイルに保存する場合は、[Save to Log (ログに保存)] をクリックします。この操作により、[名前を付けて保存] ダイアログボックスが表示され、ファイルを保存する際のファイル名とディレクトリを選択できます。
- 10 [保存]、[OK] の順にクリックします。

8.5 比較機能の使用

Designer の比較機能を使用すると、プロジェクトに格納されているドライバセット、ドライバ、チャンネル、ポリシーの各要素と、展開済みシステムで実行されている同じ各要素との間で相違点を確認し、Designer 側または eDirectory 側との相違点を調和させることができます。旧バージョンの Designer では、ドライバのインポート時にしか競合解消機能を提供していませんでした。インポート時に、更新するドライバのポリシーを選択することはできましたが、既存の値と新しい値の相違点を表示することはできませんでした。

Designer 1.2 では、オブジェクト単位の競合解消が可能であり、ドライバセット、ドライバ、チャンネル、ポリシーをインポートおよび展開する際に、既存の値と新しい値を表示することができます。たとえば、Designer 内のドライバオブジェクトをアイデンティティボールド内の既存のドライバオブジェクトにインポートする前に、比較を実行できます。比較では、各ドライバオブジェクトが等しいのか (アクションは不要)、等しくないのかが表示されます。等しくない場合は、ドライバオブジェクトの相違点をそのままにしておく、Designer 側のドライバオブジェクトを更新する、eDirectory 側のドライバオブジェクトを更新する、のうちいずれかを選択できます。

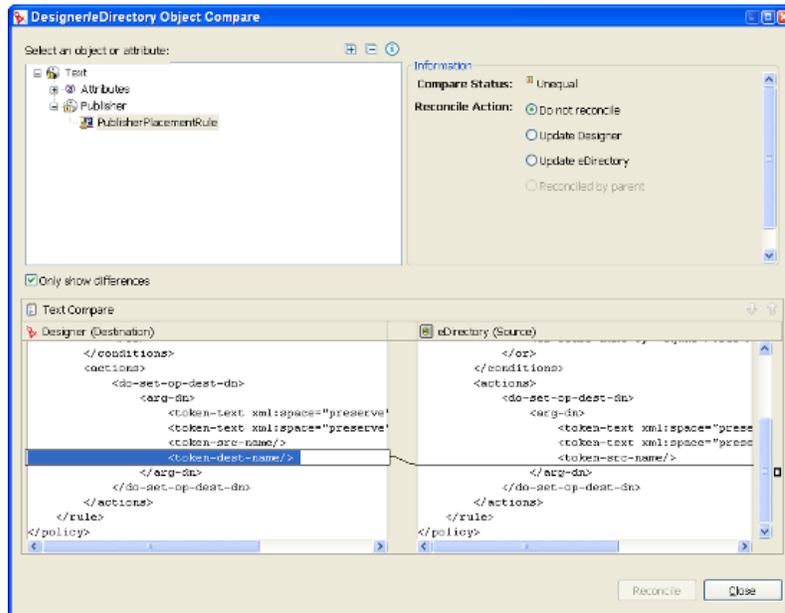
- ◆ 174 ページのセクション 8.5.1 「ドライバオブジェクトをインポートするときに比較を使用する」
- ◆ 177 ページのセクション 8.5.2 「チャンネルオブジェクトでの比較の使用」
- ◆ 177 ページのセクション 8.5.3 「ポリシーでの比較の使用」
- ◆ 178 ページのセクション 8.5.4 「属性と Designer のプロパティとの照合」

8.5.1 ドライバオブジェクトをインポートするときに比較を使用する

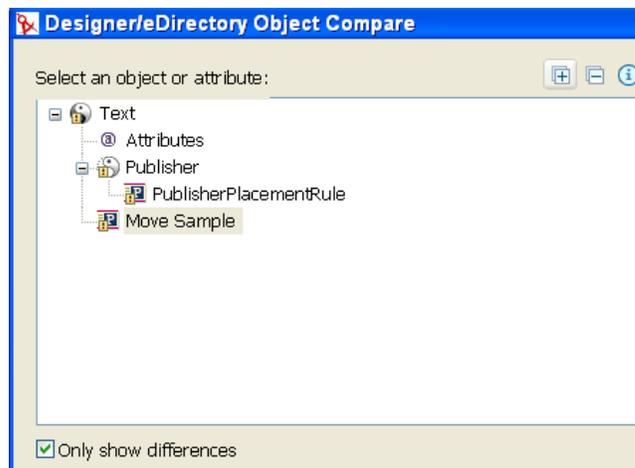
アイデンティティボールド内のドライバオブジェクトと Designer 内に存在する同じドライバをインポートするとします。

- 1 [Modeler (モデラ)] ビューまたは [Outline (アウトライン)] ビューで、ドライバオブジェクトを右クリックします。[Live Operations (ライブ操作)] > [Compare Driver (

ドライバの比較) の順に選択して、[Designer/eDirectory Object Compare (Designer/eDirectory オブジェクト比較)] ウィンドウを表示します。

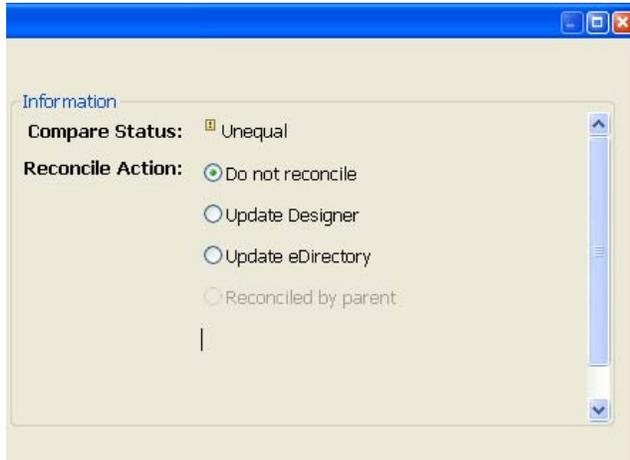


[Select an object or attribute (オブジェクトまたは属性を選択)] で、選択したオブジェクトが Designer のドライバオブジェクトと eDirectory のドライバオブジェクトとの相違点と共に表示されます。属性または子オブジェクトを選択すると、[Text Compare(テキスト比較)] 領域に実際の相違点が表示されます。



[Select an object or attribute (オブジェクトまたは属性を選択)] の右側にあるプラスアイコンをクリックすると、親オブジェクト内のすべての要素が展開表示され、マイナスアイコンをクリックするとすべての要素が縮小表示されます。[i] ボタンをクリックすると、[Summary/Compare (比較の概要)] ダイアログボックスのヘルプが表示されます。サーバ固有の属性とは、特定のドライバセットに関連付けられた各サーバ固有の属性のことです。これらの属性は [属性] リストに表示されます。属性名の右側の括弧内に表示されているのはサーバ名です。

- 2 [比較] ウィンドウには、デフォルトでは、eDirectory と Designer とで異なるオブジェクト値だけが表示されます。すべてのオブジェクト値を表示するには、[Only Show Differences (相違点のみを表示)] チェックボックスをオフにします。
- 3 等しい値には、[情報] の [Compare Status (ステータスの比較)] 行に [Equal (一致)] と表示されます。



以下の表に、[Compare Status (ステータスの比較)] 行の意味について説明します。

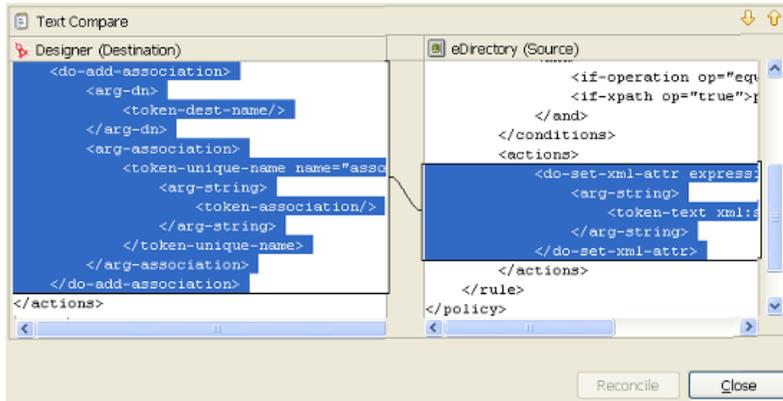
比較ステータス	説明
等しい	選択した属性の値または選択したオブジェクトのすべての属性が、eDirectory と Designer で一致しています。
Unequal (不一致)	選択した属性の値または選択したオブジェクトの 1 つ以上の属性が、eDirectory と Designer で異なっています。
Not Deployed (未展開)	選択したオブジェクトまたは選択した属性を含むオブジェクトが、eDirectory に展開されていません。
Not Imported (未インポート)	選択したオブジェクトまたは選択した属性を含むオブジェクトが、Designer 内に存在しません。

オブジェクトと属性ツリーに表示されたオーバーレイ画像は、調和を必要とするオブジェクトまたは属性を表します。

- 4 [比較] ウィンドウの [情報] 部分で、[Source (ソース)] と [Destination (ターゲット)] 間の相違を調和させる方法を選択します。[Compare Status (比較ステータス)] に [Unequal (不一致)] と表示されている場合は、3 つの選択肢があります。最初は、何もせず、デフォルトの [Do Not Reconcile (調和させない)] をそのまま使用する選択肢です。2 つ目は、eDirectory 側のドライバと同じ情報になるように Designer 側のドライバを更新する選択肢 [Update Designer (Designer を更新)] です。3 つ目は、Designer 側のドライバに対して行った変更内容を eDirectory 側のドライバに反映させる選択肢 [Update eDirectory (eDirectory を更新)] です。

親オブジェクトを選択して更新を実行すると、その親オブジェクトの下の子オブジェクトも選択され、[Reconciled By Parent (親単位で調和)] ボタンがオンになります。親オブジェクトを選択しない場合は、各子オブジェクトを個別に調和できません。

- 5 [Designer/eDirectory Object Compare (Designer/eDirectory オブジェクト比較)] ウィンドウの最下部に表示される [Text Compare (テキスト比較)] 値は、比較対象のオブジェクトによって変わります。たとえば、[比較] では、ポリシーレベルを下げた変更が表示されます。[Text Compare (テキスト比較)] ダイアログボックスでは、Eclipse Compare(比較) エディタを使用して、XML データを含む属性を比較します。コード内の相違点は青で強調表示されます。



- 6 相違点を確認したら、[Reconcile (調和)] をクリックして、ツリー内のオブジェクトごとに調和アクションを実行します。または、[閉じる] をクリックして、[Designer/eDirectory Object Compare (Designer/eDirectory オブジェクト比較)] 画面を閉じます。一度調和されたら、オブジェクトは両方の位置に適合し、調和アクションを介してインポートまたは展開された状態になります。

8.5.2 チャネルオブジェクトでの比較の使用

アイデンティティポールのチャネルオブジェクトと Designer 内に存在する同じチャネルオブジェクトをインポートするとします。相違点を表示して、それらを調和するかどうかを決定できます。

- 1 [Outline (アウトライン)] ビューで、チャネルオブジェクトを右クリックします。[Live Operations (ライブ操作)] > [Compare Channel (チャネルの比較)] を選択して、[Designer/eDirectory Object Compare (Designer/eDirectory オブジェクト比較)] ウィンドウを表示します。

各比較ウィンドウの動作は、174 ページのセクション 8.5.1 「ドライバオブジェクトをインポートするときに比較を使用する」で説明したとおりです。

- 2 一度調和されたら、チャネルオブジェクトは両方の位置に適合し、調和アクションを介してインポートまたは展開された状態になります。

8.5.3 ポリシーでの比較の使用

アイデンティティポールのポリシーオブジェクトと Designer 内に存在する同じチャネルオブジェクトをインポートするとします。相違点を表示して、それらを調和するかどうかを決定できます。

- 1 [Outline (アウトライン)] ビューで、ポリシーオブジェクトを右クリックします。[Live Operations (ライブ操作)] > [Compare Policy (ポリシーの比較)] を選択して、

[Designer/eDirectory Object Compare (Designer/eDirectory オブジェクト比較)] ウィンドウを表示します。

各比較ウィンドウの動作は、174 ページのセクション 8.5.1 「ドライバオブジェクトをインポートするときに比較を使用する」で説明したとおりです。

- 一度調和されたら、ポリシーオブジェクトは両方の位置に適合し、調和アクションを介してインポートまたは展開された状態になります。

8.5.4 属性と Designer のプロパティとの照合

オブジェクトの属性は 1 つのリストで表示されます。属性を選択すると、その値が属性リストの下に、Designer 値が左側に、eDirectory 値が右側に表示されます。リストに表示された名前は eDirectory 属性の名前です。

次のテーブルは、eDirectory 属性を Designer のプロパティページやコントロールにマッピングします。このテーブルで属性を変更または設定できます ([比較] ウィンドウ内では変更できません)。178 ページの表 8-1 には eDirectory ドライバセット属性が、178 ページの表 8-2 には eDirectory ドライバ属性が、180 ページの表 8-3 には eDirectory チャンネル属性が表示されます。

表 8-1 eDirectory ドライバセット属性

eDirectory ドライバセット属性	Designer のプロパティ
DirXML-DriverTraceLevel	Driver Set Properties (ドライバセットのプロパティ)-> トレース -> ドライバトレースレベル
DirXML-XSLTraceLevel	Driver Set Properties (ドライバセットのプロパティ)-> トレース ->XSL トレースレベル
DirXML-JavaDebugPort	Driver Set Properties (ドライバセットのプロパティ)-> トレース ->Java デバッグポート
DirXML-JavaTraceFile	Driver Set Properties (ドライバセットのプロパティ)-> トレース ->Java トレースファイル
DirXML-TraceSizeLimit	Driver Set Properties (ドライバセットのプロパティ)-> トレース -> トレースファイルのサイズ制限
DirXML-LogLimit	Driver Set Properties (ドライバセットのプロパティ)->Driver Set Log Level (ドライバセットのログレベル)->Log Limit (ログ制限)
DirXML-LogEvents	Driver Set Properties (ドライバセットのプロパティ)->Driver Set Log Level (ドライバセットのログレベル)-> 特定のイベントを記録
DirXML-ConfigValues	Driver Set Properties (ドライバセットのプロパティ)-> グローバル 構成値

表 8-2 eDirectory ドライバ属性

eDirectory ドライバ属性	Designer のプロパティまたはビュー
DirXML-InputTransform	[Policy Set (ポリシーセット)] ビュー -> 入力変換

eDirectory ドライバ属性	Designer のプロパティまたはビュー
DirXML-OutputTransform	[Policy Set (ポリシーセット)] ビュー -> 出力変換
DirXML-MappingRule	[Policy Set (ポリシーセット)] ビュー -> スキーマのマッピング
DirXML-Driver Filter	[Policy Set (ポリシーセット)] ビュー -> ドライバフィルタ
DirXML-ConfigValues	Driver Properties (ドライバのプロパティ)-> グローバル構成値
DirXML-DriverTraceLevel	Driver Properties (ドライバのプロパティ)->Driver Log Level (ドライバのログレベル)->Driver Log Level (ドライバのログレベル)
DirXML-LogEvents	Driver Properties (ドライバのプロパティ)->Driver Log Level (ドライバのログレベル)-> 特定のイベントを記録
DirXML-LogLimit	Driver Properties (ドライバのプロパティ)->Driver Log Level (ドライバのログレベル)->Log Limit (ログ制限)
DirXML-ConfigManifest	Driver Properties (ドライバのプロパティ)-> ドライバマニフェスト
DirXML-JavaModule	Driver Properties (ドライバのプロパティ)-> ドライバ環境設定 -> ドライバモジュール: Java
DirXML-NativeModule	Driver Properties (ドライバのプロパティ)-> ドライバ環境設定 -> ドライバモジュール: ネイティブ
DirXML-DriverImage	Driver Properties (ドライバのプロパティ)->iManager アイコン
DirXML-TraceLevel	Driver Properties (ドライバのプロパティ)-> トレース -> トレースレベル
DirXML-TraceFile	Driver Properties (ドライバのプロパティ)-> トレース -> トレースファイル
DirXML-TraceSizeLimit	Driver Properties (ドライバのプロパティ)-> トレース -> トレースファイルのサイズ制限
DirXML-TraceName	Driver Properties (ドライバのプロパティ)-> トレース -> トレース名
DirXML-DriverCacheLimit	Driver Properties (ドライバのプロパティ)-> ドライバ環境設定 -> 認証 -> ドライバのキャッシュ上限
DirXML-ShimAuthID	Driver Properties (ドライバのプロパティ)-> ドライバ環境設定 -> 認証 -> ユーザ ID
DirXML-ShimAuthServer	Driver Properties (ドライバのプロパティ)-> ドライバ環境設定 -> 認証 -> 接続情報
DirXML-ShimAuthPassword	Driver Properties (ドライバのプロパティ)-> ドライバ環境設定 -> 認証 ->Set Password (パスワードの設定)
DirXML-ShimConfigInfo	Driver Properties (ドライバのプロパティ)-> ドライバ環境設定 -> ドライバ環境設定 -> ドライバパラメータ
DirXML-DriverStartOption	Driver Properties (ドライバのプロパティ)-> ドライバ環境設定 -> 起動オプション

表 8-3 eDirectory チャンネル属性

eDirectory チャンネル属性	Designer のビュー
DirXML-EventTransformationRule	[Policy Set (ポリシーセット)] ビュー -> イベント変換
DirXML-MatchingRule	[Policy Set (ポリシーセット)] ビュー -> 一致
DirXML-CreateRule	[Policy Set (ポリシーセット)] ビュー -> 作成
DirXML-PlacementRule	[Policy Set (ポリシーセット)] ビュー -> 配置
DirXML-CommandTransformation	[Policy Set (ポリシーセット)] ビュー -> コマンド変換

8.6 エラーメッセージと解決法

ファイルのインポートや展開に関連するエラーメッセージおよび考えられる解決法を表示するには、[432 ページのセクション 19.4 「Identity Manager オブジェクトの展開」](#)を参照してください。

エンタイトルメント

Identity Manager を使用すると、接続システム間でデータを同期できます。エンタイトルメントにより、ユーザまたはグループに対する条件を設定できます。条件が一致すれば、接続システム内のビジネスリソースへのアクセス権を付与したり、取り消したりするイベントを開始します。これにより、1 レベル上の制御を可能にし、リソースの付与および取り消しを自動化できます。

Designer を使用して、エンタイトルメントを作成し、既存の Identity Manager ドライバに展開します。Designer を使用すると、エンタイトルメントを作成できるグラフィカルインタフェースであるエンタイトルメントウィザードの示すプロセス手順に従って、エンタイトルメントを作成できます。グラフィカルインタフェースがあるため、エンタイトルメントの作成および編集には Designer を使用することをお勧めします。

エンタイトルメントの機能には、設計、作成、および管理というエンタイトルメント作業を効率よく行うための 3 つの特徴があります。

- ◆ 181 ページのセクション 9.1 「エンタイトルメントの設計」
- ◆ 185 ページのセクション 9.2 「エンタイトルメントウィザードを介したエンタイトルメントの作成」
- ◆ 198 ページのセクション 9.3 「エンタイトルメントの編集と表示」
- ◆ 203 ページのセクション 9.4 「エンタイトルメントの管理」

9.1 エンタイトルメントの設計

エンタイトルメントで何を実行したいのかを事前に知っておく必要があります。エンタイトルメントは、ポリシーを介して Identity Manager ドライバに組み込んだ機能から動作します。これらのドライバポリシーによって、ルールが実装され、アイデンティティポータルと接続システムとの間でイベントが処理されます。Identity Manager ドライバのポリシーで何をするかを指定しない場合、エンタイトルメントは機能しません。たとえば、コマンドポリシーの [Check User Modify for Group Membership (グループメンバシップのユーザ変更を確認する)] ルールの [action (アクション)] セクションを指定しない場合、グループメンバシップエンタイトルメントの付与または取り消しの試行は無視されます。

すべての接続システムリソースに対する付与および取り消しの機能を正しく設計するためには、Identity Manager で何を実行するのかを知っておく必要があります。次の 4 つのステップの手順は、エンタイトルメントの作成および使用の計画に役立ちます。

1. ビジネスの場で何を実行する必要があるのかを知っておきます。Identity Manager を介して多くのビジネスソリューションを設計および実装できますが、定義されていない機能を実装する前に、何をしたいのかを知っておく必要があります。何をしたいのかに関する番号付きリストを作成します。
2. 番号付きリストの 1 つのポイントを表すエンタイトルメントを定義します。値のないエンタイトルメントと値のあるエンタイトルメントを作成できます。値のあるエンタイトルメントでは、外部クエリから値を取得できます。管理者が定義した形式にすることも、自由形式にすることもできます。185 ページのセクション 9.2 「エンタイトルメントウィザードを介したエンタイトルメントの作成」に例を示しています。

3. Identity Manager ドライバにポリシーを追加し、設計されたエンタイトルメントを実装します。Identity Manager ドライバ用のポリシーを作成するには、接続システムでの情報の処理方法や受信方法、および Novell® eDirectory™ に情報を保存する方法について、XSLT または DirXML® スクリプトに精通している必要があります。優れた DirXML のプログラマでない限り、これはコンサルタントの仕事です。
4. エンタイトルメントを付与または取り消すための管理エージェントを設定します。自動処理にする場合、役割ベースエンタイトルメントを使用します。手動処理にする場合、ユーザアプリケーションのワークフローベースのプロビジョニング機能を使用します。『Identity Manager 3.0 インストールガイド』の「Identity Manager のインストールプログラムおよびサービス」を参照してください。
 - ◆ 182 ページのセクション 9.1.1 「用語」
 - ◆ 182 ページのセクション 9.1.2 「エンタイトルメントの必要条件」
 - ◆ 183 ページのセクション 9.1.3 「エンタイトルメントをサポートする、設定済みの Identity Manager ドライバ」
 - ◆ 184 ページのセクション 9.1.4 「Identity Manager ドライバでのエンタイトルメントの有効化」

9.1.1 用語

この章で使用される用語を次に示します。

表 9-1 用語

用語	説明
エンタイトルメント	接続システム内のビジネスリソースを表すアイデンティティポルトジェクト。
エンタイトルメントサービスドライバ	エンタイトルメントを付与したり、取り消したりします。役割ベースエンタイトルメントでは、エージェントはエンタイトルメントサービスドライバです。
付与または取り消し	エンタイトルメントの付与または取り消しの解釈は、Identity Manager ドライバのグローバル設定の変数 (GCV) によって制御されます。
エンタイトルメントコンシューマ	エンタイトルメント関連の情報を使用するものすべて。エンタイトルメントコンシューマには、iManager、ユーザアプリケーション、および Identity Manager ポリシーが含まれています。

9.1.2 エンタイトルメントの必要条件

- eDirectory 8.7.3.3 以降
- Identity Manager 2 または 3
- エンタイトルメントサービスドライバ

エンタイトルメントを使用する場所では、各ドライバセットにエンタイトルメントサービスドライバが存在している必要があります。エンタイトルメントサービスドライバを使用するには、ドライバセットごとに簡単な設定を一度だけ行う必要があります。この操作を行うには、『Novell Identity Manager 3.0 管理ガイド』の「エンタイトルメントサービスドライバオブジェクトの作成」を参照してください。

□ エンタイトルメントをサポートするドライバ設定

接続システムでエンタイトルメントを使用する前に、次のいずれかを実行します。

- ◆ ドライバの Identity Manager ドライバ設定をインポートし、そのドライバのエンタイトルメントが有効になっていることを指定する。
- ◆ ドライバがエンタイトルメントをサポートするようにする。これには次の操作を行います。
 - a. Designer を使用してエンタイトルメントを作成します。
 - b. 184 ページのセクション 9.1.4 「Identity Manager ドライバでのエンタイトルメントの有効化」で説明したように、DirXML-EntitlementRef 属性をドライバフィルタに追加します。
 - c. 181 ページのセクション 9.1 「エンタイトルメントの設計」のステップ 1 で作成したエンタイトルメントを実装するよう、ポリシーを記述します。

9.1.3 エンタイトルメントをサポートする、設定済みの Identity Manager ドライバ

Identity Manager には、エンタイトルメント、エンタイトルメントを実装するためのポリシー、およびエンタイトルメントアクティビティのリッスンが有効になっているドライバがすでに含まれている、設定済みのいくつかのドライバが付随しています。ドライバの構造に設定済みの要素を追加するためには、ドライバを初めてインストールするときにエンタイトルメントを有効にする必要があります。次のドライバはエンタイトルメントをサポートするよう事前に設定済みです。

- ◆ Active Directory
- ◆ Exchange
- ◆ GroupWise®
- ◆ LDAP
- ◆ NIS
- ◆ Lotus Notes
- ◆ NT ドメイン
- ◆ RACF

これらの設定済みのドライバでは、181 ページのセクション 9.1 「エンタイトルメントの設計」の 4 つのステップの最初の 3 つが実行されます。ドライバに含まれているサンプルエンタイトルメントは、ユーザアカウント、グループ、および電子メール配布リストの付与および取り消しなどの最も一般的なシナリオで使用できます。設定済みのドライバが提供する機能を以下に示します。

- ◆ Active Directory 用ドライバ: アカウント、グループメンバーシップ、Exchange メールボックスの付与および取り消し
- ◆ Driver for Exchange 5.5 用ドライバ: メールボックスとグループメンバーシップの付与および取り消し
- ◆ GroupWise 用ドライバ: アカウントの付与および取り消し、配布リストのメンバーの付与および取り消し
- ◆ LDAP 用ドライバ: ユーザアカウントの付与および取り消し

- ◆ Linux および UNIX 用ドライバ: アカウントの付与および取り消し
- ◆ Lotus Notes 用ドライバ: ユーザアカウントとグループメンバーシップの付与および取り消し
- ◆ NT ドメイン用ドライバ: ユーザアカウントとグループメンバーシップの付与および取り消し
- ◆ RACF 用ドライバ: グループアカウントとグループメンバーシップの付与および取り消し

こうしたエンタイトルメントおよびポリシーのサンプルは、ユーザのニーズを満たしていればそのまま使用できます。よりニーズに合うように変更することもできます。または、これらをサンプルとして使用し、Designer を使用して独自のエンタイトルメントを作成できます。

9.1.4 Identity Manager ドライバでのエンタイトルメントの有効化

エンタイトルメントを使用するには、最初にドライバのエンタイトルメントを有効にしておく必要があります。この操作は、エンタイトルメントの作成を完了するとエンタイトルメントウィザードで行うことができます。これは、設定済みドライバおよび未設定ドライバのどちらにも該当します。

ただし、設定済みのドライバのエンタイトルメントおよびそれをサポートするインフラストラクチャを使用する場合は、Designer または iManager で初めてドライバを作成するときにエンタイトルメントを有効にする必要があります。設定済みのエンタイトルメントをサポートする設定済みのポリシーおよび規則は、ドライバを再作成しない限り、後で追加することはできません。エンタイトルメントを有効にしたドライバをアイデンティティポータルから Designer にインポートすると、インポートされたドライバもエンタイトルメントが有効になります。エンタイトルメントを有効にしたドライバをアイデンティティポータルから展開すると、展開されたドライバもエンタイトルメントが有効になります。

設定済みのドライバがエンタイトルメントが有効になっているかどうかを確認するには、[Outline (アウトライン)] ビューをクリックして、選択したドライバの購読者チャンネルをクリックします。エンタイトルメントが有効になっている場合は、設定済みのエンタイトルメントが購読者チャンネルの下に表示されていることを確認してください。エンタイトルメントが [Outline (アウトライン)] ビューの購読者チャンネルの下に表示されない場合は、ドライバを初めてインストールしたときにエンタイトルメントが有効になっていない可能性があります。

事前設定済みのエンタイトルメントが含まれていない Identity Manager ドライバで、エンタイトルメントを使用することもできます。ドライバでエンタイトルメントのサポートを有効にするには、DirXML-EntitlementRef 属性をドライバフィルタに追加します。この操作を行うには、エンタイトルメントウィザードを実行します。エンタイトルメントウィ

ザードの最後のページで、ドライバフィルタに DirXML-EntitlementRef 属性を追加するかどうかの質問に [はい] を選択します。[OK] をクリックします。

図 9-1 エンタイトルメントの有効化



設定済みのエンタイトルメントが有効になっていない設定済みの Identity Manager ドライバで、エンタイトルメントを使用することもできます。前述のように、エンタイトルメントウィザードを実行して DirXML-EntitlementRef 属性をドライバフィルタに追加します。ただし、ドライバのポリシーおよび規則がないため、ポリシーおよび規則をサポートする設定済みのエンタイトルメントを追加せずにそうしたエンタイトルメントを使用することはできません。

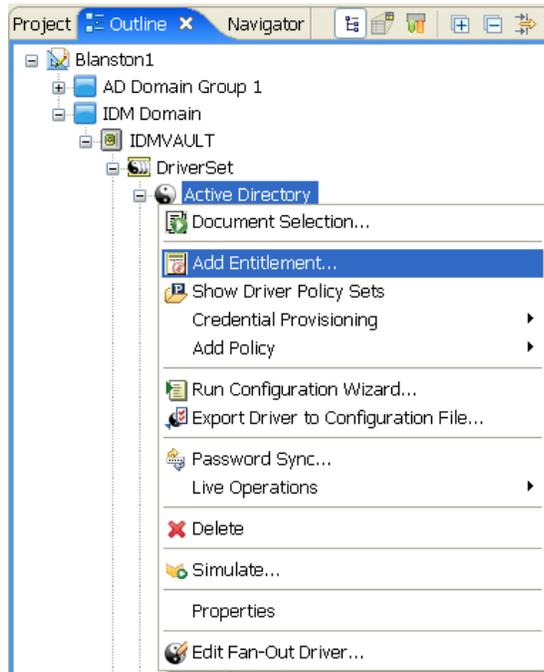
9.2 エンタイトルメントウィザードを介したエンタイトルメントの作成

Designer には、エンタイトルメントウィザードが付属しています。このウィザードでは、会社でのエンタイトルメントの使用方法に関する一連の質問に答えることによって、エン

タイトルメントを作成できます。次のいずれかの方法でエンタイトルメントウィザードにアクセスします。

- ◆ [Outline (アウトライン)] ビューからエンタイトルメントウィザードにアクセスするには、ドライバオブジェクトを右クリックして、[エンタイトルメントの追加] を選択します。

図 9-2 [Outline (アウトライン)] ビューを介したエンタイトルメントの追加



- ◆ [Modeler (モデラ)] ビューからエンタイトルメントウィザードにアクセスするには、ドライバアイコンを右クリックして、[エンタイトルメント] > [エンタイトルメントの追加] の順に選択します。

値なしと値ありの2種類のエンタイトルメントを作成できます。値とは、ポリシーで使用する必要があるデータの受け渡し手段のことです。値ありのエンタイトルメントは、外部クエリから値を取得できます。管理者が定義した形式にすることも、自由形式にすることもできます。作成できる4つのエンタイトルメントの例を以下に示します。

- ◆ 186 ページのセクション 9.2.1 「値なしエンタイトルメント」
- ◆ 188 ページのセクション 9.2.2 「外部アプリケーションを照会する値ありエンタイトルメント」
- ◆ 193 ページのセクション 9.2.3 「管理者定義のエンタイトルメント (リスト付き)」
- ◆ 196 ページのセクション 9.2.4 「管理者定義のエンタイトルメント (リストなし)」

9.2.1 値なしエンタイトルメント

値なしエンタイトルメントには値がありません。たとえば、Active Directory 用のアカウントエンタイトルメントは、アカウント機能を有効にするために使用されます。ドライバポリシーに特別な情報を渡す必要がない場合は、値なしエンタイトルメントを使用してください。

値なしエンタイトルメントを作成する

- 1 [Outline (アウトライン)] ビューでドライバアイコンをクリックし、[エンタイトルメントの追加] を選択します。

または

[Modeler (モデラ)] ビューでドライバアイコンを右クリックし、[エンタイトルメント]、[エンタイトルメントの追加] の順に選択します。この操作により、新規エンタイトルメントウィザードが表示されます。



The screenshot shows the 'New Entitlement Wizard' dialog box with the 'Name Entitlement' step selected. The title bar reads 'New Entitlement Wizard'. Below the title bar, the text 'Name Entitlement' is displayed, followed by the instruction 'Give the entitlement a name and a description.' To the right of this text is an icon of two people with an arrow. The main area contains three input fields: 'Name:' with the text 'Account', 'Display Name:' which is empty, and 'Description:' with the text 'This is an Account Entitlement'. A checkbox labeled 'Use name for display name' is checked. At the bottom, there are four buttons: a help button (question mark), '< Back', 'Next >', 'Finish', and 'Cancel'.

- 2 名前と説明情報を入力します。この例の場合、エンタイトルメントには、Account という名前と「This is an Account Entitlement」という説明が付きます。[次へ] をクリックします。



The screenshot shows the 'New Entitlement Wizard' dialog box with the 'Set Entitlement Values' step selected. The title bar reads 'New Entitlement Wizard'. Below the title bar, the text 'Set Entitlement Values' is displayed, followed by the instruction 'You can set values on an entitlement for use by policy or other entitlement consumers.' To the right of this text is an icon of two people with an arrow. The main area contains a question 'Do you want this entitlement to include values?' with two radio button options: 'No' (selected) and 'Yes'. Below each option is a dashed box containing an information icon and explanatory text. For 'No', the text is 'Choose this if your entitlement will be used to create accounts and doesn't require values.' For 'Yes', the text is 'Choose this if you want to query values from an application or define a group of values.' At the bottom, there are four buttons: a help button (question mark), '< Back', 'Next >', 'Finish', and 'Cancel'.

- 3 この最初の例は値なしであるため、[Do you want this entitlement to include values? (このエンタイトルメントに値を設定しますか?)] には [いいえ] を選択します。[終了] をクリックします。
- 4 [Add To Filter (フィルタに追加)] ダイアログボックスで、ドライバにこのエンタイトルメントをリッスンさせる場合は [はい] を選択します。これにより、ドライバのエンタイトルメントが有効になります。



DirXML-EntitlementRef 属性により、ドライバフィルタはエンタイトルメントアクティビティをリッスンできます。この操作は、作成しているエンタイトルメントを使用するために必要です。

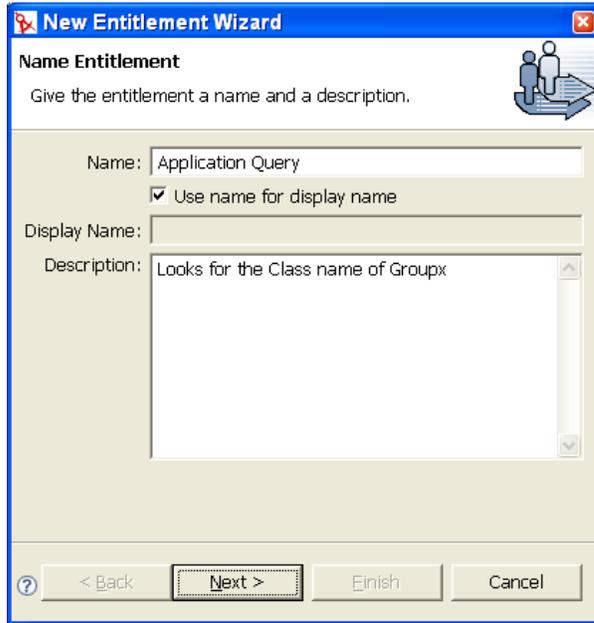
Designer でドライバのエンタイトルメントを作成するときに毎回 [Add To Filter (フィルタに追加)] ウィンドウが表示されないようにするには、[Remember Selection - Don't Prompt Again (選択の記憶 - このウィンドウを今後表示しない)] を選択して [OK] をクリックします。ただし、このドライバフィルタに属性を追加した後は、[Add To Filter (フィルタに追加)] ウィンドウは再び表示されません。

9.2.2 外部アプリケーションを照会する値ありエンタイトルメント

2 番目の例は、アプリケーションクエリエンタイトルメントです。このエンタイトルメントは、接続システムでエンタイトルメントを実装するためにそのシステムからの値が必要な場合に使用します。

- 1 [Outline (アウトライン)] ビューでドライバアイコンをクリックし、[エンタイトルメントの追加] を選択します。
または
[Modeler (モデラ)] ビューでドライバアイコンを右クリックし、[エンタイトルメント]、[エンタイトルメントの追加] の順に選択します。
- 2 エンタイトルメントに名前を付けます。この例では、アプリケーションクエリを使用し、[Use Name For Display Name (表示名に名前を使用する)] オプションを選択して

います。[説明] ボックスに、「Looks for the Class name of Groupx」と入力します。[次へ] をクリックします。



The screenshot shows the 'New Entitlement Wizard' dialog box, specifically the 'Name Entitlement' step. The title bar reads 'New Entitlement Wizard'. Below the title bar, the text 'Name Entitlement' is displayed, followed by the instruction 'Give the entitlement a name and a description.' There are four input fields: 'Name:' with the text 'Application Query', a checked checkbox 'Use name for display name', 'Display Name:', and 'Description:' with the text 'Looks for the Class name of Groupx'. At the bottom, there are four buttons: '< Back', 'Next >', 'Finish', and 'Cancel'. The 'Next >' button is highlighted with a dashed border.

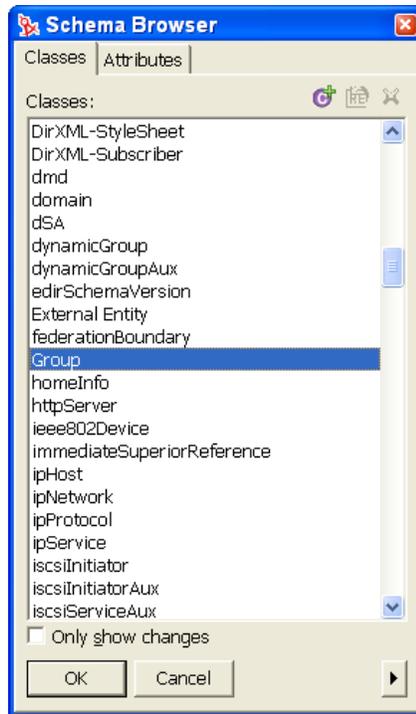
- 3 [Set Entitlements Values (エンタイトルメントの値の設定)] ページで、アプリケーションからの値の照会または値のグループの定義を行うことができるように [はい] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 4 その次の [Set Entitlements Values (エンタイトルメントの値の設定)] ページで、このエンタイトルメントの値を取得する場所を定義できます。値ありのエンタイトルメントでは、外部クエリから値を取得するか、管理者が値を定義することができます。この例の場合は、[Values from Application Query (アプリケーションクエリからの値)] を選択して、[次へ] をクリックします。



The screenshot shows the 'New Entitlement Wizard' dialog box, specifically the 'Set Entitlement Values' step. The title bar reads 'New Entitlement Wizard'. Below the title bar, the text 'Set Entitlement Values' is displayed, followed by the instruction 'Define where to get the values for this entitlement.' There are two radio button options under the heading 'This entitlement will have:'. The first option is 'Administrator defined values' with a dashed border and an information icon. The second option is 'Values from application query' with a dashed border and an information icon, and it is selected. At the bottom, there are four buttons: '< Back', 'Next >', 'Finish', and 'Cancel'. The 'Next >' button is highlighted with a dashed border.

[Define Application Query (アプリケーションクエリの定義)] ウィンドウでは、クエリの定義およびクエリ結果のマッピングという2つの手順を組み合わせます。クエリを定義するには、クラス、ベース DN (識別名)、およびスコープ (サブツリー、エントリ、またはサブオーディネート) を入力します。次に、エンタイトルメントコンシューマ (役割ベースエンタイトルメントポリシー用の iManager、またはワークフローエンタイトルメント用のユーザアプリケーション) が使用する値にクエリ結果をマッピングします。

- 5 クラスクエリを入力するには、クラスエントリの右側の [Schema Browser (スキーマブラウザ)] ボタンをクリックします。



- 6 スキーマブラウザでは、eDirectory ネームスペース内の選択可能なクラスが表示されます ([属性] タブには、クラスの一部になっている属性が表示されます)。照会するクラスタイプの名前がわかっている場合は、[Classes (クラス)] タブで選択項目を

クリックして選択し、クラス名の入力を開始します。クラス名を選択して、[OK] をクリックします。



- 7 ベース識別名 (DN) とスコープを入力します。この例の場合は、Blanston というベース識別名でクラス Group を選択し、サブツリーのスコープ (選択肢は [サブツリー]、[エントリ]、[サブオーディネート]) を選択しています。

この例では、接続システムからのクエリ結果を、エンタイトルメントコンシューマが使用できる特定の値にマッピングします。現在、コンシューマは、役割ベースエンタイトルメントポリシーを管理している iManager、およびワークフローベースのプロビジョニングエンタイトルメントを管理しているユーザアプリケーションです。[Value From Query (クエリからの情報)] 情報では、以下の項目でコンシューマのユーザインタフェースが事前入力されます。

- [表示名] では、値のリストに反映する必要がある属性を定義します。
- [説明] では、値の説明として表示する必要がある属性を定義します。
- [値] では、実際の値である属性またはトークンを定義します。

この例では、表示名に [Source Distinguished Name (ソース識別名)] を選択しています。値エントリのドロップダウンボタンをクリックすると、スキーマブラウザで選択したクラスに関連付けられている属性のリストが表示されます。このリストには、選択したクラスの属性および継承した属性が含まれています。

注 : [Schema Browser (スキーマブラウザ)] ボタンを使用せずにクラスを選択する場合、[Value From Query (クエリからの情報)] リストには、[関連付け] と [Source Distinguished Name (ソース識別名)] の2つの選択項目のみが表示されます。こうした属性がニーズを満たす場合は、それらの属性を使用してください。また、テキストフィールドに属性名を入力することもできます。ただし、リストから属性を選択する場合は、クエリのクラスを選択するときに [Schema Browser (スキーマブラウザ)] ボタンを使用してください。選択したクラスの属性および継承した属性が表示されません。

説明については、値のドロップダウンリストから [説明] を選択して、接続システムからのクエリ結果をエンタイトルメントにマッピングします。

エンタイトルメントコンシューマの [値] エントリは表示されませんが、このエントリは、エンタイトルメントが付与または取り消されたときに割り当てられる値です。この場合は、[関連付け] を選択します。値を入力したら、[次へ] を選択します。

- 8 [Assign Multiple Values (複数值の割り当て)] ウィンドウで、エンタイトルメントを異なる値で複数回付与する場合は [はい] を選択します。[いいえ] を選択すると、エンタイトルメントを 1 回しか付与できません。複数值のグループエンタイトルメントを割り当てる価値はありますが、アカウントエンタイトルメントを複数回割り当てても意味がありません。この例では、[はい] をクリックして、[次へ] をクリックします。

- 9 iManager を介して役割ベースエンタイトルメントでこのエンタイトルメントを使用するかどうかを尋ねるメッセージが表示されます。このエンタイトルメントの付与または取り消しを自動処理にする場合は、役割ベースエンタイトルメントの質問に対して [はい] を選択し、[次へ] をクリックします。このエンタイトルメントの付与または取り消しを手動処理 (ユーザによる承認) にする場合は、[いいえ] を選択して、ユーザアプリケーションを使用します。[終了] をクリックします。

1 つのエージェントだけでエンタイトルメントを制御することをお勧めします。複数のエージェントで制御する場合は、次の点に注意してください。

- ◆ 最後にアクセスしたユーザによってエンタイトルメントの結果が制御されます。
- ◆ 予期しない結果になります。
- ◆ Novell では、両方のエージェントを使用したエンタイトルメントの制御はサポートされていません。

- 10 (条件付き) 役割ベースエンタイトルメントの質問に対して [はい] を選択した場合は、このエンタイトルメントがさまざまな値で複数回割り当てられたときに発生する可能性がある衝突を解決するのに、役割ベースエンタイトルメントの優先度を使用するかどうかを尋ねるメッセージが表示されます。衝突は、役割ベースエンタイトルメントの優先度を使用するか、値をマージすることによって解決できます。

値をマージすると、関連するすべての役割ベースエンタイトルメントポリシーのエンタイトルメントがマージされます。したがって、あるポリシーがエンタイトルメントを取り消し、別のポリシーがエンタイトルメントを付与した場合、最終的にはエンタイトルメントが付与されます。このエンタイトルメントに常にポリシーが 1 つだけ割り当てられるようにする必要がある場合は、優先度で衝突を解決します。この例では優先度を使用します。

- 11 [終了] をクリックします。

この例の場合には、クエリ値に対して、ベース DN (Blanston) から始まりサブツリー全体をチェックして、クラス名 Group の [Source Distinguished Name (ソース識別名)] 属性が検索されます。クエリから戻される値は、次のようになります。

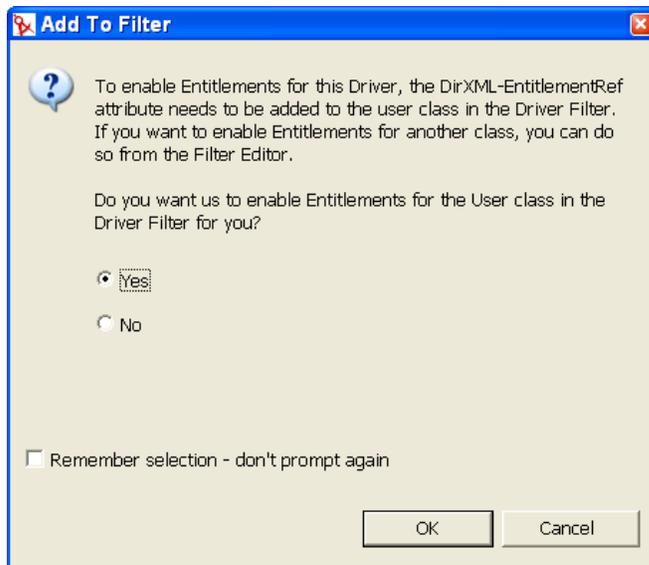
```
<instance class-name="Group" src-dn="o=Blanston,cn=group1">
<association>o=Blanston,cn=group1</association> <attr attr-
name="Description"> the description for group1</attr> </instance>
<instance class-name="Group" src-dn="o=Blanston,cn=group2">
<association>o=Blanston,cn=group2</association> <attr attr-
name="Description"> the description for group2</attr> </instance>
<instance class-name="Group" src-dn="o=Blanston,cn=group3">
<association>o=Blanston, cn=group3</association> <attr attr-
name="Description"> the description for group3</attr> </instance>
```

<!-- ...-->

クエリから受け取った情報がさまざまなフィールドに挿入されます。たとえば、`<display-name>` フィールドには `o=Blanston,cn=group1` が挿入されます。また、`<description>` フィールドには `the description for Group1` が挿入され、`<ent-value>` フィールドには `o=Blanston,cn=group1` が挿入されます。複数のグループが存在し、クエリの条件を満たすため、この情報も収集されてクエリの他のインスタンスとして表示されます。

注：関連付け形式の値はすべての外部システムで一意であるため、問い合わせが行われた各外部システムの形式および構文は異なります。

- 12 [Add To Filter (フィルタに追加)] ウィンドウで、ドライバにこのエンタイトルメントをリッスンさせる場合は [はい] を選択します。これにより、ドライバのエンタイトルメントが有効になります。



DirXML-EntitlementRef 属性により、ドライバフィルタはエンタイトルメントアクティビティをリッスンできます。この操作は、作成しているエンタイトルメントを使用するために必要です。

Designer でドライバのエンタイトルメントを作成するときに [Add To Filter (フィルタに追加)] ウィンドウが表示されないようにするには、[Remember Selection - Don't Prompt Again (選択の記憶 - このウィンドウを今後表示しない)] を選択して [OK] をクリックします。ただし、このドライバフィルタに属性を追加した後は、[Add To Filter (フィルタに追加)] ウィンドウは再び表示されません。

9.2.3 管理者定義のエンタイトルメント (リスト付き)

この例は、リストエントリを選択できるようにする管理者定義のエンタイトルメントです。このタイプのエンタイトルメントは、役割ベースエンタイトルメントよりもワークフローのエンタイトルメントを介して使用する場合に最適です。

- 1 [Outline (アウトライン)] ビューでドライバアイコンを右クリックし、[エンタイトルメントの追加] を選択します。

または

[Modeler (モデラ)] ビューでドライバアイコンを右クリックし、[エンタイトルメント] > [エンタイトルメントの追加] の順に選択します。



この例では、エンタイトルメント名は管理者定義ですが、定義された表示名は管理者定義エンタイトルメントです。表示名は、エンタイトルメント名とは異なる名前にする場合のみ定義する必要があります。定義しなければ、エンタイトルメント名を表示名として使用できます。[Description (説明)] フィールドには「This will show Administrator-defined Values」と入力されています。

- 2 [Next (次へ)] をクリックします。
- 3 [Set Entitlement Values (エンタイトルメント値の設定)] ウィンドウの [Do you want this entitlement to include values? (このエンタイトルメントに値を設定しますか ?)] で [Yes (はい)] を選択し、[Next (次へ)] をクリックします。
- 4 次の [Set Entitlement Values (エンタイトルメント値の設定)] ウィンドウで [Administrator Defined Values (管理者定義の値)] をクリックし、[Next (次へ)] をクリックします。

- 5 [Define Values (値の定義)] ウィンドウで、エンタイトルメント値エントリに追加する値を入力します。[Add (追加)] をクリックして [Defined List (定義済みリスト)] ペインに値を追加し、[Next (次へ)] をクリックします。

The screenshot shows the 'New Entitlement Wizard' dialog box in the 'Define Values' step. The title bar reads 'New Entitlement Wizard'. Below the title bar, the text says 'Define Values' and 'Entitlement values can be taken from a defined list or entered by entitlement consumers.' There is a question mark icon and a help icon. The main area contains a question: 'Do you want to define a list of values?' with two radio buttons: 'Yes' (selected) and 'No'. Below each radio button is a dashed box containing an information icon and text: 'Choose this if you want to define a list of values for the entitlement consumers to choose from.' and 'Choose this if you want entitlement consumers to define their own values.' Below this is the 'Entitlement Value:' section with a text box containing 'Building D' and an 'Add' button. Below that is the 'Defined List:' section with a list box containing 'Building A', 'Building B', and 'Building C' (highlighted in blue), and a 'Remove' button. At the bottom, there are four buttons: '?', '< Back', 'Next >', 'Finish', and 'Cancel'.

この例では、値は次の会社のビルの文字です。「Building A」から「Building D」。ユーザまたは定義されたタスクマネージャは、iManager の役割ベースエンタイトルメントタスクなどのエンタイトルメントのクライアントを介して、またはユーザアプリケーションを介して、ビルの情報を指定できます。これは、Novell eDirectory などの外部アプリケーションに含まれます。

- 6 [Assign Multiple Values (複数値の割り当て)] ウィンドウで、エンタイトルメントを異なる値で複数回付与する場合は [Yes (はい)] を選択します。[No (いいえ)] を選択すると、エンタイトルメントを 1 回しか付与できません。複数値のグループエンタイトルメントを割り当てることは理にかなっていませんが、ビルの文字を複数回割り当てても意味がありません。この例では、[No (いいえ)] をクリックして [Next (次へ)] をクリックします。
- 7 次に、役割ベースエンタイトルメントでこのエンタイトルメントを使用するかどうかを尋ねるメッセージが表示されます。このクエリを自動処理にする場合は、役割ベースエンタイトルメントの質問に対して [Yes (はい)] を選択し、[Next (次へ)] をクリックします。このクエリの付与または取り消しを手動処理 (ユーザによる承認) にする場合は、[No (いいえ)] を選択して、ワークフローベースのプロビジョニングエンタイトルメントを使用します。[Finish (終了)] をクリックします。

1 つのエージェントだけでエンタイトルメントを制御することをお勧めします。複数のエージェントで制御する場合は、次の点に注意してください。

- ◆ 最後にアクセスしたユーザによってエンタイトルメントの結果が制御されます。

- ◆ 結果は予測不可能です。
- ◆ Novell では、両方のエージェントを使用したエンタイトルメントの制御はサポートされていません。

- 8 (条件付き) 役割ベースエンタイトルメントの質問に対して [Yes (はい)] を選択した場合は、このエンタイトルメントが別の役割ベースエンタイトルメントポリシーによって割り当てられたときに発生する可能性がある衝突を解決するのに、役割ベースエンタイトルメントの優先度を使用するかどうかを尋ねるメッセージが表示されます。衝突は、役割ベースエンタイトルメントの優先度を使用するか、値をマージすることによって解決できます。この例では値をマージします。[Finish (完了)] をクリックします。

値をマージすると、関連するすべての役割ベースエンタイトルメントポリシーのエンタイトルメントがマージされます。したがって、あるポリシーがエンタイトルメントを取り消し、別のポリシーがエンタイトルメントを付与した場合、最終的にはエンタイトルメントが付与されます。このエンタイトルメントに常にポリシーが1つだけ割り当てられるようにする必要がある場合は、優先度で衝突を解決します。

- 9 [Add To Filter (フィルタに追加)] ウィンドウが表示されたら、ドライバでこのエンタイトルメントをリッスンする場合は [Yes (はい)] を選択します。これにより、ドライバのエンタイトルメントが有効になります。DirXML-EntitlementRef 属性を使用すると、ドライバフィルタはエンタイトルメントアクティビティをリッスンできません。作成中のエンタイトルメントを使用するにはこの属性が必要です。

Designer でドライバのエンタイトルメントを作成するときに [Add To Filter (フィルタに追加)] ウィンドウが表示されないようにするには、[Remember Selection - Don't Prompt Again (選択を記憶 - このウィンドウを今後表示しない)] を選択して [OK (OK)] をクリックします。ただし、このドライバフィルタに属性を追加した後は、[Add To Filter (フィルタに追加)] ウィンドウはその後表示されなくなります。

9.2.4 管理者定義のエンタイトルメント (リストなし)

4番目の例は、値の入力を管理者に強制する管理者定義のエンタイトルメントです。初期設定ですべての情報を持っていないためにタスクリストを作成できない場合、この種類のエンタイトルメントを使用できます。

- 1 [Outline (アウトライン)] ビューでドライバアイコンを右クリックし、[エンタイトルメントの追加] を選択します。

または

[Modeler (モデラ)] ビューでドライバアイコンを右クリックし、[エンタイトルメント] > [エンタイトルメントの追加] の順に選択します。



- 2 この例では、エンタイトルメント名は **Admin-defined (no lists)** であり、[Use Name For Display Name (表示名に名前を使用する)] オプションが選択されているため、表示名としてエンタイトルメント名を使用します。[Next (次へ)] をクリックします。
- 3 [Set Entitlement Values (エンタイトルメント値の設定)] ページで [Yes (はい)] をクリックし、[Next (次へ)] をクリックします。
- 4 次の [Set Entitlement Values (エンタイトルメント値の設定)] ページで [Administrator Defined Values (管理者定義の値)] を選択します。
- 5 [Define Values (値の定義)] ページの [Do you want to define a list of values? (値のリストを定義しますか?)] で [No (いいえ)] を選択し、[Next (次へ)] をクリックします。

テキストフィールドが表示されます。管理者またはユーザはこのフィールドに情報を入力する必要があります。このオプションを使用すると、情報に間違いやスペルミスがある場合は、値が正しくないためにエンタイトルメントのアクションが失敗する恐れがあります。

- 6 [Assign Multiple Values (複数値の割り当て)] ページの [Allow this entitlement to be assigned multiple times with different values? (このエンタイトルメントを異なる値で複数回割り当てられるようにしますか?)] で [No (いいえ)] を選択し、[Next (次へ)] をクリックします。
- 7 次に、役割ベースエンタイトルメントでこのエンタイトルメントを使用するかどうかを尋ねるメッセージが表示されます。このクエリを自動処理にする場合は、役割ベースエンタイトルメントの質問に対して [Yes (はい)] を選択し、[Next (次へ)] をクリックします。このクエリの付与または取り消しを手動処理 (ユーザによる承認) にする場合は、[No (いいえ)] を選択して、ワークフローのプロビジョニングのエンタイトルメントを使用します。[Finish (完了)] をクリックします。

1つのエージェントだけでエンタイトルメントを制御することをお勧めします。複数のエージェントで制御する場合は、次の点に注意してください。

- ◆ 最後にアクセスしたユーザによってエンタイトルメントの結果が制御されます。

- ◆ 予期しない結果になります。
- ◆ Novell では、両方のエージェントを使用したエンタイトルメントの制御はサポートされていません。

- 8 (条件付き) 役割ベースエンタイトルメントの質問に対して [Yes (はい)] を選択した場合は、このエンタイトルメントが別の役割ベースエンタイトルメントポリシーによって割り当てられたときに発生する可能性がある衝突を解決するのに、役割ベースエンタイトルメントの優先度を使用するかどうかを尋ねるメッセージが表示されます。衝突は、役割ベースエンタイトルメントの優先度を使用するか、値をマージすることによって解決できます。この例では優先度を使用します。[Finish (完了)] をクリックします。

値をマージすると、関連するすべての役割ベースエンタイトルメントポリシーのエンタイトルメントがマージされます。したがって、あるポリシーがエンタイトルメントを取り消し、別のポリシーがエンタイトルメントを付与した場合、最終的にはエンタイトルメントが付与されます。このエンタイトルメントに常にポリシーが 1 つだけ割り当てられるようにする必要がある場合は、優先度で衝突を解決します。

- 9 [Add To Filter (フィルタに追加)] ウィンドウが表示されたら、ドライバでこのエンタイトルメントをリッスンする場合は [Yes (はい)] を選択します。これにより、ドライバのエンタイトルメントが有効になります。DirXML-EntitlementRef 属性を使用すると、ドライバフィルタはエンタイトルメントアクティビティをリッスンできます。作成中のエンタイトルメントを使用するにはこの属性が必要です。

Designer でドライバのエンタイトルメントを作成するときに [Add To Filter (フィルタに追加)] ウィンドウが表示されないようにするには、[Remember Selection - Don't Prompt Again (選択を記憶 - このウィンドウを今後表示しない)] を選択して [OK (OK)] をクリックします。ただし、このドライバフィルタに属性を追加した後は、[Add To Filter (フィルタに追加)] ウィンドウはその後表示されなくなります。

9.3 エンタイトルメントの編集と表示

Designer には、エンタイトルメントウィザードが付属しています。このウィザードでは、会社でのエンタイトルメントの使用方法に関する一連の質問に答えることによって、エンタイトルメントを作成できます。ただし、このウィザードを起動する前に、まず [181 ページのセクション 9.1 「エンタイトルメントの設計」](#) を参照してください。エンタイトルメントの作成方法については、[185 ページのセクション 9.2 「エンタイトルメントウィザードを介したエンタイトルメントの作成」](#) を参照してください。

- ◆ [200 ページのセクション 9.3.1 「エンタイトルメントの \[XML Source \(XML ソース\)\] ビューと \[XML Tree \(XML ツリー\)\] ビュー」](#)
- ◆ [203 ページのセクション 9.3.2 「Novell エンタイトルメント DTD の使用」](#)

エンタイトルメントを作成したら、必要に応じて編集できます。編集モードを使用して、エンタイトルメントを XML ソースコードで参照することもできます。

エンタイトルメントを編集するには

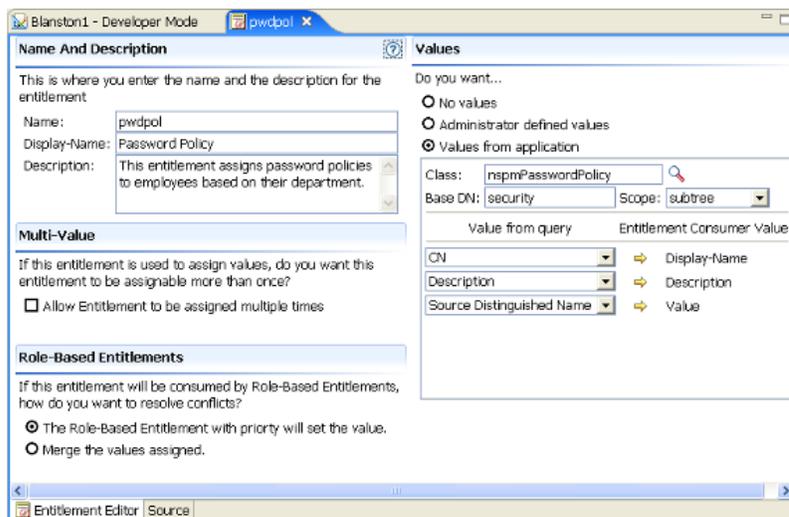
- 1 [Outline (アウトライン)] ビューで、選択したドライバの購読者チャンネルの下に表示されるエンタイトルメントを右クリックし、[Edit (編集)] をクリックします。

または

エンタイトルメントアイコンをダブルクリックし、エンタイトルメントエディタにエンタイトルメントを表示します。

[Modeler (モデラ)] ビューでドライバアイコンを右クリックし、[エンタイトルメント] > [エンタイトルメントの追加] の順に選択することもできます。

- 2 選択したドライバのエンタイトルメントが複数存在する場合は、使用できるエンタイトルメントのリストを含む [Edit Entitlements (エンタイトルメントの編集)] ウィンドウが表示されます。エンタイトルメントを選択して、[OK] をクリックします。エンタイトルメントエディタにエンタイトルメントが表示されます。



[Entitlement Editor (エンタイトルメントエディタ)] ビューには、エンタイトルメントウィザードで表示されるページと選択肢がすべて表示されますが、情報は1ページにまとめて表示されます。

- **Name and Description (名前と説明):** このエンタイトルメントに指定した名前、表示名、および説明を編集できます。
- **Multi-Value (複数値):** エンタイトルメントを複数回割り当てるかどうかを選択できます。
- **Role-Based Entitlements (役割ベースエンタイトルメント):** 役割ベースエンタイトルメントの衝突の解決策を選択できます。役割ベースエンタイトルメントを選択しなければ、優先度による解決策がデフォルトに設定されます。
- **Values (値):** 値の定義方法を、[No values (値なし)] > [Administrator defined values (管理者定義の値)]、および [Values from an application (アプリケーションの値)] の中から選択できます。

エンタイトルメントエディタに表示される情報は、エンタイトルメントに最初に定義した内容によって異なります。値のないエンタイトルメントを編集する場合は、[Values (値)] 見出しに [No Values (値なし)] が表示されます。値のあるエンタイトルメントを編集し、値をリストに追加する場合は、[Value (値)] フィールドに値を入力し、[Add (追加)] をクリックします。値を削除する場合は、[Values (値)] リストで値を選択し、[Remove (削除)] をクリックします。

リストから値を選択しない場合は、[Values (値)] 見出しの下で [Administrator Defined Values (管理者定義の値)] を選択し、[Values (値)] リストを空白のままにします。これにより、iManager またはユーザアプリケーションに空のテキストボックスが追加されます。そのボックスに値を入力する必要があります。

- 3 エンタイトルメントの変更が完了したら、Designer の左上隅にある [Save (保存)] アイコンをクリックします。または、エンタイトルメントのタブにある [X] をク

リックして [Save Resource (リソースの保存)] ウィンドウを表示し、[Yes (はい)] をクリックして変更を保存するか、[No (いいえ)] または [Cancel (キャンセル)] をクリックします。

9.3.1 エンタイトルメントの [XML Source (XML ソース)] ビューと [XML Tree (XML ツリー)] ビュー

エンタイトルメントを XML ソースコードで表示するには

- 1 [Outline (アウトライン)] ビューで、選択したドライバの購読者チャンネルの下に表示されるエンタイトルメントを右クリックし、[Edit (編集)] をクリックします。

または

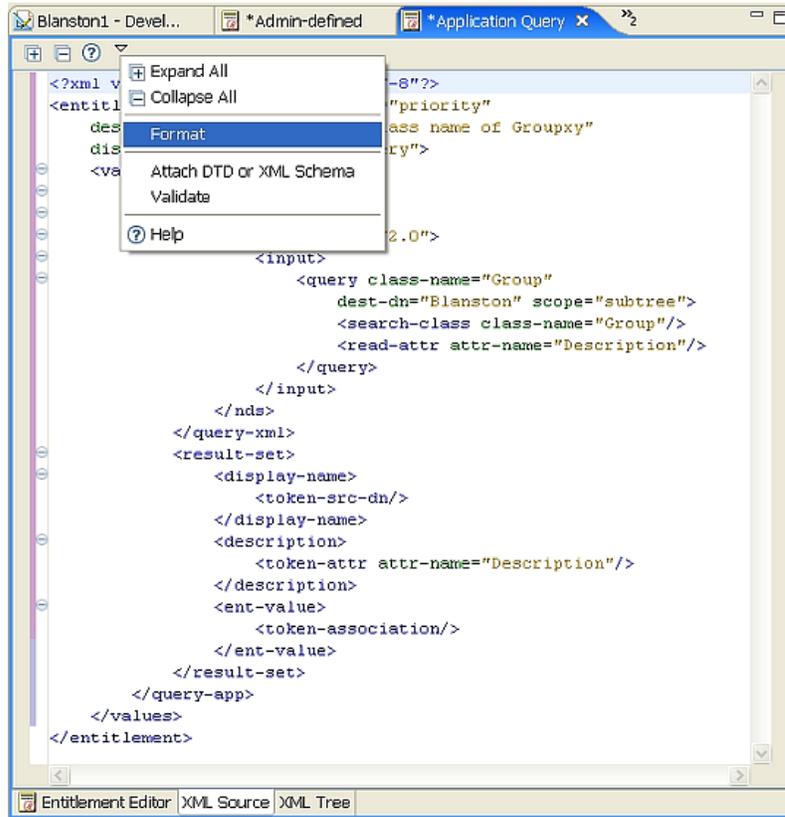
エンタイトルメントアイコンをダブルクリックし、エンタイトルメントエディタにエンタイトルメントを表示します。

[Modeler (モデラ)] ビューでドライバアイコンを右クリックし、[エンタイトルメント] > [エンタイトルメントの追加] の順に選択することもできます。

- 2 [Entitlement Editor (エンタイトルメントエディタ)] ビューの下部にある [XML Source (XML ソース)] を選択します。

[XML Source (XML ソース)] ビューには、最初は書式が設定されていない XML コードが 2 行表示されます。XML コードの書式を設定するには、[XML Source (XML ソース)] ビューの左隅にあるドロップダウンメニューの矢印をクリックし、[Format

(書式)] を選択します。次の例は、Application Query という名前のエンタイトルメントが書式設定され、ドロップダウンメニューが表示されている状態を示しています。



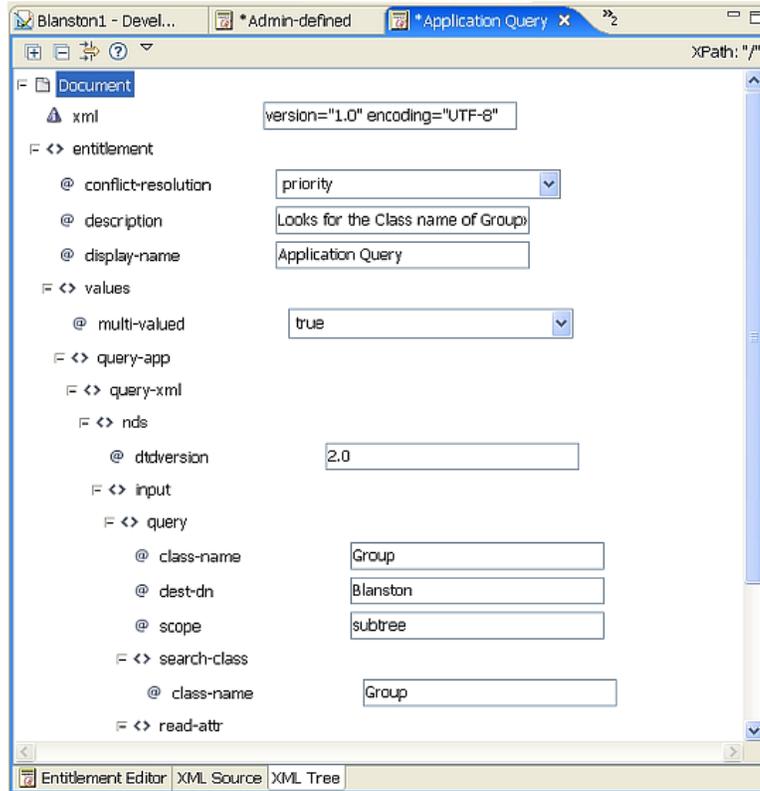
[XML Source (XML ソース)] ビューのメニューには、次の項目があります。

表 9-2 [XML Source (XML ソース)] ビューのメニュー項目

名前	説明
Expand All (すべて展開)	選択した項目の中にあるすべての項目を表示します。
Collapse All (すべて縮小)	選択したすべての項目を縮小表示します。
Format (書式)	XML ソースコードの書式を設定します。
Attach DTD or XML Schema (DTD または XML スキーマを添付)	DTD (ドキュメントタイプ定義) ファイルまたは XML スキーマファイルを添付できます。デフォルトの Windows インストールでは、エンタイトルメントの DTD は C:\Program Files\Novell\Designer\eclipse\plugins\com.novell.designer.idm.entitlements_1.1.0\DTD\dirxmlentitlements.dtd です。
Validate (検証)	DTD が添付されていない場合は、XML の形式が正しいかどうかを検証します。DTD が添付されている場合は、XML を DTD と比較して検証します。ソースコードに問題が見つかったら、[Problems (問題)] ウィンドウが開いて問題が表示されます。フィルタを選択してコードを実行することもできます。
Help (ヘルプ)	[XML Source (XML ソース)] ビューの右側に [Help (ヘルプ)] ビューを開きます。

[XML Tree (XML ツリー)] ビューは、XML ソースコードのツリーコントロールビューです。このビューでは、[Entitlement Editor (エンタイトルメントエディタ)] ビューや [XML Source (XML ソース)] ビューと同じ編集操作を行うことができます。エンタイトルメントを [XML Tree (XML ツリー)] ビューで表示するには、[Entitlement Editor (エンタイトルメントエディタ)] ビューの下部にある [XML Tree (XML ツリー)] を選択します。

図 9-3 [XML Tree (XML ツリー)] ビュー



[XML Tree (XML ツリー)] ビューのメニューの左隅にあるドロップダウンメニューの矢印をクリックすると、次の項目が表示されます。

表 9-3 [XML Tree (XML ツリー)] ビューのメニュー項目

名前	説明
Expand All (すべて展開)	選択した項目の中にあるすべての項目を表示します。
Collapse All (すべて縮小)	選択したすべての項目を縮小表示します。

名前	説明
XML Tree Filters (XML ツリーフィルタ)	XML ツリーに表示するノードの種類を選択できます。次の選択肢があります。 <ul style="list-style-type: none"> ◆ Attributes (属性) ◆ CDATA (CDATA) ◆ Comments (コメント) ◆ Namespaces (ネームスペース) ◆ Processing Instructions (処理手順) ◆ Text (テキスト)
Validate (検証)	DTD が添付されていない場合は、XML の形式が正しいかどうかを検証します。DTD が添付されている場合は、XML を DTD と比較して検証します。ソースコードに問題が見つかったら、[Problems (問題)] ウィンドウが開いて問題が表示されます。フィルタを選択してコードを実行することもできます。 <p>デフォルトの Windows インストールでは、エンタイトルメントの DTD は C:\Program Files\Novell\Designer\ eclipse\plugins\com.novell.designer.idm.entitlements_1.1.0\DTD\dirxmlentitlements.dtd です。</p>
[Find (検索)] と [Find Next (次を検索)]	[Find (検索)] ウィンドウを開きます。このウィンドウで、テキスト、構造、および XPath 検索を上方向または下方向に実行できます。大文字と小文字を区別するオプションや折り返し検索機能のオプションもあります。
Help (ヘルプ)	[XML Tree (XML ツリー)] ビューの右側に [Help (ヘルプ)] ビューを開きます。

9.3.2 Novell エンタイトルメント DTD の使用

いくつかのエンタイトルメントは、有効化されたエンタイトルメントを持つドライバで事前定義されています。これらのエンタイトルメントを使用するか、iManager または Designer で独自のエンタイトルメントを作成できます。独自のエンタイトルメントを作成するには、エンタイトルメントを作成する例として、Novell エンタイトルメント DTD を使用できます。Novell エンタイトルメント DTD とその機能の説明については、『*Novell Identity Manager 3.0 管理ガイド*』の「[Novell のエンタイトルメントのドキュメントタイプ定義 \(DTD\) の使用](#)」と「[エンタイトルメント DTD の説明](#)」を参照してください。

9.4 エンタイトルメントの管理

エンタイトルメントを作成した後、または特定の Identity Manager ドライバで事前設定されたエンタイトルメントを使用した後は、それらを管理する必要があります。エンタイトルメントは eDirectory イベントシステムに関連付けられ、その付与と取り消しは 2 つのエージェントによって行われます。1 つは役割ベースエンタイトルメントポリシーを使用する iManager、もう 1 つはワークフローのエンタイトルメントとしてのユーザアプリケーションです。条件が一致した場合、役割ベースエンタイトルメントによりビジネスリソースを自動的に付与または取り消すことができます。ワークフローのエンタイトルメントをユーザアプリケーションで機能させるには、まず手動による承認が必要です。

たとえば、ユーザが A、B、および C の条件を満たす場合は、役割ベースエンタイトルメントを介してユーザをグループ H のメンバーにし、ユーザが E および F の条件を満たす場合は、ユーザをグループ I のメンバーにするように指定できます。このアクションは、条件を満たされる限り、役割ベースエンタイトルメントを介して自動的に行われます。このエンタイトルメントがをワークフローのエンタイトルメントで機能させるには、まずユーザオブジェクトで承認を得る必要があります。これはユーザアプリケーションで設定します。ただし、指定システムのイベントを解釈するためにポリシーやルールをドライバに追加しない場合は、エンタイトルメントを付与したり取り消したりしても効果はありません。

役割ベースエンタイトルメントまたはワークフローのエンタイトルメントのどちらか一方を使用してください。両方を組み合わせて同じリソースを管理することはお勧めしません。1つのエージェントだけでエンタイトルメントを制御することをお勧めします。複数のエージェントで制御する場合は、次の点に注意してください。

- ◆ 最後にアクセスしたユーザによってエンタイトルメントの結果が制御されます。
- ◆ 結果は予測不可能です。
- ◆ Novell では、両方のエージェントを使用したエンタイトルメントの制御はサポートされていません。

ポリシーにより、Novell® eDirectory™ に対する情報フローを特定の環境に合わせてカスタマイズできます。

たとえば、ある会社ではメインのユーザクラスとして `inetorgperson` を使用していて、別の会社では `User` を使用しているとします。これを処理するために、各システムで呼び出すユーザをメタディレクトリエンジンに指示するポリシーが作成されています。接続システム間でユーザに影響する操作をやり取りする場合、Identity Manager は、この変更を行うポリシーを適用します。

また、ポリシーは、新しいオブジェクトの作成、属性値の更新、スキーマ変換の実行、一致条件の定義、Novell Identity Manager の関連付けの維持など、多くのタスクを実行します。

ポリシーに関する詳しいガイドは、『*Policy Builder and Driver Customization Guide*』に含まれています。このガイドの内容は次のとおりです。

- ◆ 使用可能な各ポリシーの詳細な説明
- ◆ Designer と iManager に関するポリシービルダの詳細なユーザガイドとリファレンス
- ◆ 事前定義されたルールのリファレンス
- ◆ XSLT スタイルシートを使用したポリシー作成の説明
- ◆ ポリシーシミュレータと、ポリシーシミュレータを使用したポリシーのテスト方法に関する説明

ポリシーの詳細については『*ポリシービルダとドライバのカスタマイズガイド*』を参照してください。

電子メール通知テンプレートの設定

11

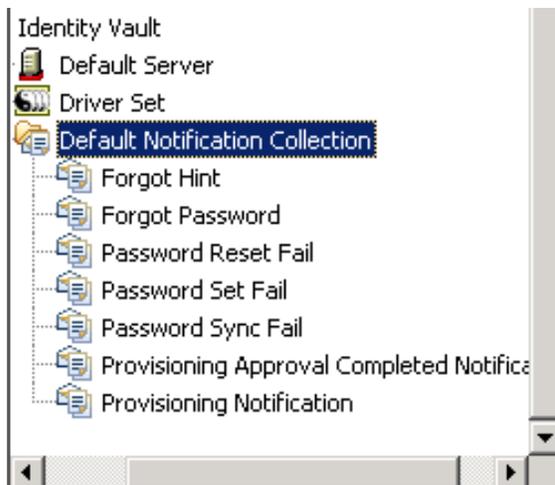
通知テンプレートを使用すると、トリガの発生時にユーザが受信する電子メールメッセージをカスタマイズしたり送信したりできます。電子メール通知の例として、次のようなものがあります。

- ◆ ユーザがパスワードを忘れた場合のヒント
- ◆ 新しいパスワード
- ◆ パスワードがリセットされなかった理由の説明
- ◆ パスワードが同期されなかった理由の説明
- ◆ プロビジョニング要求が承認されたことを知らせるメッセージ
- ◆ リソースが要求されたことを知らせるメッセージ
- ◆ 207 ページのセクション 11.1 「通知テンプレートの表示」
- ◆ 208 ページのセクション 11.2 「通知テンプレートの編集」
- ◆ 212 ページのセクション 11.3 「通知テンプレートの追加」
- ◆ 213 ページのセクション 11.4 「電子メールサーバの設定」

11.1 通知テンプレートの表示

Designer には、ユーザによる表示や編集が可能なデフォルトの通知テンプレートが用意されています。

- 1 モデラでアイデンティティポータルを選択します。
- 2 [Outline (アウトライン)] ビューで、そのアイデンティティポールの [Default Notification Collection (デフォルトの通知コレクション)] までスクロールします。



[Default Notification Collection (デフォルトの通知コレクション)] が展開されていない場合は展開します。展開したツリーに、通知テンプレートが表示されます。

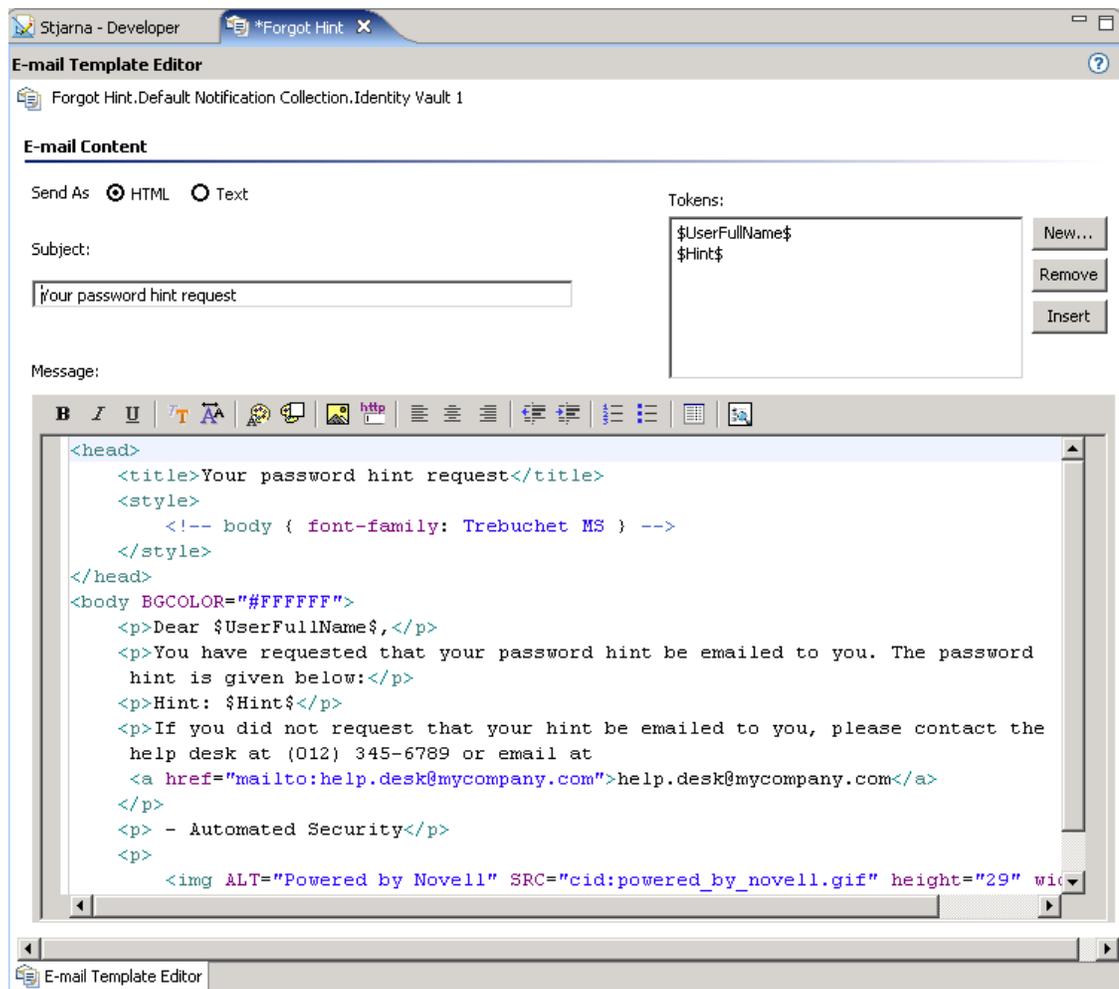
これらのテンプレートを使用して、アイデンティティポータル内のユーザに対して電子メール通知を送信します。テンプレートを独自のテキストでカスタマイズできます。

- 3 テンプレート (たとえば [Forgot Hint (忘れた場合のヒント)]) を右クリックし、[Edit (編集)] を選択します。
テンプレートをダブルクリックして開くこともできます。

11.2 通知テンプレートの編集

通知テンプレートエディタでは、形式の選択、件名のカスタマイズ、およびユーザが受信するメッセージのカスタマイズを行うことができます。

図 11-1 通知テンプレートエディタ



形式の選択

ユーザが電子メール通知を HTML 形式またはテキスト形式のどちらで受信するかを選択します。

図 11-2 通知の送信オプション

Send As HTML Text

件名の指定

件名は電子メールの件名見出しまたはフィールドとして表示されるテキストです。件名フィールドのテキストを変更できます。このテキストでテンプレート名が決まるわけではありません。

図 11-3 件名フィールド

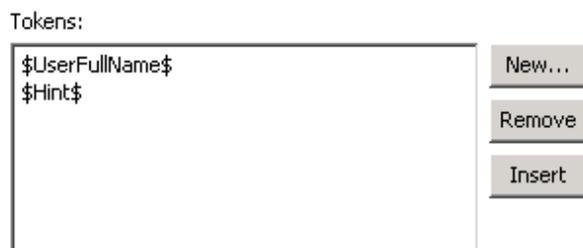
Subject:

Your password hint request

トークンの使用

トークンはユーザ名などのアイテム用の変数、つまり「置換タグ」です。トークンによりユーザへのメッセージをパーソナライズできます。

図 11-4 [Tokens (トークン)] ダイアログボックス

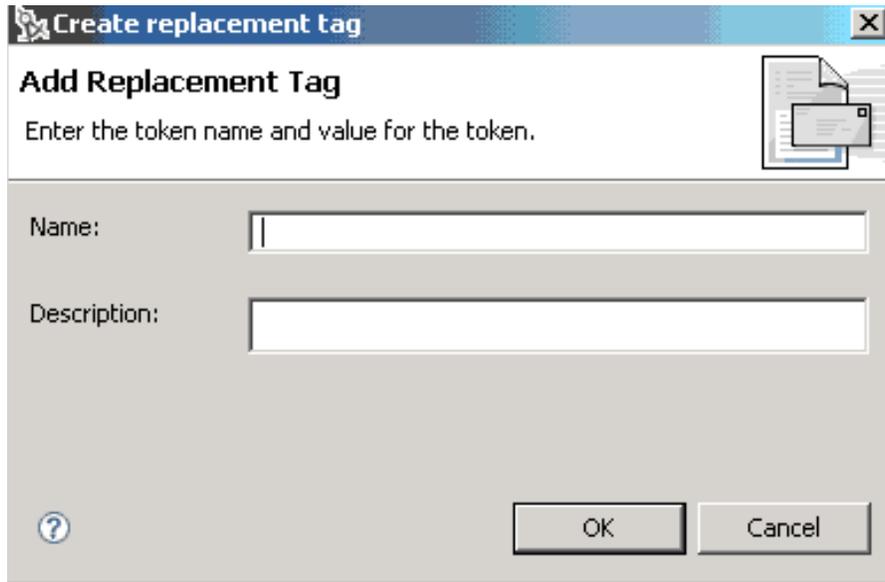


各テンプレートにはデフォルトのトークンが含まれています。たとえば、ユーザにパスワードを送信するための「Forgot Password (パスワードを忘れた場合)」電子メールテンプレートには、`$CurrentPassword$` という置換タグがデフォルトで含まれています。

メッセージ本文内で使用する他のトークンを定義することもできます。トークンを追加できるかどうかは、テンプレートを使用するアプリケーションによって異なります。追加の置換タグを定義する方法については、そのアプリケーションのマニュアルを参照してください。たとえば、Identity Manager のパスワード同期では、テンプレートを使用するドライバ環境設定内のポリシー内にもその置換タグの定義が含まれていない限り、独自に作成する置換タグを使用することはできません。

トークンの追加

- 1 [New (新規)] をクリックします。



- 2 [Create Replacement Tag (置換タグの作成)] ダイアログボックスで、トークンの名前を入力します。
\$ 文字を入力する必要はありません。Designer によって付加されます。
- 3 トークンの説明を入力します。
- 4 [OK (OK)] をクリックします。

トークンを追加すると、そのタグは自動的にテンプレートの XML ソースに追加されます。タグを追加した後は、[XML Source (XML ソース)] ビューでのみこれを編集できます。

トークンの削除

トークンを削除するには、[Remove (削除)] をクリックします。
メッセージの本文に必要なタグは削除しないようにしてください。

トークンの挿入

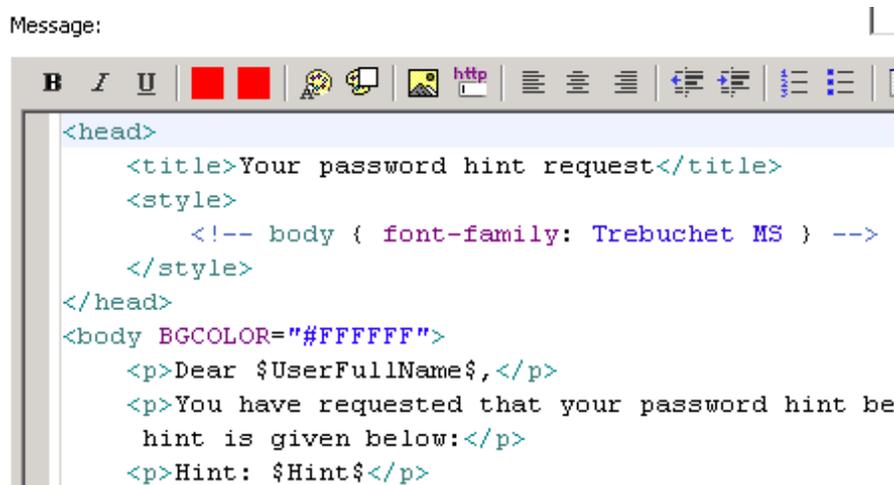
- 1 テンプレート内のトークンの挿入位置をクリックします。
- 2 トークンを選択します。
- 3 [Insert (挿入)] をクリックします。
選択したトークンが電子メールテンプレートに挿入されます。

テンプレートメッセージの編集

電子メールメッセージのテキストは、メッセージフィールドに表示されます。環境に合わせてテキストをカスタマイズします。電子メールメッセージをパーソナライズするには、トークンを使用します。

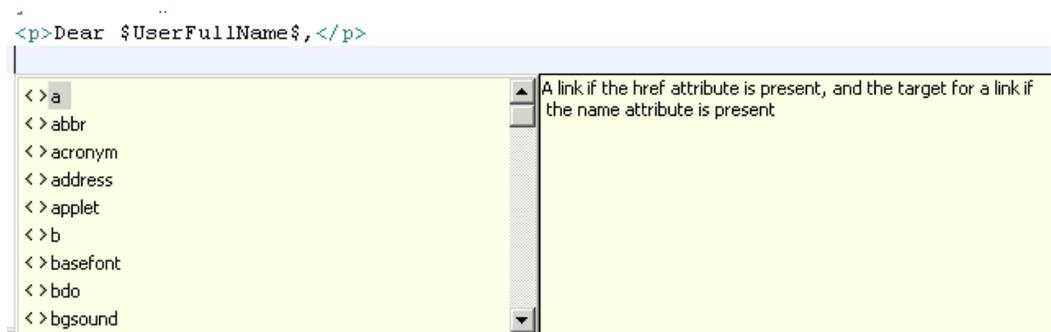
図 11-5 メッセージフィールド

Message:



```
<head>
  <title>Your password hint request</title>
  <style>
    <!-- body { font-family: Trebuchet MS } -->
  </style>
</head>
<body BGCOLOR="#FFFFFF">
  <p>Dear $UserFullName$, </p>
  <p>You have requested that your password hint be
  hint is given below:</p>
  <p>Hint: $Hint$</p>
```

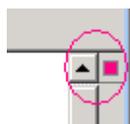
- 1 [Template Editor (テンプレートエディタ)] を選択します。
- 2 HTML タグを選択します。



カーソルを [Message (メッセージ)] 編集ボックスに置いて Ctrl キーを押しながら Space キーを押し、ドロップダウンリストでタグをダブルクリックします。テキストの書式をすばやく設定するには、ツールバーを使用します。



- 3 エラーがないかチェックします。

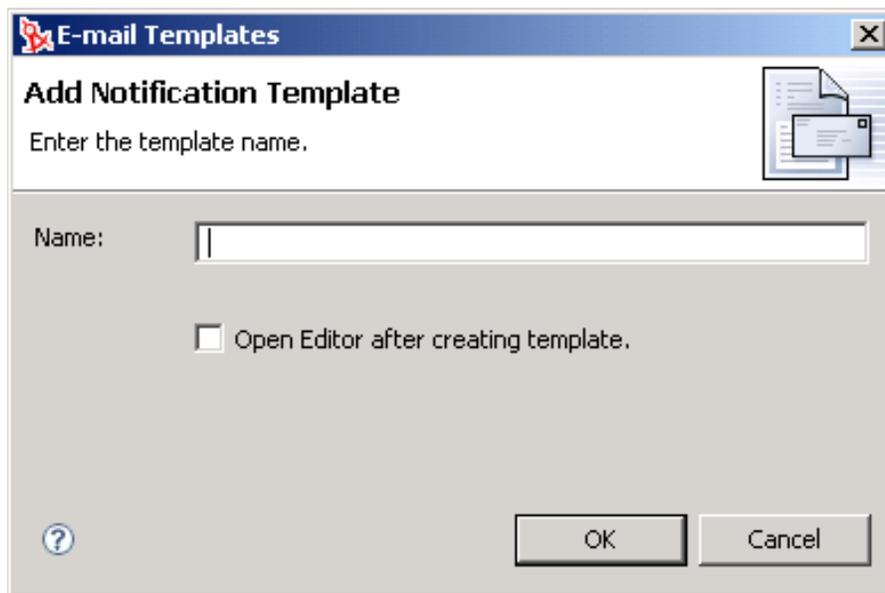


HTML コードにエラーがある場合は、テンプレートの右上隅にエラーアイコン (赤色のボックス) が表示されます。また、エラーがある行の右の余白にも赤いボックスが表示されます。

- 4 [Preview (プレビュー)] アイコン  をクリックしてテキストをプレビューします。
- 5 [File (ファイル)]、[Save (保存)] の順に選択して、テンプレートを保存します。
[Save (保存)] アイコンをクリックしても同じ操作ができます。
コードが無効な場合は、テンプレートを保存できません。

11.3 通知テンプレートの追加

- 1 モデラでアイデンティティボルトを選択します。
- 2 [Outline (アウトライン)] ビューで、そのアイデンティティボルトの [Default Notification Collection (デフォルトの通知コレクション)] までスクロールします。
- 3 右クリックし、[New Template (新規テンプレート)] を選択します。



- 4 テンプレートの名前を入力し、[OK (OK)] をクリックします。
テンプレートエディタを自動的に開いてテンプレートを表示したり編集したりできるようにするには、[Open Editor after creating template (テンプレートの作成後にエディタを開く)] を選択します。
- 5 テンプレートを編集してテキストをカスタマイズします。

通知テンプレートのインポート

通知テンプレートをファイルからインポートするには

- 1 [Outline (アウトライン)] ビューで、アイデンティティボルトの [Default Notification Collection (デフォルトの通知コレクション)] までスクロールします。
- 2 右クリックし、[Import Template from File (テンプレートをファイルからインポート)] を選択します。

- 3 テンプレートを参照して選択します。
- 4 テンプレートを編集して、テキストを環境に合わせてカスタマイズします。

通知テンプレートをライブ操作としてインポートするには

- 1 [Outline (アウトライン)] ビューで、アイデンティティボールの [Default Notification Collection (デフォルトの通知コレクション)] までスクロールします。
- 2 右クリックし、[Live Operations (ライブ操作)]、[Import Template (テンプレートのインポート)] の順に選択します。
- 3 ホスト名 (IP アドレス) を指定します。
- 4 認証を受けるには、ユーザ名とパスワードを指定します。
- 5 テンプレートを参照して選択してから、[OK (OK)] をクリックします。
- 6 テンプレートを編集して、テキストを環境に合わせてカスタマイズします。

テンプレートの展開

テンプレートを追加またはインポートしたら、展開します。

- 1 テンプレートを編集して、テキストを環境に合わせてカスタマイズします。
- 2 テンプレートを右クリックします。
- 3 [Live Operations (ライブ操作)]、[Deploy Template (テンプレートの展開)] の順に選択します。

11.4 電子メールサーバの設定

電子メールサーバは、通知設定テンプレートを使用するアプリケーションから通知電子メールを送信します。

- 1 モデラでアイデンティティボールを選択します。
- 2 [Outline (アウトライン)] ビューで、そのアイデンティティボールの [Default Notification Collection (デフォルトの通知コレクション)] までスクロールします。
- 3 右クリックして [Properties (プロパティ)] を選択します。
- 4 ホスト名、送信者、および SMTP 電子メールサーバの認証設定を指定します。

Host Name (ホスト名): SMTP 電子メールサーバのホスト名。IP アドレスを指定することもできます。

From (送信者): ユーザが電子メールを開くと、[From (送信者)] 編集ボックスに入力したテキストがユーザの電子メールの見出しの [From (送信者)] フィールドに表示されます。メールサーバの設定によっては、このフィールド内のテキストはシステム内の有効な送信者でなければならない場合があります。たとえば、「The Password Administrator」などの説明的なテキストではなく、「helpdesk@company.com」と指定します。有効な送信者であれば、メールサーバはリバースルックアップまたは認証を実行できます。

Authenticate to Server Using Credentials (アカウント情報を使用してサーバで認証):

保護された SMTP サーバに対して使用します。

電子メールを送信する前にサーバで認証が必要な場合、ここにユーザ名とパスワードを指定します。

認証情報をここに指定した場合でも、さらに、通知メールを送信するアプリケーションに対しても別途認証情報を指定しなければならない場合もあります。

たとえば、「パスワードを忘れた場合」通知メールを送信するときに、ここで指定する認証情報を使用できます。ただし、Identity Manager のパスワード同期の通知メールでは、通知メールの送信に使用するドライバポリシーで認証情報を指定する必要があります。

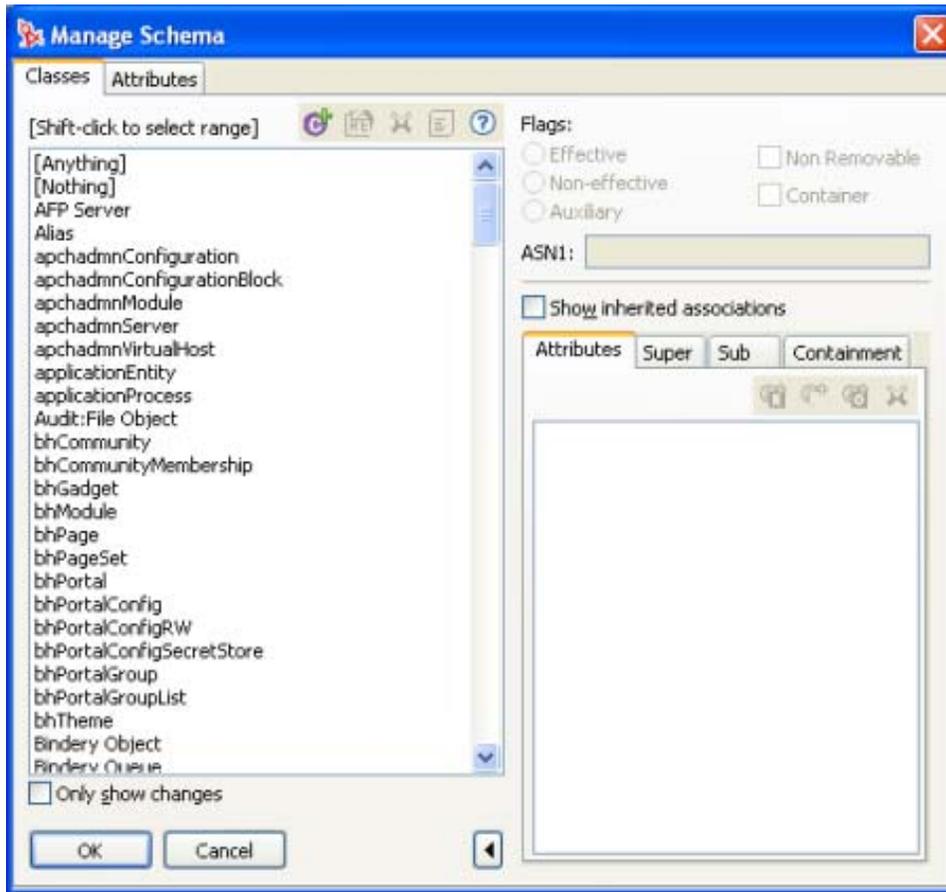
- 5 [File (ファイル)]、[Save (保存)] の順に選択するか、[Save (保存)] アイコンを選択して設定を保存します。

スキーマの管理

12

Designer では、eDirectory™ スキーマを管理することができます。Designer には eDirectory の基本スキーマのコピーが含まれており、基本スキーマは BaseIVSchema.xml ファイルに入っています。このファイルは designer\eclipse\plugins\com.novell.designer_x.x.x\defs\schema に入っています。このファイルは直接変更しないでください。Designer は、このファイルからスキーマ情報を取り出してプロジェクトに追加します。Schema Manager でスキーマをプロジェクトの一部として変更できますが、このファイルは変更されません。

図 12-1 Schema Manager (スキーママネージャ)



eDirectory スキーマに入っているクラスと属性は、追加、削除、名前変更、および変更が可能です。運用環境から eDirectory スキーマをインポートするか、デフォルトのスキーマを使用することができます。スキーマは、変更後に本稼働用の eDirectory ツリーに展開できます。

警告 : eDirectory スキーマの働きをよく理解せずにデフォルトのスキーマを変更すると、データを破損する恐れがあります。クラスや属性を変更してから、変更したスキーマを、それらのクラスが使用中であるツリーに展開すると、それらのオブジェクトが不明になったり、eDirectory の同期エラーが発生したりします。Novell® eDirectory Managing the Schema (<http://www.novell.com/documentation/edir88/index.html>) で、eDirectory のオンライン

マニュアルを読んでスキーマの基礎を理解してください。スキーマの詳細については、[Novell LogicSource® for eDirectory \(http://support.novell.com/subscriptions/articles/novell_logicsource.html\)](http://support.novell.com/subscriptions/articles/novell_logicsource.html) を参照してください。LogicSource は、Novell が Novell の顧客に提供する購読サービスです。LogicSource の詳細については、[Novell Technical Subscriptions \(http://support.novell.com/subscriptions/subscription_products/list_all_ls.html\)](http://support.novell.com/subscriptions/subscription_products/list_all_ls.html) を参照してください。

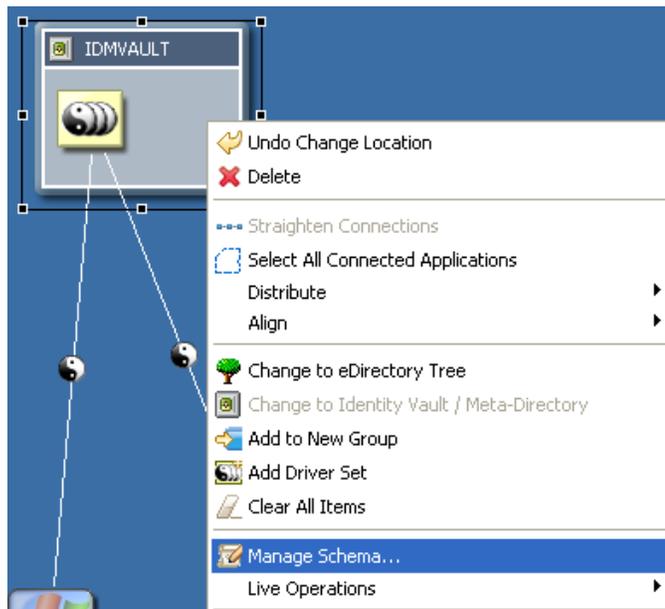
スキーマ管理の詳細については、次のセクションを参照してください。

- ◆ 216 ページのセクション 12.1 「Schema Manager (スキーママネージャ) へのアクセス」
- ◆ 217 ページのセクション 12.2 「クラスと属性の作成」
- ◆ 225 ページのセクション 12.3 「スキーマの変更」
- ◆ 234 ページのセクション 12.4 「スキーマの展開」
- ◆ 243 ページのセクション 12.5 「スキーマのインポート」
- ◆ 254 ページのセクション 12.6 「Application Schema (アプリケーションスキーマ)」
- ◆ 258 ページのセクション 12.7 「eDirectory スキーマ情報」
- ◆ 262 ページのセクション 12.8 「eDirectory から LDAP までスキーママッピングの表」

12.1 Schema Manager (スキーママネージャ) へのアクセス

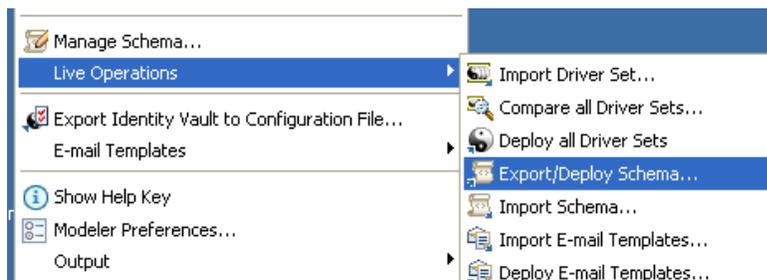
eDirectory スキーマを管理するには、Schema Manager にアクセスする必要があります。モデルで [アイデンティティボールド] アイコンを選択し、右クリックして [Manage Schema (スキーマの管理)] を選択します。

図 12-2 Schema Manager



[Live Operations (ライブ操作)] では、スキーマをインポートまたは展開できます。

図 12-3 Live Operations (ライブ操作)



テストする必要があるカスタムスキーマが運用環境に存在する場合は、そのスキーマを Designer にインポートすることができます。インポートしたスキーマは、テストして変更した後、運用環境に展開できます。

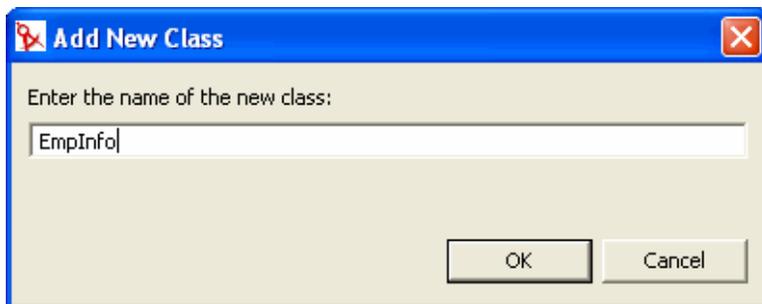
12.2 クラスと属性の作成

Designer により、各環境のニーズに合わせて eDirectory のクラスと属性を作成できます。新しいスキーマは、運用環境に実装する前に、Designer でテストして Identity Manager ドライバと一緒に使用できます。

- ◆ [217 ページのセクション 12.2.1 「eDirectory クラスの作成」](#)
- ◆ [220 ページのセクション 12.2.2 「eDirectory 属性の作成」](#)

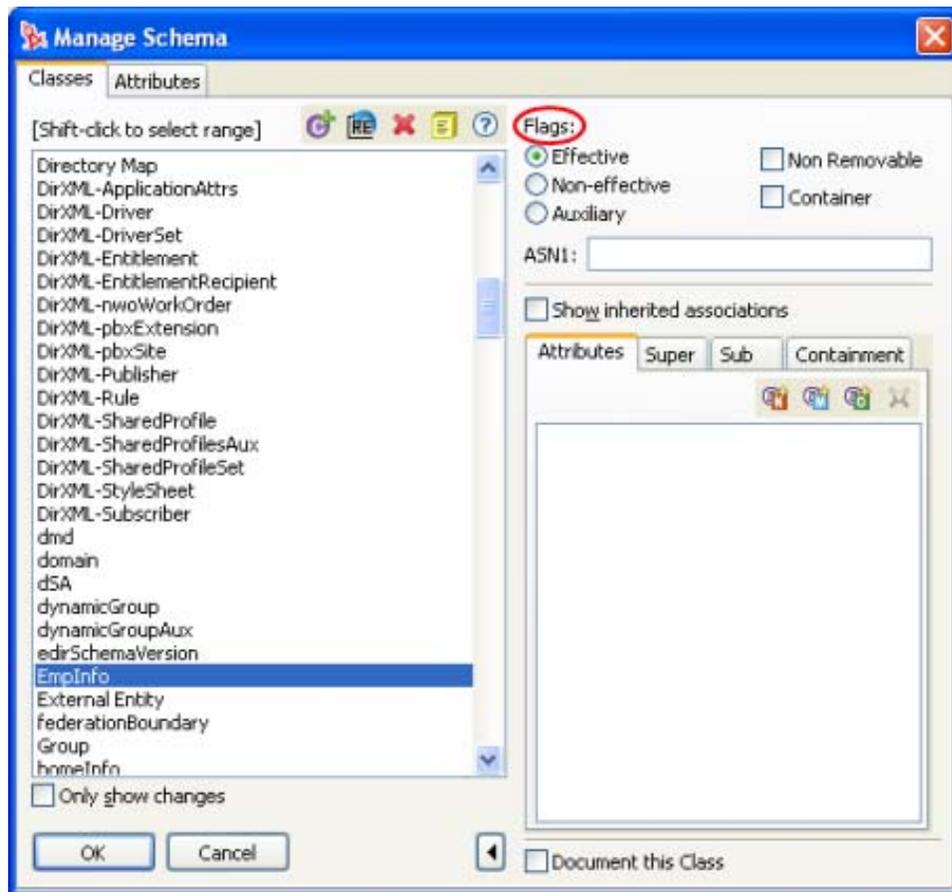
12.2.1 eDirectory クラスの作成

- 1 モデラで、[アイデンティティボールド] アイコンを右クリックして [Manage Schema (スキーマの管理)] を選択します。
- 2  s (クラス) タブを選択し、[Add a New Class (新規クラスの追加)] アイコンをクリックします。
- 3 クラスの名前を指定し、[OK] をクリックします。この例では、名前は EmpInfo です。



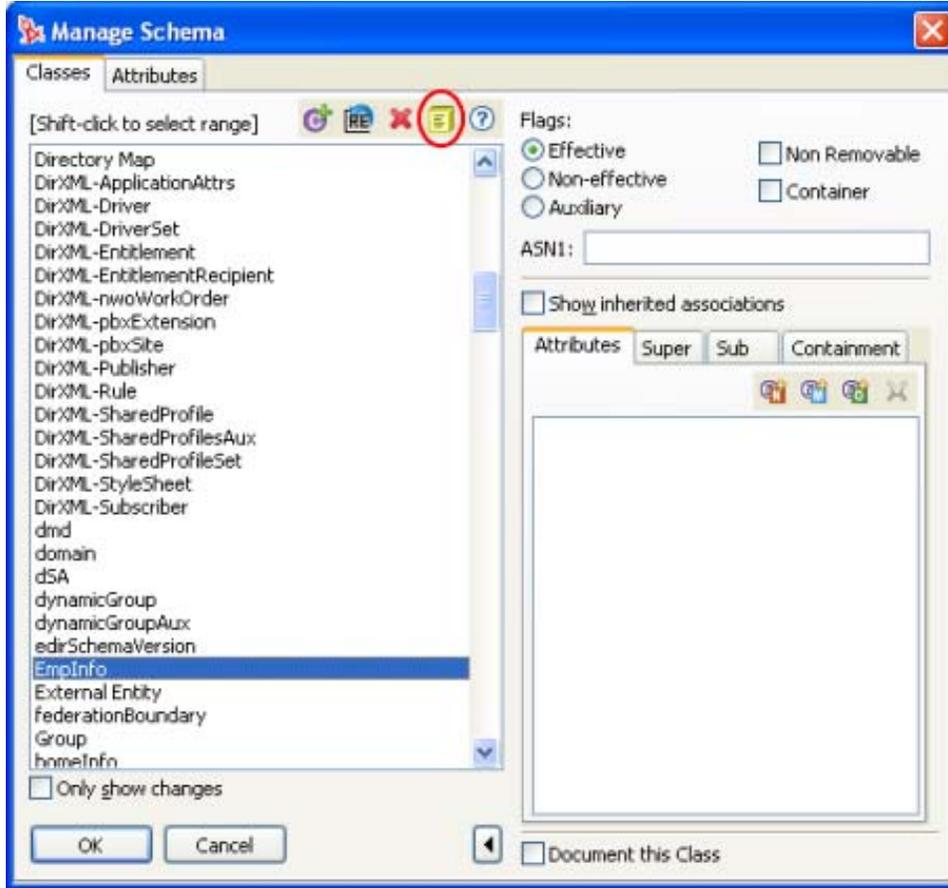
- 4 クラスのフラグを選択します。この例では Effective (有効) です。

クラスフラグの詳細については、258 ページの表 12-4 を参照してください。

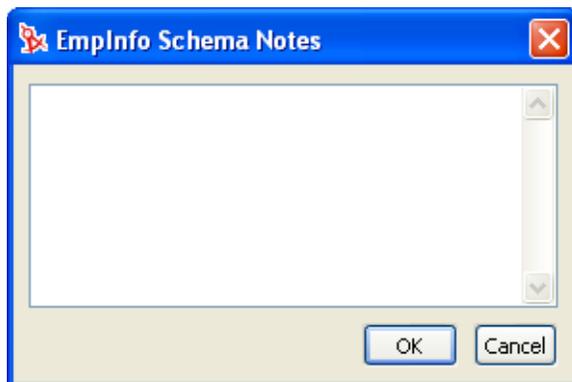


Designer では、作成するクラスに関するメモを追加できます。この情報は、desc として .ldif ファイルに、メモとして .sch ファイルに、それぞれ保存されます。

- 1 メモを追加するクラスを選択し、Schema Manager の [Schema Notes (スキーマメモ)] アイコンをクリックします。



- 2 ウィンドウにメモを入力し、[OK] をクリックします。

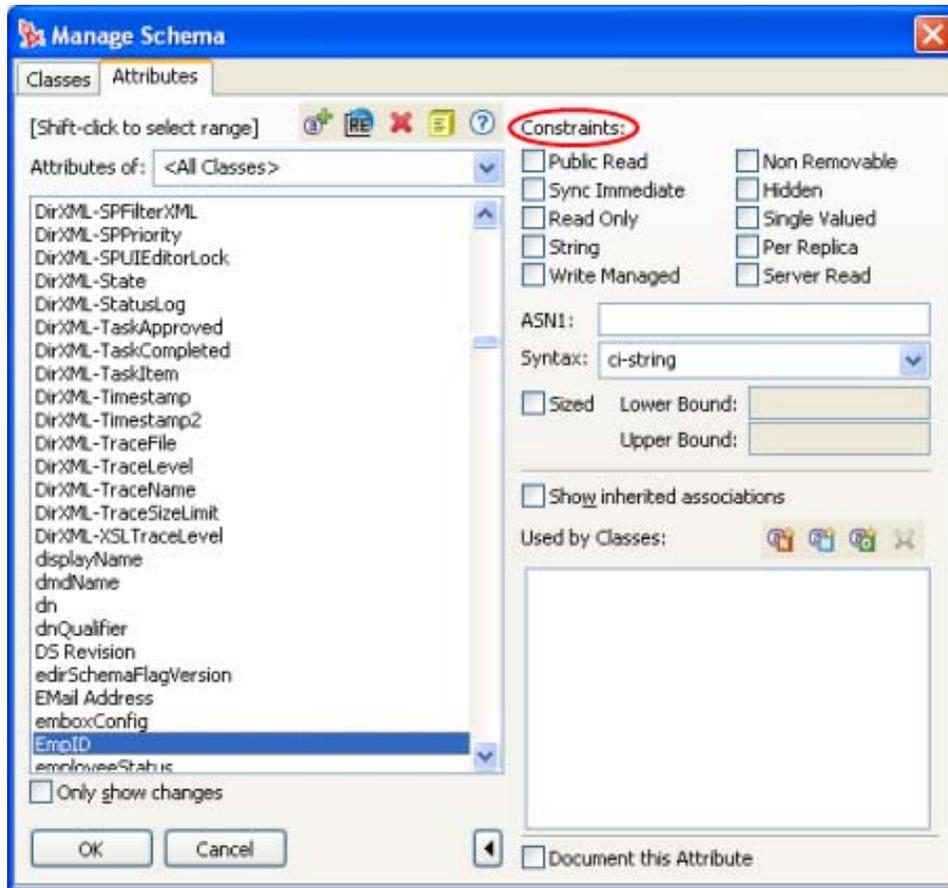


12.2.2 eDirectory 属性の作成

- 1 モデラで、[アイデンティティボールド] アイコンを右クリックして [Manage Schema (スキーマの管理)] を選択します。
- 2 [Attributes] タブを選択し、[Add a New Attribute (新規属性の追加)] アイコンをクリックします。
- 3 新しい属性の名前を指定し、[OK] をクリックします。この例では、名前は EmpID です。

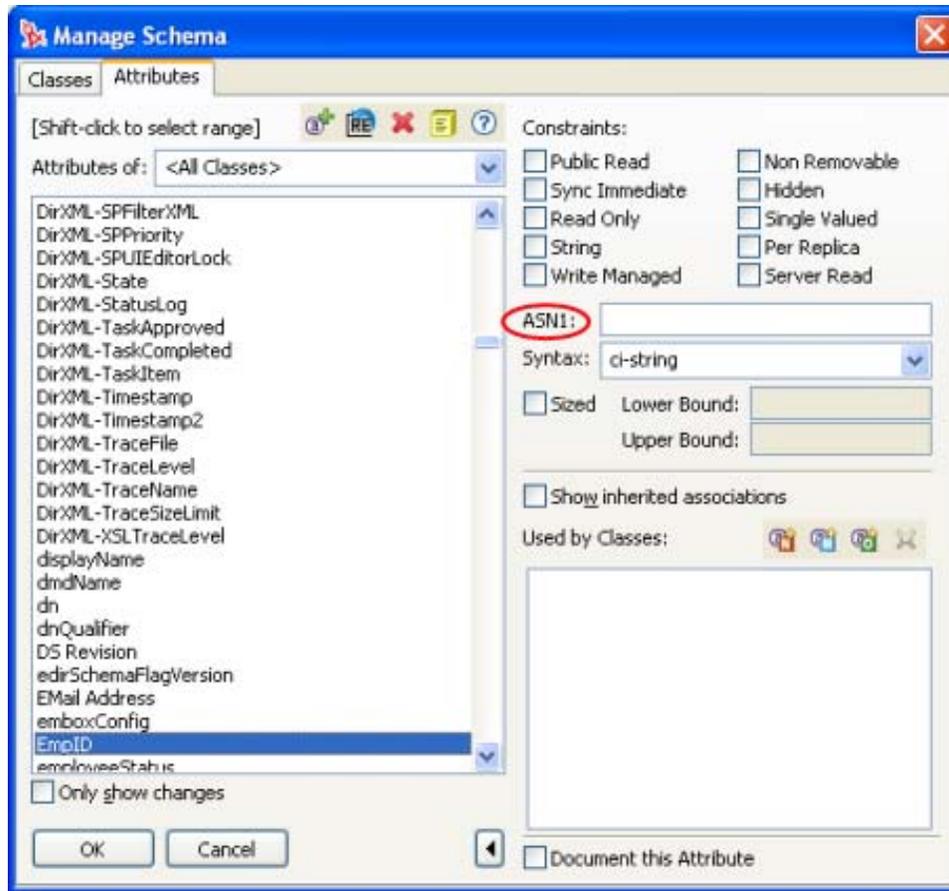


- 4 左側で新しい属性を選択してから、その属性の制約を選択します。



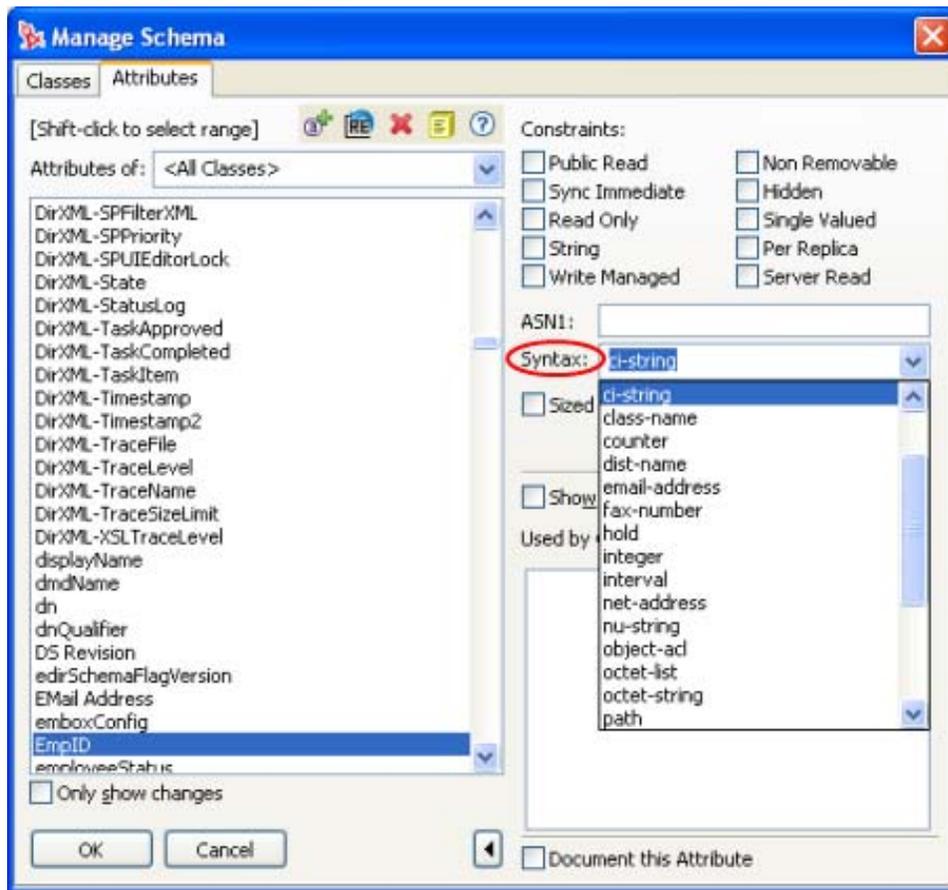
属性の制約は、データタイプに保存される情報を制限し、eDirectory および eDirectory クライアントの動作を制御します。制約のリストについては、259 ページの表 12-5 を参照してください。

- 5 [ASN1] の値がある場合は、それを指定します。この例では値がありません。



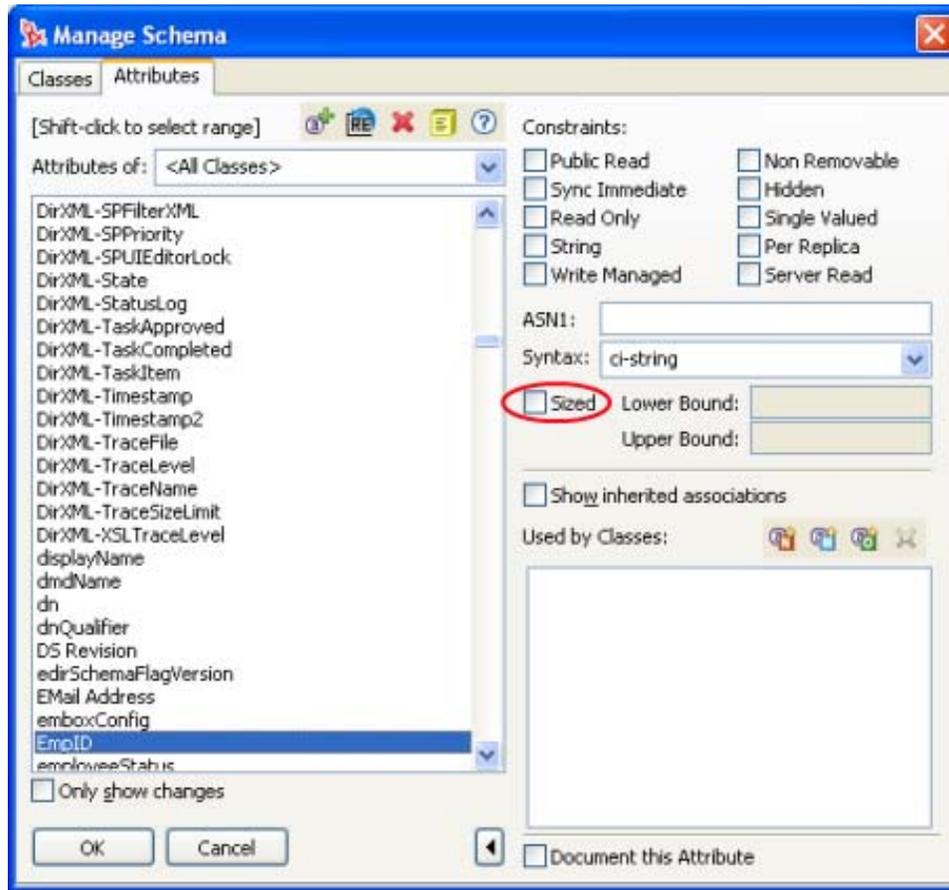
スキーマ定義を Novell に登録すると、Novell から ASN1 番号が提供されます。この ASN1 番号により、異なる定義構造を持つ重複するスキーマ名が原因となるスキーマ競合の問題が解決されます。スキーマ定義を一般利用に供する場合は、スキーマ定義を登録します。

- 6 ドロップダウンボックスで必要な構文を選択します。この例では、大文字 / 小文字無視文字列を表す `ci-string` です。



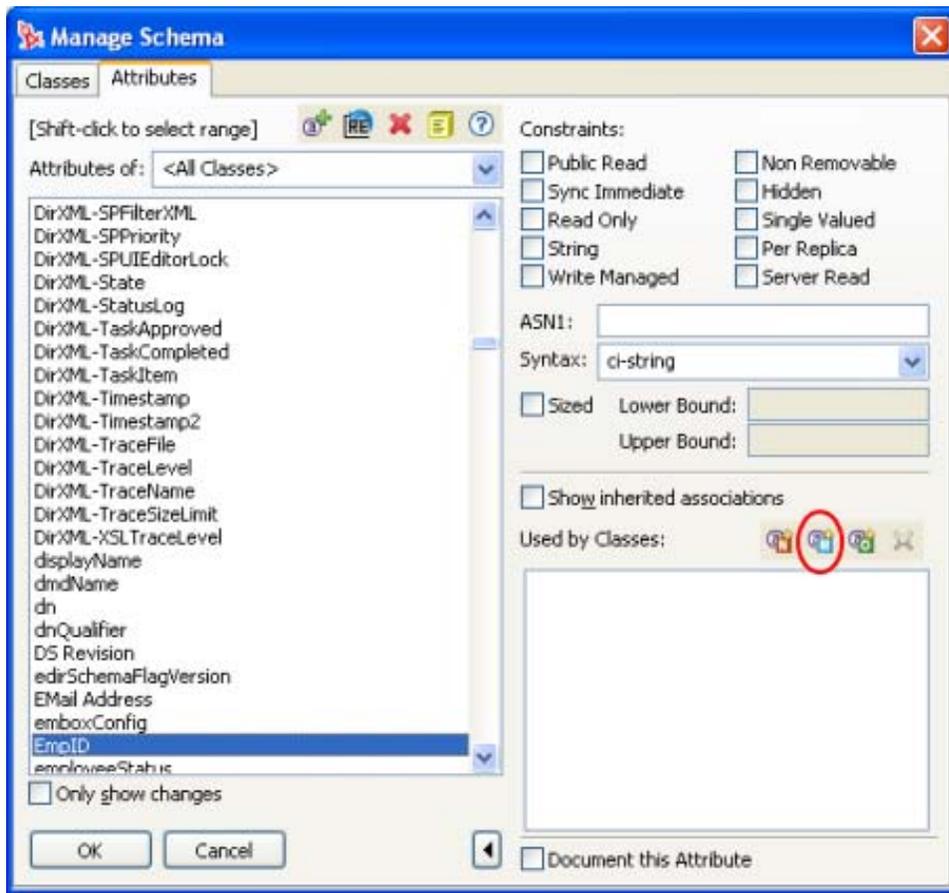
構文は各属性ごとに必要です。構文にはさまざまな種類があります。各構文の定義については、[259 ページの表 12-6](#) を参照してください。

- 7 スキーマ定義のサイズに制限がある場合は、[Sized (サイズ制限)] を選択して、サイズを 10 進形式で指定します。この例では値がありません。



この値は eDirectory データベース内のスキーマ定義の長さで、単位はバイトです。ツールは 10 進形式の情報を処理できます。eDirectory データベースは、この情報を 16 進形式に変換して使用します。

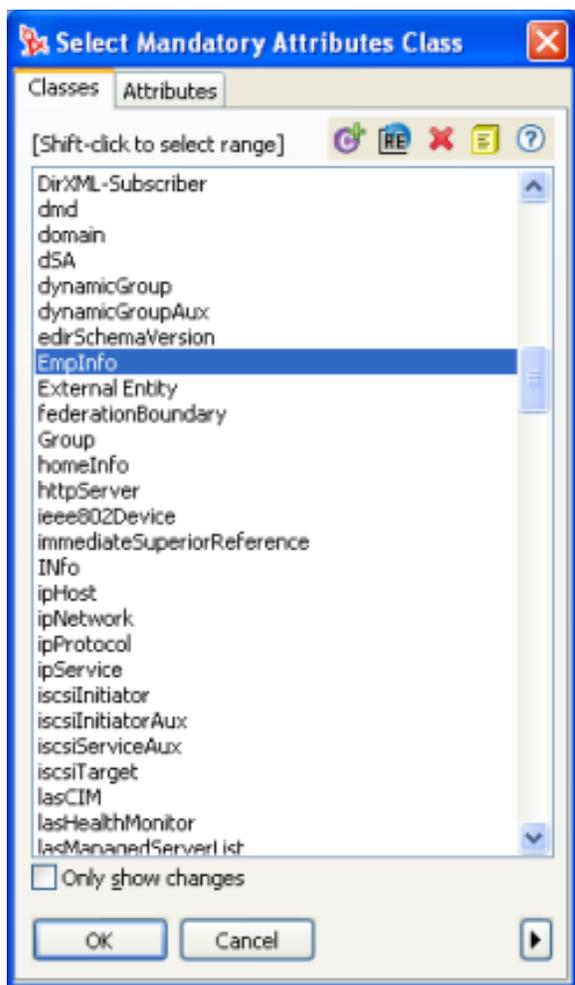
- 8 [Add Naming (名前付き属性の追加)] アイコン、[Add Mandatory (必須属性の追加)] アイコン、または [Add Optional (オプション属性の追加)] アイコンを選択します。この例では、[Add Mandatory (必須属性の追加)] アイコンを選択します。



さまざまなタイプの属性があります。それらの属性タイプはクラスの定義に役立ちます。属性のタイプについては、262 ページの表 12-7 を参照してください。

- 9 属性に関連付けるクラスを選択します。この例では、EmpInfo を使用しています。

10 [OK (OK)] をクリックします。



12.3 スキーマの変更

Designer では、eDirectory スキーマを変更できます。次のセクションでは、「Manage Schema (スキーマの管理)」ツールに含まれる、クラスおよび属性に関するさまざまなフィールドについて説明します。このほかに、スキーマの変更方法を説明するセクションもあります。

- ◆ 226 ページのセクション 12.3.1 「クラスに関するフィールド」
- ◆ 230 ページのセクション 12.3.2 「属性に関するフィールド」
- ◆ 232 ページのセクション 12.3.3 「スキーマ定義の削除」
- ◆ 232 ページのセクション 12.3.4 「スキーマの変更」
- ◆ 232 ページのセクション 12.3.5 「スキーマ定義の名前変更」

12.3.1 クラスに関するフィールド

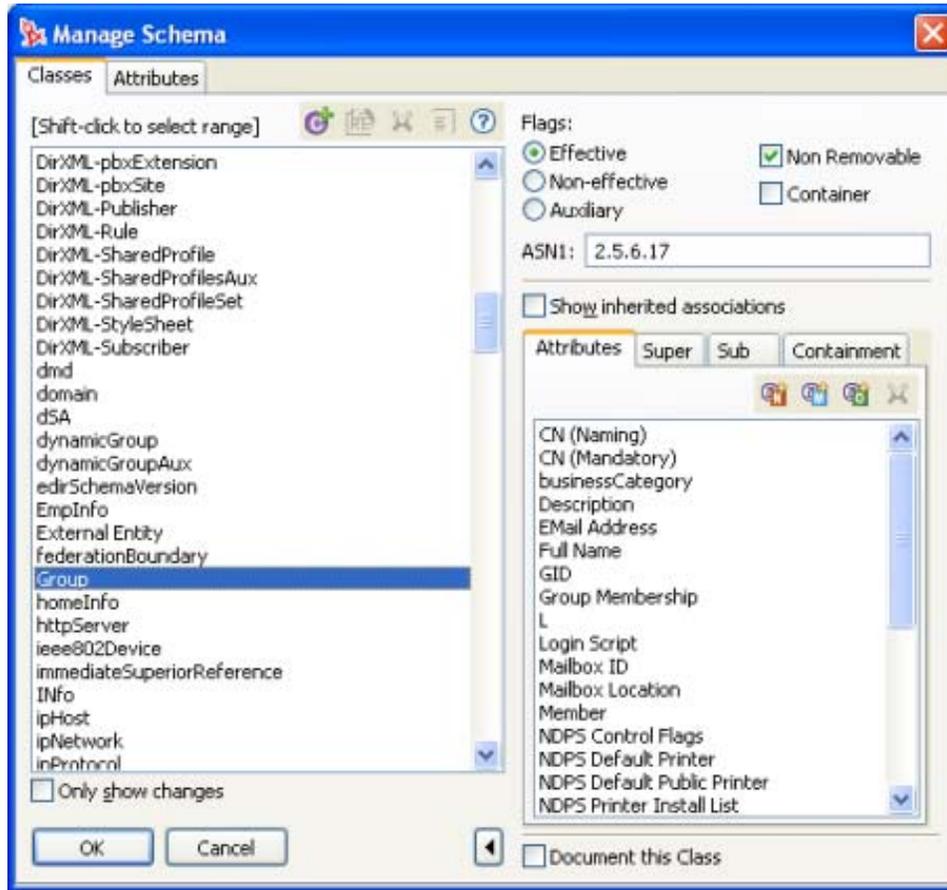


表 12-1 クラスに関するフィールド

クラスに関するフィールド	説明
Classes (クラス)	スキーマで定義され、Designer に保存されているすべてのクラスを一覧表示します。
Only show changes (変更のみを表示)	このチェックボックスをオンにすると、BaseIVSchema.xml ファイルに保存されている基本スキーマとは異なるクラスのみが表示されます。基本スキーマに変更がなければ、リストは空です。
Add a new class (新規クラスの追加) 	新しい eDirectory クラスを作成します。
Rename class (クラス名の変更) 	ベースクラス以外のクラスの名前を変更します。ベースクラスには使用可能なオプションはありません。
Delete class (クラスの削除) 	ベースクラス以外のクラスを削除します。ベースクラスには使用可能なオプションはありません。
Schema Notes (スキーマメモ)	作成したクラスに関するメモを追加できます。ベースクラスには使用できません。

クラスに関するフィールド	説明
Help (ヘルプ) 	Schema Manager (スキーママネージャ) のヘルプを起動します。
Flags (フラグ)	さまざまなタイプの使用可能なクラスフラグを一覧表示します。詳細については、 258 ページの表 12-4 を参照してください。
ASN1	スキーマ定義を Novell に登録すると、Novell から ASN1 番号が提供されます。この ASN1 番号により、異なる定義構造を持つ重複するスキーマ名が原因となるスキーマ競合の問題が解決されます。スキーマ定義を一般利用に供する場合は、スキーマ定義を登録します。
Show inherited associations (継承した関連付けの表示)	スキーマでは、他の属性をスーパークラスから継承できます。この項目を選択すると、クラスに関連付けられているすべての属性が (割り当てられたものと継承されたものとを問わず) 一覧表示されます。この項目を選択しないと、割り当てられた属性のみが一覧表示されます。
Add Naming (ネーミング属性の追加) 	[Add Naming (ネーミング属性の追加)] アイコンは、選択されているクラスにネーミング属性を追加します。詳細については、 262 ページの表 12-7 を参照してください。
Add Mandatory (必須属性の追加) 	[Add Mandatory (必須属性の追加)] アイコンは、選択されているクラスに必須属性を追加します。詳細については、 262 ページの表 12-7 を参照してください。
Add Optional (オプション属性の追加) 	[Add Optional (オプション属性の追加)] アイコンは、選択されているクラスにオプション属性を追加します。詳細については、 262 ページの表 12-7 を参照してください。
Delete (削除) 	[Delete (削除)] アイコンは、選択したクラスに関連付けられている属性を削除します。

Attributes (属性)

[Attributes (属性)] タブは、選択したクラスが関連付けられているすべての属性を一覧表示します。[Show Inherited Associations (継承した関連付けの表示)] が選択されている場合は、継承した関連付けられている属性を一覧表示します。

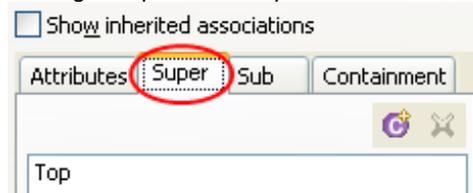
さらに、属性のタイプも一覧表示します。たとえば、クラス Group には CN という名前付き属性と CN という必須属性があります。リスト内の他のすべての属性はオプション属性です。

該当するアイコンを選択すれば、選択したクラスについて属性を追加したり削除したりできます。この表にある「Add Naming (名前付き属性の追加)」、「Add Mandatory (必須属性の追加)」、「Add Optional (オプション属性の追加)」、および「Delete (削除)」を参照してください。



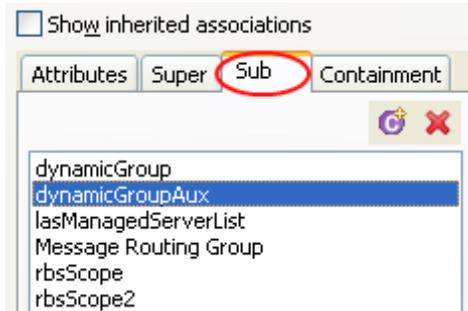
Super (スーパー)

eDirectory スキーマは、他のクラスからの継承を許可します。別のクラスが継承する元のクラスをスーパークラスと呼びます。[Super (スーパー)] タブは、選択されたクラスの直接のスーパークラスを一覧表示します。同じクラスが複数のスーパークラスから属性を継承することが可能です。すべてのクラスが継承するスーパークラスは Top です。Top より上には他のクラスはありません。たとえば、Group は Top から直接継承しますが、User は Organizational Person から継承します。Organizational Person は Person から継承します。Person は ndsLoginProperties から継承し、ndsLoginProperties は Top から継承します。



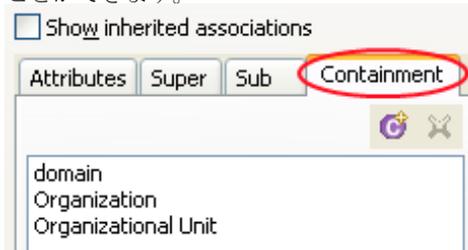
Sub (サブ)

[Sub (サブ)] タブは、選択されたクラスから継承するすべてのクラスを一覧表示します。[Sub (サブ)] タブにクラスが表示されていない場合は、選択されたクラスから継承するクラスはありません。



Containment (包含)

eDirectory では、オブジェクトはリーフオブジェクトかコンテナオブジェクトです。[Containment (包含)] は、選択されているクラスを含むことができる他のすべてのクラスを一覧表示します。たとえば、クラス Group にはクラス domain、Organization、および Organizational Unit を含めることができます。



Document this Class (このクラスを文書化)

選択されたクラスを、Designer で実行されるドキュメント生成プロセスに組み込むことができます。

スキーマの詳細については、Novell LogicSource for eDirectory を参照してください。LogicSource は、Novell が Novell のお客様に提供する購読サービスです。LogicSource の詳細については、[Novell Technical Subscriptions \(http://support.novell.com/subscriptions/subscription_products/list_all_ls.html\)](http://support.novell.com/subscriptions/subscription_products/list_all_ls.html) を参照してください。

12.3.2 属性に関するフィールド

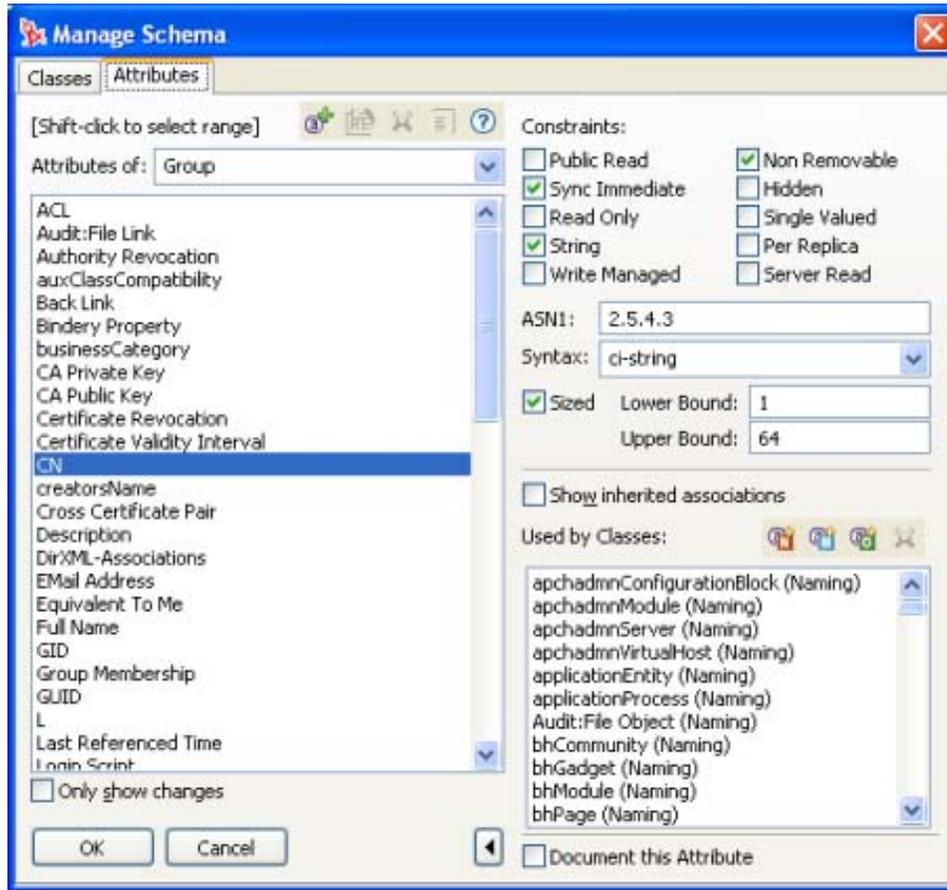


表 12-2 属性に関するフィールド

属性フィールド	説明
Attributes (属性)	スキーマで定義され、Designer に保存されているすべての属性を一覧表示します。すべての属性を一度に表示することも、特定のクラスに関連付けられている属性を表示することもできます。ドロップダウンリストからクラスを選択します。そのクラスに関連付けられている属性が一覧表示されます。
Only Show Changes (変更のみを表示)	このチェックボックスをオンにすると、BaseIVSchema.xml ファイルに保存されている基本スキーマとは異なる属性のみが表示されます。基本スキーマに変更がなければ、リストは空です。
Constraints (制約)	属性に対して使用可能なさまざまな制約を一覧表示します。詳細については、259 ページの表 12-5 を参照してください。

属性フィールド	説明
ASN1	スキーマ定義を Novell に登録すると、 Novell から ASN1 番号が提供されます。この ASN1 番号により、異なる定義構造を持つ重複するスキーマ名が原因となるスキーマ競合の問題が解決されます。スキーマ定義を一般利用に供する場合は、スキーマ定義を登録します。
Syntax (構文)	属性の構文は、属性がその値を eDirectory ツリーに保存するために使用する標準データタイプを定義します。詳細については、 259 ページの表 12-6 を参照してください。
Sized (サイズ制限)	eDirectory データベースに保存されているスキーマ定義のサイズを制限できます。この値は eDirectory データベース内のスキーマ定義の長さで、単位はバイトです。ツールは 10 進形式の情報を処理できます。 eDirectory データベースは 16 進形式の情報を使用します。
Show Inherited Associations (継承した関連付けの表示)	スキーマでは、他の属性をスーパークラスから継承できます。この項目を選択すると、選択された属性に関連付けられているすべてのクラスが (割り当てられたものと継承されたものとを問わず) 一覧表示されます。この項目を選択しないと、割り当てられたクラスのみが一覧表示されます。
Used by Classes (使用元のクラス)	このフィールドは、選択された属性を使用するすべてのクラスを一覧表示します。[Show Inherited Associations (継承した関連付けの表示)] が選択されている場合は、選択された属性を継承するクラスを一覧表示します。
Add Naming (ネーミング属性の追加) 	[Add Naming (名前付き属性の追加)] アイコンは、選択されている属性を名前付き属性としてクラスに追加します。詳細については、 262 ページの表 12-7 を参照してください。
Add Mandatory (必須属性の追加) 	[Add Mandatory (必須属性の追加)] アイコンは、選択された属性を必須属性としてクラスに追加します。詳細については、 262 ページの表 12-7 を参照してください。
Add Optional (オプション属性の追加) 	[Add Optional (オプション属性の追加)] アイコンは、選択された属性をオプション属性としてクラスに追加します。詳細については、 262 ページの表 12-7 を参照してください。
Delete (削除) 	[Delete (削除)] アイコンは、選択された属性に関連付けられているクラスを削除します。

12.3.3 スキーマ定義の削除

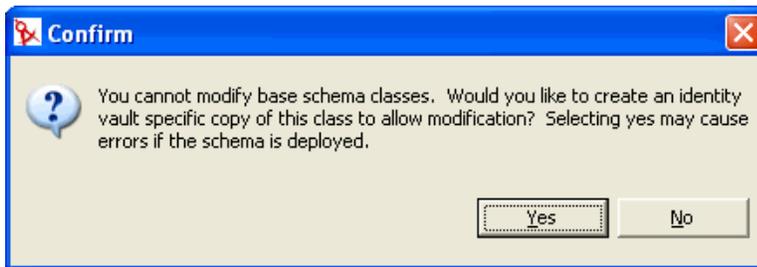
拡張されたスキーマ定義は削除できます。基本スキーマは削除できません。基本スキーマの項目を選択すると、[Delete (削除)] アイコンはぼかし表示になり、選択不可となります。

- 1 モデラで、[Identity Vault (アイデンティティボールド)] アイコンを右クリックして [Manage Schema (スキーマの管理)] を選択します。
- 2 削除するクラスまたは属性を選択し、[Delete (削除)] アイコン  をクリックします。

12.3.4 スキーマの変更

Designer では、スキーマを変更することができます。

- 1 モデラで、[Identity Vault (アイデンティティボールド)] アイコンを右クリックして [Manage Schema (スキーマの管理)] を選択します。
- 2 変更するクラスまたは属性を選択します。
- 3 この項目を変更するには、右側にある変更対象フィールドを選択します。
基本スキーマのクラスまたは属性を選択した場合は、次のポップアップメッセージが表示されます。



拡張されたスキーマのみを変更し、基本スキーマは変更しないようにしてください。基本スキーマの変更は、データ破壊や eDirectory 同期エラーの原因となることがあります。

- 4 目的に応じて項目を変更し、[OK] をクリックします。

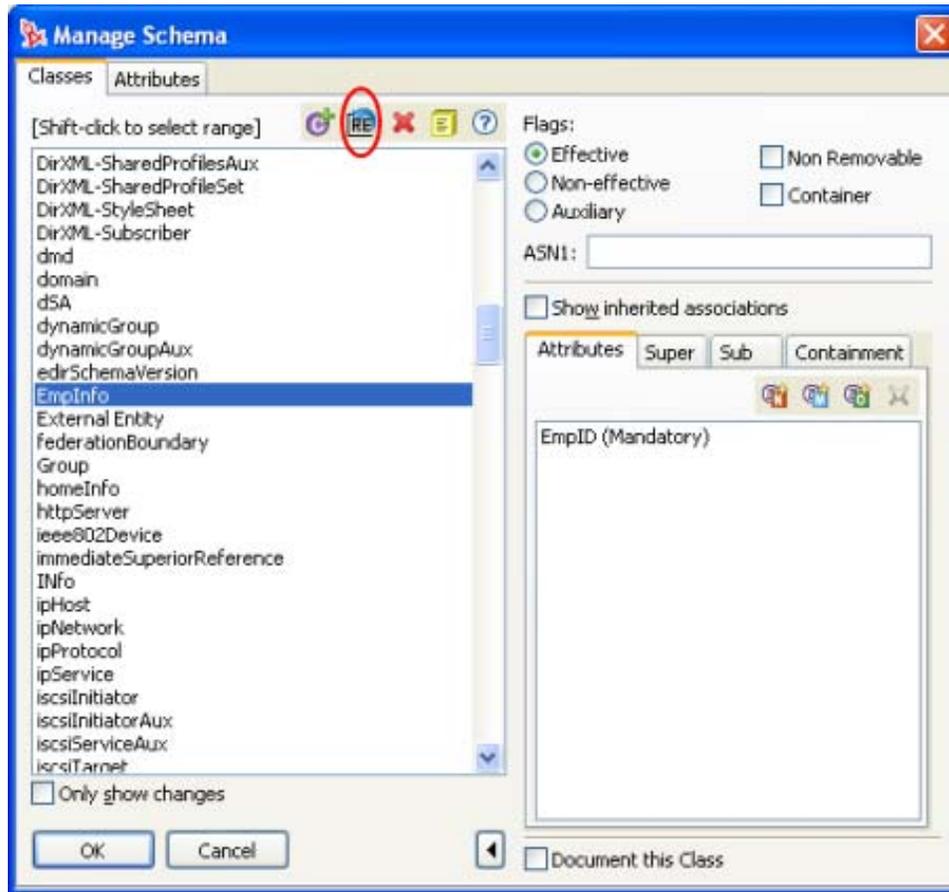
12.3.5 スキーマ定義の名前変更

拡張されたスキーマ定義の名前は変更できます。基本スキーマのクラスや属性の名前は変更できません。基本スキーマの項目を選択すると、[Rename (名前変更)] アイコンはぼかし表示になり、選択不可となります。

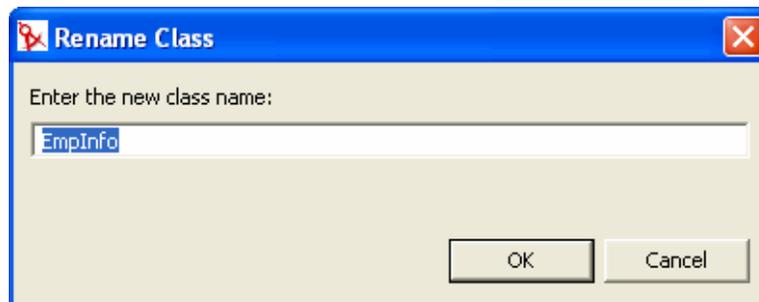
クラス名の変更

- 1 モデラで、[Identity Vault (アイデンティティボールド)] アイコンを右クリックして [Manage Schema (スキーマの管理)] を選択します。

- 2 クラスタブで名前を変更するクラスを選択し、[Rename Class (クラス名の変更)] アイコンをクリックします。



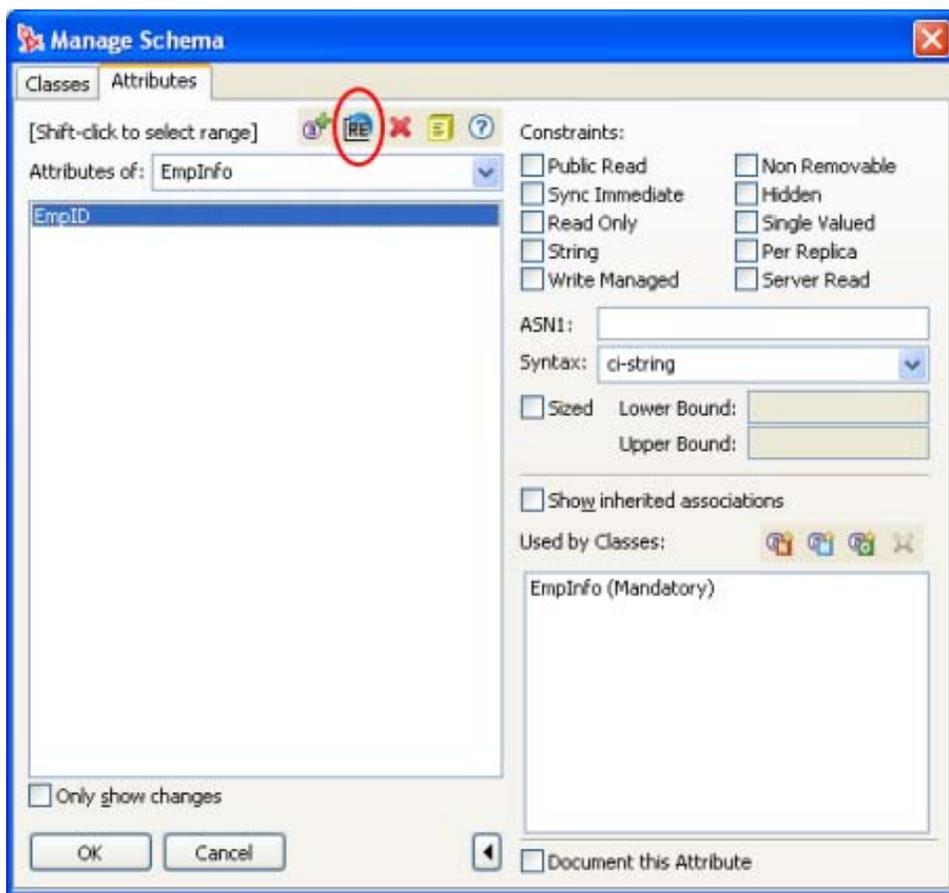
- 3 クラスの新しい名前を指定し、[OK] をクリックします。



属性名の変更

- 1 モデラで、[Identity Vault (アイデンティティボールド)] アイコンを右クリックして [Manage Schema (スキーマの管理)] を選択します。

- 2 属性タブで名前を変更する属性を選択し、[Rename attribute (属性名の変更)] をクリックします。



- 3 属性の新しい名前を指定し、[OK] をクリックします。



12.4 スキーマの展開

新規スキーマを使った Identity Manager ドライバのテストが終了したならば、変更したスキーマを eDirectory に展開することができます。

- ◆ 235 ページのセクション 12.4.1 「スキーマの展開」
- ◆ 242 ページのセクション 12.4.2 「Schema Deploy Wizard (スキーマ展開ウィザード)」

12.4.1 スキーマの展開

スキーマを eDirectory ツリーに展開する方法は 2 通りあります。

- ◆ 235 ページの「eDirectory ツリーへのスキーマの展開」
- ◆ 237 ページの「ファイルへのスキーマのエクスポート」

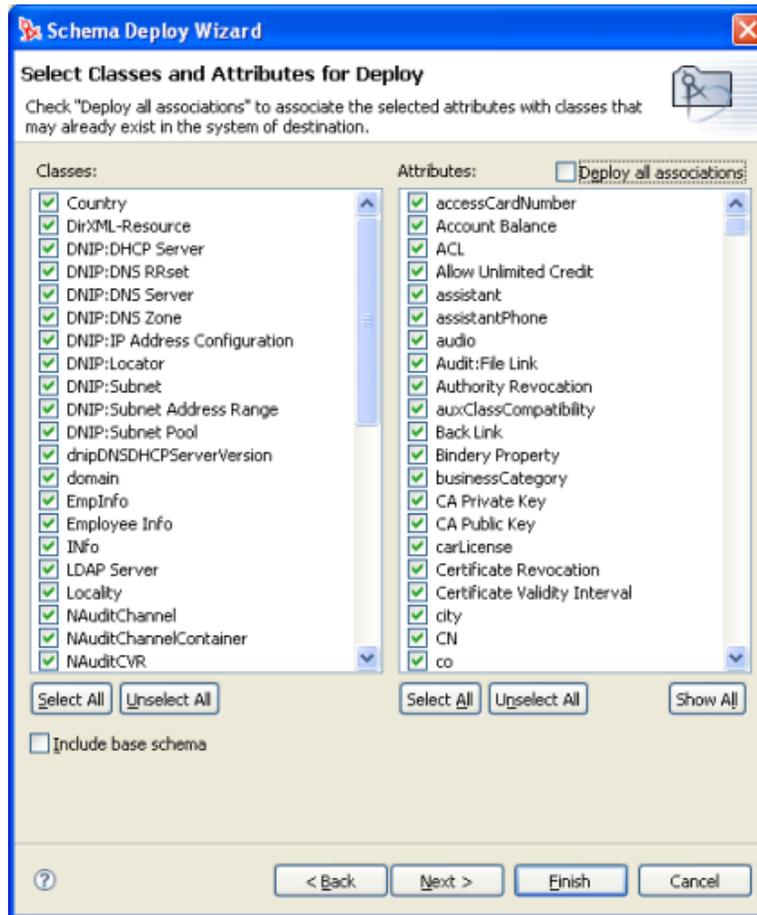
eDirectory ツリーへのスキーマの展開

- 1 モデラで、[Identity Vault (アイデンティティボールド)] アイコンを右クリックして、[Live Operations (ライブ操作)] > [Export/Deploy Schema (スキーマのエクスポート/展開)] の順に選択します。
- 2 [Deploy to eDirectory (eDirectory に展開)] を選択します。

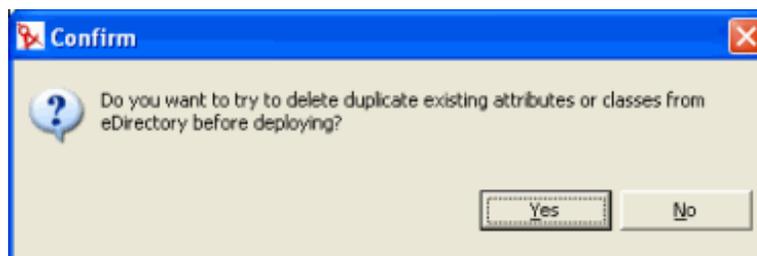


- 3 [ホスト名] を指定します。サーバの IP アドレスまたは DNS 名を指定できます。
- 4 [ユーザ名] を指定します。スキーマに対して管理権限を持つユーザを指定してください。
- 5 ユーザのパスワードを指定し、[Next (次へ)] をクリックします。
- 6 eDirectory スキーマに展開するクラスと属性を選択し、[Finish (終了)] をクリックします。

詳細については、242 ページのセクション 12.4.2 「Schema Deploy Wizard (スキーマ展開ウィザード)」を参照してください。



- 7 クラスまたは属性を重複して選択した場合は、警告ダイアログボックスが表示されます。重複するクラスまたは属性に対する処置に応じて [Yes (はい)] または [No (いいえ)] を選択します。



- 8 [Deploy Summary (展開の概要)] ページで [OK] をクリックします。エラーや警告がある場合は、それらが一覧表示されます。



ファイルへのスキーマのエクスポート

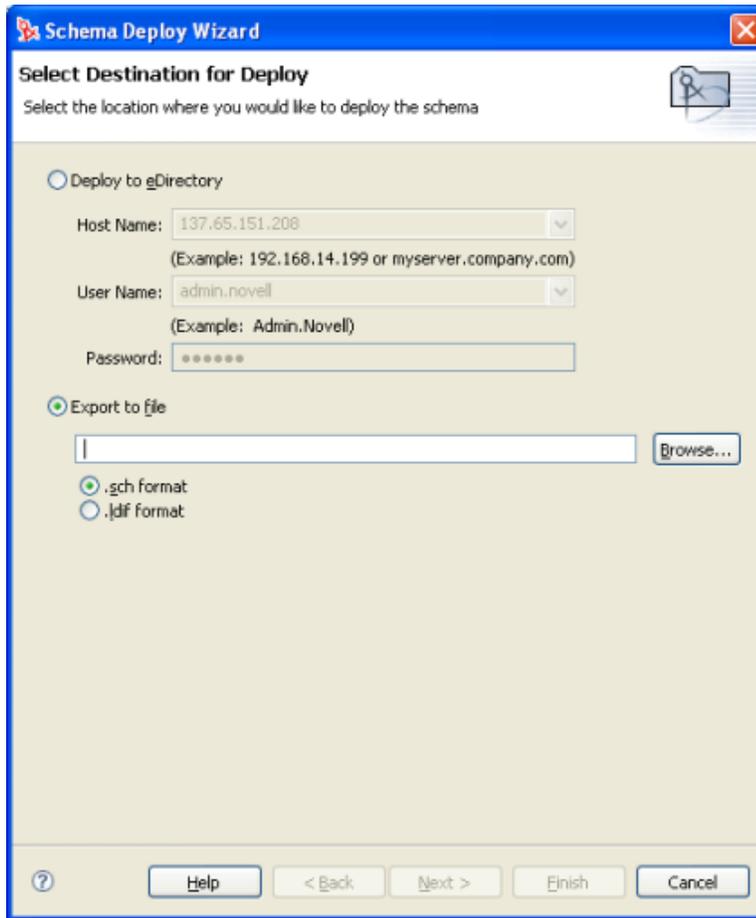
スキーマをファイルにエクスポートする方法には次の2通りがあります。

- ◆ 237 ページの「[.sch ファイルへのスキーマのエクスポート](#)」
- ◆ 239 ページの「[LDIF ファイルへのスキーマのエクスポート](#)」

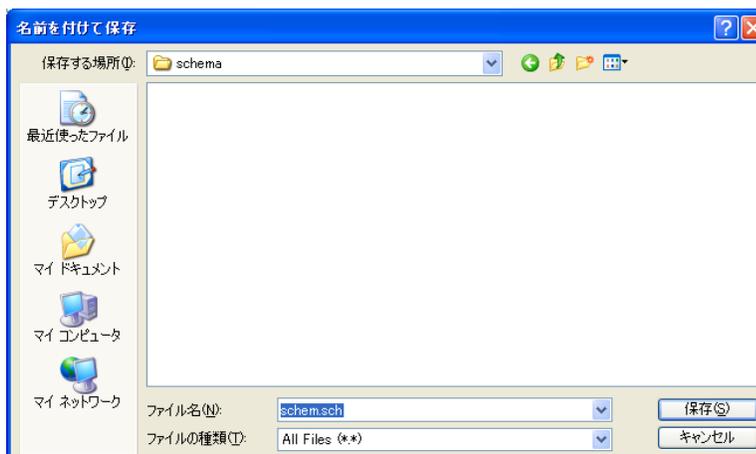
.sch ファイルへのスキーマのエクスポート

- 1 モデラで、[Identity Vault (アイデンティティボールド)] アイコンを右クリックして、[Live Operations (ライブ操作)] > [Export/Deploy Schema (スキーマのエクスポート/展開)] の順に選択します。
- 2 [Export to file (ファイルにエクスポート)] を選択します。

- 3 [.sch format (.sch 形式)] を選択してから [Browse (参照)] をクリックします。



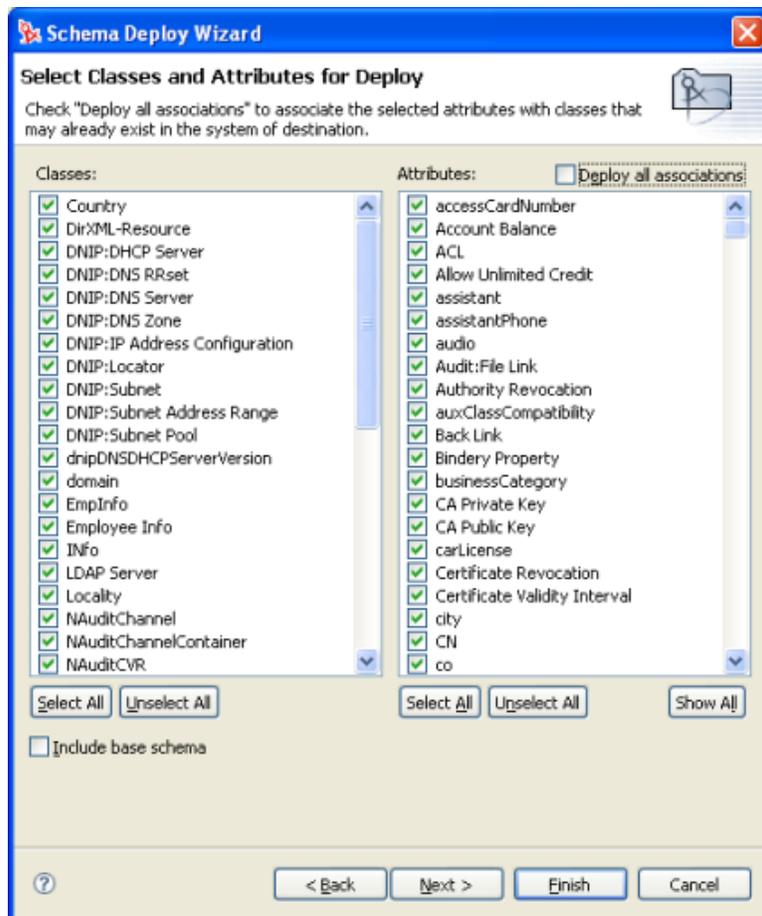
- 4 スキーマファイルを保存する場所を参照します。
5 正しい拡張子を持つファイル名を指定し、[Save (保存)] をクリックします。



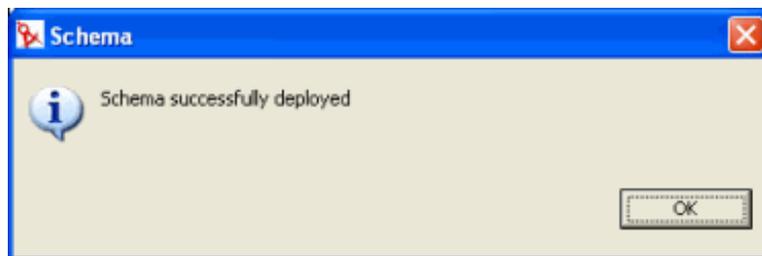
- 6 [Next (次へ)] をクリックします。

- 7 .sch ファイルにエクスポートするクラスと属性を選択し、[Finish (終了)] をクリックします。

詳細については、242 ページのセクション 12.4.2 「Schema Deploy Wizard (スキーマ展開ウィザード)」を参照してください。



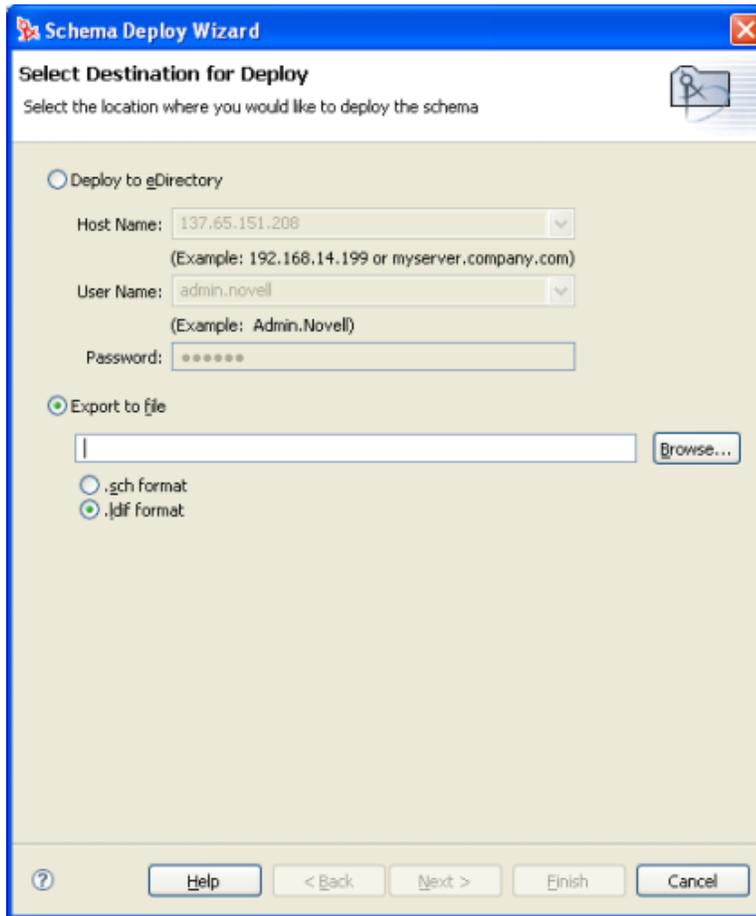
- 8 「Schema Successfully Deployed (スキーマは正常に展開されました)」というメッセージが表示されたら [OK] をクリックします。エラーがある場合は、展開の概要画面が表示されます。



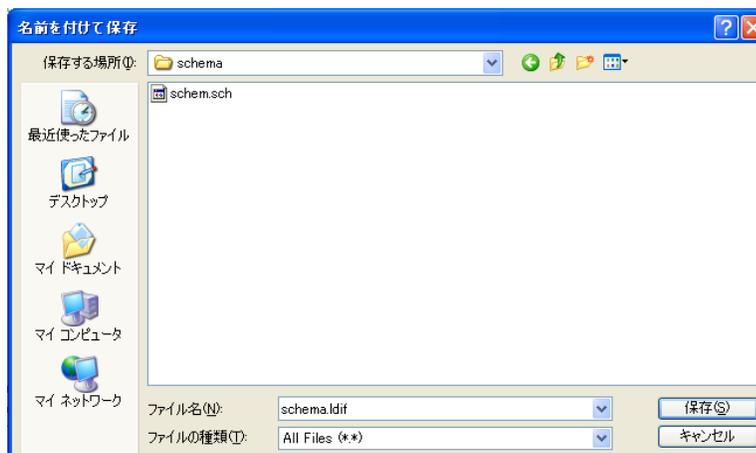
LDIF ファイルへのスキーマのエクスポート

- 1 モデラで、[Identity Vault (アイデンティティボールド)] アイコンを右クリックして、[Live Operations (ライブ操作)] > [Export/Deploy Schema (スキーマのエクスポート/展開)] の順に選択します。

- 2 [Export to file (ファイルにエクスポート)] を選択します。
- 3 [.ldif format (.ldif 形式)] を選択してから [Browse (参照)] をクリックします。



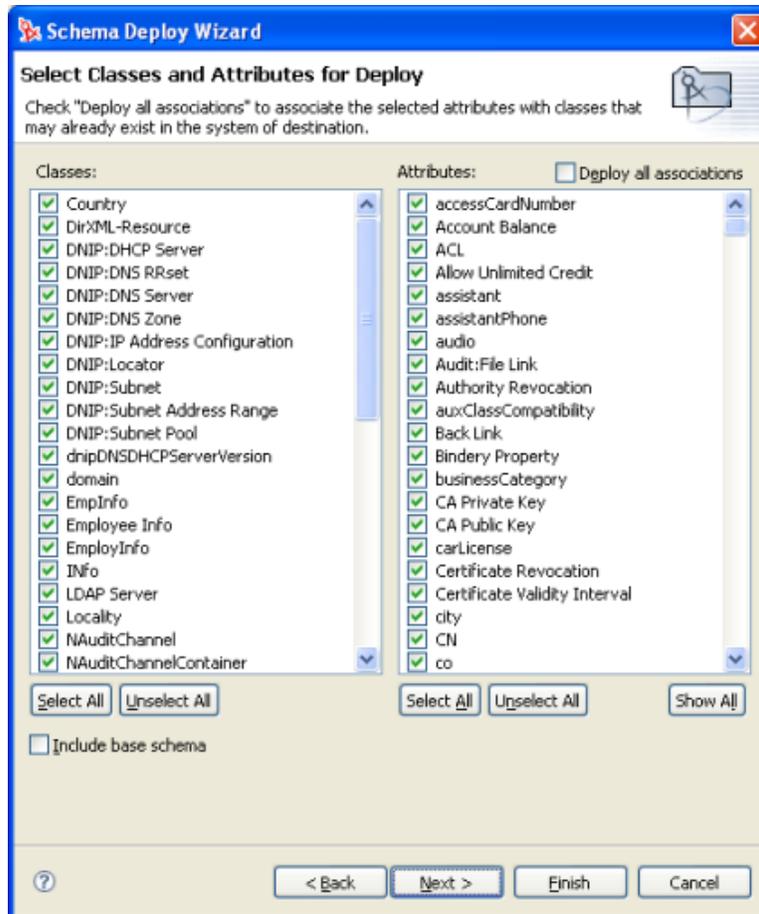
- 4 スキーマファイルを保存する場所を参照します。
- 5 正しい拡張子を持つファイル名を指定し、[Save (保存)] をクリックします。



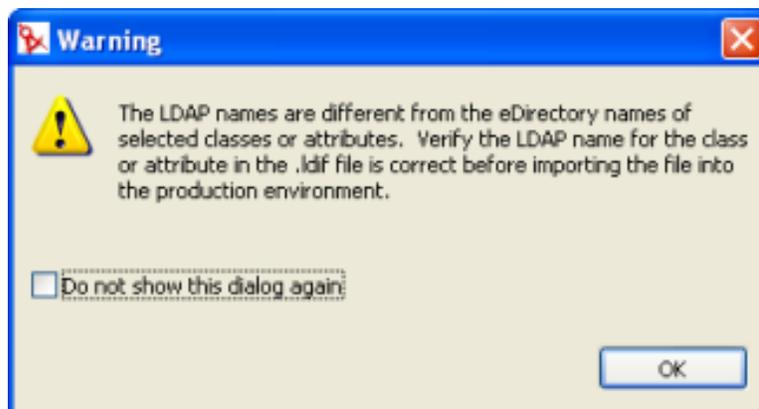
- 6 [Next (次へ)] をクリックします。

- 7 .ldif ファイルにエクスポートするクラスと属性を選択し、[Finish (終了)] をクリックします。

詳細については、[242 ページのセクション 12.4.2 「Schema Deploy Wizard \(スキーマ展開ウィザード\)」](#) を参照してください。



- 8 警告が表示されたら [OK] をクリックします。



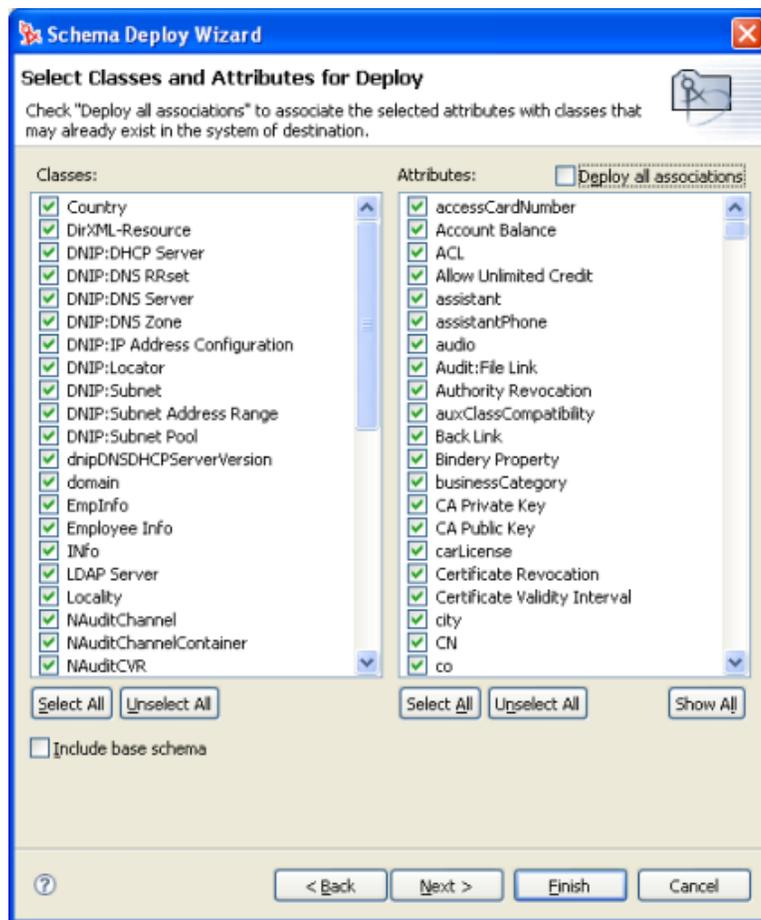
Designer 内でのクラス名と属性名は eDirectory 名です。LDIF ファイル内のクラスと属性の名前は LDAP 名であり、双方の名前は異なります。LDAP ファイルをイン

ポートする前に、LDAP ファイルに記載されている名前が使用環境にとって正しいものであることを確認してください。LDAP クラス名および属性名にマップされた eDirectory クラス名および属性名のリストについては、[262 ページのセクション 12.8 「eDirectory から LDAP までスキーママッピングの表」](#) を参照してください。

- 9 「Schema Successfully Deployed (スキーマは正常に展開されました)」というメッセージが表示されたら [OK] をクリックします。エラーがある場合は、展開の概要画面が表示されます。

12.4.2 Schema Deploy Wizard (スキーマ展開ウィザード)

スキーマ展開ウィザードにより、eDirectory のクラスと属性を eDirectory ツリーに展開することができます。Designer で作成したカスタムクラスおよび属性がある場合は、それらを eDirectory ツリーに展開できます。



次にスキーマインポートウィザードの機能を示します。

- ◆ [243 ページの 「Deploy All Associations \(すべての関連付けの展開\)」](#)
- ◆ [243 ページの 「クラスと属性の選択」](#)

Deploy All Associations (すべての関連付けの展開)

[Deploy all associations (すべての関連付けの展開)] では、選択した属性を eDirectory ツリーにすでに存在するクラスに関連付けることができます。このボックスをオンにしないと、クラスに関連付ける必要のある新規属性が関連付けられません。たとえば、Employee Photo という属性を User クラスに関連付ける場合に、[Deploy all associations (すべての関連付けの展開)] が選択されていないと、Employee Photo は User クラスに関連付けられません。

クラスと属性の選択

Designer にあるクラスと属性が 2 列に表示されます。デフォルトでは、それらのクラスと属性がすべて選択されます。これらのクラスと属性は個別に選択解除できます。クラスまたは属性の選択を解除するには、目的のクラスまたは属性のチェックマークをオフにします。すべてのクラスと属性を選択する場合は、[Select All (すべて選択)] ボタンをクリックします。これにより、すべてのクラスと属性が Designer へのインポートのために選択されます。すべてのクラスと属性の選択を解除する場合は、[Unselect All (すべて選択解除)] ボタンをクリックします。

12.5 スキーマのインポート

Designer では、運用環境からスキーマをインポートして、Identity Manager ドライバを使った綿密なテストを行うことができます。

- ◆ [243 ページのセクション 12.5.1 「スキーマのインポート」](#)
- ◆ [253 ページのセクション 12.5.2 「スキーマインポートウィザード」](#)

12.5.1 スキーマのインポート

スキーマを Designer にインポートする方法には次の 2 通りがあります。

- ◆ [243 ページの「eDirectory ツリーからのスキーマのインポート」](#)
- ◆ [246 ページの「ファイルからのスキーマのインポート」](#)

eDirectory ツリーからのスキーマのインポート

- 1 モデラで、[Identity Vault (アイデンティティボールド)] アイコンを右クリックして、[Live Operations (ライブ操作)] > [Import Schema (スキーマのインポート)] の順に選択します。

- 2 [Import from eDirectory (eDirectory からインポート)] を選択します。

Schema Import Wizard

Select Source for Import

Import your schema from eDirectory or a file.

Import from eDirectory

Host Name: 137.65.151.208
(Example: 192.168.14.199 or myserver.company.com)

User Name: admin.novell
(Example: Admin.Novell)

Password: ●●●●●●

Import from file

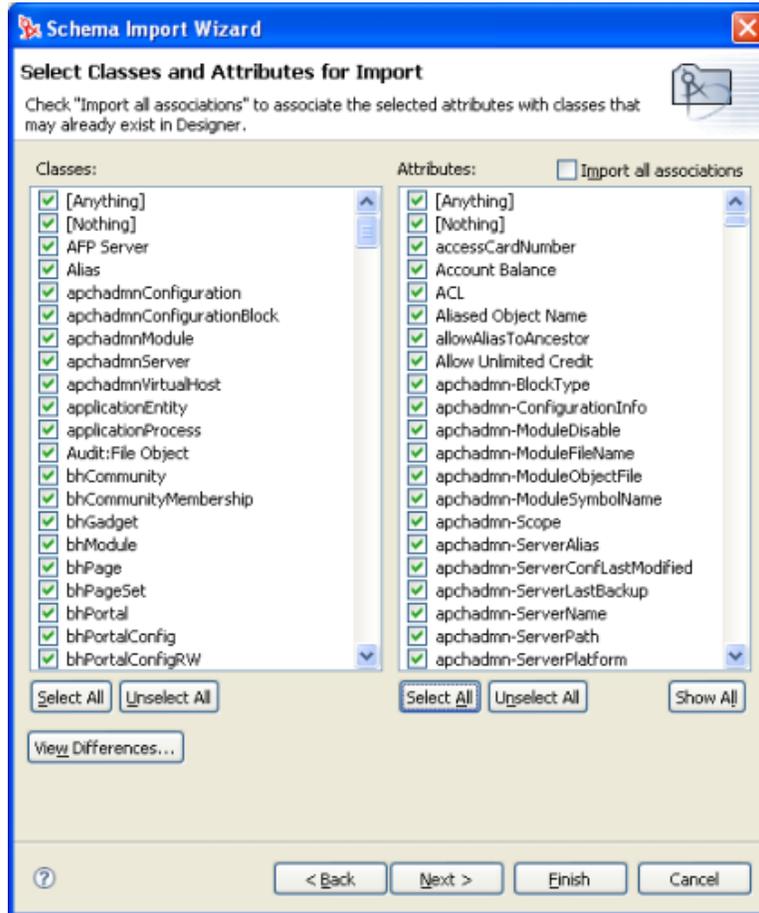
Browse...

.sch format
 .jdf format

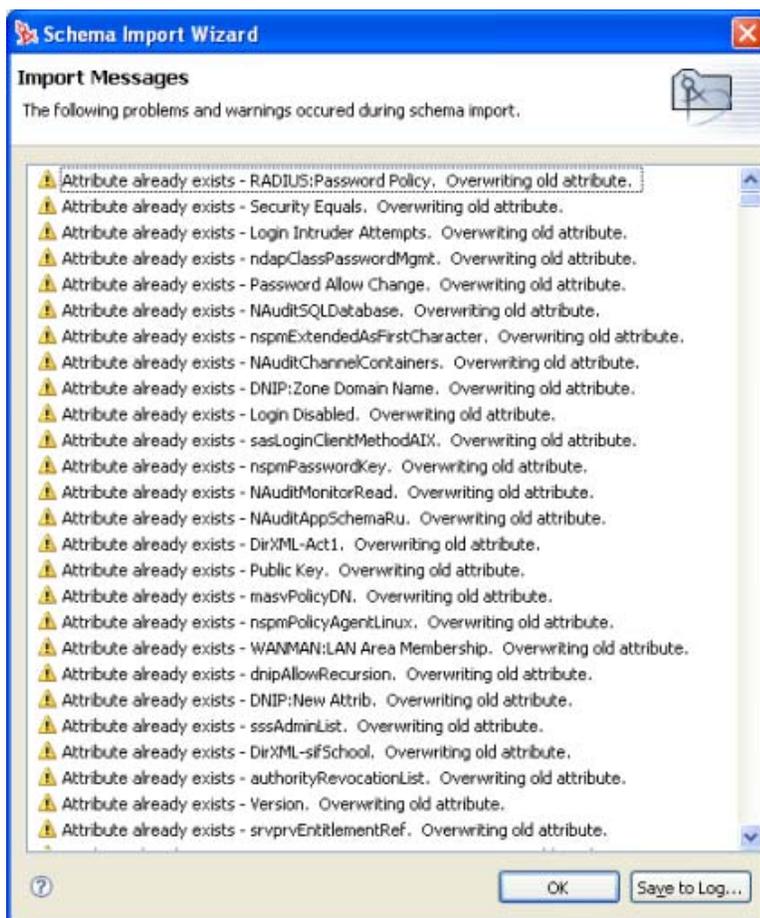
Help < Back Next > Finish Cancel

- 3 [ホスト名] を指定します。サーバの IP アドレスまたは DNS 名を指定できます。
- 4 [ユーザ名] を指定します。スキーマに対して管理権限を持つユーザを指定してください。
- 5 ユーザのパスワードを指定し、[Next (次へ)] をクリックします。
- 6 Designer にインポートするクラスと属性を選択し、[Finish (終了)] をクリックします。

詳細については、253 ページのセクション 12.5.2 「スキーマインポートウィザード」を参照してください。



- 7 [Import Summary (インポートの概要)] ページで [OK] をクリックします。警告やエラーが発生した場合は、それらが一覧表示されます。



ファイルからのスキーマのインポート

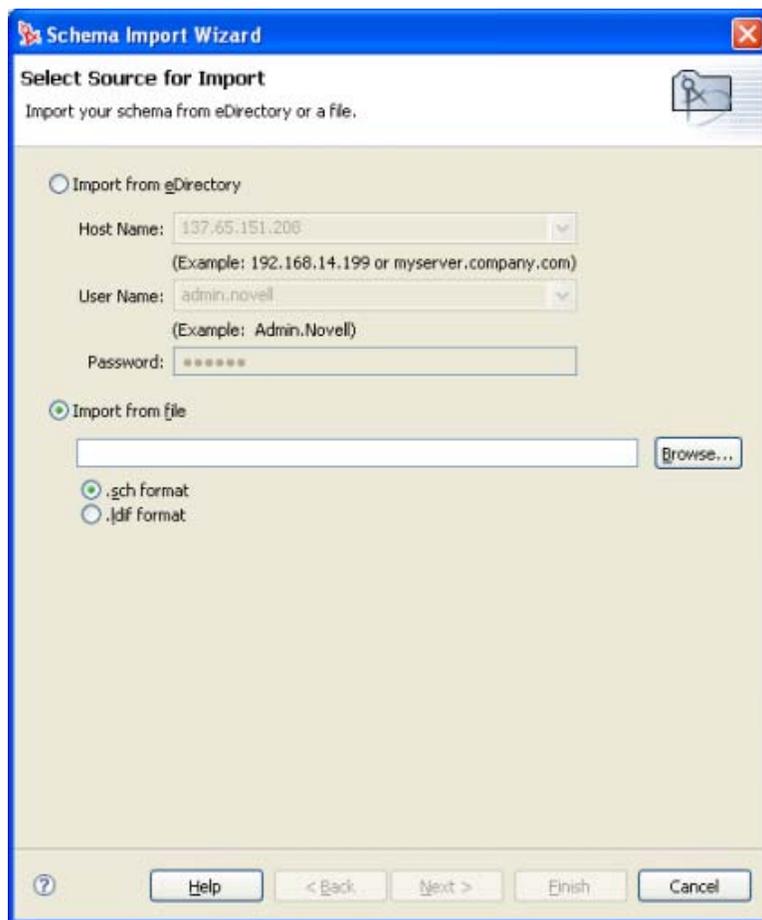
スキーマをファイルにインポートする方法には次の2通りがあります。

- ◆ 246 ページの「[.sch ファイルへのスキーマのインポート](#)」
- ◆ 249 ページの「[LDIF ファイルへのスキーマのインポート](#)」

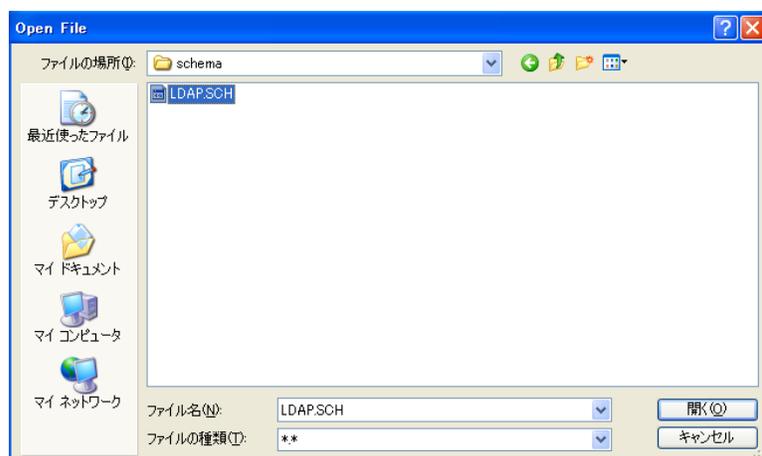
.sch ファイルへのスキーマのインポート

- 1 モデラで、[Identity Vault (アイデンティティボールド)] アイコンを右クリックして、[Live Operations (ライブ操作)] > [Import Schema (スキーマのインポート)] の順に選択します。
- 2 [Import from file (ファイルからインポート)] を選択します。

3 [.sch format (.sch 形式)] を選択してから [Browse (参照)] をクリックします。

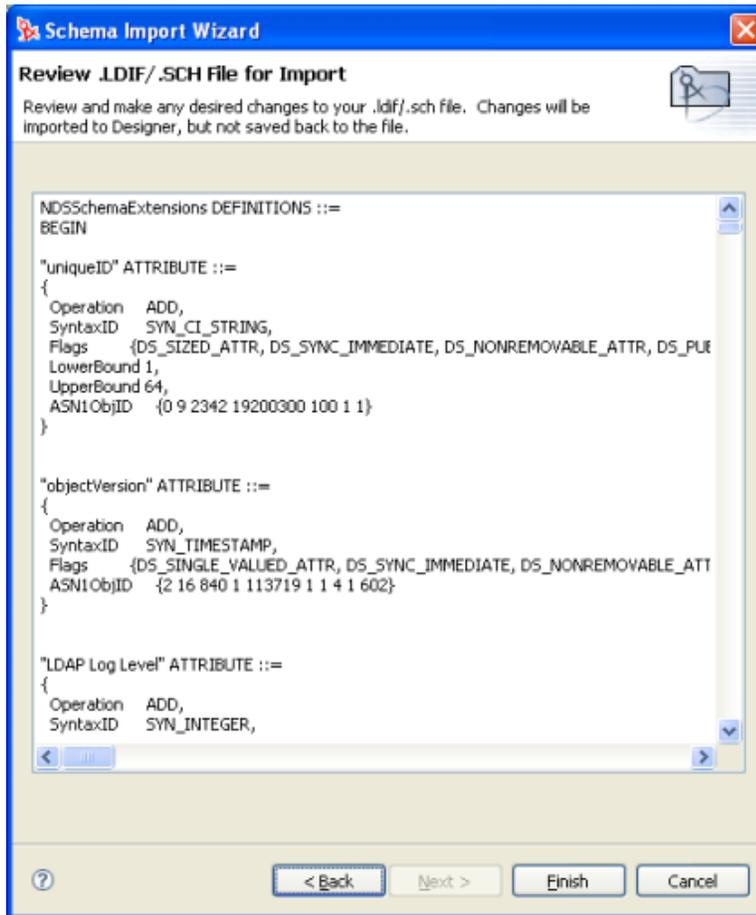


4 使用する .sch ファイルを参照して選択し、[Open (開く)] をクリックします。

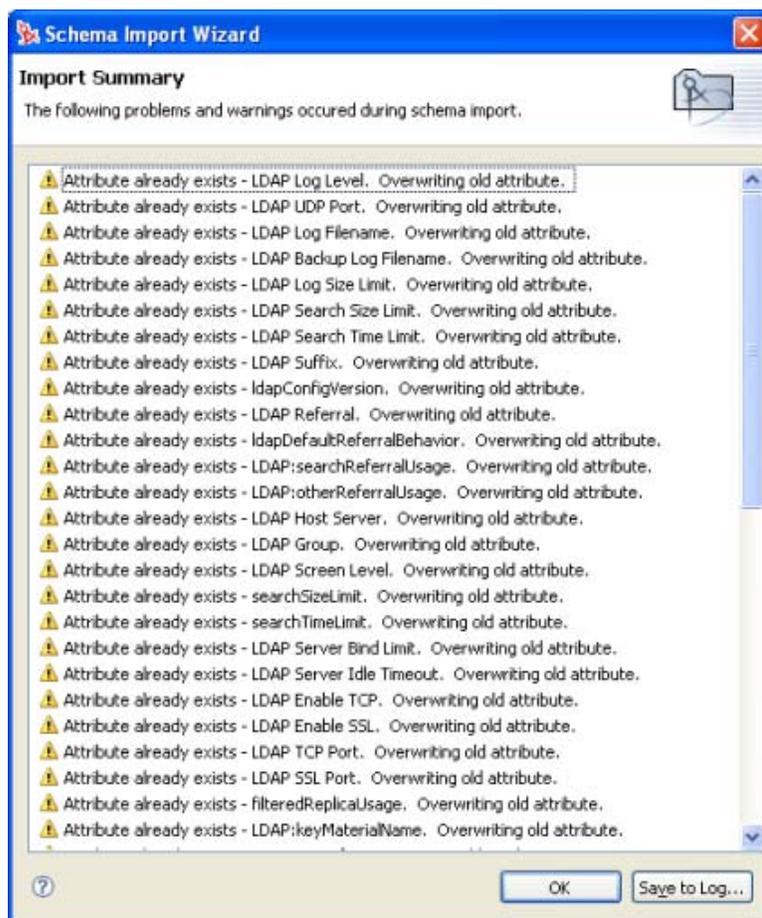


5 [Next (次へ)] をクリックします。

- 6 .sch ファイルをインポートに備えて確認します。ファイルを変更する場合は、ここで変更を行い、終わったら [Finish (終了)] をクリックします。



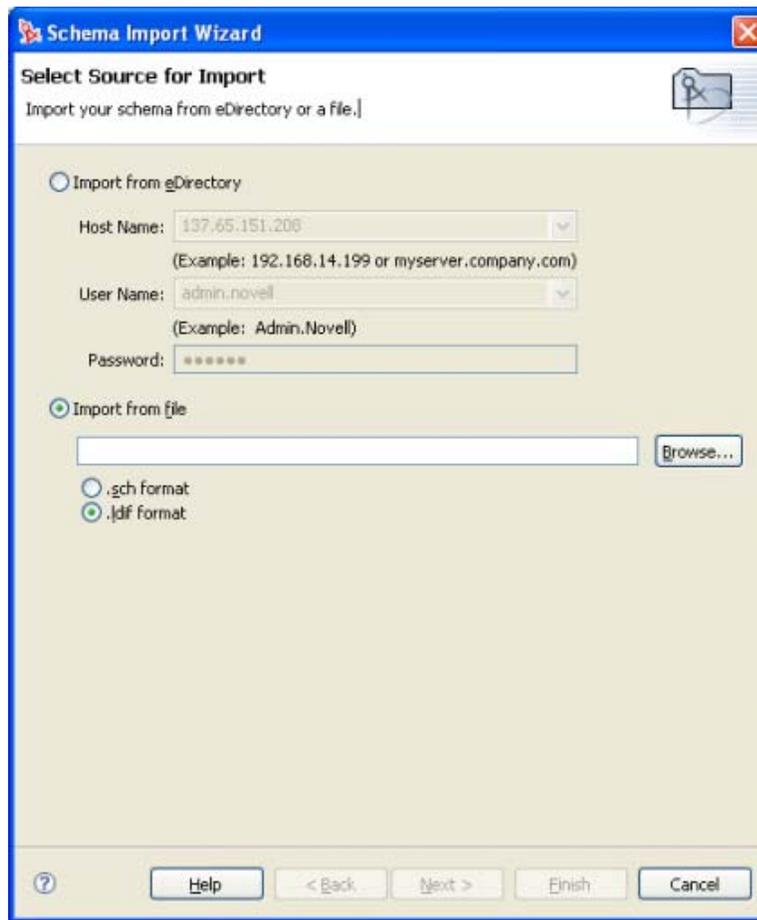
- 7 [Import Summary (インポートの概要)] ページで [OK] をクリックします。警告やエラーが発生した場合は、それらが一覧表示されます。



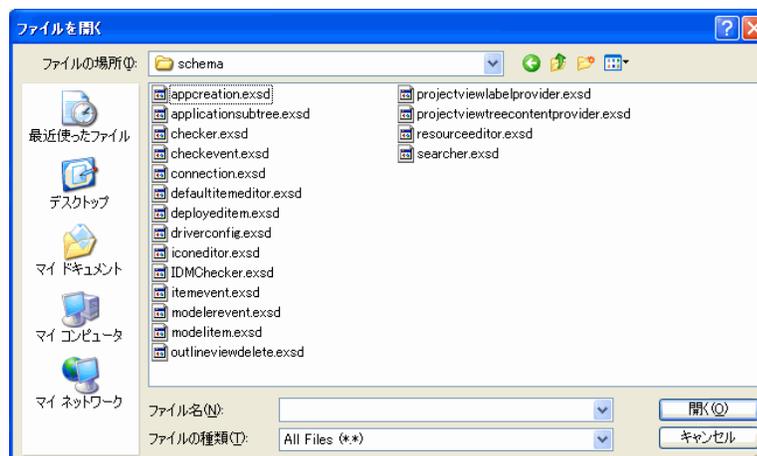
LDIF ファイルへのスキーマのインポート

- 1 モデラで、[Identity Vault (アイデンティティボールド)] アイコンを右クリックして、[Live Operations (ライブ操作)] > [Import Schema (スキーマのインポート)] の順に選択します。
- 2 [Import from file (ファイルからインポート)] を選択します。

3 [.ldif format (.ldif 形式)] を選択してから [Browse (参照)] をクリックします。



4 使用する .ldif ファイルを参照して選択し、[Open (開く)] をクリックします。

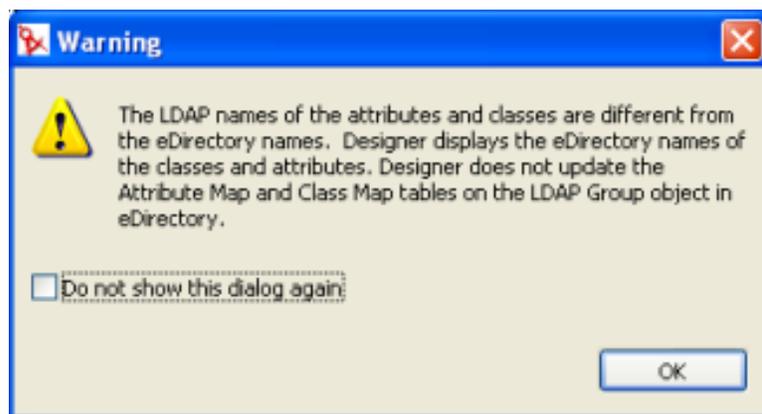


5 [Next (次へ)] をクリックします。

- 6 .ldif ファイルをインポートに備えて確認します。ファイルを変更する場合は、ここで変更を行い、終わったら [Finish (終了)] をクリックします。



- 7 警告が表示されたら [OK] をクリックします。



Designer 内でのクラス名と属性名は eDirectory 名です。LDIF ファイル内のクラスと属性の名前は LDAP 名であり、双方の名前は異なります。LDAP ファイルをインポートする前に、LDAP ファイルに記載されている名前が使用環境にとって正しいものであることを確認してください。LDAP クラス名および属性名にマップされた

eDirectory クラス名および属性名のリストについては、[262 ページのセクション 12.8 「eDirectory から LDAP までスキーママッピングの表」](#)を参照してください。

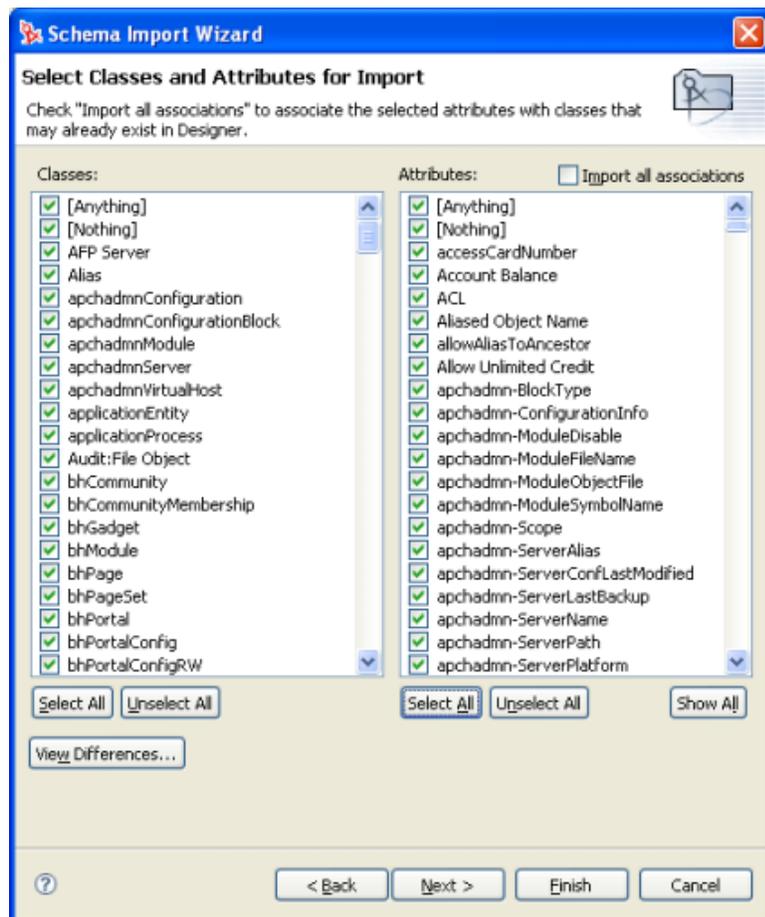
- 8 [Import Summary (インポートの概要)] ページで [OK] をクリックします。警告やエラーが発生した場合は、それらが一覧表示されます。



12.5.2 スキーマインポートウィザード

スキーマインポートウィザードにより、eDirectory のクラスと属性を Designer にインポートすることができます。また、カスタムクラスおよび属性が存在する場合は、それらもインポートすることができます。

図 12-4 Schema Import Wizard (スキーマインポートウィザード)



次にスキーマインポートウィザードの機能を示します。

- ◆ 253 ページの「Import All Associations (すべての関連付けのインポート)」
- ◆ 254 ページの「クラスと属性の選択」
- ◆ 254 ページの「View Differences (相違点の表示)」

Import All Associations (すべての関連付けのインポート)

[Import all associations (すべての関連付けのインポート)] では、選択した属性を Designer にすでに存在するクラスに関連付けることができます。このボックスをオンにしないと、クラスに関連付ける必要のある新規属性が関連付けられません。たとえば、Employee Photo という属性を User クラスに関連付ける場合に、[Import all associations (すべての関連付けのインポート)] が選択されていないと、Employee Photo は User クラスに関連付けられません。

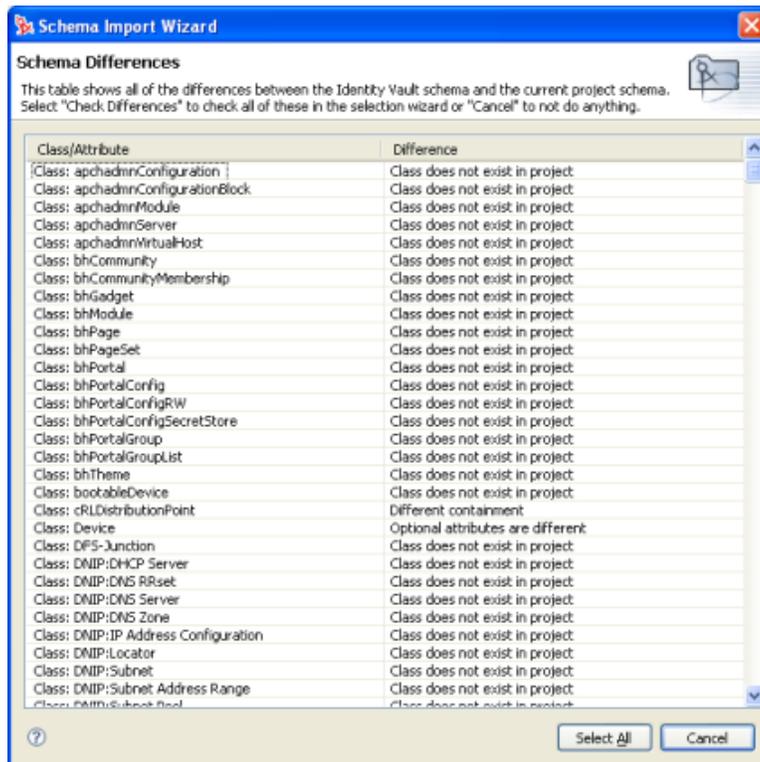
クラスと属性の選択

eDirectory ツリーにあるクラスと属性が 2 列に一覧表示されます。これらのクラスと属性は個別に選択できます。クラスまたは属性を選択するには、目的のクラスまたは属性のチェックマークをオンにします。すべてのクラスと属性を Designer へインポートするために選択する場合は、[Select All (すべて選択)] ボタンをクリックします。すべてのクラスと属性の選択を解除する場合は、[Unselect All (すべて選択解除)] ボタンをクリックします。

View Differences (相違点の表示)

[View Differences (相違点の表示)] ボタンを使用すれば、eDirectory ツリーと Designer との間のスキーマの相違点を表示することができます。相違点は別のウィンドウに一覧表示されます。[Check Differences (相違点のチェック)] ボタンを選択すると、Designer にあるのとは異なるクラスと属性がすべて選択されます。異なる項目が自動的に選択されないようにする場合は、[Cancel (キャンセル)] をクリックします。

図 12-5 Schema Differences (スキーマの相違点)



12.6 Application Schema (アプリケーションスキーマ)

Designer では、接続システムのスキーマのコピーを管理できます。アプリケーションスキーマのコピーを変更して、Designer で Identity Manager ドライバをテストできます。ス

スキーマの変更を稼働中のアプリケーションスキーマに展開することはできません。次の節ではスキーマの管理方法について説明します。

- ◆ 255 ページのセクション 12.6.1 「アプリケーションスキーマの管理」
- ◆ 257 ページのセクション 12.6.2 「アプリケーションスキーマのリフレッシュ」

12.6.1 アプリケーションスキーマの管理

- 1 Designer で接続アイコンを右クリックし、[Manage Schema (スキーマの管理)] を選択します。



- 2 アプリケーションのクラスまたは属性を追加、名前変更、あるいは削除し、[OK] をクリックします。各種フィールドの説明については、256 ページの表 12-3 を参照してください。

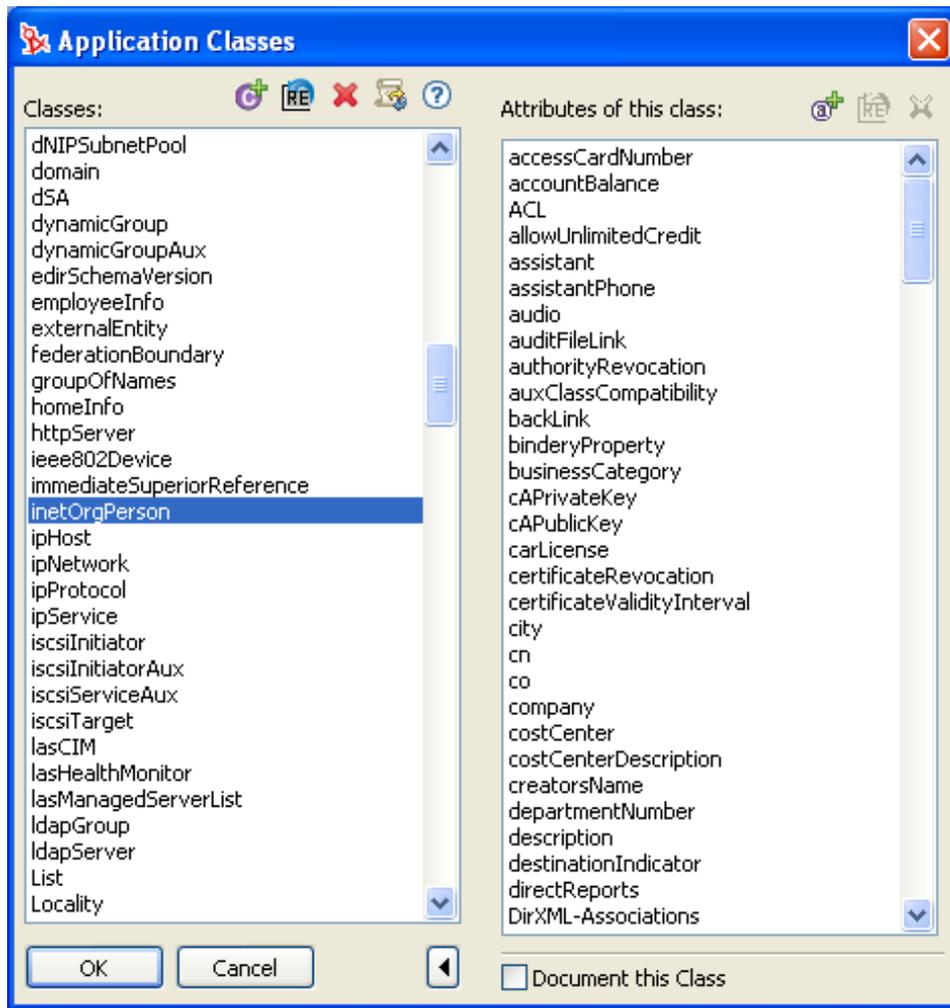


表 12-3 アプリケーションクラスのフィールド

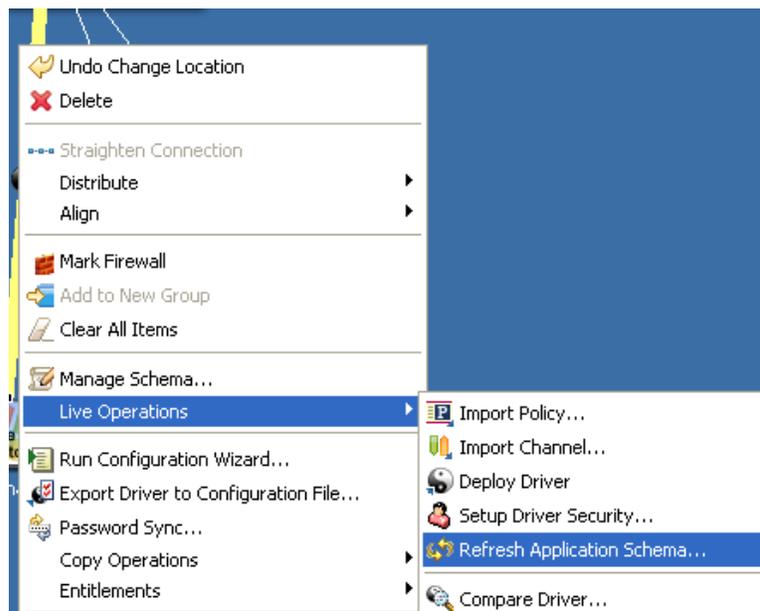
フィールド	説明
Classes (クラス)	Designer に保存されているクラスのうち、アプリケーションのスキーマからのクラスをすべて一覧表示します。
Add a New Class (新規クラスの追加)	新しいクラスを追加します。
Rename Class (クラス名の変更)	選択したクラスの名前を変更します。
Delete Class (クラスの削除)	選択したクラスを削除します。
Help (ヘルプ)	Schema Manager (スキーママネージャ) のヘルプを起動します。

フィールド	説明
Document This Class (このクラスを文書化)	スキーマ情報を Document Generator (ドキュメントジェネレータ) に追加します。詳細については、 343 ページの第 16 章「プロジェクトの文書化」 を参照してください。
Attributes of This Class (このクラスの属性)	選択されたクラスのために Designer に保存されている属性のうち、アプリケーションのスキーマからの属性をすべて一覧表示します。
Add a New Attribute (新規属性の追加)	選択されたクラスの新しい属性を追加します。
Rename Attribute (属性名の変更)	選択した属性の名前を変更します。
Delete Attribute (属性の削除)	選択した属性を削除します。

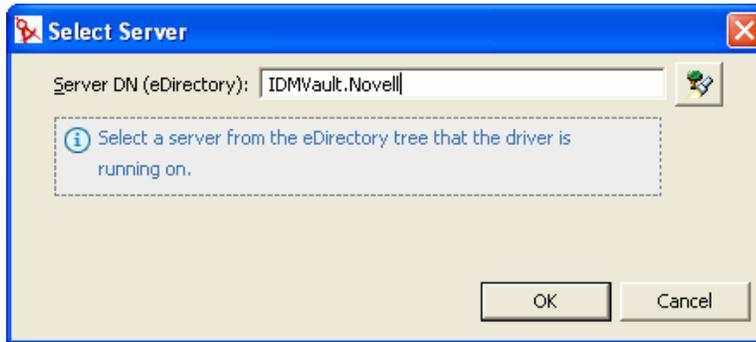
12.6.2 アプリケーションスキーマのリフレッシュ

アプリケーションスキーマに変更があった場合は、アプリケーションスキーマをリフレッシュすることにより、アプリケーションスキーマを新しくコピーできます。

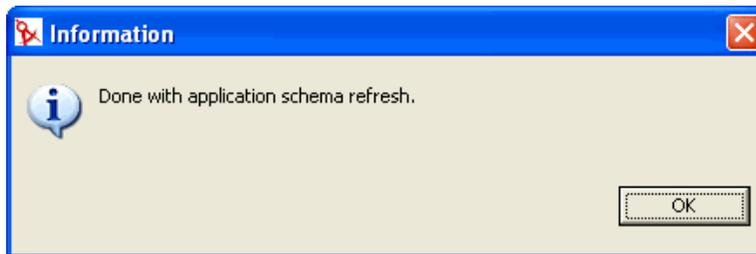
- 1 接続アイコンを右クリックして、[Live Operations (ライブ操作)] > [Refresh Application Schema (アプリケーションスキーマのリフレッシュ)] の順にクリックします。



- 2 [参照] アイコンをクリックします。



- 3 ドライバがインストールされているサーバを参照して選択し、[OK] を 2 回クリックします。
- 4 情報画面で [OK] をクリックします。



12.7 eDirectory スキーマ情報

次の情報は、eDirectory スキーマについて詳しく説明しています。この情報は Novell LogicSource for eDirectory で参照できます。LogicSource は、Novell が Novell の顧客に提供する購読サービスです。この節に記載されている情報は、LogicSource for eDirectory から入手できる情報のごく一部に過ぎません。LogicSource の詳細については、[Novell Technical Subscriptions \(http://support.novell.com/subscriptions/articles/novell_logicsource.html\)](http://support.novell.com/subscriptions/articles/novell_logicsource.html) を参照してください。

表 12-4 クラスのフラグ

属性	説明
Effective (有効)	定義されたオブジェクトのインスタンスを eDirectory ツリーに作成できます。
Noneffective (無効)	他のクラスを定義するためにのみ使用されます。noneffective クラスのオブジェクトは作成できません。
Auxiliary (補助)	オブジェクトクラス属性を拡張することによって、他のクラスに追加する属性を結合します。
Non Removable (削除不可)	スキーマから削除できないようにクラスを設定します。

属性	説明
Container (コンテナ)	オブジェクトをリーフオブジェクトではなくコンテナオブジェクトとして設定します。コンテナとして設定されたオブジェクトは、他のオブジェクトを含むことができます。

表 12-5 属性の制約

制約	説明
Public Read (公開読み込み)	誰でもこの属性を読み込むことができ、特に読み込み権限を割り当てる必要はありません。継承マスクを使用しても、この制約を持つ属性をオブジェクトが読み込まないようにすることはできません。
Sync Immediate (即時同期)	この属性は、変更されるとすぐにレプリカリング内のすべてのサーバに合わせて同期されます。
Read Only (読み込み専用)	この属性は読み込み可能ですが、変更できません。
String (文字列)	この属性に格納できるのは文字列情報のみです。
Write Managed (書き込み管理)	明示的な権限が付与されない限り、この属性は変更できません。この属性を変更するためには、属性を変更するオブジェクトに対して管理権限が必要です。
Non Removable (削除不可)	この属性をスキーマから削除することはできません。
Hidden (非表示)	NetWare® サーバ上で実行しているアプリケーションのみが、この属性を使用できます。
Single Valued (単一値)	この属性には 1 つの値を格納できます。
Per Replica (レプリカ単位)	この属性には 1 つの値を格納できます。
Server Read (サーバ読み込み)	読み込み権限が継承されていない、または権限が明示的に付与されていない場合でも、NCP™ サーバのオブジェクトはこの属性を読み込むことができます。ACL で付与されている権限にかかわらず、NCP サーバオブジェクトは常にこの属性を読み込むことができます。

表 12-6 属性の構文

構文	説明
Back Link (バックリンク)	[remoteID] フィールドはサーバ上のバックリンクを含むオブジェクトを識別し、[objectName] フィールドは外部参照を保持しているサーバを識別します。
Boolean (ブール)	2 つのブール属性は、両方とも True であるか両方とも False であるとき、同等と認められます。True は 1 で表され、False は 0 で表されます。この構文を使用して定義された属性は単一値属性です。
Case Exact String (大 / 小文字一致文字列)	この構文を使用している属性はサイズ制限を設定できます。2 つの大 / 小文字一致文字列は、長さが等しく、かつ対応する文字が同じであるとき、同等と認められます。

構文	説明
Case Ignore List (大 / 小文字無視リスト)	2つの大 / 小文字無視リストは、それぞれの含む文字列の数が等しく、かつ対応する文字列がすべて一致するとき、同等と認められます。リスト中の2つの対応する文字列が一致するためには、(大 / 小文字無視文字列のルールに従って) それぞれの長さが等しく、かつ対応する文字が同じでなければなりません。
Case Ignore String (大 / 小文字無視文字列)	値が文字列であり、かつ大 / 小文字が無視される属性で使用されます。
Class Name (クラス名)	大 / 小文字が無視される2つのクラス名を照合するために使用されます。
Counter (カウンタ)	この属性は単一値属性です。この構文は Integer (整数) に似ていますが、この構文では、属性に追加された値は合計に加算され、削除された値は合計から減算されます。
Distinguished Name (識別名)	この属性は、最大 256 の Unicode* 文字からなるオブジェクトの識別名です。大文字 / 小文字は区別されません。
EEmail Address (電子メールアドレス)	値が電子メールアドレスで、かつ長さに対応する文字が同じである属性を照合するために使用されます。ただし、大文字 / 小文字の区別は無視されます。この構文を使用するのは EEmail Address (電子メールアドレス) 属性のみです。
Facsimile Telephone Number (Fax 番号)	Facsimile Telephone Number (Fax 番号) の値は、電話番号フィールドに基づいて照合されます。Fax 番号の照合ルールは、Case Exact (大 / 小文字一致) 構文の場合と同じです、ただし、スペース文字とハイフン (-) は比較のときに無視されません。この構文を使用するのは Facsimile Telephone Number (Fax 番号) 属性のみです。
Hold (保有)	この構文は記帳額 (取引が完了するまでサブジェクトの与信限度額に照らして暫定的に保有される金額) です。電信形式では、[Subject (サブジェクト)] フィールドはオブジェクトの識別名です。eDirectory は Hold (保有) 金額を Counter (カウンタ) 構文と同様に扱います。新しい値は基本合計に加算されたり基本合計から減算されたりします。評価された Hold (保有) 金額が 0 (ゼロ) になると、Hold (保有) 記録が削除されます。
Integer (整数)	この属性は整数です。この構文を使用している属性はサイズ制限を設定できます。
Interval (間隔)	Interval (間隔) 値は時間間隔の秒数です。
Net Address (ネットワークアドレス)	ネットワークアドレスをバイナリ文字列として保存します。この文字列はアドレスのリテラル値です。使用した通信プロトコルのタイプを一覧表示します。
Numeric String (数値文字列)	2つ数値文字列は、長さが等しく、かつ対応する文字が同じであるとき、同等と判定されます。数字 0-9 とスペースを照合します (これらが数値文字列に含まれている場合)。
Object ACL (オブジェクト ACL)	Object ACL (オブジェクト ACL) 値は、オブジェクトまたは属性のいずれかを保護できます。保護されるオブジェクトは常に、ACL 属性を含むオブジェクトです。ACL エントリをオブジェクト全体に適用する場合は、保護される属性名を空のまま (NULL) にする必要があります。特定の属性を保護する場合は、ACL エントリでその名前を指定する必要があります。

構文	説明
Octet List (オクテットリスト)	<p>示されたリストが保存されているリストと一致するのは、示されたリストが保存されているリストのサブセットである場合です。オクテット文字列は eDirectory では解釈されないので、このように指定されます。オクテット文字列は、Unicode の影響を受けない一連のビットです。</p> <p>長さは、ビット数を 8 で割って最も近い整数に丸められます。したがって、各オクテットは 8 ビットのデータを表します。データビット数は常に、8 で均等に割り切れます。</p>
Octet String (オクテット文字列)	<p>2つのオクテット文字列が一致するためには、それぞれの長さが等しく、かつ対応するビット列 (オクテット) が同じでなければなりません。2つの文字列を比較するときは、最初に一致しなかったオクテットの対が文字列の順序を決めるために使用されます。オクテット文字列は Unicode 文字列ではありません。</p>
Path (パス)	<p>パスフィールドが表す文字列の同等比較は、Case Exact String (大 / 小文字一致文字列) と同じルールに従って行われます。つまり、2つのパスは、それぞれの長さが等しく、かつ対応する文字が同じであるとき (大 / 小文字の一致も含む)、同等と評価されます。</p>
Postal Address (住所)	<p>Postal Address (住所) の属性値は通常、勧告 F.401 に従って MHS Unformatted Postal O/R Address バージョン 1 から選択された属性で構成されています。この値は、国名を含めて 6 行 (各行 30 文字) に制限されています。通常、このような住所に含まれる情報には、郵便番号、都道府県、市町村、番地、名前があり、名前付きオブジェクトの要件によっては私書箱の番号も含まれます。</p>
Printable String (印刷可能文字列)	<p>次の文字は、印刷可能文字列文字セットに含まれているものです。 A..Z a..z 0..9 スペース文字、アポストロフィ (左括弧) 右括弧 + プラス記号、カンマ、ハイフン、ピリオド / スラッシュ : コロン = 等号 ? 疑問符</p> <p>2つ印刷可能文字列は、長さが等しく、かつ対応する文字が同じであるとき、同等と判定されます。大文字 / 小文字の区別は、印刷可能文字列を比較するときには重要です。たとえば、印刷可能文字列として比較した場合、「Jones」と「JONES」は一致しません。</p>
Replica Pointer (レプリカポインタ)	<p>レプリカポインタ構文の各値は、次の 5 つの部分からなります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ レプリカを格納するサーバの完全な名前。 ◆ パーティションのコピー (マスタ、セカンダリ、読み込み専用、またはサブオーディネイト参照) の機能を説明する値。 ◆ レプリカの現在の状態 (新規、廃止中、ロック、状態変更中、分割中、結合中、または移動中) を示す値。 ◆ レプリカを表す番号。パーティションのすべてのレプリカには、レプリカの作成時に異なる番号が割り当てられます。 ◆ アドレスの総数と 1 つ以上のネットワークアドレスを含み、サーバが存在する可能性の高いノードを示唆する参照。さまざまなプロトコルを介してサーバにアクセスできるため、サーバはサポートされる各プロトコルごとにアドレスを持っている可能性があります。
Stream (ストリーム)	<p>ストリームは情報のファイルです。ストリームファイルに格納されているデータは、いかなる種類の構文強制も受けません。このデータはまったく恣意的なデータで、このデータを作成して使用するアプリケーションによって定義されます。この属性は単一値属性です。</p>
Telephone Number (電話番号)	<p>電話番号文字列の長さは 1 から 32 文字でなければなりません。2つの電話番号文字列は、それぞれの長さが等しく、かつ対応する文字が同じであるとき、同等と認められます。スペース文字とハイフン (-) は比較のときすべて無視されます。</p>

構文	説明
Time (時刻)	時刻値は整数の秒数からなり、ゼロは 1970 年 1 月 1 日の真夜中の 12 時 00 分 (UTC) に等しくなります。
Timestamp (タイムスタンプ)	タイムスタンプ値は次の 3 つのコンポーネントで構成されます。 <ul style="list-style-type: none"> ◆ [wholeSeconds] フィールドは整数の秒数からなり、ゼロは 1970 年 1 月 1 日の真夜中の 12 時 00 分 (UTC) に等しくなります。 ◆ [replicaNum] フィールドは、タイムスタンプを作成したサーバを特定します。サーバでレプリカが作成されるたびにレプリカ番号が割り当てられます。 ◆ [eventID] フィールドは、均等な秒数 (整数) の間隔で発生したイベントを順序付ける整数です。イベント番号は新しい秒ごとに 1 から再開します。
Typed Name (タイプ付きの名前)	この構文は eDirectory オブジェクトに名前を付け、2 つの数値を追加します。 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 属性のレベルは優先度を示します。 ◆ 間隔は参照の頻度を示します。 <p>objectName または識別名は、タイプ付き名前によって参照される eDirectory オブジェクトを特定します。</p>
Unknown (不明)	不明構文は、eDirectory データベースが破損した場合に、データの損失を抑止するために使用されます。オブジェクトが不明になったときは、この属性に保存された情報を使用して、そのオブジェクトを回復することができます。この構文は eDirectory によって使用されます。

表 12-7 属性タイプ

属性タイプ	説明
Naming Attribute (名前付き属性)	クラスのオブジェクトの部分名または相対識別名 (RDN) は、この表に一覧表示されている 1 つ以上の属性で構成されます。これらの名前付き属性には必須属性またはオプション属性を使用できますが、クラスのオブジェクトを作成するときには 1 つ以上の値を指定する必要があります。唯一の名前付き属性がオプション属性である場合は、それが事実上必須属性になります。名前付き属性がリストに入っていない場合は、クラスがそのスーパークラスからその名前付き属性を継承します。
Mandatory Attribute (必須属性)	この属性がオブジェクトに存在する場合は、この属性に値を割り当てる必要があります。
Optional Attribute (オプション属性)	この属性が唯一の名前付き属性でない限り、割り当て値は必須ではありません。

12.8 eDirectory から LDAP までスキーママッピングの表

クラスと属性の eDirectory スキーマ定義と LDAP スキーマ定義は異なります。次の表は、eDirectory のクラス名と属性名および、それらに対応する LDAP 名を一覧表示しています。詳細については、Novell Developer Support Web ページの [NDK: Novell eDirectory Schema Reference \(http://devsup.novell.de/ndk/doc/ndslib/index.html?page=/ndk/doc/ndslib/schm_enu/data/h4q1mn1i.html\)](http://devsup.novell.de/ndk/doc/ndslib/index.html?page=/ndk/doc/ndslib/schm_enu/data/h4q1mn1i.html) を参照してください。

表 12-8 eDirectory クラス名の LDAP マッピング表

eDirectory クラス名	LDAP クラス名
Alias	alias
applicationEntity	applicationEntity
applicationProcess	applicationProcess
certificationAuthority	certificationAuthority
certificationAuthorityVer2	certificationAuthorityVer2
Computer	computer
contingentWorker	contingentWorker
Country	country
cRLDistributionPoint	cRLDistributionPoint
dcObject	dcObject
Device	device
domain	domain
dmd	dmd
dSA	dSA
dynamicGroup	dynamicGroup
dynamicGroupAux	dynamicGroupAux
federationBoundary	federationBoundary
Group	group、groupOfNames、または groupOfUniqueNames
homeInfo	homeInfo
inetOrgPerson	inetOrgPerson
Locality	locality
NCP Server	ncpServer
ndsContainerLoginProperties	ndsContainerLoginProperties
NSCP:groupOfCertificates	groupOfCertificates
NSCP:mailGroup1	rfc822mailGroup
NSCP:mailRecipient	mailRecipient
NSCP:NetscapeMailServer5	netscapeMailServer
NSCP:NetscapeServer5	netscapeServer
NSCP:nginfo3	nginfo
NSCP:nsLicenseUser	nsLicenseUser
Organization	organization

eDirectory クラス名	LDAP クラス名
Organizational Person	organizationalPerson
Organizational Unit	organizationalUnit
Person	person
pkiCA	pkiCA
pkiUser	pkiUser
Resource	resource
Server	server
strongAuthenticationUser	strongAuthenticationUser
Top	top
Tree Root	treeRoot
Unknown	unknown
User	residentialPerson
userSecurityInformation	userSecurityInformation
Volume	volume

表 12-9 eDirectory 属性名の LDAP マッピング表

eDirectory 属性名	LDAP 属性名
Aliased Object Name	aliasedObjectName
accessCardNumber	accessCardNumber
assistant	assistant
assistantPhone	assistantPhone
associatedName	associatedName
attributeCertificate	attributeCertificate
authorityRevocationList	authorityRevocationList または authorityRevocationList;binary
audio	audio
auxClassCompatibility	auxClassCompatibility
businessCategory	businessCategory
C (国名)	c または countryName
cACertificate	cACertificate または cACertificate;binary
carLicense	carLicense
certificateRevocationList	ertificateRevocationList または certificateRevocationList;binary

eDirectory 属性名	LDAP 属性名
children	children
city	city
co	co
company	company
costCenter	costCenter
costCenterDescription	costCenterDescription
crossCertificatePair	crossCertificatePair または crossCertificatePair;binary
CN	cn または commonName
creatorsName	creatorsName
dc	dc
deltaRevocationList	deltaRevocationList;binary または deltaRevocationList
departmentNumber	departmentNumber
Description	description または multiLineDescription
destinationIndicator	destinationIndicator
dglIdentity	dglIdentity
dgTimeOut	dgTimeOut
dgAllowUnknown	dgAllowUnknown
dgAllowDuplicates	dgAllowDuplicates
displayName	displayName
excludedMember	excludedMember
digitalMeID	digitalMeID
directReports	directReports
dmdName	dmdName
dn	distinguishedName
dnQualifier	dnQualifier
DS Revision	dsRevision
employeeType	employeeType
employeeStatus	employeeStatus
enhancedSearchGuide	enhancedSearchGuide
extensionInfo	extensionInfo
Facsimile Telephone Number	facsimileTelephoneNumber

eDirectory 属性名	LDAP 属性名
federationBoundaryType	federationBoundaryType
federationControl	federationControl
federationDNSName	federationDNSName
federationSearchPath	federationSearchPath
filteredReplicaUsage	filteredReplicaUsage
Full Name	fullName
GID (グループ ID)	groupID
Group Membership	groupMembership
Home Directory	homeDirectory
homeCity	homeCity
homeEmailAddress	homeEmailAddress
homeFax	homeFax
homePhone	homePhone
homePostalAddress	homePostalAddress
homeState	homeState
homeZipCode	homeZipCode
houseIdentifier	houseIdentifier
Host Server	hostServer
indexDefinition	indexDefinition
Initials	initials
internationaliSDNNumber	internationaliSDNNumber
Internet EMail Address	mail
jackNumber	jackNumber
jobCode	jobCode
jpegPhoto	jpegPhoto
knowledgeInformation	knowledgeInformation
L (地域名)	l または localityName
labeledUri	labeledUri
ldapAttributeList	ldapAttributeList
ldapClassList	ldapClassList
ldapConfigVersion	ldapConfigVersion
ldapEnableMonitorEvents	ldapEnableMonitorEvents

eDirectory 属性名	LDAP 属性名
ldapEnablePSearch	ldapEnablePSearch
ldapIgnorePSearchLimitsForEvents	ldapIgnorePSearchLimitsForEvents
ldapMaximumMonitorEventsLoad	ldapMaximumMonitorEventsLoad
ldapMaximumPSearchOperations	ldapMaximumPSearchOperations
ldapPhoto	photo
ldapTLSRequired	ldapTLSRequired
ldapTLSTrustedRootContainer	ldapTLSTrustedRootContainer
ldapTLSVerifyClientCertificate	ldapTLSVerifyClientCertificate
Login Intruder Address	loginIntruderAddress
mailstop	mailstop
manager	manager
managerWorkforceID	managerWorkforceID
masvLabelIntegrityLevelNames	masvLabelIntegrityLevelNames
masvLabelIntegrityCategoryNames	masvLabelIntegrityCategoryNames
masvLabelNames	masvLabelNames
masvLabelSecrecyCategoryNames	masvLabelSecrecyCategoryNames
masvLabelSecrecyLevelNames	masvLabelSecrecyLevelNames
masvPolicyUpdate	masvPolicyUpdate
masvPolicyDN	masvPolicyDN
Member	Member または uniqueMember
memberQuery	memberQuery
Messaging Database Location	messagingDatabaseLocation
mobile	mobile
modifiersName	modifiersName
ndsPredicate	ndsPredicate
ndsPredicateState	ndsPredicateState
ndsPredicateFlush	ndsPredicateFlush
ndsPredicateTimeout	ndsPredicateTimeout
ndsPredicateUseValues	ndsPredicateUseValues
ndsPredicateStatsDN	ndsPredicateStatsDN
Network Address	networkAddress
Network Address Restriction	networkAddressRestriction

eDirectory 属性名	LDAP 属性名
nonStdClientSchemaCompatMode	nonStdClientSchemaCompatMode
Notify	notify
NSCP:administratorContactInfo	administratorContactInfo
NSCP:adminURL	adminURL
NSCP:AmailAccessDomain	mailAccessDomain
NSCP:AmailAlternateAddress	mailAlternateAddress
NSCP:AmailAutoReplyMode	mailAutoReplyMode
NSCP:AmailAutoReplyText	mailAutoReplyTex
NSCP:AmailDeliveryOption	mailDeliveryOption
NSCP:AmailForwardingAddress	mailForwardingAddress
NSCP:AmailHost	mailHost
NSCP:AmailMessageStore	mailMessageStore
NSCP:AmailProgramDeliveryInfo	mailProgramDeliveryInfo
NSCP:AmailQuota	mailQuota
NSCP:AnsLicenseEndTime	nsLicenseEndTime
NSCP:AnsLicensedFor	nsLicensedFor
NSCP:AnsLicenseStartTime	nsLicenseStartTime
NSCP:employeeNumber	employeeNumber
NSCP:installationTimeStamp	installationTimeStamp
NSCP:mailRoutingAddress	mailRoutingAddress
NSCP:memberCertificateDescription	memberCertificateDescription
NSCP:mgrpRFC822mailmember	mgrpRFC822mailmembe
NSCP:ngcomponent	ngcomponent
NSCP:nsaclrole	nsaclrole
NSCP:nscreator	nscreator
NSCP:nsflags	nsflags
NSCP:nsnewsACL	nsnewsACL
NSCP:nsprettyname	nsprettyname
NSCP:serverHostName	serverHostName
NSCP:serverProductName	serverProductName
NSCP:serverRoot	serverRoot
NSCP:serverVersionNumber	serverVersionNumber

eDirectory 属性名	LDAP 属性名
NSCP:subtreeACI	subtreeACI
O (組織)	o または organizationName
Object Class	objectClass
objectVersion	objectVersion
Operator	operator
otherPhoneNumber	otherPhoneNumber
OU (部門名)	ou または organizationUnitName
Owner	owner
pager	pager
Partition Control	partitionControl
Path	path
personalMobile	personalMobile
personalTitle	personalTitle
photo	photo
Physical Delivery Office Name	physicalDeliveryOfficeName
Postal Address	postalAddress
Postal Code	postalCode
Post Office Box	postOfficeBox
preferredDeliveryMethod	preferredDeliveryMethod
preferredName	preferredName
presentationAddress	presentationAddress
Print Server	printServer
protocolInformation	protocolInformation
Queue	queue
rbsAssignedRoles	rbsAssignedRoles
rbsOwnedCollections	rbsOwnedCollections
registeredAddress	registeredAddress
Revision	revision
Role Occupant	roleOccupant
S (都道府県名)	st または stateOrProvinceName
SA (番地)	street
searchGuide	searchGuide

eDirectory 属性名	LDAP 属性名
secretary	secretary
See Also	seeAlso
Serial Number	serialNumber
Server	server
siteLocation	siteLocation
spouse	spouse
Status	status
supportedAlgorithms	supportedAlgorithms
supportedApplicationContext	supportedApplicationContext
Supported Services	supportedServices
Surname	sn または surname
sslEnableMutualAuthentication	sslEnableMutualAuthentication
Telephone Number	telephoneNumber
telexNumber	telexNumber
telexTerminalIdentifier	telexTerminalIdentifier
Title	title
tollFreePhoneNumber	tollFreePhoneNumber
uniqueID	uid
userCertificate	userCertificate または userCertificate;binary
userPassword	userPassword
userSMIMECertificate	userSMIMECertificate
vehicleInformation	vehicleInformation
vendorName	vendorName
vendorAddress	vendorAddress
vendorPhoneNumber	vendorPhoneNumber
workforceID	workforceID
x121Address	x121Address
x500UniqueIdentifier	x500UniqueIdentifier

Designer では、アイデンティティポールの接続システム間のデータフローを管理できます。すべての接続システム間のデータフローを確認したり、必要に応じて変更を加えたり、データレポートを作成したりできます。また、接続システム間のパスワードのフローも表示できます。

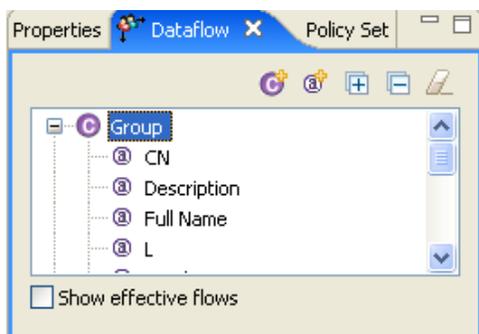
データ管理用には、データフロービューとデータフローエディタの2つのツールが用意されています。データフロービューでは、モデラ内のデータフローをドライバ単位で表示できます。データフローエディタでは、さらに細かい粒度でデータフローを表示できます。

- ◆ 271 ページのセクション 13.1 「データフロービュー」
- ◆ 276 ページのセクション 13.2 「データフローエディタへのアクセス」
- ◆ 279 ページのセクション 13.3 「データの表示」
- ◆ 286 ページのセクション 13.4 「項目の追加」
- ◆ 291 ページのセクション 13.5 「項目の編集」
- ◆ 294 ページのセクション 13.6 「HTML レポートの生成と書式設定」
- ◆ 298 ページのセクション 13.7 「パスワードの統合」

13.1 データフロービュー

次の図に、データフロービューを示します。データフロービューでは、アイデンティティポールの接続システム間のデータフローを制御できます。データフローはモデラ内に表示されます。

図 13-1 データフロービュー

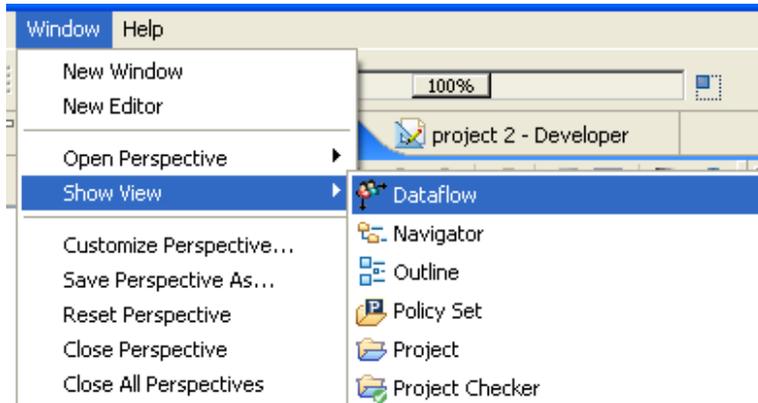


- ◆ 272 ページのセクション 13.1.1 「データフロービューへのアクセス」
- ◆ 273 ページのセクション 13.1.2 「モデラのフロー矢印」
- ◆ 274 ページのセクション 13.1.3 「属性の同期方法の表示」
- ◆ 275 ページのセクション 13.1.4 「データフローの変更」

13.1.1 データフロービューへのアクセス

[データフロー] ビューが閉じている場合は、メインメニューから開きます。

- 1 [Window (ウィンドウ)] > [Show View (ビューの表示)] > [Dataflow (データフロー)] の順にクリックします。

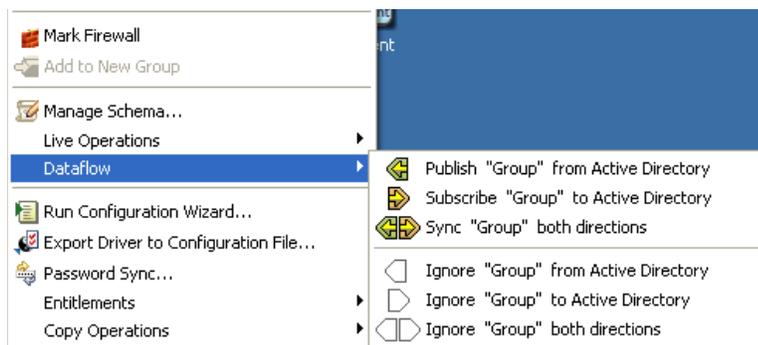


データフロービューが空で、モデラ内にプロジェクトが表示されない場合は、次の操作を実行します。

- 1 [Project (プロジェクト)] ビューでプロジェクトを展開します。
- 2 [System Model (システムモデル)] をダブルクリックしてプロジェクトを開きます。
データフロービューにオブジェクトとアイコンが表示されます。

モデラからデータフローを変更するには、次の操作を実行します。

- 1 モデラで、ドライバまたはアプリケーションを右クリックします。

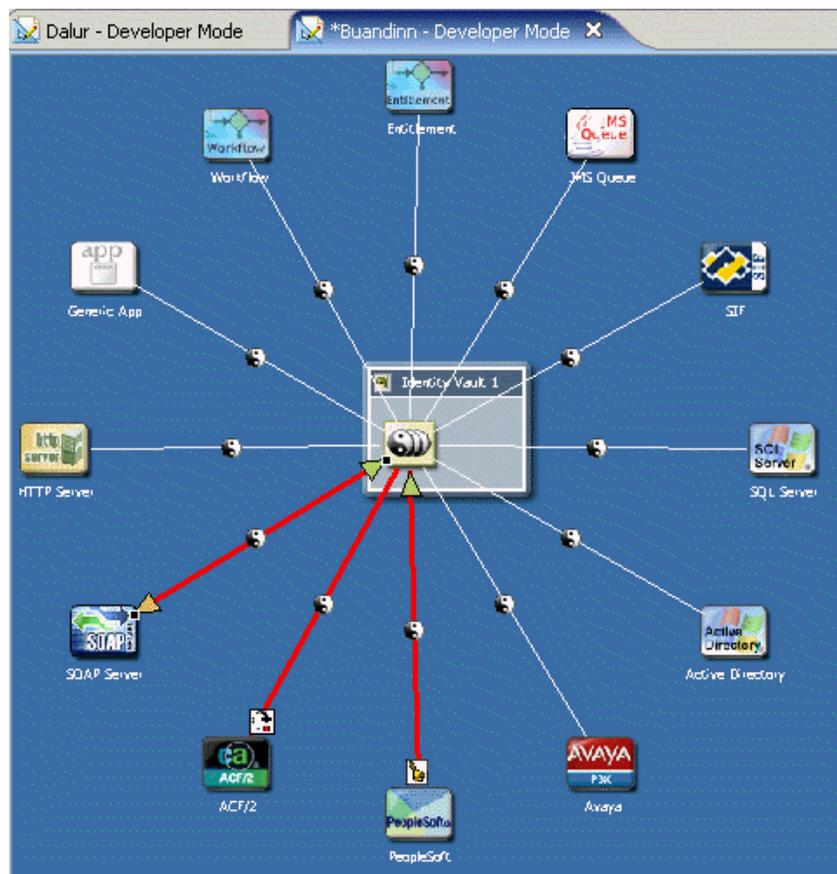


- 2 [データフロー] を選択し、データフローの変更方法を指定します。

13.1.2 モデラのフロー矢印

データフロービューを開くと、フィルタが自動的に読み込まれ、クラスと属性が表示されます(クラスおよび属性を持つフィルタが存在しない場合は作成されます)。

図 13-2 モデラのフロー矢印



データフローリストからクラス(例えばユーザ)または属性を選択すると、モデル内で適切なドライバのラインが赤で強調表示されます。データフローアイコンを見れば、同期、通知、リセット、無視の各フィルタ設定を一度に確認できます。

表 13-1 データフローアイコン

アイコン	説明
	緑の矢印: 発行者チャンネルで同期されている。
	オレンジの矢印: 購読者チャンネルで同期されている。
	ベル: 属性が通知に設定されている。

アイコン 説明

リセット矢印: 属性がリセットに設定されている。

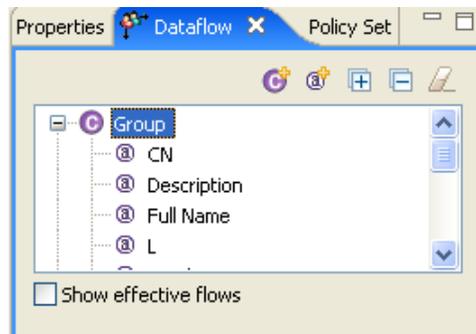


装飾アイコンな 属性が無視に設定されている。
し:

色分けは、フィルタエディタとデータフローエディタのデータフローアイコンと同じです。

13.1.3 属性の同期方法の表示

図 13-3 実効フローの表示

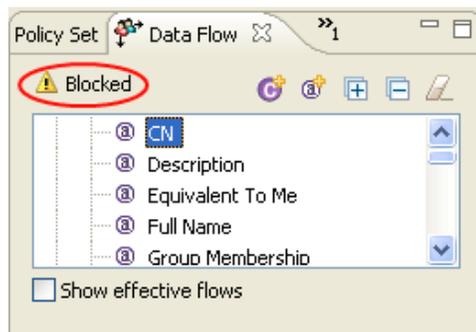


属性が同期されるのか、または通知されるのかを表示するには、[Show effective flows(実効フローを表示する)] チェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにすると、親クラスが同期するように設定されていない場合には、同期矢印が表示されなくなります。したがって、実際のフローを表す正確なデータフロー図が表示されます。

親クラスとは無関係に、属性の同期設定の方法を表示するには、[Show effective flows(実効フローを表示する)] チェックボックスをオフにします。同期矢印は、同期されている項目を示します。

同期できない属性を選択すると、[Show effective flows(実効フローを表示する)] をオンにしているかどうかに関係なく、左上端に [Blocked(ブロック)] という警告が表示されます。この警告は、親クラスが同期されていないため、その属性を同期または通知できないことを示します。

図 13-4 [Blocked(ブロック)] テキストとアイコン

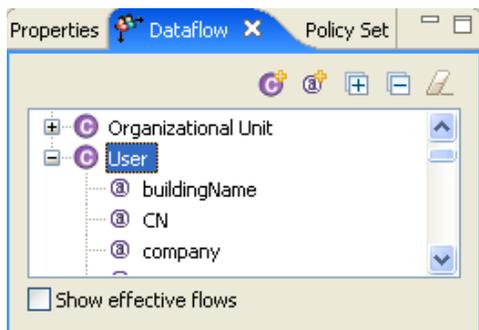


説明を表示するには、マウスを警告アイコンの上に移動します。

13.1.4 データフローの変更

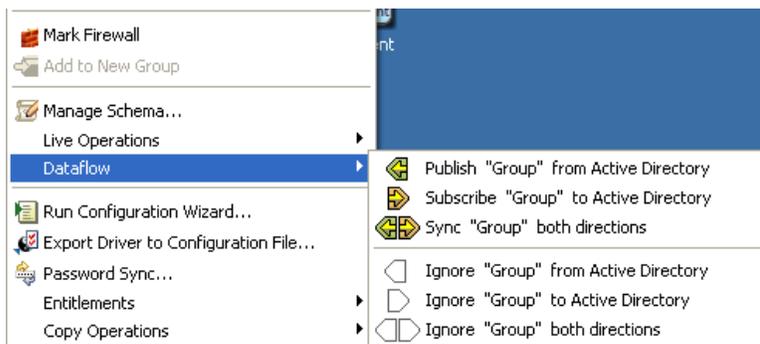
データフロービューからクラスと属性のデータフローを変更できます。クラスのフローを変更するには：

- 1 データフロービューでクラスを選択します。



- 2 モデラで、ドライバラインを右クリックします。

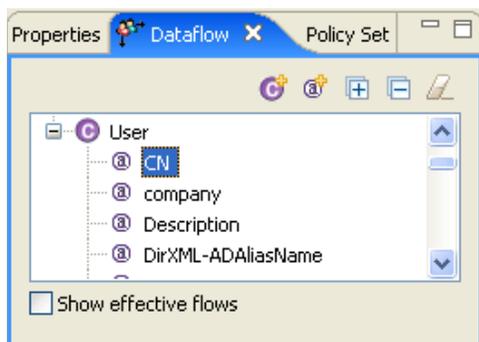
- 3 [データフロー] を選択します。



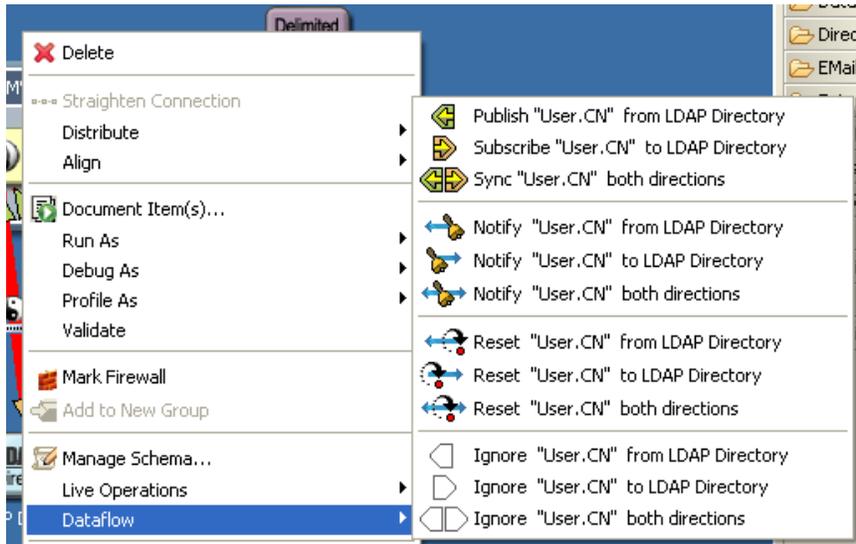
- 4 特定のオプションを選択して、クラスのデータフローを変更します。

属性のフローを変更するには：

- 1 データフロービューで属性を選択します。



- 2 モデラで、ドライバラインを右クリックします。
- 3 [データフロー] を選択します。

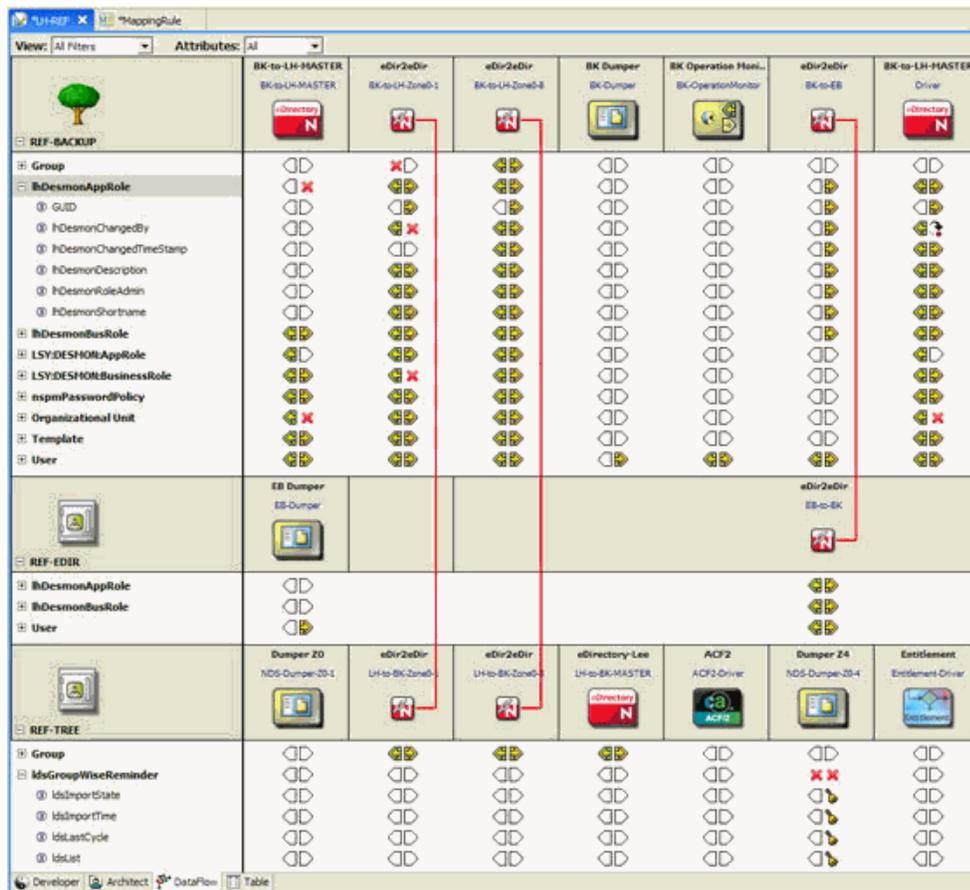


- 4 特定のオプションを選択して、属性のデータフローを変更します。

13.2 データフローエディタへのアクセス

データフローエディタは、システムとアイデンティティボールド間のデータフローを制御するすべてのフィルタを確認するためのツールです。データフローエディタは、モデラまたは [Outline (アウトライン)] ビューでオブジェクトの追加、削除、変更、または選択

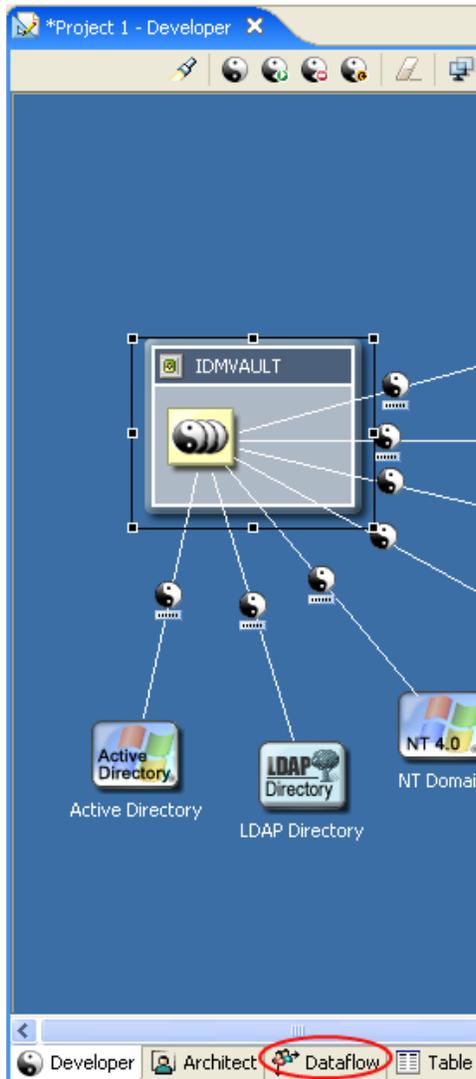
した項目との同期が実行されるときに、完全に同期化されます。また、各サーバからのパスワードフローを確認したり、データのレポートを作成したりすることもできます。



左側のポータルと右側のアプリケーションの間には垂直スライダバーがあります。このバーを左右に移動して適度な余白を確保してください。この設定は保存され、次回エディタを起動したときに復元されます。

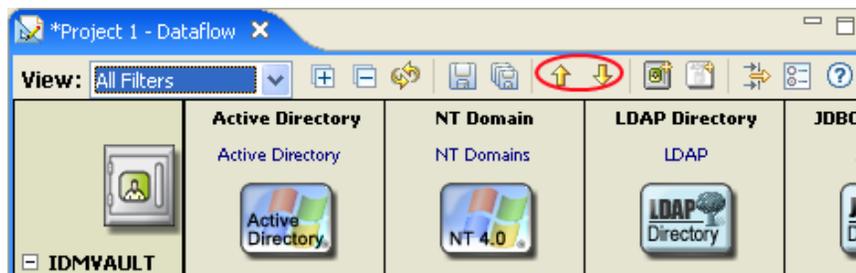
Dataflow (データフロー) エディタを開くには :

- 1 モデラペインで [Dataflow (データフロー)] タブをクリックします。



13.2.1 キーボード操作

矢印キーを使用して上下左右に移動できます。<PageUp>、<PageDown>、<Home>、<End> キーも使用できます。また、ツールバーにある上矢印と下矢印をクリックしてアイデンティティポータル間を移動することもできます。



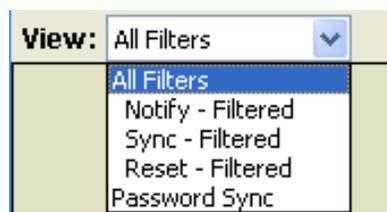
13.3 データの表示

データフローエディタでは、アイデンティティボールド、アプリケーション、クラス、属性、パスワードを表示できます。これらの情報は、さまざまな方法で表示されます。

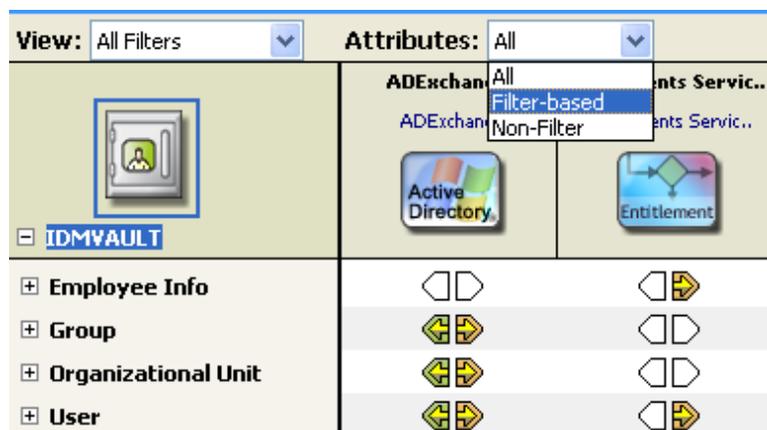
- ◆ 279 ページのセクション 13.3.1 「フィルタビュー」
- ◆ 280 ページのセクション 13.3.2 「オブジェクトフィルタ」
- ◆ 281 ページのセクション 13.3.3 「アイデンティティボールドの固定」
- ◆ 281 ページのセクション 13.3.4 「アイデンティティボールドの展開表示と縮小表示」
- ◆ 283 ページのセクション 13.3.5 「eDirectory への切り替え」
- ◆ 284 ページのセクション 13.3.6 「eDir-to-eDir ドライバ」
- ◆ 285 ページのセクション 13.3.7 「パスワードビュー」

13.3.1 フィルタビュー

デフォルトでは、エディタにはすべてのデータフローが表示されますが、左上の [ビュー] コンボボックスを使用して表示内容をフィルタリングすると、通知、同期、リセット、パスワード同期といった情報だけを確認できます。これらのフィルタ処理されたビューで行える編集操作は、そのフィルタで必要な操作だけに限定されます。メインビューで行える編集操作がすべて行えるわけではありません。例えば、属性、ボールド、またはアプリケーションは、デフォルトでは、フィルタ内に表示されないため、これらを追加することはできません。



[All Filters(すべてのフィルタ)] ビューでは、[属性] リストを使用してさらに絞り込むことができます。新しいデータフローエディタでは、非フィルタ属性という新しい概念が導入されたため、通常のフィルタベースの属性、新しい非フィルタ属性、またはその両方を表示するよう選択できます。

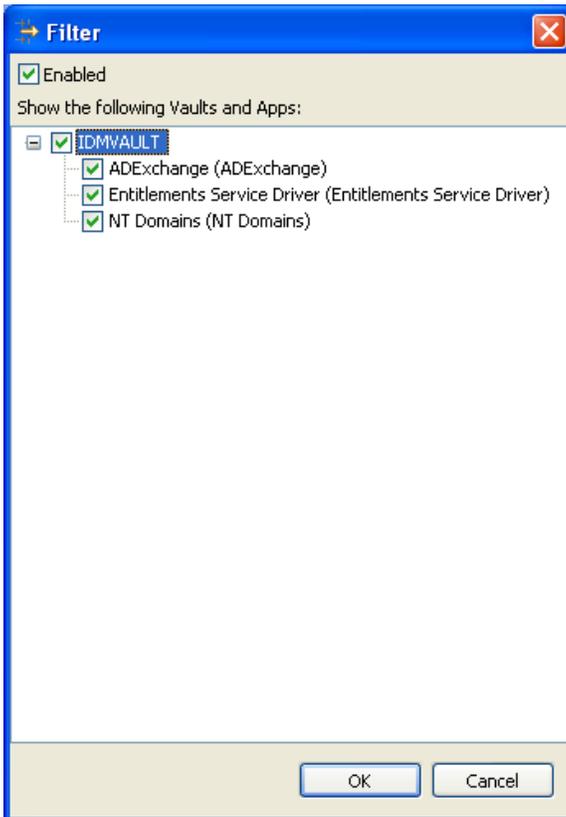


13.3.2 オブジェクトフィルタ

Dataflow (データフロー) エディタのツールバーにある [Object Filter (オブジェクトフィルタ)] ボタンをクリックすると、エディタ内に表示するアイデンティティボールドとアプリケーションを選択できます。



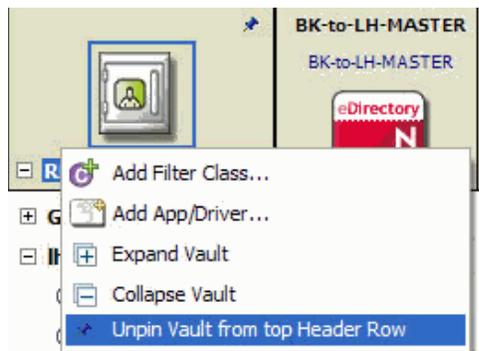
表示するアイデンティティボールドとアプリケーションを選択します。ここで選択したアイデンティティボールドとアプリケーションは **html** 形式のレポートに出力されます。詳細については、[294 ページのセクション 13.6 「HTML レポートの生成と書式設定」](#) を参照してください。



ダイアログボックスはサイズ変更とスクロールが可能で、かつモードレスです。モードレスとは、バックグラウンドでデータフローエディタとの対話処理が可能なことを意味します。これにより、ダイアログボックスを開いたまま他のセクションにスクロール移動し表示できるため便利です。

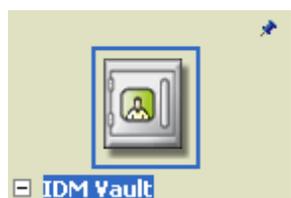
13.3.3 アイデンティティボールドの固定

エディタの範囲を変更して1つのボールドだけが表示されるようにするには、そのボールドを右クリックして、[Pin Vault to top Header Row (見出し行にボールドを固定する)] を選択します。固定解除するには、そのボールドを右クリックして、[Unpin Vault from top Header Row (見出し行のボールドを固定解除する)] を選択します。



複数のボールドが存在する場合、スクロールしなくても容易にボールドを編集できるように表示範囲を限定できるため便利です。中規模から大規模のプロジェクトでは、このテーブルのサイズが数百行、数千項目になることも珍しくありません。

アイデンティティボールドを固定すると、ボールドの右上隅にピンアイコンが表示されます。



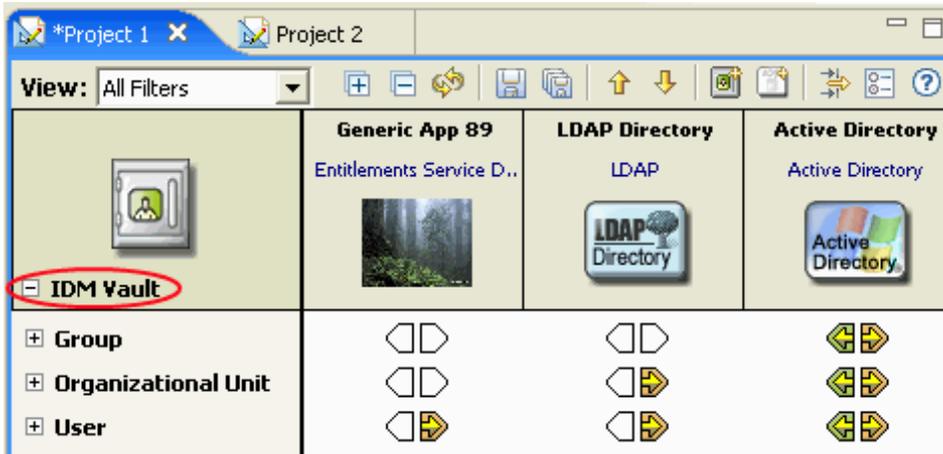
13.3.4 アイデンティティボールドの展開表示と縮小表示

アイデンティティボールドの展開表示と縮小表示を切り替えるには、次の4つの方法があります。

- ◆ 282 ページの「[アイデンティティボールド] アイコン」
- ◆ 282 ページの「ツールバー」
- ◆ 283 ページの「ショートカットメニュー」
- ◆ 283 ページの「矢印キー」

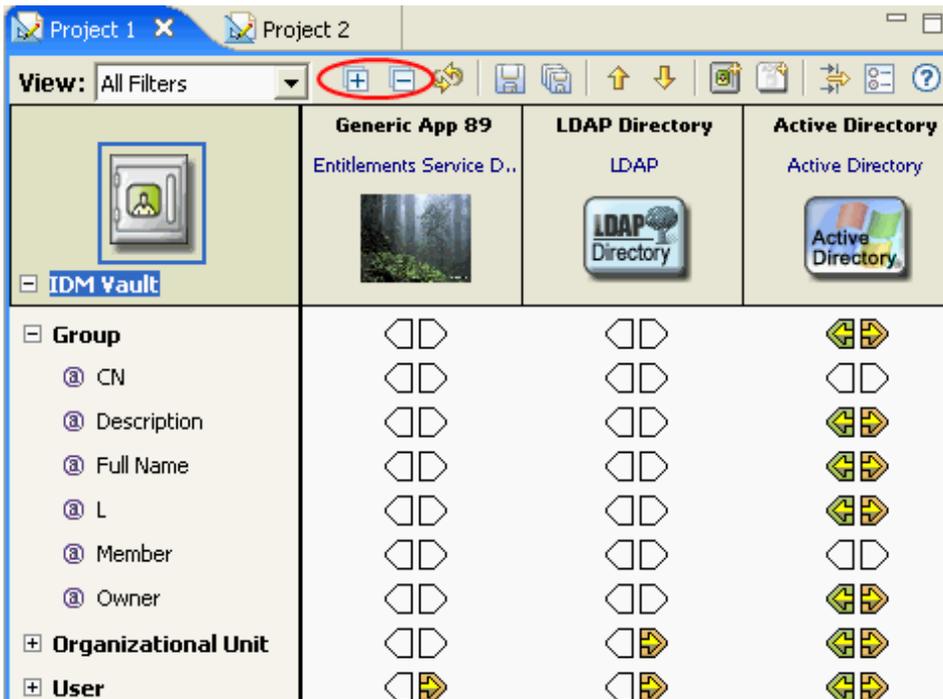
[アイデンティティボールド] アイコン

[アイデンティティボールド] アイコンの下にある [+] または [-] をクリックすると、そのボールドに関する情報を展開したり縮小したりできます。



ツールバー

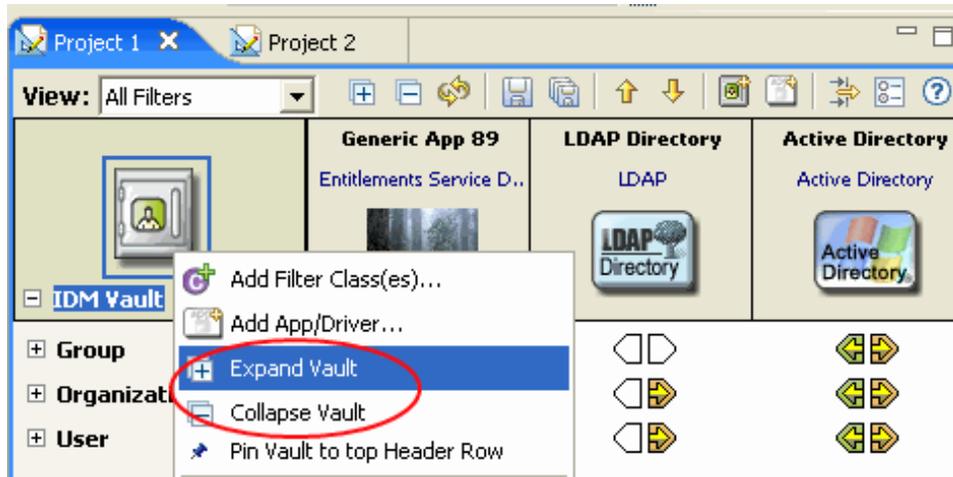
ツールバーの [+] または [-] アイコンをクリックします。ビューが展開され、各クラスの下にすべての属性が表示されます。



クラスを選択して右矢印キーを押すと、すべての属性が展開表示されます。左矢印キーを押すと、属性情報が縮小表示されます。

ショートカットメニュー

[アイデンティティボールド] アイコンを選択して右クリックし、[Expand Vault (ボールドの展開表示)] または [Collapse Vault(ボールドの縮小表示)] を選択します。



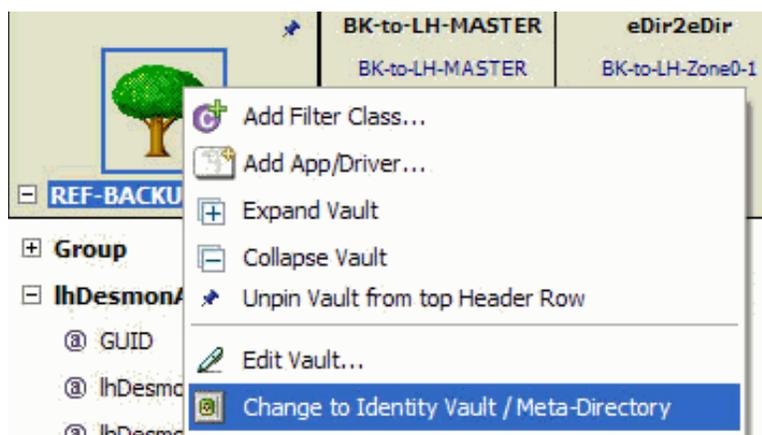
矢印キー

[アイデンティティボールド] アイコンを選択して右矢印キーを押すと、属性情報が展開表示されます。左矢印キーを押すと、属性情報が縮小表示されます。

エディタを初めて起動したときには、デフォルトで、すべてのボールドが最上位レベルに展開されます。

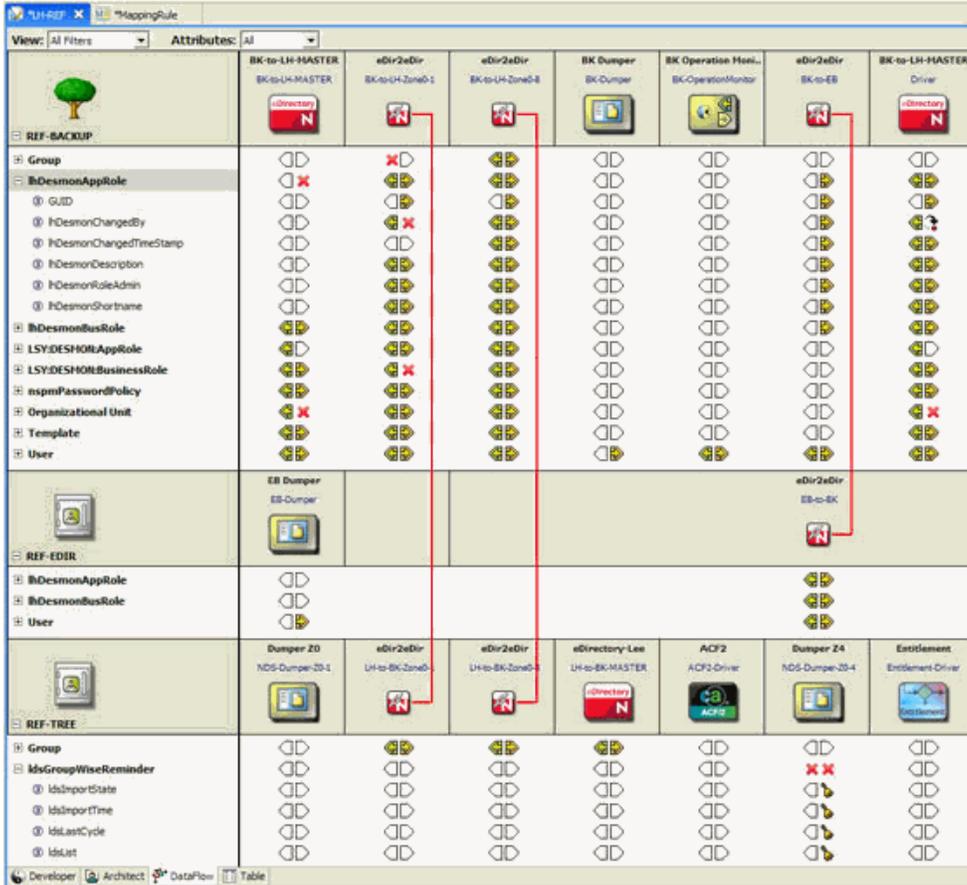
13.3.5 eDirectory への切り替え

[アイデンティティボールド] 上で右クリックすると、ローカルの eDirectory タイプに切り替えることができます。逆に [アイデンティティボールド] 表示に戻すこともできます。



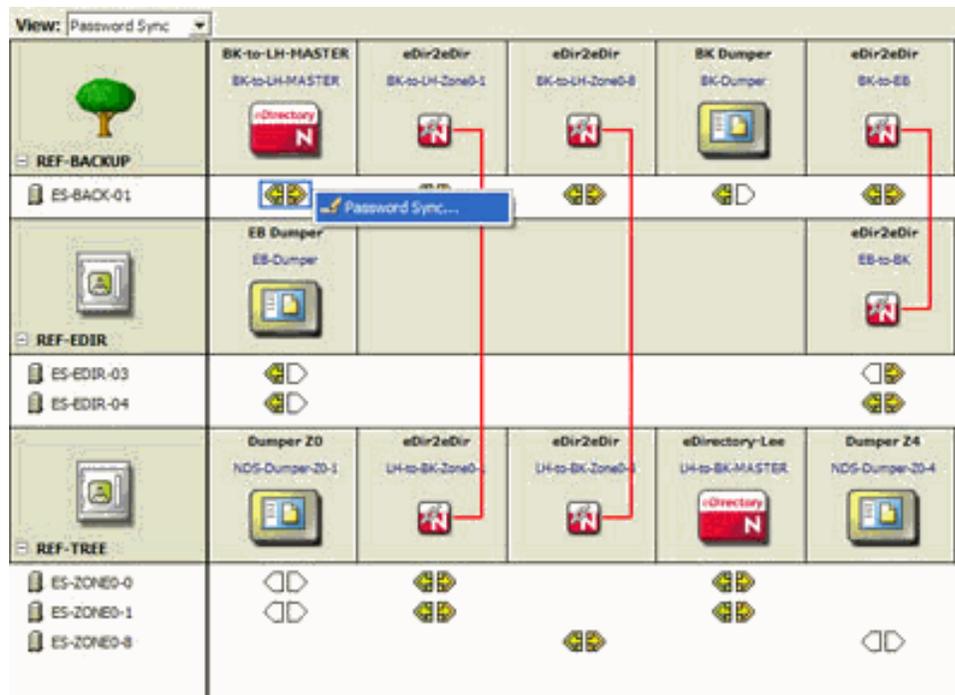
13.3.6 eDir-to-eDir ドライバ

今バージョンより、eDir-to-eDir 接続の両端を表示し、接続の両端で簡単にデータフローを設定できるツールが加わりました。これらの接続は自動的に検出され、テーブルの同一列上に赤い線でリンクした状態が表示されます。両端の間にアプリケーションが存在していても、それらによって表示が妨げられることはありません。



13.3.7 パスワードビュー

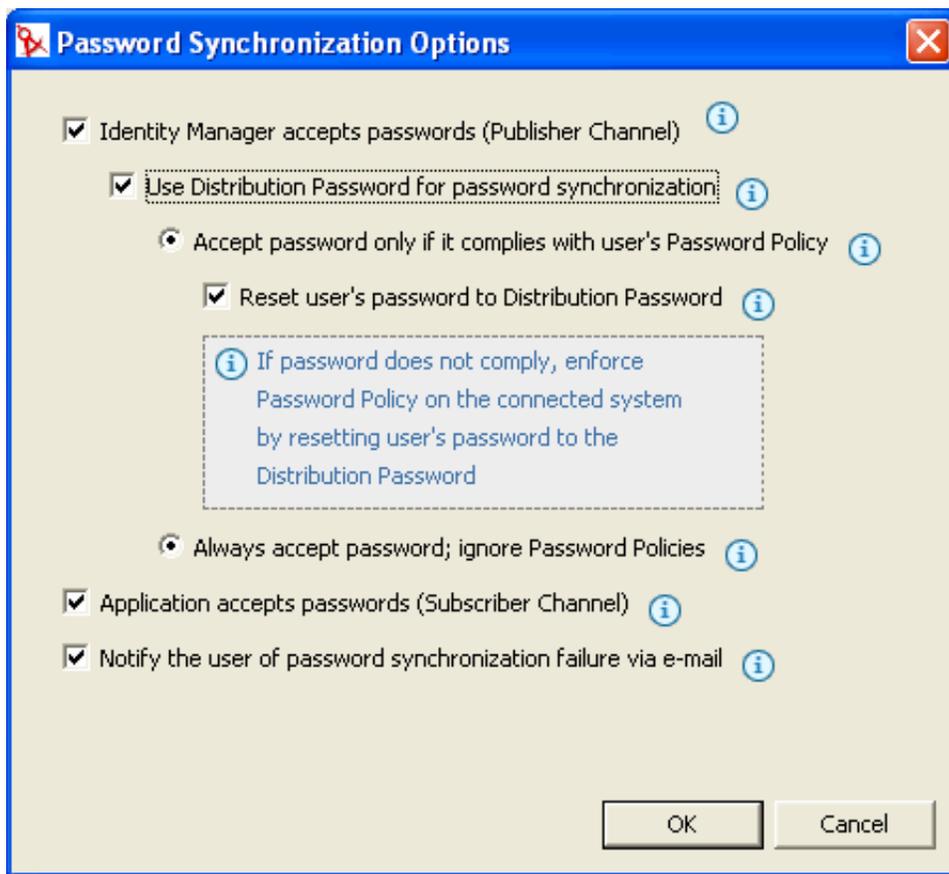
パスワードビューでは、プロジェクト内のすべてのパスワードのフローを確認できます。表示はサーバ単位で行われ、すべてのアプリケーション間のパスワードフローが表示されます。



パスワードフローを編集するには：

- 1 フロー矢印を右クリックまたはダブルクリックします。
- 2 パスワード同期オプションを編集します。

パスワード同期の詳細については、『Identity Manager 管理ガイド』の「[接続システム間のパスワード同期](http://www.novell.com/documentation/idm/index.html?page=/documentation/idm/admin/data/an4bz0u.html)」を参照してください。



3 [OK] をクリックします。

13.4 項目の追加

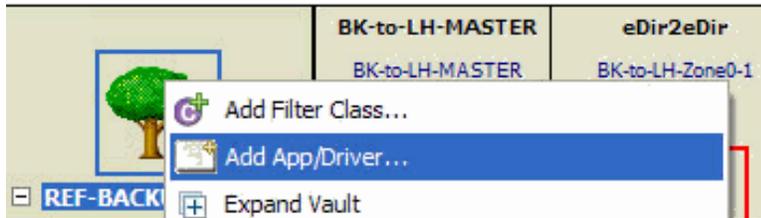
項目は、Dataflow (データフロー) エディタで追加できます。

- ◆ 286 ページのセクション 13.4.1 「項目の追加と削除」
- ◆ 287 ページのセクション 13.4.2 「アイデンティティボルトの追加」
- ◆ 288 ページのセクション 13.4.3 「アプリケーションの追加」
- ◆ 289 ページのセクション 13.4.4 「クラスと属性の追加」
- ◆ 290 ページのセクション 13.4.5 「非フィルタ属性の追加」

13.4.1 項目の追加と削除

Dataflow (データフロー) エディタ内でドライバとアイデンティティボルトを追加できます。項目を選択して <Delete> キーを押すと、項目が削除されます。項目を追加するに

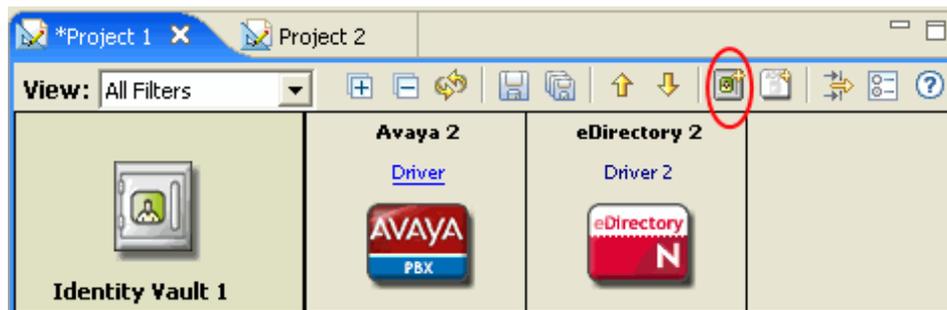
は、項目を右クリックして、[Add App/Driver (アプリケーション/ドライバの追加)] を選択します。



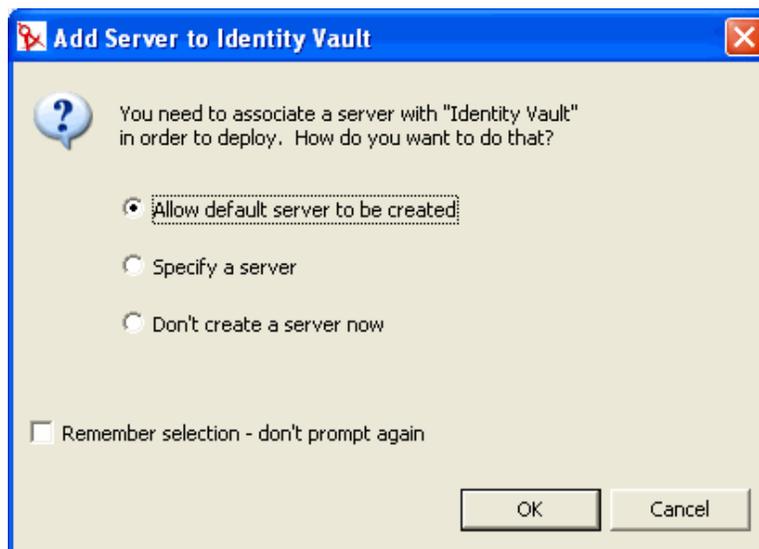
項目を選択して、ツールバーから適切なアイコンを選択することで、項目を追加することもできます。

13.4.2 アイデンティティボールの追加

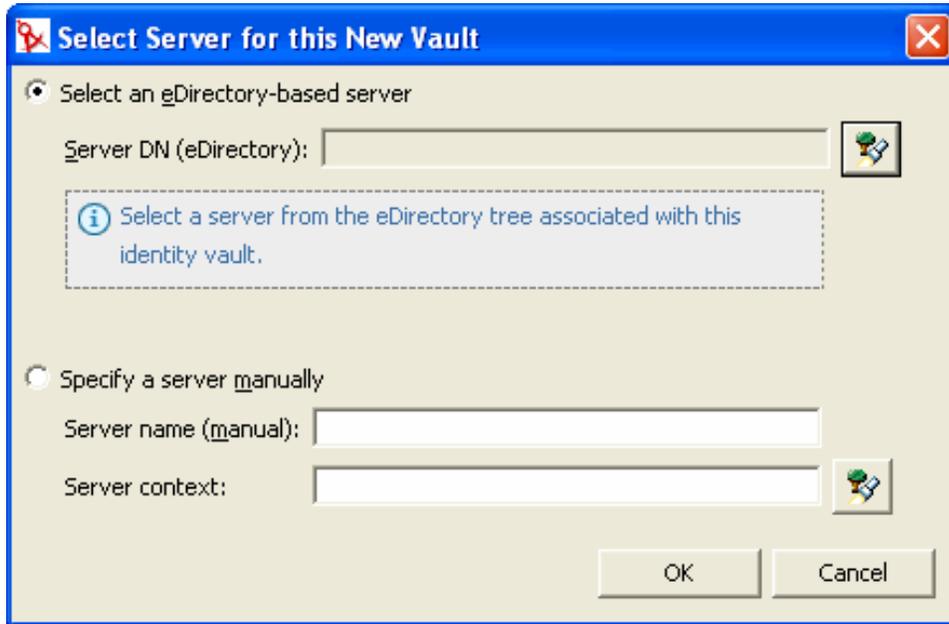
- 1 ツールバーで、[Add Identity Vault (アイデンティティボールの追加)] アイコンを選択します。



- 2 アイデンティティボールの作成方法を選択します。
 - ◆ Allow default server to be created (デフォルトのサーバを作成する)
 - ◆ Specify a server (サーバを指定する)
 - ◆ Don't create a server now (今はサーバを作成しない)



- 3 [OK] をクリックします。
- 4 サーバをすぐに作成する場合は、参照ボタンでサーバを参照して選択するか、サーバ名を指定してから、[OK] をクリックします。

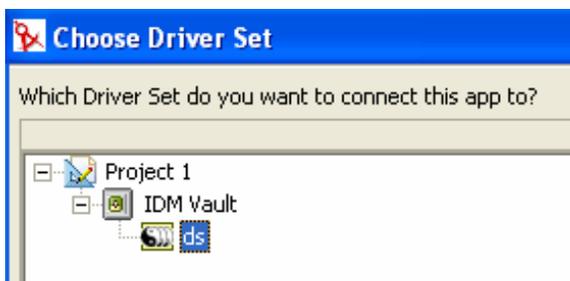


13.4.3 アプリケーションの追加

- 1 ツールバーで、[Add Application (アプリケーションの追加)] アイコンを選択します。



- 2 このアプリケーションに接続するドライバセットを参照して選択し、[OK] をクリックします。



- 作成するドライバを選択し、[OK] をクリックします。

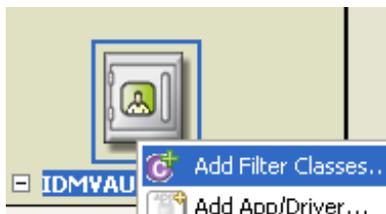


これにより、ドライバのスケルトンが作成されます。ただし、ドライバ環境設定ウィザードは起動されません。ドライバを設定するには、モデラビューで [接続] アイコンを右クリックして、[Run Configuration Wizard (環境設定ウィザードの実行)] をクリックします。

13.4.4 クラスと属性の追加

データフローにクラスと属性を追加できます。クラスを追加するには：

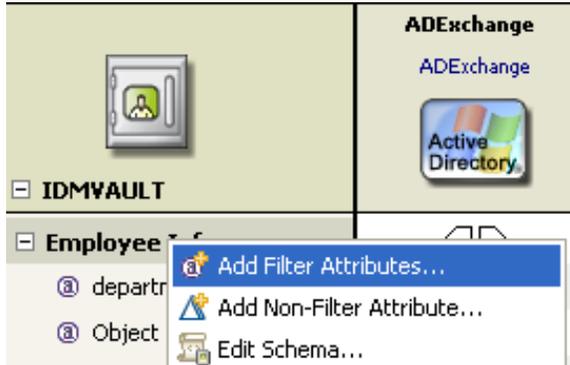
- アイデンティティボールドを右クリックし、[Add Filter Class (フィルタクラスの追加)] を選択します。



- 追加するクラスを選択し、[OK] をクリックします。
2つ以上のクラスを追加する場合は、<Ctrl> キーを押しながらクラスを選択します。複数のクラスが選択されます。

属性に追加するには：

- 1 クラスを右クリックし、[Add Filter Attribute (フィルタ属性の追加)] を選択します。



- 2 追加する属性を参照して選択し、[OK] をクリックします。

2つ以上の属性を追加する場合は、<Ctrl> キーを押しながら属性を選択します。複数の属性が選択されます。

13.4.5 非フィルタ属性の追加

データフローエディタには、今バージョンより、非フィルタ属性という新しい概念が導入されています。データフローエディタ内のすべてのクラスと属性は、デフォルトでは、ドライバのすべてのフィルタポリシー内のものが直接使用されます。しかし、実際の運用環境では、ポリシースクリプトコード、XSLT、または呼び出した外部コード内に直接、データフローを定義することがよくあります。

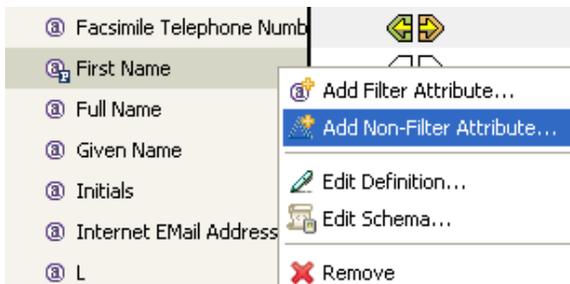
これらの非フィルタ属性は通常、ポリシーフィルタ内には定義されず（「追加」処理を記述している場合は除く）、スキーママップ内にも存在しません。これらの属性は通常のドライバ動作の外で生成され、スキーママップ内にルールとして必要になるのは、エンジンで処理される場合に限られるためです。

通常、非フィルタ属性は、発行者コマンド変換ポリシーセットまたは購読者出力変換ポリシーセット内で処理されます。

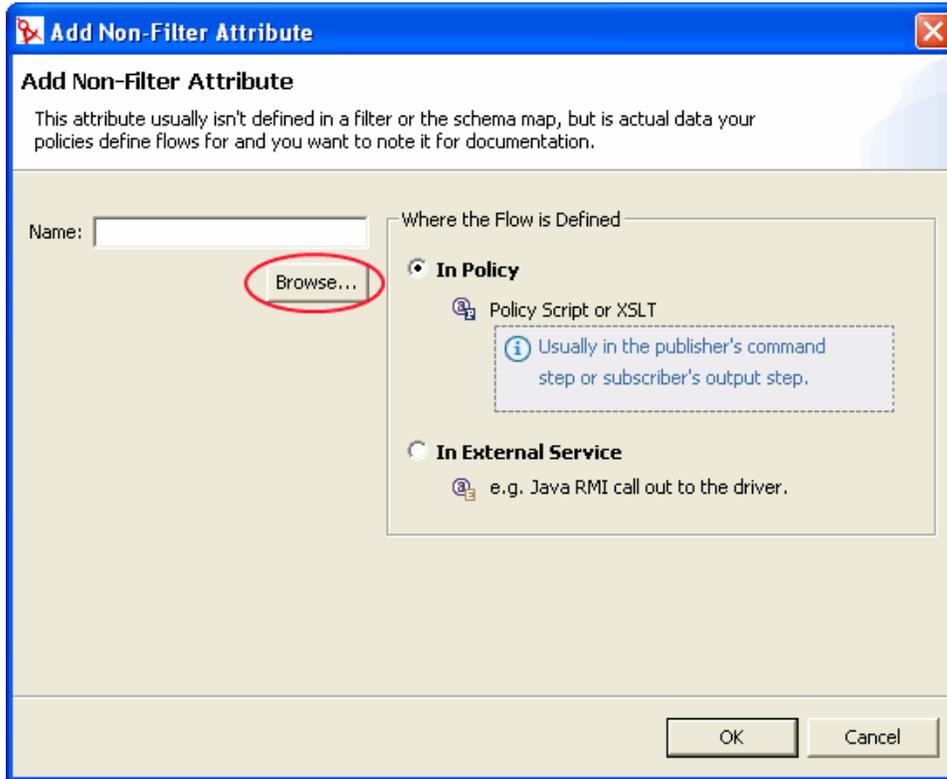
データフローエディタでは、非フィルタ属性をドキュメント用としてテーブルに追加することができます。このように属性を取り込むことで、実際の企業データフローの全体図を正確に把握できます。

非フィルタ属性を追加するには：

- 1 クラスまたは属性の名前を右クリックします。



- 2 [Browse (参照)] をクリックして、属性またはクラスを参照および選択するか、属性またはクラスの名前を入力します。



- 3 属性またはクラスのフローを定義する場所を選択します。[In Policy (ポリシー内)] または [In External Service (外部サービス内)] を選択してください。

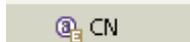
ポリシー内では、ポリシースクリプトまたは XSLT スタイルシートとしてデータフローが定義されます。外部サービス内では、ドライバに対する Java RMI コールとして定義されます。

- 4 [OK] をクリックします。

非フィルタ属性と通常のフィルタ属性を識別するため、ポリシー内に定義された属性には、アイコンに小さな P が付きます。



外部サービスによって定義された属性には、アイコンに小さな E が付きます。



13.5 項目の編集

データフローエディタでは、次のタスクを実行できます。

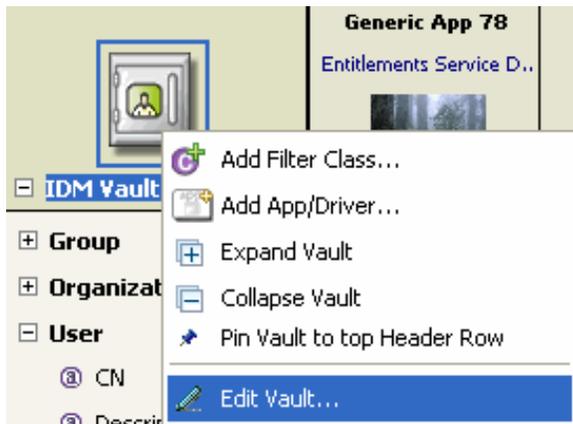
- ◆ 292 ページのセクション 13.5.1 「項目の編集」
- ◆ 293 ページのセクション 13.5.2 「非フィルタ属性の編集」

- ◆ 293 ページのセクション 13.5.3 「スキーマの管理」
- ◆ 293 ページのセクション 13.5.4 「フローの削除」
- ◆ 294 ページのセクション 13.5.5 「データフローの変更」

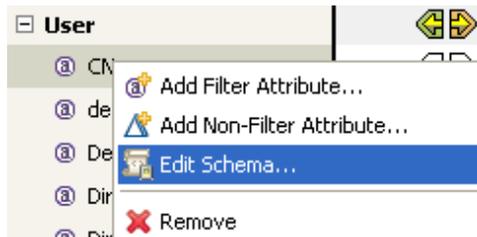
13.5.1 項目の編集

操作上の便宜を図るため、データフローエディタ内で多くの項目を編集できるようになっています。この機能により、データフローエディタを、必要なツールをすべて備えた本格的なプロジェクトエディタとして使用できます。次の編集操作を実行できます。

- ◆ ボールトプロパティ: 任意のアイデンティティボールトを表すアイコンをダブルクリック、右クリックするか、アイコンが選択された状態で <Enter> を押すと、プロパティが表示されます。



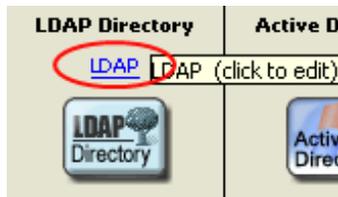
- ◆ クラスと属性: 任意のクラスまたは属性をダブルクリック、右クリックするか、アイコンが選択された状態で <Enter> を押すと、Schema Manager (スキーママネージャ) が起動します。Schema Manager (スキーママネージャ) では、クラスおよび属性を変更できます。詳細については、215 ページの第 12 章「スキーマの管理」を参照してください。



- ◆ アプリケーション: アプリケーションを表す任意のアイコンをダブルクリック、右クリックするか、アイコンが選択された状態で <Enter> を押すと、プロパティが表示されます。



- ◆ ドライバ: アプリケーション名の下でのドライバ名をクリックすると、ドライバのプロパティが表示されます。



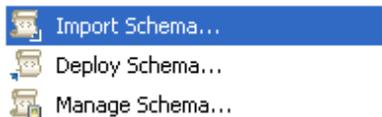
13.5.2 非フィルタ属性の編集

これらの属性の方向付きフローは、他の属性と同じ方法で編集します。矢印を右クリックして、[Publish (発行)]、[Subscribe (購読)]、[Ignore (無視)]、[Reset (リセット)]、[Remove from Filter (フィルタから削除)] を選択してください。

リセットとは、特定の条件が満たされたら値をリセットすることを意味します。この属性はポリシーフィルタに指定できます。また、値をリセットするためのロジックを手動で書く場合もあります。このロジックが実行されるシナリオは現実には存在します。

13.5.3 スキーマの管理

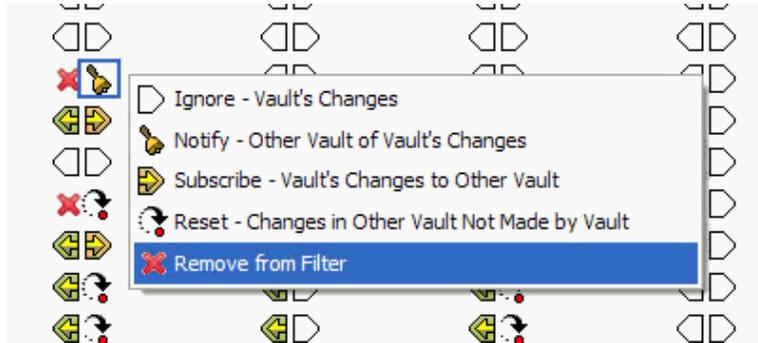
アイデンティティポルトを示す右クリックすることで、エディタ内でスキーマをインポート、展開、編集できます。エディタの外で行われたすべてのスキーマの変更は同期化されます。詳細については、215 ページの第 12 章「スキーマの管理」を参照してください。



13.5.4 フローの削除

ポリシーフィルタの XML に定義されていないフロー (発行チャネルまたは購読チャネル) には、赤の X が表示されます。これは、そのフローがポリシー内に指定されておらず、フローが存在しないことを意味し、実質的に [Ignore Flow (フローを無視)] アイコン (

白抜き矢印)と同じです。ただし、ポリシーのXML内に実際に定義されているものが分かるという点で、この表示は有用です。フローには削除対象のマークを付けることができます。このマークの付いたフローはXMLから削除されます。特定のクラスまたは属性に両方のチャンネル上で削除対象のマークが付いており、そのクラスまたは属性に対する参照が他に存在しない場合は、データフローエディタのテーブルから削除されます。

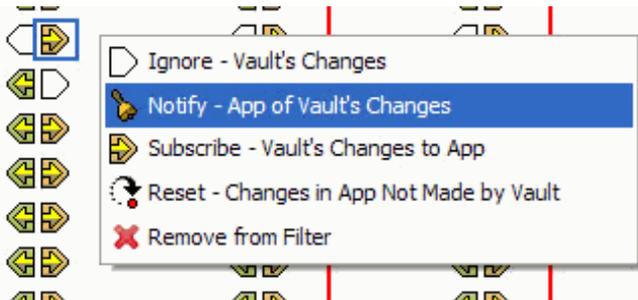


13.5.5 データフローの変更

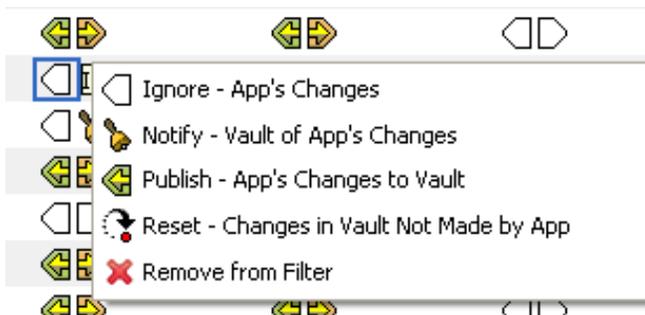
データフローを変更するには：

- ◆ データフローを表示する矢印を選択し、右クリックして、オプションを選択します。

購読者チャンネルが右側に、発行者チャンネルが左側に表示されます。



属性を選択した場合は、[Reset-Changes in App Not Made by Vault (ボールドによって作成されなかったアプリケーションのリセットと変更)] オプションが使用できます。



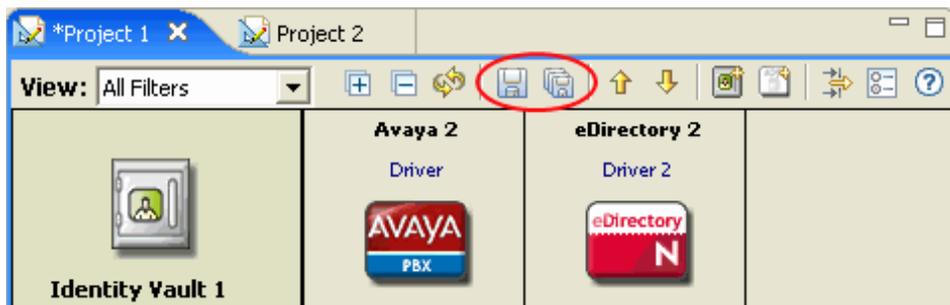
13.6 HTML レポートの生成と書式設定

- ◆ [295 ページのセクション 13.6.1 「HTML レポートの生成」](#)

- ◆ 297 ページのセクション 13.6.2 「HTML 列の書式設定」

13.6.1 HTML レポートの生成

[Save Current View to HTML (現在のビューを HTML に保存)] アイコンまたは [Save All Views to HTML (すべてのビューを HTML に保存)] アイコンをクリックすることで、9 種類の HTML レポートを生成できます。



[Save All Views to HTML(すべてのビューを HTML に保存)] をクリックすると 9 種類のレポートがすべて生成されます。[Save Current View to HTML(現在のビューを HTML に保存)] をクリックすると、現在のビューのレポートが生成されます。

HTML ファイルにはレポートの内容が分かる名前が自動的に付けられ、HTML ドキュメントに必要なすべての画像が HTML の保存先である icons サブディレクトリにコピーされます。このプロセスでは、カスタムアプリケーションアイコンに関するすべての情報もコピーされます。

- ◆ DataFlowAll.html
- ◆ DataFlowFilter.html
- ◆ DataFlowNonFilter.html
- ◆ NotifyFlowAll.html
- ◆ PasswordFlowAll.html
- ◆ ResetFlowAll.html
- ◆ SyncFlowAll.html
- ◆ SyncFlowFilter.html
- ◆ SyncFlowNonFilter.html

名前	サイズ	種類
icons		ファイル フォルダ
DataFlowAll.html	500 KB	HTML Document
DataFlowAll_REF-BACKUP.html	208 KB	HTML Document
DataFlowFilter.html	485 KB	HTML Document
DataFlowNonFilter.html	16 KB	HTML Document
NotifyFlowAll.html	116 KB	HTML Document
PasswordFlowAll.html	15 KB	HTML Document
ResetFlowAll.html	83 KB	HTML Document
SyncFlowAll.html	354 KB	HTML Document
SyncFlowFilter.html	353 KB	HTML Document
SyncFlowNonFilter.html	6 KB	HTML Document

保存用に選択したディレクトリは Designer のメモリに格納され、次回、保存するときにはデフォルトのディレクトリになります。

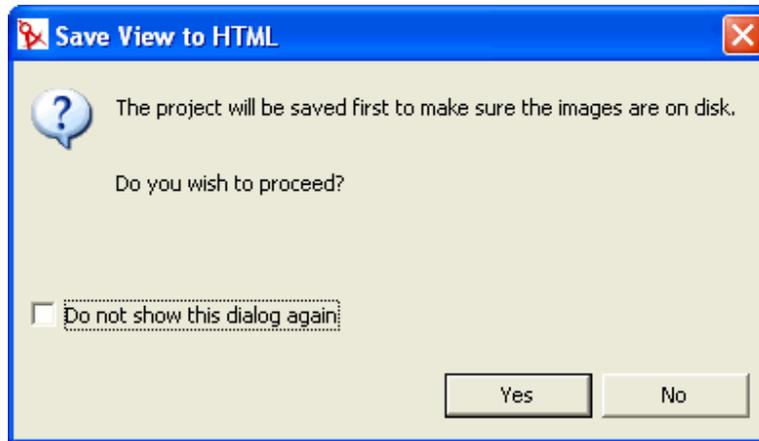
アイデンティティボルトを固定してからレポートを生成すると、そのアイデンティティボルトのレポートが生成され、アイデンティティボルト名が HTML 名に含まれます。

 IDM Vault	Generic App 80 <small>Entitlements Service Driver (#1)</small> 	LDAP Directory <small>LDAP</small> 	Active Directory <small>Active Directory</small> 	eDirectory <small>EDIR-Driver</small> 
Group	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input checked="" type="checkbox"/> CN	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input checked="" type="checkbox"/> Description	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input checked="" type="checkbox"/> Full Name	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input checked="" type="checkbox"/> L	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input checked="" type="checkbox"/> Member	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input checked="" type="checkbox"/> Owner	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Organizational Unit	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input checked="" type="checkbox"/> Description	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input checked="" type="checkbox"/> L	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input checked="" type="checkbox"/> OU	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
User	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input checked="" type="checkbox"/> CN	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input checked="" type="checkbox"/> Description	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input checked="" type="checkbox"/> DirXML-ADAliasName	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input checked="" type="checkbox"/> DirXML-SPEntitlements	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input checked="" type="checkbox"/> Facsimile Telephone Number	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input checked="" type="checkbox"/> Full Name	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input checked="" type="checkbox"/> Given Name	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

レポートを生成するには：

- 1 [Save Current View to HTML (現在のビューを HTML に保存)] または [Save All Views to HTML (すべてのビューを HTML に保存)] をクリックします。

プロジェクトのディスクへの保存を確認するメッセージが表示されます。



このメッセージは、すべてのアイコン情報が安全にコピーされる状態にあることを確認するためのものです。

- 2 [Yes (はい)] をクリックし、プロジェクトを保存します。
- 3 レポートの保存先を参照して選択し、[OK] を選択します。
- 4 レポートの保存先を示す情報画面で [OK] をクリックします。

13.6.2 HTML 列の書式設定

データフローに複数のアプリケーションが含まれている場合は、HTML を保存した時点でアプリケーションが切り捨てられる場合があります。ただし、テーブルをまとめてアプリケーションが切り取られないようにする機能が組み込まれています。まとめられた行にはアイデンティティボールド名の下に、Continuation #1、Continuation #2 のようにラベルが付きます。

13.7 パスワードの統合

ドライバが (少なくとも 1 方向の) パスワードを同期している場合は、小さなパスワードフィールドアイコン  が、ドライバアイコンの下に表示されます。

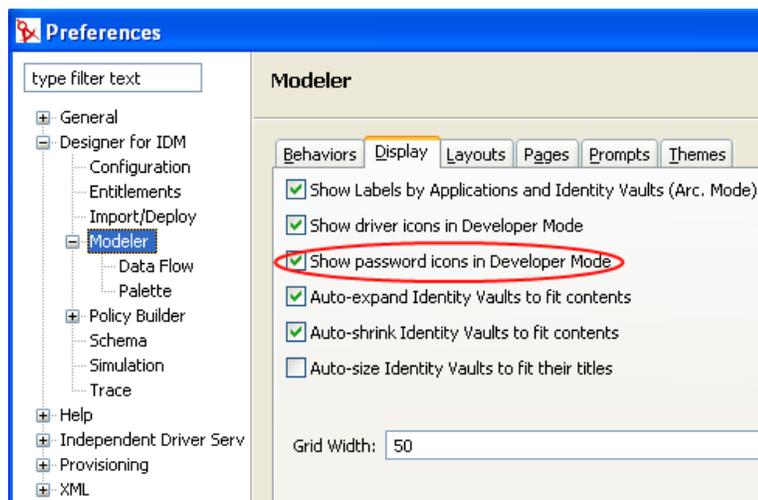
図 13-5 パスワード同期を示すアイコン



このアイコンを使用すると、パスワードが同期されている場所を知ることができます。

このアイコンは、[Preferences (初期設定)] でオン/オフを切り替えることができます。

- 1 ツールバーで [Windows (ウィンドウ)] > [Preferences (初期設定)] > [Designer for IDM] > [Modeler (モデラ)] の順に選択します。
- 2 [Display (表示)] タブを選択し、[Show password icons in Developer Mode (開発者モードでパスワードアイコンを表示)] のオン/オフを切り替えます。

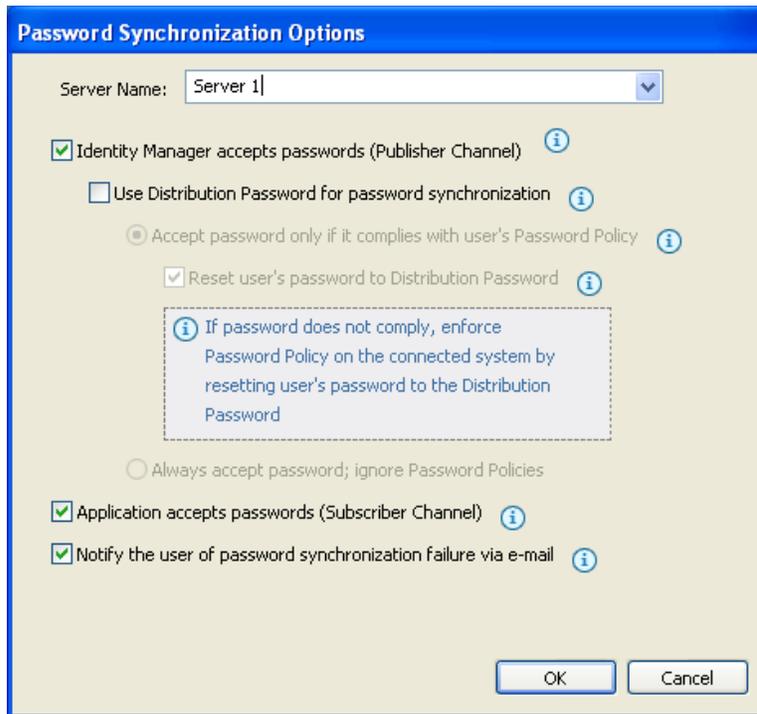


[パスワード] アイコンの上にマウスを移動すると、フローに関連するサーバごとにパスワードフローの有用な説明が表示されます。

パスワード同期のフローを設定するには：

- 1 ドライバを右クリックします。

2 [Password Sync (パスワード同期)] を選択します。



[Password Synchronization Options (パスワード同期オプション)] ページに移動します。このページは、通常の状態では、ドライバの [GCV] ページに隠れています。

3 オプションを選択して [OK] をクリックします。

Designer を使用すると、アイデンティティボールド、ドライバセット、ドライバ、接続システムの設定を簡単に設定および変更できます。詳細については、次の各節を参照してください。

- ◆ 301 ページのセクション 14.1 「オブジェクトプロパティの表示」
- ◆ 303 ページのセクション 14.2 「アイデンティティボールドの管理」
- ◆ 304 ページのセクション 14.3 「ドライバセットの管理」
- ◆ 309 ページのセクション 14.4 「ドライバの管理」
- ◆ 316 ページのセクション 14.5 「アプリケーションプロパティの設定」

14.1 オブジェクトプロパティの表示

ドライバまたはドライバセットのプロパティを表示および編集するため、Designer には、製品全体にわたって、[Properties (プロパティ)] ビューおよび [Properties (プロパティ)] ダイアログボックスが使用できます。

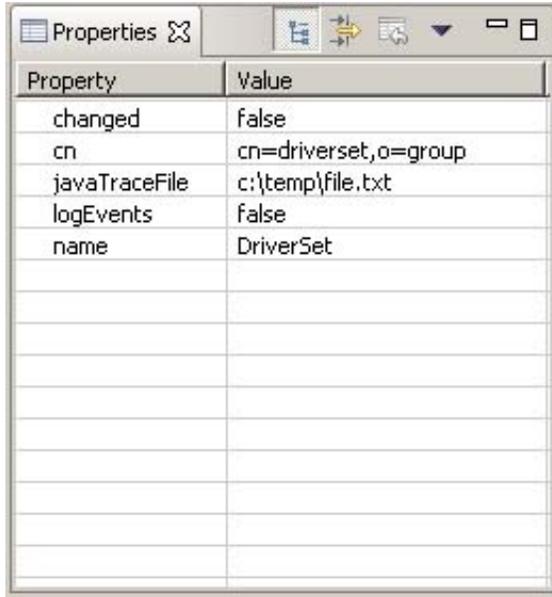
- ◆ 301 ページのセクション 14.1.1 「[Properties (プロパティ)] ビュー」
- ◆ 302 ページのセクション 14.1.2 「[Properties (プロパティ)] ダイアログボックス」
- ◆ 302 ページのセクション 14.1.3 「操作」

14.1.1 [Properties (プロパティ)] ビュー

モデルで項目を選択すると、[Properties (プロパティ)] ビューに情報が表示されます。このビューで、情報を迅速に確認し編集できます。

モデラで項目を選択し<Enter>キーを押すと、その項目に対応する [Properties (プロパティ)] ダイアログボックスが表示されます。

図 14-1 [Properties (プロパティ)] ビュー



14.1.2 [Properties (プロパティ)] ダイアログボックス

モデラで項目のプロパティを編集するには:

- 1 項目 (例えば、アイデンティティボルト) を右クリックし、[Properties (プロパティ)] を選択して、設定を編集します。
- 2 [OK] をクリックし、編集内容を保存します。

14.1.3 操作

キー操作	説明
開く	ビューが表示されていない場合は、[Window (ウィンドウ)] > [Show View (ビューの表示)] > [Properties (プロパティ)] を選択します。
Edit (編集)	モデラまたは [Outline (アウトライン)] ビューで選択した項目の設定を編集します。
Multi-Edit (マルチ編集)	複数の項目を選択した場合は、それらの項目に共通する設定を編集できます (例えば、2つの項目に名前が設定されている場合に、両方の項目を選択して、一度だけ名前を編集すると、両方の項目の名前が変更されます)。
Saving (保存)	[Save (保存)] をクリックすると、すべての変更がプロジェクトファイルに保存されます。プロジェクトを再度開くと、すべての設定が復元されます。

キー操作	説明
Boolean Editor (ブールエディタ)	ブール値 (true または false) をクリックすると、true は false に、false は true に切り替わります。

14.2 アイデンティティボールの管理

モデラを使用すると、自分の環境に 1 つまたは複数のアイデンティティボールトを追加できます。

- ◆ [303 ページのセクション 14.2.1 「アイデンティティボールの追加」](#)
- ◆ [303 ページのセクション 14.2.2 「アイデンティティボールトプロパティの編集」](#)

14.2.1 アイデンティティボールの追加

アイデンティティボールトオブジェクトをパレットからモデラにドラッグすると、サーバを追加するよう指示するメッセージが表示されます。次のいずれかを選択できます。

- ◆ **Allow default server to be created (デフォルトのサーバを作成する)** 展開前に変更できる置換可能な疑似サーバ値を作成します。この値は、アイデンティティボールト内のオブジェクト (ドライバセット、ドライバなど) に関連付けられます。
- ◆ **Specify a server(サーバを指定する):** アイデンティティボールトのサーバ値を指定します。サーバ値は参照して選択するか、直接入力します。
- ◆ **Don't create a server now (今はサーバを作成しない):** サーバ値なしのアイデンティティボールトを作成します。ただし、ドライバのサーバベースの属性を編集するには、サーバを指定する必要があります。

プロジェクトを展開する前には、必ず、サーバをアイデンティティボールトに関連付ける必要があります。サーバとの関連付けは、アイデンティティボールトのプロパティに指定します。

14.2.2 アイデンティティボールトプロパティの編集

アイデンティティボールトプロパティを編集するには、アイデンティティボールトオブジェクトをダブルクリックするか、アイデンティティボールトオブジェクトを右クリックしてから、[Properties (プロパティ)] を選択します。

[Identity Vault Properties (アイデンティティボールトのプロパティ)] ページには、[Configuration (環境設定)]、[Administrator (管理者)]、[Server List (サーバリスト)] の 3 つのオプションがあります。

環境設定

[Configuration (環境設定)] オプションでは、次の値を変更または指定できます。

表 14-1 環境設定で指定可能なアイデンティティボールド値

フィールド	説明
Vault Name (ボールド名)	アイデンティティボールドオブジェクトの名前 (デフォルトは Identity Vault 1)。
Host (ホスト)	ログインして展開する先の eDirectory ホスト。
Username (ユーザ名)	この展開に関連するオブジェクトに対する変更権限を持つ eDirectory ユーザ名。
Password (パスワード)	上記ユーザのパスワード。
Save Password (パスワードの保存)	パスワードを保存して、Designer を開くたびに、このアイデンティティボールドへのアクセスが許可されるようにします。[パスワードの保存] を使用すると、パスワードが Designer のファイルシステムに保存されるため、安全性が低下します。
Test Credentials (資格情報のテスト)	eDirectory サーバに接続してログイン資格情報を確認します。
Deploy Context (展開コンテキスト)	このアイデンティティボールドに関連付けられたすべてのドライバセットに割り当てられたデフォルトの DN コンテナ。ドライバセットオブジェクトの DN コンテナを指定した場合は、その設定が優先されます。

管理者

[Administrator (管理者)] オプションは、個人情報、連絡先情報、メモの 3 セクションに分かれています。この情報を入力するかどうかは任意です。

- ◆ 個人情報には、アイデンティティボールド固有の情報 (名前、役職、部門、場所) を入力します。
- ◆ 連絡先情報には、電子メールアドレス、電話番号、携帯番号、ポケベル、ファックス番号を入力します。
- ◆ メモには、今後の参照用としてメモを入力します。

サーバリスト

選択したアイデンティティボールドに関連付けられたサーバが一覧表示されます。サーバエントリは、追加、編集、削除できます。

注: [Allow default server to be created (デフォルトのサーバを作成する)] を選択すると、サーバが「Default Server.default_container」としてリスト内に表示されます。サーバリスト内に Default Server.default_container が存在する場合は、既存の eDirectory ツリー内にドライバセットを展開できません。ドライバセットを展開するには、まず、この参照を削除してから、eDirectory ツリー内にメタディレクトリサーバを追加する必要があります。

14.3 ドライバセットの管理

ドライバセットを管理するため、Designer では次のオプションを設定できます。

- ◆ 305 ページのセクション 14.3.1 「[Driver Set General (ドライバ設定全般)] オプション」

- ◆ 305 ページのセクション 14.3.2 「ドライバセットサーバリストの設定」
- ◆ 306 ページのセクション 14.3.3 「ドライバセットのグローバル構成値」
- ◆ 306 ページのセクション 14.3.4 「ドライバセットのログレベル」
- ◆ 306 ページのセクション 14.3.5 「ドライバセットのトレースレベル」

14.3.1 [Driver Set General (ドライバ設定全般)] オプション

アイデンティティボールドを作成すると、ドライバセットがデフォルトで追加されます。デフォルト以外のドライバセットを追加するには、パレットからモデラにオブジェクトをドラッグします。

ドライバセット全般の設定を編集するには、そのドライバセットオブジェクトをダブルクリックします。[全般] ページで、次のドライバセット値を指定または変更できます。

フィールド	説明
Name (名前)	ドライバオブジェクトの名前 (DriverSet1 など)。
Create a new partition on this driver (このドライバセットに新規パーティションを作成)	このオプションを選択するようお勧めします。詳細については、「 Identity Manager の実装の技術面の計画 (http://www.novell.com/documentation/idm/install/data/alarukq.html#alarukq) 」を参照してください。
Deploy Context (展開コンテキスト)	アイデンティティボールドは、すべてのドライバセットにデフォルトの DN コンテナを割り当てます。ここでドライバセットオブジェクトの DN コンテナを指定すると、その設定がアイデンティティボールドの設定よりも優先されます。 この値は、直接入力するか参照して選択します。

14.3.2 ドライバセットサーバリストの設定

アイデンティティボールドに複数のサーバを追加したら、ドライバセットとサーバとの関連付けを表示または変更できます。目的のドライバセットオブジェクトをダブルクリックして、[Server List (サーバリスト)] を選択してください。

サーバリストには使用可能なサーバが表示されます。特定のサーバを選択してから、矢印アイコンを使用して [Selected Server(選択したサーバ)] リストに移動します。目的のサーバが [Available Server(使用可能なサーバ)] リストに含まれていない場合は、アイデンティティボールドのプロパティを編集して同リストに追加する必要があります。

重要 : [Available Server(使用可能なサーバ)] リストにアスタリスクが付いている場合、そのサーバは既に別のドライバセットに関連付けられています。アスタリスクの付いたサーバを選択すると、そのサーバの既存の関連付けがドライバセットから削除されます。1つのサーバに同時に複数のドライバセットに関連付けることはできません。

14.3.3 ドライバセットのグローバル構成値

グローバル構成値 (GCV) は、ドライバパラメータに似た設定です。グローバル構成値は、ドライバセットに対しても、個々のドライバに対しても指定できます。ドライバに GCV 値がない場合、ドライバはドライバセットからその GCV の値を継承します。

GCV によって、パスワード同期やドライバハートビートなどの Identity Manager 機能の設定、および個々のドライバ環境設定の機能に固有の設定を指定できます。一部の GCV はドライバに付属していますが、ユーザが独自の GCV を追加することもできます。ポリシーでこれらの値を参照すると、ドライバ環境設定を容易にカスタマイズできます。

ドライバセットの GCV 設定を編集するには、そのドライバセットオブジェクトをダブルクリックします。[Global Configuration Values (グローバル構成値)] ページで、[Add (追加)]、[Edit (編集)]、[Delete (削除)]、[Edit the XML for GCVs(GCV の XML の編集)] を実行できます。

14.3.4 ドライバセットのログレベル

各ドライバセットとドライバにはログレベルフィールドがあります。このフィールドで、追跡するエラーレベルを定義できます。ここで指定するレベルによって、ログに記録されるメッセージの種類が決まります。デフォルトでは、エラーメッセージ (致命的エラーも含む) を記録するように設定されています。他のタイプのメッセージも追跡する場合は、ログレベルを変更してください。ログレベルを設定または変更するには、ドライバセットをダブルクリックして、メニューから [Driver Set Log Level (ドライバセットのログレベル)] を選択します。次のオプションがあります。

- ◆ エラーを記録する
- ◆ エラーと警告を記録する
- ◆ 特定のイベントを記録する (記録するイベントを選択するには、[event selector (イベント選択ボタン)] をクリックします)
- ◆ 最終ログ時刻のみを更新
- ◆ ログへの記録をオフにする

ログのエントリ数 (50 ~ 500) も指定できます。

14.3.5 ドライバセットのトレースレベル

モデラを使用すると、ドライバセットにトレースレベルを追加できます。DSTRACE は、設定されたトレースレベルに応じて、エンジンが処理した Identity Manager (DirXML) イベントを表示します。トレースレベルはドライバセット内のすべてのドライバに適用されます。展開時にドライバで発生した問題をトラブルシューティングするためのトレースレベルを指定してください。DSTRACE は、指定されたトレースレベルの出力を表示します。

各トレースフィールドの意味は次のとおりです。

フィールド	説明
ドライバセットトレースレベル	<p>ドライバセットのトレースレベルを上げると、DSTRACE に表示される情報量が増えます。</p> <p>トレースレベル 1 を指定するとエラーは表示されますが、エラーの原因は表示されません。パスワード同期の情報を表示するには、トレースレベルを 5 に設定します。</p>
XSL トレースレベル	<p>DSTRACE では、XSL イベントが表示されます。このトレースレベルは、XSL スタイルシートのトラブルシューティング時にのみ設定します。XSL 情報を表示しない場合は、レベルをゼロに設定します。</p>
Java* デバッグポート	<p>開発者は Java デバッガをアタッチできます。</p>
Java トレースファイル	<p>このフィールドの値が設定されている場合、ドライバのすべての Java 情報がファイルに書き込まれます。このフィールドの値は、そのファイルのパスです。</p> <p>ファイルを指定すると、Java 情報がこのファイルに書き込まれます。Java をデバッグする必要がない場合は、このフィールドを空白のままにします。</p>
トレースファイルのサイズ制限	<p>Java トレースファイルの制限を設定できます。ファイルサイズを無制限に設定した場合、ディスクスペースがなくなるまでファイルサイズが増加します。</p>

NetWare

システムコンソールにトレースメッセージを表示したり、ファイル (SYS:\SYSTEM\DSTRACE.LOG) にトレースメッセージを出力したりするには、**DSTRACE.NLM** を使用します。**DSTRACE.NLM** により、[**DSTRACE Console (DSTRACE コンソール)**] 画面にトレースメッセージが表示されます。

サーバコンソールで次のコマンドを入力します。

[**DSTRACE SCREEN ON**] - [**DSTRACE Console (DSTRACE コンソール)**] 画面にトレースメッセージが表示されます。

[**DSTRACE FILE ON**] - [**DSTRACE Console (DSTRACE コンソール)**] に送信されたトレースメッセージを捕捉して、**DSTRACE.LOG** に出力します。

[**DSTRACE FILE OFF**] - ログファイルへのトレースメッセージへの出力を停止します。

[**DSTRACE -ALL**] - すべてのトレースのフラグがオフになります。

[**DSTRACE +DXML DSTRACE +DVRS**] - **DirXML (Identity Manager)** イベントが表示されず。

[**DSTRACE +TAGS DSTRACE +TIME**] - メッセージタグおよびタイムスタンプが表示されます。

Windows

[Control Panel (コントロールパネル)] > [NDS Services (NDS サービス)] の順に開き、DSTRACE.DLM をクリックして [Start (開始)] をクリックします。[NDS Server Trace Utility (NDS サーバトレースユーティリティ)] という名前のウィンドウが開きます。

DirXML トレース情報を取り込むようにフィルタを設定するには、[Edit (編集)] > [Option (オプション)] > [All Clear (すべてクリア)] の順にクリックするか、[DirXML and DirXML Drivers (DirXML および DirXML ドライバ)] をオンにして [OK] をクリックします。

トレース情報をファイルに保存するには、[ファイル] > [新規] の順に選択します。ファイル名の入力を促すダイアログボックスが表示されます。拡張子が .LOG のファイル名を入力します。ファイルへのトレース情報の出力を停止するには、[ファイル] > [閉じる] を選択します。ファイルが保存されます。

UNIX

コンソールで `ndstrace` コマンドを使用して、IDM イベントを表示します。トレースユーティリティを終了するには、`exit` コマンドを入力します。

[Set ndstrace=nodebug (ndstrace=nodebug に設定)] - すべてのトレースのフラグがオフになります。

[Set ndstrace on (ndstrace をオンに設定)] - トレースメッセージがコンソールに表示されます。

[Set ndstrace file on (ndstrace ファイルをオンに設定)] - /var/nds ディレクトリにある `ndstrace.log` ファイルに、トレースメッセージが出力されます。

[Set ndstrace file off (ndstrace ファイルをオフに設定)] - ログファイルへのトレースメッセージへの出力を停止します。

[Set ndstrace=+dxml (ndstrace=+dxml に設定)] - IDM イベントを表示します。

[Set ndstrace=+dvrs (ndstrace=+dvrs に設定)] - IDM ドライブイベントを表示します。

iMonitor

Web ブラウザから DSTRACE 情報を参照するには、iMonitor を使用します。

NDSIMON.NLM – NetWare

NDSIMON.DLM – Windows

`ndsmonitor` - Linux/Solaris/AIX/HP-UX

- 1 `http://server_ip:8008/nds` (デフォルトポート) から iMonitor にアクセスします。
- 2 [Trace Configuration (トレース環境設定)] をクリックします。
- 3 [Clear All (すべてクリア)] をクリックします。
- 4 [DirXML] > [DirXML ドライバ] の順に選択します。
- 5 [Trace On (トレースオン)]、[Trace History(トレース履歴)] の順にクリックします。
- 6 [Current (現在)] のドキュメントのアイコンをクリックすると、リアルタイムでトレースが表示されます。

14.4 ドライバの管理

ドライバを管理するため、Designer では、次のオプションを設定できます。

- ◆ 309 ページのセクション 14.4.1 「ドライバパラメータ」
- ◆ 310 ページのセクション 14.4.2 「ドライバのグローバル構成値」
- ◆ 310 ページのセクション 14.4.3 「ドライバマニフェスト」
- ◆ 311 ページのセクション 14.4.4 「ドライバの名前付きパスワード」
- ◆ 311 ページのセクション 14.4.5 「ドライバアイコン」
- ◆ 312 ページのセクション 14.4.6 「ドライバのログレベル」
- ◆ 313 ページのセクション 14.4.7 「ドライバトレースレベル」
- ◆ 315 ページのセクション 14.4.8 「ドライバ全般の設定」

14.4.1 ドライバパラメータ

[ドライバパラメータ] ページで、ドライバの一般的な設定の大半を設定および編集できます。

ドライバモジュール

- ◆ **Java:** ドライバのシムコンポーネントに対してインスタンス化される Java クラスの名前を指定します。このファイルは CLASSES ディレクトリ内のクラスファイルか、LIB ディレクトリ内の .JAR ファイルで見つけることができます。
- ◆ **ネイティブ:** ドライバのアプリケーションシムコンポーネントに対してインスタンス化される .DLL ファイルの名前を指定します。
- ◆ **リモートローダに接続:** リモートローダを使用してドライバをメタディレクトリエンジンに接続する場合、このオプションを指定します。
- ◆ **ドライバオブジェクトパスワード:** ドライバオブジェクトのパスワードを設定します。リモートローダを使用する場合は、このページにパスワードを入力しないと、リモートドライバが実行しません。このパスワードは、リモートローダがリモートドライバに対して自身を認証する際に使用されます。

認証オプション

アプリケーション認証の場合:

- ◆ **ユーザ ID:** アプリケーションユーザ ID を入力します。この ID は、アプリケーションにアイデンティティボールド (eDirectory) 購読情報を渡す際に使用されます。
- ◆ **接続情報:** アプリケーションシムが通信するサーバのアドレスまたは名前を入力します。

リモートローダ認証の場合:

- ◆ **ホスト名:** リモートローダを実行するコンピュータのアドレスまたは名前を指定します。たとえば、「hostname=192.168.0.1」のように指定します。ここで接続パラメータを入力しないと、デフォルトの「localhost」が使用されます。

- ◆ **ポート**：リモートローダがリモートインタフェースシムからの接続を受け入れるポートを指定します。たとえば、「port=8090」のように指定します。この接続パラメータを入力しないと、デフォルトの「8090」が使用されます。
- ◆ **リモートローダに接続**：リモートローダを使用してドライバをメタディレクトリエンジンに接続する場合、このオプションを指定します。
- ◆ **KMO**：SSL に使用したキーと証明書を含む暗号化キーオブジェクトのキー名を指定します。たとえば、「kmo=remote driver cert」のように指定します。この接続パラメータを入力しないと、このパラメータに値は保存されません。つまり、SSL に対応しなくなります。

ドライバのキャッシュ上限

最大イベントキャッシュファイルサイズ (KB) を入力するか、無制限のキャッシュサイズを指定します。

起動オプション

- ◆ **自動スタート**：メタディレクトリエンジンがロードされると、ドライバが自動的に起動します。
- ◆ **手動**：ドライバ状態で指定された場所から手動でドライバを起動する必要があります。
- ◆ **使用不可** - このオプションを選択すると、ドライバは使用できなくなります。

ドライバパラメータ

このタブでは、一般的なドライバオプションである購読者チャンネルと発行者チャンネルを入力したり、XML を編集したりできます。これらのオプションはドライバによって異なるため、完全な環境設定情報については、Web サイトに掲載されている Identity Manager のドライバマニュアルを参照してください。

14.4.2 ドライバのグローバル構成値

グローバル構成値 (GCV) は、ドライバのパラメータに似た設定です。グローバル構成値は、ドライバセットだけでなく、個々のドライバに対しても指定できます。ドライバに GCV 値がない場合、ドライバはドライバセットからその GCV の値を継承します。

GCV によって、パスワード同期やドライバハートビートなどの Identity Manager 機能の設定、および個々のドライバ環境設定の機能に固有の設定を指定できます。一部の GCV はドライバに付属していますが、ユーザが独自の GCV を追加することもできます。ポリシーでこれらの値を参照すると、ドライバ環境設定を容易にカスタマイズできます。

ドライバセットの GCV 設定を編集するには、そのドライバオブジェクトをダブルクリックします。[Global Configuration Values (グローバル構成値)] ページで、[Add (追加)]、[Edit (編集)]、[Delete (削除)]、[Edit the XML for GCVs(GCV の XML の編集)] を実行できます。

14.4.3 ドライバマニフェスト

ドライバマニフェストは、ドライバの「要約」のようなものです。ドライバのサポートする対象を示し、環境設定情報の一部も含まれます。ドライバマニフェストは、ドライバの

開発者が指定します。通常、ネットワーク管理者がドライバマニフェストを編集する必要はありません。

詳細については、Identity Manager ドライバの開発者用マニュアルを参照してください。

14.4.4 ドライバの名前付きパスワード

各ドライバに対して、複数のパスワードを安全に保存できます。この機能は、それぞれのパスワードにキー、または名前でアクセスすることから、名前付きパスワードとも呼ばれます。

名前付きパスワードは、ドライバポリシーのパスワードを名前で参照できるため有用です。ドライバはパスワードを使用する必要があるとき、メタディレクトリエンジンにパスワードを要求します。この方法により、ドライバポリシーのコード内に実際のパスワードを挿入する必要がなくなります。

次の例は、XSLT 内の購読者チャンネルのドライバポリシーで、名前付きパスワードを参照する方法を示しています。`<xsl:value-of select="query:getNamedPassword($srcQueryProcessor,'mynamedpassword')" xmlns:query="http://www.novell.com/java/com.novell.nds.dirxml.driver.XdsQueryProcessor/">`

名前付きパスワードの保存と取得は、ドライバシムを変更することなく、すべてのドライバに対して行うことができます。

名前付きパスワードを使用するほかにも、セキュリティ保護のため、アイデンティティポータル内のすべての Identity Manager オブジェクトへのアクセスを制御する必要があります。

注：ドライバ開発者は、ドライバによる名前付きパスワードの使用法をカスタマイズできます。たとえば、名前付きパスワードの検索を、ドライバがメタディレクトリエンジンに対して要求したときではなく、ドライバが起動したときに行うようにカスタマイズすることもできます。

実際に、Identity Manager Driver for Lotus Notes* のドライバは、名前付きパスワードの他の使用方法をサポートするようにカスタマイズされており、サンプルのドライバ環境設定でこれらの使用例を参照できます。詳細については、各種『Identity Manager ドライバガイド』を参照してください。

14.4.5 ドライバアイコン

Designer では、iManager 内のドライバを表すアイコンを変更できます。

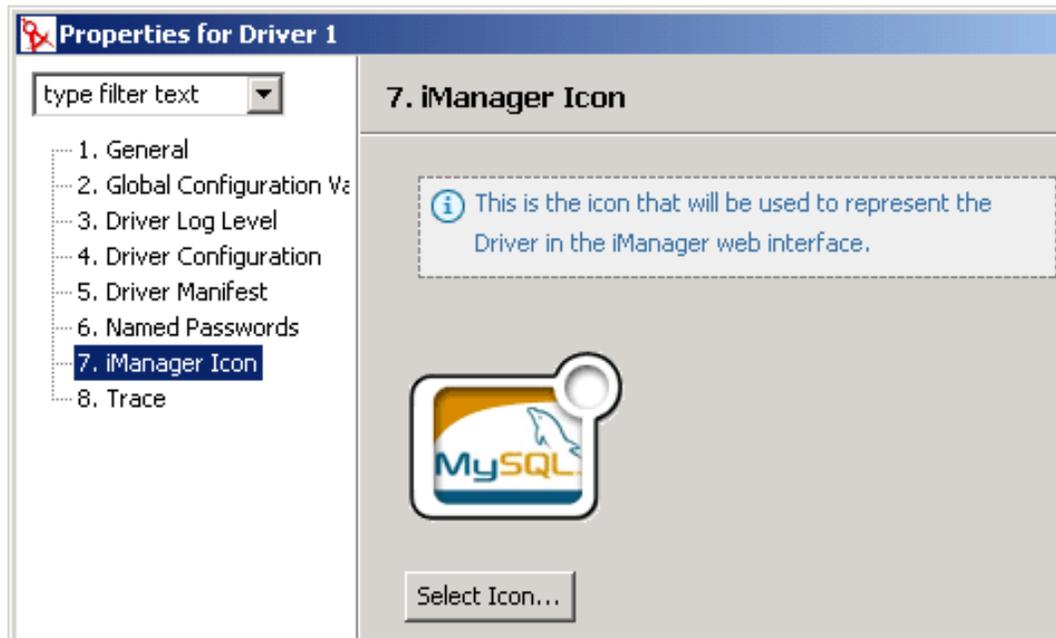
- 1 [ドライバのプロパティ] ページで、[Select Icon(アイコンの選択)] をクリックします。
- 2 新しいアイコンのグラフィックを選択して、[Open (開く)] をクリックします。
- 3 [Apply (適用)] をクリックします。

デフォルトのアイコンに戻す場合は、[Restore Defaults(デフォルトに戻す)] をクリックします。

ドライバアイコンの編集

各ドライバが使用する iManager アイコンを確認または編集できます。iManager は特別な方法でドライバアイコンを表示するので、この機能は重要です。ただし、これらのアイコンは Designer 内のどこにも表示されません。逆に、Designer のアプリケーションアイコンも iManager のユーザインタフェースには使用されません。

このギャップを埋める方法を次に示します。まず、Designer 内で使用される iManager アイコンを表示してください。



- 1 モデラでドライバ (例えば、MySQL) を右クリックし、[Properties (プロパティ)] を選択します。
- 2 [iManager Icon (iManager アイコン)] を選択します。
アイコンが表示されます。このアイコンは Designer 内のドライバに関連付けられます (ただし、別のアイコンがインポートされドライバに格納されている場合は別です)。
- 3 アイコンを変更するには、[Select Icon (アイコンの選択)] をクリックし、画像ファイルを参照し選択してから、[OK] を 2 回クリックします。次回、このドライバが展開される際には、新しいアイコンが eDirectory 内に設定され、iManager によって使用されます。

14.4.6 ドライバのログレベル

各ドライバセットとドライバにはログレベルフィールドがあります。このフィールドで、追跡するエラーレベルを定義できます。ここで指定するレベルによって、ログに記録されるメッセージの種類が決まります。デフォルトでは、エラーメッセージ (致命的エラーも含む) を記録するように設定されています。他のタイプのメッセージも追跡する場合は、ログレベルを変更してください。ログレベルを設定または変更するには、ドライバセット

をダブルクリックして、メニューから [Driver Set Log Level (ドライバセットのログレベル)] を選択します。次のオプションがあります。

- ◆ エラーを記録する
- ◆ エラーと警告を記録する
- ◆ 特定のイベントを記録する (記録するイベントを選択するには、[event selector(イベント選択)] ボタンをクリックします)
- ◆ 最終ログ時刻のみを更新
- ◆ ログへの記録をオフにする

ログのエントリ数 (50 ~ 500) も指定できます。

14.4.7 ドライバトレースレベル

モデラを使用すると、ドライバにトレースレベルを追加できます。DSTRACE は、設定されたトレースレベルに応じて、エンジンが処理した Identity Manager (DirXML) イベントを表示します。トレースレベルは、そのレベルが設定されたドライバのみに適用されます。展開時にドライバで発生した問題をトラブルシューティングするためのトレースレベルを指定してください。DSTRACE は、指定されたトレースレベルの出力を表示します。

各トレースフィールドの意味は次のとおりです。

フィールド	説明
Use setting from Driver Set (ドライバセットの設定を使用する)	このボックスをオンにすると、ドライバセットレベルで設定されたすべてのトレースレベルが、個々のドライバの設定よりも優先されます。 このボックスをオフにすると、ドライバレベルの設定が有効になります。
Trace Level (トレースレベル)	ドライバのトレースレベルを上げると、DSTRACE に表示される情報量が増えます。 トレースレベル 1 を指定するとエラーは表示されますが、エラーの原因は表示されません。パスワード同期の情報を表示するには、トレースレベルを 5 に設定します。
XSL トレースレベル	DSTRACE では、XSL イベントが表示されます。このトレースレベルは、XSL スタイルシートのトラブルシューティング時のみ設定します。XSL 情報を表示しない場合は、レベルをゼロに設定します。
Java* デバッグポート	開発者は Java デバッグをアタッチできます。
Java トレースファイル	このフィールドの値が設定されている場合、ドライバのすべての Java 情報がファイルに書き込まれます。このフィールドの値は、そのファイルのパスです。 ファイルを指定すると、Java 情報がこのファイルに書き込まれます。Java をデバッグする必要がない場合は、このフィールドを空白のままにします。
トレースファイルのサイズ制限	Java トレースファイルの制限を設定できます。ファイルサイズを無制限に設定した場合、ディスクスペースがなくなるまでファイルサイズが増加します。

NetWare

システムコンソールにトレースメッセージを表示したり、ファイル (SYS:\SYSTEM\DSTRACE.LOG) にトレースメッセージを出力したりするには、DSTRACE.NLM を使用します。DSTRACE.NLM により、[DSTRACE Console (DSTRACE コンソール)] 画面にトレースメッセージが表示されます。

サーバコンソールで次のコマンドを入力します。

[DSTRACE SCREEN ON] - [DSTRACE Console (DSTRACE コンソール)] 画面にトレースメッセージが表示されます。

[DSTRACE FILE ON] - [DSTRACE Console (DSTRACE コンソール)] に送信されたトレースメッセージを捕捉して、DSTRACE.LOG に出力します。

[DSTRACE FILE OFF] - ログファイルへのトレースメッセージへの出力を停止します。

[DSTRACE -ALL] - すべてのトレースのフラグがオフになります。

[DSTRACE +DXML DSTRACE +DVRS] - DirXML (Identity Manager) イベントが表示されません。

[DSTRACE +TAGS DSTRACE +TIME] - メッセージタグおよびタイムスタンプが表示されます。

Windows

[コントロールパネル] > [NDS Services (NDS サービス)] の順に開き、DSTRACE.DLM をクリックして [開始] をクリックします。[NDS Server Trace Utility (NDS サーバトレースユーティリティ)] という名前のウィンドウが開きます。

DirXML トレース情報を取り込むようにフィルタを設定するには、[Edit (編集)] > [Option (オプション)] > [All Clear (すべてクリア)] の順にクリックするか、[DirXML and DirXML Drivers (DirXML および DirXML ドライバ)] をオンにして [OK] をクリックします。

トレース情報をファイルに保存するには、[ファイル] > [新規] の順に選択します。ファイル名の入力を促すダイアログボックスが表示されます。拡張子が .LOG のファイル名を入力します。ファイルへのトレース情報の出力を停止するには、[ファイル] > [閉じる] を選択します。ファイルが保存されます。

UNIX

コンソールで `ndstrace` コマンドを使用して、IDM イベントを表示します。トレースユーティリティを終了するには、`exit` コマンドを入力します。

[Set ndstrace=nodebug (ndstrace=nodebug に設定)] - すべてのトレースのフラグがオフになります。

[Set ndstrace on (ndstrace をオンに設定)] - トレースメッセージがコンソールに表示されません。

[Set ndstrace file on (ndstrace ファイルをオンに設定)] - /var/nds ディレクトリにある `ndstrace.log` ファイルに、トレースメッセージが出力されます。

[Set ndstrace file off (ndstrace ファイルをオフに設定)] - ログファイルへのトレースメッセージへの出力を停止します。

[Set ndstrace=+dxml (ndstrace=+dxml に設定)] - IDM イベントを表示します。

[Set ndstrace=+dvrs (ndstrace=+dvrs に設定)] - IDM ドライバイベントを表示します。

iMonitor

Web ブラウザから DSTRACE 情報を参照するには、iMonitor を使用します。

NDSIMON.NLM - NetWare

NDSIMON.DLM - Windows

ndsmonitor - Linux/Solaris/AIX/HP-UX

- 1 http://server_ip:8008/nds (デフォルトポート) から iMonitor にアクセスします。
- 2 [Trace Configuration (トレース環境設定)] をクリックします。
- 3 [Clear All (すべてクリア)] をクリックします。
- 4 [DirXML] > [DirXML Drivers (DirXML ドライバ)] の順に選択します。
- 5 [Trace On (トレースオン)]、[Trace History (トレース履歴)] の順にクリックします。
- 6 [Current (現在)] のドキュメントのアイコンをクリックすると、リアルタイムでトレースが表示されます。

14.4.8 ドライバ全般の設定

このページでは、ドライバの名前を変更したり、ドライバの実装に関するメモを入力したりできます。

14.4.9 ドキュメント生成用リモートローダクライアント環境設定の追加

Designer には、ドキュメント生成機能が用意されています。生成するドキュメントに、さまざまなドライバリモートローダクライアント環境設定に関する情報を取り込むことができます。

この情報をドキュメントに取り込むには、ドライバオブジェクトを右クリックして、[Documentation (ドキュメント)] を選択します。[グローバル構成値] ページで、リモートローダ環境設定情報の追加、編集、削除を実行できます。

新しい環境設定情報を追加するには、[New (新規)] をクリックして、次の情報を指定します。

- ◆ **Name (名前):** リモートローダクライアント環境設定の名前を指定します。
- ◆ **IP Address (IP アドレス):** リモートローダがメタディレクトリサーバからの接続をリッスンする IP アドレスを指定します。
- ◆ **Connection Port (接続ポート):** メタディレクトリサーバ。リモートローダがメタディレクトリサーバからの接続をリッスンする TCP ポートを指定します。この接続のデフォルトの TCP/IP ポートは 8090 です。新しいインスタンスを作成するたびに、デフォルトのポート番号が自動的に 1 つずつ増えます。

- ◆ **Command Port (コマンドポート):** Local Host Communication Only (ローカルホスト通信のみ): リモートローダが Stop や Change Trace Level などのコマンドをリッスンする TCP ポート番号を指定します。特定のコンピュータ上で実行されるリモートローダの各インスタンスには、異なるコマンドポート番号を設定する必要があります。デフォルトのコマンドポートは 8000 です。新しいインスタンスを作成するたびに、デフォルトのポート番号が自動的に 1 つずつ増えます。
- ◆ **Use Secure Socket Link (SSL) Connection (Secure Socket Link (SSL) 接続の使用):** SSL 接続を指定する場合は、このオプションを選択します。
- ◆ **Trusted Root File (信頼するルートファイル):** 適切な信頼するルート証明書が入っている証明書ファイルを参照し、選択します。
- ◆ **Trace Level (トレースレベル):** リモートローダインスタンスがリモートローダとドライバの両方からの情報メッセージを含むトレースウィンドウを表示するには、ゼロよりも大きいトレースレベルを設定します。最も一般的なトレースレベルは 3 です。トレースレベルを 0 に設定すると、トレースウィンドウが表示されないか、またはトレースウィンドウにメッセージが表示されません。
- ◆ **Trace File (トレースファイル):** トレースメッセージを書き込むトレースファイル名を指定します。特定のマシンで実行しているリモートローダの各インスタンスには、個別のトレースファイルを使用する必要があります。トレースメッセージは、トレースレベルがゼロよりも大きい場合にだけトレースファイルに書き込まれます。
- ◆ **トレースファイルの最大サイズ (MB):** ディスク上で、このインスタンスのトレースファイルデータに使用できる最大サイズ (MB) を指定するか、[Unlimited(無制限)] を選択します。

[OK] をクリックして、プロジェクトドキュメント用のリモートローダクライアント環境設定を保存します。

14.5 アプリケーションプロパティの設定

モデラで、アプリケーションアイコンをダブルクリックします。アプリケーションの環境設定用オプションが表示されます。

このページでは、ドライバが接続するアプリケーションの種類を変更できます。MySQL データベースに接続するように JDBC ドライバを設定した後、データベースを Oracle に移行することになった場合などに、ここで変更を指定します。[General (全般)] オプションで、アプリケーションの種類を選択し、[Apply (適用)] または [OK] をクリックしてください。

アプリケーション環境に関する追加メモやアプリケーション管理者の連絡先情報も入力できます。

- ◆ 317 ページのセクション 15.1 「Web ブラウザを開く」
- ◆ 318 ページのセクション 15.2 「iManager の起動」
- ◆ 318 ページのセクション 15.3 「プロジェクトの検査」
- ◆ 327 ページのセクション 15.4 「ディレクトリオブジェクトの管理」
- ◆ 331 ページのセクション 15.5 「アプリケーションとリソースのリモート制御」
- ◆ 334 ページのセクション 15.6 「ドライバおよびアプリケーション用のアイコンのカスタマイズ」
- ◆ 340 ページのセクション 15.7 「Designer の更新」

ワークスペース、パースペクティブ、ビューの管理については、103 ページの第 7 章「プロジェクトの管理」を参照してください。

15.1 Web ブラウザを開く

Web ブラウザは Designer を使用して開くことができます。[Web ブラウザ] ボタンはメインツールバーにあります。

ブラウザを初回に起動した際、ホームページの入力を促すメッセージが表示されます。ここで URL を入力すると、それが初期設定に保存されます。

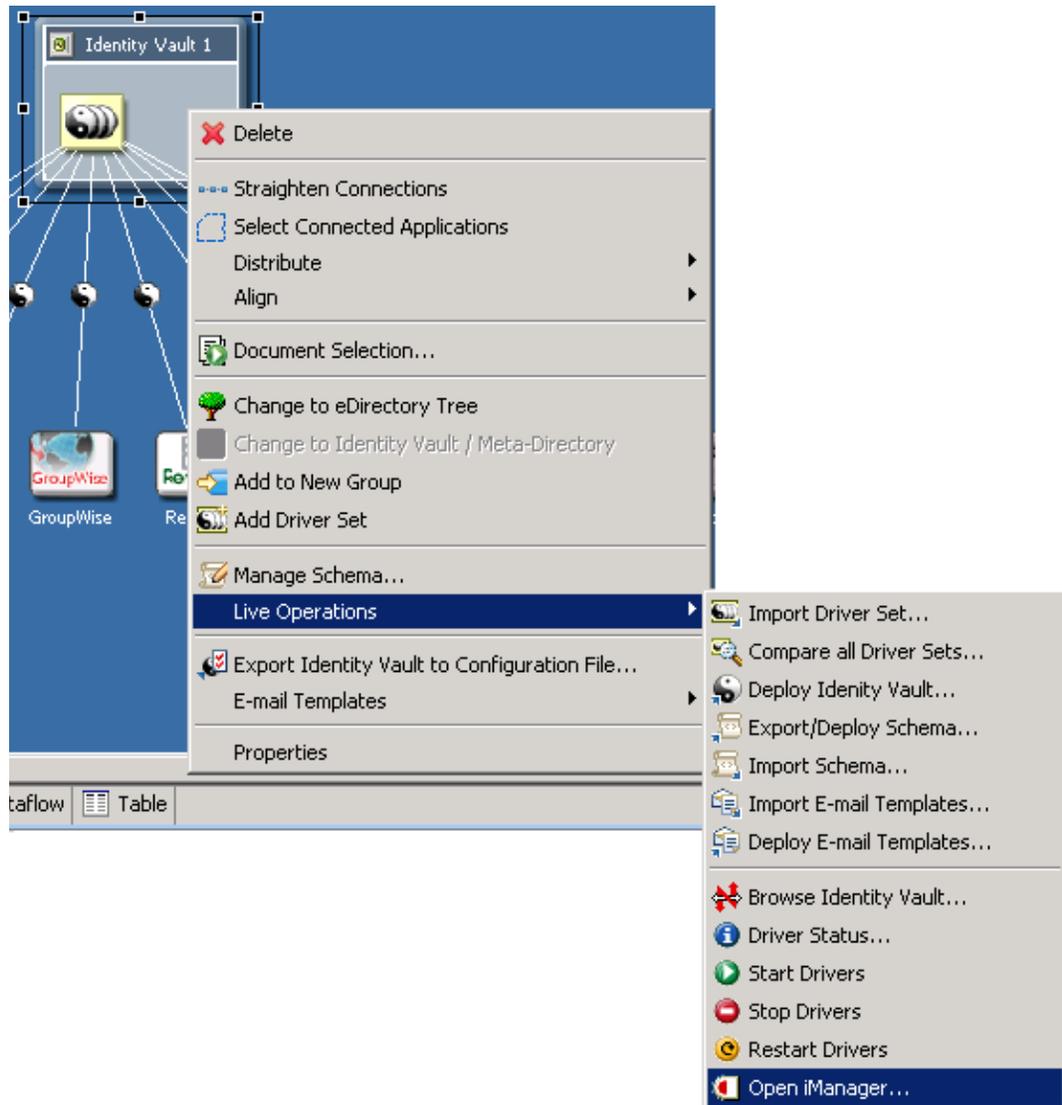
この URL を変更するには：

1. [Window (ウィンドウ)] > [Preferences (初期設定)] の順に選択します。
2. [Designer for IDM] > [Browser (ブラウザ)] の順に選択します。
3. 新しい URL を入力して、[OK] をクリックします。

15.2 iManager の起動

Designer 内から iManager を起動するには：

1. アイデンティティボールドを右クリックして、[Live Operations (ライブ操作)] を選択します。



2. [Open iManager(iManager を開く)] を選択します。
3. 資格情報を入力します。
入力した資格情報は履歴に保管され、以降の起動時に使用されます。
4. [OK] をクリックします。

15.3 プロジェクトの検査

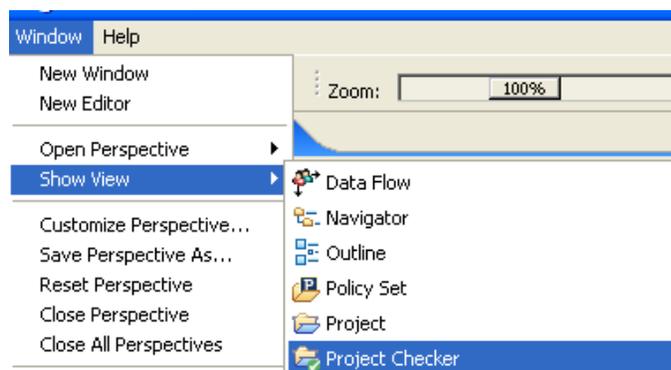
Designer には、プロジェクトを検査するための [Project Checker (プロジェクトチェッカー)] ツールが用意されています。プロジェクトはいつでも検査できますが、それには

プロジェクトを展開する前に Project Checker (プロジェクトチェッカー) を起動しておく必要があります。Project Checker (プロジェクトチェッカー) は、設計の妥当性、コンテキスト、サーバの関連付け、ポリシー、ユーザデータの不足を検査します。また、プロジェクトのアイデンティティボールドへの展開を失敗させる原因となるような依存性の問題も検査します。Project Checker (プロジェクトチェッカー) は、Designer 内のオブジェクトだけを検査します。アイデンティティボールド内の現在のオブジェクトは検査されません。

- ◆ 319 ページのセクション 15.3.1 「プロジェクトの検査方法」
- ◆ 322 ページのセクション 15.3.2 「Project Checker (プロジェクトチェッカー) のカスタマイズ」
- ◆ 324 ページのセクション 15.3.3 「検査される項目」

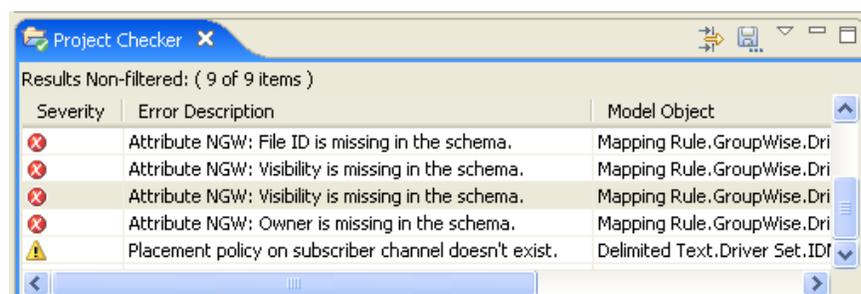
15.3.1 プロジェクトの検査方法

- 1 モデラまたは [Project (プロジェクト)] ウィンドウでプロジェクトを選択します。
- 2 [Window (ウィンドウ)] > [Show View (ビューの表示)] > [Project Checker (プロジェクトチェッカー)] の順にクリックします。



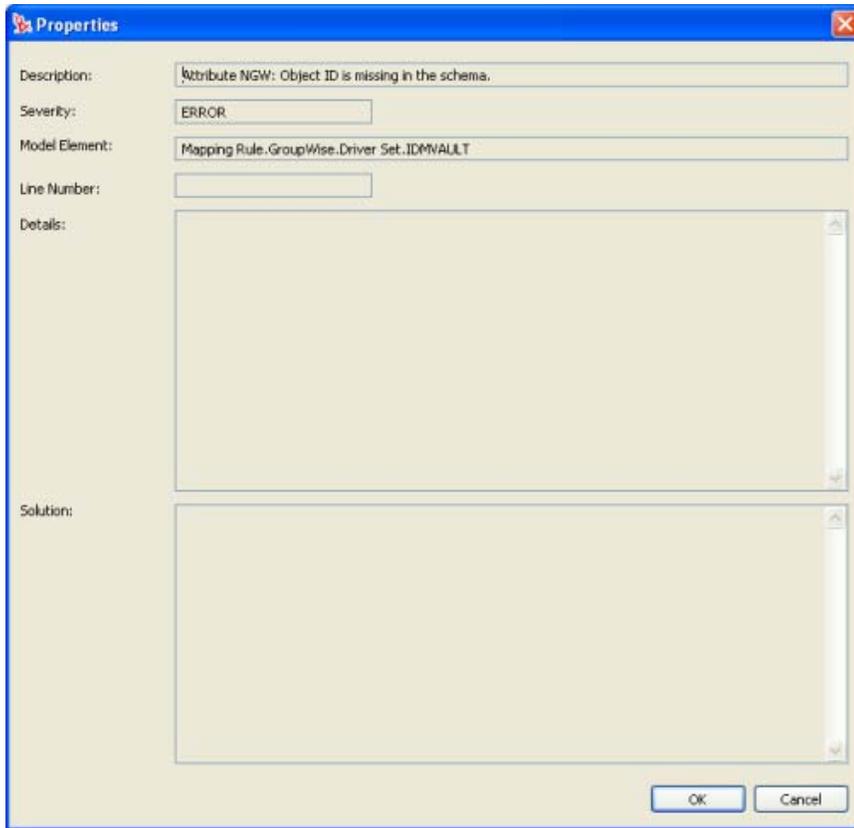
新しいビューに Project Checker (プロジェクトチェッカー) が表示されます。

図 15-1 Project Checker (プロジェクトチェッカー)



Project Checker (プロジェクトチェッカー)には、プロジェクトのエラー、警告、情報メッセージが表示されます。項目をダブルクリックすると、詳細を確認できます。

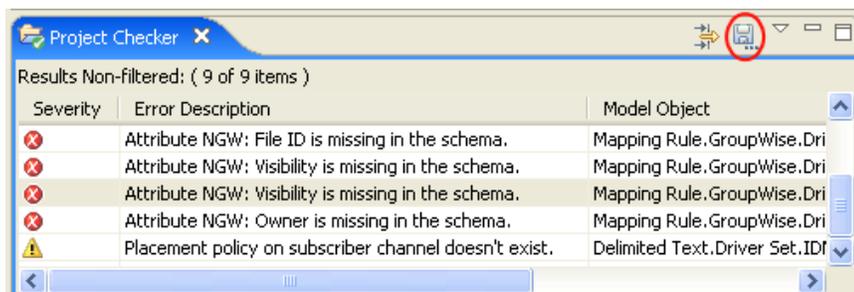
図 15-2 項目の詳細



展開されたビューには、メッセージの説明、重大度、エラーの原因となったオブジェクトが一覧表示されます。行番号が振られている場合は、問題の発生した行番号が一覧表示されます。エラーの解決方法が分かっている場合は、それもリストされます。

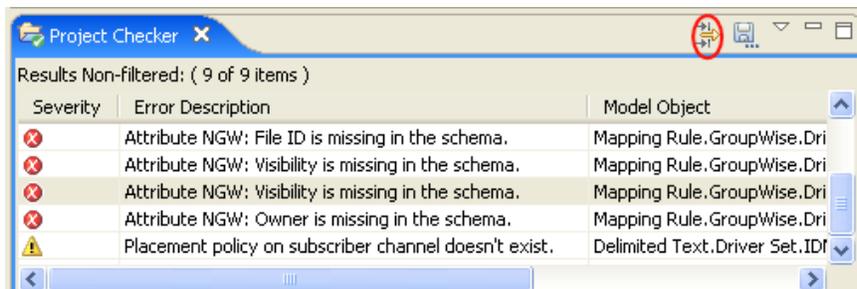
検査結果はファイルに保存できます。ファイルの場所を参照してファイル名とファイルの種類を指定し、[Save (保存)] をクリックしてください。

図 15-3 Project Checker (プロジェクトチェッカー)による検査結果の保存



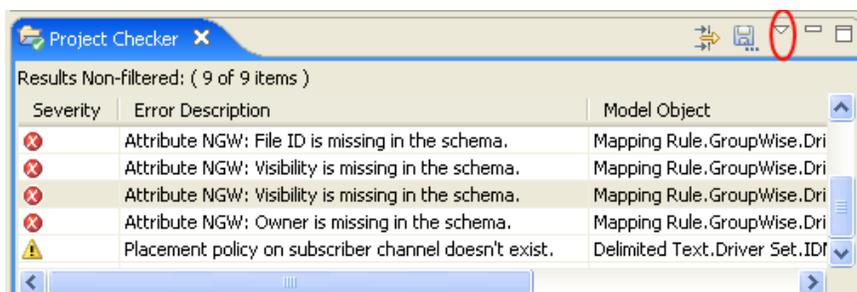
[Configure Filters (フィルタの設定)] アイコンを使用して、検査対象のオブジェクトのタイプをカスタマイズできます。詳細については、322 ページの「Project Checker (プロジェクトチェッカー)のカスタマイズ」を参照してください。

図 15-4 フィルタの設定



Project Checker (プロジェクトチェッカー) では、メッセージを階層形式またはフラット形式で表示できます。また、表示されるオブジェクト固有のメッセージを制限することもできます。その他オプションについては、[メニュー] アイコンをクリックしてください。

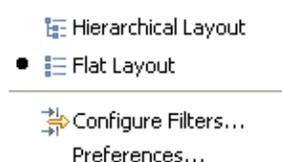
図 15-5 ビューの変更



ドロップダウンメニューには次のオプションがあります。

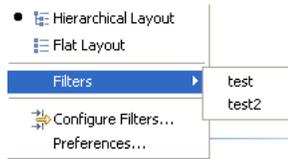
- ◆ [Hierarchical Layout (階層型レイアウト)] : 「Identity Manager and Provisioning (Identity Manager とプロビジョニング)」という見出しでメッセージが表示されます。
- ◆ [Flat Layout (フラットレイアウト)] : すべてのメッセージを階層構造なしで表示します。
- ◆ [Configure Filters (フィルタの設定)] : 検査対象のオブジェクトをカスタマイズできます。
- ◆ [Configure Filters (初期設定)] : 表示されるメッセージ数を制限します。デフォルトは 100 項目です。
- ◆ [Filters (フィルタ)] : フィルタを作成している場合は、[Filter (フィルタ)] オプションが表示されます。表示する内容をフィルタで選択できます。

図 15-6 ビュー



または

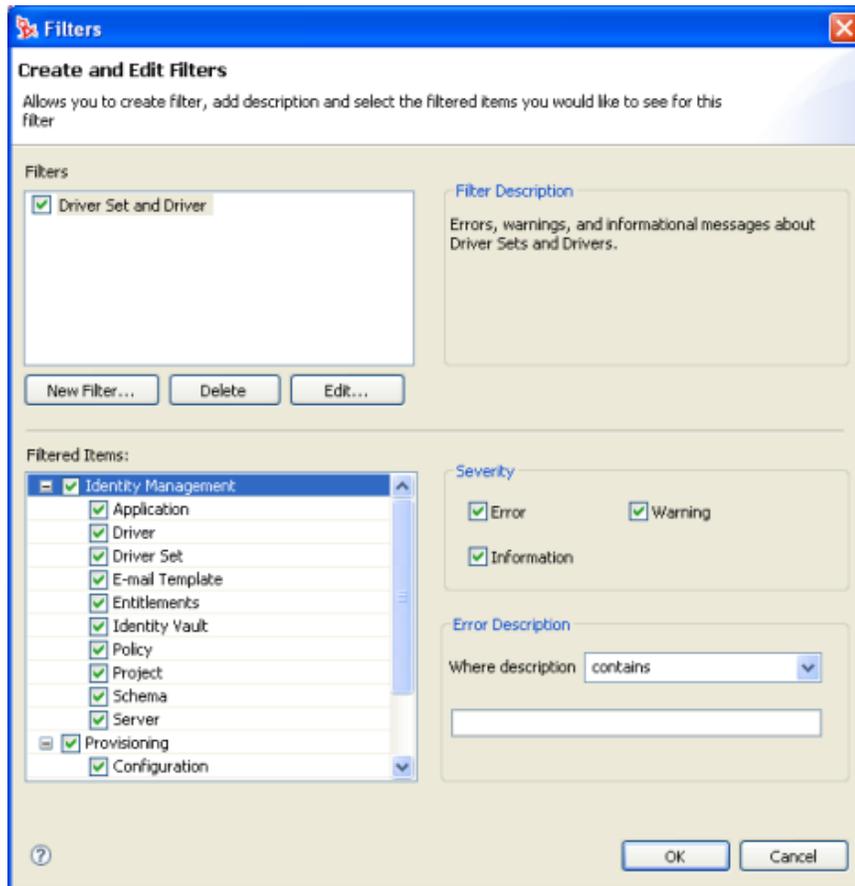
図 15-7 フィルタを使用したビュー



15.3.2 Project Checker (プロジェクトチェッカー)のカスタマイズ

Project Checker (プロジェクトチェッカー)は、フィルタを作成および編集することで、カスタマイズできます。フィルタを使用すると、検査する項目に関するメッセージを受信できます。複数のフィルタを作成することはできませんが、一度に使用できるフィルタは1つだけです。

図 15-8 Project Checker (プロジェクトチェッカー)のカスタマイズ

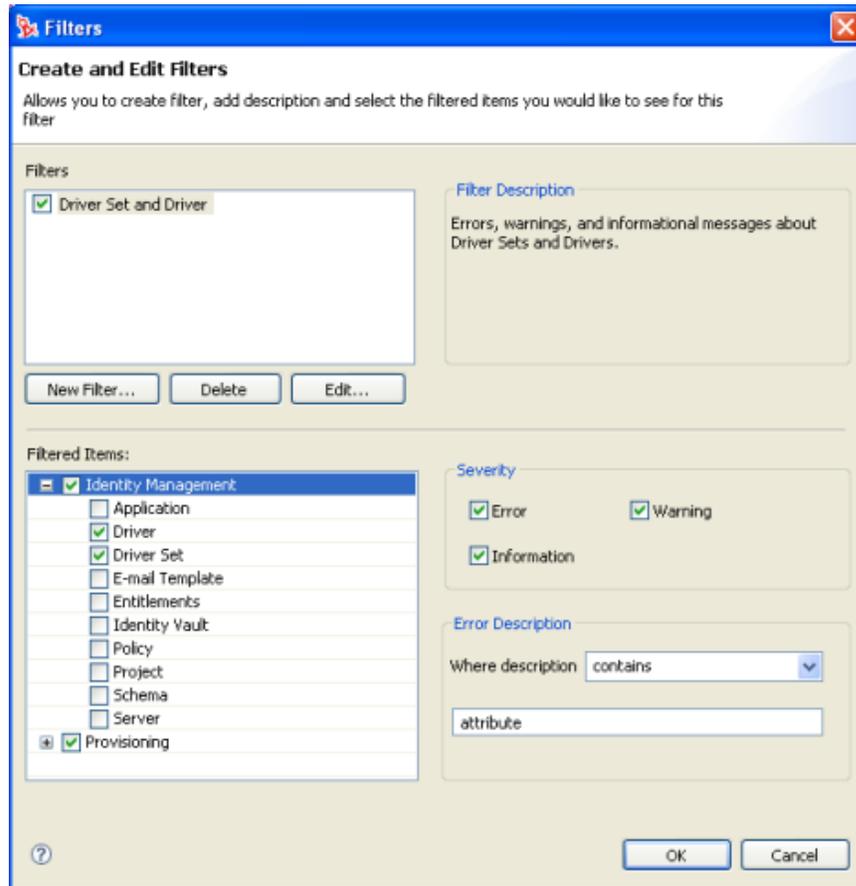


フィルタを作成するには：

- 1 Project Checker (プロジェクトチェッカー)で、[Configure Filters (フィルタの設定)]アイコンをクリックします。

- 2 [New Filter (新規フィルタ)] をクリックします。
- 3 フィルタの名前と説明を指定します。
- 4 フィルタの詳細を指定します。

検査する項目、その項目に関して返すメッセージの種類を選択できます。また、キーワードを使用して、返すメッセージを制限することもできます。例えば、「attribute」という語を含むドライバセットおよびドライバに関するすべてのメッセージを検索するには、次のように指定します。



- 5 [OK] をクリックします。

フィルタの名前と説明を編集するには：

- 1 フィルタを選択してから、[Edit (編集)] をクリックします。
- 2 編集を終えたら、[OK] をクリックします。

フィルタを削除するには：

- 1 フィルタを選択してから、[Delete (削除)] をクリックします。

15.3.3 検査される項目

Project Checker (プロジェクトチェッカー) は、プロジェクト内の特定の項目を検索します。ユーザアプリケーション内の項目のほか、Identity Manager の項目も検査します。次の表に示す項目は、Designer が新しくリリースされるたびに追加されます。

表 15-1 検査される Identity Manager の項目

項目	説明
アプリケーション	

項目	説明
ドライバ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ スキーママッピングポリシーが存在するかどうかをチェックします。 ◆ 無効な Active Directory[*] コンテナが存在していないかを確認します。 ◆ トレースレベルの設定をチェックします。0 より大きい値を設定すると、情報メッセージが表示されます。 ◆ eDirectory ドライバの代わりに LoopBack ドライバを使用しているかどうかを確認します。 ◆ GUID 属性が、購読者チャンネルで同期するように設定されていることを確認します。 ◆ GUID 属性が、発行者チャンネルで同期するように設定されていないことを確認します。 ◆ 発行者チャンネルおよび購読者チャンネルのクラスが [Ignore (無視)] に設定されていることをチェックし、かつそれらのクラスの属性が [Synchronize (同期)] に設定されていないことを確認します。 ◆ フィルタが存在するかどうかをチェックし、存在する場合は空でないことを確認します。 ◆ 発行者配置ポリシーに [set operation destination DN (操作ターゲット DN の設定)] または [set xml attribute (XML 属性の設定)] 操作が含まれていないことを確認します。 ◆ 発行者配置ポリシーが存在するかどうかを確認します。 ◆ 発行者チャンネル上のどのポリシーも [set operation destination DN (操作ターゲット DN の設定)] または [set xml attribute (XML 属性の設定)] 操作を含まないことを確認します。 ◆ 購読者配置ポリシーに [set operation destination DN (操作ターゲット DN の設定)] または [set xml attribute (XML 属性の設定)] 操作が含まれていないことを確認します。 ◆ 購読者配置ポリシーが欠落していないかチェックします。 ◆ 購読者チャンネル上のどのポリシーも [set operation destination DN (操作ターゲット DN の設定)] または [set xml attribute (XML 属性の設定)] 操作を含まないことを確認します。 ◆ nspmDistributionPassword 属性と公開鍵 - 秘密鍵のペア属性が、特定のユーザクラス内に同時に存在しないことを確認します。 ◆ パスワードを同期するとき、Active Directory 上の認証メソッドが [Negotiate (ネゴシエーション)] に設定されていることを確認します。 ◆ フィルタに無効なデータがないかチェックします。 ◆ ドライバが、NDS[®] パスワードと配布パスワードの両方を発行しているかどうかを確認します。その場合は、無効な設定です。 ◆ パスワード同期が有効になっている場合に、フィルタ内のユーザクラスに nspmDistributionPassword 属性が存在するかどうかを確認します。 ◆ パスワード同期が有効になっている場合に、nspmDistributionPassword 属性が [sync (同期)] または [notify (通知)] に設定されていることを確認します。
ドライバセット	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ドライバセットオブジェクトの展開コンテキストが設定されていることを確認します。 ◆ サーバオブジェクトがドライバセットオブジェクトに関連付けられていることを確認します。

項目	説明
電子メールテンプレート	電子メールテンプレートが空かどうかをチェックします。
エンタイトルメント	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ドライバがエンタイトルメントをサポートしているかどうかをチェックします。 ◆ ドライバ内にエンタイトルメントを使用したポリシーが存在するとき、購読者チャンネルに DirXML-EntitlementRef 属性が追加されているかどうかを確認します。エンタイトルメントが機能するには、DirXML-EntitlementRef が [Notify (通知)] または [Synchronize (同期)] に設定されていなければなりません。
アイデンティティポータル	<ul style="list-style-type: none"> ◆ アイデンティティポータルを認証するユーザ名が欠落していないかチェックします。 ◆ アイデンティティポータルサーバのホスト名が欠落していないかチェックします。 ◆ ユーザのパスワードがプロジェクト内に格納されていないかチェックします。
ポリシー	ポリシー内にグローバル構成値が存在する場合、これらの構成値がドライバまたはドライバセットオブジェクト上に存在することを確認します。
プロジェクト	
スキーマ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ スキーマからクラスが欠落していないかチェックします。 ◆ スキーマから属性が欠落していないかチェックします。 ◆ スキーマからクラスの属性が欠落していないかチェックします。
サーバ	

表 15-2 検査されるプロビジョニング項目

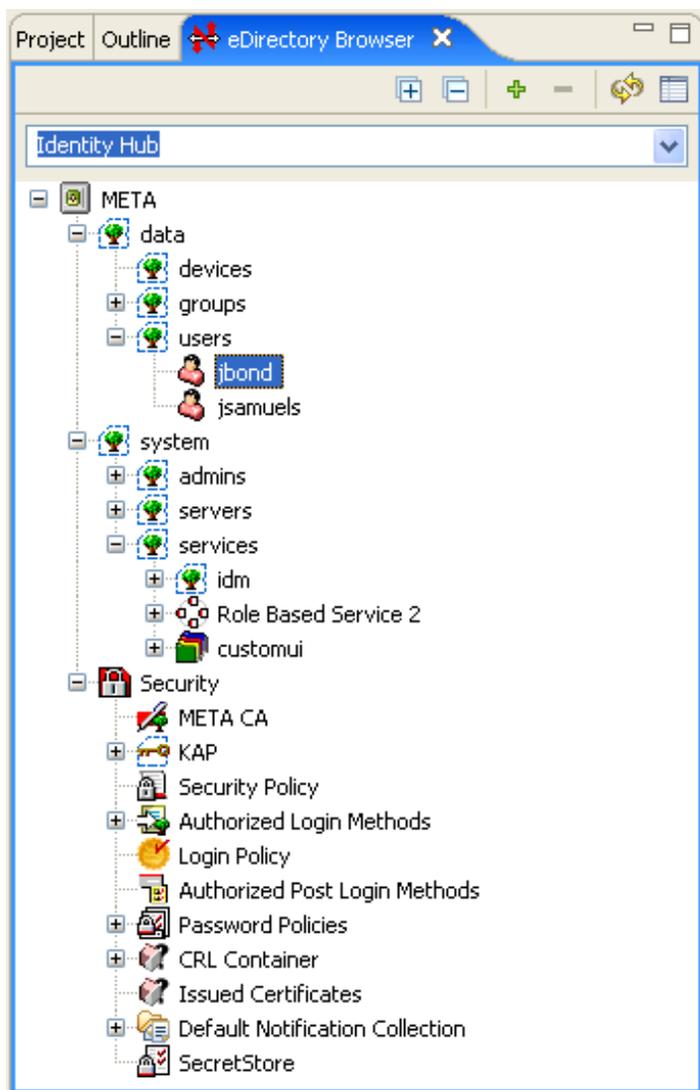
項目	説明
Configuration (環境設定)	XML の形式が正しく、エンティティ、属性、リスト、関係などに必要な要素を定義するスキーマに準拠しているか検証します。
Entity (エンティティ)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ すべてのエンティティを確認し、他のエンティティやグローバルリストへの参照が有効であることを確認します。 ◆ 各エンティティに属性が少なくとも1つ定義されていることを確認します。
List (リスト)	各ローカルリストおよびグローバルリストに項目が少なくとも1つ含まれていることを確認します。
Org Chart Relationship (組織図の関係)	
Provisioning Request Definition (プロビジョニング要求定義)	

15.4 ディレクトリオブジェクトの管理

時に、プロジェクトの開発中にオブジェクトを検索または変更しなければならないことがあります。そのような場合は、個別の管理インターフェースを使用するのではなく、eDirectory Object Manager を使用して、次のオブジェクトの属性を参照し編集できます。

- ◆ アイデンティティポータル
- ◆ その他の eDirectory ツリー

図 15-9 eDirectory Object Manager のビュー (例)



eDirectory Object Manager を起動するには、ツールベース方式またはタスクベース方式があります。どちらの方式を使用するかは、おおかた好みの問題ですが、参照するターゲットディレクトリにもよっても異なります。

- ◆ [328 ページのセクション 15.4.1 「ツールベース方式」](#)
- ◆ [329 ページのセクション 15.4.2 「タスクベース方式」](#)

15.4.1 ツールベース方式

アイデンティティボールド以外の eDirectory ツリーにアクセスする場合、または現在のプロジェクトにアイデンティティボールドが定義されていない場合は、ツールベース方式を使用します。[ツール] メニューからは、モデラでアイデンティティボールドを選択していない場合も含めて、常に eDirectory Object Manager (eDirectory オブジェクトマネージャ) を起動できます。

アクセス可能な eDirectory ツリーを参照するには、[Tools (ツール)] > [eDirectory Object Manager (eDirectory オブジェクトマネージャ)] の順に選択します。

- 1 [Tools (ツール)] > [eDirectory Object Manager (eDirectory オブジェクトマネージャ)] の順に選択します。

空の [eDirectory Browser (eDirectory ブラウザ)] ウィンドウが開きます。このウィンドウで参照するディレクトリを指定できます。

- 2 適切なディレクトリ資格情報 (ホスト名、ユーザ名、パスワード) を入力します。

eDirectory オブジェクトブラウザのツールバー

図 15-10 eDirectory オブジェクトブラウザのツールバー



各アイコンの機能は (左から順に) 次のとおりです。

Expand All (すべて展開)。現在選択されているツリー内のすべてのコンテナを展開します。

重要 : オブジェクトツリーが大量に存在する場合、この処理には時間がかかる可能性があります。

Collapse All (すべて縮小)。現在選択されているツリー内で展開されているすべてのコンテナを縮小表示します。

Add Tree (ツリーを追加)。新しいカスタムツリーを追加します。追加したツリーはセッションが変わっても維持されます。

Remove Tree (ツリーを削除)。[Add Tree (ツリーを追加)] 操作で追加したツリーを削除します。自動的に検出されたツリーは削除できません。

Refresh (更新)。現在アクティブなツリーの表示を更新します。

Properties (プロパティ)。オブジェクトのプロパティを表示します。

展開状態と選択状態は、ツリーごとにセッションが変わっても維持されます。

15.4.2 タスクベース方式

eDirectory Object Manager を使用して現在のプロジェクト内のアイデンティティボールドを参照するには、次の操作を実行します。

- 1 [Live (ライブ)] > [Browse Identity Vault (アイデンティティボールドの参照)] の順に選択します。

アイデンティティボールドを右クリックして [Live (ライブ)] > [Browse Identity Vault (アイデンティティボールドの参照)] を選択するか、[モデル] > [Identity Vault (アイデンティティボールド)] > [Browse Identity Vault (アイデンティティボールドの参照)] の順に選択しても同じ結果になります。

- 2 オブジェクトを参照して選択します。

eDirectory Object Manager によって次の処理が自動的に実行されます。

- ◆ アイデンティティボールドディレクトリの資格情報 (ホスト名、ユーザ名、パスワード) をフィールドに設定します。
- ◆ アイデンティティボールドディレクトリ構造を表示します。

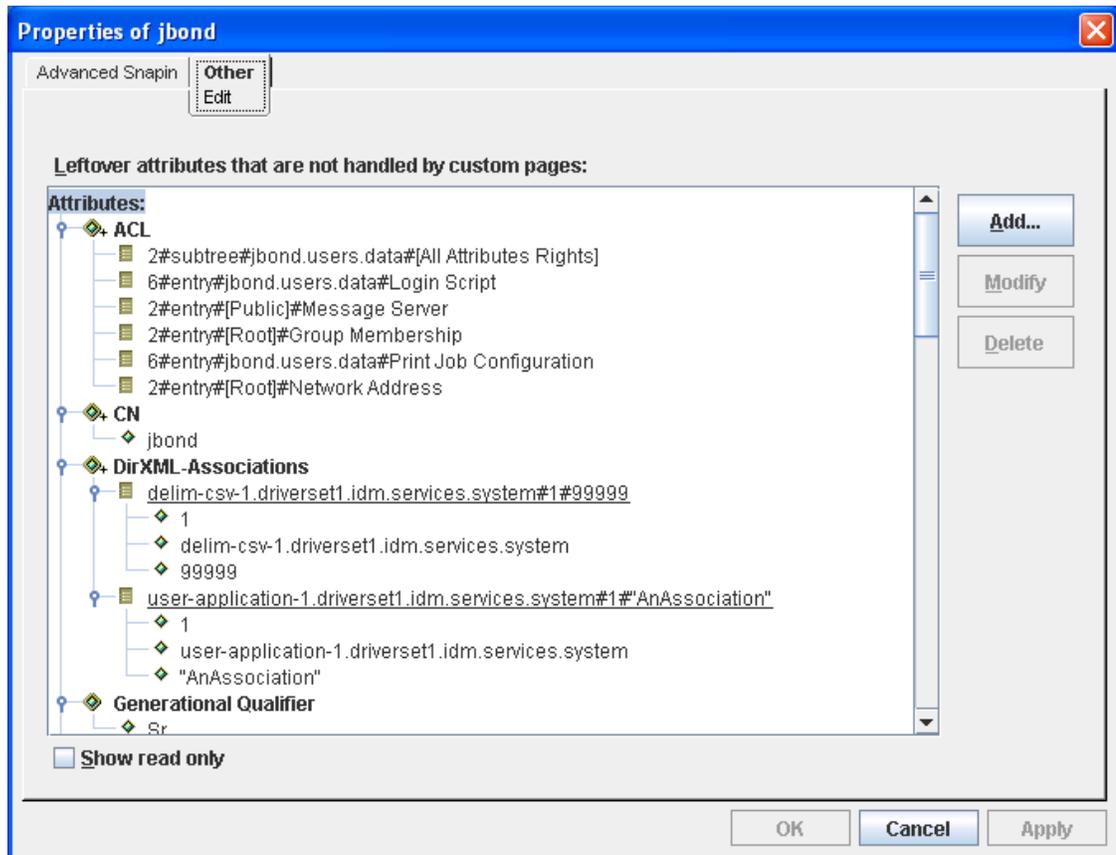
15.4.3 eDirectory Object Manager の使用

eDirectory Object Manager に 1 つ以上のディレクトリを設定したら、ディレクトリツリーを参照して特定のオブジェクトを選択し、オブジェクトの属性を表示および変更できます。

表 15-3 変更可能なオブジェクト

オブジェクト	説明
Container Object (コンテナオブジェクト)	<p>ダブルクリックすると、縮小表示されているコンテナは展開され、展開表示されているコンテナは縮小されます。</p> <p>右クリックして [Properties (プロパティ)] を選択すると、オブジェクトの属性のページが開きます。</p> <p>オブジェクトを選択し、eDirectory Object Manager ペインの最上部のアクションバーにあるそのオブジェクトのアイコンの [Open (開く)] プロパティをクリックします。</p>
Leaf Object (リーフオブジェクト)	<p>ダブルクリックする (または右クリックして [Properties (プロパティ)] を選択する) と、そのオブジェクトの [属性] ページが開きます。</p> <p>オブジェクトを選択し、eDirectory Object Manager ペインの最上部のアクションバーにあるそのオブジェクトのアイコンの [Open (開く)] プロパティをクリックします。</p>

図 15-11 eDirectory Object Manager の属性リスト



15.4.4 高度な編集

図 15-12 高度なオブジェクトエディタ

Properties of jbond

Advanced Snapin | Other |
My second snap-in

Given Name:
James

Last Name:
Bond

Full Name:
James Bond

Account: disabled

Password Expires:
July 6, 2006 7:04:00 PM MDT

Description:
My name is Bond; James Bond.

Photo:

Groups:
00-Agents.groups.data

[1/1] Add Delete

eMail:
007@mi6.uk

Phone:
222-222-2222

Fax:
444-444-4444

Pager:
555-555-5555

mobile:
333-333-3333

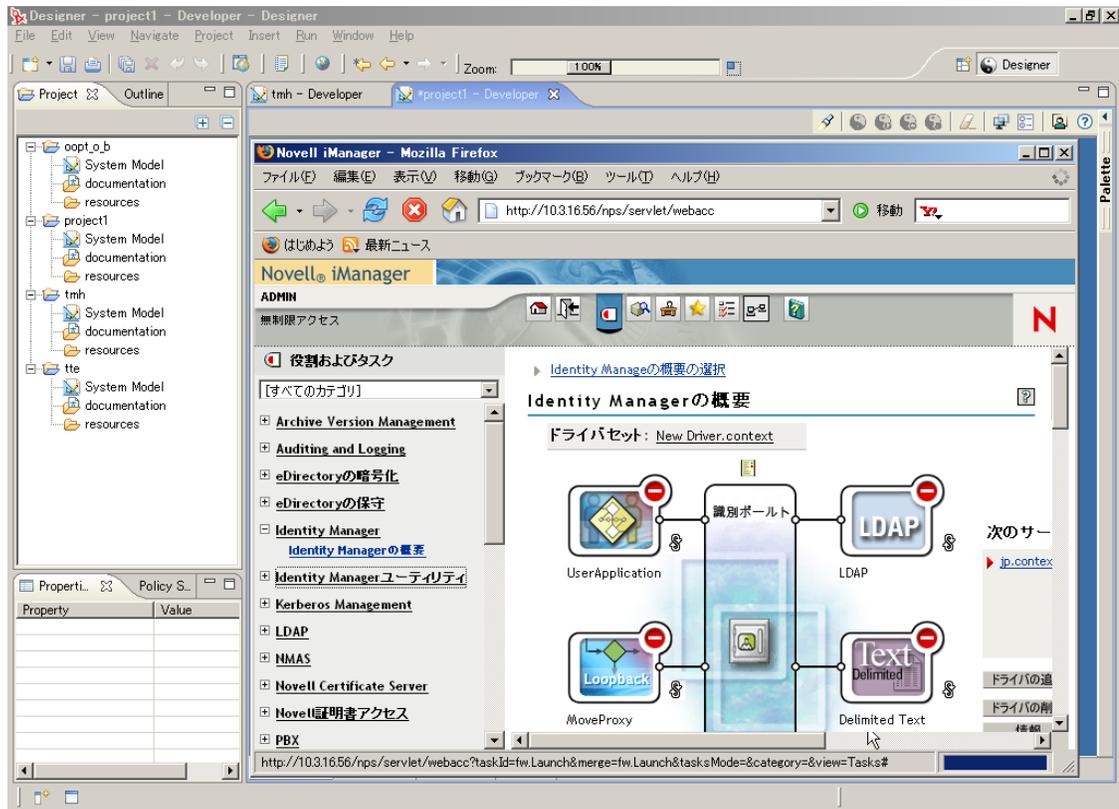
OK Cancel Apply

15.5 アプリケーションとリソースのリモート制御

Designer 内からアプリケーションを実行しているコンピュータのデスクトップを表示し、そのデスクトップと対話してリモート制御できます。この機能を使用すると、リモートシステム固有のツールを使用して、ユーザとアプリケーションを一箇所から集中管理できます。

この機能は、Designer の組み込みエディタによって提供されます。異なるコンピュータに対して、複数のリモート制御セッションを同時に開くことができます。

図 15-13 リモートデスクトップ



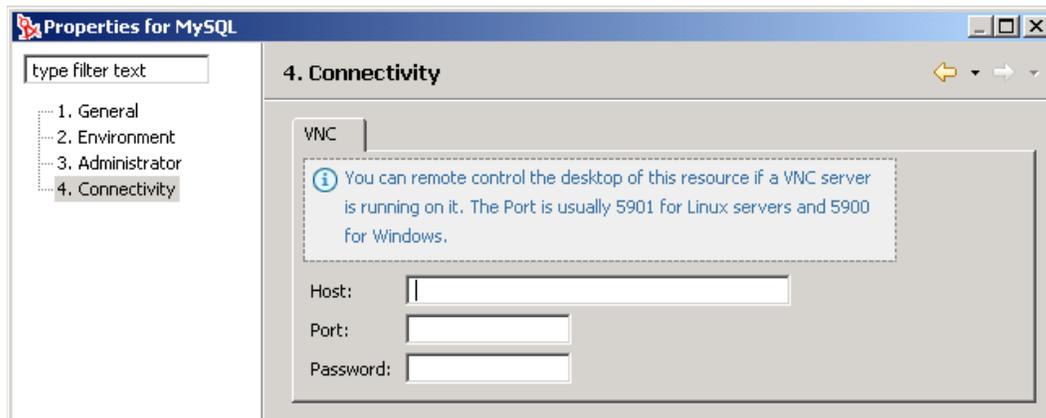
15.5.1 リモート接続の設定

デスクトップをリモート制御するには、アプリケーションを実行しているコンピュータで VNC サーバがインストールおよび起動されている必要があります。VNC サーバは通常、インターネットから無償でダウンロードできます。

アプリケーションまたはリソースを編集することで、容易に Designer 内の任意のシステムまたはリソースでこの機能を使えるように設定できます。

- 1 アプリケーションまたはリソースを右クリックします。

2 [Properties (プロパティ)] > [Connectivity(接続性)] の順に選択します。



3 [VNC] タブで、認証情報を入力します。

15.5.2 ビューアのカスタマイズ

デスクトップビューアの最上部のツールバーで、次の項目を設定できます。

- ◆ エンコーディングタイプ (RAW、RRE、CoRRE、Hextile、Zlib、Tight)
デフォルトは「Tight」です。
- ◆ 圧縮レベル
- ◆ JPEG 画質 (0-9)
デフォルトは6です。
- ◆ カーソル形状の更新
デフォルトは「有効」です。
- ◆ CopyRect の使用
デフォルトは「はい」です。
- ◆ マウスボタン2および3
デフォルトは「標準」です。
- ◆ 表示のみ
デフォルトは「いいえ」です。これによりデスクトップと対話できます。
- ◆ クリップボード
- ◆ セッションを記録しファイルに保存
- ◆ <Ctrl>+<Alt>+<Delete> の送信
- ◆ 更新。

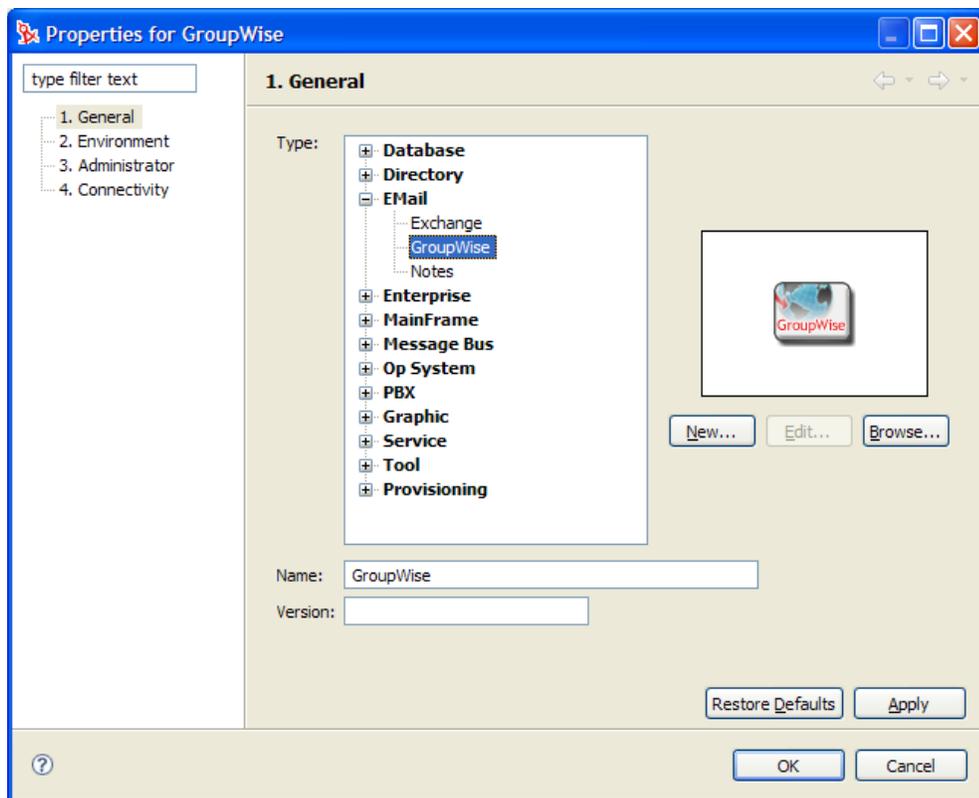
詳細については、TightVNCのマニュアルを参照してください。

15.6 ドライバおよびアプリケーション用のアイコンのカスタマイズ

アイコンエディタを使用すると、ドライバおよびアプリケーション用のアイコンをカスタマイズできます。定義済みのテンプレートや画像にラベルを付けたり、背景の画像や色、およびオーバーレイ画像を選択したりできます。数分もあれば、自社が実装したドライバやアプリケーション用に、会社のロゴや名前が入ったカスタムブランドのアイコンを作成できます。

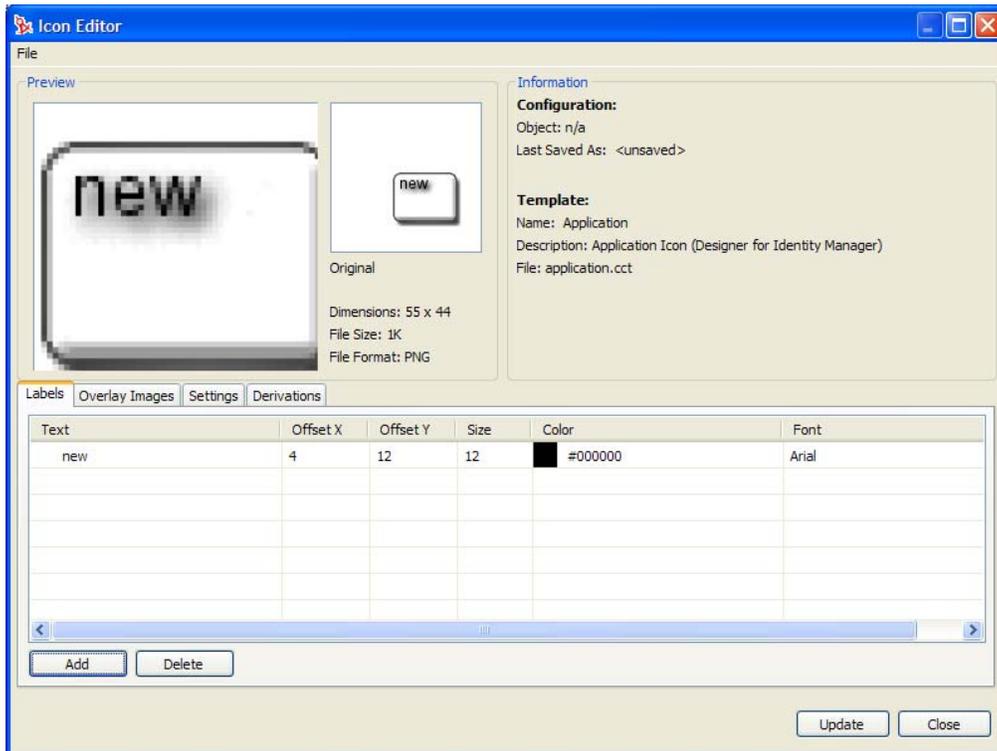
15.6.1 新しいアイコンの作成

- 1 モデラ内で、アプリケーションを開くか、ドライバのプロパティページを開きます。
[オブジェクトのプロパティ] ダイアログボックスにデフォルトのアイコンが表示されます。



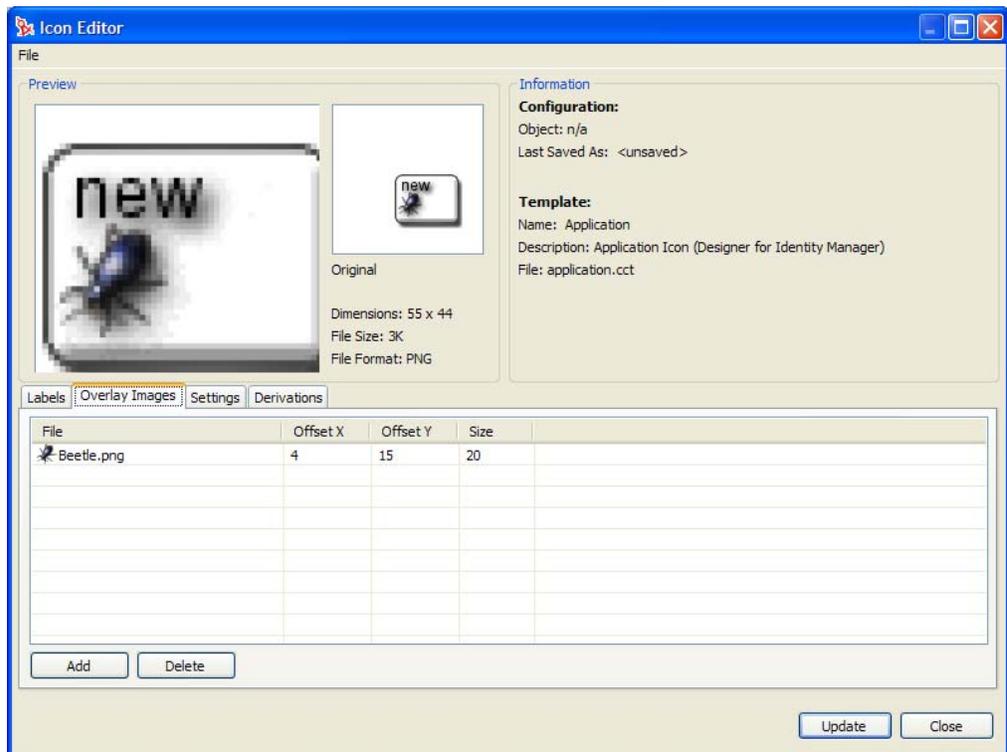
- 2 [New (新規作成)] をクリックして、新しいアイコンを作成します。

- 2a アイコンのラベル用テキストを入力するには、[Label (ラベル)] を選択して、[Add (追加)] をクリックします。

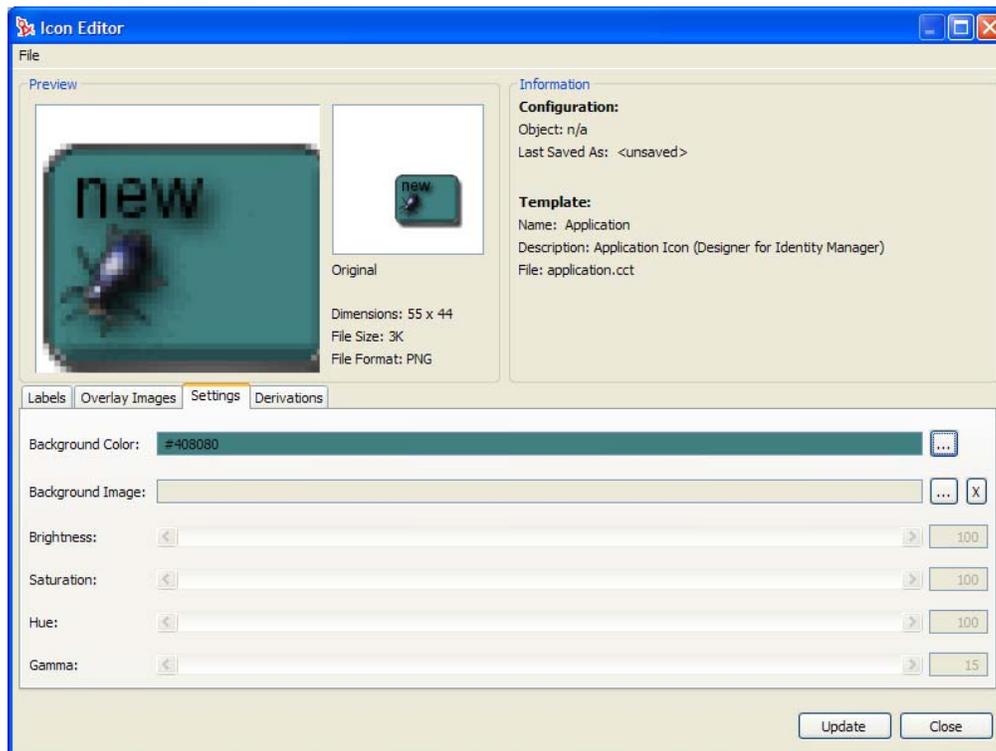


新しいラベルが表示され編集できる状態になります。ラベルを編集したり、オフセット X とオフセット Y で配置を制御したり、フォントサイズ、フォントの種類、色を編集したりできます。

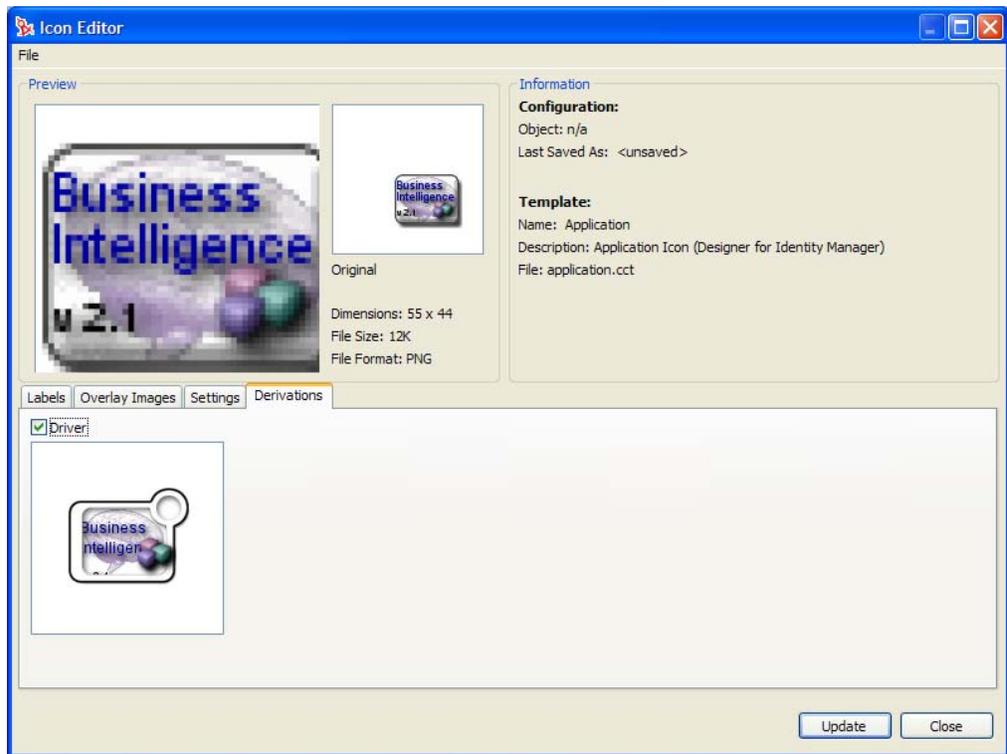
- 2b アイコンにオーバーレイ画像を追加するには、[Overlay Images (オーバーレイ画像)] を選択して、[Add (追加)] をクリックします。ドロップダウンリストで使用する画像を選択します。



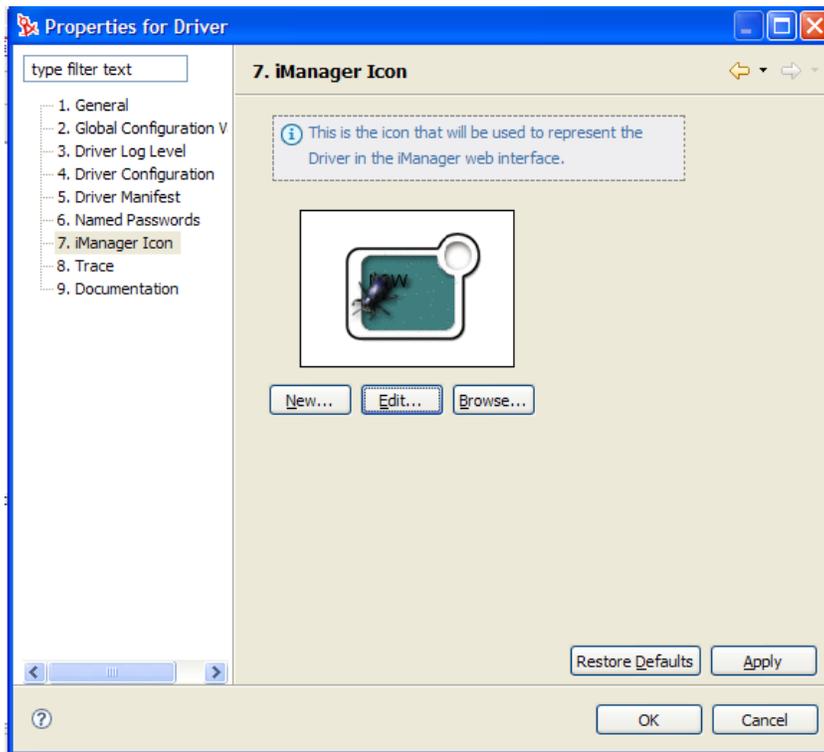
- 2c アイコンに背景色または背景画を追加するには、[Settings (設定)] を選択します。



- 2d iManager 用に同じアイコンを作成するには、[Derivations (派生)] を選択してから、[Driver (ドライバ)] または [Application (アプリケーション)] をクリックします。



これで、アイコンがドライバまたはアプリケーションの iManager プロパティに転送されます ([Driver Properties (ドライバのプロパティ)] > [(iManager Icon) iManager アイコン] を参照)。

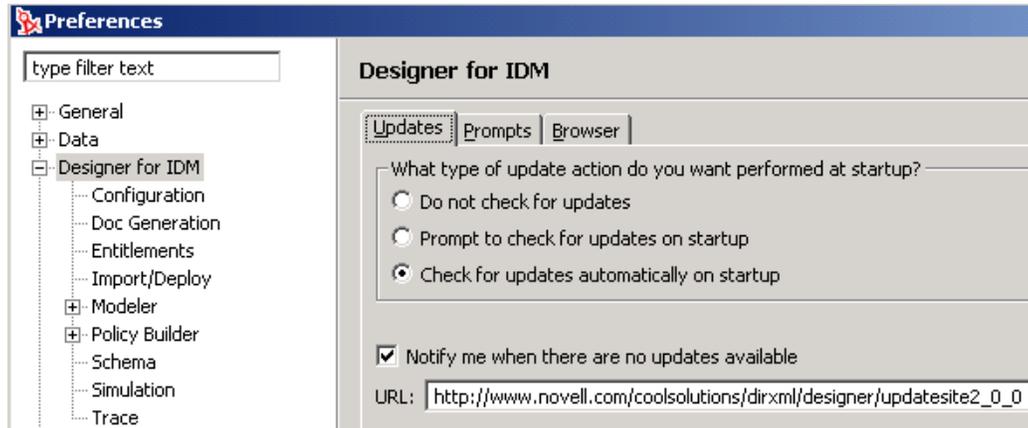


3 アイコンの編集が完了したら、[Update (更新)] をクリックします。

15.7 Designer の更新

Designer を起動すると、更新の方法を確認するメッセージが表示されます。この設定は、[Preferences (初期設定)] で変更できます。

図 15-14 [Update (更新)] タブ



Designer を自動更新を無効にしている場合は、[Help (ヘルプ)] メニューまたは [Welcome (ようこそ)] 画面から更新を入手します。

[Help (ヘルプ)] メニューからの更新

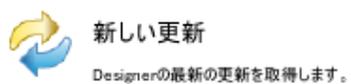
- 1 [Help (ヘルプ)] > [Check for Designer Updates (Designer の更新チェック)] の順にクリックします。
 - ◆ お持ちの Designer が最新バージョンの場合は、更新の必要がないことを知らせるメッセージが表示されます。
 - ◆ そうでない場合は、更新可能なコンポーネントが一覧表示されます。更新するコンポーネントを選択して、[OK] をクリックします。
 - ◆ Designer 1.2 をインストールする前に Eclipse のバージョンを更新する必要がある場合は、ダイアログボックスに表示された URL をクリックしてください。Designer のダウンロードサイトにリンクします。
- 2 更新を選択して、[OK] をクリックします。

[Welcome (ようこそ)] ページからの更新

- 1 [Help (ヘルプ)] > [Welcome (ようこそ)] の順にクリックします。
- 2 [New (新規)] アイコンをクリックします。



3 [New Updates (新規更新)] をクリックします。



4 メッセージに従って、最新の Designer をダウンロードおよびインストールします。

Document Generator (ドキュメントジェネレータ) を使用すると、Designer プロジェクトのカスタマイズされたドキュメントを迅速に生成できます。これらのドキュメントを使用することで、ドライバの仕様と実装の収集および記述に要する数週間あるいは数ヶ月にわたる作業を簡略化できます。ドキュメントを生成するには、ドキュメントスタイル (Designer 付属のデフォルトのスタイルまたはユーザがカスタマイズしたスタイル) と Designer プロジェクト全体またはその一部を選択します。ドキュメント機能は、選択されたスタイルの情報と構造にプロジェクトの情報を組み合わせて、カスタマイズされたプロジェクトドキュメントを生成します。

ドキュメントの生成は、次の3つの手順からなる簡単な処理です。

- ◆ 343 ページのセクション 16.1 「ドキュメントスタイルの作成」
- ◆ 358 ページのセクション 16.2 「スタイルのセクションのカスタマイズ」
- ◆ 359 ページのセクション 16.3 「ドキュメントの生成」

参照：

- ◆ 363 ページのセクション 16.4 「ドキュメントスタイルの高度な編集」
- ◆ 379 ページのセクション 16.5 「ドキュメント生成時に発生する問題のトラブルシューティング」

16.1 ドキュメントスタイルの作成

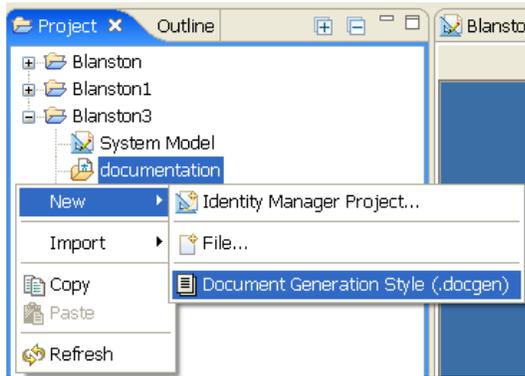
ドキュメントスタイルには、プロジェクトに関する情報の表示方法を定義できます。わずかな時間で、プロジェクトに配置したすべての要素を含むドキュメントを生成し、それらの情報の表示方法を指定するドキュメントスタイルを定義できます。

- ◆ 343 ページのセクション 16.1.1 「ドキュメントスタイルの作成」
- ◆ 347 ページのセクション 16.1.2 「スタイルとプロジェクトのさまざまな組み合わせ」

16.1.1 ドキュメントスタイルの作成

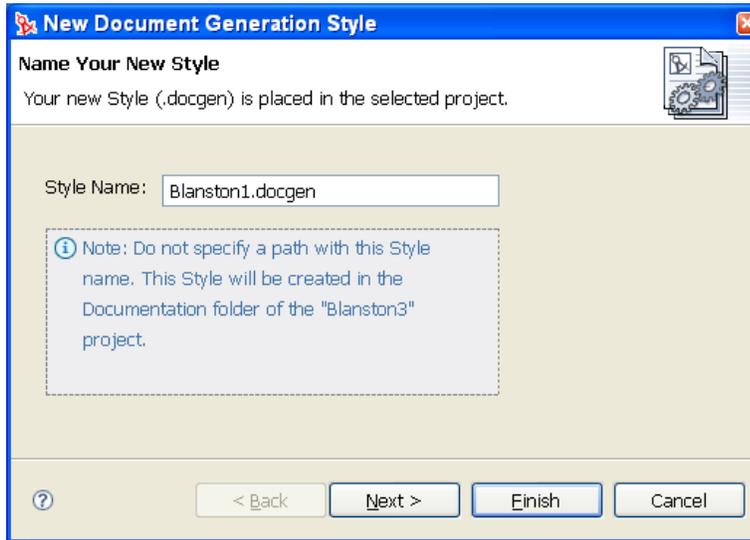
- 1 [Project (プロジェクト)] ビューでプロジェクトを選択し、[Documentation (ドキュメント)] アイコンを右クリックします。

- 2 [New (新規)] > [Document Generation Style (ドキュメント生成スタイル (.docgen))]
の順にクリックします。



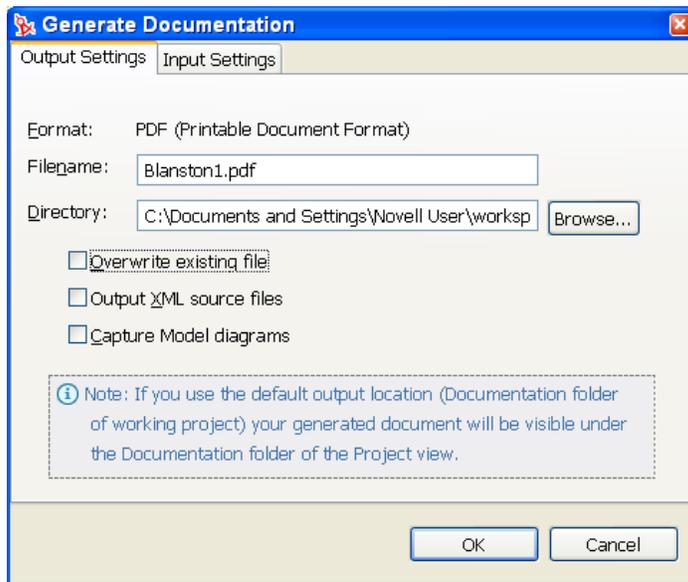
ドキュメント生成スタイル (.docgen) は、Designer 付属のデフォルトのスタイルです。

- 3 スタイルの名前 (拡張子は .docgen) を指定するか、デフォルト名のままで、[Finish (完了)] をクリックします。



.docgen ファイルが作成されます。このファイルは、ユーザ独自のスタイルテンプレートを設計するための基礎として使用できます。.docgen テンプレートは、変更できるように [スタイルエディタ] ビュー内に置かれます (「スタイルのカスタマイズ」を参照)。新規スタイルテンプレート内の定義済み要素は繰り返し使用できます。

- 4 .docgen ファイルを作成し、自分のニーズに合わせて変更したら、Documentation フォルダ内の .docgen ファイルを右クリックして、[Generate Doc for this Style (このスタイルのドキュメントを生成)] を選択します。

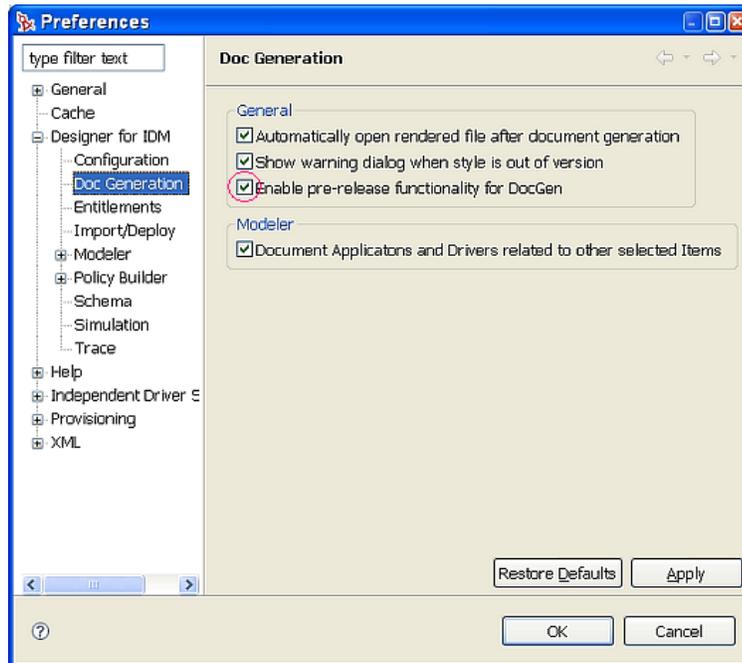


- ◆ 既存の .pdf ファイルを上書きする場合は、[Overwrite existing file (既存ファイルを上書き)] チェックボックスをオンにします。
 - ◆ XML ソースファイルを確認するには、[Output XML source files (XML ソースファイルを出力)] チェックボックスをオンにします。
 - ◆ モデル図を PDF ファイルに取り込むには、[Capture Model diagrams (モデル図の取り込み)] チェックボックスをオンにします。
- 5 [OK] をクリックするとドキュメントが生成されます。

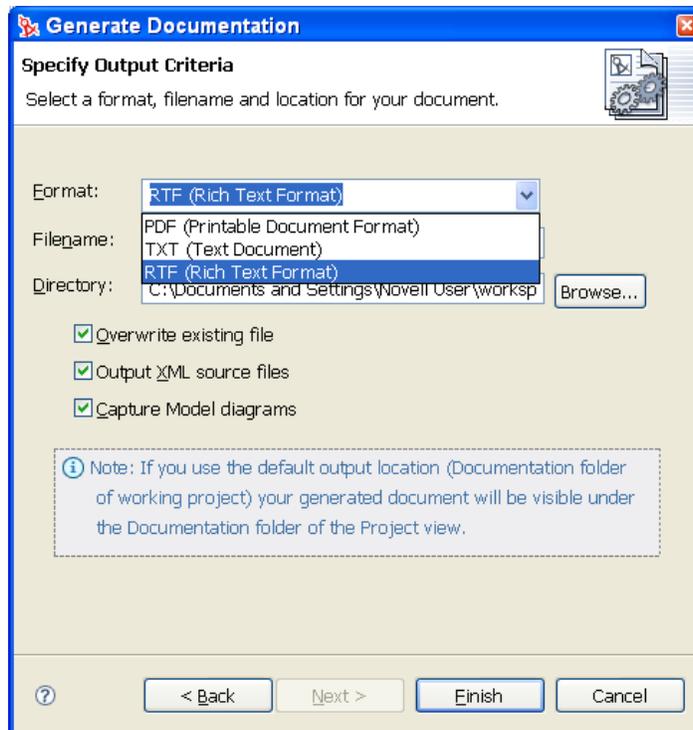
設計した要素の特定部分についてのみ記述した部分的なドキュメントを作成することもできます。具体的な方法については、348 ページの「スタイルの一部の文書化」を参照してください。

- 6 今リリースの Designer には、ドキュメントを RTF (リッチテキスト形式) で出力する機能が含まれています。これはまだ正式な機能ではありませんが、使用できます。[Window (ウィンドウ)] > [Preferences (初期設定)] をクリックして、[Preferences (

初期設定) ウィンドウを開きます。続いて、[Designer for IDM] にある [Doc Generation (ドキュメントの生成)] を選択してください。



[Enable pre-release functionality for DocGen (DocGen のプレリリース機能を有効にする)] を選択すると、ドキュメント生成時に RTF 形式を選択できます。



16.1.2 スタイルとプロジェクトのさまざまな組み合わせ

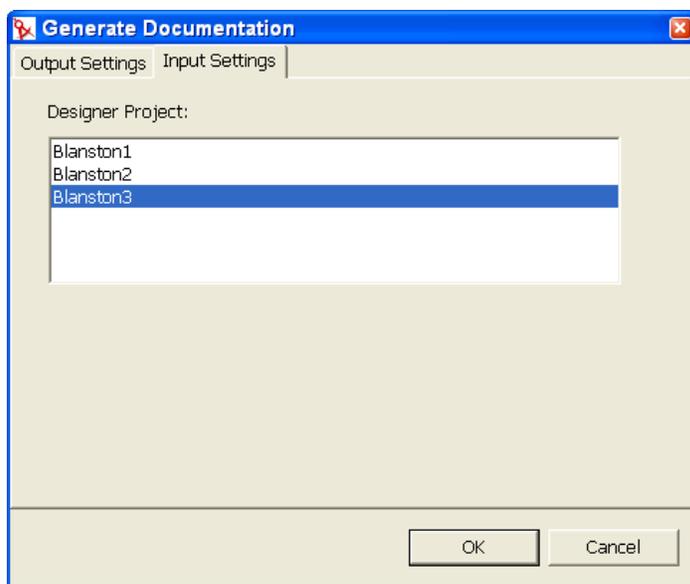
プロジェクトのドキュメント生成には、Designer 付属のデフォルトのスタイルまたはユーザがカスタマイズしたスタイルを使用できます。

たとえば、Blanston2 というスタイルを作成したとします。スタイル Blanston2 を自分の用途に合わせてカスタマイズし、[343 ページのセクション 16.1.1 「ドキュメントスタイルの作成」](#)で説明した手順に従って、Documentation フォルダに Blanston2.docgen という名前で保存します。このスタイルを使用して、Blanston2 プロジェクトまたはその他のプロジェクトのドキュメントを作成できます。

- ◆ [347 ページの「スタイルから開始してプロジェクトを選択」](#)
- ◆ [348 ページの「プロジェクトから開始してスタイルを選択」](#)
- ◆ [348 ページの「スタイルの一部の文書化」](#)
- ◆ [349 ページの「生成するセクションの作成」](#)

スタイルから開始してプロジェクトを選択

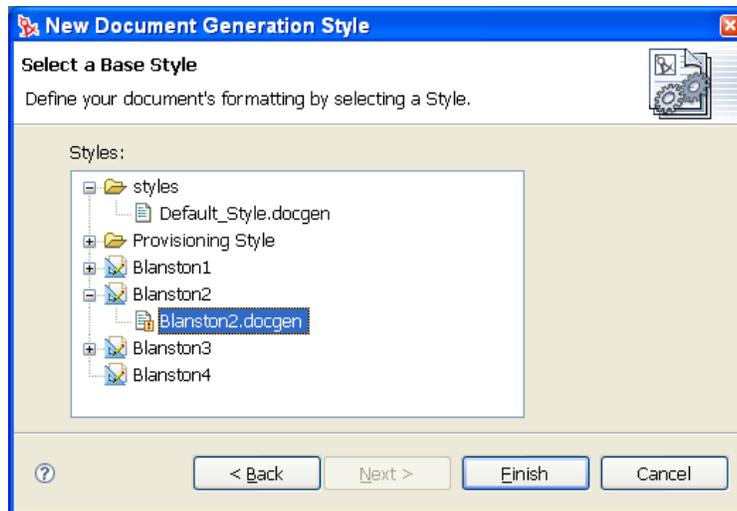
- 1 [Project (プロジェクト)] ビューで Blanston2 プロジェクトを開き、Documentation フォルダの Blanston2.docgen ファイルを右クリックします。
- 2 [Generate Doc for this Style (このスタイルのドキュメントを生成する)] をクリックします。
- 3 [Generate Documentation (ドキュメントの生成)] ウィンドウで、[Input Settings (入力設定)] タブをクリックして、現在のスタイルテンプレート (この例では Blanston3) を使用してドキュメントを作成するプロジェクトを選択します。



- 4 [Output Settings (出力の設定)] タブを選択して [Specify Output Criteria (出力条件の指定)] ウィンドウを開き、必要な情報を入力して、[OK] をクリックします。詳細については、[359 ページの「ドキュメントの生成」](#)を参照してください。

プロジェクトから開始してスタイルを選択

- 1 Blanston2 と別のプロジェクト (例えば Blanston1) を開いて、[プロジェクト] ビューに移動し、[Documentation (ドキュメント)] > [New (新規)] > [Documentation Generation Style (.docgen) (ドキュメント生成スタイル (.docgen))] をクリックします。
- 2 新しい .docgen ファイル (この例では Blanston2.docgen) を選択して、[Next (次へ)] をクリックします。
- 3 基本スタイル (この例では Blanston.docgen) を選択して、[Finish (完了)] をクリックします。



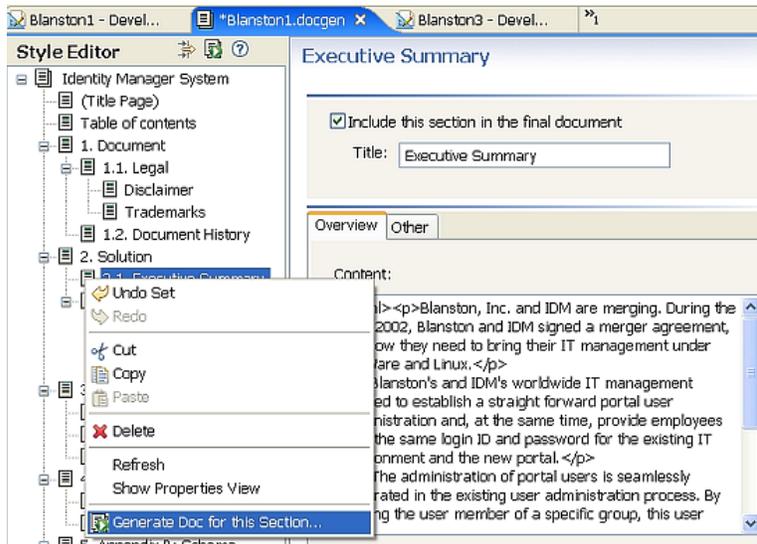
スタイルエディタ内に **Blanston2.docgen** ファイルが開きます。スタイルには通常、会社名など、プロジェクト固有の情報が含まれているため、上記の情報を使用して、テンプレートが転送されているかどうかを確認してください。スタイルエディタの [Generate Documentation (ドキュメントの生成)] アイコンをクリックすると、ドキュメントが生成されます。Blanston1 プロジェクトで頻繁に **Blanston2.docgen** スタイルを使用する場合は、Blanston1 Documentation フォルダの **Blanston2** スタイル、または .docgen ファイルを、スタイルテンプレートライブラリにコピーします。詳細については、[378 ページのセクション 16.4.4 「Styles Template Library \(スタイルテンプレートライブラリ\) への Style File \(スタイルファイル\) の保存」](#) を参照してください。

スタイルの一部の文書化

プロジェクト全体のドキュメントを生成する代わりに、選択したセクションだけのドキュメントを生成することもできます。

- 1 [Style Editor (スタイルエディタ)] ペインで **Blanston2.docgen** ファイルを開き、スタイルの一部を右クリックします。
- 2 [Generate Doc for this Style (このセクションのドキュメントを生成する)] を選択します。

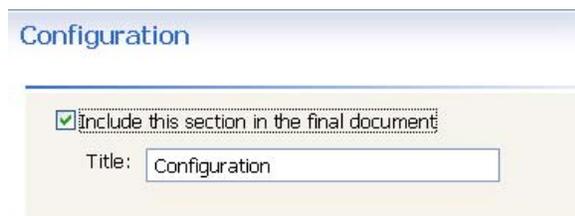
- 3 [Generate Documentation (ドキュメントの生成)] ウィンドウで、[Filename (ファイル名)] フィールドに別のプロジェクト名 (例えば、ExecutivSumofMerger など) を入力してから、[OK] をクリックします。



生成するセクションの作成

選択したセクションだけのドキュメントを生成して、同僚がそれぞれの部分に関する情報を提供するとします。各セクションおよびその子セクションには、[Include this section in the final document (このセクションを最終ドキュメントに含める)] というチェックボックスがあります。デフォルトでは、このチェックボックスはすべてオンになっています (下図参照)。

図 16-1 [環境設定セクション] のチェックボックス



- 1 ドキュメントを生成しないセクションのチェックボックスをオフにすることで、ドキュメントのサイズと内容を制御できます。

「Appendix B: Schema (付録 B: スキーマ)」セクションには、次の 3 つのチェックボックスがあります。[Include this section in the final document (このセクションを最終ドキュメントに含める)]、[Document all custom Identity Vault Schema even if not marked for documentation (ドキュメントの対象としてマークされていないものも含めてすべてのカスタムのアイデンティティポータルスキーマを文書化する)]、および [Document all Application Schema even if not marked for documentation (ドキュメントの

対象としてマークされていないものも含めてすべてのアプリケーションスキーマを文書化する)] の 3 つです。

Appendix B: Schema

Include this section in the final document
Title:

i Identity Vault schema is NOT available to render unless marked for documentation using the schema tool, or schema has been imported or manually created in Designer.

Document all custom Identity Vault Schema even if not marked for documentation

i Application schema will NOT be documented unless individual classes have been marked to be documented or the override option below is used.

Document all Application Schema even if not marked for documentation

[Include this section in the final document (このセクションを最終ドキュメントに含める)] チェックボックスを使用すると、付録 B の情報をドキュメントに含めるかどうかを指定できます。デフォルトはオンで、情報を含めるように設定されています。

- 2 アプリケーションまたはアイデンティティボールのスキーマをドキュメントに含めない場合は、このチェックボックスをオフにします。

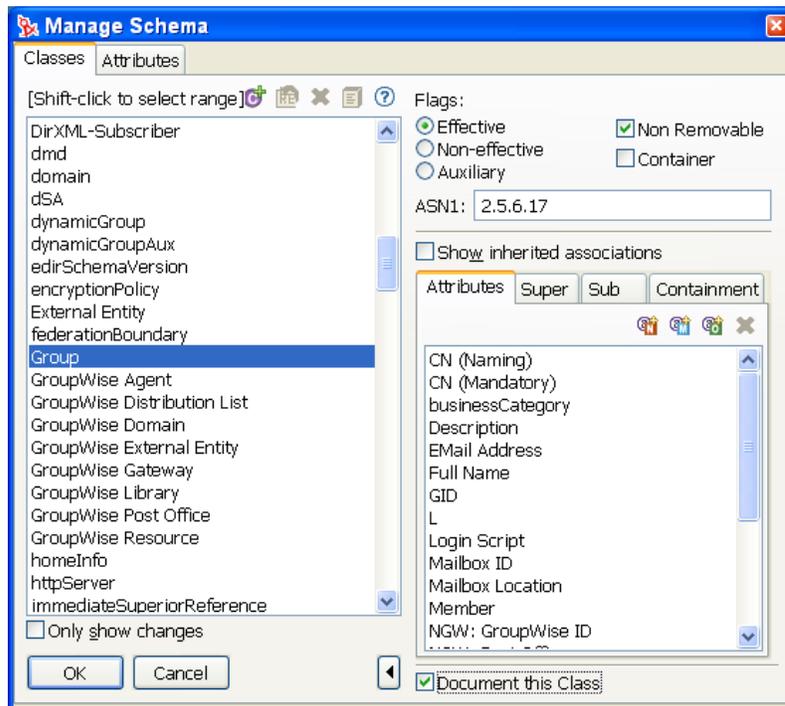
[Document all custom Identity Vault Schema even if not marked for documentation (ドキュメントの対象としてマークされていないものも含めてすべてのカスタムのアイデンティティボルトスキーマを文書化する)] チェックボックスを使用すると、アイデンティティボルトスキーマ (アイデンティティボルトからインポートするか、ユーザが自分で作成したもの) を文書化するかを制御できます。アイデンティティボルトスキーマ全体を含むプロジェクトをインポートし、そのプロジェクトに関するドキュメントを生成すると、600 ページ以上のスキーマ情報が追加されます。これは、アイデンティティボルトの基本スキーマと追加スキーマがすべてドキュメントに含まれるためです。

Novell では、必要がない限り、アイデンティティボルトスキーマ全体を文書化することはお勧めしていません。最大の問題は、メモリ不足が発生する可能性があるという点です。ドキュメント生成時にメモリ不足が発生した場合の対処法については、[450 ページのセクション 19.5 「ドキュメント生成時の問題」](#)を参照してください。

文書化するアイデンティティボルトスキーマを選択するには：

- 1 [Modeler (モデラ)] ビューで [Identity Vault (アイデンティティボルト)] アイコンを右クリックし、[Manage Schema (スキーマの管理)] を選択します。
- 2 [Manage Schema (スキーマの管理)] ウィンドウで、文書化するクラスを選択し、[Document this Class (このクラスを文書化する)] をクリックします。

<Ctrl> キーまたは <Shift> キーを使用すると、複数のクラスを選択できます。クラスを選択して [Document this Class (このクラスを文書化する)] をクリックすると、選択したクラスが文書リストに追加されます。



3 [OK] をクリックします。

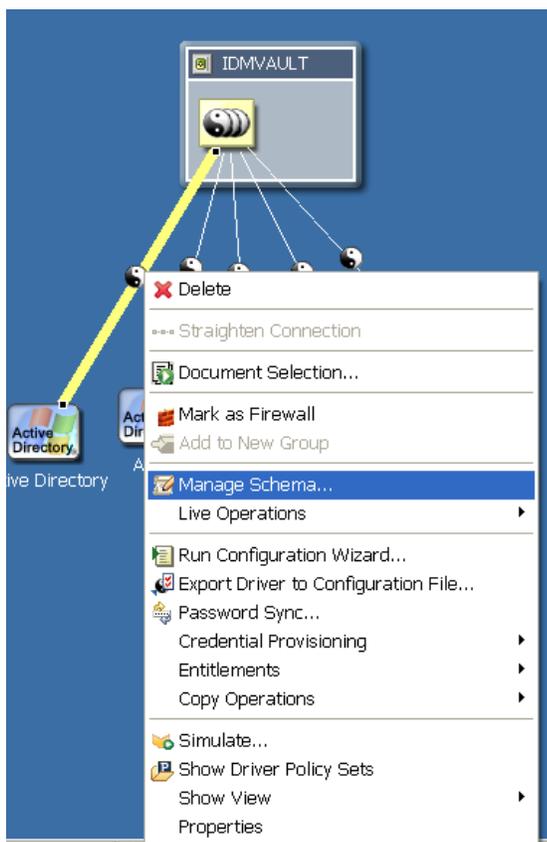
「Appendix B: Schema (付録 B: スキーマ)」セクションで [Document all custom Identity Vault Schema even if not marked for documentation (ドキュメントの対象としてマークされていないものも含めてすべてのカスタムのアイデンティティボールドスキーマを文書化する)] チェックボックスをオンにすると、スキーマインポートウィザードで指定したアイデンティティボールドスキーマの選択部分は事実上すべて無効になります。これまでの内容を次に要約します。

- ◆ 「Appendix B: Schema (付録 B: スキーマ)」セクションで [Document all custom Identity Vault Schema (すべてのカスタムのアイデンティティボールドスキーマを文書化する)] チェックボックスをオンにすると、すべてのアイデンティティボールドスキーマが文書化されます。
- ◆ 「Appendix B: Schema (付録 B: スキーマ)」セクションで [Document all custom Identity Vault Schema (すべてのカスタムのアイデンティティボールドスキーマを文書化する)] チェックボックスをオフにすると、[Manage Schema (スキーマの管理)] オプションで選択したアイデンティティボールドスキーマだけが文書化されます。
- ◆ 「Appendix B: Schema (付録 B: スキーマ)」セクションで [Document all custom Identity Vault Schema (すべてのカスタムのアイデンティティボールドスキーマを文書化する)] チェックボックスをオフにし、かつ [Manage Schema (スキーマの管理)] オプションでどのアイデンティティボールドスキーマも選択しなかった場合、スキーマは一切文書化されません。

「Appendix B: Schema (付録 B: スキーマ)」ページの 3 つめのチェックボックス [Document all Application Schema even if not marked for documentation (ドキュメントの対象としてマ

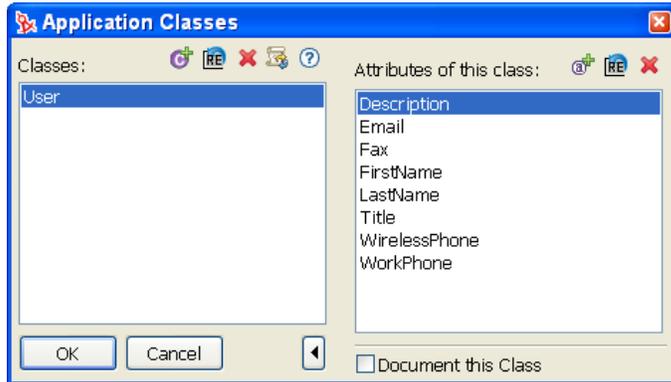
クされていないものも含めてすべてのアプリケーションスキーマを文書化する)」を使用すると、文書化するドライバのアプリケーションクラスを選択できます。「Appendix B: Schema (付録 B: スキーマ)」セクションで [Document all Application Schema even if not marked for documentation (ドキュメントの対象としてマークされていないものも含めてすべてのアプリケーションスキーマを文書化する)] チェックボックスをオンにすると、すべてのアプリケーションスキーマが文書化されます。スキーマ全体を文書化する代わりに、文書化するアプリケーションスキーマを選択することもできます。詳細については、次の例を参照してください。

- 1 ドライバのアプリケーションクラスを選択するために、モデラ内でプロジェクトを表示します。
- 2 ドライバアイコンを右クリックして [Manage Schema (スキーマの管理)] を選択します。



- 3 [Application Classes (アプリケーションクラス)] ダイアログボックスが開き、追加または削除できるクラスのリストが表示されます。右側には、クラス用に既に作成されている属性が表示されます。[Application Classes (アプリケーションクラス)] ウィン

ドウにクラスが表示されない場合は、現在、そのドライバ用に作成されているクラスが存在しないことを意味します。



- 4 右下隅には、[Document this Class (このクラスを文書化する)] チェックボックスが表示されます。このチェックボックスをオンにすると、スキーマ全体を文書化するのではなく、Document Generator (ドキュメントジェネレータ) を使用して文書化するアプリケーションクラスを選択できます。

「Appendix B: Schema (付録 B: スキーマ)」セクションで [Document all Application Schema even if not marked for documentation (ドキュメントの対象としてマークされていないものも含めてすべてのアプリケーションスキーマを文書化する)] チェックボックスをオンにすると、[Application Classes (アプリケーションクラス)] ウィンドウで指定したドライバアプリケーションスキーマの選択部分が事実上すべて無効になります。これまでの内容を次に要約します。

- ◆ 「Appendix B: Schema (付録 B: スキーマ)」セクションで [Document all Application Schema even if not marked for documentation (ドキュメントの対象としてマークされていないものも含めてすべてのアプリケーションスキーマを文書化する)] チェックボックスをオンにすると、すべてのアプリケーションスキーマが文書化されます。
- ◆ 「Appendix B: Schema (付録 B: スキーマ)」セクションで [Document all Application Schema (すべてのアプリケーションスキーマを文書化する)] チェックボックスをオフにすると、[Application Classes (アプリケーションクラス)] ウィンドウで選択したアプリケーションスキーマだけが文書化されます。
- ◆ 「Appendix B: Schema (付録 B: スキーマ)」セクションで [Document all Application Schema (すべてのアプリケーションスキーマを文書化する)] チェックボックスをオフにして、かつ [Application Classes (アプリケーションクラス)] ウィンドウでアプリケーションスキーマを選択しなかった場合、スキーマは文書化されません。

生成したレポートからの不要なアイデンティティポルトスキーマの削除

アイデンティティポルトスキーマ全体を含むプロジェクトをインポートし、そのプロジェクトに関するドキュメントを生成すると、600 ページ以上のスキーマ情報が追加されます。これは、アイデンティティポルトの基本スキーマがすべてドキュメントに含まれるためです。

アイデンティティポルトの基本スキーマがすべて必要というわけではない場合は、次の手順に従います。

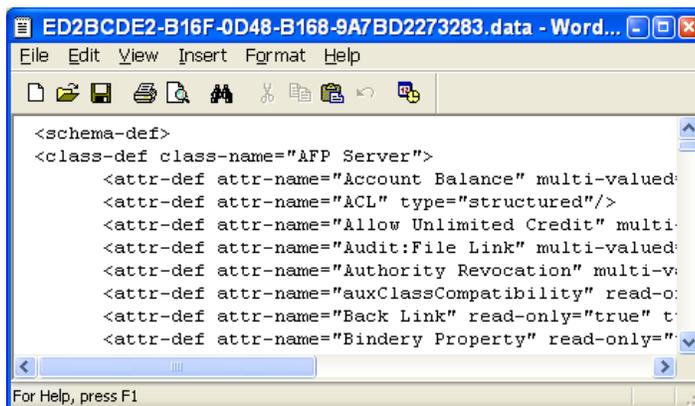
- 1 プロジェクトのワークスペースフォルダに移動し、.data ファイルを削除します。たとえば、Windows ワークステーションの場合、Blanston1_files ディレクトリは

C:\Documents and Settings\Novell User\workspace\Blanston1\Blanston1_files にあります。
 [Type (種類)] をクリックすると、すべての .data ファイルがまとめて表示されます。
 アイデンティティボールの基本スキーマは、サイズが最大の .data ファイルにあり
 ます。

名前	サイズ	種類
policy_trace		ファイル フォルダ
0FE2DC13-FEC3-F50B-6B95-139BA1E91439.application	1 KB	APPLICATION ファイル
9D9F0D67-5159-93C4-EBFA-B741C28B7917.application	1 KB	APPLICATION ファイル
34A754A2-DB22-E6F8-C6F2-056BD09C8068.application	1 KB	APPLICATION ファイル
B0DB1E0C-8FB3-AE42-998A-2860685E9A41.application	1 KB	APPLICATION ファイル
BD653627-6C6F-CB44-7A0A-E07B770CE500.application	1 KB	APPLICATION ファイル
ECEDFA7A-00C5-5DC7-6D9B-36BC4732FE80.application	1 KB	APPLICATION ファイル
ED21800A-EDF7-AD51-40C7-3B84CF902B23.application	1 KB	APPLICATION ファイル
0DA5F278-027C-2188-44B4-C5E865C572D5.data	36 KB	DATA ファイル
1DF5D40C-B8D9-DF76-D3DE-47C1780720E9.data	4 KB	DATA ファイル
2DF74C6D-B35B-52F2-A239-16364C23EEE4.data	4 KB	DATA ファイル
3172436C-9E64-ACA1-D354-4D62D851016E.data	3 KB	DATA ファイル
A4C7920B-BD88-C169-6FC5-6FDFB88067B5.data	4 KB	DATA ファイル
B0DB1E0C-8FB3-AE42-998A-2860685E9A41.data	4 KB	DATA ファイル
B4F827A5-0EDF-13B7-9C16-BF81C2829BE6.data	4 KB	DATA ファイル
BDE12B70-0DAD-7FE4-2F31-A39A8FE85F7F.data	1 KB	DATA ファイル
DB1FCFBA-F7BD-D9EE-EAA0-00549DC88F61.data	4 KB	DATA ファイル
ED2BCDE2-B16F-0D48-B168-9A7BD2273283.data	340 KB	DATA ファイル

アイデンティティボールがプロジェクトに複数ある場合は、プロジェクトのフォルダにサイズの大きな .data ファイルが複数存在します。

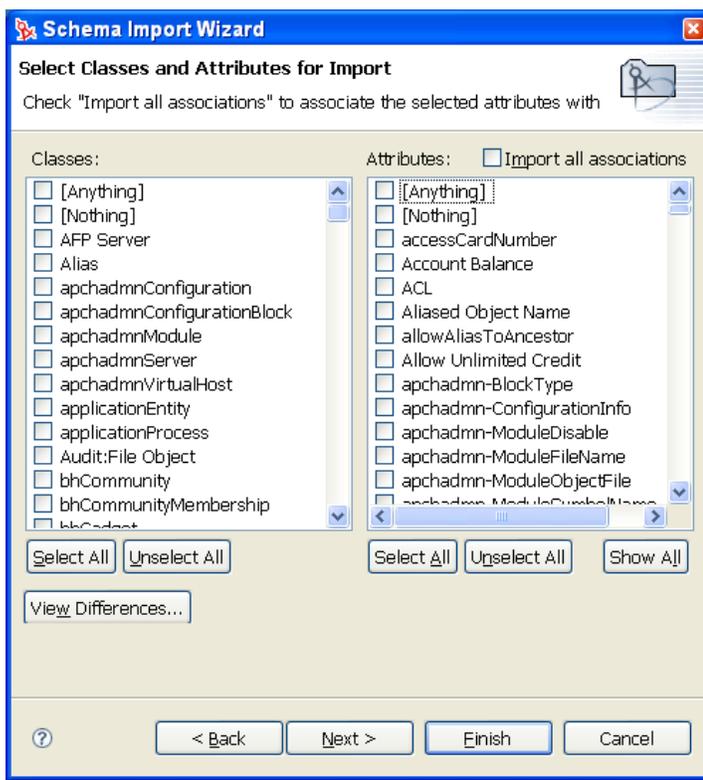
- 2 .data ファイルをテキストベースのエディタ (ワードパッドなど) を使用して開き、スキーマファイルが存在することを確認します。ファイルの先頭には <schema-def> と表示されます。



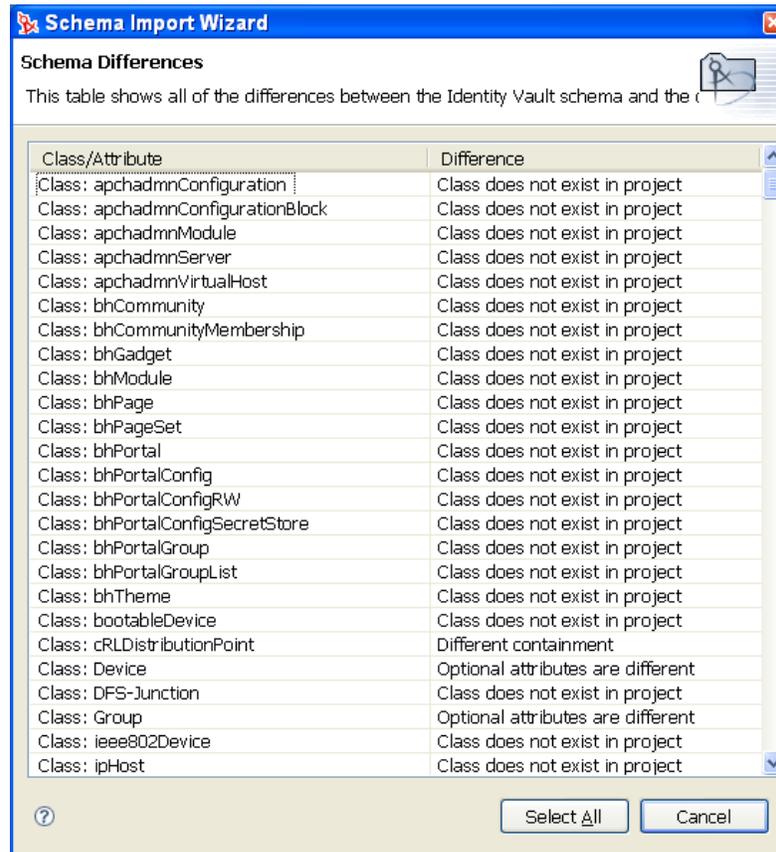
- 3 自分のプロジェクトとアイデンティティボールの間でアイデンティティボールのスキーマが異なっている部分 (相違点) だけをインポートするとします。スキーマの相違点を取得するには、手順 1 の説明に従ってサイズの大きい .data ファイルをすべて削除し、次の手順に従ってプロジェクトのスキーマをインポートし直します。

- 3a Designer の [Modeler (モデラ)] ビューでプロジェクトを開きます。アイデンティティボールを右クリックして、[Live Operations (ライブ操作)] > [Import Schema (スキーマのインポート)] の順に選択します。
- 3b [Select Source for Import (インポートするソースの選択)] ページで、実際のアイデンティティボールに接続している場合は [Import from eDirectory (eDirectory からインポート)] を選択し、スキーマファイルをローカルに保存した場合は [Import from .sch File (.sch ファイルからインポート)] を選択します。[Import from eDirectory (eDirectory からインポート)] で、接続情報としてホスト名、ユーザ名、およびパスワードを入力します。[Next (次へ)] をクリックします。

- 3c [Select Classes and Attributes for Import (インポートするクラスと属性の選択)]
ページで、[View Differences (相違点の表示)] をクリックします。



- 3d [Schema Differences (スキーマの相違点)] ページに、アイデンティティポータルとプロジェクトとのスキーマの違いが表示されます。



- 3e [Select All (すべて選択)] をクリックします。これにより、[Select Classes and Attributes for Import (インポートするクラスと属性の選択)] ページに戻り、[Classes(クラス)] および [Attributes (属性)] の各見出しで相違点を選択されます。デフォルトでは、[Import All Associations (すべての関連付けのインポート)] ボックスもオンになっています。このチェックボックスをオンにしたまま [Finish (完了)] をクリックします。
- 3f [Import Summary (インポートの概要)] ページで、[OK] をクリックします。
- 4 [Manage Schema (スキーマの管理)] ウィンドウが表示されます。このウィンドウで、350 ページの「[Modeler (モデラ)] ビューで [Identity Vault (アイデンティティポータル)] アイコンを右クリックし、[Manage Schema (スキーマの管理)] を選択します。」で説明した手順に従って文書化するクラスと属性を選択します。

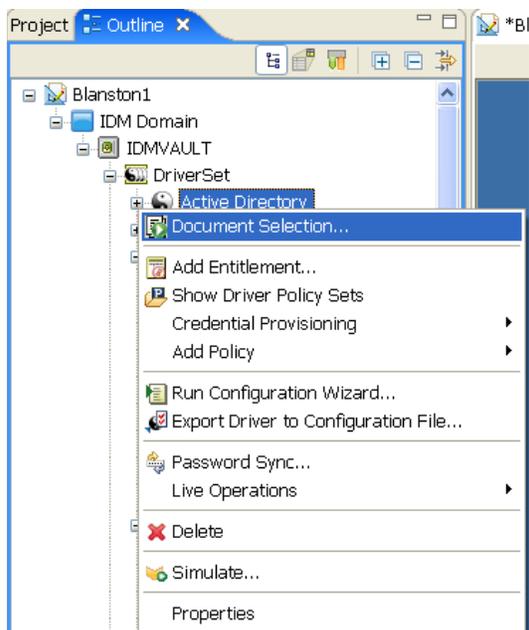
必要な部分の文書化

これで、生成するドキュメントに含めるプロジェクトの一部を指定できます。[Modeler (モデラ)] ビューまたは [Outline (アウトライン)] ビューを使用して、ドメイン、アイデンティティポータル、ドライバセット、ドライバ、アプリケーションを文書化できます (複数の項目を選択するには <Ctrl> キーを使用します)。

ドキュメントの生成は、スキーマメモ、クラス、属性とも関係しています。詳細については、215 ページの第 12 章「スキーマの管理」を参照してください。

次に例を示します。

- 1 プロジェクト内の特定のドライバを文書化するには、[Modeler (モデラ)] または [Outline (アウトライン)] ビューでそのドライバを右クリックして、[Document Selection (ドキュメントの選択)] を選択します。

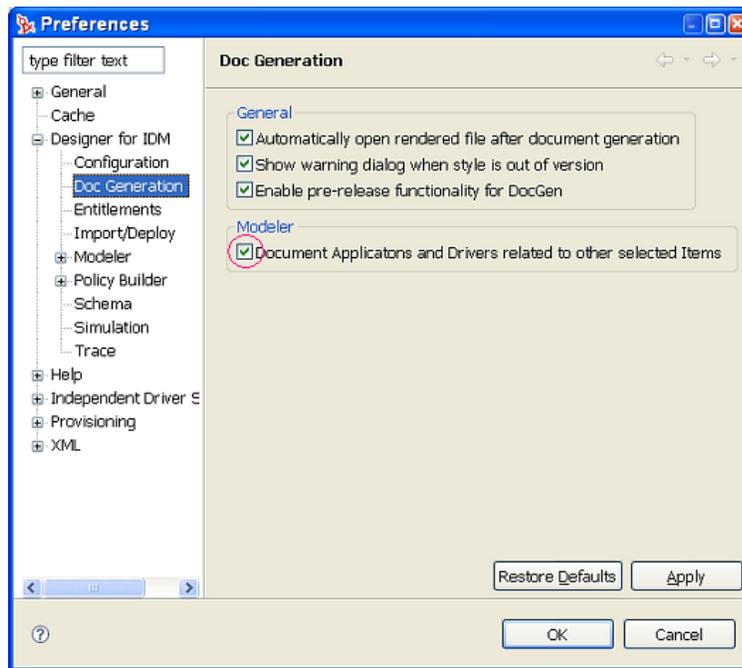


- 2 ドキュメントの .docgen スタイルシートを選択して、ドキュメントのファイル名を指定し、ドライバのドキュメントを生成します。

デフォルトでは、アプリケーションを文書化すると、接続されたドライバ(とその関連オブジェクト)もドキュメントに含まれます。同様に、特定のドライバを文書化すると、接続されたアプリケーションもドキュメントに含まれます。この動作は、[Doc Generation's Preferences (ドキュメント生成の初期設定)] ページで変更できます。

- 1 [Window (ウィンドウ)] > [Preferences (初期設定)] の順にクリックして、[Preferences (初期設定)] ウィンドウを開きます。

2 [Designer for IDM] にある [Doc Generation (ドキュメントの生成)] を選択します。



[Document Applications and Drivers related to other selected items (他の選択済み項目と関連するアプリケーションおよびドライバの文書化)] はデフォルトで選択されており、直接関連する項目がドキュメントに含められます。例えば、デフォルトでは、ドライバセットをドキュメント化すると、直接の子(アプリケーション)および直接の親(アイデンティティポータルとドメイン)に関する一部の情報が含められ、ドライバセットのコンテキストが記述されます。このオプションをオフにすると、選択した項目の直接の子がドキュメントから除外されます。

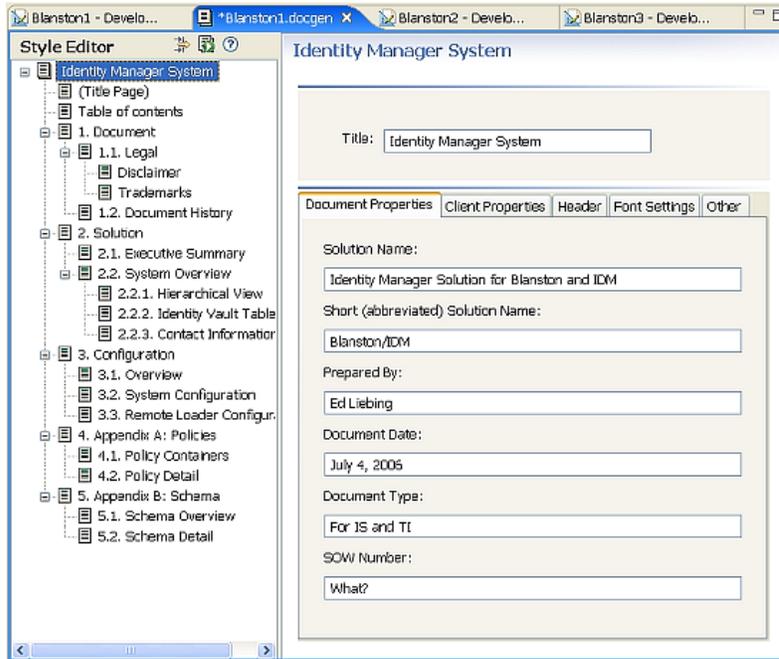
16.2 スタイルのセクションのカスタマイズ

スタイルを使用すると、スタイルテンプレート内の情報を追加または変更できます。これにより、生成されるドキュメントも影響を受けます。スタイルエディタでカスタマイズ可能な情報は、[Style Editor (スタイルエディタ)] ビューに表示されます。詳細については、[363 ページのセクション 16.4 「ドキュメントスタイルの高度な編集」](#)を参照してください。

スタイルテンプレートを編集するには：

- 1 [Project (プロジェクト)] ビューでプロジェクトを選択し、[Documentation (ドキュメント)] アイコンを右クリックします。

- 2 .docgen ファイルをダブルクリックします。[Style Editor (スタイルエディタ)]ビューにファイルが表示されます。



- 3 スタイルエディタを使用して、スタイルのセクションを編集するか、目的に合わせてスタイルを変更します。

スタイルエディタは、左右2つの部分に分割されています。左側のセクションは、Identity Manager で始まり、各付録で終わります。[Style Editor (スタイルエディタ)]セクションにある項目をクリックすると、ビューの右側に、その見出しに関連する情報が表示されます。例えば、[Document (ドキュメント)] > [Legal (法律関連文書)]の見出しの下にある [Disclaimer (免責条項)] をクリックすると、免責条項の内容を編集できます。

16.2.1 スタイルのセクションの編集

- 1 [Style Editor (スタイルエディタ)] ビューで項目 (例えば、エグゼクティブサマリー) を選択します。
- 2 データを入力するか、変更します。
- 3 必要に応じて他の項目を選択し、変更します。表示される情報は、選択した項目によって変化します。

ドキュメントを生成し、各領域を編集内容に合わせて変更します。注意すべき主な領域として、Identity Manager System の下にある項目 (タイトルページと目次)、Document (ドキュメント)、Legal (法律関連規定)、Disclaimer (免責条項)、Trademarks (商標)、Executive Summary (エグゼクティブサマリ) などがあります。Style Editor (スタイルエディタ) を閉じるか、[Save (保存)] をクリックすると、すべての変更が保存されます。

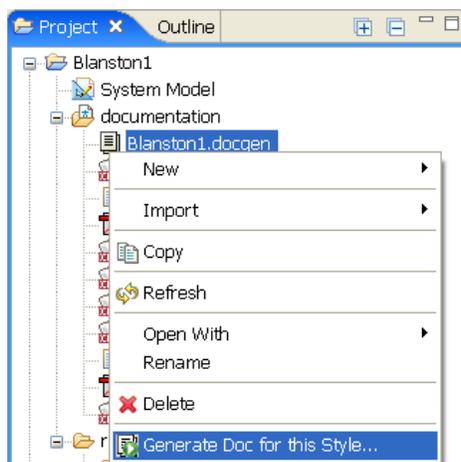
16.3 ドキュメントの生成

- 1 (条件付き) Designer プロジェクトをまだ作成していない場合は、作成します。

- 1a [ファイル] > [新規] > [Identity Manager Project (Identity Manager プロジェクト)] の順に選択します。
- 1b プロジェクトの名前を入力し、[Finish (完了)] をクリックします。
- 2 (条件付き) ドキュメントのテンプレートとして使用するドキュメントスタイルを作成していない場合は、作成します。343 ページの「ドキュメントスタイルの作成」および 358 ページの「スタイルのセクションのカスタマイズ」を参照してください。
- 3 [Project (プロジェクト)] ビューで、プロジェクトを選択して展開し、[Documentation (ドキュメント)] アイコンを右クリックして、[Generate Doc for this Style (このスタイルのドキュメントを生成する)] を選択します。

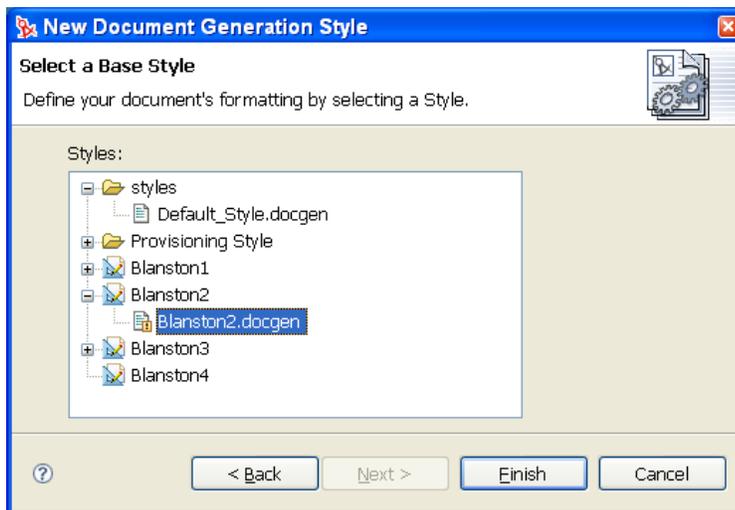
または

[Project (プロジェクト)] > [Document (ドキュメント)] > [Generate Documentation (ドキュメントの生成)] を選択します。

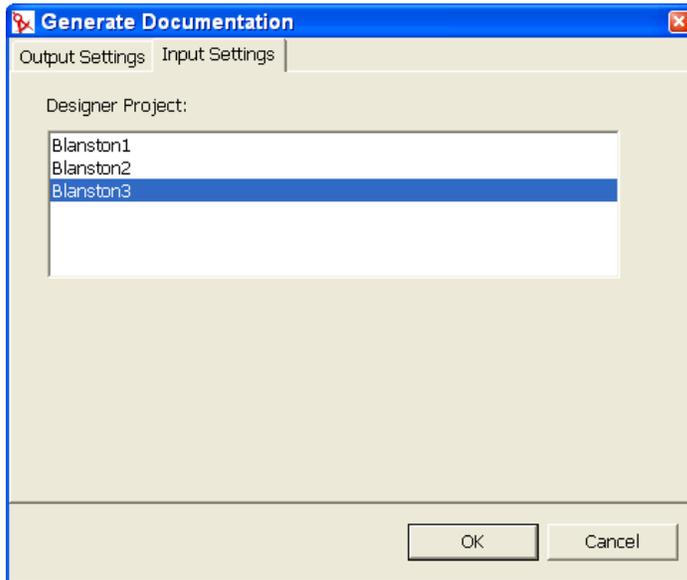


Documentation フォルダを展開して、.docgen ファイルをクリックしても、同じ操作ができます。[Style Editor (スタイルエディタ)] が開きます。[Document Generation (ドキュメントの生成)] をクリックします。

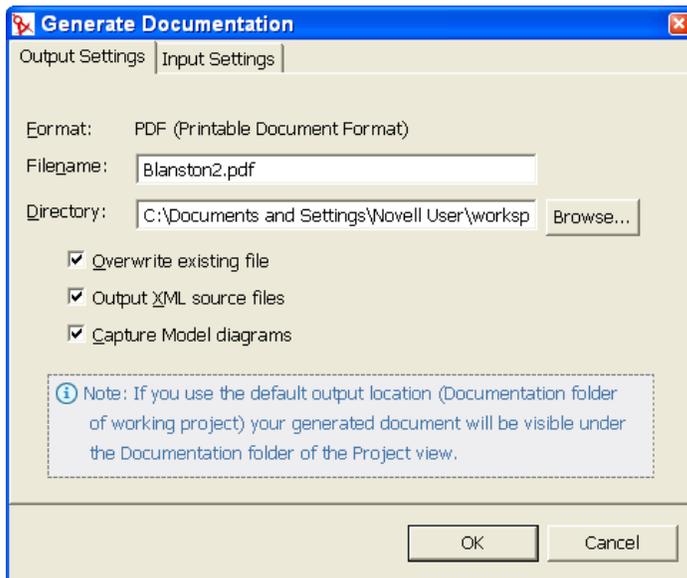
- 4 選択した Documentation フォルダに .docgen ファイルが含まれていない場合は、基本スタイルの選択を促すメッセージが表示されます。



- 5 .docgen スタイルを選択し、[Next (次へ)] をクリックします。
- 6 選択した Documentation フォルダに .docgen ファイルが含まれている場合は、[Generate Documentation (ドキュメントの生成)] ウィンドウに [Output Settings (出力設定)] タブと [Input Setting (入力設定)] タブが表示されます。[Input Settings (入力設定)] タブをクリックして、現在のスタイルテンプレートを使用してドキュメントを作成するプロジェクトを選択し、[Output Settings (出力設定)] タブをクリックします。



- 7 [Output Settings (出力設定)] ページで、必要な情報を入力します。



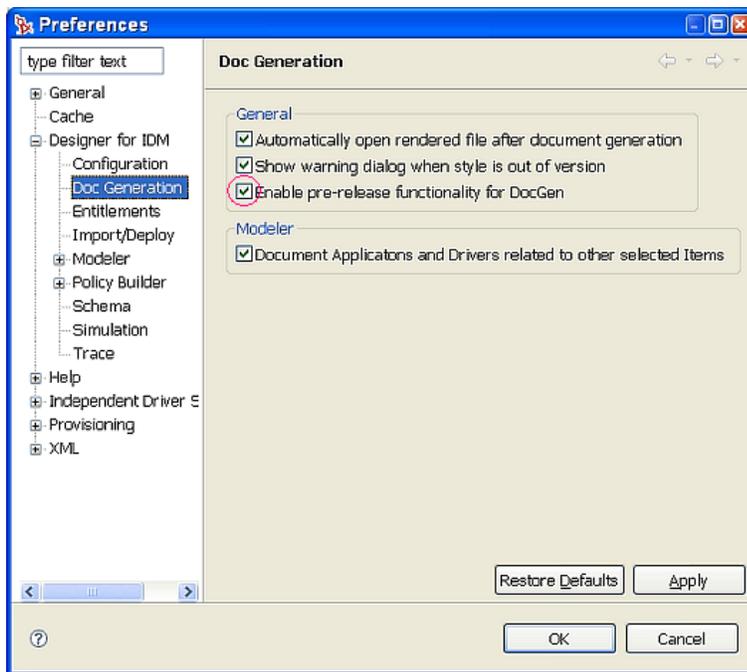
ファイル名は、変更しないかぎり、プロジェクト名と同じです。ファイル拡張子から、ファイルは PDF 形式で保存されることが分かります。このディレクトリは、Designer のプロジェクトが格納されるデフォルトのワークスペースディレクトリです。必要に応じて異なるディレクトリを参照できます。

[Overwrite Existing File (既存のファイルを上書きする)] はデフォルトでオンになっています (同じファイル名と拡張子を持つ既存のファイルは上書きされます)。

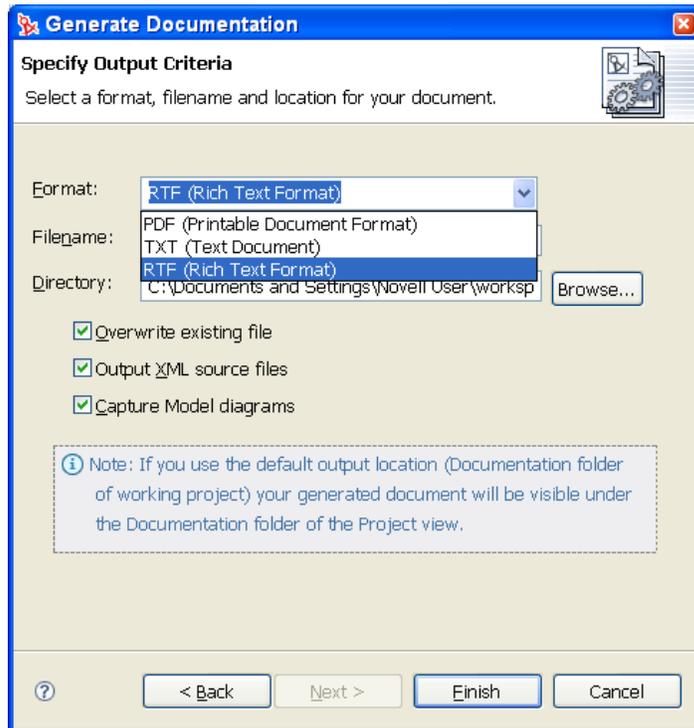
[Output XML Source Files (XML ソースファイルを出力)] とは、中間形式の XML ファイル、テンプレート、スタイルシートなどです。これらは、開発者が属性レベルでスタイルを変更するときに使用できます (ほとんどのユーザはこのオプションをオンにする必要はありません)。

[Capture Model diagrams (モデル図の取り込み)] をオンにすると、[Developer (開発者)] ビューから PDF ファイルにモデル図が取り込まれます。

- 8 (条件付き) 今リリースの Designer には、ドキュメントを RTF (リッチテキスト形式) で出力する機能が含まれています。これはまだ正式な機能ではありませんが、使用できます。[Window (ウィンドウ)] > [Preferences (初期設定)] をクリックして、[Preferences (初期設定)] ウィンドウを開きます。続いて、[Designer for IDM] にある [Doc Generation (ドキュメントの生成)] を選択してください。



[Enable pre-release functionality for DocGen (DocGen のプレリリース機能を有効にする)] を選択すると、ドキュメント生成時に RTF 形式を選択できます。



- 9 [OK] をクリックするとドキュメントが生成されます。ドキュメントは、現在の [Project (プロジェクト)] > [(Documentation) ドキュメント] フォルダに表示されます (ただし、他の場所を指定している場合は別です)。

PDF ファイルを表示するには、Adobe Acrobat* などの PDF ビューアが必要です。お使いのワークステーションに Adobe Acrobat がインストールされている場合は、Acrobat でドキュメントが表示されます。RTF ファイルは、リッチテキスト形式のファイルを扱える任意のワードプロセッサで表示できます。

- 10 ドキュメントの生成中に「Out of Memory (メモリ不足)」というエラーメッセージが表示された場合は、450 ページの「ドキュメント生成時の問題」を参照してください。

16.4 ドキュメントスタイルの高度な編集

カスタマイズされたスタイルを作成するほどではなくても、デフォルトのスタイルのレイアウトに多少手を加えることで便利になる場合があります。これには、変更する特定のセクションに関連付けられた属性を編集します。必要に応じて、ドキュメントに新しいセクションを追加することもできます。

- ◆ 364 ページのセクション 16.4.1 「高度な編集モードの内容」
- ◆ 371 ページのセクション 16.4.2 「操作チュートリアル」
- ◆ 377 ページのセクション 16.4.3 「ダブルバイトのサポート」
- ◆ 378 ページのセクション 16.4.4 「Styles Template Library (スタイルテンプレートライブラリ) への Style File (スタイルファイル) の保存」

16.4.1 高度な編集モードの内容

[Advanced Editing (高度な編集)] アイコンを使用すると、簡単な編集モードと高度な編集モードを切り替えることができます。高度な編集モードでは、事前定義のスタイルに添付されているデフォルトのテンプレートとは異なる情報と構造を定義できます。この例では、タイトルページテンプレートが XSL 形式で表示されています。このテンプレートの保守はユーザが行います。

図 16-2 事前定義テンプレートの表示

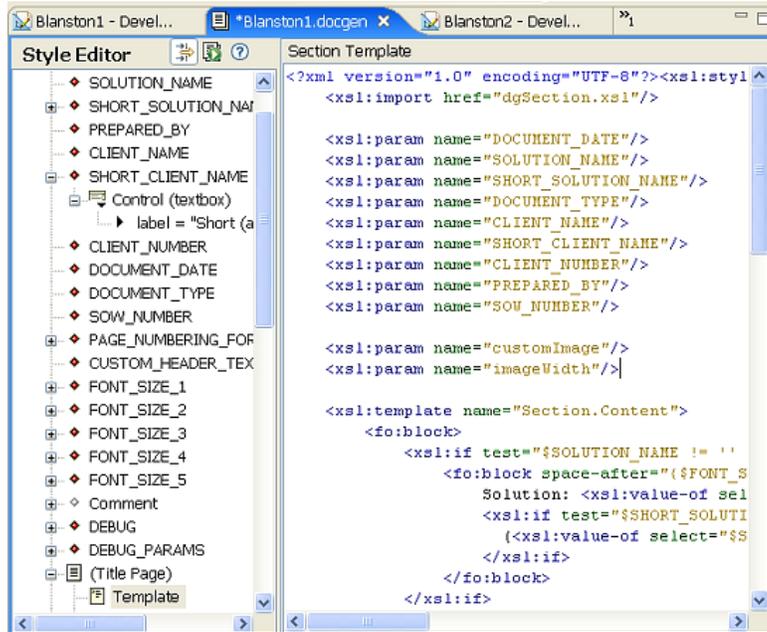


表 16-1 システムエディタの凡例

アイコン	名前	説明
	緑のページ	緑のページは、タイトル付きセクションを意味します。このタイトルは、ドキュメントを生成するとき表示されます。
	グレーのページ	グレーのページは、タイトルなしのセクションを意味します。これらのページは括弧で囲んで示されます。例：(Title Page (タイトルページ))
	白のページ	白のページは、このセクションが無効であり、ドキュメント生成時に取り込まれないことを意味します。
	テンプレート	黄色のテンプレートページは、ドキュメントの生成時に使用される特定の形式とスタイルを定義します。
	グローバル属性	グローバル (赤) 属性は、自分の下位のすべてのセクション (子セクション) に継承されます。

アイコン	名前	説明
	ローカル属性	ローカル (緑) 属性は、それが表示されるセクションだけで使用されることを意味します。
	グレー属性	グレー属性は、その属性が使用されていないことを意味します。
	コントロールアイコン	コントロールタイプは、属性に指定できる機能を定義します。各コントロールタイプには異なる機能があります。

高度な編集モードを使用すると、次の要素を追加できます。

- ◆ [365 ページの「セクション」](#)
- ◆ [368 ページの「テンプレート」](#)
- ◆ [370 ページの「属性」](#)
- ◆ [370 ページの「コントロールとパラメータ」](#)

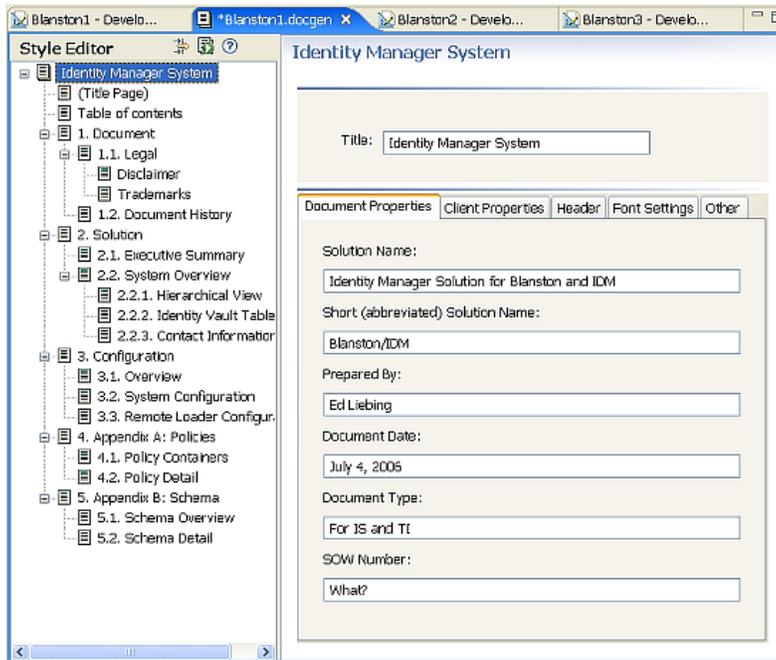
ドキュメントには複数のセクションを定義できますが、テンプレートはセクションごとに1つしか定義できません。テンプレートは、セクションのレイアウトを定義します。新規に作成したセクションにはデフォルトのテンプレートを使用できます。セクションの外観を定義する複数の属性以外にも、複数のコントロールを指定することもできます。コントロールタイプのオプションを指定するには、パラメータ (名前や値など) を使用します。パラメータは、コントロールの子項目の一般名です。コントロールの名前は、コントロールのタイプと、そのタイプを使用して実行できる操作を表します。

セクション

セクションとは、属性、パラメータ、テンプレート、コントロールからなる、XSL で記述されたドキュメントのブロックです。セクションの目次には、Title (タイトル)、Body (本文)、subordinate (下位) 情報が含まれます。次の例は、簡単な編集モードで表示した

Identity Manager System の [Section Properties (セクションのプロパティ)] ページを示しています。

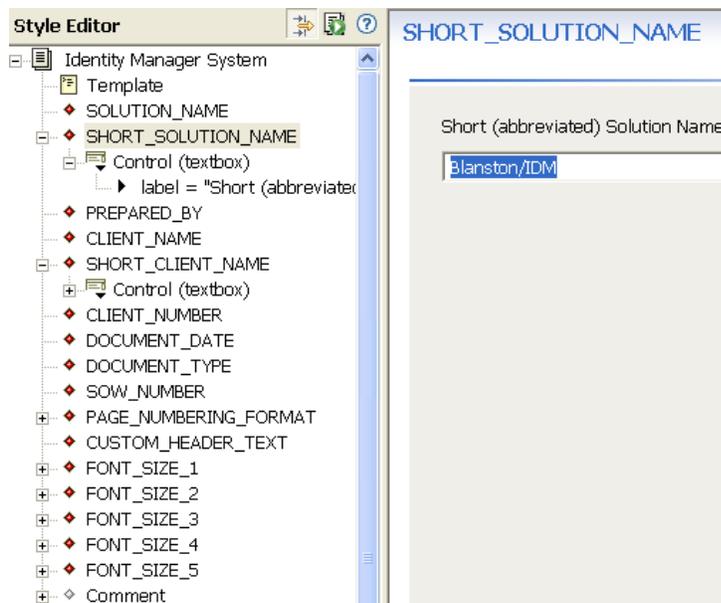
図 16-3 [Section Properties (セクションのプロパティ)] ページ



[Identity Manager System] セクションには、セクションのタイトルと多数のタブ (属性) である [Document Properties (ドキュメントのプロパティ)]、[Client Properties (クライアントのプロパティ)]、[Header (見出し)]、[Font Settings (フォントの設定)]、[Other (その他)] があります。各タブには、編集可能なフィールドがあります。例えば、セクションのタイトルの名前は変更できます。[Advanced Editing (高度な編集)] アイコンをクリックすると、[Identity Manager System (Identity Manager システム)] セクションの見出し

の下に、1つのテンプレート、および複数の属性、コントロール、パラメータが含まれていることが分かります。

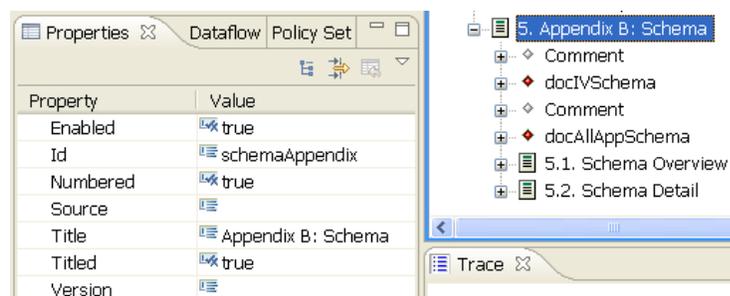
図 16-4 高度な編集モード



セクションのプロパティの表示と編集

[Style Editor (スタイルエディタ)] 内で特定のセクションをクリックして [Properties (プロパティ)] ビュー (デフォルトでは Designer の左下隅) を見ると、選択したセクションに関連付けられた値を確認できます (デフォルトで [Properties (プロパティ)] ビューが表示されない場合は、セクションを右クリックして [Show Properties (プロパティの表示)] をクリックします)。

図 16-5 「Appendix B: Schema (付録 B: スキーマ)」の [Properties (プロパティ)] ビュー



これらの値は [Properties (プロパティ)] ビューで編集できます。セクションには、[Enabled (有効)]、[Id (ID)]、[Numbered (番号)]、[Source (ソース)]、[Title (タイトル)]、[Titled (タイトル付き)] の各値があります。

表 16-2 セクションのプロパティ値

プロパティ名	説明
Enabled (有効)	(True/False) このセクションが有効かどうかを示します。この設定は、 Section Style Editor (セクションスタイルエディタ) を使用して変更できます。このエディタは、階層ビューの右側に表示されます。
ID	参照用の ID です。ほとんどの場合、ID は空のままです。しかし、ID を指定することで、変換処理中にこのセクションを見つけやすくなります。
Numbered (番号)	(True/False) このセクションに番号を付け、目次を含める必要があるかどうかを指定します。
Source (ソース)	テンプレートの転送に使用されるデータソース。たとえば、 designer 、 style (スタイル)、 none (なし) など。
Title (タイトル)	タイトルとして表示される値。この設定は、 Section Style Editor (セクションスタイルエディタ) を使用して変更できます。このエディタは、階層ビューの右側に表示されます。
Titled (タイトル付き)	(True/False) 生成されたドキュメントにタイトル値を表示する必要があるかどうかを示します。表示しない場合は、GUI でコンテキストとしてのみ使用されます。
バージョン	セクションのバージョン。

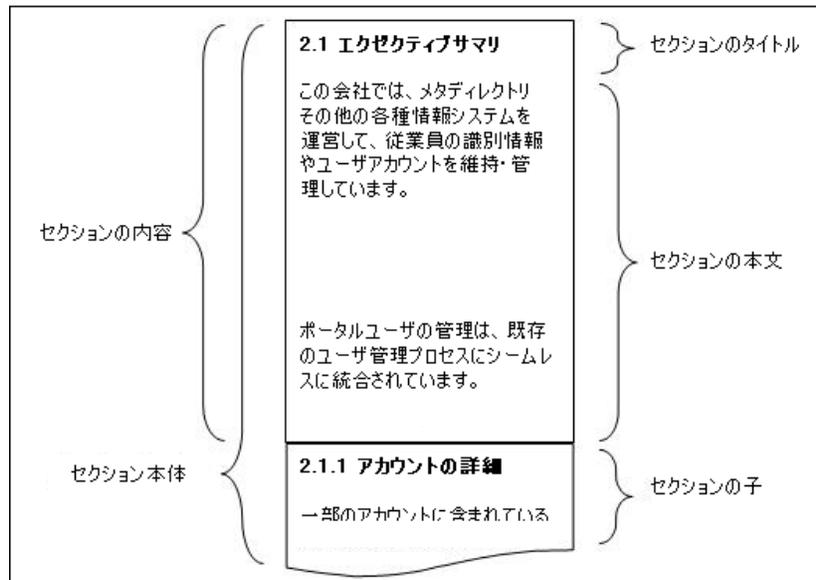
注：各値は [Style Editor (スタイルエディタ)] ビューで選択した内容によって変わります。例えば、属性を選択している場合と、セクションやテンプレートを選択している場合とでは、表示されるプロパティが異なります。

テンプレート

テンプレートとは、生成されるページ全体のレイアウトを定義する XML ソースです。例えば、タイトルページには、多くの他の見出しだに加えて、テンプレートが含まれています。次の図は、Executive Summary (エグゼクティブサマリー) テンプレートの一部です。

テンプレートの詳細については、371 ページの「操作チュートリアル」を参照してください。

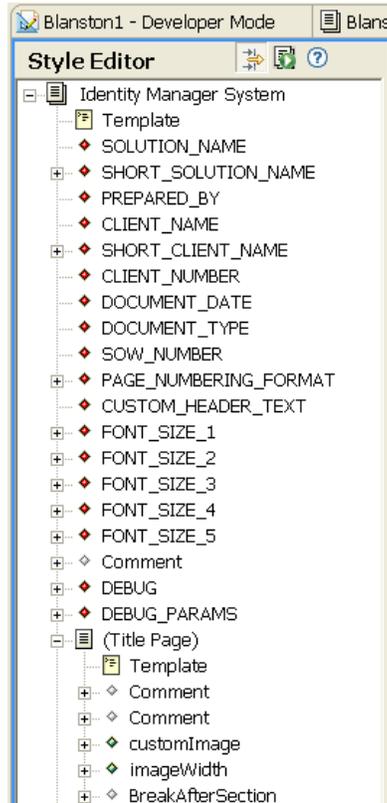
図 16-6 *Executive Summary* (エグゼクティブサマリー) テンプレートの一部



属性

属性はセクションの子要素です。例えば、セクションのタイトル Identity Manager System を選択した状態で [Advanced Editor (高度なエディタ)] モードをクリックすると、次の属性は赤 (グローバル)、緑 (ローカル)、グレー (未使用) で表示されます。

図 16-7 属性



コントロールとパラメータ

パラメータを追加すると、各要素の表示方法を制御できます。[Advanced Editing (高度な編集)] モードでは、Short (abbreviated) Solution Name (簡略型ソリューション名) エントリの構造が、コントロールとラベルを含むグローバルな属性になります。次の例では、コントロールのタイプは、生成されるドキュメントの名前を誰でも入力できるテキストボックスです。コントロールを編集するには [プロパティ] ビューを使用します。

Designer でサポートされているコントロールのパラメータまたは値は次のとおりです。

表 16-3 サポートされているパラメータ

コントロール	パラメータまたは値	説明
テーブル	columns="3" header="date" width="30" label="show this" addrows removerows	コントロール内に表示する列の数。列見出しのテキスト。各列の幅。このコントロールの表示内容を説明するラベル。この機能を実行するボタンを表示。この機能を実行するボタンを表示。

コントロール	パラメータまたは値	説明
ファイル	extensions=".jpg;*.gif" label="show this"	セミコロンで区切られた、サポートされている拡張子 (*.jpg;*.jpeg;*.gif)。 (1 ファイルのみ) ラベルはこのコントロールの機能を説明します。
選択 (Identity Manager System/ フォントの設定)	option="font 1" option="font 2" label="show this"	フォントポイント選択用パラメータ (例: option = "20pt" and option = "24pt")。ラベルはこのコントロールで実行できる機能を示します。
チェックボックス	label="show this"	ラベルはこのコントロールの機能を説明します。ラベルには 1 つのチェックボックスが含まれます。
テキストボックス またはテキストエリア	label="show this"	名前はテキストボックスまたはテキストエリアコントロールのタイトルです。これらのコントロールを編集するには [Properties (プロパティ)] ビューを使用します。
コメント	label="show this"	ユーザにガイドを提供するコメントを追加できます。このコントロールを編集するには [Properties (プロパティ)] ビューを使用します。

16.4.2 操作チュートリアル

- ◆ 371 ページの「新規セクションの作成」
- ◆ 371 ページの「属性の追加」
- ◆ 372 ページの「追加内容をドキュメントに認識させる」
- ◆ 377 ページの「ソースの表示」

新規セクションの作成

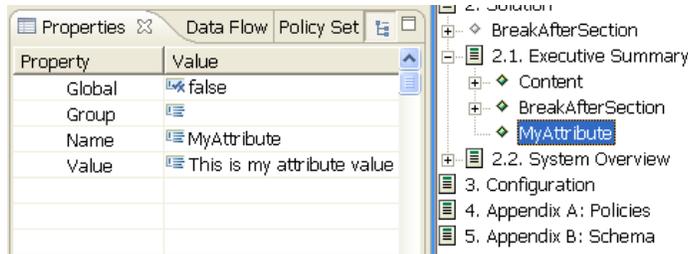
Style Editor (スタイルエディタ) に新しいセクションを挿入するには:

- 1 Style Editor (スタイルエディタ) で新しい .docgen ファイルを作成するか、既存のファイルを開きます。
- 2 [Enable Advanced Editing (高度な編集を有効にする)] アイコンをクリックします。ドキュメントアウトラインのツリービューが展開され、属性、テンプレート、パラメータなどのセクションオブジェクト以外の追加オブジェクトも表示されます。
- 3 新規セクションの追加先となる親セクションを右クリックして、新規セクション名を指定します。例: 「My Section (マイセクション)」
- 4 (オプション) セクションオブジェクトをナビゲーションツリー内の別の場所にドラッグして並べ替えます。同じスタイル内でも、異なるスタイル間でも、コピーおよび貼り付けが可能です。

属性の追加

- 1 [Style Editor (スタイルエディタ)] ビューでセクションを右クリックします。[New (新規)] > [Attribute (属性)] の順に選択します。

- 2 [Attribute Name (属性名)] ウィンドウに属性の名前を指定します。例 : MyAttribute (スペースなし) [OK] をクリックします。
- 3 [Properties (プロパティ)] ビューの [Value (値)] プロパティに値を指定します。例 : This is my attribute value (これは属性値です)。

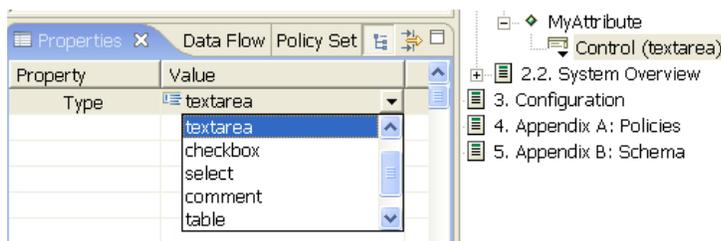


[Properties (プロパティ)] ビューには次の属性値が表示されます (属性はコントロールとパラメータによって定義されます)。

- ◆ [Global (グローバル)] : サブセクションに継承される
- ◆ [Group (グループ)] : 属性をグループ化するときのグループ名。このグループ名は、[Style Editor (スタイルエディタ)] の簡単モードのタブの一部に表示されます。
- ◆ [Name (名前)] : 属性の名前
- ◆ [Value (値)] : 属性の値

別のコントロールタイプの属性を表示することもできます。次の例では、まずコントロールを作成し、次にコントロールタイプをチェックボックス (デフォルト) から別のもの (テキストエリアなど) に変更しています。

- 1 [MyAttribute] を右クリックして、[New (新規)] > [Control (コントロール)] を選択します。
- 2 今作成したコントロール上にカーソルを移動し、[Properties (プロパティ)] ビューで、コントロールタイプの値を [textarea] に変更します。
- 3 セクションをクリックして変更内容を確認します。



追加内容をドキュメントに認識させる

生成されるドキュメントに、追加した属性の情報が取り込まれるようにするには、次のいずれかの操作を実行する必要があります。

- ◆ 自分のセクションがリーフセクション (子セクションを含まないセクション) であることを確認します。
- ◆ 追加した属性を明示的に使用するテンプレートを作成します。通常は、この方法を推奨します。テンプレートを使用してレイアウトを記述することで、思い通りに属性値を表示できるためです。

方法 1: セクションソースを「Style (スタイル)」に設定する

テンプレートを使用せずにセクションを作成する場合 (および、テンプレートが子セクションを含まないリーフセクションの場合) は、デフォルトのテンプレートによってドキュメントの属性値が生成されます。したがって、特別なアクションは必要ありません。そのセクションだけのドキュメントを生成するには、セクションの見出しを右クリックして、[Generate Doc for this Section (このセクションのドキュメントを生成する)] を選択します。ドキュメント全体を生成するには、最上部の [Generate Document (ドキュメントの生成)] アイコンをクリックします。

注: デフォルトのテンプレートによって生成される属性は、`textbox` (テキストボックス)、`textarea` (テキストエリア)、および `table` (テーブル) だけです (`checkbox` (チェックボックス)、`select` (選択)、`comment` (コメント) は生成されません)。

方法 2: カスタムレイアウト用のテンプレートを追加する

次のタスクを実行します。

- ◆ [373 ページの「テンプレートの作成」](#)
- ◆ [374 ページの「別のセクションとテンプレートの作成」](#)

テンプレートの作成

- 1 新しく作成したセクションを右クリックします。
- 2 [新規] > [テンプレート] を選択します。

```
Section Template
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<xsl:stylesheet version="1.0" xmlns:xsl="http://www.w3.org/1999/XSL/Transform" :
  <xsl:import href="dgSection.xsl"/>

<!-- /**
 * Default Section Definition
 *
 * The following logic represents the Layout Definition of this section.
 * Since the dgSection.xsl includes a default layout there is no need
 * to include any template definitions in this stylesheet. This template
 * is simply used as a place holder and an example.
 *
 * To change the layout for specific portions of this section, define
 * template(s) to override the dgSection.xsl behavior. Usually developers
 * will override one of the following template functions:
 * - Section.Body (most common)
 * - Section.Content
 * - Section.Title
 *
 * For more information refer to help in the Designer documentation.
 */ -->

<!-- /**
 * Table of Contents example (remove commenting below to enable)
 *
 * This template assumes you have your section source set
 * to 'style' (the default value), and demonstrates how to
 * render data taken from an XML source.
 */ -->
<!--
</xsl:stylesheet>
```

テンプレートには大半がコメントからなるデフォルトのコンテンツが含まれています。これらのコンテンツは初めてテンプレートを使用する際に役立ちます。この方法については次のタスクで説明します。ここでは、このテンプレート内のコメントを次の XSL コマンドで置換します。

```
<xsl:param name="MyAttribute"/><xsl:template
name="Section.Body"> MyAttribute:<xsl:call-template
name="Format.OutputTextArea">
<xsl:with-param name="value" select="$MyAttribute"/>
xsl:call-template> </xsl:template>
```

注：XSL 内に `Format.OutputTextArea` の呼び出しがありますが、これは `DocGen Core Support (DocGen コアサポート)` テンプレートに含まれているヘルパー関数です。テキストエリアには HTML コードを使用できますが、`Format.OutputTextArea` の呼び出しにより HTML コードが正しく解釈およびエスケープされます。ドキュメント生成用の主要な XSL ライブラリコールについては、[463 ページの付録 C「ドキュメントジェネレータのコアサポートテンプレート」](#)を参照してください。

テンプレートは次のようになるはずです。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<xsl:stylesheet version="1.0" xmlns:xsl="http://www.w3.org/1:
  <xsl:import href="dgSection.xsl"/>

  <xsl:param name="MyAttribute"/>

  <xsl:template name="Section.Body">
    MyAttribute:
    <xsl:call-template name="Format.OutputTextArea">
      <xsl:with-param name="value" select="$MyAttribute"/>
    </xsl:call-template>
  </xsl:template>
</xsl:stylesheet>
```

このセクションのドキュメントを生成すると、次のような結果が得られます。



別のセクションとテンプレートの作成

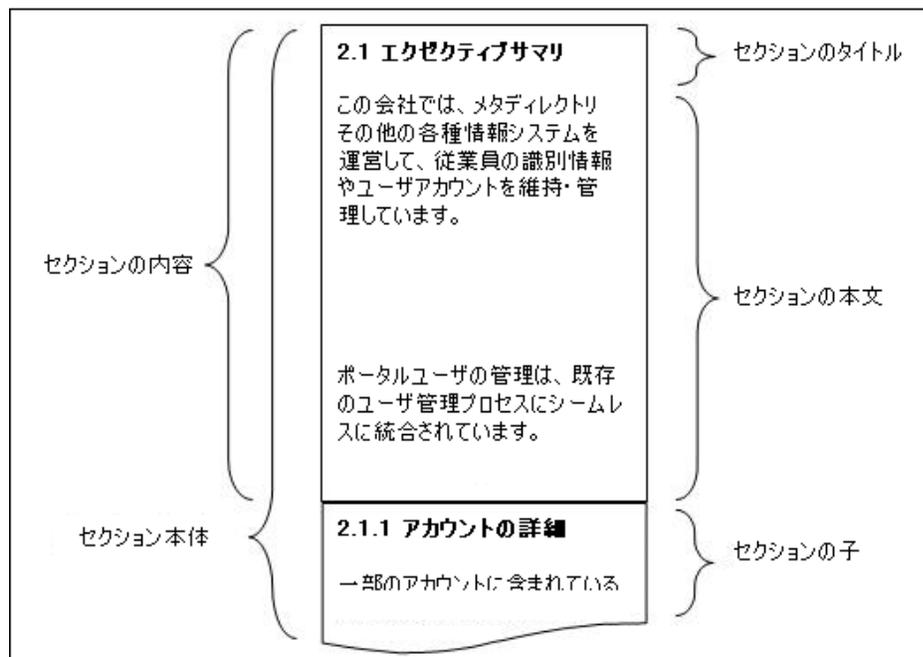
- 1 新しく作成したセクションを右クリックして、[New (新規)] > [Section (セクション)] の順に選択します。[Section Name (セクション名)] ウィンドウで、新しいセクションに「Table of Contents (目次)」と名前を付けます。
- 2 この新規作成したセクションを右クリックして、[New (新規)] > [Template (テンプレート)] の順に選択します。このテンプレートのコメントは慎重に目を通してください。これらの詳細は重要です。

カスタムのセクションを作成する際には、ドキュメントになんらかの情報を挿入することになります。コメントにも記載されているとおり、開発者は通常、次のいずれかのテンプレート関数を上書きします。

- ◆ セクションの本文 (最も一般的)
- ◆ セクションのコンテンツ
- ◆ セクションのタイトル

次の図は、定義されるセクションを示しています。スタイルの開発者は、このテンプレートを書いて関心のある領域を上書きします。

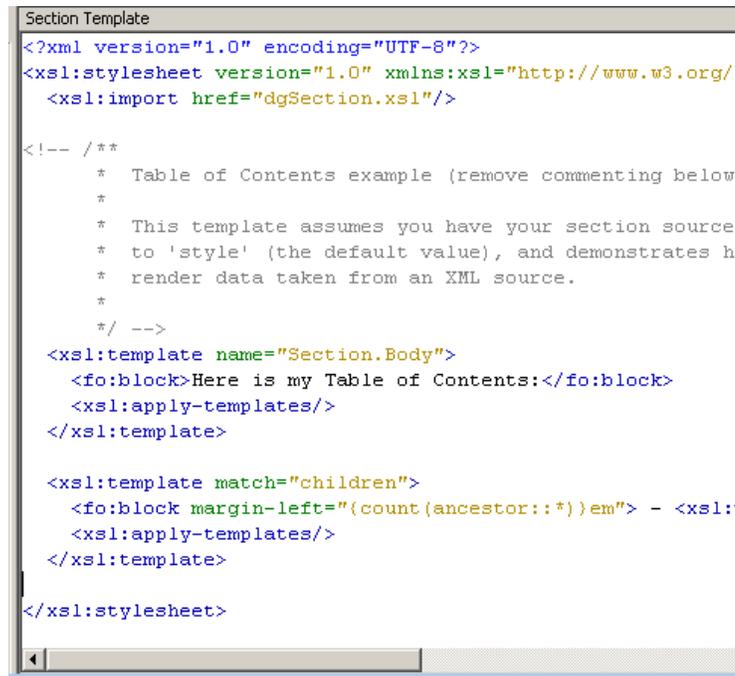
図 16-8 テンプレートの拡張ポイント



この例では、`Section.Body` を上書きします。`Title` のデフォルトの動作を変更する必要も、他のセクションとこのセクションの関係を変更する必要もないためです (そうした変更は、ここで上書きしなくても、階層ビューを使用して、デフォルトのテンプレートで制御

できます)。それには、デフォルトのテンプレートに出てくるサンプル関数のコメントを外します。次に上書き後の結果を示します。

図 16-9 テンプレートの上書き



```
Section Template
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<xsl:stylesheet version="1.0" xmlns:xsl="http://www.w3.org/
  <xsl:import href="dgSection.xsl"/>

<!-- /**
 * Table of Contents example (remove commenting below
 *
 * This template assumes you have your section source
 * to 'style' (the default value), and demonstrates ho
 * render data taken from an XML source.
 *
 */ -->
<xsl:template name="Section.Body">
  <fo:block>Here is my Table of Contents:</fo:block>
  <xsl:apply-templates/>
</xsl:template>

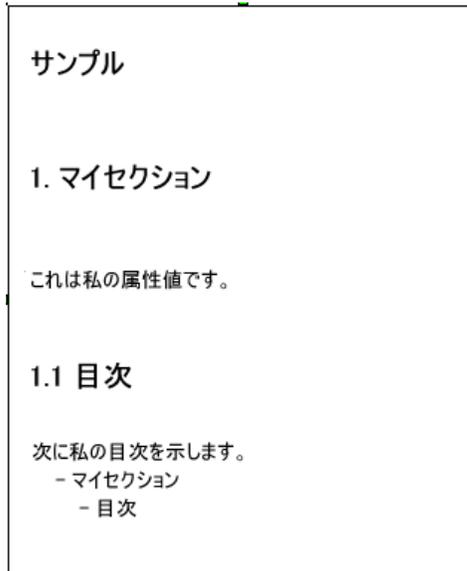
<xsl:template match="children">
  <fo:block margin-left="{count(ancestor::* )em}"> - <xsl:
  <xsl:apply-templates/>
</xsl:template>

</xsl:stylesheet>
```

この時点でドキュメントを生成しても、Table of Contents (目次) に内容は取り込まれません (周りのテキストを除く)。これは、スタイルソースがこのセクションに対して指定されていると、テンプレート側では想定するためです。ソースを指定するには：

- 1 Table of Contents (目次) セクションをクリックします。
- 2 [Properties (プロパティ)] ビューで、ソースに [style (スタイル)] を設定します。

- 3 [MySection] を右クリックして、[Generate Doc for this Section (このセクションのドキュメントを生成する)] を選択します。



ソースの表示

ドキュメントを生成すると、[Output XML Source Files (XML ソースファイルを出力)] というオプションがあります。このオプションの横にあるチェックボックスをクリックしてオンにしてください。ドキュメントを生成するとき、.xml ソースファイルが表示されるようになります。これらのソースファイルは、ソースを(例えば「style (スタイル)」などに)設定するときテンプレート内で使用される XML データです。Designer 1.1 以降では、次のソースが用意されています。

表 16-4 ソース (ソース)

Source Key (ソース キー)	説明
------------------------	----

none (なし)	空のソース。ソースが指定されていないとき、または [none (なし)] が指定されたときに使用されます。
style (スタイル)	スタイルの XML ソース。Table of Contents (目次) などを作成するときに使用されます。
designer (Designer)	Designer モデルの拡張ポイントによって定義されたソース。このソースには、designer プロジェクトの環境設定に関するすべての情報が格納されます。

16.4.3 ダブルバイトのサポート

今バージョンより、環境設定ファイルによって、ドキュメントの生成でダブルバイト文字がサポートされるようになりました。特定言語向けのダブルバイトサポートを追加するには:

- 1 <install location>/Designer/eclipse/plugins/com.novell.designer.idm.docgen.processor/fonts ディレクトリに移動します。

- 2 fop.xconf ファイルを開きます。
- 3 font-base タグのコメントを外し、フォントがインストールされている場所にフォントの場所を変更します。例 : <font-base>C:\myfontDirectory\</font-base>
- 4 フォントファイルからメトリックファイルを生成します。まず、<install location>/Designer/eclipse/plugins/com.novell.designer.idm.docgen.processor/fonts ディレクトリに移動します。TTC Font ファイルの場合は、generate-metric-from-ttc バッチファイル、または Linux 上の同等のシェルスクリプトを実行します。例 : generate-metrics-from-ttc.bat "MS Gothic" msgothic.ttc msgothic.xml
- 5 TTF Font ファイルの場合は、generate-metric-from-ttf.bat ファイル、または Linux 上の同等のシェルスクリプトを実行します。例 : generate-metric-from-ttf.bat C:\myfontDirectory\simhei.ttf c:\myfontDirectory\simhei.xml
- 6 font タグのコメントを外します。
 - 6a メトリック XML ファイルを指すように metrics-url 属性を変更します。
 - 6b メトリック XML ファイル embed-url 属性を変更します。
- 7 Document Generator (ドキュメントジェネレータ) を実行します。

上記の操作を実行すると、生成されるドキュメント内でフォントがグローバルに変更されます。

16.4.4 Styles Template Library (スタイルテンプレートライブラリ) への Style File (スタイルファイル) の保存

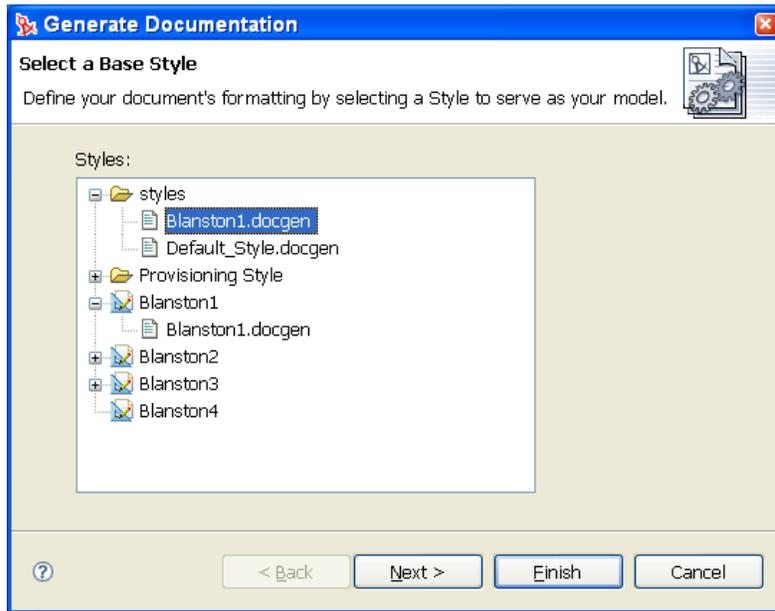
Designer では、プロジェクトのドキュメント生成に使用できるデフォルトのスタイルが用意されています。Default_Style.docgen ファイルは Novell\designer\eclipse\plugins\com.novell.designer.idm.docgen.editor_1.0.0\content\styles フォルダに格納されており、新しいスタイルを選択するときオプションとして表示されます。

ユーザ固有のスタイルファイルを ...\content\styles フォルダに追加しておく、新しいスタイルの基盤を選択するとき簡単に見つけることができます。

- 1 追加する .docgen ファイルを特定します。

デフォルトでは、このファイルは保存したプロジェクト内のディレクトリにあります。例えば、Blanston2.docgen ファイルは、workspace\Blanston2\documentation ディレクトリ内に作成されます。
- 2 .docgen ファイルを Styles Library (スタイルライブラリ)(Novell\designer\eclipse\plugins\com.novell.designer.idm.docgen.editor_1.2.0\content\styles) にコピーします。次回、

Designer を開いてドキュメントを生成するときには、styles フォルダ内に .docgen ファイルが表示されます。



16.5 ドキュメント生成時に発生する問題のトラブルシューティング

ドキュメント生成時に発生する問題のトラブルシューティングについては、[450 ページのセクション 19.5 「ドキュメント生成時の問題」](#)を参照してください。

Designer の展開機能は、プロジェクト、ドライバのセット、単一のドライバ、チャンネルおよびポリシーを、eDirectory™ ツリー内の展開済み Identity Manager システムに保存します。保存先のツリーは、本稼働用ツリーでもテストツリーでもかまいません。すべてのプロジェクトおよび実装ドライバのバックアップを作成するにはエクスポート機能を使用します。バックアップを作成しておけば、本稼働環境のドライバが破損するようなことがあっても、バックアップから復元できます。

展開機能は、ドライバを構成するポリシーを徹底的にテストしてから使用してください。ポリシーのテストには、ポリシーシミュレータを使用します (ポリシーを右クリックし、テスト中のポリシーのシミュレーション結果を表示します)。また、展開を使用して、テスト環境でポリシーをテストします。テストを終えたら、ドライバを本稼働環境に展開できます。

または、インポート機能を使用して既存の eDirectory ドライバ、チャンネル、ポリシーをインポートすることもできます。インポートしたら、オブジェクトを変更し、ポリシーシミュレータを実行してオブジェクトが正しく動作することを確認してから、テスト用ツリーに展開してさらに分析します。ポリシーの詳細については、『[ポリシービルダとドライバのカスタマイズガイド](#)』を参照してください。

展開する前に変更部分について調べる場合は、Compare (比較) 機能を使用して、展開するオブジェクトと eDirectory ツリー内に既に存在するオブジェクトとの相違点を確認できます。388 ページのセクション 17.6 「[比較機能の使用](#)」を参照してください。

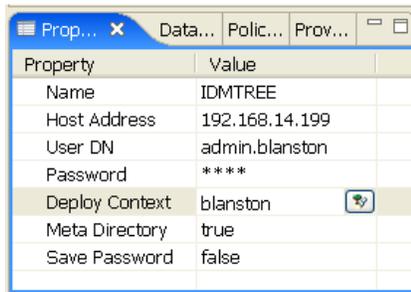
- ◆ [382 ページのセクション 17.1 「プロジェクトのアイデンティティボールドへの展開」](#)
- ◆ [383 ページのセクション 17.2 「ドライバセットのアイデンティティボールドへの展開」](#)
- ◆ [384 ページのセクション 17.3 「ドライバのアイデンティティボールドへの展開」](#)
- ◆ [386 ページのセクション 17.4 「チャンネルのアイデンティティボールドへの展開」](#)
- ◆ [387 ページのセクション 17.5 「ポリシーのアイデンティティボールドへの展開」](#)
- ◆ [388 ページのセクション 17.6 「比較機能の使用」](#)
- ◆ [392 ページのセクション 17.7 「プロジェクトのエクスポート」](#)
- ◆ [395 ページのセクション 17.8 「ファイルへのエクスポート」](#)
- ◆ [399 ページのセクション 17.9 「展開済みオブジェクトのトラブルシューティング」](#)

展開の準備

何かを展開するには、展開 DN (識別名)、すなわち、Identity Manager のプロジェクトまたはオブジェクトを展開するツリー内の場所を指定する必要があります。これには次の操作を行います。

- 1 展開するオブジェクトが格納されたアイデンティティボールドを選択し、[Project (プロジェクト)] / [Outline (アウトライン)] ビューの下の [Properties (プロパティ

]] ビューを確認します (アイデンティティポールドまたはドライバの [Properties (プロパティ)] ウィンドウを開いても同じ操作ができます)。



Property	Value
Name	IDMTREE
Host Address	192.168.14.199
User DN	admin.blanston
Password	****
Deploy Context	blanston
Meta Directory	true
Save Password	false

- 2 [Properties (プロパティ)] ビューで、アイデンティティポールドの [Name (名前)], [Host Address (ホストアドレス)], [User DN (ユーザ DN)], [Password (パスワード)], [Deployment DN (展開 DN)] の情報が入力されていない場合は、入力します。
- 3 [Deploy Context Distinguished Name (展開コンテキスト識別名)] については、[Browse (参照)] ボタンをクリックして既存のツリー上で検索します。ただし、他の情報がすべて正確で、Designer がツリーに接続できることが条件です。[Deploy Context Distinguished Name (展開コンテキスト識別名)] は、どのようなオブジェクト (ポリシーを含む) を展開する場合にも必要です。

ドライバセットをアイデンティティポールドの [Properties (プロパティ)] ビューで指定したのとは異なるコンテキストに展開する場合は、[Driver Set's Deploy Context (ドライバセットの展開コンテキスト)] エントリを使用することもできます。[Driver Set's Deploy Context (ドライバセットの展開コンテキスト)] エントリは、[Identity Vault's Deploy Context (アイデンティティポールドの展開コンテキスト)] エントリよりも優先されます。

重要: 展開を実行するには、展開先のアイデンティティポールドに関連付けられている eDirectory ツリーに対するアクセス権が必要です。

17.1 プロジェクトのアイデンティティポールドへの展開

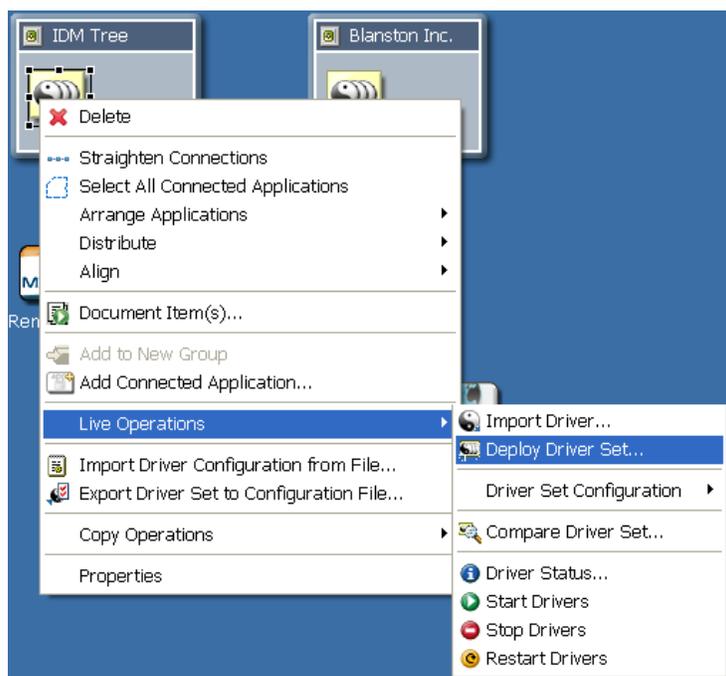
Identity Manager を実行している eDirectory ツリーにプロジェクトを展開するには、ドライバセット、ドライバ、チャネル、またはポリシーを展開するときと同じ手順を使用します。具体的な手順については [383 ページのセクション 17.2 「ドライバセットのアイデンティティポールドへの展開」](#) を参照してください。

Identity Manager ベースのプロジェクトやプロジェクト内のオブジェクトを展開するには、設計しているアイデンティティポールドに関連付けられている eDirectory ツリーにアクセスできることが必要です。展開 DN (識別名) のコンテキスト、または Identity Manager のドライバセットまたはドライバオブジェクトを展開するツリー内の場所も決めておく必要があります。

17.2 ドライバセットのアイデンティティポータルへの展開

テストツリーに配備する新しいドライバセットを作成済みか、ドライバセットをインポートおよび変更済みで、そのドライバセットを作業ツリーに展開して戻すケースを考えます。Identity Manager ドライバセットオブジェクト (およびそれに含まれるすべての Identity Manager ドライバ) を eDirectory ツリー内の既存の Identity Manager システムに展開するには、次の手順に従います。

- 1 [Modeler (モデラ)] ビューで [Driver Set (ドライバセット)] アイコンを右クリックして、[Live Operations (ライブ操作)] > [Deploy Driver Set(ドライバセットの展開)] の順にクリックします。

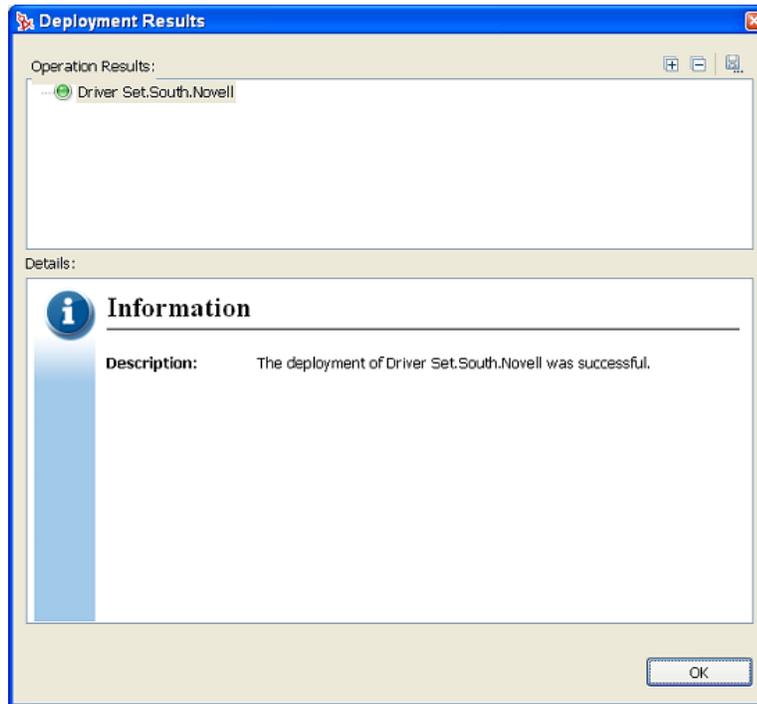


[Outline (アウトライン)] ビューからドライバセットオブジェクトを選択することもできます。[Outline (アウトライン)] タブをクリックし、ドライバセットオブジェクトを右クリックして、[Live Operations (ライブ操作)] > [Deploy Driver Set (ドライバセットの展開)] の順にクリックします。

アイデンティティポータルで指定されている eDirectory ツリーを Designe が認証できない場合、または展開先のアイデンティティポータルの [Properties (プロパティ)] タブに [Deployment DN (展開 DN)] が指定されていない場合は、エラーが表示されます。

- 2 [Compare (比較)] 機能を使用して、展開するオブジェクトと eDirectory 内に既存するオブジェクトとの相違点を確認します。388 ページのセクション 17.6 「比較機能の使用」を参照してください。
- 3 [Deploy Summary (展開の概要)] ページで [Deploy (展開)] をクリックします。

- 4 [OK] をクリックして、[Information (情報)] ウィンドウを閉じます。



- 5 (条件付き) 他の情報メッセージが表示された場合は、その内容に応じて対処方法を決定します。

[Deployment Results (展開結果)] ウィンドウに展開に失敗したという内容のメッセージが表示されることがあります。ウィンドウの [Operation Results (操作結果)] 部分に表示されたエラーメッセージをクリックすると、[Details (詳細)] 部分に考えられるエラーの原因についての説明が表示されます。

17.2.1 eDir2eDir の展開と SSL/TLS

デフォルトでは、SSL および TLS が有効になっていると、常に eDirectory 間接続の両端で展開されます。SSL/TLS が有効になっていると、ドライバを展開したとき、eDirectory ツリー内に証明書が作成されます。SSL と TLS は、デフォルトでは、有効になっておらず、構成もされません。

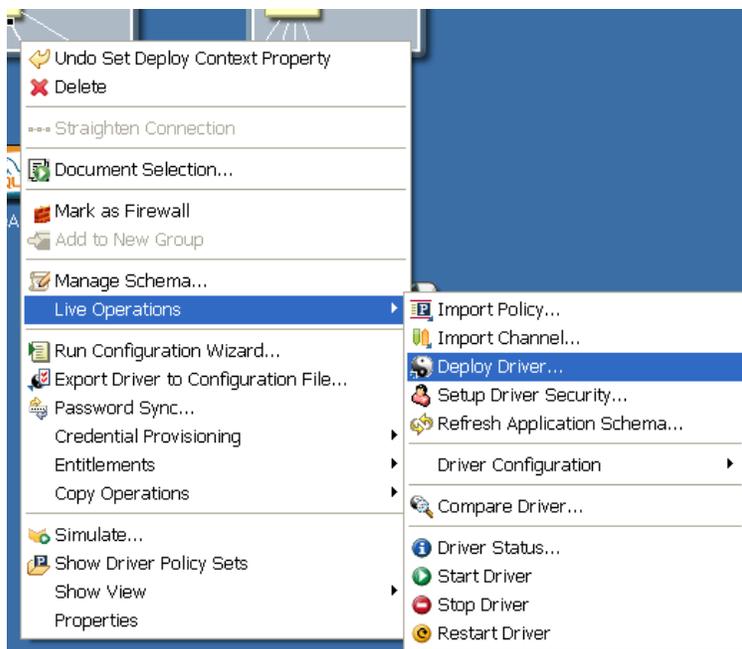
現在の SSL 設定を確認するには、[Window (ウィンドウ)] > [Preferences (初期設定)] > [Designer for IDM] > [Configuration (環境設定)] > [eDir2eDir SSL/TLS] を選択します。SSL を構成すると、展開機能は、[Certificate Overwrite Policy (証明書上書きポリシー)] の下の SSL 初期設定に従うようになります。

17.3 ドライバのアイデンティティボルトへの展開

テストツリーに展開する新しいドライバオブジェクトを作成済みの場合、またはドライバオブジェクトをインポートして大幅に変更した後、そのドライバセットを作業ツリーに展開して戻す場合を考えます。Identity Manager ドライバオブジェクト (およびそれに含まれ

るすべてのチャンネルとポリシー)をドライバセットに展開するには、次の手順に従います。

- 1 [Modeler (モデラ)] ビューでアイデンティティポータルを選択します。
- 2 アイデンティティポータルで、[Driver Set (ドライバセット)] アイコンに接続されているドライバオブジェクトを右クリックします。
ドライバオブジェクトは円型アイコンで表されます。
- 3 [Live Operations (ライブ操作)] > [Deploy Driver (ドライバの展開)] をクリックします。

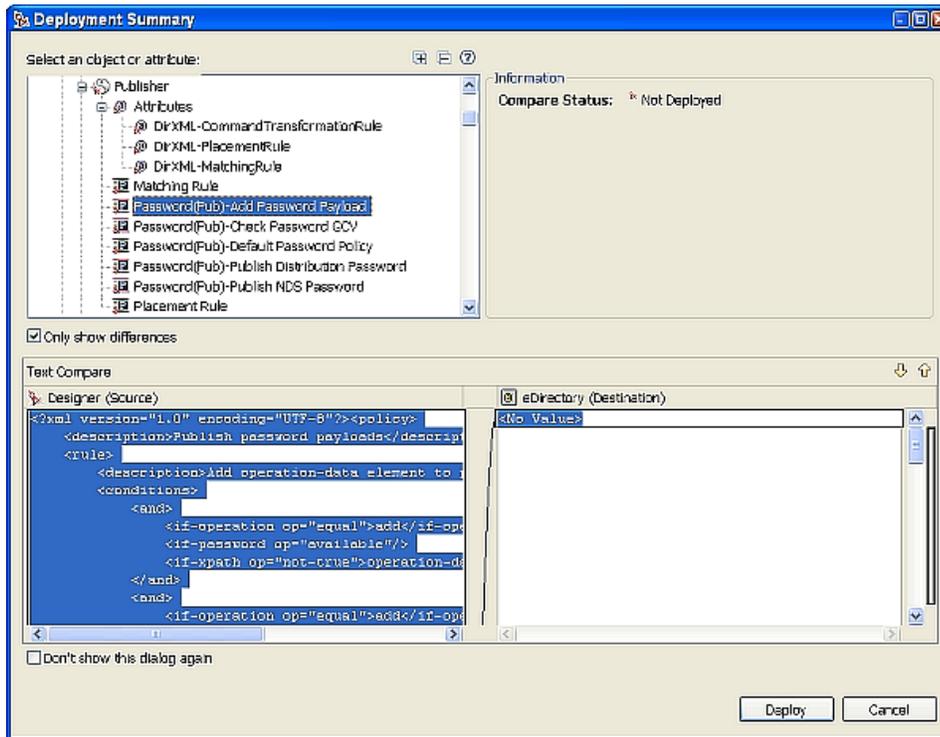


[Outline (アウトライン)] ビューからドライバオブジェクトを選択することもできます。[Outline (アウトライン)] タブをクリックし、展開するドライバオブジェクトを右クリックして、[Live Operations (ライブ操作)] > [Deploy Driver (ドライバの展開)] の順にクリックします。

アイデンティティポータルで指定されている eDirectory ツリーを Designe が認証できない場合、または展開先のアイデンティティポータルの [Properties (プロパティ)] タブに [Deployment DN (展開 DN)] が指定されていない場合は、エラーが表示されます。

- 4 [Deployment Summary (展開の概要)] ウィンドウには、展開するオブジェクトと eDirectory 内に既に存在するオブジェクトとの相違点が表示されます。これは [Compare (比較)] ウィンドウと同じです。[Compare (比較)] ウィンドウの使い方

の詳細については、388 ページのセクション 17.6 「比較機能の使用」を参照してください。



- 5 [Deploy (展開)] をクリックしてプロセスを開始します。
- 6 [OK] をクリックして [Deployment Results (展開結果)] ウィンドウを閉じます。
- 7 (条件付き) 他の情報メッセージが表示された場合は、その内容に応じて対処方法を決定します。

[Deployment Results (展開結果)] ウィンドウに展開に失敗したという内容のメッセージが表示されることがあります。ウィンドウの [Operation Results (操作結果)] 部分に表示されたエラーメッセージをクリックすると、[Details (詳細)] 部分に考えられるエラーの原因についての説明が表示されます。

17.4 チャンネルのアイデンティティポータルへの展開

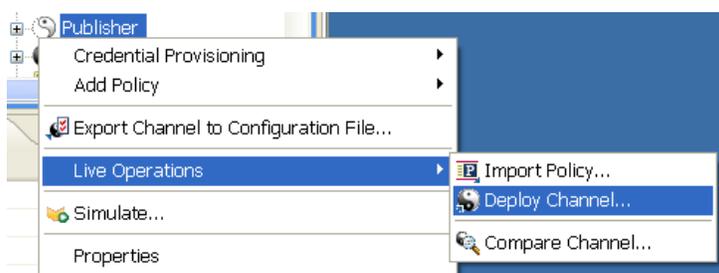
チャンネルとは、ルールとポリシーを組み合わせたものです。Designer では、必要に応じて、チャンネルオブジェクトをドライバに展開できます。購読者チャンネルと発行者チャンネルは、それぞれ情報が流れる方向を示しています。購読者チャンネルは、アイデンティティポータル (eDirectory) からイベントを受け取り、接続システム (アプリケーション、データベース、または CSV ファイル) に送信します。発行者チャンネルは、アプリケーション、データベース、CSV ファイルなどからイベントを受け取り、アイデンティティポータルに送信します。購読者チャンネルと発行者チャンネルは独立に動作し、一方のチャンネルでのアクションは、もう一方のチャンネルには影響を与えません。

チャンネルオブジェクトは新しく作成されたドライバの一部であるか、既存のドライバの一部でなければなりません。後者の場合はドライバを変更する必要があります。ドライバオブジェクトは、Designer または iManager ユーティリティによって作成されます。チャネ

ルオブジェクトはドライバオブジェクトの一部なので、既存のドライバオブジェクトに展開します。単にチャンネルオブジェクトだけを展開すると、そのチャンネルオブジェクトのブレースホルダーとしてスケルトンドライバが作成されます。

Identity Manager チャンネル (購読者チャンネルまたは発行者チャンネル) オブジェクト (および含まれているすべてのポリシー) をアイデンティティポールのドライバに展開するには:

- 1 [Outline (アウトライン)] タブで、ドライバオブジェクトの下のチャンネルオブジェクトを選択します。ドライバオブジェクトは円形アイコンで表されます。発行者アイコンは円形アイコンに黒のドット、購読者アイコンは円形アイコンに白のドットで表示されます。
- 2 展開するチャンネルオブジェクトを右クリックして、[Live Operations (ライブ操作)] > [Deploy Channel (チャンネルの展開)] の順にクリックします。



アイデンティティポールの指定されている eDirectory ツリーを Designe が認証できない場合、または展開先のアイデンティティポールの [Properties (プロパティ)] タブに [Deployment DN (展開 DN)] が指定されていない場合は、エラーが表示されます。

- 3 [Deployment Summary (展開の概要)] ウィンドウには、展開するオブジェクトと eDirectory 内に既に存在するオブジェクトとの相違点が表示されます。このウィンドウの形式は [Compare (比較)] ウィンドウと同じです。[Compare (比較)] ウィンドウの使い方の詳細については、[388 ページのセクション 17.6 「比較機能の使用」](#) を参照してください。

アイデンティティポールの指定されている eDirectory ツリーを Designe が認証できない場合、または展開先のアイデンティティポールの [Properties (プロパティ)] タブに [Deployment DN (展開 DN)] が指定されていない場合は、エラーが表示されます。

- 4 [Deployment Summary (展開の概要)] ページで [Deploy (展開)] をクリックします。
- 5 チャンネルが展開されたら、[OK] をクリックして [Deployment Results (展開結果)] ウィンドウを閉じます。

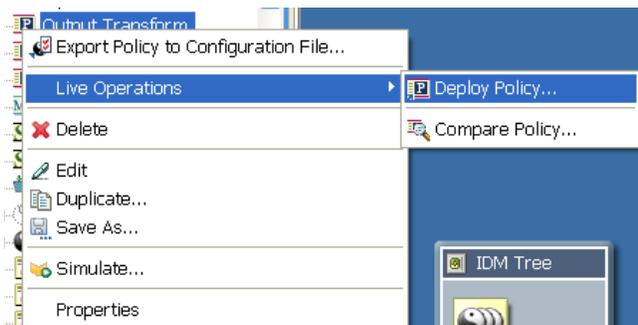
17.5 ポリシーのアイデンティティポールの展開

ポリシーとは、ルールと引数のコレクションです。ポリシーを使用してアプリケーションを設定すると、アプリケーションとアイデンティティポールの (eDirectory) の間でイベントを送受信できるようになります。ポリシーは、アイデンティティポールのアプリケーションから受信するデータの操作に使用します。各ドライバはさまざまなタスクを実行しますが、ポリシーは、それらのタスクを実行するためにデータを操作する方法をドライバ

に伝えます。ポリシーの詳細については、『[ポリシービルダとドライバのカスタマイズガイド](#)』を参照してください。

Identity Manager ベースのポリシーオブジェクト (ルールやスタイルシートなど) をドライバまたはチャンネル (購読者または発行者) に展開するには:

- 1 [Outline (アウトライン)] タブをクリックして、ドライバオブジェクトまたはチャンネルオブジェクトの下のポリシーを選択します。ポリシーのタイプには、DirXML® スクリプト、スキーママッピング、XSLT スタイルシートがあります。タイプごとに固有のアイコンが用意されています。
- 2 ポリシーオブジェクトを右クリックして、[Live Operations (ライブ操作)] > [Deploy Policy (ポリシーの展開)] の順に選択します。



アイデンティティボールドで指定されている eDirectory ツリーを Designe が認証できない場合、または展開先のアイデンティティボールドの [Properties (プロパティ)] タブに [Deployment DN (展開 DN)] が指定されていない場合は、エラーが表示されます。

- 3 [Deployment Summary (展開の概要)] ウィンドウには、展開するオブジェクトと eDirectory 内に既に存在するオブジェクトとの相違点が表示されます。このウィンドウの形式は [Compare (比較)] ウィンドウと同じです。[Comapare (比較)] ウィンドウの使い方の詳細については、[388 ページのセクション 17.6 「比較機能の使用」](#)を参照してください。
- 4 [Deployment Summary (展開の概要)] ページで [Deploy (展開)] をクリックします。
- 5 チャンネルが展開されたら、[OK] をクリックして [Deployment Results (展開結果)] ウィンドウを閉じます。

17.6 比較機能の使用

Designer の比較機能を使用すると、プロジェクトに格納されているドライバセット、ドライバ、チャンネル、ポリシーの各要素と、展開済みシステムで実行されている同じ各要素との間で相違点を確認できます。旧バージョンの Designer では、ドライバのインポート時にしか衝突の解決機能を使用できませんでした。インポート時に、更新するドライバのポリシーを選択することはできましたが、既存の値と新しい値の相違点を表示することはできませんでした。

Designer 1.2 では、オブジェクト単位の衝突の解決が可能であり、ドライバセット、ドライバ、チャンネル、ポリシーをインポートおよび展開する際に、既存の値と新しい値を表示することができます。例えば、Designer 内のドライバオブジェクトをアイデンティティボールド内の既存のドライバオブジェクトに展開する前に、[Compare (比較)] を実行できます。[Compare (比較)] では、各ドライバオブジェクトが等しいか (アクションは不

要)、等しくないかが表示されます。等しくない場合は、「ドライバオブジェクトの相違点をそのままにしておく」、「Designer 側のドライバオブジェクトを更新する」、「eDirectory 側のドライバオブジェクトを更新する」、のうちいずれかを選択できます。

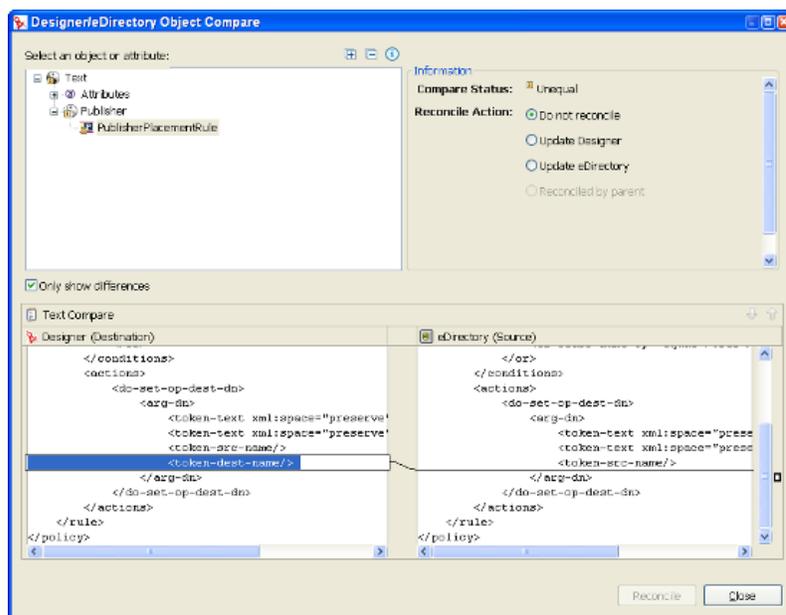
[Compare (比較)] 機能はいつでも実行できます。比較の際に Designer 側と eDirectory™ 側のドライバオブジェクトの違いを調整するようにすれば、あえてインポートや展開を実行する必要はありません。

- ◆ 389 ページのセクション 17.6.1 「ドライバオブジェクト展開時の比較の使用」
- ◆ 392 ページのセクション 17.6.2 「チャンネルオブジェクトを展開する前の比較の使用」
- ◆ 392 ページのセクション 17.6.3 「ポリシーを展開する前の比較の使用」
- ◆ 392 ページのセクション 17.6.4 「属性と Designer のプロパティとの照合」

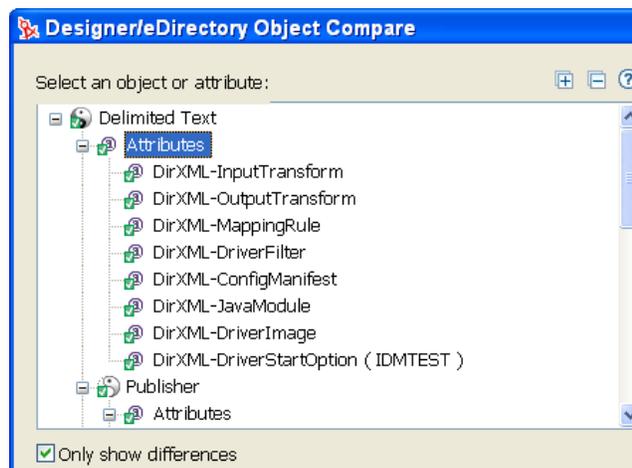
17.6.1 ドライバオブジェクト展開時の比較の使用

Designer 内のドライバオブジェクトに対して行ったすべての変更を、アイデンティティポールの同じドライバに対して展開したかどうかを確認するとします。

- 1 [Modeler (モデラ)] ビューまたは [Outline (アウトライン)] ビューで、ドライバオブジェクトを右クリックします。[Live Operations (ライブ操作)] > [Compare Driver (ドライバの比較)] を選択して、[Designer/eDirectory Object Compare (Designer/eDirectory オブジェクト比較)] ウィンドウを表示します。

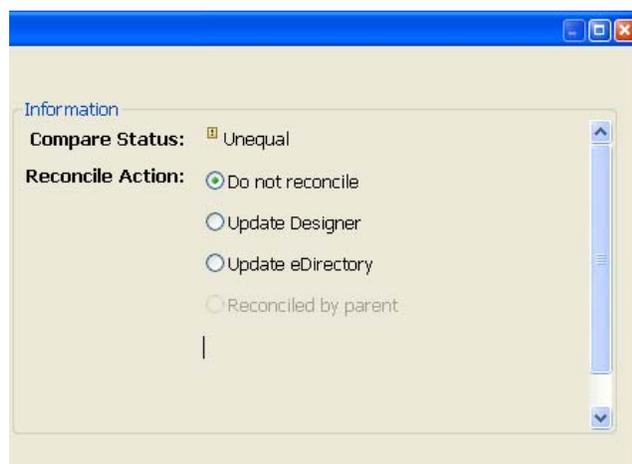


ウィンドウの [Select an object or attribute (オブジェクトまたは属性を選択)] の部分に、オブジェクトと属性のリストが表示されます。属性または子オブジェクトを選択すると、[Text Compare (テキスト比較)] 部分に実際の相違点が表示されます。



[Select an object or attribute(オブジェクトまたは属性を選択)] の右側にある [+ (プラス記号)] をクリックすると、親オブジェクト内のすべての要素が展開表示され、[- (マイナス記号)] をクリックするとすべての要素が縮小表示されます。[?] アイコンをクリックすると、[Summary/Compare (比較の概要)] ダイアログボックスのヘルプが表示されます。サーバ固有の属性とは、特定のドライバセットに関連付けられた各サーバ固有の属性のことです。これらの属性は [Attributes (属性)] リストに表示されます。属性名の右側の括弧内に表示されているのはサーバ名です。

- 2 [Compare (比較)] ウィンドウには、デフォルトでは、eDirectory と Designer とで異なるオブジェクト値だけが表示されます。すべてのオブジェクト値を表示するには、[Only Show Differences (相違点のみを表示)] チェックボックスをオフにします。
- 3 表示された値のステータスを確認します。等しい値には、[Compare (比較)] ウィンドウの [Information (情報)] 部分の [Compare Status (比較ステータス)] 行に [Equal (一致)] と表示されます。



次の表に、[Compare Status (比較ステータス)] 行の意味について説明します。

比較ステータス	説明
Equal (一致)	選択した属性の値または選択したオブジェクトのすべての属性が、eDirectory と Designer で一致しています。
Unequal (不一致)	選択した属性の値または選択したオブジェクトの 1 つ以上の属性が、eDirectory と Designer で異なっています。
Not Deployed (未展開)	選択したオブジェクトまたは選択した属性を含むオブジェクトが、eDirectory に展開されていません。
Not Imported (未インポート)	選択したオブジェクトまたは選択した属性を含むオブジェクトが、Designer 内に存在しません。

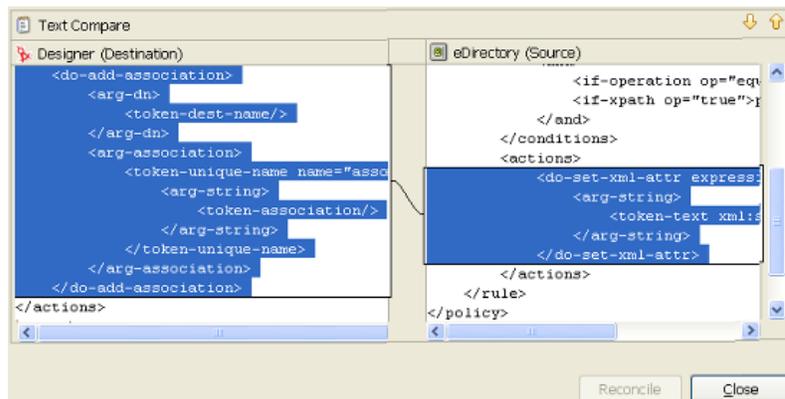
オブジェクトと属性ツリーに表示されたオーバーレイ画像は、調和を必要とするオブジェクトまたは属性を表します。

- 4 [Compare (比較)] ウィンドウの [Information (情報)] 部分で、[Source (ソース)] と [Destination (ターゲット)] 間の相違を調整する方法を選択します。

[Compare Status (比較ステータス)] に [Unequal (不一致)] と表示されている場合は、3 つの選択肢があります。最初は、何もせず、デフォルトの [Do Not Reconcile (調整しない)] をそのまま使用する選択肢です。2 つ目は、eDirectory 側のドライバと同じ情報になるように Designer 側のドライバを更新する選択肢 [Update Designer (Designer を更新)] です。3 つ目は、Designer 側のドライバに対して行った変更内容を eDirectory 側のドライバに反映させる選択肢 [Update eDirectory (eDirectory を更新)] です。

親オブジェクトと調整するすべての子オブジェクトには、アイコンの最下部に緑のチェックボックスが表示されます。親オブジェクトを選択して更新を実行すると、その親オブジェクトの下のすべての子オブジェクトも選択され、[Reconciled By Parent (親単位で調整)] ボタンがオンになります。親オブジェクトを選択しない場合は、各子オブジェクトを個別に調整できます。各オブジェクトの調整方法を示す小さな Designer アイコンと eDirectory アイコンも表示されます。

- 5 [Text Compare (テキスト比較)] 値を確認します。[Designer/eDirectory Object Compare (Designer/eDirectory オブジェクト比較)] ウィンドウの最下部に表示される [Text Compare (テキスト比較)] 値は、比較対象のオブジェクトによって変わります。例えば、[Compare (比較)] では、ポリシーまたは XML データに対する変更が表示されます。[Text Compare (テキスト比較)] ダイアログボックスでは、Eclipse Compare (比較) エディタを使用して、XML データを含む属性を比較します。コード内の相違点は青で強調表示されます。



- 6 相違点を確認したら、[Reconcile (調整)] をクリックして、ツリー内のオブジェクトごとに調和アクションを実行します。[Close (閉じる)] をクリックすると、[Designer/eDirectory Object Compare (Designer/eDirectory オブジェクト比較)] ウィンドウが閉じます。

17.6.2 チャネルオブジェクトを展開する前の比較の使用

アイデンティティボールド内のチャネルオブジェクトと Designer 内に存在する同じチャネルオブジェクトを展開するとします。この2つのチャネルを比較することで、類似点と相違点を確認できます。

- 1 [Outline (アウトライン)] ビューで、チャネルオブジェクトを右クリックします。[Live Operations (ライブ操作)] > [Compare Channel (チャネルの比較)] を選択して、[Designer/eDirectory Object Compare (Designer/eDirectory オブジェクト比較)] ウィンドウを表示します。

各 [Compare (比較)] ウィンドウの動作は、[389 ページのセクション 17.6.1 「ドライバオブジェクト展開時の比較の使用」](#) で説明したとおりです。

17.6.3 ポリシーを展開する前の比較の使用

アイデンティティボールド内のポリシーと Designer 内に存在する同じポリシーを展開するとします。この2つのポリシーを比較することで、類似点と相違点を確認できます。

- 1 [Outline (アウトライン)] ビューで、ポリシーオブジェクトを右クリックします。[Live Operations (ライブ操作)] > [Compare Policy (ポリシーの比較)] を選択して、[Designer/eDirectory Object Compare (Designer/eDirectory オブジェクト比較)] ウィンドウを表示します。

各 [Compare (比較)] ウィンドウの動作は、[389 ページのセクション 17.6.1 「ドライバオブジェクト展開時の比較の使用」](#) で説明したとおりです。

17.6.4 属性と Designer のプロパティとの照合

オブジェクトの属性は、単一選択属性リストに表示されます。属性を選択すると、その値が属性リストの下に、Designer 値が左側に、eDirectory 値が右側に表示されます。リストに表示された名前は eDirectory 属性の名前です。

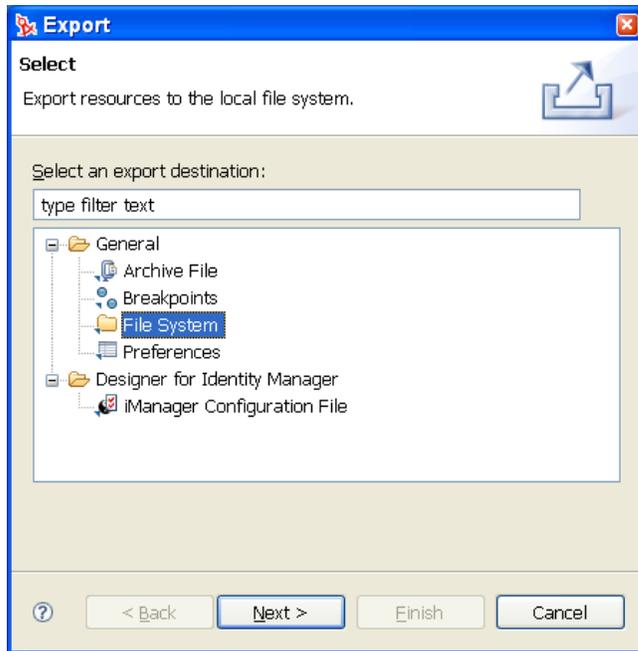
3つのテーブルは、eDirectory 属性を Designer のプロパティページやコントロールにマッピングします。このテーブルで属性を変更または設定できます ([Compare (比較)] ウィンドウ内では変更できません)。178 ページの表 8-1 には eDirectory ドライバセット属性が、178 ページの表 8-2 には eDirectory ドライバ属性が、180 ページの表 8-3 には eDirectory チャネル属性が表示されます。

17.7 プロジェクトのエクスポート

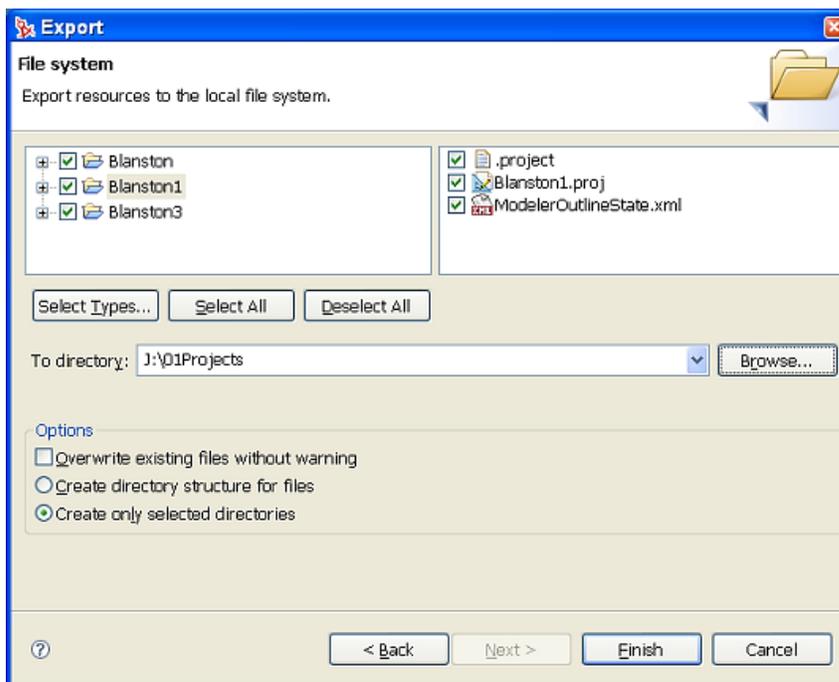
Designer のエクスポート機能を使用すると、プロジェクトおよびドライバの環境設定ファイルをローカルディレクトリ、リムーバブルディレクトリ、またはネットワークディレクトリにエクスポートできます。

- 1 [File (ファイル)] > [Export (エクスポート)] の順にクリックします。

- 2 [Export (エクスポート)] ウィンドウで、既存の Identity Manager プロジェクトをファイルシステムまたはアーカイブファイルにエクスポートできます。[General (一般)] > [File System (ファイルシステム)] を選択し、[Next (次へ)] をクリックします。



- 3 [Export File System (ファイルシステムのエクスポート)] ウィンドウで、エクスポートするプロジェクトを選択します。



- 4 [Select All (すべて選択)] をクリックして、Designer の \workspace ディレクトリ (Windows の場合は、C:\Documents and Settings\user's_login_name\workspace がデフォルトの場所) にあるすべてのプロジェクトを選択します。

あるいは、[Deselect All (すべてクリア)] をクリックして選択を解除してから、エクスポートするプロジェクトを個別に選択します。

重要: 後でプロジェクトのインポートが機能するようにするには、プロジェクトに関連するすべての項目を選択する必要があります。

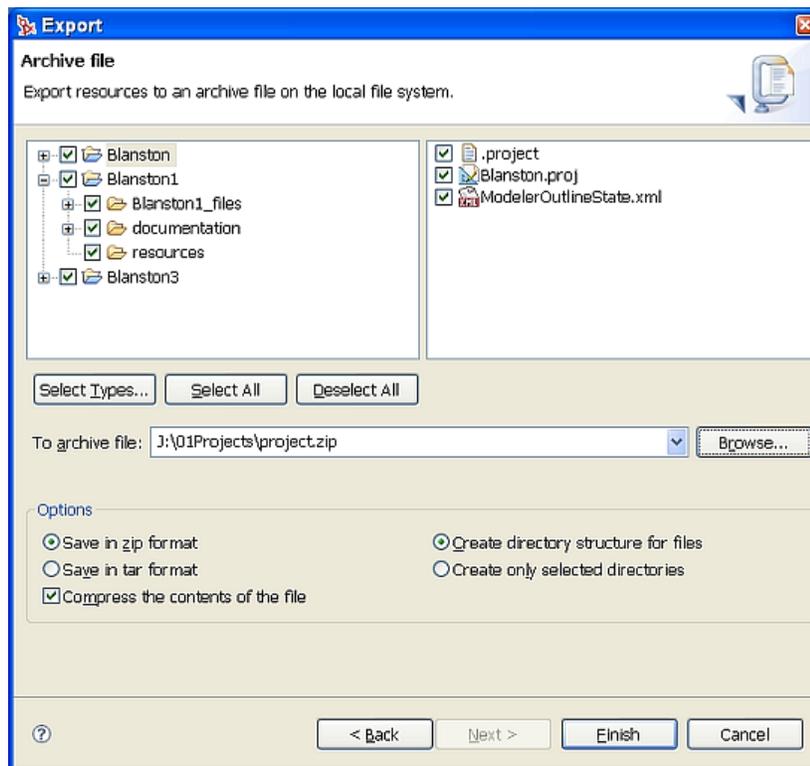
[Select Types (タイプの選択)] ボタンは Eclipse (Designer が動作するプラットフォーム) の機能であり、Designer の機能ではありません。

リソースを選択するディレクトリの場所を参照することもできます。

- 5 プロジェクトのエクスポート先ディレクトリを指定したら、[Create directory structure for files (ファイルのディレクトリ構造の作成)]、[Finish (完了)] の順にクリックします。
- 6 [Save Resources (リソースの保存)] ウィンドウで、保存するプロジェクトを選択し、[OK] をクリックします。

プロジェクトをアーカイブファイルにエクスポートすることもできます。

- 1 [File (ファイル)] > [Export (エクスポート)] の順にクリックします。
- 2 [Export (エクスポート)] ウィンドウで [General (一般)] > [Archive File (アーカイブファイル)] の順に選択し、[Next (次へ)] をクリックします。



- 3 アーカイブするプロジェクトを選択します。
- 4 アーカイブファイルを保存する場所を指定します。

- 5 アーカイブ形式 (zip または tar) を選択します。
- 6 ファイルの内容を圧縮するかどうか、ファイルのディレクトリ構造を維持する (推奨) かどうかを選択して、[Finish (完了)] をクリックします。

17.8 ファイルへのエクスポート

エクスポート機能を使用すると、プロジェクト全体 (すべてのアイデンティティポールドとそのドライバセットを含む) から単一のポリシーまで、Designer で作成したすべての要素をエクスポートできます。ポリシーのみが含まれるドライバ環境設定ファイルをエクスポートすると、チャンネル、ドライバまたはドライバセットなどの親コンテナが、エクスポート済みポリシーオブジェクトの一部として作成されます。こうした親コンテナオブジェクトは、属性がなく、チャンネル、ドライバ、またはドライバセットのフレームワークの役割を果たします。

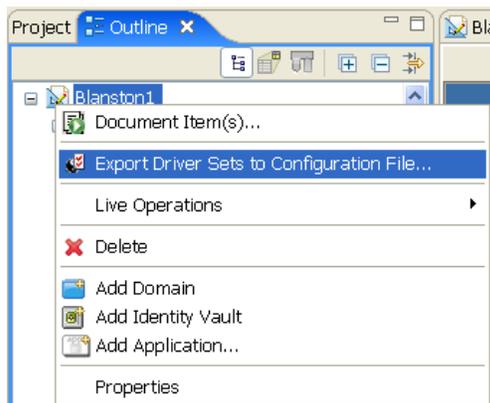
エクスポートされた .xml ファイルは、Identity Manager 2.0.2 以降の iManager ドライバ環境設定ファイルのプラグインで使用する .xml ファイルと互換性があります。ですから、Designer からエクスポートした環境設定ファイルを、iManager または Designer のインポート機能を使用してインポートできます。

ドライバ環境設定をファイルにエクスポートするには、次の方法があります。

- ◆ [エクスポート] コンテキストメニュー
- ◆ [Developer Modeler (開発者モデラ)] ビューでオブジェクト (一部を除く) を右クリック
- ◆ [Outline (アウトライン)] ビューでオブジェクト (一部を除く) を右クリック

17.8.1 [エクスポート] コンテキストメニュー

- 1 [Modeler (モデラ)] ビューで、すべてのドライバセット、ドライバ、チャンネル、ポリシーをエクスポートするには、まず、[Outline (アウトライン)] ビューの最上部にある [プロジェクト名] を右クリックします。
- 2 次に、[Export Driver Sets to Configuration File (ドライバセットを環境設定ファイルにエクスポートする)] を選択します。



Designer は指定されたプロジェクト内に見つかったドライバセットの名前を取り込み、.xml ファイルの名前として使用します。2 つ以上のアイデンティティポールドがある場合、またはアイデンティティポールド内に 2 つ以上のドライバセットがある場

合は、各ドライバセットについて [Export Driver Configuration(ドライバ環境設定のエクスポート)] ウィンドウが表示されます。

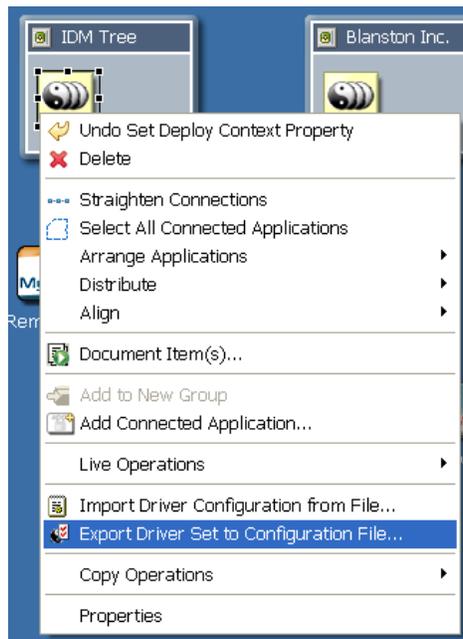
- 3 後で参照するときのために、各ドライバセットには、ドライバセットであることと、それが格納されていたアイデンティティポールドが分かる名前をつけます。ドライバセット名に日付をいれることもできます。名前をつけたら [保存] をクリックします。
- 4 [Export Configuration Results (環境設定エクスポートの結果)] ウィンドウを閉じるには、[OK] をクリックします。

17.8.2 [Modeler (モデラ)] ビューからの環境設定ファイルのエクスポート

[Modeler (モデラ)] ビューでは、ドライバセットまたは単一のドライバをエクスポートできます。

ドライバセット環境設定ファイルをエクスポートするには、次の操作を実行します。

- 1 [プロジェクト] ビューのプロジェクト名の下にある [システムモデル] アイコンをダブルクリックして、[Modeler (モデラ)] ビューにプロジェクトモデルを開きます。
- 2 [アイデンティティポールド] アイコン内のドライバセットオブジェクトを右クリックし、[Export Driver Set to Configuration File(ドライバセットを環境設定ファイルにエクスポート)] を選択します。



- 3 [Export Driver Configuration (ドライバ環境設定のエクスポート)] ウィンドウで、後で参照するとき使用するファイル名と場所を選択します。同じドライバを繰り返し保存する場合は、ファイル名に日付を追加します。

デフォルトでは、選択したオブジェクトに対応したドライバまたはドライバセットの名前が提示されます。[アイデンティティポールド] または [ドライバセット] オブジェクトを右クリックすると、[File Name(ファイル名)] エントリにドライバセット名が表示されます。アイデンティティポールド内に2つ以上のドライバセットオブ

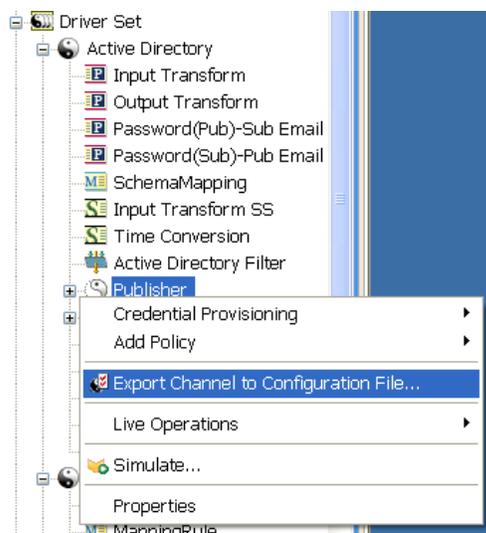
ジェクトがある場合は、[Export Driver Configuration(ドライバ環境設定のエクスポート)] ウィンドウが表示されます。各ドライバセットオブジェクトの File Name エントリーにはドライバセットの名前が設定されます。

- 4 ファイルを格納するディレクトリを選択し、[保存] をクリックします。

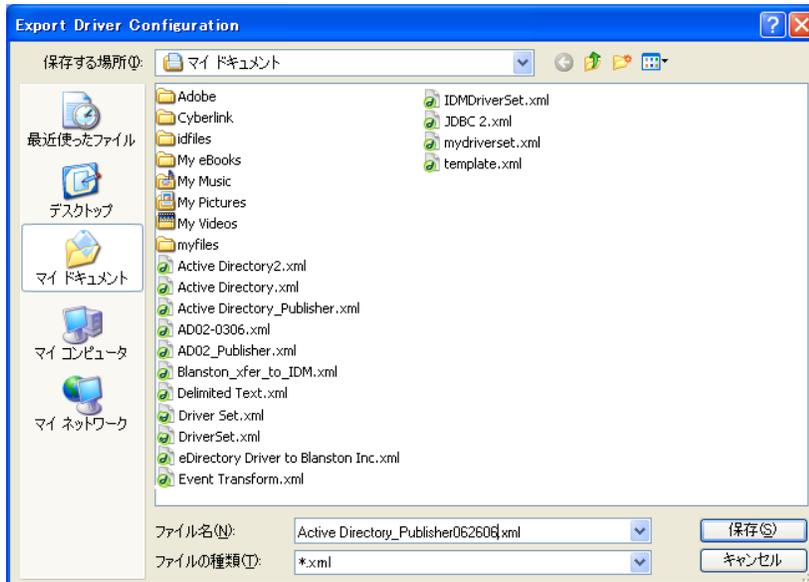
17.8.3 [Outline (アウトライン)] ビューからの環境設定ファイルのエクスポート

[Outline (アウトライン)] ビューを使用して、ドライバセット、ドライバ、チャンネル、およびポリシー環境設定ファイルを、ローカルディレクトリ、リムーバルディレクトリ、またはネットワークディレクトリに保存できます。チャンネルまたはポリシーをエクスポートするには、次の手順に従います。

- 1 [Project (プロジェクト)] ビューでプロジェクト名の下に [System Model (システムモデル)] アイコンをダブルクリックします。この操作により、[Modeler (モデラ)] ビューにプロジェクトが表示されます。
- 2 [Outline (アウトライン)] タブをクリックします。
- 3 ドライバオブジェクトの下にチャンネルオブジェクトを右クリックし、[Export Channel to Configuration File(チャンネルを環境設定ファイルにエクスポート)] を選択します。



- 4 [Export Driver Configuration (ドライバ環境設定のエクスポート)] ウィンドウで、後で参照するとき使用するファイル名と場所を選択します。ファイルの複数のコピーをバックアップする場合は、ファイル名に日付を追加します。

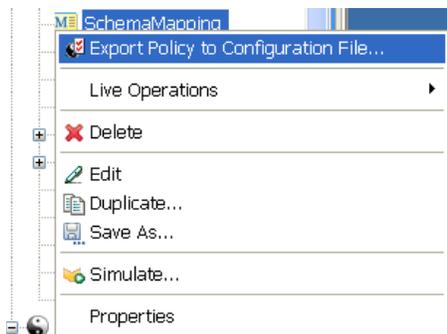


デフォルトでは、選択したオブジェクトに対応したドライバまたはオブジェクトの名前が提示されます。この例では、Active Directory ドライバの発行者チャンネルであることが分かる名前になっています。

- 5 [Save (保存)] をクリックします。
- 6 [Export Configuration Results (環境設定エクスポートの結果)] ウィンドウで、[OK] をクリックします。

ドライバまたはチャンネルから複数のポリシーをエクスポートするには、次の操作を実行します。

- 1 [Outline (アウトライン)] ビューで、ポリシーオブジェクトを右クリックし、[Export a Policy to Configuration File(ポリシーを環境設定ファイルにエクスポート)] を選択します。



Ctrl キーを使用して複数のポリシーを選択し、選択したポリシーグループを右クリックして、[Export Policy to Configuration File(ポリシーを環境設定ファイルにエクスポート)] を選択します。

- 2 [Export Driver Configuration (ドライバ環境設定のエクスポート)] ウィンドウで、後で参照するとき使用するファイル名と場所を選択します。ファイルの複数のコピーをバックアップする場合は、ファイル名に日付を追加します。
- 3 選択したポリシーごとに、[保存] をクリックします。各ポリシーは固有の .xml ファイルに保存されます。デフォルトでは、選択したポリシーまたはルールの名前が使用されます。
- 4 [Export Configuration Results (環境設定エクスポートの結果)] ウィンドウで、[OK] をクリックします。

17.9 展開済みオブジェクトのトラブルシューティング

展開済みオブジェクトのトラブルシューティングについては、[432 ページのセクション 19.4 「Identity Manager オブジェクトの展開」](#) を参照してください。

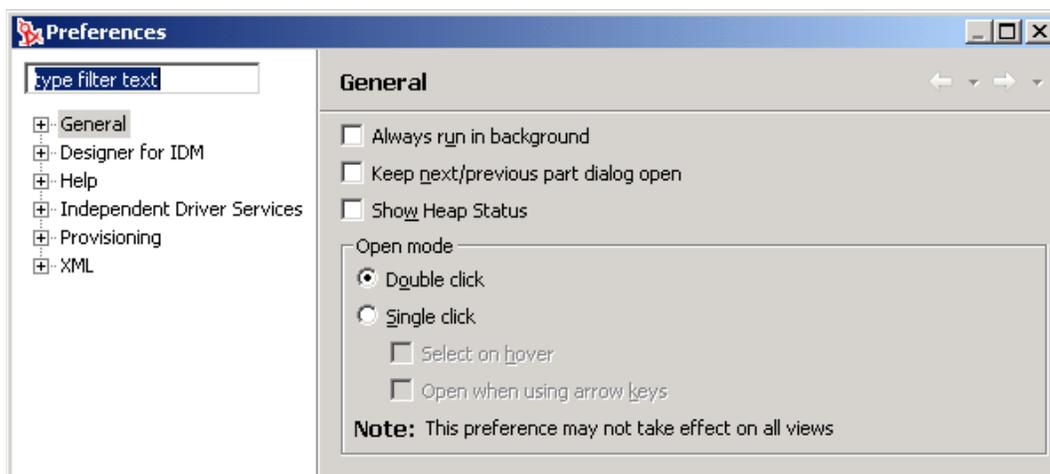
初期設定

- ◆ 401 ページのセクション 18.1 「[初期設定] ページ」
- ◆ 401 ページのセクション 18.2 「初期設定 : 一般」
- ◆ 408 ページのセクション 18.3 「初期設定 : Designer for IDM」
- ◆ 426 ページのセクション 18.4 「初期設定 : ヘルプ」
- ◆ 427 ページのセクション 18.5 「Independent Driver Services (独立ドライバサービス)」
- ◆ 427 ページのセクション 18.6 「初期設定 : プロビジョニング」
- ◆ 427 ページのセクション 18.7 「初期設定 : XML」

18.1 [初期設定] ページ

Designer をカスタマイズするには、[Preferences (初期設定)] のオプションを設定します。

- 1 メインメニューの [Window (ウィンドウ)] > [初期設定] の順に選択します。



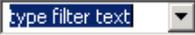
- 2 見出し (例えば、[Designer for IDM]) または子見出しを選択します。
- 3 変更を加え、[適用] または [OK] をクリックします。

18.2 初期設定 : 一般

- ◆ 402 ページのセクション 18.2.1 「外観」
- ◆ 404 ページのセクション 18.2.2 「ケーパビリティ」
- ◆ 404 ページのセクション 18.2.3 「比較 / パッチ」
- ◆ 404 ページのセクション 18.2.4 「コンテンツタイプ」
- ◆ 405 ページのセクション 18.2.5 「エディタ」
- ◆ 406 ページのセクション 18.2.6 「キー」
- ◆ 407 ページのセクション 18.2.7 「パースペクティブ」

- ◆ 407 ページのセクション 18.2.8 「起動とシャットダウン」
- ◆ 408 ページのセクション 18.2.9 「Web ブラウザ」

表 18-1 初期設定 : 一般

設定	説明
	すべての初期設定を検索し、編集ボックスに入力した内容に応じてツリービューの表示を短縮します。
<i>Always run in background</i> (常にバックグラウンドで実行)	ユーザに作業を中断させずにバックグラウンドでの実行を可能にします。
<i>Keep next/previous part dialog open</i> (前回/次のダイアログを開いたままにする)	アクティベーションキーを放してもエディタおよびビューのダイアログボックスを開いたままにします。通常は、特定のキーの組み合わせを放すと、ダイアログボックスが閉じます。
Show heap status(ヒープステータスを表示)	Designer の右下隅にフィールドを配置し、使用中メモリ領域と使用可能な全メモリ領域を表示します。
<i>Open mode: Double click</i> (開くモード: ダブルクリック)	ダブルクリックでプロジェクトを開きます。
<i>Single click: Select on hover</i> (シングルクリック: 上に移動で選択)	カーソルを設定の上に移動すると設定が選択されます。
<i>Single click: Open when using arrow keys</i> (シングルクリック: 矢印キーを使用して開く)	選択すると設定が開きます。

18.2.1 外観

図 18-1 初期設定 : 外観

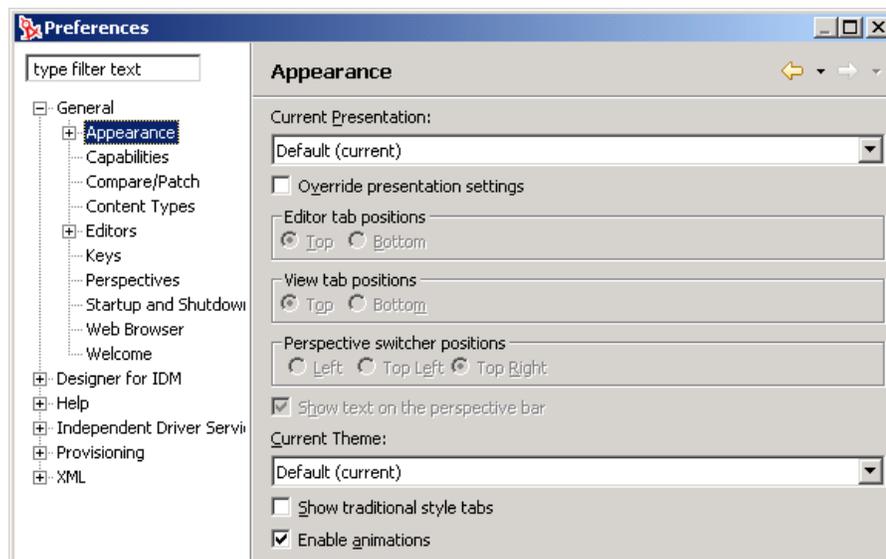


表 18-2 初期設定 : 外観

設定	説明
Current presentation (現在の外観)	ワークベンチでのタブとビューの外観を変更します。
[エディタ] タブ位置	[Modeler(モデラ)]、[Novell® XML Editor(Novell®XML エディタ)]、[Text Editor(テキストエディタ)] の各タブを最上部または最下部に配置します。
[ビュー] タブ位置	ビュータブ ([プロジェクトビュー] タブなど) をビューの最上部または最下部に配置します。
Perspective switcher positions (パースペクティブの切り替えの位置)	[パースペクティブの切り替え] を  ワークベンチの左、左上隅、右上隅に配置します。
Current theme (現在のテーマ)	Designer が使用する一般的なテーマ (色とフォント)。
Show text on the perspective Bar (パースペクティブバー上にテキストを表示)	テキスト (Designer など) を [Perspective Switcher(パースペクティブの切り替え)] の中のアイコンの横に表示します。
Show traditional style tabs (従来形式のタブを表示)	長方形の Windows 型タブを表示します。丸型のタブも使用できます。
Enable animations (アニメーションを有効にする)	ビュー ([Fast Views(ファーストビュー)] など) とエディタを最小化、最大化、元に戻すときにアニメーションを表示します。Designer でのタスクを強調します。

色とフォント

色を変更するには次の操作を実行します。

- 1 オプション (例えば [Basic(基本)]) を展開します
- 2 項目 (例えば、[Active hyperlink text color(アクティブなハイパーリンクの色)]) を選択します。
- 3 色ボタンをクリックします。



- 4 カラーパレットで色を選択し、[OK] をクリックします。

フォントを変更するには次の操作を実行します。

- 1 オプション (例えば [Basic(基本)]) を展開します
- 2 項目 (例えば、[Banner Font(バナーフォント)]) を選択します。
- 3 [Change(変更)] をクリックします。
- 4 フォント、スタイル、サイズを参照して選択し、[OK] をクリックします。

18.2.2 ケーパビリティ

このセクションは、現時点では、Eclipse のケーパビリティについて説明します。Designer のケーパビリティはこれから実装される予定です。

ケーパビリティを有効にするときメッセージで確認する

Eclipse を使用すると、ケーパビリティをオフにできます。しかし、Eclipse では、製品の使用方法に応じて、ケーパビリティが必要であることを検出し、自動的にケーパビリティを再度オンに戻します。この機能は、Designer 1.2 には適用されません。

18.2.3 比較 / パッチ

この Eclipse の機能は、比較エディタの動作をカスタマイズします。ワークベンチ内で 2 つ以上のリソースを比較または同期しようとする時、通常は、1 つ以上の比較エディタが開きます。

表 18-3 初期設定 : 比較 / パッチ

設定	説明
<i>Open structure compare automatically</i> (構造比較を自動的に開く)	比較されるリソースの基盤となる構造体の相違点を示す追加情報領域が見えるようにします。この情報は、すべての比較で使用可能というわけではありません。デフォルト値は [オン] です。
<i>Show additional compare information in the status line</i> (追加の比較情報をステータス行に表示する)	ステータス行に比較に関する追加のコンテキスト情報を表示します。デフォルト値は [オフ] です。
<i>Ignore white space</i> (空白を無視)	比較の際、空白文字の違い (例えば、スペースとタブ) を無視します。また、行終端子の違い (LF と CRLF) も無視します。デフォルト値は [オフ] です。
<i>Automatically save dirty editors before patching</i> (パッチをあてる前に未保存の変更内容を自動的に保存する)	パッチを適用する前に未保存の変更を自動的に保存するかどうかを制御します。デフォルト値は [オフ] です。

18.2.4 コンテンツタイプ

表 18-4 初期設定 : コンテンツタイプ

パネル	説明
コンテンツタイプ	ファイルに格納されているコンテンツのタイプ (テキスト、XML など)。

パネル	説明
<i>File associations</i> (ファイルの関連付け)	<p>コンテンツタイプに関連付けられたファイル拡張子。例えば、.xml は XML コンテンツが格納されたファイルと関連付けられます。ファイル関連付けを追加するには、次の操作を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コンテンツタイプを選択します。 2. [追加] をクリックします。 3. 新しいファイルタイプを定義して、[OK] をクリックします。

18.2.5 エディタ

表 18-5 初期設定 : エディタ

設定	説明
<i>Size of recently opened files list</i> (最近使ったファイルのリスト長)	ファイルメニューの最近使ったファイルに追加されるファイルの数。このリストに追加されたファイルは簡単に再オープンできます。
<i>Show multiple editor tabs</i> (マルチエディタタブの表示)	開いているすべてのプロジェクトに対応するタブを表示します。このオプションをオフにすると、1 エディタタブだけが表示されます。ただし、エディタタブには省略名が表示されます。
<i>Close editors automatically</i> (エディタを自動的に閉じる)	別のエディタを開くと、最初に開いていたエディタが自動的に閉じられます。このオプションにより、ワークベンチに多くのエディタが開いて散乱した状態になるのを防ぐことができます。
<i>Number of opened editors before closing</i> (同時に開くことができるエディタの数)	開くことができるエディタの数を決定します。例えば、 2 と設定して 3 つ目のプロジェクトを開くと、最初に開いていたプロジェクトが自動的に閉じられます。
<i>When all editors are dirty or pinned</i> (すべてのエディタがダーティか固定されている場合)	プロジェクトが自動的に閉じられる前に未保存のコンポーネントを保存するようメッセージが表示されるか、別のエディタが開きます。

ファイルの関連付け

エディタ (Designer に内部的にインストールされているエディタか外部アプリケーション) をファイルタイプ (拡張子) に関連付けてファイルを編集できるようにします。

特定のファイルタイプに関連付けられているエディタを見つけるには、そのファイルタイプを選択します。例えば、**.docgen** ファイルタイプはスタイルエディタに関連付けられていますが、**.scriptpolicy** ファイルタイプはポリシービルダーに関連付けられています。

ファイルタイプに別のエディタを関連付けるには、次の操作を実行します。

- 1 ファイルタイプを選択します。

2 [Associated Editors(関連付けられたエディタ)] ペインで、[追加] をクリックします。

3 追加のエディタを選択して、[OK] を2回クリックします。

ファイルタイプを追加するには、次の操作を実行します。

1 [ファイルタイプ] ペインで、[追加] をクリックします。

2 ファイルタイプの拡張子 (.doc) を入力して、[OK] をクリックします。

3 [Associated Editors(関連付けられたエディタ)] ペインで、[追加] をクリックします。

4 そのファイルタイプのエディタを選択して、[OK] を2回クリックします。

テキストエディタ

表 18-6 初期設定: テキストエディタ

設定	説明
<i>Displayed tab width(表示されるタブ幅)</i>	テキストエディタでタブキーを押したときに移動する文字またはスペースの数。デフォルトは4、最大値は16です。
<i>Undo history size(取消し履歴のサイズ)</i>	エディタで実行できる取消し操作の回数。デフォルトは25回です。
<i>Highlight current line(現在行を強調表示)</i>	フォーカスのある行を選択します。
<i>Show print margin(印刷マージンを表示)</i>	印刷マージンを表示するかどうかを制御します。縦線が印刷マージンを識別します。
<i>Show line numbers(行番号を表示)</i>	エディタ内の各行に番号を振ります。
<i>Show range indicator(範囲指示子を表示)</i>	エディタが範囲指示子を表示するかどうかを制御します。
<i>Support hyperlink style navigation(ハイパーリンク形式のナビゲーションをサポート)</i>	ハイパーリンク形式のナビゲーションをサポートするかどうかを決定します。テキストエディタにリンク (例えば、 www.novell.com) を入力し、Ctrl キーを押しながら、そのリンク上にカーソルを移動すると、リンクが起動され、Designer 内のHTML ビューにその内容が読み込まれます。
<i>Disable overwrite typing mode(上書き入力モードを無効にする)</i>	上書き入力モードを有効にするかどうかを制御します。デフォルト値は [オフ] です。
<i>Appearance color options(外観カラーのオプション)</i>	オプションの色を変更するには、そのオプションを選択し、[色] をクリックして、具体的な色を選択してから、[OK] をクリックします。

18.2.6 キー

すべてのキーボードマッピングのテーブルを表示したり、それらのマッピングを変更したり、新しいマッピングを追加したりできます。

18.2.7 パースペクティブ

表 18-7 初期設定 : パースペクティブ

設定	説明
<i>Open a new perspective</i> (新しいパースペクティブを開く)	同一ウィンドウ内の場合: [Perspective Switcher(パースペクティブの切り替え)] に新しいアイコンを配置して、同一ウィンドウ内でパースペクティブを切り替えることができますようにします。 新規ウィンドウの場合: 別のウィンドウに新しいパースペクティブを開きます。パースペクティブウィンドウ間の切り替えは、タスクバー上のアイコンを選択することで行います。
<i>Open a new view</i> (新しいビューを開く)	パースペクティブ内の場合: モデラと連続するようにビューを開きます。 [fast view(ファーストビュー)] として: ビューを開いて、パースペクティブの左下隅に [fast view(ファーストビュー)] を配置します。
<i>Open the associated perspective when creating a new project</i> (新規プロジェクトを作成するとき関連付けられたパースペクティブを開く)	パースペクティブを開くとき、関連付けられたエディタに切り替える方法とタイミングを決定します。
<i>Available perspectives</i> (使用可能なパースペクティブ)	Designer はデフォルトのパースペクティブです。Designer を使用します。

18.2.8 起動とシャットダウン

表 18-8 初期設定 : 起動とシャットダウン

設定	説明
<i>Prompt for workspace on startup</i> (起動時にワークスペースフォルダの入力を求める)	ワークスペースフォルダの入力を求めるメッセージを表示します。複数のワークスペースフォルダを用意しておき、起動時に指定することができます。
<i>Refresh workspace on startup</i> (起動時にワークスペースをリフレッシュする)	ワークスペースをディスク上のリソース (例えば、myfile.xml) と同期化します。
<i>Confirm exit when closing last window</i> (最後のウィンドウを閉じる前に終了を確認する)	Designer を終了するとき「Exit Designer?(Designer を終了しますか?)」というメッセージを表示します。
起動時にアクティブ化されるプラグイン	自動的にロードされ登録されるプラグインをリストします。

18.2.9 Web ブラウザ

表 18-9 初期設定 :Web ブラウザ

設定	説明
<i>Use internal Web browser</i> (内部 Web ブラウザを使用する)	内部 Web ブラウザを使用できるようにします。
<i>Use internal Web browser</i> (外部 Web ブラウザを使用する)	外部 Web ブラウザ (Netscape* など) を追加して使用できるようにします。このオプションを有効にする場合は、同じく [初期設定] にある [ヘルプ] セクションで、[Use External Browser(外部ブラウザを使用する)] を有効にする必要があります。
外部 Web ブラウザ	ブラウザの一覧です。 ブラウザを追加するには、以下の操作を実行します。 <ol style="list-style-type: none">1. [新規] をクリックします。2. 新しいブラウザを指定します。3. 実行可能ファイル (例えば、netscp6.exe) にスクロールして選択します。4. パラメータを指定して、[OK] をクリックします。

18.3 初期設定 :Designer for IDM

- ◆ 408 ページのセクション 18.3.1 「アップデート、プロンプト、Web ブラウザ」
- ◆ 411 ページのセクション 18.3.2 「環境設定」
- ◆ 414 ページのセクション 18.3.3 「ドキュメントの生成」
- ◆ 415 ページのセクション 18.3.4 「エンタイトルメント」
- ◆ 415 ページのセクション 18.3.5 「インポート / 展開」
- ◆ 417 ページのセクション 18.3.6 「モデラ」
- ◆ 422 ページのセクション 18.3.7 「ポリシービルダ」

18.3.1 アップデート、プロンプト、Web ブラウザ

- ◆ 409 ページの 「アップデート」
- ◆ 409 ページの 「プロンプト」
- ◆ 410 ページの 「Web ブラウザ」

アップデート

図 18-2 初期設定 : アップデート

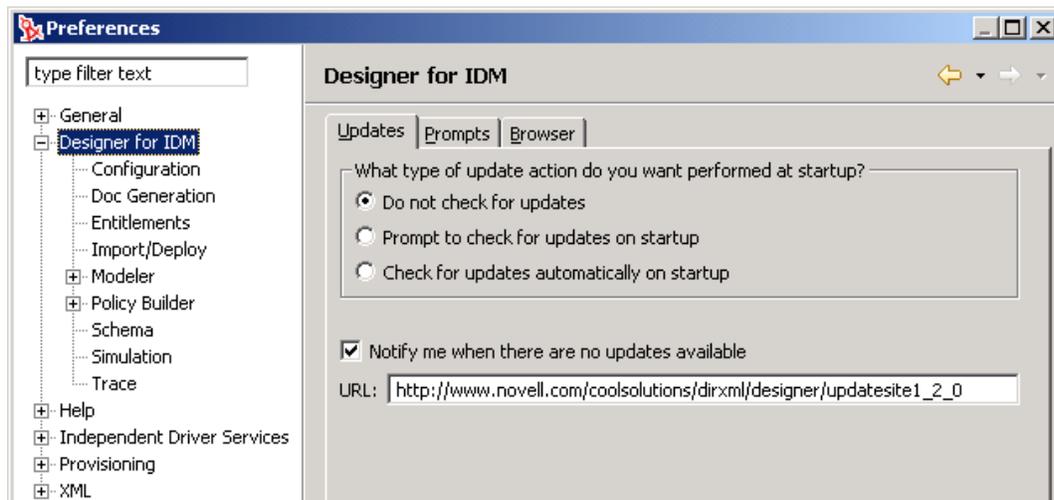


表 18-10 初期設定 : 自動アップデート

設定	説明
<i>Do not check for updates</i> (アップデートをチェックしない)	起動時にアップデートがあるかどうかチェックしません。[Designer のアップデート] ダイアログボックスを非表示にします。
<i>Prompt to check for updates on startup</i> (起動時にアップデートのチェックを促すメッセージを表示する)	Designer を実行するたびにプロンプトを表示します。このプロンプトは無効にできます。
<i>Check for updates automatically on startup</i> (起動時に自動的にアップデートをチェックする)	常に、アップデートがないか自動的にチェックします。起動時に表示されるプロンプトを無効にした場合は、このオプションを選択してください。
<i>Notify me when there are no updates available</i> (新しいアップデートが存在しないとき通知する)	アップデートのチェックを有効にしているとき、[No New Updates(新規のアップデートはありません)] メッセージを表示します。

プロンプト

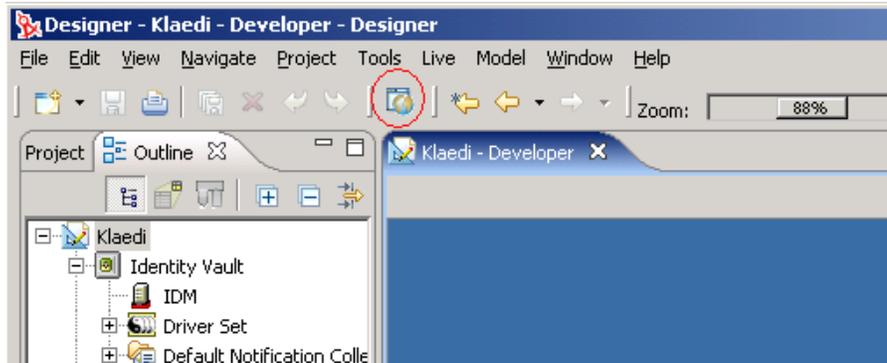
表 18-11 初期設定 : プロンプト

設定	説明
<i>Show warning dialog when model versions are different</i> (モデルのバージョンが異なる場合に警告を表示する)	旧バージョンの Designer で作成したプロジェクトをインポートまたは使用する時プロンプトを表示します。プロンプトには、プロジェクトが旧形式であることが示されます。

Web ブラウザ

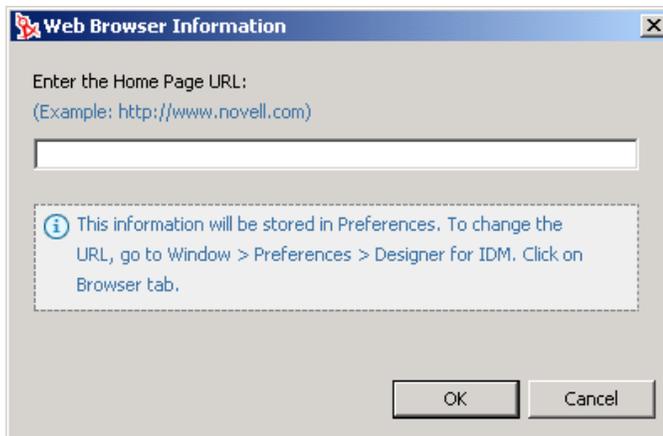
Web ブラウザは Designer を使用して開くことができます。[Web ブラウザ] ボタンはメインツールバーにあります。

図 18-3 [Web ブラウザ] ボタン



ブラウザを初めて起動すると、ホームページの入力を求めるメッセージが表示されます。

図 18-4 ホームページの入力を求めるメッセージ



入力した URL は保存されます。

URL を変更するには、[初期設定] に新しい URL を入力して、[OK] をクリックします。

図 18-5 [ブラウザ初期設定] ページ



18.3.2 環境設定

- ◆ 411 ページの「一般」
- ◆ 412 ページの「eDir2eDir SSL/TLS」
- ◆ 413 ページの「プロンプト」

各ドライバには起動パラメータがあります。いったん無効にしたドライバは、設定を変更するまで起動されません。デフォルトでは、[Modeler (モデラ)] で作成するか、Designer を起動したとき、Identity Manager のドライバは無効になっています。これらのドライバは手動で起動する必要があります。

詳細については、304 ページのセクション 14.3 「ドライバセットの管理」を参照してください。

一般

一般設定では、ドライバの起動方法、指定したターゲットサーバ上でのグローバル構成値 (GCV) の動作方法を指定します。無効化 / マージ GCV がデフォルトの状態です。

図 18-6 一般ドライバの環境設定

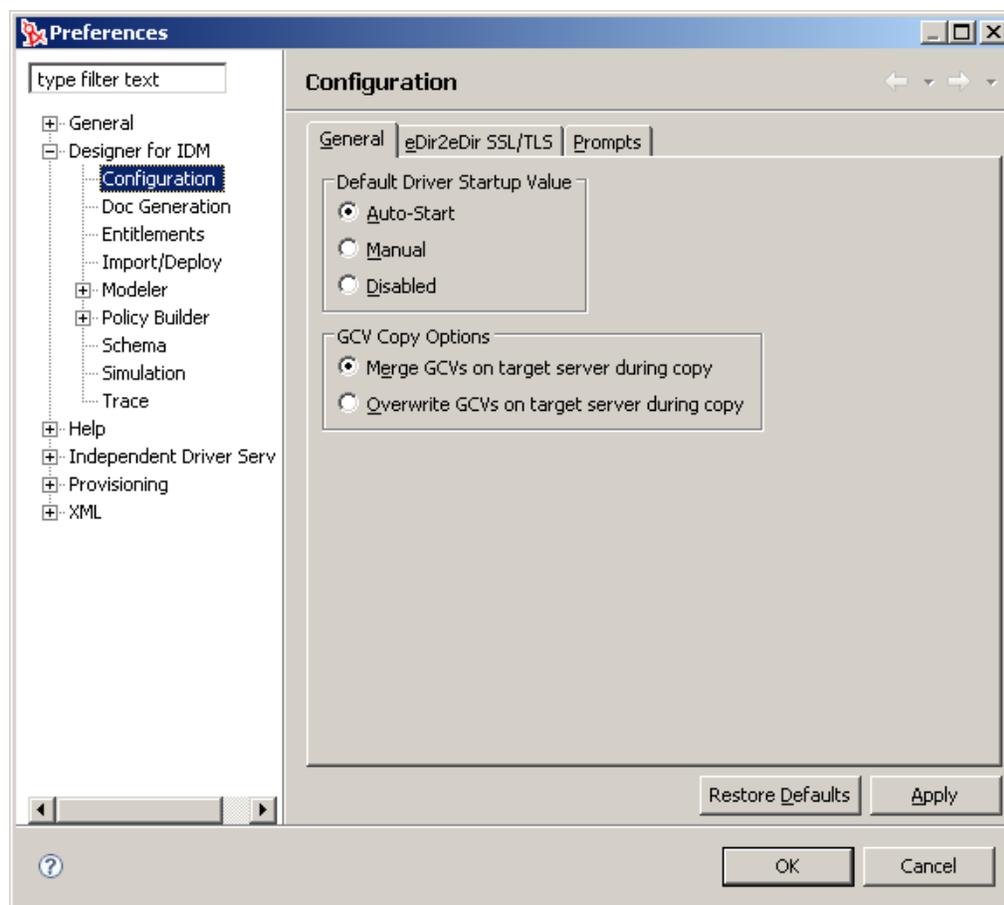


表 18-12 ドライバ設定

設定	説明
自動スタート	ドライバは、作成後、または Designer の起動またはロード時に、自動的に開始されます。
手動	ドライバを手動で起動する必要があります。
無効	ドライバは起動されません。
Merge GCVs on target server during copy(コピー時にターゲットサーバ上の GCV をマージする)	1つのドライバ/ドライバセットの GCV を、同じタイプの複数のターゲットにコピーします。例えば、あるドライバ上の GCV を設定してから、それらの GCV を複数のドライバにコピーするといったことができます。その際、ターゲット GCV を上書きするか、“ソース GCV” を既存のターゲットドライバ GCV にマージするかを選択できます。
Merge GCVs on target server during copy(コピー時にターゲットサーバ上の GCV を上書きする)	サーバにグローバル構成値をコピーする際、既存のグローバル構成値を上書きします。
デフォルトの復元	デフォルトのドライバ環境設定値を復元します。

eDir2eDir SSL/TLS

この設定では、2つの eDirectory ドライバが安全なチャネルをとおして、相互通信するための方法を指定します。詳細については、[86 ページのセクション 5.7.6 「eDir-to-eDir 接続」](#)を参照してください。

図 18-7 eDir2eDir ドライバの設定

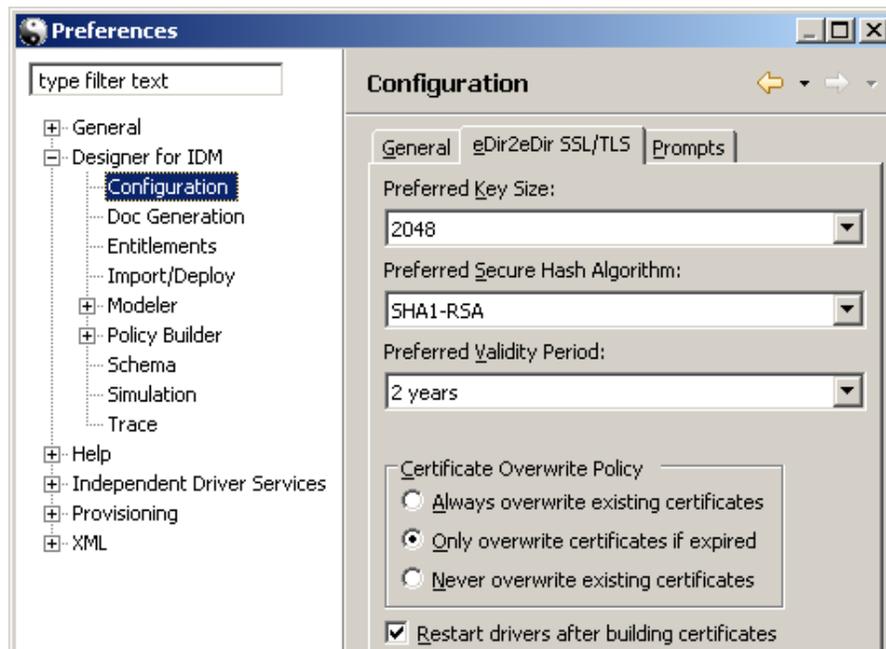


表 18-13 eDir2eDir および SSL の設定

設定	説明
<i>Preferred Key Size</i> (推奨キーサイズ)	ドライバを暗号化して eDirectory に格納するとき生成される推奨キーサイズとして、512、768、1024、2048 バイトのうちいずれかを指定します。
<i>Preferred Secure Hash Algorithm</i> (推奨セキュアハッシュアルゴリズム)	ドライバの暗号化に使用する推奨セキュアハッシュアルゴリズムとして、SHA1-RSA、MD2-RSA、MD5-RSA のいずれかを指定します。
<i>Preferred Validity Period</i> (推奨有効期間)	ドライバ証明書の有効期間を 6ヶ月～10 年の範囲で指定します。
Always overwrite existing certificates(既存の証明書を常に上書きする)	展開のたびに既存のドライバ証明書を上書きするよう指定します。
Only overwrite certificates if expired(期限切れの場合のみ証明書を上書きする)	展開のたびに期限切れのドライバ証明書だけを上書きするよう指定します。
Never overwrite existing certificates(既存の証明書を上書きしない)	既存の証明書を上書きしません。
Restart drivers after building certificates(証明書を作成したあとドライバを再起動する)	証明書が期限なしで1作成されたときドライバを再起動する

プロンプト

以下の設定は、ターゲットサーバ上でのドライバ証明書の管理方法をユーザに確認するメッセージを指定します。デフォルトでは、すべて選択されています。

図 18-8 証明書管理方法プロンプトの設定



表 18-14 プロンプトの設定

設定	説明
<i>Prompt to replace existing certificates(既存の証明書を置換するよう求めるプロンプトを表示する)</i>	ユーザに新規証明書の提供を求めます。
<i>Prompt to merge/overwrite GCVs on target server during copy(コピー時にターゲットサーバ上の GCV をマージ/上書きするよう求めるプロンプトを表示する)</i>	GCV をターゲットサーバにコピーするときターゲットサーバ上の GCV をマージ/上書きするよう求めるプロンプトを表示します。
<i>Prompt to create certificates after configuration(環境設定のあと証明書を作成するかどうかのプロンプトを表示する)</i>	安全な接続を設定したあと証明書を作成するよう求めるプロンプトを表示します。

18.3.3 ドキュメントの生成

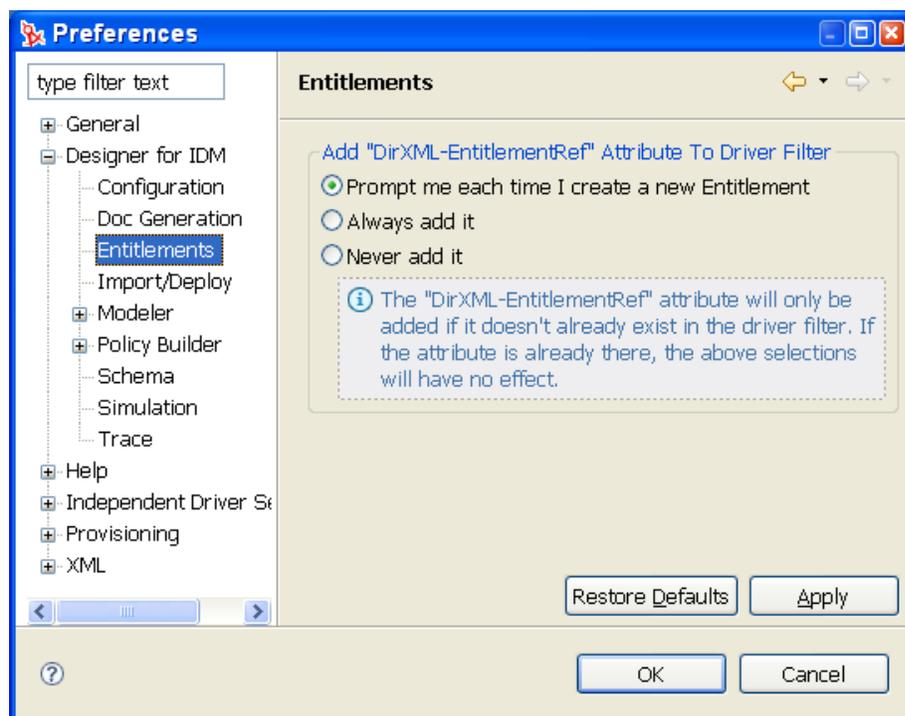
ドキュメントジェネレータには次の設定が用意されています。

表 18-15 ドキュメント生成の初期設定

設定	説明
<i>Automatically open rendered file after document generation.(ドキュメント生成後にレンダリングされたファイルを自動的に開く)</i>	ワークステーションに PDF リーダーがインストールされている場合は、レンダリングされたファイルが自動的に PDF リーダーで開かれます。RTF 形式を有効にしており、TRTF リーダーがインストールされている場合は、レンダリングされたファイルが自動的に TRTF リーダーで開かれます。デフォルトはオンです。
<i>Show warning dialog when style is out of version.(スタイルが旧バージョンのとき警告ダイアログを表示する)</i>	スタイルが旧バージョンのとき警告ダイアログを表示します。デフォルトはオンです。
<i>Enable pre-release functionality for DocGen.(ドキュメントジェネレータのリリース前機能を有効にする)</i>	ドキュメントを RTF 形式で保存できるようにします。これはリリース前の機能です。デフォルトはオフです。
<i>Document Applications and Drivers related to other selected items.(他の選択項目に関連するアプリケーションとドライバをドキュメント化する)</i>	このオプションをオンにすると、親オブジェクトとその直接の子オブジェクトが、ドキュメントにコンテキストを与えるために含まれます。このオプションをオフにすると、選択した項目の直接の子供がドキュメントから除外されます。デフォルトはオンです。

18.3.4 エンタイトルメント

図 18-9 エンタイトルメントの設定



DirXML-EntitlementRef 属性をドライバフィルタに追加するかどうかのプロンプトを表示するの否か、表示する場合はその頻度を制御します。デフォルトは [Prompt me (毎回プロンプトを表示する)] ですが、DirXML-EntitlementRef 属性は、ドライバがフィルタ上に存在しない場合だけ追加されるため、確認のポップアップウィンドウを毎回表示させたくない場合は [Always add it (常に追加する)] を選択してもかまいません。

18.3.5 インポート / 展開

[Import/Deploy preference (インポート / 展開の初期設定)] ウィンドウには、[展開]、[インポート]、[エクスポート]、[Prompts (プロンプト)]、[トレース] の 5 つのタブが用意されています。次の表に、各タブについて説明します。

表 18-16 初期設定 : 展開

設定	説明
<i>Deploy all cross driver policy references.</i> (ドライバ横断ポリシー参照を展開)	他のドライバを参照するポリシーを展開します。デフォルトはオンです。
<i>Show the summary dialog prior to performing a deployment.</i> (展開を実行する前に要約ダイアログを表示する)	展開される内容の要約を表示します。デフォルトはオンです。

設定	説明
Replace Driver Set/Server associations when deploying a Driver Set. (ドライバセットの展開時にドライバセット/サーバの関連付けを置換する)	デフォルトはオフです。展開時にドライバセットとサーバの関連付けを行う場合は、このオプションをオンにします。
Always deploy both drivers of an eDir-to-eDir connection when SSL/TSL is enabled. (SSL/TSL が有効になっているとき、常に eDir-to-eDir 接続用に両方のドライバを展開する)	デフォルトはオンです。オンにすることをお勧めします。このオプションをオンにすると、接続の両端に展開することを求めるメッセージが表示されます。両方のドライバを展開すると、eDir-to-eDir 証明書が Designer 内で作成されたものであるかぎり、Deploy(展開) 操作がそれらの証明書の作成に統合されます。Deploy(展開) の機能は、[初期設定] > [Designer for IDM] > [環境設定] > [eDir2eDir] の設定に準拠します

表 18-17 初期設定 : インポート

設定	説明
Perform prompt checking when running a Driver Configuration File (ドライバ環境設定ファイルの実行中に入力確認チェックを実行する).	「Do you wish to perform all mandatory and required prompt checking when running this Driver configuration file?(このドライバ環境設定ファイルの実行中に必須および要求されているすべてのフィールドについて入力確認チェックを実行しますか?)」というメッセージを表示します。このメッセージに [はい] と答えた場合は、ドライバの設定時に必須フィールドに必ず情報を入力する必要があります。[いいえ] と答えた場合は、この設定を一時的に無効にして、必須フィールドの入力をスキップできます。
Import all cross driver policy references. (ドライバ横断ポリシー参照をインポートする)	ドライバ横断ポリシー参照を自動的にインポートします。デフォルトはオンです。
Include application schema when importing drivers (ドライバのインポート時にアプリケーションスキーマをインクルードする)	このオプションを選択した場合は、eDirectory アプリケーションスキーマをインポートします。すべての関連付けられたデータをインポートしたくない場合もあります。デフォルトはオフです。171 ページのセクション 8.4.3 「スキーマのインポート」を参照してください。
Show the summary dialog prior to performing a import. (インポートを実行する前に要約ダイアログを表示する)	要約画面でインポートされる項目を確認できます。デフォルトはオンです。

表 18-18 初期設定 : エクスポート

設定	説明
Copy cross driver policy references into exported configuration files. (ドライバ横断ポリシー参照をエクスポート済み環境設定ファイルにコピーする)	ドライバ横断ポリシー参照の手入力によるトラブルの発生を防ぎます。デフォルトはオンです。

表 18-19 初期設定 : プロンプト

設定	説明
Deploy all cross driver policy references. (ドライバ横断ポリシー参照をすべて展開する)	デフォルトではオンになっています。これらの参照に関してダイアログボックスを表示したくない場合は、このオプションをオフにします。
Show dialog to export cross driver policy references to configuration files. (ドライバ横断ポリシー参照を環境設定ファイルにエクスポートするためのダイアログを表示する)	デフォルトでは有効になっています。これらの参照に関してダイアログボックスを表示したくない場合は、このオプションをオフにします。
Show warning dialog when overwriting a Driver Set/Server association. (ドライバセット/サーバ関連付けを上書きするときに警告ダイアログを表示する)	展開中のドライバセットが、展開先のサーバ以外のサーバに関連付けられているとき、警告を出します。展開されるドライバセット内の関連付けのほうに、既存のサーバの関連付けよりも優先されます。
Show dialog to deploy both drivers in an eDir2eDir system when SSL/TLS is enabled. (SSL/TLS が有効になっているとき、eDir-to-eDir システムに両方のドライバを展開する)	これがデフォルトの設定であり、このままの設定で使用することをお勧めします。このオプションをオンにすると、接続の両端に展開することを求めるメッセージが表示されます。

表 18-20 初期設定 : トレース

設定	説明
Trace import and deploy event information. (トレースのインポートとイベント情報の展開)	デフォルトでは無効になっています。インポートまたは展開をトラブルシューティングする必要がある場合は、このオプションをオンにします。そのあと、[トレース] ビューを開いて、インポートまたは展開をインスペクトします。
Generate debug messages for the Driver configuration prompt dialog. (ドライバ環境設定プロンプト用ダイアログのデバッグメッセージを生成する)	デフォルトでは無効になっています。デバッグメッセージを生成する必要がある場合は、このオプションをオンにします。
Show verbose debug messages. (詳細にデバッグメッセージを表示する)	デフォルトでは無効になっています。詳細なデバッグメッセージを生成する必要がある場合は、このオプションをオンにします。
Trace import and deploy event information. (インポート/展開イベント情報のトレース)	デフォルトでは無効になっています。オブジェクトのインポートまたは展開にかかる時間を計測する必要がある場合は、このオプションをオンにします。

18.3.6 モデラ

- ◆ 418 ページの「[モデラ] タブ」
- ◆ 421 ページの「データフロー」
- ◆ 422 ページの「パレット」

[モデラ] タブ

- ◆ 418 ページの「動作」
- ◆ 418 ページの「表示」
- ◆ 419 ページの「ガイド」
- ◆ 419 ページの「レイアウト」
- ◆ 420 ページの「ページ」
- ◆ 421 ページの「プロンプト」
- ◆ 421 ページの「テーマ」

動作

表 18-21 初期設定 : モデラの動作

設定	説明
Auto-create servers when re-connecting a driver to a different driver set (ドライバを別のドライバセットに接続し直すときサーバを自動作成する)	ドライバを別のドライバセットに接続するとき、ドライバセットのサーバを自動的に作成します。
ドライバのプロパティダイアログを開く	ドライバの [Properties (プロパティ)] ページを開きます。
ドライバの [Policy Flow (ポリシーフロー)] ビューを表示する	[Outline(アウトライン)] ビューにドライバの [Policy Flow (ポリシーフロー)] 図を表示します。

表示

表 18-22 初期設定 : モデラの表示

設定	説明
Show labels by Applications and Identity Vaults (Arc. Mode) (アプリケーションおよびアイデンティティボールド (設計者モードのみ) 別にラベルを表示する)	アプリケーションの下 (開発者モードと設計者モードの両方)、およびアイデンティティボールド (設計者モードのみ) の上にラベルを表示します。
Show driver icons in Developer Mode (開発者モードでドライバアイコンを表示する)	モデラ内のドライバを表す行にドライバアイコン  を表示します。
Show password icons in Developer Mode (開発者モードでパスワードアイコンを表示する)	モデラのドライバアイコンの下にパスワード同期アイコン  を表示します。
アイデンティティボールドを内容に合わせて自動的に拡張表示する	内部にオブジェクトが収まるようにアイデンティティボールドを自動的に拡張表示します。
アイデンティティボールドを内容に合わせて自動的に縮小する	内部のオブジェクトが削除されたときアイデンティティボールドを自動的に縮小表示します。
アイデンティティボールドのサイズをそのタイトルに合わせて自動調整する	ボールドを水平方向に拡張表示して、長いタイトルでも収まるようにします。このオプションをオフにすると、タイトルが約 20 文字で連結表示されます。

設定	説明
Grid Width(グリッド幅)	モデラのグリッド内セル数を増減します。グリッドを表示するには、モデラを選択し、[View(表示)] > [グリッド] をクリックします。

ガイド

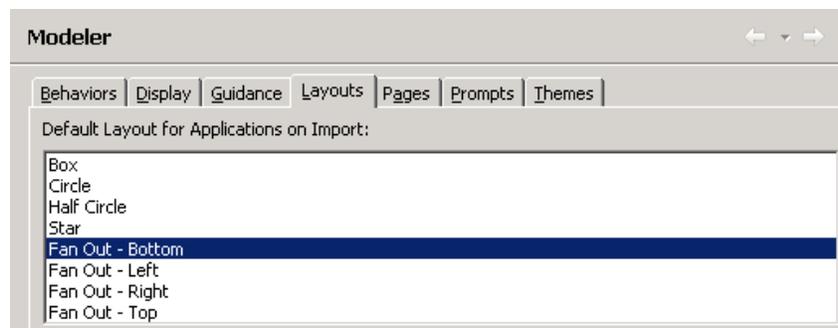
表 18-23 初期設定 : モデラガイド

設定	説明
<i>Identity Vault will be created when you drop app, if there isn't one already(アプリケーションをドロップしたときまだアイデンティティボールドが存在していなければ作成する)</i>	アプリケーションを [パレット] から [モデラ] にドラッグまたはドロップすると、アイデンティティボールドが作成されます。
<i>eDir-to-eDir connection tip, when you've connected the same eDir app to two different driver sets(同じ eDir アプリケーションまたは 2 つの異なるドライバセットに接続したときの eDir-to-eDir 接続のヒント)</i>	eDir-to-eDir 関係をセットアップするとき、終端ドライバセットを直接結ぶ直接を引くように要求します。
<i>Setting data flows in architect mode will default all policy and schema settings(設計者モードでデータフローを設定したとき、すべてのポリシーおよびスキーマの設定をデフォルトに戻す)</i>	設計者モードでデータフローを設定したとき、ポリシーおよびスキーマ設定をデフォルトに戻します。これらのデフォルトの設定を編集するには、開発者モードを使用します。
<i>Saving Dataflow to disk will force project save first(データフローをディスクに保存する前にプロジェクトを保存するよう要求する)</i>	データフローをディスクに保存する前にプロジェクトを保存するよう要求します。

レイアウト

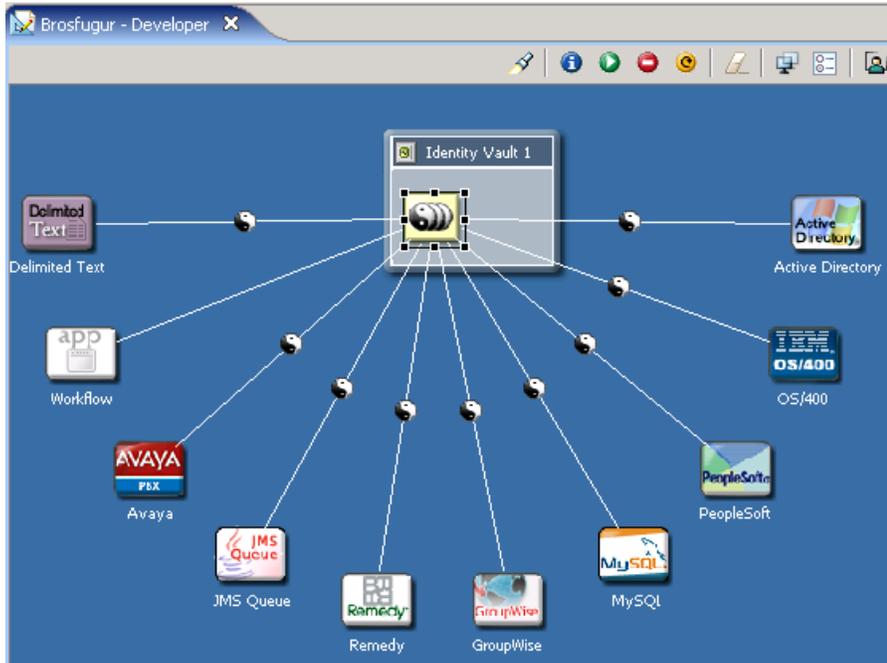
レイアウト設定は、モデラにおけるアプリケーションの表示方法を決定します。プロジェクトをインポートするときのデフォルトのレイアウトを設定するには、オプション (例えば [Circle(円)]) を選択します。

図 18-10 初期設定 : モデラのレイアウト



次の図は、半円レイアウトを示しています。

図 18-11 レイアウトの例

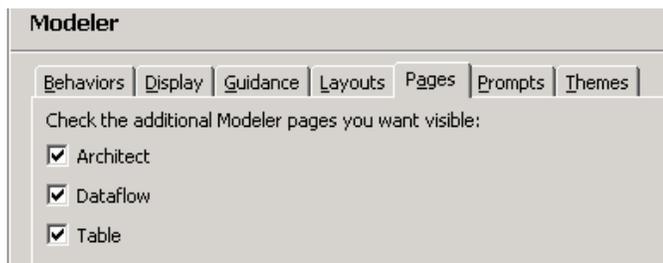


既存のアプリケーションを特定のレイアウトに配置するには、次の操作を実行します。

- 1 モデラで、ドライバセットオブジェクトを右クリックします。
- 2 [Arrange Applications (アプリケーションの配置)] を選択します。
- 3 レイアウトを選択します。

ページ

図 18-12 [Pages Properties(ページのプロパティ)] ページ



モデラの最下部のタブとして、[設計者]、[データフロー]、[テーブル] の各ページを表示するかどうかを決定します。デフォルトでは、モデラに [開発者] ページ (モード) が表示されます。追加のタブを表示すると、ページ間ですばやく切り替えることができます。

プロンプト

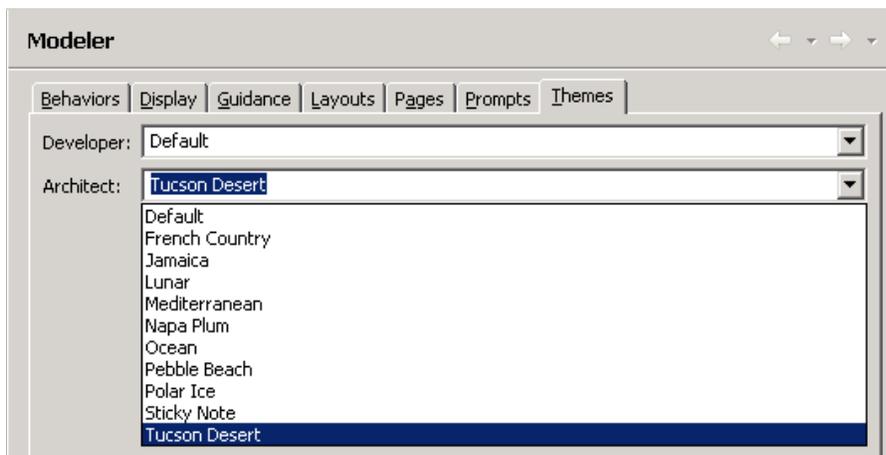
表 18-24 初期設定 : モデラのプロンプト

設定	説明
Show Driver Config Wizard at connection time (接続時にドライバ環境設定ウィザードを表示する)	モデラ内にアプリケーションをドラッグまたはドロップすると、ドライバ環境設定ウィザードが起動されます。
Show Default Server Choice Ddialog when adding an Identity Vault (アイデンティティボールドを追加するとき、デフォルトのサーバ選択 Ddialog を表示します)	デフォルトのサーバを使用する、サーバを指定する、サーバを作成しない、のいずれかを選択できるようにします。
Confirm when driver is being deleted (ドライバを削除するとき確認する)	ドライバとそのポリシーを削除するかどうかを選択するための [はい/いいえ] プロンプトを表示します。

テーマ

開発者モードまたは設計者モードのテーマを定義します。モデラ内の背景、テキスト、線、ドメイングループの背景、ドメイングループのタイトルの各要素の色をカスタマイズします。

図 18-13 [Themes Property(テーマのプロパティ)] ページ



データフロー

データフローエディタが HTML レポートに保存するページあたりの列数を指定します。

データフローエディタを表示するには、モデラで [データフロー] タブを選択します。

図 18-14 [データフロー] タブ



パレット

表 18-25 初期設定 : パレットの設定

設定	説明
<i>Arrange applications in folders(アプリケーションをフォルダ内に配置)</i>	パレット内のフォルダ (例えば、Database) を表示し、アプリケーションを適切なフォルダに配置します。
<i>Arrange applications in folders(アプリケーションをアルファベット順に配置)</i>	すべてのアプリケーションをパレット内の 1 つのフォルダ内に配置し、アルファベット順に表示します。

18.3.7 ポリシービルダ

図 18-15 初期設定 : ポリシービルダ

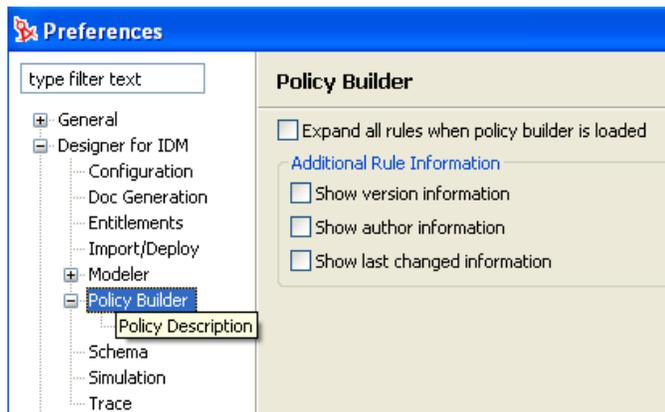
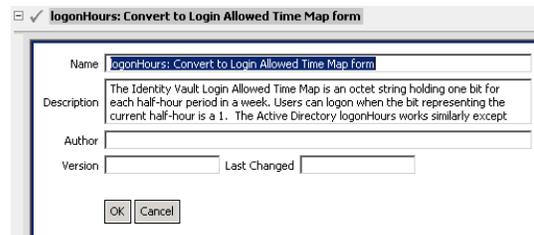


表 18-26 初期設定 : ポリシービルダ

設定	説明
<i>Expand all rules when policy builder is loaded(ポリシービルダーをロードするときすべてのルールを展開する)</i>	ポリシービルダーを開いたとき、[ルール] ペインに自動的にルールを展開します。
<i>Show version/author/last changed information(バージョン / 作者 / 最終変更情報を表示する)</i>	ルールをダブルクリックしたとき、ルールインラインエディタにフィールドを表示します。フィールドにデータを入力すると、ポリシーにコメントが追加されます。



ポリシーの説明

[ポリシーの説明] フィールドには、ポリシーに関するコメントを追加できます。

図 18-16 初期設定 : ポリシーの説明

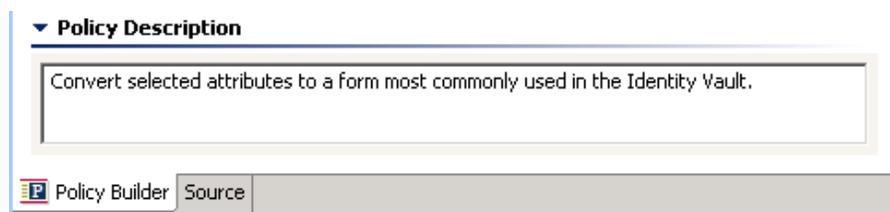


表 18-27 初期設定 : ポリシーの説明の設定

設定	説明
Show the Policy Description field expanded ([ポリシーの説明] フィールドを自動拡張する)	[ポリシーの説明] フィールドを自動的に拡張して表示します。矢印でフィールド (編集ボックス) の表示 / 非表示を切り替えることができます。
Number of rows of text to display (表示するテキスト行数)	[ポリシーの説明] フィールドに表示する行数を決定します。デフォルトは 3 です。
Policy Description position on the page (ページ上で [ポリシーの説明] の位置)	[ポリシーの説明] フィールドを [ルール] ペインの上または下に配置します。

スキーマ

アイデンティティボールドおよび接続システムのスキーマを管理できます。

表 18-28 初期設定 : ポリシービルダー > スキーマ

設定	説明
Warn when LDAP names are different from eDirectory names during .ldif import/export (.ldif のインポート/エクスポートの際、LDAP 名が eDirectory 名と異なる場合に警告を出す)	スキーマのインポートまたはエクスポート時に表示されるこの警告メッセージをオフにできます。
Warn when exporting base classes to .ldif (ベースクラスを .ldif にエクスポートする時警告を出す)	スキーマのエクスポート時に表示されるこの警告メッセージをオフにできます。

シミュレーション

[シミュレーション] 設定を使用してポリシーをテストできます。

表 18-29 初期設定 : [ポリシービルダ] > [シミュレーション]

設定	説明
Directories: Input (ディレクトリ : 入力)	<p>入力ドキュメントを格納するディレクトリ。シミュレーション (テスト) を実行するには、入力ドキュメントを用意しておくか、生成する必要があります。Designer では、事前定義の入力ドキュメントをいくつか提供しています。これらのドキュメントは Simulation ディレクトリの各サブディレクトリ (Add など) にあります。</p> <p>入力ドキュメントの格納用として別のディレクトリを指定することもできます。</p>
Directories: Output (ディレクトリ : 出力)	<p>出力ドキュメントを格納するディレクトリ。ドキュメントのテスト中に [名前を付けて保存] を選択すると、出力ディレクトリにファイルが格納されます。</p>
Directories: Java Extensions (ディレクトリ : Java 拡張)	<p>外部の Java 拡張への参照を含むポリシーをシミュレートできます。jar ファイルが存在するディレクトリを指定し、Java クラスを含む jar ファイルを、指定したディレクトリにコピーします。</p>
オプション: Clear the policy simulation log file prior to performing a simulation (シミュレーションを実行する前にポリシーシミュレーションログファイルをクリアする)	<p>ログファイルを自動的にクリアします。この設定を有効にしないと、使用可能な [Clear Log(ログのクリア)] ボタンが表示されます。多くのシミュレーションを連続して実行する場合は、このオプションを無効にしてください。これにより、ログファイルにすべてのテストのイベントが出力および表示されるようになります。この動作は、[Clear Log(ログのクリア)] をクリックするまで続きます。</p>
オプション: Show information prompt when a query is generated (クエリが生成されたときメッセージを表示する)	<p>シミュレータがクエリを生成したとき、メッセージを表示します。これは、ポリシーを処理するためにクエリが必要なとき、エンジンが実行する動作をシミュレートしたものです。</p>
オプション: Enable unsupported and experimental pre-release functionality (リリース前の未サポートの実験的機能を有効にする)	<p>ポリシーシミュレータのライブ版を有効にします。</p> <hr/> <p>警告 : このオプションはサポートされていないため、説明はありません。</p>

トレース

[トレース] ビューは、次のような場合に使用すると便利です。

- ◆ 内部エラーおよびメッセージをトレースして、意図したとおりに動作しない原因を見つけ出す。
- ◆ Novell のサポート担当者やエンジニア、その他のコンサルティングリソースを提供する。

Designer 固有のすべてのトレースメッセージは、[トレース] ビューが開いている場合は [トレース] ビューに表示されます。それ以外の場合、トレースメッセージは送信されません。

警告およびエラーメッセージは、ランタイムワークスペース `metadata` ディレクトリにある `.log` ファイルに送信されます。警告およびエラーメッセージを表示するには、[Error(エラー)] ビューを使用します。

表 18-30 パラメータ : ポリシービルダ > トレース

設定	説明
Enable Tracing (トレースの有効化)	イベントを [トレース] ビューに出力します。デフォルトでは無効になっています。パフォーマンスを向上するには、必要ないかぎり、トレースを無効にしてください。
Include Stack Traces (スタックトレースを組み込む)	分離されたトレースを提供します。内部エラーが発生した時点でスタック全体をダンプし、内部例外が発生しているコード内を確認できるようにします。
Include XML Processor Traces (XML プロセッサトレースを組み込む)	分離されたトレースによって XML ドキュメント処理の詳細をすべて出力します。このトレースは極めて詳細になる可能性があります。
Show Plug-In Names in Trace (トレース内にプラグイン名を表示する)	[トレース] ビューに、トレースの対象になっているプラグインの名前を表示します。このオプションは、2 つ以上のプラグインを同時にトレースする場合に有効です。
Show View When Tracing (トレース中にビューを表示する)	トレースの内容をログに出力しようとする時、[トレース] ビューが自動的に表示されます。デフォルトでは、この設定はオンになっています。
Trace Buffer Size (トレースバッファサイズ)	バッファ領域を増やして、より多くの文字を表示します。バッファサイズを大きくすると、システムによっては、パフォーマンスが低下する可能性があります。
Plug-Ins to Trace (トレースするプラグイン)	すべての Designer プラグインを (簡略名を使用して) リスト表示します。トレースするプラグインを選択してください。
Select All (すべて選択)	すべての Designer プラグインのトレースを有効にします。
Deselect All (すべて選択解除)	すべての Designer プラグインのトレースを無効にします。

18.4 初期設定 : ヘルプ

表 18-31 初期設定 : ヘルプ

設定	説明
<i>Specify how help information is displayed: Use external browser</i> (ヘルプ情報を表示方法を指定 : 外部ブラウザを使用)	お使いのシステムで組み込みの Web ブラウザがサポートされている場合、[ヘルプ] ウィンドウはそのブラウザを使用してヘルプ情報を表示します。外部ブラウザを使用してヘルプを表示するには、このオプションを有効にします。外部ブラウザを選択するには、[Web Browser preference(Web ブラウザの初期設定)] ページを使用します。
<i>Open window context help</i> (ウィンドウコンテキストヘルプを開く)	ウィンドウコンテキストヘルプを動的 [ヘルプ] ビューに開くか、ポップアップウィンドウに開くかを決定します。
<i>Open window context help</i> (ダイアログコンテキストヘルプを開く)	ダイアログボックスコンテキストヘルプを [ヘルプ] ビューの動的ヘルプセクションに開くか、ポップアップウィンドウに開くかを決定します。
<i>Help view document open mode</i> ([ヘルプ] ビューのドキュメントオープンモード)	[ヘルプ] ビューで選択したドキュメントをその場所に開くか、エディタ領域に開くかを決定します。

18.4.1 ヘルプサーバ

ヘルプシステムには、ヘルプの内容をブラウザに渡す内部サーバが含まれています。次の設定を編集すれば、サーバが使用するインタフェースとポートを変更できます。ただし、これらの設定を変更するのは、実際に問題が発生し、デフォルトの設定ではヘルプを表示できない場合だけにしてください。

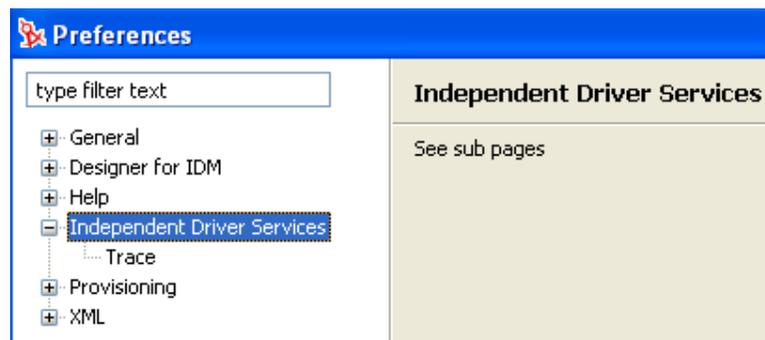
表 18-32 ヘルプサーバの設定

設定	説明
ヘルプサーバ: ホスト名または IP アドレス	サーバが使用するローカル IP インタフェースの名前またはアドレス。このフィールドは空白のままにするか、自分自身の IP アドレスを指定します。
ヘルプサーバ: サーバポート	サーバが待機する IP ポート。ポートを割り当てないと、OS によって 1 つのポートが割り当てられます。

18.5 Independent Driver Services (独立ドライバサービス)

Independent Driver Services (独立ドライバサービス) は、リリース前の機能であり、サポートもドキュメント化もされていません。

図 18-17 初期設定 :Independent Driver Services (独立ドライバサービス)



18.6 初期設定 : プロビジョニング

プロビジョニング設定については、以下の資料を参照してください。

- ◆ ヘルプシステムの「ツールとサービス」の項にある『*Designing User Application Components*』の中の「Setting Provisioning View Preferences(プロビジョニングビューの初期設定)」
- ◆ Identity Manager User Application: Design Guide (<http://www.novell.com/documentation/beta/idm/index.html?page=/documentation/beta/idm/dgpro/data/bookinfo.html>) の Setting Provisioning View Preferences(プロビジョニングビューの初期設定) (<http://www.novell.com/documentation/beta/idm/index.html?page=/documentation/beta/idm/dgpro/data/palprovprefs.html>)

18.7 初期設定 :XML

Novell Hafnium XML エディタが使用するファイルタイプを指定します。

18.7.1 Novell XML エディタ

ソースコード内で行を折り返す位置と折り返す領域を制御します。アウトラインモードでのスクロールと展開を制御します。

18.7.2 [XML Tree (XML ツリー)] ビュー

ツリーテーブルレイアウトを有効にします。

- ◆ 429 ページのセクション 19.1 「エラーログの表示」
- ◆ 430 ページのセクション 19.2 「トレースメッセージの有効化」
- ◆ 432 ページのセクション 19.3 「ロードされたプラグインの確認」
- ◆ 432 ページのセクション 19.4 「Identity Manager オブジェクトの展開」
- ◆ 450 ページのセクション 19.5 「ドキュメント生成時の問題」
- ◆ 455 ページのセクション 19.6 「バグとフィードバックの送付」

19.1 エラーログの表示

[Error Log (エラーログ)] ビューは、トラブルシューティングに役立ちます。不具合が生じた場合、エラーログに出力されたメッセージに有用な情報が含まれる場合があります。ログの名前は .log で、隠しファイルになっています。

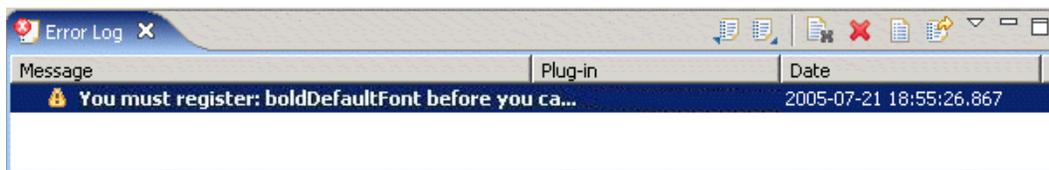
エラーログを表示するには、メニューを使用するか、ファイルシステムを参照します。

- ◆ 429 ページのセクション 19.1.1 「メニューの使用」
- ◆ 430 ページのセクション 19.1.2 「ファイルシステムの参照」

19.1.1 メニューの使用

- 1 [Window (ウィンドウ)] > [Show View (ビューの表示)] > [Other (その他)] > [PDE Runtime (PDE ランタイム)] > [Error Log (エラーログ)] の順にクリックします。
- 2 [OK] をクリックします。

ログをアプリケーションで表示すると、メッセージのリストが表示されます。



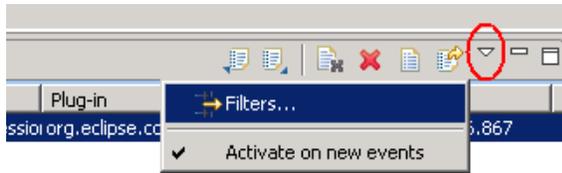
詳細を表示するには、メッセージをダブルクリックします (右クリックして、[Event Details (イベントの詳細)] をクリックしても表示できます)。

メッセージをソートするには、目的の見出しバーをクリックします。

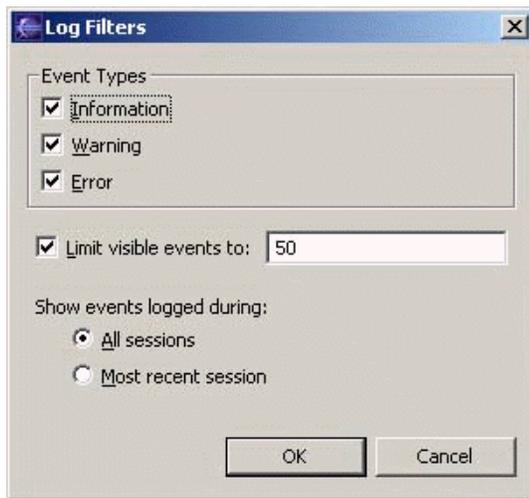
ログファイルのエクスポート、インポート、クリア、削除、読み込み、復元、またはフィルタを実行するには、[Error Log (エラーログ)] ビューのツールバーを使用します。

表示するメッセージのタイプ (および番号) のフィルタを設定するには :

- 1 [Error Log (エラーログ)] ビューのツールバーで、フィルタのアイコンをクリックします。



- 2 [Filters (フィルタ)] を選択します。
- 3 フィルタ設定をカスタマイズし、[OK] をクリックします。



19.1.2 ファイルシステムの参照

- 1 Designer のワークスペースを参照します。

Windows の場合、ログファイルは通常 `/eclipse/workspace/.metadata` ディレクトリのサブディレクトリにあります。

Linux の場合、ログファイルは通常 `/eclipse/workspace/.metadata` ディレクトリの `Home` ディレクトリにあります。

- 2 ログファイルを開きます。

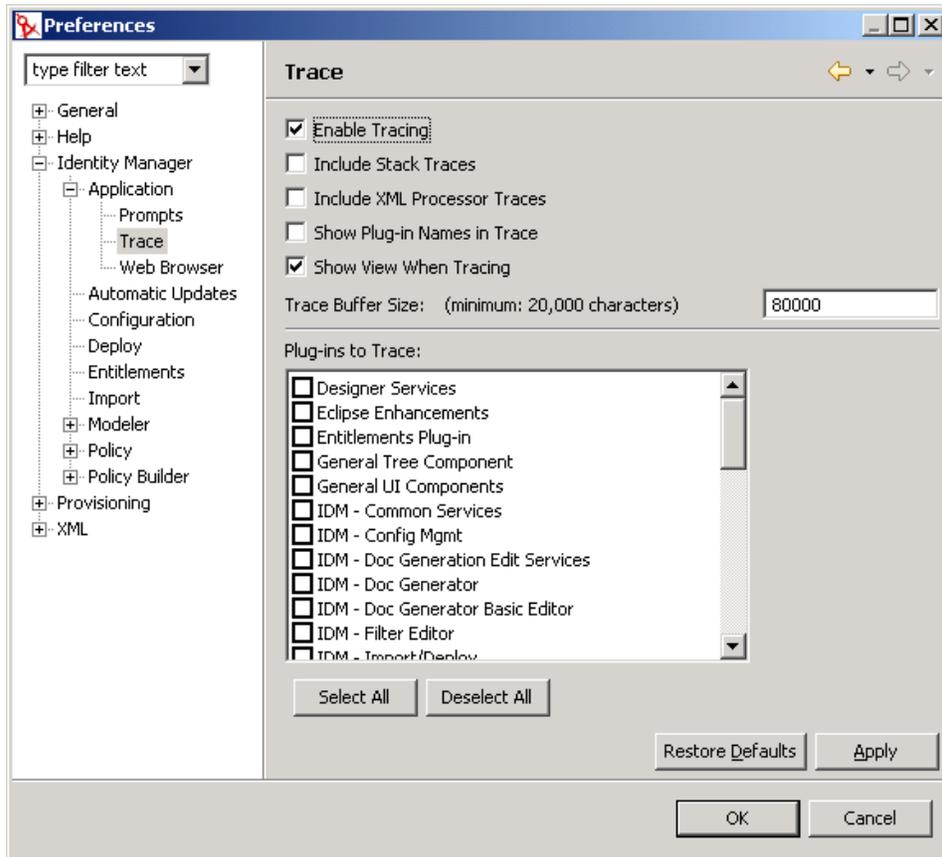
19.2 トレースメッセージの有効化

トレースメッセージをエラーログに送信すると、メッセージがファイルに出力されるため便利です。これにより、トレースメッセージを Novell® のサポート担当者などに電子メールで簡単に送付できます。

プログラミングテクニックとして、隠しメッセージをコードに配置しておくことがあります。こうしておくと、問題があった場合にトレース機能を有効化して、追加情報を取得できます。隠しメッセージの意味は一般ユーザには理解できないかもしれませんが、Novell のサポート担当者が問題を診断するときに役立ちます。

トレースメッセージを取得するには：

1. [Window (ウィンドウ)] > [Preferences (初期設定)] > [Identity Manager] の順にクリックします。



2. [Application (アプリケーション)] > [Trace (トレース)] をクリックします。
3. トレースを有効にし、表示するオプションや含めるオプションを選択します。
4. トレースするプラグインを選択して、[OK] をクリックします。

トレースの結果を表示するには：

1. [Window (ウィンドウ)] > [Show View (ビューの表示)] > [Trace (トレース)] の順にクリックします。
2. [Trace (トレース)] ビューでデータを確認します。

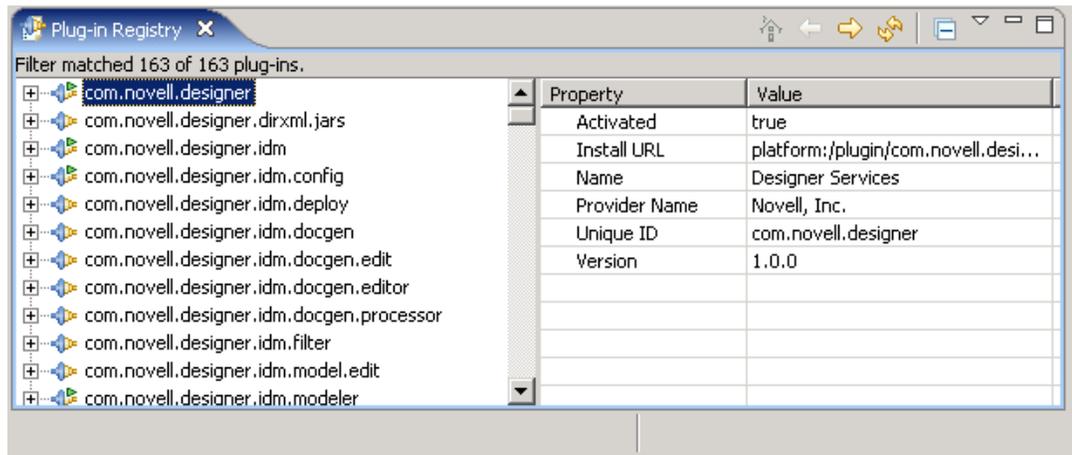
[Trace (トレース)] ビューでもトレースオプションを有効にできます。有効にするには、[Trace (トレース)] ビューで [Preferences (初期設定)] アイコン  をクリックします。

19.3 ロードされたプラグインの確認

プラグインのロードに失敗すると問題が発生します。ロードされたプラグインを表示するには：

- 1 [Window (ウィンドウ)] > [Show View (ビューの表示)] > [Other (その他)] の順にクリックします。
- 2 [PDE Runtime (PDE ランタイム)] フォルダを開きます。
- 3 [Plug-in Registry (プラグインレジストリ)] > [OK] の順にクリックします。

[Plug-in Registry (プラグインレジストリ)] ページに、Designer プラグインが緑色の三角付きのアイコンで表示されます。



19.4 Identity Manager オブジェクトの展開

Designer に表示されるエラーメッセージは、Designer がタスクを完了できなかった箇所に対応しているため、トラブルシューティングはそこから始めることをお勧めします。この節では、Identity Manager オブジェクトを eDirectory ツリーに展開するとき起きる一般的な問題について説明します。展開エラーメッセージとその解決法の詳細については、[436 ページのセクション 19.4.3 「エラーメッセージと解決法」](#)を参照してください。

確認事項

- ◆ メタディレクトリサーバが、Identity Manager の実行に必要なシステム要件を満たしていることを確認します。要件の詳細については、『[Novell Identity Manager 3.0 管理ガイド](#)』を参照してください。
- ◆ 展開先のメタディレクトリサーバに Identity Manager がインストールされており、同期対象オブジェクトのコピーの実体があることを確認します。eDirectory™ を実行するサーバには、Master Read-Write または Filtered Read-Write レプリカが必要です。
- ◆ サーバにインストールされている Java が正常に動作していることを確認します。Identity Manager は Java に依存しています。Java が破損している場合、メタディレクトリサーバを展開できても、Identity Manager ドライバを実行できない可能性があります。
- ◆ Identity Manager ベースのプロジェクトやプロジェクト内のオブジェクトを展開するには、設計しているアイデンティティポータルに関連付けられている eDirectory ツリー

にアクセスできることが必要です。展開するアイデンティティボールドを選択し、**[Project (プロジェクト)] / [Outline (アウトライン)]** ビューの下の **[Properties (プロパティ)]** ビューを確認します。

図 19-1 **[Properties (プロパティ)]** ビュー

Property	Value
Name	IDMTREE
Host Address	192.168.14.199
User DN	admin.blanston
Password	****
Deploy Context	blanston
Meta Directory	true
Save Password	false

[Properties (プロパティ)] ビューで、アイデンティティボールドの **[Name (名前)]**、**[Host Address (ホストアドレス)]**、**[User DN (ユーザ DN)]**、**[Password (パスワード)]**、**[Deploy Context (展開コンテキスト)]** の識別名 (DN)、および **[Meta Directory (メタディレクトリ)]** の情報が正確であることを確認します (展開コンテキスト以外の情報が正しく、**Designer** を **eDirectory** ツリーにアタッチできる場合は、**[Browse (参照)]** ボタンをクリックして、展開コンテキストの DN を既存のツリーから探すこともできます)。この情報は、メタディレクトリエンジンを実行する既存の **eDirectory** ツリーに、ポリシーを含めてすべてを展開する場合に必要です。

- ◆ 展開機能は、ドライバを構成するルールやポリシーを徹底的にテストしてから使用してください。ポリシーのテストには、**Policy Simulator (ポリシーシミュレータ)** を使用します (ポリシーを右クリックし、**[Simulate (シミュレート)]** を選択します。**[Start (開始)]** をクリックして、テストされているポリシーのシミュレーション結果を表示します)。ポリシーの詳細については、**Designer** ユーティリティの **Policy Builder** に関するヘルプトピックを参照してください。

[Import (インポート)] 機能を使用すると、ドライバ、チャネル、またはポリシーをインポートできます。オブジェクトを変更し、ポリシーシミュレータを実行してオブジェクトが正常動作することを確認し、オブジェクトをテストツリーに展開して、分析を続けます。また、**[Compare (比較)]** 機能を実行すると、変更したドライバとアイデンティティボールドサーバで現在実行中のドライバとの相違点を表示できます。

- ◆ **[Project Group (プロジェクトグループ)]** ビューの **[Outline (アウトライン)]** ビューで、問題のドライバオブジェクトを右クリックします (またはドライバオブジェクトを右クリックします)。ほとんどの変更は **[Properties (プロパティ)]** ウィンドウで行います。プロパティは各ドライバ専用です。

ドライバのシンプルな問題の 1 つは、**eDirectory** で不適切なコンテキスト (DN) が指定されている場合です。たとえば、**eDirectory** に含まれているユーザオブジェクトのコンテキストが、**Identity Manager** の **[Properties (プロパティ)]** で、またはドライバのインポート時に、スラッシュ表記されている場合 (**Blanston\Sales\Users** など) です。ただし、ドライバによっては、スラッシュ表記以外の形式を使用できます。たとえば、**Active Directory** や **LDAP** ドライバはカンマ区切り形式を使用します

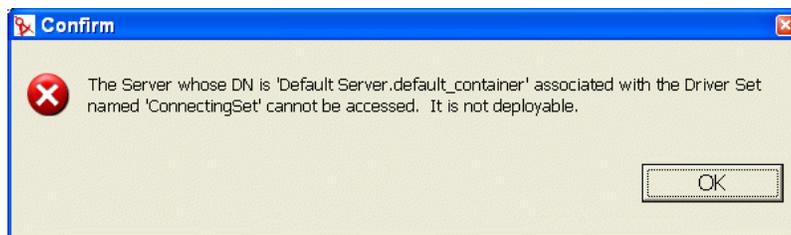
(*OU=Users,OU=Sales,O=Blanston*)。展開するドライバの詳細については、ドライバガイドを参照してください。

- ◆ 434 ページのセクション 19.4.1 「展開エラーの例」
- ◆ 435 ページのセクション 19.4.2 「空のサーバリストが設定されたドライバの展開」
- ◆ 436 ページのセクション 19.4.3 「エラーメッセージと解決法」

19.4.1 展開エラーの例

アイデンティティボールドを初めて展開する場合によく見られるエラーの原因がいくつかあります。たとえば、入力した情報が正しくなく、ドライバセットテンプレートの指定が不完全な場合です。

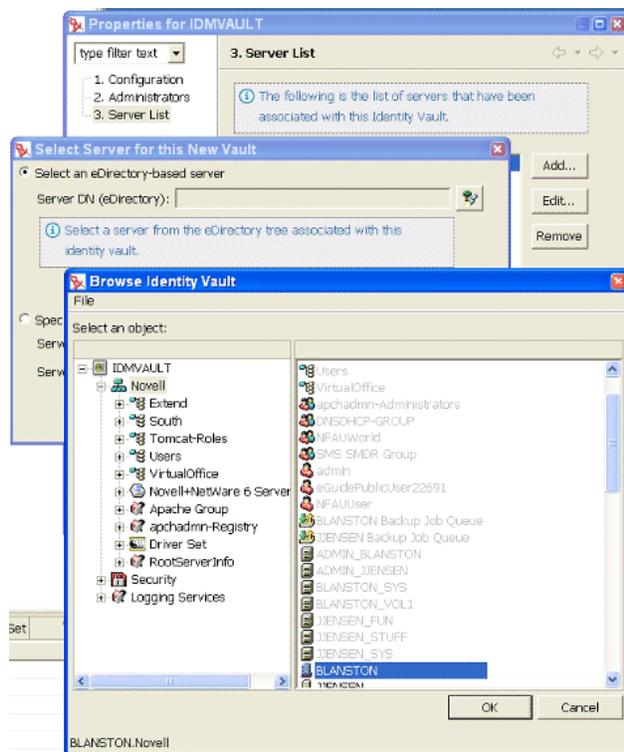
図 19-2 デフォルトのサーバコンテナメッセージ



このメッセージでは、サーバ情報が不正なためサーバにアクセスできない旨が説明されています。[Modeler (モデラ)] ビューでアイデンティティボールドを右クリックし、

[Properties (プロパティ)] > [Server List (サーバリスト)] を選択し、[Edit (編集)] ボタンをクリックして、サーバ情報を編集します。

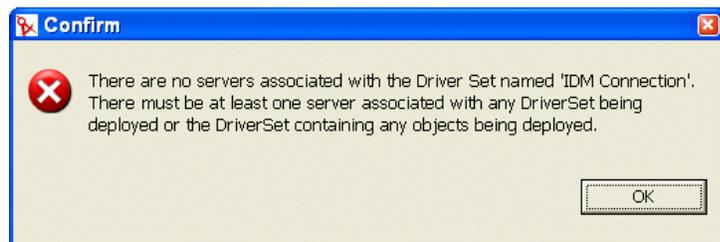
図 19-3 サーバ名の問題の修正



19.4.2 空のサーバリストが設定されたドライバの展開

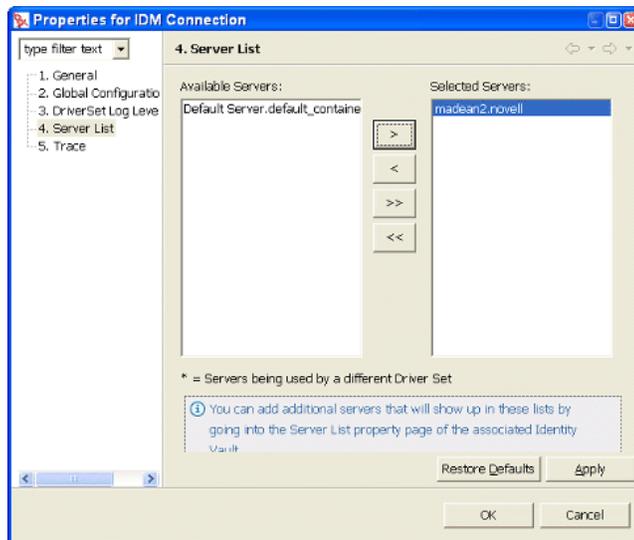
空のサーバリストが設定されたドライバセットを展開すると、次のエラーメッセージが表示されます。

図 19-4 サーバの関連付けなし



この問題を修正するには、サーバリスト情報がアイデンティティポールのプロパティの「Properties (プロパティ)」 ページで正しく設定されていることを確認します。

図 19-5 使用可能なサーバ



19.4.3 エラーメッセージと解決法

Designer に表示されるエラーメッセージは、Designer がタスクを完了できなかった箇所に
対応しているため、そこからトラブルシューティングを始めることをお勧めします。この
節では、Identity Manager オブジェクトを eDirectory ツリーに展開するときに表示される可
能性があるエラーメッセージ、およびその考えられる原因と解決策について説明します。

- ◆ 436 ページの「アイデンティティポールの環境設定エラー」
- ◆ 437 ページの「ドライバの環境設定エラー」
- ◆ 439 ページの「Designer の内部エラー」
- ◆ 439 ページの「eDirectory アクセスエラー」
- ◆ 440 ページの「eDirectory オブジェクト / 属性の作成エラー」
- ◆ 443 ページの「警告」

アイデンティティポールの環境設定エラー

```
Cannot connect to host [Identity Vault Host]; verify the address is  
correct and that the server is running.
```

考えられる原因: アイデンティティポールのプロパティに一覧表示されているアドレス
が正しくないか、サーバが実行されていません。

解決策: サーバアドレスが正しいこと、およびサーバが稼働していることを確認します。

```
[User] could not be authenticated to [Identity Vault Host].Cannot  
proceed.
```

考えられる原因: アイデンティティボルトのプロパティに一覧表示されているユーザ名またはパスワードが正しくありません。

解決策: アイデンティティボルトのプロパティに指定されているユーザ名が正しいことを確認し、そのユーザのパスワードを入力し直します。

ドライバの環境設定エラー

The driver configuration file [Driver Config File] is not a valid XML document:[Error Message].

原因: ファイルシステムからインポートしているドライバ環境設定ファイルに、有効な XML ドキュメントが含まれていません。

解決策: ドライバ環境設定のファイル形式を変更します。

The XML contained the file named [Driver Config File] is not a driver configuration file.The file cannot be imported.

原因: ファイルシステムからインポートしているドライバ環境設定ファイルに、有効な XML ドキュメントが含まれていますが、ドライバ環境設定ファイルとして有効ではありません。

解決策: ドライバ環境設定ファイルをインポートします。

The following 'XML DOM Exception' was thrown.[ExceptionInfo]

原因: ドライバ環境設定 XML ドキュメントの形式が正しくありません。ドライバ環境設定ファイルは Designer によって展開用に動的に生成されるものなので、このエラーは内部エラーの可能性ががあります。

解決策: Designer のトレースを有効にします。有効にするには、[Window (ウィンドウ)] > [Preferences (初期設定)] > [Identity Manager] > [Application (アプリケーション)] > [Trace (トレース)] > [Enable Tracing (トレースの有効化)] の順に選択します。[Trace (トレース)] ウィンドウで、[Include XML Processor Traces (XML プロセッサトレースを含める)] チェックボックスをオンにします。展開を再試行し、生成されるトレースファイルを Novell® のサポート担当者までお送りください。

The following 'Number Format Exception' was thrown.[ExceptionInfo]

原因: 展開中のドライバ環境設定ファイルに不正な整数値があります。Designer のすべての整数フィールドが正しいことをコンテンツの設定時に確認する必要があります。

解決策: Designer のトレースを有効にします。有効にするには、[Window (ウィンドウ)] > [Preferences (初期設定)] > [Identity Manager] > [Application (アプリケーション)] > [Trace (トレース)] > [Enable Tracing (トレースの有効化)] の順に選択します。[Trace (トレース)] ウィンドウで、[Include XML Processor Traces (XML プロセッサトレースを含める)] チェックボックスをオンにします。再度展開し、生成されたドライバ環境設定ファイルを分析して、整数属性値がすべて正しいことを確認します。Designer の不正なパラメータを特定し、適切な設定に修正して、再度展開します。

The specified driver configuration file does not contain a valid driver configuration.

原因: Designer が、動的に生成された無効な形式のドライバ環境設定ファイル进行处理しようとした。

解決策: インポート/展開プラグインの XML トレースを有効にします。有効にするには、[Window (ウィンドウ)] > [Preferences (初期設定)] > [Identity Manager] > [Application (アプリケーション)] > [Trace (トレース)] > [Enable Tracing (トレースの有効化)] の順に選択します。[Trace (トレース)] ウィンドウで、[Include XML Processor Traces (XML プロセッサトレースを含める)] チェックボックスをオンにします。再度展開し、生成されるトレースファイルを Novell のサポート担当者までお送りください。それ以外の場合は、インポートされる環境設定ファイルを編集し、エラーを修正します。

Tree population is not supported from a Driver Set configuration. Tree population components will be ignored.

原因: 処理中のドライバ環境設定ファイルの <driver-set-configuration> に <ds-object> 要素がありませんが、これは許されません。

解決策: 環境設定ファイルが動的に生成されたものである場合は、Novell のサポート担当者まで問い合わせてください。そうでない場合は、<ds-object> 要素を <driver-configuration> 要素内に移動します。

The following Driver Set based global variables could not be resolved:[Global Variable List] These variables exist in both the source and target Driver Sets.The two definitions, however, have different types.

原因: 処理中のドライバ環境設定ファイルに、解決できないグローバル変数定義があります。

解決策: 環境設定ファイルが動的に生成されたものである場合は、Novell のサポート担当者にお問い合わせください。ディスク上のドライバ環境設定ファイルの場合は、グローバル変数定義を確認します。

The driver configuration file being processed does not contain a valid driver configuration.

原因: 処理中のドライバ環境設定ファイルに、<driver-configuration> 要素がありません。

解決策: 環境設定ファイルが動的に生成されたものである場合は、インポート/展開プラグインの XML トレースを有効にします。有効にするには、[Window (ウィンドウ)] > [Preferences (初期設定)] > [Identity Manager] > [Application (アプリケーション)] > [Trace (トレース)] > [Enable Tracing (トレースの有効化)] の順に選択します。[Trace (トレース)] ウィンドウで、[Include XML Processor Traces (XML プロセッサトレースを含める)] チェックボックスをオンにします。再度展開し、生成されるトレースファイルを Novell のサポート担当者までお送りください。それ以外の場合は、インポートされる環境設定ファイルを編集し、エラーを修正します。

The specified driver configuration file was only intended to be imported from a ConsoleOne command line.

原因 : 処理中のドライバ環境設定ファイルが有効なドキュメントではありません。

Designer の内部エラー

An internal error has occurred in the Designer Data Model:The policy named [Policy Name] does not know its container.

原因 : 展開中のポリシーが、チャンネルオブジェクトまたはドライバオブジェクトに含まれていません。これは異常なエラーで、Designer モデルが破損していることを示します。

解決策 : Novell のサポート担当者にお問い合わせください。

eDirectory アクセスエラー

The following 'Component Creation Exception' occurred while trying to access eDirectory.[Exception Info]

原因 : 展開中のドライバ環境設定ファイルに含まれている値の中に、eDirectory に対して正常に作成できなかったものがあります。ドライバ環境設定ファイルは Designer によって展開用に動的に生成されるものなので、このエラーは内部エラーの可能性ががあります。ただし、Designer のドライバがファイルシステムからドライバ環境設定ファイルをインポートすることで作成されており、その環境設定ファイルに Tree Population Segment が含まれている場合は、<ds-object> 要素が無効である可能性があります。

解決策 : Designer のトレースを有効にします。有効にするには、[Window (ウィンドウ)] > [Preferences (初期設定)] > [Identity Manager] > [Application (アプリケーション)] > [Trace (トレース)] > [Enable Tracing (トレースの有効化)] の順に選択します。[Trace (トレース)] ウィンドウで、[Include XML Processor Traces (XML プロセッサトレースを含める)] チェックボックスをオンにします。再度展開し、生成されるドライバ環境設定ファイルを分析して、<ds-object> 要素が存在するかどうかを確認します。存在する場合は、すべての属性値が正しいことを確認します。<ds-object> 要素がない場合、またはすべての値が正しいように思われる場合は、Novell のサポート担当者にお問い合わせください。

The following 'IO Exception' occurred while trying to access eDirectory.[ExceptionInfo]

原因 : これは Java 例外で、Designer が要求された入力または出力操作を実行できなかったことを示しています。

解決策 : Novell のサポート担当者にお問い合わせください。

DSAccessException:[ExceptionInfo]

原因 : Designer がターゲットの展開サーバに接続できませんでした。

解決策 : アイデンティティボルトのプロパティページに指定されているサーバ情報が正しいこと、および eDirectory サーバが稼働していることを確認します。

```
The following 'Namespace Exception' occurred while trying to access eDirectory.({0})
```

原因 : これはネームスペース例外で、属性やクラスが見つからないなど、eDirectory スキーマに問題があることを示しています。

解決策 : インポート中または展開中の eDirectory スキーマが正しいことを確認します。展開中のドライバに **Tree Population Segments** が含まれている場合は、作成されるオブジェクトが目的の eDirectory スキーマに対して有効であることを確認します。

```
An exception occurred during the deployment.Cannot perform the operation.
```

原因 : 不明な例外が発生しました。

解決策 : Novell のサポート担当者にお問い合わせください。

```
The following 'Snapin Exception' occurred while trying to access eDirectory.[ExceptionInfo]
```

原因 : 一部のメソッドでは、インポート / 展開中の例外やエラーをレポートするためにスナップイン例外を発生させます。スナップイン例外のサブクラスには次のようなものがあります。

- ◆ **NotAContainerException**: eDirectory オブジェクトの子がコンテナではないのに、それに対する呼び出しがありました。
- ◆ **ObjectNotFoundException**: 解決中のオブジェクトが eDirectory で見つかりませんでした。
- ◆ **SPIException**: eDirectory ツリーに接続できません。

解決策 : 例外には、その原因となったオブジェクトの名前が記録されている場合があります。インポート中または展開中の eDirectory ツリーが実行中であること、およびそこに **Identity Manager** がインストールされていることを確認します。

```
The following exception occurred but was not handled.({0})
```

原因 : eDirectory 内のオブジェクトの解決中に予期しないエラーが発生しました。

解決策 : Novell のサポート担当者にお問い合わせください。

eDirectory オブジェクト / 属性の作成エラー

```
The driver could not be created.
```

原因 : Designer が eDirectory にドライバを作成しようとしたが、処理が失敗しました。

解決策 : ターゲットの eDirectory サーバに Identity Manager がインストールされていることを確認します。

A [ObjectClass] object named [ObjectName] could not be created.

原因 : Designer が発行者オブジェクト、購読者オブジェクト、またはポリシーオブジェクトを eDirectory に作成しようとしたが、処理が失敗しました。

解決策 : ターゲットの eDirectory サーバに Identity Manager がインストールされていることを確認します。

The driver password could not be saved.

原因 : Designer がドライバパスワードを eDirectory に設定しようとしたが、要求が失敗しました。

解決策 : ターゲットの eDirectory サーバに Identity Manager がインストールされていることを確認します。

The password named ''{0}'' could not be saved.

原因 : Designer が名前付きパスワードを eDirectory に設定しようとしたが、要求が失敗しました。

解決策 : インポート/展開プラグインのスタックトレースを有効にして、例外について詳しい情報を集めます。有効にするには、[Window (ウィンドウ)] > [Preferences (初期設定)] > [Identity Manager] > [Application (アプリケーション)] > [Trace (トレース)] > [Enable Tracing (トレースの有効化)] の順に選択します。[Trace (トレース)] ウィンドウで、[Include Stack Traces (スタックトレースを含める)] チェックボックスをオンにします。

The value for the attribute named [Attribute Name] could not be stored on the object named [Object name].

原因 : Designer が eDirectory のオブジェクトに属性を追加しようとしたが、要求が失敗しました。エラーメッセージには、属性とオブジェクトの情報が含まれています。

解決策 : 指定された eDirectory オブジェクトタイプに対して属性と値が有効であることを確認します。

The value for the attribute named ''{0}'' could not be updated using the XSLT on the object named ''{1}''.

原因 : シム環境設定情報をエクスポートできませんでした。

解決策 : Novell のサポート担当者にお問い合わせください。

An exception was thrown updating the value of the [Attribute Name]

attribute on the [Item Type] object named [Object Name].[Exception Info]

原因: Identity Manager オブジェクトと属性を eDirectory に展開できませんでした。エラーメッセージには例外の詳細情報が含まれています。

解決策: Novell のサポート担当者にお問い合わせください。

A [Object Class] object could not be created.The name is missing.

原因: 名前が指定されていなかったため、eDirectory オブジェクトを指定されたオブジェクトクラスに作成できませんでした。

解決策: Novell のサポート担当者にお問い合わせください。

The policy named [Policy Name] contains a cycle in its next transformation list.

原因: これは警告メッセージで、Designer がポリシーチェーンで循環ループを検出した場合に出力されます。

解決策: [Policy Set Manager (ポリシーセットマネージャ)] ビューで次のポリシーを修正して、ポリシーのループを解消します。

The policies named [Policy name] contain cycles in their next transformation lists.

原因: これは警告メッセージで、Designer がポリシーチェーンで循環ループを検出した場合に出力されます。

解決策: [Policy Set Manager (ポリシーセットマネージャ)] ビューで次のポリシーを修正して、ポリシーのループを解消します。

Driver [Driver name] could not be restarted for the deployed changes to be in effect.

原因: 展開後に Designer がドライバを再起動できませんでした。

解決策: eDirectory の DSTRACE 画面を表示し、ドライバの起動を妨げているエラーを確認します。

Driver '[Driver Name]' is disabled and could not be restarted for the deployed changes to be in effect.

原因: ドライバ起動オプションが [Disabled (無効)] に設定されていたため、Designer が展開後にドライバを再起動できませんでした。

解決策: ドライバのプロパティでドライバ起動オプションを [Manual (手動)] または [Auto-start (自動スタート)] に変更して、ドライバを展開します。

Driver '[Driver Name]' could not be stopped for the deployed changes to be in effect.

原因: 展開後に Designer がドライバの実行を停止できませんでした。

解決策: eDirectory の DSTRACE 画面を表示し、ドライバの停止を妨げているエラーを確認します。

An invalid request to set up security on an exported driver was made, no Driver objects were provided.The request cannot be processed.

原因: 展開されたドライバの同等セキュリティを設定するコードに無効なパラメータが渡されました。

解決策: Novell のサポート担当者にお問い合わせください。

警告

The version of Identity Manager running on the server named '[Server Name]' does not support all the features of Designer.Although you can import a configuration from that server, changes may not work if the configuration is deployed back to it.

原因: サポートされていないバージョンを実行する eDirectory サーバに対してインポートまたは展開アクションが実行されました。

解決策: 展開するには、サーバのアップグレードが必要です。

An internal error has occurred.The parameters passed into the importer were invalid.

原因: インポートを実行するコードに無効なパラメータが渡されました。

解決策: Novell のサポート担当者にお問い合わせください。

The '[Attribute Name]' attribute of '[Object Name]' refers to a policy that does not exist or cannot be accessed.

原因: 処理中のドライバ環境設定ファイルに eDirectory で解決できない DN 属性が含まれています。

解決策: eDirectory の指定されたオブジェクトの DN 属性値を確認および修正します。

An external reference to '[Object Name]' was not handled.

原因: 処理中のドライバ環境設定ファイルに eDirectory で解決できない DN 属性が含まれています。

解決策 : Novell のサポート担当者にお問い合わせください。

The XML for the policy named '[Object Name]' contained in the [Policy Type] named '[Policy Name]' does not contain valid XML for a policy. '[Root Node]' is not recognized as the root node for policy XML. The policy is being ignored.

原因 : インポート中のポリシーに有効な XML ドキュメントが含まれていません。

解決策 : eDirectory のポリシーの内容を修正します。

A [Item Type] can only be imported into a [Item Type]. A [Item Type] can only be imported into a [Item Type] or [Item Type].

原因 : Identity Manager オブジェクトを無効な親オブジェクトにインポートしようとした。たとえば、ポリシーをドライバセットにインポートすることはできません。このような事態はコードで回避するべきですが、このエラーは対応できていないシナリオがあることを示しています。

解決策 : Novell のサポート担当者にお問い合わせください。

An unhandled import request was encountered in DeployImporter_Import method [Object DN].

原因 : 不明なオブジェクトまたは属性を eDirectory からインポートしようとした。このような事態はコードで回避するべきですが、このエラーは対応できていないシナリオがあることを示しています。

解決策 : Novell のサポート担当者にお問い合わせください。

Could not access the driver configuration file named '[File Name]'.

原因 : Designer は指定されたドライバ環境設定ファイルを開けなかったか、分析できませんでした。

解決策 : Novell のサポート担当者にお問い合わせください。

The driver filter could not be read from the driver named '[Driver Name]'.

原因 : Designer がドライバフィルタをインポートできませんでした。

解決策 : eDirectory で DSTRACE を有効にしてエラーを特定し、Novell のサポート担当者にお問い合わせください。

An error was encountered processing the driver configuration file. The variable named [Variable Name] is defined more than once.

原因 : ドライバ環境設定ファイルに変数定義の重複があります。

解決策: ドライバ環境設定ファイルをファイルからインポートしている場合は、ファイルを編集し、該当する変数の宣言の重複を削除します。環境設定ファイルが動的に生成されたものである場合は (eDirectory にインポート/展開された場合)、インポート/展開の XML トレースを有効にし、生成される環境設定ファイルのトレースを取得して、Novell のサポート担当者にお問い合わせください。Designer のトレースを有効にするには、[Window (ウィンドウ)] > [Preferences (初期設定)] > [Identity Manager] > [Application (アプリケーション)] > [Trace (トレース)] > [Enable Tracing (トレースの有効化)] の順に選択します。[Trace (トレース)] ウィンドウで、[Include XML Processor Traces (XML プロセッサトレースを含める)] チェックボックスをオンにします。

```
An error was encountered processing the driver configuration file.The
declaration of the Node variable named [Variable Name] is invalid.The
[Attribute name] attribute is missing.
```

原因: 処理中のドライバ環境設定ファイルに無効な変数宣言が含まれています。

解決策: ドライバ環境設定ファイルをファイルからインポートしている場合は、ドライバ環境設定ファイルを編集し、該当する変数宣言を修正します。環境設定ファイルが動的に生成されたものである場合は (eDirectory にインポート/展開された場合)、インポート/展開の XML トレースを有効にし、生成される環境設定ファイルのトレースを取得して、Novell のサポート担当者にお問い合わせください。Designer のトレースを有効にするには、[Window (ウィンドウ)] > [Preferences (初期設定)] > [Identity Manager] > [Application (アプリケーション)] > [Trace (トレース)] > [Enable Tracing (トレースの有効化)] の順に選択します。[Trace (トレース)] ウィンドウで、[Include XML Processor Traces (XML プロセッサトレースを含める)] チェックボックスをオンにします。

```
An error was encountered processing the driver configuration
file.Flexible prompting requires a 'use-when-value' when a 'use-when-
var' is specified.
```

原因: 処理中のドライバ環境設定ファイルにエラーがあります。

解決策: ドライバ環境設定ファイルをファイルからインポートしている場合は、ドライバ環境設定ファイルを編集し、該当する use-when-var に use-when-value を追加します。環境設定ファイルが動的に生成されたものである場合は (eDirectory にインポート/展開された場合)、インポート/展開の XML トレースを有効にし、生成される環境設定ファイルのトレースを取得して、Novell のサポート担当者にお問い合わせください。Designer のトレースを有効にするには、[Window (ウィンドウ)] > [Preferences (初期設定)] > [Identity Manager] > [Application (アプリケーション)] > [Trace (トレース)] > [Enable Tracing (トレースの有効化)] の順に選択します。[Trace (トレース)] ウィンドウで、[Include XML Processor Traces (XML プロセッサトレースを含める)] チェックボックスをオンにします。

```
An error was encountered processing the driver configuration
file.Flexible prompting requires a 'use-when-var' when a 'use-when-
value' is specified.
```

原因: 処理中のドライバ環境設定ファイルにエラーがあります。

解決策: ドライバ環境設定ファイルをファイルからインポートしている場合は、ファイルを編集し、該当する use-when-value の use-when-var を追加します。環境設定ファイルが動

的に生成されたものである場合は (eDirectory にインポート / 展開された場合)、インポート / 展開の XML トレースを有効にし、生成される環境設定ファイルのトレースを取得して、Novell のサポート担当者にお問い合わせください。Designer のトレースを有効にするには、[Window (ウィンドウ)] > [Preferences (初期設定)] > [Identity Manager] > [Application (アプリケーション)] > [Trace (トレース)] > [Enable Tracing (トレースの有効化)] の順に選択します。[Trace (トレース)] ウィンドウで、[Include XML Processor Traces (XML プロセッサトレースを含める)] チェックボックスをオンにします。

```
The variable named [Variable Name] has been referred to but not defined
in the driver configuration file being processed.
```

原因：ドライバ環境設定ファイルに、参照されていて未定義の変数があります。

解決策：ドライバ環境設定ファイルをファイルからインポートしている場合は、ドライバ環境設定ファイルを編集し、該当する変数の宣言を追加します。環境設定ファイルが動的に生成されたものである場合は (eDirectory にインポート / 展開された場合)、インポート / 展開の XML トレースを有効にし、生成される環境設定ファイルのトレースを取得して、Novell のサポート担当者にお問い合わせください。Designer のトレースを有効にするには、[Window (ウィンドウ)] > [Preferences (初期設定)] > [Identity Manager] > [Application (アプリケーション)] > [Trace (トレース)] > [Enable Tracing (トレースの有効化)] の順に選択します。[Trace (トレース)] ウィンドウで、[Include XML Processor Traces (XML プロセッサトレースを含める)] チェックボックスをオンにします。

```
An error was encountered processing the driver configuration
file.Built-in variables cannot be used as a flexible prompting control
variable.The reference to the variable named '[Variable Name]' is
invalid.
```

原因：処理中のドライバ環境設定ファイルに、変数への無効な参照が含まれています。

解決策：環境設定ファイルがインポート / 展開アクション中に動的に生成されたものである場合は、Novell のサポート担当者にお問い合わせください。ドライバ環境設定ファイルをディスクからインポートしている場合は、ドライバ環境設定ファイルを編集し、該当する変数を修正します。

```
An error was encountered processing the driver configuration
file.There was a non-checkbox reference to the checkbox variable named
'[Check Box Variable name]'.
```

原因：処理中のドライバ環境設定ファイルに、チェックボックス変数への無効な参照が含まれています。

解決策：環境設定ファイルがインポート / 展開アクション中に動的に生成されたものである場合は、Novell のサポート担当者にお問い合わせください。ドライバ環境設定ファイルをディスクからインポートしている場合は、ドライバ環境設定ファイルを編集し、該当するチェックボックス変数を修正します。

```
An error was encountered processing the driver configuration file.An
unhandled import prompt was encountered.
```

原因 : 処理中のドライバ環境設定ファイルに、無効なプロンプトタイプが含まれていません。

解決策 : 環境設定ファイルがインポート / 展開アクション中に動的に生成されたものである場合は、Novell のサポート担当者にお問い合わせください。ドライバ環境設定ファイルをディスクからインポートしている場合は、ドライバ環境設定ファイルを編集し、修正します。

```
The eDirectory tree corresponding to the Identity Vault named '[Identity Vault Name]' cannot be accessed. Directory browsing cannot be performed.
```

原因 : Designer が、ドライバ環境設定ウィザードの eDirectory 参照ボタンを使用して eDirectory にアクセスしようとしたのですが、接続を作成できませんでした。

解決策 : ドライバ環境設定ウィザードを終了し、アイデンティティボールドで接続パラメータを設定してから、環境設定ウィザードをもう一度実行します。

```
The partition could not be created on the '{0}' object. The problem may be that it has not replicated to the master yet. You can try creating the partition manually later.
```

原因 : Designer がドライバセットの展開時にパーティションを作成しようとして、パーティション操作が失敗しました。

解決策 : パーティション処理の eDirectory トレースオプションを有効にして、eDirectory のパーティション処理が失敗する理由を特定します。

```
The Driver Set was created but did not replicate to all the servers in the replica ring. The deployment cannot proceed.
```

原因 : ドライバセットが eDirectory サーバに複製されないと、Designer はサーバ別の属性を展開できません。

解決策 : 複製処理について eDirectory トレースオプションを有効にして、eDirectory の複製処理が失敗する理由を特定します。

```
There are no servers associated with the Driver Set named '{0}'. There must be at least one server associated with any Driver Set being deployed or the Driver Set containing any objects being deployed.
```

原因 : Designer は、サーバリストが空のアイデンティティボールドまたはドライバセットを展開できません。

解決策 : アイデンティティボールドおよびドライバセットのプロパティを編集して、サーバをサーバリストに追加します。

```
The Identity Vault name '[Identity Vault Name]' does not contain any Driver Set objects to deploy.
```

原因: ドライバセットが1つもないアイデンティティボールドを展開することはできません。

解決策: ドライバセットをアイデンティティボールドに追加します。

```
'[User Name]' could not be authenticated to '[Host Name]'.Cannot proceed.
```

原因: Designer が eDirectory ツリーに認証されませんでした。

解決策: アイデンティティボールドのプロパティで、アイデンティティボールドのホスト名、ユーザ、およびパスワードが正しいことを確認します。

```
The Identity Vault named '[Identity Vault Name]' does not contain the eDirectory tree to access.Cannot proceed.
```

原因: アイデンティティボールドに、認証に使用するホストアドレスまたは DNS 名が指定されていません。

解決策: [Properties (プロパティ)] ビューまたは [Properties (プロパティ)] ページで、アイデンティティボールドで使用するホストアドレスまたは DNS 名を指定します。

```
Deploy_Util_NoIdentityVault=The {2} named '{1}' is not contained in an {0}.Cannot proceed.The Identity Vault named '[Identity Vault name]' does not contain the DN of the user to authenticate to the target eDirectory tree with.Cannot proceed.
```

原因: アイデンティティボールドに、認証に使用するユーザが指定されていません。

解決策: [Properties (プロパティ)] ビューまたは [Properties (プロパティ)] ページで、アイデンティティボールドで使用するユーザを指定します。

```
The server list on the parent Driver Set for the following eDirectory Driver is empty.We were unable to import the connected eDirectory Driver:
```

原因: Designer は eDirectory ドライバのサーバ別の Shim Auth Server 属性を使用して、インポートするツリーと接続された eDirectory ドライバを特定します。ところが、サーバリストが空なので、接続された eDirectory ドライバをインポートできません。

解決策: eDirectory ドライバで使用するドライバセットのサーバリストおよび eDirectory のドライバの Shim Auth Server 属性を修正するか、接続された eDirectory ドライバを別個にインポートします。

```
The Shim Auth Server parameter for the eDirectory Driver '[Driver Name]' on server '[Server Name]' is empty.We were unable to import the connected eDirectory Driver.
```

原因 : Designer は eDirectory ドライバの Shim Auth Server パラメータを使用して、インポートするツリーと接続された eDirectory ドライバを特定します。このパラメータが空の場合、接続された eDirectory ドライバをインポートできません。

解決策 : eDirectory ドライバの Shim Auth Server パラメータを修正するか、接続された eDirectory ドライバを別個にインポートします。

Unable to save Driver Configuration to file '[File Name]'.

原因 : Designer はエクスポートされたドライバ環境設定ファイルを保存できませんでした。

解決策 : ファイルを別のディレクトリまたはファイル名で保存します。

Unable to clear contents of Driver Configuration file '[File Name]'.

原因 : Designer は、上書き中のドライバ環境設定ファイルの内容をクリアできませんでした。

解決策 : 上書き中の環境設定ファイルを削除します。

Setting up the Security Equals and Excluded objects may only be performed on a Driver object.

原因 : [Modeler (モデラ)] または [Outline (アウトライン)] ビューで無効なオブジェクトが選択されました。

解決策 : ドライバオブジェクトを 1 つだけ選択して、同等セキュリティまたは除外対象ユーザを設定します。

Only one Driver object can be selected to set up the Security Equivalences and Excluded objects.

原因 : [Modeler (モデラ)] または [Outline (アウトライン)] ビューで複数のオブジェクトが選択されました。

解決策 : ドライバオブジェクトを 1 つだけ選択して、同等セキュリティまたは除外対象ユーザを設定します。

The selected Driver '{0}' has not been deployed or cannot be found in the eDirectory '{1}'.

原因 : Designer が eDirectory のドライバオブジェクトを解決できず、同等セキュリティまたは除外対象ユーザリストを設定できません。

解決策 : 同等セキュリティまたは除外対象ユーザを設定する前に、ドライバを eDirectory に展開します。

The eDirectory tree corresponding to the Identity Vault named '[Tree Name]' cannot be accessed. Setting up the Driver Security Equivalence/

Excluded Users cannot be performed.

原因 : Designer が eDirectory ツリーに接続できなかったか認証されなかったため、ドライバの同等セキュリティまたは除外対象ユーザリストを設定できません。

解決策 : アイデンティティボールドに指定されている eDirectory パラメータが正しいこと、および eDirectory サーバが稼働していることを確認します。

The Identity Vault named '[Identity Vault Name]' has no deployment DN specified.It is not deployable.

原因 : 展開コンテキストが、展開中のアイデンティティボールドまたはドライバセットに指定されていません。

解決策 : Designer で、展開 DN (コンテキスト) をアイデンティティボールドオブジェクトまたはドライバセットオブジェクトに追加します。

19.5 ドキュメント生成時の問題

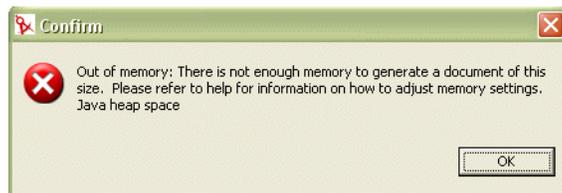
ドキュメント生成時の主な問題は次の 2 つです。

- ◆ 450 ページのセクション 19.5.1 「メモリの問題」
- ◆ 452 ページのセクション 19.5.2 「レポートされた追加アイデンティティボールドスキーマ項目の編集」

19.5.1 メモリの問題

プロジェクトのドキュメントを生成する場合、Designer はすべてのモデル/プロジェクト情報をドキュメントに盛り込みます。Designer のメモリパラメータが使用されていない、またはドキュメント生成処理の実行に十分なメモリがコンピュータにない場合、次のエラーメッセージが表示されます。

図 19-6 メモリ不足メッセージ

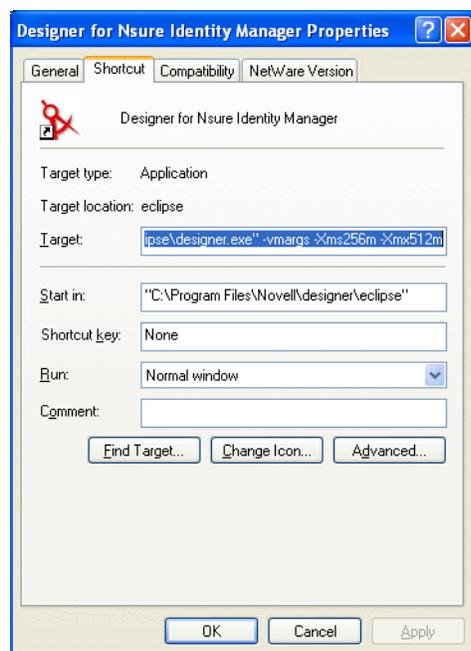


解決策 1: メモリパラメータ設定の確認

Designer のデフォルトの JVM インスタンスが使用するメモリ容量は、メモリパラメータ `-vmargs -Xms256m -Xmx512m` で定義されます。`-Xms256m` パラメータは Designer 用に確保する最低限のメモリ (メガバイト単位) で、`-Xmx512m` パラメータはこのメモリの上限で

す。調整する必要があるパラメータはこれだけです。Windows の場合、この設定はショートカットプロパティに含まれており、Designer のロード時に実装されます。

図 19-7 Windows のショートカット



メモリの問題は、Designer のショートカットでパラメータを削除したまま元に戻すのを忘れると発生します。または、Designer の実行可能ファイルを直接ダブルクリックすることにより、Designer が所定のメモリパラメータを使用しない場合にも発生します。メモリパラメータが Windows ショートカットに指定されていることを確認するには、Designer のデスクトップショートカットを右クリックし、[プロパティ] を選択します。[Shortcut (ショートカット)] ウィンドウの [Target (ターゲット)] 行に、次のように指定されていることを確認してください。

```
C:\Program Files\Novell\designer\eclipse\designer.exe" -vmargs -Xms256m -Xmx512m
```

Linux ワークステーションの場合、パラメータは /designer/eclipse/StartDesigner.sh ファイルに指定されています。このファイルに次の行があることを確認してください。

```
/home/user/designer/eclipse/Designer -vmargs -Xms256m -Xmx512m
```

解決策 2: メモリパラメータの変更

ほとんどのドキュメント生成にはデフォルトのメモリパラメータで十分ですが、メモリ容量に余裕がある場合は、-Xmx512m パラメータを -Xmx768m または -Xmx1024m に変更します。これにより上限の設定が変更されます。

注：この設定はメガバイト単位で調整します。

解決策 3: スキーマ生成の無効化

ワークステーションで使用できるメモリ容量を最大限使用しても、ドキュメントの生成時にメモリ不足エラーが発生する場合は、ドキュメント生成時にこのスキーマを無効にしま

す。無効にするには、Style Editor (スタイルエディタ) の見出し [5. Appendix B: Schema (5. 付録 B: スキーマ)] をクリックします。

見出し [Appendix B: Schema (付録 B: スキーマ)] の [Include this section in the final document (このセクションを最終ドキュメントに含める)] をオフにします。オフにすると、[Style Editor (スタイルエディタ)] ビューの [Appendix B: (付録 B:)] アイコンが変化し、新しい設定が反映されます。これにより、メモリエラーなしにドキュメントを生成できます。

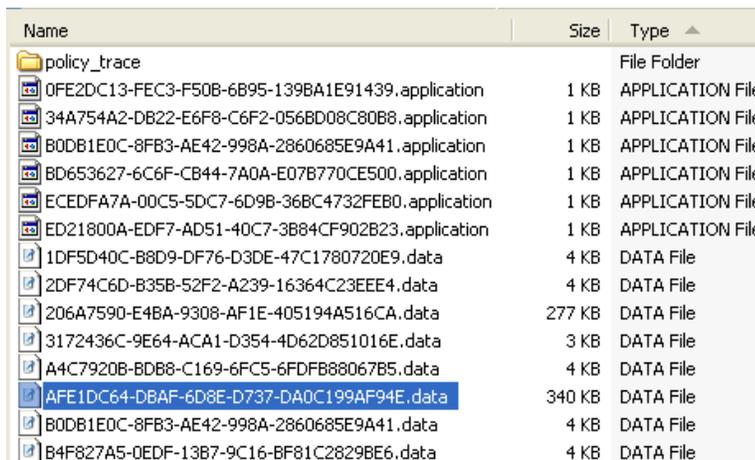
注: この問題は、Designer の将来のバージョンで対応されます。

19.5.2 レポートされた追加アイデンティティボルトスキーマ項目の編集

アイデンティティボルトスキーマ全体を含むプロジェクトをインポートし、そのプロジェクトに関するドキュメントを生成すると、600 ページ以上のスキーマ情報が追加されます。これは、アイデンティティボルトの基本スキーマがドキュメントにすべて含まれるためです。アイデンティティボルトの基本スキーマがすべて必要ではない場合は、次の手順に従います。

- 1 プロジェクトのワークスペースフォルダに移動し、.data ファイルを削除します。

たとえば、Windows ワークステーションの場合、Blanston1_files ディレクトリは C:\Documents and Settings\Novell User\workspace\Blanston1\Blanston1_files にあります。[Type (種類)] をクリックすることで、すべての .data ファイルがまとめて表示されます。アイデンティティボルトの基本スキーマは、サイズが最大の .data ファイルにあります。



Name	Size	Type
policy_trace		File Folder
0FE2DC13-FEC3-F50B-6B95-139BA1E91439.application	1 KB	APPLICATION File
34A754A2-DB22-E6F8-C6F2-056BD08C80B8.application	1 KB	APPLICATION File
B0DB1E0C-8FB3-AE42-998A-2860685E9A41.application	1 KB	APPLICATION File
BD653627-6C6F-CB44-7A0A-E07B770CE500.application	1 KB	APPLICATION File
ECEDF7A-00C5-5DC7-6D9B-36BC4732FEB0.application	1 KB	APPLICATION File
ED21800A-EDF7-AD51-40C7-3B84CF902B23.application	1 KB	APPLICATION File
1DF5D40C-B8D9-DF76-D3DE-47C1780720E9.data	4 KB	DATA File
2DF74C6D-B35B-52F2-A239-16364C23EEE4.data	4 KB	DATA File
206A7590-E4BA-9308-AF1E-405194A516CA.data	277 KB	DATA File
3172436C-9E64-ACA1-D354-4D62D851016E.data	3 KB	DATA File
A4C7920B-BDB8-C169-6FC5-6FDFB88067B5.data	4 KB	DATA File
AFE1DC64-DBAF-6D8E-D737-DA0C199AF94E.data	340 KB	DATA File
B0DB1E0C-8FB3-AE42-998A-2860685E9A41.data	4 KB	DATA File
B4F827A5-0EDF-13B7-9C16-BF81C2829BE6.data	4 KB	DATA File

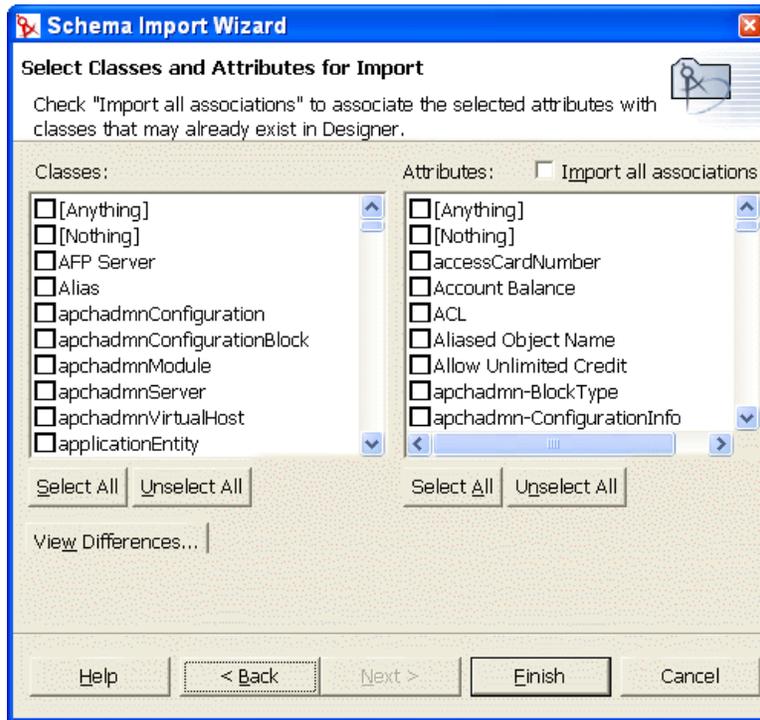
アイデンティティボルトがプロジェクトに複数ある場合は、プロジェクトのフォルダにサイズの大きな .data ファイルが複数存在します。

- 2 .data ファイルをテキストベースのエディタ (ワードパッドなど) を使用して開き、スキーマファイルが存在することを確認します。ファイルの先頭には <schema-def> と表示されます。

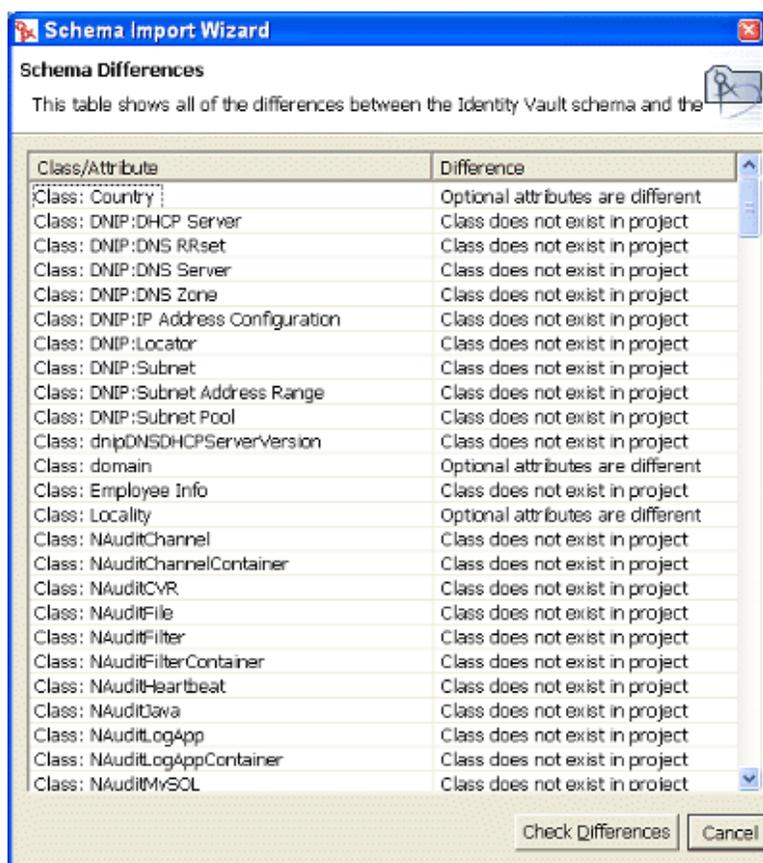
```
<schema-def>
<class-def class-name="AFP Server">
  <attr-def attr-name="Account Balance" multi-value
  <attr-def attr-name="ACL" type="structured"/>
  <attr-def attr-name="Allow Unlimited Credit" mult
  <attr-def attr-name="Audit:File Link" multi-value
  <attr-def attr-name="Authority Revocation" multi-
  <attr-def attr-name="auxClassCompatibility" read-
  <attr-def attr-name="Back Link" read-only="true"
```

- 3 アイデンティティボルトの基本スキーマ全部は不要で、プロジェクトとアイデンティティボルト間のスキーマの相違点だけが必要だとします。スキーマの相違点を取得するには、サイズの大きい .data ファイルをすべて削除し、次の手順に従ってプロジェクトのスキーマをインポートし直します。
- 3a Designer の [Modeler (モデラ)] ビューでプロジェクトを開きます。アイデンティティボルトを右クリックして、[Live Operations (ライブ操作)] > [Import Schema (スキーマのインポート)] の順に選択します。
 - 3b [Select Source for Import (インポートするソースの選択)] ページで、実際のアイデンティティボルトに接続している場合は [Import from eDirectory (eDirectory からインポート)] を選択し、スキーマファイルをローカルに保存した場合は [Import from .sch File (.sch ファイルからインポート)] を選択します。
 - 3c [Import from eDirectory (eDirectory からインポート)] で、接続情報としてホスト名、ユーザ名、およびパスワードを入力します。[Next (次へ)] をクリックします。

- 3d [Select Classes and Attributes for Import (インポートするクラスと属性の選択)] ページで、[View Differences (相違点の表示)] をクリックします。



- 3e [Schema Differences (スキーマの相違点)] ページに、アイデンティティボールドとプロジェクトとのスキーマの違いが表示されます。



- 3f [Check Differences (相違点のチェック)] を選択します。これにより、[Select Classes and Attributes for Import (インポートするクラスと属性の選択)] ページに戻り、[Classes(クラス)] および [Attributes (属性)] 見出しで相違点がオンにされた状態で表示されます。デフォルトでは、[Import All Associations (すべての関連付けのインポート)] チェックボックスもオンになっています。このチェックボックスをオンにしたまま [Finish (完了)] をクリックします。

- 3g [Import Summary (インポートの概要)] ページで、[OK] をクリックします。

プロジェクトに関するドキュメントを生成すると、アイデンティティボールドスキーマ全体ではなく、インポートしたスキーマの相違だけが文書化されます。現状では、アイデンティティボールドスキーマ全体をインポートするか、アイデンティティボールドとプロジェクトとのスキーマの相違だけをインポートするかを選択できます。スキーマをドキュメントに含めないことを選択することもできます。その場合は、[Include This Section in the Final Document (このセクションを最終ドキュメントに含める)] をオフにします。詳細については、451 ページの「解決策 3: スキーマ生成の無効化」を参照してください。スキーマのドキュメント生成は既知の問題で、将来のバージョンで対応されます。

19.6 バグとフィードバックの送付

バグの把握とご要望の収集は、Designer のパフォーマンスを向上させ、各種ツールを充実させるために重要です。フィードバックをお送りいただける場合は、[Help (ヘルプ)] >

[Report a Bug or Feedback (バグまたはフィードバックをレポート)] をクリックします。
情報をお待ちしております。

- 1 [Help (ヘルプ)] > [Report a Bug or Feedback (バグまたはフィードバックをレポート)] をクリックします。
- 2 Bugzilla にログインします。

Novell. Software for the Open Enterprise™ Japan - 日本語 検索

製品 & ソリューション トレーニング & サポート パートナー & コミュニティ ↓ ダウンロード | ログイン

ログインして続ける

このページにアクセスするには認証が必要です。このファイルにアクセスするにはノベルログインアカウントを取得する必要があります。 → これはどういう意味ですか？

1 ノベルログインアカウント

ユーザー名:

パスワード:

→ パスワードを忘れましたか？

ノベルログインアカウントをまだお持ちでないですか？
→ 新規ログインアカウント作成

Customer Center Home

学ぶ
アカウントを作成する
アカウントを管理する
電子メールアドレスを検証する
Forgot

アカウントがない場合でも、簡単に入手できます。

- 3 レポートする製品のコンポーネントを選択します。

Enter Bug: Identity Manager Designer

This page lets you enter a new bug into Bugzilla.

Before reporting a bug, please do the following

- [Search for the bug](#)
- [Look at the list of most frequently reported bugs](#)
- [Read the bug writing guidelines](#)

Report Bug Found in - Identity Manager Designer

Required Field*

Found in Version:*	<input type="text" value="1.0.0 Designer"/> <input type="text" value="1.1 Designer"/> <input type="text" value="2.0.0 Designer"/>		
Component:*	<input type="text" value="Builds and Download Site"/> <input type="text" value="Common Widgets"/> <input type="text" value="Configuration Management"/> <input type="text" value="Dataflow Editor"/> <input type="text" value="Dataflow View"/> <input type="text" value="Deploy"/>		
Hardware:	<input type="text" value="Other"/>	OS:	<input type="text" value="Other"/>
Severity:	<input type="text" value="Normal"/>	Partner ID:	<input type="text"/>
Found By:	<input type="text" value="Other"/>	NTS Support #:	<input type="text"/>
NTS Priority:	<input type="text"/>		

Bug Details

Summary:*	<input type="text"/>
Description:*	<input type="text"/>

デフォルトで、Designer 2.0 製品が選択されています (Designer 1.2 は Designer 2.0 Milestone 3 と同一製品です。Designer 1.2 は Identity Manager 3.0 SP1 にバンドルされています)。レポート対象のコンポーネントが不明な場合は、分かる範囲でお答えください (Modeler など)。

- 4 [Summary (概要)] フィールドで、問題または機能拡張の要求を簡潔に説明します。

- 5 [Description (説明)] フィールドに、バグまたは機能拡張について詳しく入力します。

バグレポートの場合は、問題の再現方法を順を追って説明してください。

Identity Manager: 概要

A

- ◆ 459 ページのセクション A.1 「識別情報、アクセス、およびグループの管理」
- ◆ 460 ページのセクション A.2 「Identity Manager の動作」

A.1 識別情報、アクセス、およびグループの管理

Identity Manager (旧 DirXML®) は、社内ネットワークやパートナーのネットワークで選択したシステムの識別情報を管理するためのクロスプラットフォームサービスです。

Novell® ソリューションの詳細については、「[Novell Identity Manager Web サイト \(http://www.novell.com/products/nsureidentitymanager\)](http://www.novell.com/products/nsureidentitymanager)」を参照してください。

Identity Manager では、Novell が提供する専用コネクタ (および自社製またはサードパーティ製のコネクタ) の対象となっているあらゆるシステム内の識別情報を管理できます。Novell では、PeopleSoft*、SAP* HR、GroupWise®、Microsoft* Exchange、Lotus* Notes*、Oracle*、Microsoft Active Directory* など、主要なアプリケーション、データベース、およびディレクトリ用のコネクタを提供しています。Novell が提供しているコネクタの一覧については、「[Novell documentation Web サイト \(http://www.novell.com/documentation/dirxml/drivers/index.html\)](http://www.novell.com/documentation/dirxml/drivers/index.html)」を参照してください。

Identity Manager を使用すると、変化が絶えないユーザコミュニティのアクセス権を安全に管理できます。ユーザのライフサイクルを通して管理し、重要なリソースへのアクセスを初日から付与することができます。たとえば、HR データベースに新しいユーザを作成する場合 (または顧客関連アプリケーションに顧客またはパートナーを作成する場合)、ユーザアカウントは業務ルールに従ってすべて自動生成され、必要なリソースやサービスが適用されます。

グループについても、短時間で一貫性を保って管理できます。たとえば、特定の役割のメンバー全員にアクセス権を自動的に付与することができます。また、複数のパスワードをシングルログインに同期させたり、アクセス権をその場で変更または取り消したり、政府規制への対応 (コンプライアンス) をサポートすることもできます。

多くの企業で旧従業員が主な脅威の 1 つになっていますが、Novell Identity Manager はこのセキュリティホールを閉ざすことができます。信頼されるデータソースで従業員のステータスが退社に変更されると、Identity Manager はすぐに指定されたすべてのシステムでそのユーザアカウントとアクセス権を停止し、ユーザアクセス権が正常に取り消されたことを示す監査レポートを生成します。資格情報リソースの安全が確保され、ミスの可能性が否定できない手作業による長時間の管理作業の手間を省きます。

Identity Manager は、メタディレクトリ機能を使用することにより、プラットフォーム、システム、および組織の枠を超えて識別情報を統一するための識別情報統合の基盤になります。この機能により、識別情報データは責任部署が引き続き管理できます。

同時に、次の作業を行うことで、各ユーザの全社的な仮想識別情報が得られます。

- ◆ 散在する識別情報をリンクする
- ◆ 信頼されるソースに変更があった場合に、指定システムすべての自動更新に適用するルールを設定する

この基盤は、パスワード管理、ユーザのプロビジョニング、電話帳、役割ベースの管理などの機能に使用する基本アーキテクチャとして機能します。

2002年8月以降、NovellはGartner Metadirectory Magic QuadrantのLeader quadrantです。Novellでは、業界で最も柔軟性の高い管理ソリューションを提供しています。このソリューションでは、顧客ごとのニーズと業務ルールへの適合、素早く効率的な展開のための自動プロセス、および新しい要求に合わせてソリューションをカスタマイズして適合させる柔軟性を実現しています。

A.2 Identity Manager の動作

システム間で識別情報が交換されるタイミングと方法を制御するには、さまざまな種類のルールを作成して、各システムのコネクタを設定します。ルールは、企業のニーズ、およびパートナーや従業員との関係に基づいて作成します。

Identity Managerでは、XML (Extensible Markup Language) と XSLT (extensible Stylesheet Language Transformations) という、DirXML ルールで従来採用されている2つの表記方法を使用します。Identity Manager 2.0以上では、ルール構築(ビジネスポリシー)プロセスの大幅な簡略化やパスワード管理の簡略化によって、従来のDirXMLを超えた機能が実現されています。

Novell Identity ManagerはeDirectory™ 8.7.1以上で実行され、NetWare®、Microsoft Windows* NT/2000、Red Hat* Linux、Solaris*、AIX*、HP-UX*など、eDirectoryがサポートするすべてのプラットフォームをサポートしています(具体的なバージョン番号については、「Novell eDirectory Web サイト (<http://www.novell.com/products/edirectory/sysreqs.html>)」を参照してください)。

Identity Managerの動作に関する記事については、『Too Many Directories? (<http://www.novell.com/connectionmagazine/2000/05/DirXML50i.final.pdf>)』を参照してください。

また、「Novell Identity Manager (<http://www.novell.com/products/identitymanager/>) Web サイト」も参照してください。

- ◆ 461 ページのセクション B.1 「構築基盤としての Eclipse テクノロジー」
- ◆ 461 ページのセクション B.2 「コアモデルで使用されている Eclipse Modeling Framework」

B.1 構築基盤としての Eclipse テクノロジー

Designer の基盤は Eclipse テクノロジーです。このオープンソーステクノロジーは、60 を超える主要企業 (IBM*、HP*、Intel*、SAP、Fujitsu*、Oracle など) の他、民間企業や教育機関に籍を置く多数の開発者によって活発にサポートされています。

Designer は Eclipse ベースであることから、次のような利点があります。

- ◆ API は公開されており、ドキュメントとサポートも豊富で、業界で多用されている。
 - ◆ 基本モデルはあらゆるプラグインとスムーズに統合できる。
 - ◆ UI が多彩で多機能。
 - ◆ 将来的な製品の機能拡張を簡単、自由に実現できる。
 - ◆ 他のアプリケーションとの優れた統合、併用が可能。
 - ◆ 基本フレームワークがオープンソースである。
- Novell ツールは、Eclipse ベースのあらゆるフレームワークにインストールできます。
- ◆ 付属のツール (Java* エディタ、デバッガ、JUnit、ANT、CVS 統合、およびその他のツール) は Designer からアクセスする限りは無料で使える。
 - ◆ Java のクロスプラットフォームの利点と、各プラットフォームのパフォーマンスと外観の維持を両立できる。
 - ◆ 便利なツールに素早くアクセスできる。
 - ◆ このフレームワークにより、大規模なコミュニティにより実現されるまったく新しい機能を簡単に取り入れることができる。

開発者は、ツールにではなく、質の高いコンテンツの提供に集中でき、フレームワークの構築、デバッグ、および修正に時間を取られることはありません。

B.2 コアモデルで使用されている Eclipse Modeling Framework

Identity Manager を構成する Designer の中心部は、Eclipse Modeling Framework に基づいた強力なオブジェクトモデルです。このモデルでは、オブジェクトとその関係の格納に業界標準の XMI 形式 (XML Metadata Interchange 形式) を採用しています。Designer がこのテクノロジーをベースにしていることから、次のような利点があります。

- ◆ 業界標準 API が公開されており、モデルをプログラムで対話的に操作できる。
- ◆ モデルに変更があったときに確実にイベントを通知するメカニズムがある。
- ◆ ビュー、エディタ、およびプラグインはすべて通知と同期の対象。

- ◆ Java コードまたは UML をモデルから自動生成する機能、およびこの逆の機能がある。
- ◆ モデルに同期しているすべてのビュー、エディタ、およびプラグイン全体を対象としたスタックを元に戻す / やり直し機能が備わっている。

XMI の主な目的は、モデリングツール間で (OMG UML ベース)、およびツールとメタデータリポジトリとの間で (OMG MOF ベース)、メタデータを簡単にやり取りできるようにすることです。XMI には次の 3 つの主要な業界標準が統合されています。

- ◆ XML (拡張マークアップ言語、W3C 標準)
- ◆ UML (統一モデリング言語、OMG モデリング標準)
- ◆ MOF (Meta Object Facility、OMG モデリングおよびメタデータリポジトリの標準)

この 3 つの標準を XMI に統合することにより、OMG と W3C のメタデータとモデリングテクノロジーの長所が統合され、分散システムの開発でオブジェクトモデルなどのメタデータを共有できます。XMI を MOF および UML と併用することで OMG リポジトリアーキテクチャの核が形成され、オブジェクト指向のモデリングおよび設計ツールを相互に統合したり、MOF ベースの拡張可能なリポジトリフレームワークと統合したりできるようになります。

ドキュメントジェネレータのコアサ ポートテンプレート

C

- ◆ 463 ページのセクション C.1 「dgSection.xml」
- ◆ 464 ページのセクション C.2 「dgFormat.xml」
- ◆ 466 ページのセクション C.3 「idmConfig.xml」
- ◆ 467 ページのセクション C.4 「idmUtil.xml」

C.1 dgSection.xml

インポート : dgFormat.xml

表 C-1 dgSection.xml

テンプレート	説明
match "/"	すべてのサブテンプレートを呼び出すメインテンプレート。このテンプレートをオーバーライドして独自のテンプレート動作を作成できますが、オーバーライド対象は Section.Content 、 Section.Body 、 Section.Main のいずれかにすることをお勧めします。
Section.Sequence	すべてのサブテンプレートを呼び出すメインテンプレート。このテンプレートをオーバーライドして独自のテンプレート動作を作成できますが、オーバーライド対象は Section.Content 、 Section.Body 、 Section.Main のいずれかにすることをお勧めします。
Section.Main	このセクションには Section.Content と Section.Children が含まれています。
Section.Content	このセクションには Section.Title と Section.Body が含まれています。
Section.Body	セクションの本文コンテンツ。
Section.ShowStyleAttributes	属性表示のデフォルト方法を記述します (テンプレートが定義されていない場合)。 パラメータ : border - テーブルに使用する境界線。デフォルト値は 0.5pt の黒の実線です。
Section.Children	テンプレートにパラメータとして渡された子セクションを挿入します。
Section.PageLayout	用紙サイズ、ヘッダ、ページ番号などのページレイアウトを指定します。 Section.Main テンプレートが呼び出されて、ドキュメントをこのレイアウトに挿入します。
Section.staticContent	用紙サイズ、ヘッダ、ページ番号などのページレイアウトを指定します。 Section.Main テンプレートが呼び出されて、ドキュメントをこのレイアウトに挿入します。

テンプレート	説明
Section.Title	該当するタイトルテキストとリンクを含むタイトルブロックを作成します。
Section.TitleText	このセクションに表示するテキストを取得します。

C.2 dgFormat.xsl

表 C-2 dgFormat.xsl

テンプレート	説明
Format.Title	<p>タイトルブロックの書式設定に関するあらゆる詳細を扱います。</p> <p>Parameters: text - 表示するテキスト。 id - このタイトルの (たとえば目次からの) リンクに使用する ID。 font - 使用するフォントサイズ。 image - 記号として表示する画像。自動値設定は、現在の要素に基づいて画像を決定します。</p>
Format.FigureTitle	<p>図のタイトルブロックの書式設定に関するあらゆる詳細を扱います。</p> <p>パラメータ: title - タイトルテキスト。 description - 説明テキスト。</p>
Format.OutputTextArea	<p>HTML タグが含まれる可能性があるテキスト領域コントロールから返されるパラメータ情報を書式設定します。HTML プリフィックスがなかった場合は、改行が挿入されます。</p> <p>パラメータ: value - 出力するテキスト領域の値。</p>
Format.EnabledStatus	<p>値が True の場合は、有効に設定されている画像が表示されます。無効になっている画像が表示されるのは、パラメータ showDisabled が True に設定されている場合だけです。パラメータ: value - 有効、True/False。 showDisabled - 値が False に設定されている画像を表示する場合は True に設定します。デフォルト値は「False」です。</p>
Format.Checkbox	<p>True に設定すると、チェックボックス画像 (オン) が表示されます。そうでない場合は、空のチェックボックス画像が表示されます。</p> <p>パラメータ: value - オン、True/False。 default - ""、False、または True 以外の何らかの値が指定されている場合のデフォルト値。デフォルト値は「False」です。</p>
Format.PropertyRow	<p>名前と値の 2 列があるテーブルプロパティ行を表示します。</p> <p>パラメータ: propertyName - プロパティ名。 propertyValue - プロパティ値。 border - テーブルに使用する境界線。デフォルト値は 0.5pt の黒の実線です。 disable-output-escaping - 出力値の出力エスケープを無効にします。エスケープ FO コンテンツを渡すときに使用します。デフォルト値は「False」です。 showEmpty - 空の値を表示します。デフォルト値は「False」です。</p>

テンプレート	説明
Format.ContextRow	<p>関連属性があるコンテキスト行を表示します。テーブル内で使用します。</p> <p>パラメータ: text - 表示するテキスト。 level - インデントレベル。デフォルト値は「1」です。 href - ドキュメントの別の部分とリンクするための href 値。 image - 記号として表示する画像。自動値設定は、現在の要素に基づいて画像を決定します。 show-page-ref - ページ参照を表示します。値は True/False です。デフォルト値は「True」です。</p>
Format.ShowBulletImage	<p>記号の画像を表示します。</p> <p>パラメータ: image - 記号として表示する画像。自動値設定は、現在の要素に基づいて画像を決定します。</p>
Format.XMLFigure	<p>XML コンテンツを表示する図の書式設定に関するあらゆる詳細を扱います。</p> <p>パラメータ: title - タイトルテキスト。 description - 説明テキスト。 xml - 図に表示するテキスト形式の XML データ。"."を使用して現在のノードと子を取得することもできます。 simple-format - True の場合、テキスト選択なしで XML が表示されます。ネームスペース属性を含める必要がある場合、または XML の書式に不備がある場合に使用します。デフォルト値は「False」です。</p>
match "node()" mode "xml-to-text"	<p>XML-to-text 書式変換関数。</p> <p>パラメータ: attr-name-color、 attr-value-color</p>
match "@*" mode "xml-to-text"	<p>XML-to-text 書式変換関数。</p> <p>パラメータ: attr-name-color、 attr-value-color</p>
match "text()" mode "xml-to-text"	XML-to-text 書式変換関数。
match "comment()" mode "xml-to-text"	<p>XML-to-text 書式変換関数。</p> <p>パラメータ: comment-color</p>
Format.ImageFigure	<p>コンテンツとして画像を表示する図の書式設定を扱います。</p> <p>パラメータ: title - タイトルテキスト。 description - 説明テキスト。</p>
Format.PageBreak	改ページを挿入します。
Format.BasicLink	<p>href への基本リンクを指定されたテキストを使用して作成します。 href が空の場合は、テキスト値だけが出力されます。</p> <p>パラメータ: text - リンクテキスト。 href - リンク href。</p>
Format.BasicLinkToReferencedItem	<p>XSI 参照される項目への基本リンクを作成します。リンクの作成には @guid 属性を使用します。使用できる @guid がない場合は、テキストラベルだけが表示されます。</p> <p>パラメータ: xsiHref - 参照されているノードの XSI 値。</p>
Format.Uppercase	<p>文字列を大文字テキストに変換します。</p> <p>パラメータ: value - 大文字に変換する値。</p>

テンプレート	説明
Format.SmartSpace	文字列をスマートスペース処理されたテキストに変換します。 パラメータ : value - スマートスペース処理対象の値。
Format.OutputDebugParameters	属性 DEBUG_PARAMS が有効な場合に、セクションのデバッグパラメータを出力します。
Format.Debug	属性 DEBUG が有効な場合に指定されたテキストをデバッグ形式で出力します。 パラメータ : text - デバッグテキスト。

C.3 idmConfig.xsl

表 C-3 *idmConfig.xsl*

テンプレート	説明
match "*" mode "xmlFigure"	任意のポリシータイプで使用できる XML 図を作成します。 パラメータ : title 、 description 、 alwaysShowPolicyXmlSource
match "xsl:stylesheet xsl:transform"	フィルタ。 パラメータ : title 、 description
match "attr-name-map"	属性のマッピング。
match "policy"	ポリシーの一致。 パラメータ : title 、 description 、 alwaysShowPolicyXmlSource
opConcat	
opDelim	
match "@*" mode "DirXMLScript"	
match "*" mode "DirXMLScript"	
match "arg-actions" mode "DirXMLScript"	
match "arg-dn" mode "DirXMLScript"	
match "arg-value" mode "DirXMLScript"	
match "token-text" mode "DirXMLScript"	
getLabel	ポリシー関連のテキストラベルの取得に使用するユーティリティメソッド。 パラメータ : name - ラベル名。

match "actions"

C.4 idmUtil.xsl

表 C-4 *idmUtil.xsl*

テンプレート	説明
IdmUtil.ItemPropertyTable	<p>現在の項目の値を示すテーブルを表示します。項目によっては、属性でフィルタがかけられる場合があります。</p> <p>パラメータ：title - タイトルテキスト。description - 説明テキスト。showEmpty - 空の値を表示します。デフォルト値は「False」です。</p>
IdmUtil.StartOptionPropertyRow	<p>現在の項目の起動オプションに対応するアイコンとテキストを表示します (0 = 無効、1 = 手動、2 = 自動)。</p> <p>パラメータ：propertyName、propertyValue、border</p>
IdmUtil.ItemNumbering	<p>Designer ソースのコンテキストにおける現在の項目の番号付けを取得します ("2.4.5.2." など)。このテンプレートを使用することで、この情報を複数箇所ですべて再利用する場合に、番号付け処理でカウントする必要がある箇所を一括管理できます。</p>
IdmUtil.ItemText	<p>XSI タイプに基づいて、そのタイプのテキスト、コロンを1つ、値の名前の順に返します (「Identity Vault: my vault 1」など)。</p>
IdmUtil.ItemType	<p>現在の項目のタイプを示すテキストを返します (「Identity Vault」、「Domain」、「Driver Set」など)。</p>
IdmUtil.PolicySetPropertyRow	<p>ポリシーリスト付きのプロパティ行を次のポリシー値に基づいて作成します。</p> <p>パラメータ：policy - ポリシーセットのルートポリシー。属性名で渡されます (「mappingPolicy」など)。label - 表示される値のラベル。emptyLabel - 値が空の場合に表示するテキスト。デフォルト値は「none defined (未定義)」です。</p>
IdmUtil.PolicySetLinks	<p>ポリシーセットリンクのリストを返します。再帰的に呼び出されます。</p> <p>パラメータ：xsiRootPolicyHref - ポリシーセットのルートポリシー。</p>
IdmUtil.ConfigValuesTable	<p>指定された XML の Config Value (構成値) テーブルを表示します。</p> <p>パラメータ：title - タイトルテキスト。description - 説明テキスト。xml - テーブルの作成に使用する XML 値。border - テーブルに使用する境界線。デフォルト値は 0.5pt の黒の実線です。emptyLabel - 値が空の場合に表示するテキスト。デフォルト値は「none defined (未定義)」です。</p>

テンプレート	説明
IdmUtil.FilterTable	<p>指定された XML の Filter (フィルタ) テーブルを表示します。</p> <p>パラメータ : title - タイトルテキスト。 description - 説明テキスト。 xml - テーブルの作成に使用する XML 値。 emptyLabel - 値が空の場合に表示するテキスト。 デフォルト値は「none defined (未定義)」です。</p>
IdmUtil.showSynclcon	<p>IDM 同期アイコンを入力タイプとサブタイプに基づいて表示します。</p> <p>パラメータ : type - pub、sub。 sub-type - ""、sync、ignore、notify、reset。</p>
IdmUtil.ValueOfReferencedItem	<p>ノードの値を指定された XSI 式形式で返します。 項目の名前を取得する場合は、 Format.BasicLinkToReferencedItem メソッドを使用して、テキストをドキュメント内のリンクとして作成されるようにする必要があります。</p> <p>パラメータ : xsiHref - 参照されているノードの XSI 値。 suffix - 選択の前に付加するサフィックス (デフォルトは現在のノード)。 デフォルト値は「."」です。</p>
IdmUtil.ItemCustomIconFileName	<p>指定された GUID のカスタムアイコンファイル名を取得します。</p> <p>パラメータ : guid - 項目の GUID</p>
IdmUtil.ShowManagerIcon	<p>このメソッドは、後方互換性を維持するために残してあります。 IdmUtil.ShowIcon を使用してください。</p>
IdmUtil.ShowIcon	<p>現在の項目のアイコンを表示します。 まず、参照画像があるかどうかを cusomIconURI で確認し、次に、タイプ属性 (Drivers と Applications) に基づいて汎用パスを構築します。</p> <p>パラメータ : image-width - 使用する画像の幅。 デフォルト値は「49px」です。</p>

クイックリファレンス：メニューオプション

次のリンクから、メインメニューおよびツールバーのオプションに関する情報にアクセスできます。ユーザインタフェースに表示されるこれ以外のオプションは、別のプラグインのもので、それについては、ヘルプシステムで該当するプラグインの説明を参照してください。

- ◆ 469 ページのセクション D.1 「[File (ファイル)] メニューのオプション」
- ◆ 472 ページのセクション D.2 「[Edit (編集)] メニューのオプション」
- ◆ 473 ページのセクション D.3 「[View (表示)] メニューのオプション」
- ◆ 474 ページのセクション D.4 「[Navigate (ナビゲート)] メニューのオプション」
- ◆ 474 ページのセクション D.5 「[Project (プロジェクト)] メニューのオプション」
- ◆ 476 ページのセクション D.6 「[Tools (ツール)] メニューのオプション」
- ◆ 476 ページのセクション D.7 「[Model (モデル)] メニューのオプション」
- ◆ 482 ページのセクション D.8 「[Live (ライブ)] メニューのオプション」
- ◆ 483 ページのセクション D.9 「[Window (ウィンドウ)] メニューのオプション」
- ◆ 492 ページのセクション D.10 「[Help (ヘルプ)] メニューのオプション」

D.1 [File (ファイル)] メニューのオプション

表 D-1 オプション：[File (ファイル)] メニュー

オプション	説明
[File (ファイル)] > [New (新規)] > [Project (プロジェクト)]	New Project Wizard (新規プロジェクトウィザード) を起動します。36 ページのセクション 3.3 「Designer の使用方法」を参照してください。
[File (ファイル)] > [New (新規)] > [Project (プロジェクト)] > [Designer Document Generation (Designer ドキュメント生成)] > [Document Generation Style (.docgen) (ドキュメント生成スタイル (.docgen))]	Document Generator (ドキュメントジェネレータ) のスタイル (テンプレート) をプロジェクトフォルダに作成します。次の入力を要求するメッセージが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ◆ ドキュメントのプロパティ ◆ クライアントのプロパティ ◆ ヘッダ情報 ◆ フォントの設定 ◆ その他 (デバッグ設定)
[File (ファイル)] > [New (新規)] > [Project (プロジェクト)] > [Identity Manager Project (Identity Manager プロジェクト)]	新しい Identity Manager プロジェクトの名前と場所を選択します。

オプション	説明
[File (ファイル)] > [New (新規)] > [More Projects (その他のプロジェクト)]	Identity Manager プロジェクトウィザードを起動します。
[File (ファイル)] > [New (新規)] > [More Projects (その他のプロジェクト)] > [File (ファイル)]	新しい空のファイルリソースを作成します。
[File (ファイル)] > [New (新規)] > [More Projects (その他のプロジェクト)] > [General (一般)] > [Folder (フォルダ)]	プロジェクトリソースフォルダに新しいフォルダを作成します。
[File (ファイル)] > [New (新規)] > [More Projects (その他のプロジェクト)] > [General (一般)] > [Untitled Text File (名称未定義テキストファイル)]	名称未定義の空のテキストファイルをプロジェクトフォルダに作成します。
[File (ファイル)] > [New (新規)] > [More Projects (その他のプロジェクト)] > [Designer Document Generation (Designer ドキュメント生成)] > [Document Generation Style (.docgen) (ドキュメント生成スタイル (.docgen))]	Document Generator (ドキュメントジェネレータ) のスタイル (テンプレート) を作成します。 注: ドキュメント生成スタイルを作成するには、Designer プロジェクトが少なくとも 1 つ存在している必要があります。
[File (ファイル)] > [New (新規)] > [More Projects (その他のプロジェクト)] > [Identity Manager Project (Identity Manager プロジェクト)]	新しい Identity Manager プロジェクトの名前と場所を選択します。
[File (ファイル)] > [New (新規)] > [More Projects (その他のプロジェクト)] > [Provisioning (プロビジョニング)] > [Directory Abstraction Layer Entity (ディレクトリ抽象化レイヤエンティティ)]	新しいエンティティのプロジェクトとアプリケーション、および新しいエンティティの表示名とキーを指定します。 427 ページのセクション 18.6 「初期設定: プロビジョニング」 を参照してください。
[File (ファイル)] > [New (新規)] > [More Project (その他のプロジェクト)] > [Provisioning (プロビジョニング)] > [Directory Abstraction Layer List (ディレクトリ抽象化レイヤリスト)]	新しいリストのプロジェクトとアプリケーション、および新しいリストのキーを指定します。「 ディレクトリ抽出化レイヤの設定 (http://www.novell.com/documentation/idm/index.html?page=documentation/idm/agpro/data/agproconfigdirabstractionlayer.html)」を参照してください。
[File (ファイル)] > [New (新規)] > [More Projects (その他のプロジェクト)] > [Provisioning (プロビジョニング)] > [Directory Abstraction Layer Relationship (ディレクトリ抽象化レイヤの関係)]	新しい関係のプロジェクトとアプリケーション、および新しい関係の表示名とキーを指定します。
[File (ファイル)] > [New (新規)] > [More Projects (その他のプロジェクト)] > [Provisioning (プロビジョニング)] > [Provisioning Request Definition (プロビジョニング要求定義)]	プロビジョニング要求定義のワークフローテンプレートの基本情報を指定します。
[File (ファイル)] > [New (新規)] > [More Projects (その他のプロジェクト)] > [XML] > [XML]	新しいプロジェクト XML ファイルを、指定されたプロジェクトファイルを使用して作成します。 427 ページのセクション 18.7 「初期設定:XML」 を参照してください。

オプション	説明
[File (ファイル)] > [Open File (ファイルを開く)]	テキストまたは XML ファイルの参照と読み込みに使用します。
[File (ファイル)] > [Close (閉じる)]	アクティブなエディタを閉じます。
[File (ファイル)] > [Close All (すべて閉じる)]	開いているエディタをすべて閉じます。
[File (ファイル)] > [Save (保存)]	アクティブなエディタでの変更を保存します。
[File (ファイル)] > [Save As (名前を付けて保存)]	アクティブなエディタでの変更を別のファイルに保存します。
[File (ファイル)] > [Save All (すべて保存)]	すべてのエディタでの変更を保存します。
[File (ファイル)] > [Revert (戻す)]	ファイル、フォルダ、またはプロジェクトを保存されている状態に戻します。
[File (ファイル)] > [Move (移動)]	ファイル、フォルダ、またはプロジェクトをファイルシステムの別な場所に移動します。 [Navigator (ナビゲータ)] ビューでのみ使用できます。
[File (ファイル)] > [Rename (名前の変更)]	ファイルまたはプロジェクトの名前を変更します。 [Navigator (ナビゲータ)] ビューでのみ使用できます。
[File (ファイル)] > [Refresh (リフレッシュ)]	プロジェクトまたはファイルをディスクからロードし、同期させます (新しいファイルを他のツールでファイルシステムに直接追加した場合、このオプションは [Project (プロジェクト)] ビューで表示されます)。
[File (ファイル)] > [Print (印刷)]	エディタから印刷します。
[File (ファイル)] > [Switch Workspace (ワークスペースの切り替え)]	プロジェクトで別なワークスペースを開きます。これにより Designer が自動的に再起動されます。
[File (ファイル)] > [Import (インポート)]	リソースキット、プロジェクト、または初期設定をインポートします。144 ページのセクション 8.1 「プロジェクトのインポート」を参照してください。
[File (ファイル)] > [Import (インポート)] > [Designer for Identity Manager] > [Project (From File System) (プロジェクト (ファイルシステムから))]	既存のプロジェクトファイルを、選択したディレクトリまたはアーカイブファイルからインポートします。
[File (ファイル)] > [Import (インポート)] > [Designer for Identity Manager] > [Project (From Identity Vault) (プロジェクト (アイデンティティボールドから))]	既存のプロジェクトを、指定したセキュアエンティティから必要な認証情報を入力してインポートします。
[File (ファイル)] > [Import (インポート)] > [Designer for Identity Manager] > [Project (From iManager Export File) (プロジェクト (iManager エクスポートファイルから))]	既存の Identity Manager プロジェクトを iManager エクスポートファイル (ドライバセットまたはドライバ) からインポートします。
[File (ファイル)] > [Import (インポート)] > [Other (その他)] > [Breakpoints (ブレイクポイント)]	ブレイクポイントをローカルファイルシステムからインポートします。

オプション	説明
[File (ファイル)] > [Export (エクスポート)]	リソースまたは初期設定をエクスポートします。 392 ページのセクション 17.7 「プロジェクトのエクスポート」 を参照してください。
[File (ファイル)] > [Export (エクスポート)] > [General (一般)] > [Archive (アーカイブ)]	リソースをローカルファイルシステム上のアーカイブファイルにエクスポートします。
[File (ファイル)] > [Export (エクスポート)] > [General (一般)] > [Breakpoints (ブレークポイント)]	ブレークポイントをローカルファイルシステムにエクスポートします。
[File (ファイル)] > [Export (エクスポート)] > [General (一般)] > [File System (ファイルシステム)]	リソースをローカルファイルシステムにエクスポートします。
[File (ファイル)] > [Export (エクスポート)] > [General (一般)] > [Preferences (初期設定)]	初期設定をローカルファイルシステムにエクスポートします。
[File (ファイル)] > [Export (エクスポート)] > [Designer for Identity Manager] > [iManager Configuration File (iManager 環境設定ファイル)]	ドライバセット、ドライバ、チャンネル、またはポリシーを iManager 互換の環境設定ファイルにエクスポートします。
[File (ファイル)] > [Properties (プロパティ)]	ファイルのフルネーム、日付、サイズ、種類、および読み込み専用ステータスを参照できます。 316 ページのセクション 14.5 「アプリケーションプロパティの設定」 。
[File (ファイル)] > [History (履歴)]	開いているファイルやプロジェクトの履歴を一覧表示します。履歴リストで項目を選択すると、ファイルまたはプロジェクトを再度開くことができます。履歴リストの長さを設定するには、[Preferences (初期設定)] ダイアログボックスを使用します。
[File (ファイル)] > [Exit (終了)]	アプリケーションを閉じます。

D.2 [Edit (編集)] メニューのオプション

表 D-2 オプション: [Edit (編集)] メニュー

オプション	説明
[Edit (編集)] > [Undo (元に戻す)]	最後の操作を元に戻します。
[Edit (編集)] > [Redo (やり直し)]	最後の操作をやり直します。
[Edit (編集)] > [Cut (切り取り)]	選択された項目をクリップボードにコピーした後、削除します。
[Edit (編集)] > [Copy (コピー)]	選択された項目をクリップボードにコピーします。
[Edit (編集)] > [Paste (貼り付け)]	クリップボードの現在の項目を選択された領域に貼り付けます。
[Edit (編集)] > [Delete (削除)]	選択された項目を削除します。

オプション	説明
[Edit (編集)] > [Select All (すべて選択)]	テキストエディタまたは XML エディタですべての項目を選択します。モデラですべての項目を選択するには、選択して <Ctrl>+<A> キーを押します。
[Edit (編集)] > [Find/Replace (検索 / 置換)]	テキストエディタまたは XML エディタでテキスト文字列を置き換えます。
[Edit (編集)] > [Add Bookmark (ブックマークの追加)]	テキストエディタで使用します。
[Edit (編集)] > [Add Task (タスクの追加)]	ファイルにタスクを追加し、マークを残します。テキストエディタで使用します。

D.3 [View (表示)] メニューのオプション

表 D-3 オプション: [View (表示)] メニュー

オプション	説明
Zoom In (ズームイン)	項目のサイズを大きくします。メインツールバーの [Zoom (ズーム)] スライダをスライドさせても同じ効果が得られます。倍率を 100% に戻すには、[Zoom Restore (ズームを元に戻す)] アイコンをクリックします。 
Zoom Out (ズームアウト)	項目のサイズを小さくします。メインツールバーの [Zoom (ズーム)] スライダをスライドさせても同じ効果が得られます。倍率を 100% に戻すには、[Zoom Restore (ズームを元に戻す)] アイコンをクリックします。 
Grid (グリッド)	グリッドが表示され、項目をそれに沿って整列させることができます。94 ページのセクション 5.8.3 「グリッドの使用」を参照してください。
Alignment Hints (整列のヒント)	モデル内の関係を見やすくするヒントが表示されます。項目は整列するか、左、中央または右の位置合わせガイドに揃えることができます。91 ページのセクション 5.8 「コンポーネントの整列とレイアウト」を参照してください。
Rulers (ルーラ)	ルーラのオンとオフを切り替えます。整列とレイアウトに使用します。92 ページのセクション 5.8.2 「ルーラの使用」を参照してください。

D.4 [Navigate (ナビゲート)] メニューのオプション

表 D-4 オプション: [Navigate (ナビゲート)] メニュー

オプション	説明
[Navigate (ナビゲート)]	Designer 機能とビューとの間を素早く行き来できます。131 ページのセクション 7.6 「[Navigator (ナビゲータ)] ビュー」を参照してください。
[Navigate (ナビゲート)] > [Go Into (絞り込む)]	任意のプロジェクトまたはフォルダにドリルダウンして、そこを表示のルートにします ([Navigator (ナビゲータ)] ビューのみ)。
[Navigate (ナビゲート)] > [Go To (移動)]	階層内を上下に移動するか ([Navigator (ナビゲータ)] ビューのみ)、指定したリソースへ移動します。
[Navigate (ナビゲート)] > [Open Resource (リソースを開く)]	プロジェクトリソースを指定して開きます。
[Navigate (ナビゲート)] > [Show In (強調表示)]	ファイルを [Navigator (ナビゲータ)] ビューで強調表示にします ([Navigator (ナビゲータ)] ビューのみ)。
[Navigate (ナビゲート)] > [Next (次へ)]	次のプロジェクトリソースに移動します。
[Navigate (ナビゲート)] > [Previous (戻る)]	前のプロジェクトリソースに移動します。
[Navigate (ナビゲート)] > [Last Edit Location (最後に編集した場所)]	最後に入力した文字の場所にカーソルを戻します。テキストエディタで使います。
[Navigate (ナビゲート)] > [Back (前のエディタ)]	フォーカスを前のエディタに移動します。
[Navigate (ナビゲート)] > [Forward (次のエディタ)]	フォーカスを次のエディタに移動します。

D.5 [Project (プロジェクト)] メニューのオプション

表 D-5 オプション: [Project (プロジェクト)] メニュー

オプション	説明
[Project (プロジェクト)]	49 ページのセクション 5.1 「プロジェクトの作成」を参照してください。
[Project (プロジェクト)] > [Open Project (プロジェクトを開く)]	既存の Identity Manager プロジェクトとすべての関連リソースを開きます。
[Project (プロジェクト)] > [Close Project (プロジェクトを閉じる)]	既存の Identity Manager プロジェクトとすべての関連リソースを閉じます。

オプション	説明
[Project (プロジェクト)] > [Build All (すべてビルド)]	現在作業中のコンポーネントをすべてビルドします。
[Project (プロジェクト)] > [Build Project (プロジェクトのビルド)]	Identity Manager プロジェクト全体をビルドします。
[Project (プロジェクト)] > [Build Working Set (作業セットのビルド)]	プロジェクトの選択した作業コンポーネントをビルドします。
[Project (プロジェクト)] > [Clean (クリーン)]	選択したプロジェクトの一部または全部のビルド問題およびビルドステータスをすべて破棄し、選択したプロジェクトをゼロからビルドし直します。
[Project (プロジェクト)] > [Build Automatically (自動でビルド)]	プロジェクトのすべての作業コンポーネントをビルドします (このオプションの選択を解除した場合は、プロジェクトまたは個々のプロジェクトコンポーネントを手動でビルドします)。
[Project (プロジェクト)] > [Import Project (プロジェクトのインポート)] > [File System (ファイルシステム)]	ファイルシステム上の既存のプロジェクトを、選択したディレクトリまたはアーカイブファイルから Designer にインポートします。
[Project (プロジェクト)] > [Import Project (プロジェクトのインポート)] > [Identity Vault (アイデンティティボールド)]	既存のプロジェクトをアイデンティティボールドから Designer にインポートします。
[Project (プロジェクト)] > [Import Project (プロジェクトのインポート)] > [iManager Export File (iManager エクスポートファイル)]	iManager .xml エクスポートファイルを選択して、Designer プロジェクトを作成します。 .xml ファイルは、ドライバセットエクスポート、ドライバエクスポート、または Novell® 設定済み環境設定ファイルのいずれかになります。
[Project (プロジェクト)] > [Document (ドキュメント)] > [New Style (新規スタイル)]	指定したプロジェクトの新しいスタイルドキュメントを生成します。
[Project (プロジェクト)] > [Document (ドキュメント)] > [Generate Documentation (ドキュメントの生成)]	ファイルの変更を削除した後、プロジェクト PDF ドキュメントを生成します。ドキュメントの保存先ディレクトリを選択できます。また、既存のファイルを上書きする、および XML ソースファイルを作成するよう指定できます。
[Project (プロジェクト)] > [Document (ドキュメント)] > [Launch Style Editor (スタイルエディタの起動)]	プロジェクトドキュメントフォルダで docgen スタイルを選択した後、ドキュメントスタイルエディタを起動します。
[Project (プロジェクト)] > [Properties (プロパティ)]	プロジェクトのディレクトリ構造内での格納場所、およびプロジェクトの最終更新日を確認できます。情報は、Windows、Macintosh、または Unix でテキストファイルとして使用できるテキストファイルエンコードおよび改行形式で出力されます。

D.6 [Tools (ツール)] メニューのオプション

表 D-6 オプション: [Tools (ツール)] メニュー

オプション	説明
[Tools (ツール)] > [DS Trace Viewer (DS Trace ビューア)]	指定された DS Trace ログファイルを開きます。
[Tools (ツール)] > [iManager]	Novell® iManager URL を指定します。この情報は、アプリケーション初期設定のフォルダに格納されます。
[Tools (ツール)] > [eDirectory Object Manager (eDirectory オブジェクトマネージャ)]	eDirectory ブラウザのウィンドウが開きます。新しいツリーを追加します。

D.7 [Model (モデル)] メニューのオプション

表 D-7 オプション: [Model (モデル)] メニュー

オプション	説明
[Model (モデル)]	モデラのアプリケーション、ツール、ドライバなどのリソースにアクセスします。 49 ページの第 5 章「モデルの構築」 を参照してください。
[Model (モデル)] > [Application (アプリケーション)]	新しい Designer アプリケーションを作成するためのツールにアクセスします。
[Model (モデル)] > [Application (アプリケーション)] > [New (新規)]	[Modeler (モデラ)] ウィンドウでドライバセットを選択した後に、新しい .xml アプリケーションを作成します。ドライバの要件を確認するには、事前設定されたリストからドライバタイプを選択して、関連スクリプトを実行します。
[Model (モデル)] > [Application (アプリケーション)] > [Connection Settings (接続設定)]	[Modeler (モデラ)] ウィンドウで作成されたオブジェクトの VNC 接続設定を構成します。
[Model (モデル)] > [Application (アプリケーション)] > [Remote Control Desktop (リモートコントロールデスクトップ)]	VNC サーバが実行されているリソースのリモートコントロールデスクトップを設定します。
[Model (モデル)] > [Application (アプリケーション)] > [Show Subsystems (サブシステムを表示)]	アプリケーションのサブシステムの表示と非表示を切り替えます。を参照してください。
[Model (モデル)] > [Application (アプリケーション)] > [Notes (メモ)]	モデラで環境プロパティのウィンドウを開き、作成したオブジェクトのプラットフォームやハードウェアなどの環境に関するメモを記述します。

オプション	説明
[Model (モデル)] > [Application (アプリケーション)] > [Administrator (管理者)]	モデラで管理者プロパティのウィンドウを開き、作成したオブジェクトの個人情報や連絡先などのメモを記述します。
[Model (モデル)] > [Application (アプリケーション)] > [Icon (アイコン)]	モデラで一般プロパティのウィンドウを開き、Designer オブジェクト用にアイコンを作成したり、それを編集したりします。 311 ページのセクション 14.4.5 「ドライバアイコン」 を参照してください。
[Model (モデル)] > [Application (アプリケーション)] > [Properties (プロパティ)]	モデラで選択したオブジェクトの一般プロパティのウィンドウを開きます。 316 ページのセクション 14.5 「アプリケーションプロパティの設定」 を参照してください。
[Model (モデル)] > [Domain Group (ドメイングループ)]	モデラオプションを作成または編集して、便利なドメイングループを構成します。
[Model (モデル)] > [Domain Group (ドメイングループ)] > [New (新規)]	選択したオブジェクトをモデラでグループ化するために使用する新しいドメインを作成します。
[Model (モデル)] > [Domain Group (ドメイングループ)] > [Clear Domain Contents (ドメインコンテンツのクリア)]	ドメインに含まれているオブジェクトをクリアします。
[Model (モデル)] > [Domain Group (ドメイングループ)] > [Add to New Group (新規グループに追加)]	選択したオブジェクトを新しいグループに追加します。
[Model (モデル)] > [Domain Group (ドメイングループ)] > [Ungroup (グループの解除)]	ドメインに含まれている選択したオブジェクトを、削除せずにグループ解除します。
[Model (モデル)] > [Domain Group (ドメイングループ)] > [Properties (プロパティ)]	グループに含まれているドメインのプロパティを指定します。
[Model (モデル)] > [Driver (ドライバ)]	ドライバの数多くの共通設定を設定および編集します。 309 ページのセクション 14.4 「ドライバの管理」 を参照してください。
[Model (モデル)] > [Driver (ドライバ)] > [New (新規)]	テンプレートリストでの指定に基づいて新しいドライバオブジェクトを作成します。
[Model (モデル)] > [Driver (ドライバ)] > [Simulate (シミュレート)]	Simulate Policy Transformation - Entitlements Service Driver (ポリシー変換のシミュレート-エンタイトルメントサービスドライバ)ウィザードを開き、ドライバのセットアップパラメータをテストします。
[Model (モデル)] > [Driver (ドライバ)] > [Log Level (ログレベル)]	追跡し、エラーログに記録する必要があるエラーのレベルを定義します。 312 ページのセクション 14.4.6 「ドライバのログレベル」 を参照してください。
[Model (モデル)] > [Driver (ドライバ)] > [Global Configuration Values (グローバル構成値)]	パスワード、同期値、ドライバハートビート、ドライバ固有の環境設定など、Identity Manager 機能に関するドライバやドライバセット設定を指定します。 310 ページのセクション 14.4.2 「ドライバのグローバル構成値」 を参照してください。

オプション	説明
[Model (モデル)] > [Driver (ドライバ)] > [Trace Settings (トレース設定)]	トレースレベルをドライバに追加して、エンジンによるイベント処理に合わせて Identity Manager (DirXML) イベントを表示します。各トレースフィールドの説明とプラットフォーム要件については、 306 ページのセクション 14.3.5 「ドライバセットのトレースレベル」 を参照してください。
[Model (モデル)] > [Driver (ドライバ)] > [Named Passwords (名前付きパスワード)]	ドライバごとに複数のパスワードを安全に格納します。これらは、ドライバポリシーから参照されます。 311 ページのセクション 14.4.4 「ドライバの名前付きパスワード」 を参照してください。
[Model (モデル)] > [Driver (ドライバ)] > [Manifest (マニフェスト)]	ドライバのサポート対象と環境設定の一部を指定します。 310 ページのセクション 14.4.3 「ドライバマニフェスト」 を参照してください。
[Model (モデル)] > [Driver (ドライバ)] > [Add Entitlements (エンタイトルメントの追加)]	エンタイトルメントウィザードを起動します。これを使用すると、ユーザまたはグループに対する条件を設定できます。条件が一致すれば、接続されたシステム内のビジネスリソースへのアクセス権を付与したり、取り消したりするイベントを開始します。 181 ページの第 9 章 「エンタイトルメント」 を参照してください。
[Model (モデル)] > [Driver (ドライバ)] > [Edit Entitlements (エンタイトルメントの編集)]	既存のエンタイトルメントを編集するためのウィザードを起動します。
[Model (モデル)] > [Driver (ドライバ)] > [Copy Settings (設定のコピー)]	既存のドライバセットをコピーします。
[Model (モデル)] > [Driver (ドライバ)] > [Copy Server-Specific Settings (サーバ固有設定のコピー)]	あるサーバから、選択したドライバに関連付けられている別のサーバに、レプリカデータをコピーします。
[Model (モデル)] > [Driver (ドライバ)] > [Mark as Firewall (ファイアウォールとしてマーク)]	選択したドライバがファイアウォールを介して通信していることを表します。
[Model (モデル)] > [Driver (ドライバ)] > [Password Sync (パスワード同期)]	接続システム間のパスワードを同期します。 298 ページのセクション 13.7 「パスワードの統合」 および「 接続システム間のパスワード同期 (http://www.novell.com/documentation/idm/index.html?page=/documentation/idm/admin/data/an4bz0u.html) 」を参照してください。
[Model (モデル)] > [Driver (ドライバ)] > [Credential Provisioning (資格情報のプロビジョニング)]	新しいドライバリポジトリまたはアプリケーションを作成します。
[Model (モデル)] > [Driver (ドライバ)] > [Icon (アイコン)]	ドライバアイコンを表示します。または、アイコンの表示と非表示を切り替えます。 311 ページのセクション 14.4.5 「ドライバアイコン」 を参照してください。
[Model (モデル)] > [Driver (ドライバ)] > [Properties (プロパティ)]	ドライバの [Properties (プロパティ)] ページを開きます。

オプション	説明
[Model (モデル)] > [Driver Set (ドライバセット)]	1か所に格納されている Identity Manager ドライバのコレクションを示します。304 ページの セクション 14.3 「ドライバセットの管理」 を参照してください。
[Model (モデル)] > [Driver Set (ドライバセット)] > [New (新規)]	新しいドライバセットを作成するためのウィザードを開きます。
[Model (モデル)] > [Driver Set (ドライバセット)] > [Import Driver Configuration from File (ファイルからのドライバ環境設定のインポート)]	Identity Manager ドライバ環境設定ファイルを、プロジェクトで使用する選択したドライバセットにインポートします。160 ページの セクション 8.3 「ドライバ環境設定ファイルのインポート」 を参照してください。
[Model (モデル)] > [Driver Set (ドライバセット)] > [Log Level (ログレベル)]	追跡する必要があるエラーのレベルを定義します。306 ページの セクション 14.3.4 「ドライバセットのログレベル」 を参照してください。
[Model (モデル)] > [Driver Set (ドライバセット)] > [Global Configuration Values (グローバル構成値)]	パスワード同期やドライバハートビートなどの Identity Manager 機能の設定を指定できるほか、個々のドライバ環境設定の機能に固有の設定を指定できます。306 ページの セクション 14.3.3 「ドライバセットのグローバル構成値」 を参照してください。
[Model (モデル)] > [Driver Set (ドライバセット)] > [Trace Settings (トレース設定)]	トレースレベルをドライバセットに設定し、エンジンによるイベント処理に合わせて Identity Manager (DirXML) イベントを表示します。306 ページの セクション 14.3.5 「ドライバセットのトレースレベル」 を参照してください。
[Model (モデル)] > [Driver Set (ドライバセット)] > [Copy Settings (設定のコピー)]	既存のドライバセット設定をコピーします。
[Model (モデル)] > [Driver Set (ドライバセット)] > [Copy Global Configuration Values (グローバル構成値のコピー)]	パスワード同期やドライバハートビートなどの Identity Manager 機能の設定を指定できるほか、個々のドライバ環境設定の機能に固有の設定を指定できます。306 ページの セクション 14.3.3 「ドライバセットのグローバル構成値」 を参照してください。
[Model (モデル)] > [Driver Set (ドライバセット)] > [Properties (プロパティ)]	ドライバセットの [Properties (プロパティ)] ページを開きます。301 ページの セクション 14.1 「オブジェクトプロパティの表示」 を参照してください。
[Model (モデル)] > [eDir2eDir]	eDirectory 間接続の両端のデータフローを設定するウィザードを開きます。284 ページの セクション 13.3.6 「eDir-to-eDir ドライバ」 を参照してください。
[Model (モデル)] > [eDir2eDir] > [New (新規)]	eDirectory-to-eDirectory ウィザードを開き、2つの eDirectory を結ぶ新しい接続を作成します。
[Model (モデル)] > [eDir2eDir] > [Secure Connection Settings (セキュア接続設定)]	[TLS Configuration (TLS 環境設定)] ウィンドウが開きます。SSL/TLS 接続設定と暗号化キー設定を TLS の詳細環境設定を使用して有効にします。

オプション	説明
[Model (モデル)] > [eDir2eDir] > [Disconnect (切断)]	eDirectory 間接続を切断します。
[Model (モデル)] > [Identity Vault (アイデンティティボールド)]	モデラにアイデンティティボールドオブジェクトを追加します。 303 ページのセクション 14.2.1 「アイデンティティボールドの追加」 を参照してください。
[Model (モデル)] > [Identity Vault (アイデンティティボールド)] > [New (新規)]	新しいサーバをアイデンティティボールドに追加します。
[Model (モデル)] > [Identity Vault (アイデンティティボールド)] > [Browse Identity Vault (アイデンティティボールドの参照)]	ブラウザを開きます。アイデンティティボールドサーバを選択し、認証の資格情報を指定します。
[Model (モデル)] > [Identity Vault (アイデンティティボールド)] > [Manage Schema (スキーマの管理)]	文脈依存型ウィンドウを開き、アイデンティティボールドのスキーマクラスと属性を管理します。
[Model (モデル)] > [Identity Vault (アイデンティティボールド)] > [Duplicate Template (テンプレートの複製)]	複製可能な電子メールテンプレートリストを開きます。
[Model (モデル)] > [Identity Vault (アイデンティティボールド)] > [Edit Template (テンプレートの編集)]	テンプレートリストを開き、電子メールテンプレートを選択および編集します。
[Model (モデル)] > [Identity Vault (アイデンティティボールド)] > [E-mail Server Properties (電子メールサーバのプロパティ)]	電子メール通知サーバを起動し、通知設定またはサーバ認証資格情報を入力します。
[Model (モデル)] > [Identity Vault (アイデンティティボールド)] > [Administrator (管理者)]	アイデンティティボールドの管理者プロパティのウィンドウを開き、作成したオブジェクトの個人情報や連絡先などのオプション情報を入力します。
[Model (モデル)] > [Identity Vault (アイデンティティボールド)] > [Server List (サーバリスト)]	選択したアイデンティティボールドに関連付けられているサーバを表示するウィザードを開きます。これを使用して、プロパティや連絡先情報を編集します。 305 ページのセクション 14.3.2 「ドライブセットサーバリストの設定」 を参照してください。
[Model (モデル)] > [Identity Vault (アイデンティティボールド)] > [Properties (プロパティ)]	アイデンティティボールドの [Properties (プロパティ)] ウィンドウを開き、環境設定、管理者、およびサーバリストのプロパティにアクセスします。 303 ページのセクション 14.2 「アイデンティティボールドの管理」 を参照してください。
[Model (モデル)] > [Policy (ポリシー)]	Identity Manager ポリシーの制御に使用する新しいスクリプトやスキーマオブジェクトを作成できます。 422 ページのセクション 18.3.7 「ポリシービルダ」 を参照してください。
[Model (モデル)] > [Policy (ポリシー)] > [Manage Policy (ポリシーの管理)]	ポリシーマネージャの GUI を起動し、プロジェクト設計ツリーの個々の要素を表示します。各要素を右クリックすると、コンテキストの中で編集できます。

オプション	説明
[Model (モデル)] > [Policy (ポリシー)] > [New DirXML Script (新規 DirXML スクリプト)]	[Policy Name (ポリシー名)] ウィンドウを新しく開き、XML ポリシースクリプトを作成します。
[Model (モデル)] > [Policy (ポリシー)] > [New XSLT (新規 XSLT)]	[Policy Name (ポリシー名)] ウィンドウを新しく開き、XSLT(Extensible Stylesheet Language Transformation) ポリシースクリプトを作成します。
[Model (モデル)] > [Policy (ポリシー)] > [New Schema Mapping (新規スキーママッピング)]	スキーママップエディタが開きます。識別オブジェクトを関連サービスドライバに関連付けます。 215 ページの第 12 章「スキーマの管理」 を参照してください。
[Model (モデル)] > [Policy (ポリシー)] > [Copy Existing (既存のコピー)]	モデラブラウザを開きます。選択した既存のドライバセットオブジェクトをコピーします。
[Model (モデル)] > [Resource (リソース)]	ワークスペース内にあるファイルリソースを管理および表示します。プロジェクトやファイルがファイルシステムに実際に存在している状態を確認できます。ファイルやフォルダを追加したり、それらをプロジェクトやワークスペースに追加したりできます。
[Model (モデル)] > [Resource (リソース)] > [New (新規)]	新しいリソースオブジェクトをモデラパレットから追加する場合に使用します。リソースオブジェクトを追加したら、接続や制御の設定を行います。
[Model (モデル)] > [Resource (リソース)] > [Connection Settings (接続設定)]	文脈依存型ウィンドウが開きます。リソースに必要な接続情報を入力します。
[Model (モデル)] > [Resource (リソース)] > [Remote Control Desktop (リモートコントロールデスクトップ)]	VNC サーバが実行されているリソースのリモートコントロールデスクトップを設定します。
[Model (モデル)] > [Resource (リソース)] > [Administrator (管理者)]	選択したリソースオブジェクトの管理者プロパティのウィンドウが開きます。管理者の個人情報や連絡先を入力します。
[Model (モデル)] > [Resource (リソース)] > [Properties (プロパティ)]	プロパティのウィンドウが開きます。選択したリソースオブジェクトのプロパティを表示または編集します。
[Model (モデル)] > [Server (サーバ)] > [New (新規)]	eDirectory ベースまたは手動ベースの新しいサーバをアイデンティティポータルに関連付けます。
[Model (モデル)] > [Select Connected Applications (接続されたアプリケーションを選択)]	モデラ内のアプリケーションオブジェクト間のドライバ接続を選択します。
[Model (モデル)] > [Clear All Items (すべての項目のクリア)]	プロジェクト内のすべての項目をクリアします。
[Model (モデル)] > [Straighten Connections (接続の直線化)]	モデラ内の選択したオブジェクトの線接続を直線化します。
[Model (モデル)] > [Snapshot to Image File (スナップショットを画像ファイルに保存)]	ビットマップまたは JPEG 形式のスナップショット画像を指定したファイル名で Designer driver_configs ディレクトリに保存します。

オプション	説明
[Model (モデル)] > [Distribute (等間隔に配置)]	モデラで選択したオブジェクトを水平または垂直方向に等間隔に並べます。
[Model (モデル)] > [Align (整列)]	モデラで選択したオブジェクトの上、下、左、右、または中心を揃えます。

D.8 [Live (ライブ)] メニューのオプション

表 D-8 オプション: [Live (ライブ)] メニューのオプション

オプション	説明
[Live (ライブ)] > [Import (インポート)]	ドライバセット、ドライバ、およびアプリケーションをインポートします。モデラ、および [Outline (アウトライン)] ビューで使用します。 152 ページのセクション 8.2 「アイデンティティポールドからのドライバセットまたはドライバのインポート」 を参照してください。
[Live (ライブ)] > [Import Attributes (属性のインポート)]	保存済みの XML ファイルからドライバ環境設定をインポートします。 160 ページのセクション 8.3 「ドライバ環境設定ファイルのインポート」 。
[Live (ライブ)] > [Deploy (展開)]	ドライバセット、ドライバ、およびアプリケーションを展開します。モデラ、および [Outline (アウトライン)] ビューで使用します。 S を参照してください。
[Live (ライブ)] > [Deploy Attributes (属性の展開)]	属性を選択したオブジェクトに展開します。
[Live (ライブ)] > [Compare (比較)]	ドライバ環境設定を .xml ファイルに保存します。 469 ページの付録 D 「クイックリファレンス: メニューオプション」 を参照してください。
[Live (ライブ)] > [Refresh Application Schema (アプリケーションスキーマのリフレッシュ)]	アプリケーションが変更された後にスキーマのリフレッシュ対象になる eDirectory ツリー上のサーバを指定します。 257 ページのセクション 12.6.2 「アプリケーションスキーマのリフレッシュ」 を参照してください。
[Live (ライブ)] > [Driver Status (ドライバステータス)]	各ドライバのステータスが表示されます。ドライバを起動、停止、または再起動できます。また、選択した項目に応じて、さまざまな機能を参照、インポート、および展開できます。 309 ページのセクション 14.4 「ドライバの管理」 を参照してください。
[Live (ライブ)] > [Start Driver (ドライバの起動)]	アクティブでないドライバを起動します。 309 ページのセクション 14.4 「ドライバの管理」 を参照してください。
[Live (ライブ)] > [Stop Driver (ドライバの停止)]	アクティブなドライバを停止します。

オプション	説明
[Live (ライブ)] > [Restart Driver (ドライバの再起動)]	アクティブなドライバを再起動します。
[Live (ライブ)] > [Create eDir2eDir Certificates (eDirectory 間証明書の作成)]	2つの eDirectory ドライバが互いに直接通信できるように設定します。 86 ページのセクション 5.7.6 「eDir-to-eDir 接続」 を参照してください。
[Live (ライブ)] > [Setup Driver Security (ドライバのセキュリティの設定)]	ドライバのセキュリティパラメータを設定します。
[Live (ライブ)] > [Browse Identity Vault (アイデンティティボールドの参照)]	指定されたアイデンティティボールドの環境設定を参照します。 303 ページのセクション 14.2 「アイデンティティボールドの管理」 を参照してください。

D.9 [Window (ウィンドウ)] メニューのオプション

表 D-9 オプション: [Window (ウィンドウ)] メニュー

オプション	説明
[Window (ウィンドウ)] > [New Window (新規ウィンドウ)]	アプリケーションの新しいインスタンスを開き、特定の要素間のコピーや貼り付けを簡略化します。インスタンス間の変更は同期する必要があります。
[Window (ウィンドウ)] > [New Editor (新規エディタ)]	Designer のエディタを新たに起動します。
[Window (ウィンドウ)] > [Open Perceptive (パースペクティブを開く)] > [Other (その他)]	Debug (デバッグ)、Debug Test (デバッグテスト)、Designer (Designer、デフォルト)、Resource (リソース)、XML の各パースペクティブを切り替えます。
[Window (ウィンドウ)] > [Show View (ビューの表示)] > [Breakpoints (ブレイクポイント)]	アクティブなプロジェクトのブレイクポイントを表示します。
[Window (ウィンドウ)] > [Show View (ビューの表示)] > [Console (コンソール)]	[Console (コンソール)] ビューを表示します。
[Window (ウィンドウ)] > [Show View (ビューの表示)] > [Debug (デバッグ)]	Designer デバッガを表示します。
[Window (ウィンドウ)] > [Show View (ビューの表示)] > [Error Log (エラーログ)]	エラーログを表示します。トラブルシューティングに役立ちます。
[Window (ウィンドウ)] > [Show View (ビューの表示)] > [Outline (アウトライン)]	アクティブなエディタ (Enterprise Modeler、XML Editor、テキストエディタなど) のアウトライン表示を行います。
[Window (ウィンドウ)] > [Show View (ビューの表示)] > [Tasks (タスク)]	作業中に独自のタスクやメモを追加できます。それらに優先度を指定したり、完了済みとマークしたり、削除、ソート、またはフィルタを実行したりできます。

オプション	説明
[Window (ウィンドウ)] > [Show View (ビューの表示)] > [Variables (変数)]	ドライバの環境設定変数が表示されます。
[Window (ウィンドウ)] > [Show View (ビューの表示)] > [Other (その他)]	[General (一般)]、[Data (データ)]、[Debug (デバッグ)]、[Designer for Identity Manager]、[Help (ヘルプ)]、[PDE Runtime (PDE ランタイム)]、[Provisioning (プロビジョニング)]、[XML]、[Other (その他)] の各 Designer ウィンドウのアクティブなウィンドウで使用できるすべてのオプションを表示します。
[Window (ウィンドウ)] > [Show View (ビューの表示)] > [Other (その他)] > [General (一般)] > [Bookmarks (ブックマーク)]	テキストエディタで設定したブックマークを表示します。
[Window (ウィンドウ)] > [Show View (ビューの表示)] > [Other (その他)] > [General (一般)] > [Console (コンソール)]	[Console (コンソール)] ビューを表示します。
[Window (ウィンドウ)] > [Show View (ビューの表示)] > [Other (その他)] > [General (一般)] > [Internal Web Browser (内部 Web ブラウザ)]	Eclipse の Web サイトにただちにアクセスするか、インターネットにアクセスします。
[Window (ウィンドウ)] > [Show View (ビューの表示)] > [Other (その他)] > [General (一般)] > [Navigator (ナビゲータ)]	[Navigator (ナビゲータ)] ビューを表示します。 131 ページのセクション 7.6 「[Navigator (ナビゲータ)] ビュー」 を参照してください。
[Window (ウィンドウ)] > [Show View (ビューの表示)] > [Other (その他)] > [General (一般)] > [Outline (アウトライン)]	[Outline (アウトライン)] ビューを表示します。
[Window (ウィンドウ)] > [Show View (ビューの表示)] > [Other (その他)] > [General (一般)] > [Problems (問題)]	[Problems (問題)] ビューを表示します。エラーや警告がトラブルシューティングに役立ちます。
[Window (ウィンドウ)] > [Show View (ビューの表示)] > [Other (その他)] > [General (一般)] > [Project Explorer (プロジェクトエクスプローラ)]	プロジェクトコンポーネントを表示します。
[Window (ウィンドウ)] > [Show View (ビューの表示)] > [Other (その他)] > [General (一般)] > [Properties (プロパティ)]	選択したオブジェクトの設定を表示および編集します。
[Window (ウィンドウ)] > [Show View (ビューの表示)] > [Other (その他)] > [General (一般)] > [Snippets (抜粋)]	コードのウィンドウを開きます。
[Window (ウィンドウ)] > [Show View (ビューの表示)] > [Other (その他)] > [Debug (デバッグ)] > [Breakpoints (ブレークポイント)]	アクティブな Designer プロジェクトコードにブレークポイントを表示します。
[Window (ウィンドウ)] > [Show View (ビューの表示)] > [Other (その他)] > [Debug (デバッグ)] > [Debug (デバッグ)]	アクティブな Designer プロジェクトをデバッグします。

オプション	説明
[Window (ウィンドウ)] > [Show View (ビューの表示)] > [Other (その他)] > [Debug (デバッグ)] > [Expressions (式)]	フィルタのデバッグに使用できるすべての式を表示します。
[Window (ウィンドウ)] > [Show View (ビューの表示)] > [Other (その他)] > [Debug (デバッグ)] > [Memory (メモリ)]	プロジェクトによって使用されているメモリ割り当てを監視します。
[Window (ウィンドウ)] > [Show View (ビューの表示)] > [Other (その他)] > [Designer for Identity Manager] > [Dataflow (データフロー)]	オブジェクト間のデータフローを制御します。 271 ページのセクション 13.1「データフロービュー」 および 63 ページのセクション 5.3.3「データフローモード」 を参照してください。
[Window (ウィンドウ)] > [Show View (ビューの表示)] > [Other (その他)] > [Designer for Identity Manager] > [eDirectory Browser (eDirectory ブラウザ)]	[eDirectory Browser (eDirectory ブラウザ)] ウィンドウが開きます。参照するディレクトリを指定します。 328 ページのセクション 15.4.1「ツールベース方式」 を参照してください。
[Window (ウィンドウ)] > [Show View (ビューの表示)] > [Other (その他)] > [Designer for Identity Manager] > [Policy Set (ポリシーセット)]	選択したポリシーセットに含まれるすべてのポリシーが表示されます。 136 ページのセクション 7.7「[Policy Set (ポリシーセット)] ビュー」 を参照してください。
[Window (ウィンドウ)] > [Show View (ビューの表示)] > [Other (その他)] > [Designer for Identity Manager] > [Project (プロジェクト)]	プロジェクトの操作に使用するメインビューが表示されます。 49 ページのセクション 5.1「プロジェクトの作成」 を参照してください。
[Window (ウィンドウ)] > [Show View (ビューの表示)] > [Other (その他)] > [Designer for Identity Manager] > [Project Checker (プロジェクトチェッカー)]	プロジェクトのアイデンティティボールドへの展開が失敗する原因になり得る問題が、Designer オブジェクトにないかどうかをチェックします。アイデンティティボールドに含まれる現在のオブジェクトについてはチェックされません。 318 ページのセクション 15.3「プロジェクトの検査」 を参照してください。
[Window (ウィンドウ)] > [Show View (ビューの表示)] > [Other (その他)] > [Designer for Identity Manager] > [Search Results (検索結果)]	[Search Results (検索結果)] ビューを表示します。 139 ページのセクション 7.9「[Search Results (検索結果)] ビュー」 も参照してください。
[Window (ウィンドウ)] > [Show View (ビューの表示)] > [Other (その他)] > [Designer for Identity Manager] > [Trace (トレース)]	内部エラーおよびメッセージが表示されます。これをもとに、意図したとおりに動作しない原因を追及します。この機能は、Novell® のサポート担当者やエンジニアなどのコンサルティングリソースの情報を提供する場合に使用します。 424 ページの「トレース」 を参照してください。
[Window (ウィンドウ)] > [Show View (ビューの表示)] > [Other (その他)] > [Designer for Identity Manager] > [Help (ヘルプ)]	文脈依存型ヘルプを [Help (ヘルプ)] ビューに表示します。ヘルプトピックは、モデラや Designer でアクティブになっている部分によって異なります。
[Window (ウィンドウ)] > [Show View (ビューの表示)] > [Other (その他)] > [PDE Runtime (PDE ランタイム)]	Designer のトラブルシューティングツールが表示されます。
[Window (ウィンドウ)] > [Show View (ビューの表示)] > [Other (その他)] > [PDE Runtime (PDE ランタイム)] > [Error Log (エラーログ)]	トラブルシューティングに使用します。 429 ページのセクション 19.1「エラーログの表示」 を参照してください。

オプション	説明
[Window (ウィンドウ)] > [Show View (ビューの表示)] > [Other (その他)] > [PDE Runtime (PDE ランタイム)] > [Plug-in Registry (プラグインレジストリ)]	プラグインレジストリを表示します。 432 ページのセクション 19.3「ロードされたプラグインの確認」 を参照してください。
[Window (ウィンドウ)] > [Show View (ビューの表示)] > [Other (その他)] > [Provisioning (プロビジョニング)]	エンティティ、リスト、および組織チャートを表示および設定します。『 <i>Identity Manager ユーザープロビジョニング管理ガイド</i> (http://www.novell.com/documentation/idm/index.html?page=documentation/idm/agpro/data/agpropartconfigappenv.html)』の「ディレクトリ抽出化レイヤの設定 (http://www.novell.com/documentation/idm/index.html?page=documentation/idm/agpro/data/agpropartconfigappenv.html)」を参照してください。
[Window (ウィンドウ)] > [Show View (ビューの表示)] > [Other (その他)] > [Provisioning (プロビジョニング)] > [Data Item Mapping (データ項目マッピング)]	オブジェクト属性のマッピング方法を指定します。 262 ページのセクション 12.8「eDirectory から LDAP までスキーママッピングの表」 を参照してください。
[Window (ウィンドウ)] > [Show View (ビューの表示)] > [Other (その他)] > [Provisioning (プロビジョニング)] > [Email Notification (電子メール通知)]	電子メール通知マップを表示します。
[Window (ウィンドウ)] > [Show View (ビューの表示)] > [Other (その他)] > [Provisioning (プロビジョニング)] > [Provisioning View (プロビジョニングビュー)]	ワークフローベースのプロビジョニングで使用されているエンティティ、リスト、および組織チャートを表示します。
[Window (ウィンドウ)] > [Show View (ビューの表示)] > [Other (その他)] > [Provisioning (プロビジョニング)] > [XML]	XML 表示モードを開きます。
[Window (ウィンドウ)] > [Show View (ビューの表示)] > [Other (その他)] > [Provisioning (プロビジョニング)] > [XML Validation (XML 検証)]	XPath 式の文脈依存型編集をサポートします。現在選択されている XML エディタに自動的に追加されます。
[Window (ウィンドウ)] > [Show View (ビューの表示)] > [Other (その他)] > [Provisioning (プロビジョニング)] > [XPath Navigator (XPath ナビゲータ)]	XPath 式の文脈依存型編集をサポートします。現在選択されている XML エディタに自動的に追加されます。
[Window (ウィンドウ)] > [Show View (ビューの表示)] > [Policy Set (ポリシーセット)]	[Policy Set Manager (ポリシーセットマネージャ)] ビューが表示されます。モデラでドライバを選択すると、このビューにドライバのポリシーが表示されます。
[Window (ウィンドウ)] > [Show View (ビューの表示)] > [Search Results (検索結果)]	[Search Results (検索結果)] ビューを表示します。
[Window (ウィンドウ)] > [Show View (ビューの表示)] > [Trace (トレース)]	[Trace (トレース)] ビューを表示します。 430 ページのセクション 19.2「トレースメッセージの有効化」 を参照してください。

オプション	説明
[Window (ウィンドウ)] > [Show View (ビューの表示)] > [Other (その他)] > [General (一般)] > [Navigator (ナビゲータ)]	[Navigator (ナビゲータ)] ビューを表示します。
[Window (ウィンドウ)] > [Show View (ビューの表示)] > [Other (その他)] > [General (一般)] > [Properties (プロパティ)]	[Properties (プロパティ)] ビューを表示します。
[Window (ウィンドウ)] > [Show View (ビューの表示)] > [Other (その他)] > [General (一般)] > [Tasks (タスク)]	[Tasks (タスク)] ビューに入力したタスクが表示されます。
[Window (ウィンドウ)] > [Show View (ビューの表示)] > [Other (その他)] > [Designer for Identity Manager]	選択可能な各種 Designer ビューが一覧表示されません。
[Window (ウィンドウ)] > [Show View (ビューの表示)] > [Other (その他)] > [PDE Runtime (PDE ランタイム)] > [Plug-in Registry (プラグインレジストリ)]	登録または実行されているプラグインを確認できません。
[Window (ウィンドウ)] > [Show View (ビューの表示)] > [Other (その他)] > [XML] > [XML Validation (XML 検証)]	XML 検証の結果を表示します。
[Window (ウィンドウ)] > [Show View (ビューの表示)] > [Other (その他)] > [XML] > [XPath Navigator (XPath ナビゲータ)]	XPath 式の文脈依存型編集をサポートします。現在選択されている XML エディタに自動的に追加されます。
[Window (ウィンドウ)] > [Show View (ビューの表示)] > [Other (その他)] > [Other (その他)]	IDS ブラウザおよびトレースツールを表示します。
[Window (ウィンドウ)] > [Show View (ビューの表示)] > [Other (その他)] > [IDS Browser (IDS ブラウザ)]	IDS ブラウザステータスを表示します。
[Window (ウィンドウ)] > [Show View (ビューの表示)] > [Other (その他)] > [IDS Trace (IDS トレース)]	IDS トレースステータスを表示します。
[Window (ウィンドウ)] > [Customize Perspective (パースペクティブのカスタマイズ)]	登録または実行されているプラグインを確認できます。 107 ページのセクション 7.2 「パースペクティブ管理」 を参照してください。
[Window (ウィンドウ)] > [Customize Perspective (パースペクティブのカスタマイズ)] > [Shortcuts (ショートカット)]	現在のパースペクティブにカスケードサブメニューとして追加可能なプラグインショートカットを一覧表示します。
[Window (ウィンドウ)] > [Customize Perspective (パースペクティブのカスタマイズ)] > [Shortcuts (ショートカット)] > [Designer Document Generation (Designer ドキュメント生成)]	新しいドキュメント生成スタイルを作成するための .docgen ショートカットを追加できるようにします。
[Window (ウィンドウ)] > [Customize Perspective (パースペクティブのカスタマイズ)] > [Shortcuts (ショートカット)] > [Designer for Identity Manager]	新しいプロジェクトを作成するための [Identity Manager Project (Identity Manager プロジェクト)] ショートカットを追加できるようにします。

オプション	説明
[Window (ウィンドウ)] > [Customize Perspective (パースペクティブのカスタマイズ)] > [Shortcuts (ショートカット)] > [General (一般)]	新しいファイル、フォルダ、または空の名称未定義テキストファイルリソースを作成するためのショートカットを選択できるようにします。
[Window (ウィンドウ)] > [Customize Perspective (パースペクティブのカスタマイズ)] > [Shortcuts (ショートカット)] > [Provisioning (プロビジョニング)]	新しいディレクトリ抽象化レイヤエンティティ、リスト、関係、および組織チャートのプロビジョニング要求定義を作成するためのショートカットを選択できるようにします。
[Window (ウィンドウ)] > [Customize Perspective (パースペクティブのカスタマイズ)] > [Shortcuts (ショートカット)] > [XML]	XML ショートカットを追加できるようにします。
[Window (ウィンドウ)] > [Customize Perspective (パースペクティブのカスタマイズ)] > [Commands (コマンド)]	現在のパースペクティブにカスケードサブメニューとして追加可能なコマンドグループプラグインをアルファベット順に一覧表示します。 [Details (詳細)] フィールドは、選択したコマンドグループにより、どのメニュー項目組織チャートツールバー項目がパースペクティブに追加されるかを指定します。 108 ページの「メニューからパースペクティブを開く方法」 を参照してください。
[Window (ウィンドウ)] > [Customize Perspective (パースペクティブのカスタマイズ)] > [Commands (コマンド)] > [Breakpoints (ブレークポイント)]	ブレークポイント機能をメニューに追加します。
[Window (ウィンドウ)] > [Customize Perspective (パースペクティブのカスタマイズ)] > [Commands (コマンド)] > [co.novell.designer.idm.actionSet]	ヘルプ設定機能である [Check for Designer Updates (Designer 更新のチェック)]、[What's New (新機能)]、[Designer Readme]、[Report a Bug or Feedback (バグまたはフィードバックをレポート)]、および [Identity Manager Resources (Identity Manager リソース)] をメニューに追加します。
[Window (ウィンドウ)] > [Customize Perspective (パースペクティブのカスタマイズ)] > [Commands (コマンド)] > [Debug (デバッグ)]	デバッグプラグイン機能をメニューに追加します。
[Window (ウィンドウ)] > [Customize Perspective (パースペクティブのカスタマイズ)] > [Commands (コマンド)] > [Deploy (展開)]	展開プラグインコマンドを有効にします。 234 ページの「スキーマの展開」 を参照してください。
[Window (ウィンドウ)] > [Customize Perspective (パースペクティブのカスタマイズ)] > [Commands (コマンド)] > [Designer]	標準 Designer コマンドである [Save All (すべて保存)]、[Delete selected object(s) (選択したオブジェクトの削除)]、[Undo (元に戻す)]、および [Redo (やり直し)] をツールバーに追加します。
[Window (ウィンドウ)] > [Customize Perspective (パースペクティブのカスタマイズ)] > [Commands (コマンド)] > [Designer Projects ActionSet (Designer のプロジェクトアクションセット)]	Designer のプロジェクトインポート制御オプションをメニューに追加します。

オプション

説明

[Window (ウィンドウ)] > [Customize Perspective (パースペクティブのカスタマイズ)]
> [Commands (コマンド)] > [Editor Navigation (エディタナビゲーション)]

[Last Edit Location (最後に編集した場所)] ナビゲーションをメニューとツールバーに追加します。

[Window (ウィンドウ)] > [Customize Perspective (パースペクティブのカスタマイズ)]
> [Commands (コマンド)] > [Editor Presentation (エディタプレゼンテーション)]

[Show Selected Element Only (選択した要素のみ表示)] トグルをツールバーに追加します。

[Window (ウィンドウ)] > [Customize Perspective (パースペクティブのカスタマイズ)]
> [Commands (コマンド)] > [Generate Documentation (ドキュメント生成)]

プロジェクトのドキュメント生成をツールバーに追加します。

[Window (ウィンドウ)] > [Customize Perspective (パースペクティブのカスタマイズ)]
> [Commands (コマンド)] > [Identity Vault (アイデンティティボールド)]

プロジェクトのアイデンティティボールドリソース情報をメニューに追加します。

[Window (ウィンドウ)] > [Customize Perspective (パースペクティブのカスタマイズ)]
> [Commands (コマンド)] > [Insert (挿入)]

挿入プラグインコマンドを有効にします。

[Window (ウィンドウ)] > [Customize Perspective (パースペクティブのカスタマイズ)]
> [Commands (コマンド)] > [Keyboard Shortcuts (キーボードショートカット)]

キーボードショートカットをメニューに追加します。

[Window (ウィンドウ)] > [Customize Perspective (パースペクティブのカスタマイズ)]
> [Commands (コマンド)] > [Launch (起動)]

プログラム実行機能をメニューに追加し、起動プラグインをツールバーに追加します。

[Window (ウィンドウ)] > [Customize Perspective (パースペクティブのカスタマイズ)]
> [Commands (コマンド)] > [Manage Objects in a Novell eDirectory Tree (Novell eDirectory ツリーのオブジェクトの管理)]

[eDirectory Object Manager (eDirectory オブジェクトマネージャ)] をメニューに追加します。

[Window (ウィンドウ)] > [Customize Perspective (パースペクティブのカスタマイズ)]
> [Commands (コマンド)] > [Manage Objects in a Novell eDirectory Tree (Novell eDirectory ツリーのオブジェクトの管理)]

[Live (ライブ)] > [Browse Identity Vault (アイデンティティボールドの参照)] 機能をメニューに追加します。

[Window (ウィンドウ)] > [Customize Perspective (パースペクティブのカスタマイズ)]
> [Commands (コマンド)] > [Open Files (ファイルを開く)]

テキストまたは XML ファイルの参照や読み込みに使用するプラグインをメニューに追加します。

[Window (ウィンドウ)] > [Customize Perspective (パースペクティブのカスタマイズ)]
> [Commands (コマンド)] > [Profile (プロファイル)]

[Run (実行)] > [Profile (プロファイル)] ツールをメニューとツールバーに追加します。

[Window (ウィンドウ)] > [Customize Perspective (パースペクティブのカスタマイズ)]
> [Commands (コマンド)] > [Project Actions (プロジェクトアクション)]

プロジェクトスナップインを起動します。

オプション	説明
[Window (ウィンドウ)] > [Customize Perspective (パースペクティブのカスタマイズ)] > [Commands (コマンド)] > [Proxy Tools (プロキシツール)]	[Proxy (プロキシ)] ツールを [Run (実行)] メニューと起動ツールバーに追加します。
[Window (ウィンドウ)] > [Customize Perspective (パースペクティブのカスタマイズ)] > [Commands (コマンド)] > [Resource Navigation (リソースナビゲーション)]	[Navigation (ナビゲーション)] ツールをオプションとしてメニューに追加します。
[Window (ウィンドウ)] > [Customize Perspective (パースペクティブのカスタマイズ)] > [Commands (コマンド)] > [Tools (ツール)]	[Tools (ツール)] 機能をオプションとして [Project (プロジェクト)] メニューに追加します。
[Window (ウィンドウ)] > [Customize Perspective (パースペクティブのカスタマイズ)] > [Commands (コマンド)] > [View DS Trace Logs (DS Trace ログの表示)]	DS Trace 機能をオプションとして [Tools (ツール)] メニューに追加します。
[Window (ウィンドウ)] > [Customize Perspective (パースペクティブのカスタマイズ)] > [Commands (コマンド)] > [WebBrowser (Web ブラウザ)]	Launch Web Browser(Web ブラウザの起動) ウィザードを Web ブラウザツールバーに追加します。
[Window (ウィンドウ)] > [Customize Perspective (パースペクティブのカスタマイズ)] > [Commands (コマンド)] > [WebBrowser (Web ブラウザ)]	Launch Web Browser(Web ブラウザの起動) ウィザードを [Window (ウィンドウ)] メニューに追加します。
[Window (ウィンドウ)] > [Save Perspective As (パースペクティブに名前を付けて保存)] > [Command (コマンド)]	現在のパースペクティブに特定のレイアウトを指定して保存する簡単で効率のよい方法です。パースペクティブの切り替えは自由で、同じエディタとビューで操作できます。
[Window (ウィンドウ)] > [Reset Perspective (パースペクティブのリセット)]	パースペクティブを元のレイアウトに戻します。パースペクティブがコピーされたものである場合も、元のパースペクティブ本来のレイアウトに戻ります。
[Window (ウィンドウ)] > [Close Perspective (パースペクティブを閉じる)]	現在のパースペクティブを閉じます。
[Window (ウィンドウ)] > [Close All Perspectives (すべてのパースペクティブを閉じる)]	開いているパースペクティブをすべて閉じます。
[Window (ウィンドウ)] > [Navigation (ナビゲーション)]	ビューやエディタ間の移動に使用します。このメニューは、アクティブなエディタまたはビューに応じて表示されます。
[Window (ウィンドウ)] > [Navigation (ナビゲーション)] > [Show System Menu (システムメニューを表示)]	アクティブなシステムメニューを表示します。
[Window (ウィンドウ)] > [Navigation (ナビゲーション)] > [Show View Menu (表示メニューを表示)]	アクティブな場合に、[View (表示)] メニューを表示します。

オプション

説明

[Window (ウィンドウ)] > [Navigation (ナビゲーション)] > [Maximize Active View or Editor (アクティブなビューまたはエディタを最大化)]	アクティブなビューまたはエディタを最大化します。 <Ctrl>+<M> でビューが切り替わります。
[Window (ウィンドウ)] > [Navigation (ナビゲーション)] > [Minimize Active View or Editor (アクティブなビューまたはエディタを最小化)]	アクティブなビューまたはエディタを最小化します。 <Ctrl>+<M> でビューが切り替わります。
[Window (ウィンドウ)] > [Navigation (ナビゲーション)] > [Activate Editor (エディタのアクティブ化)]	アクティブにするエディタを選択できます。ホットキーは <F12> です。
[Window (ウィンドウ)] > [Navigation (ナビゲーション)] > [Next Editor (次のエディタ)]	リストからエディタを選択して開けます。 <Ctrl>+<F6> で、リスト内を下に移動できます。
[Window (ウィンドウ)] > [Navigation (ナビゲーション)] > [Previous Editor (前のエディタ)]	リストからエディタを選択して開けます。 <Ctrl>+<Shift>+<F6> で、リスト内を上に移動できます。
[Window (ウィンドウ)] > [Navigation (ナビゲーション)] > [Switch to Editor (エディタに切り替え)]	エディタを選択および管理できます。
[Window (ウィンドウ)] > [Navigation (ナビゲーション)] > [Quick Switch Editor (エディタのクイック切り替え)]	アクティブにするエディタを入力または選択します。ホットキーは <Ctrl>+<Shift>+<E> です。
[Window (ウィンドウ)] > [Navigation (ナビゲーション)] > [Next View (次のビュー)]	リストからビューを選択して開けます。 <Ctrl>+<F7> で、リスト内を下に移動できます。
[Window (ウィンドウ)] > [Navigation (ナビゲーション)] > [Previous View (前のビュー)]	リストからビューを選択して開けます。 <Ctrl>+<Shift>+<F7> で、リスト内を上に移動できます。
[Window (ウィンドウ)] > [Navigation (ナビゲーション)] > [Next Perspective (次のパースペクティブ)]	プロジェクト内のパースペクティブをリストから選択して切り替えることができます。ホットキーは <Ctrl>+<F8> です。
[Window (ウィンドウ)] > [Navigation (ナビゲーション)] > [Previous Perspective (前のパースペクティブ)]	プロジェクト内の前のパースペクティブをリストから選択して表示できます。ホットキーは <Ctrl>+<Shift>+<F8> です。
[Window (ウィンドウ)] > [Navigation (ナビゲーション)] > [Launch Web Browser (Web ブラウザの起動)]	ホームページ URL を指定します。この情報は [Preferences (初期設定)] に格納されます。

オプション	説明
[Window (ウィンドウ)] > [Preferences (初期設定)]	<p>Designer の動作を次のカテゴリについてカスタマイズできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ General (一般) ◆ Designer for IDM ◆ Help (ヘルプ) ◆ Independent Driver Services (独立ドライバサービス) ◆ Provisioning (プロビジョニング) ◆ XML <p>401 ページの第 18 章「初期設定」を参照してください。</p>

D.10 [Help (ヘルプ)] メニューのオプション

表 D-10 オプション: [Help (ヘルプ)] メニュー

オプション	説明
[Help (ヘルプ)] > [Welcome (ようこそ)]	[Welcome (ようこそ)] ページを表示します。42 ページのセクション 4.2「初期ページからのリンク」を参照してください。
[Help (ヘルプ)] > [Help Contents (ヘルプの目次)]	Designer のあらゆる特徴と機能に関する情報に移動し、それらを表示します。
[Help (ヘルプ)] > [Search (検索)]	ヘルプシステム内の項目を検索したり、リンクを表示したりします。
[Help (ヘルプ)] > [Dynamic Help (ダイナミックヘルプ)]	文脈依存型の情報を提供します。
[Help (ヘルプ)] > [Key Assist (ショートカットリスト)]	ショートカットのリストを表示します。
[Help (ヘルプ)] > [Check for Designer Updates (Designer の更新チェック)]	Designer の最新の更新を簡単にダウンロードしてインストールできます。
[Help (ヘルプ)] > [What's New (新機能)]	Designer の新機能を説明している Novell® Web ページを表示します。
[Help (ヘルプ)] > [Designer Readme]	既知の問題に関する更新情報を提供します。
[Help (ヘルプ)] > [Report a Bug or Feedback (バグまたはフィードバックをレポート)]	Identity Manager Designer バグやフィードバックを Bugzilla に入力できます。

注: フィードバックをお寄せいただくには、Novell ユーザーアカウント (<https://secure-www.novell.com/selfreg/jsp/createAccount.jsp>) を取得する必要があります。

オプション	説明
[Help (ヘルプ)] > [Identity Manager Resources (Identity Manager リソース)]	Designer のリソースページへのリンクが用意されています。
[Help (ヘルプ)] > [About Designer (バージョン情報)]	環境設定、製品、ライセンス、およびプラグインに関する情報が表示されます。

モデラの操作

この付録では、モデラの操作とよく使われるキーボードショートカットについて説明します。この付録は次の節で構成されています。

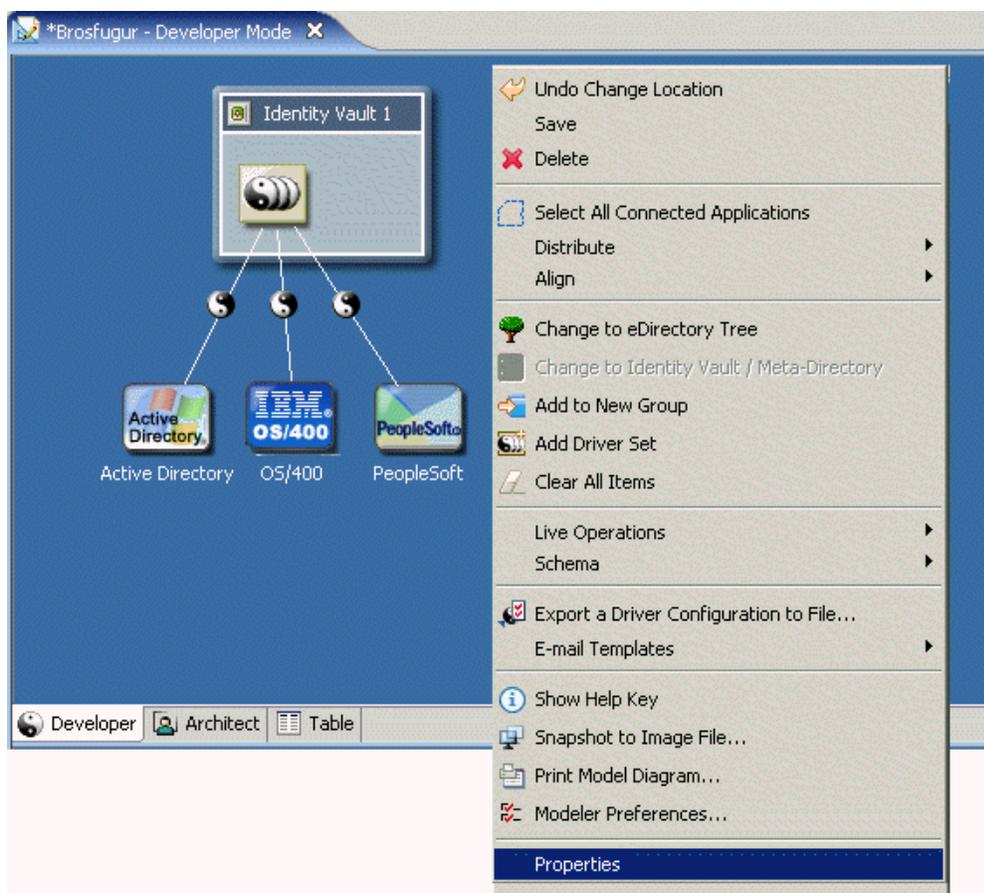
- ◆ 495 ページのセクション E.1 「モデラの右クリック操作」
- ◆ 505 ページのセクション E.2 「キーボード操作」

E.1 モデラの右クリック操作

モデラ操作には、モデラ内で右クリックしてアクセスします。リストされる操作は、右クリック対象がモデラスペースかオブジェクトかによって異なります。

図 E-1 には、モデラスペースにアイデンティティポルト、ドライバ、およびアプリケーションがあり、アイデンティティポルトを右クリックすることで使用可能なモデラ操作が示されています。

図 E-1 モデラの右クリック操作へのアクセス



次の表に、モデラで右クリックすることでアクセスできるモデラ操作のリストを示します。検索時の作業効率を考慮して、各種操作はアルファベット順に並んでいます。表 E-1

は、右クリックメニューのトップレベルでアクセスできるモデラ操作を示します。一部のトップレベルメニューオプションにはサブメニューがあります。この付録では、次のサブメニューを別の表で説明します。

- ◆ 496 ページの i E-1§ 「トップレベルモデラ操作」
- ◆ 499 ページの i E-2§ 「[Align (整列)] のサブメニュー」
- ◆ 499 ページの i E-3§ 「[Arrange Applications (アプリケーションの配置)] のサブメニュー」
- ◆ 500 ページの i E-4§ 「[Copy Operations (コピー操作)] のサブメニュー」
- ◆ 500 ページの i E-5§ 「[Credential Provisioning (資格情報のプロビジョニング)] のサブメニュー」
- ◆ 500 ページの i E-6§ 「[Data Flow (データフロー)] のサブメニュー」
- ◆ 501 ページの i E-7§ 「[Distribute (等間隔に配置)] のサブメニュー」
- ◆ 501 ページの i E-8§ 「[Driver (ドライバ)] のサブメニュー」
- ◆ 502 ページの i E-9§ 「[Driver/driver sets Configuration (ドライバ / ドライバセット環境設定)] のサブメニュー」
- ◆ 502 ページの i E-10§ 「[E-mail Templates (電子メールテンプレート)] のサブメニュー」
- ◆ 503 ページの i E-11§ 「[Entitlements (エンタイトルメント)] のサブメニュー」
- ◆ 503 ページの i E-12§ 「[Live Operations (ライブ操作)] のサブメニュー」

表 E-1 トップレベルモデラ操作

操作	説明
Add Connected Application (接続されたアプリケーションの追加)	アプリケーションを選択したドライバセットに追加します。
Add driver set (ドライバセットの追加)	ドライバセットオブジェクトをアイデンティティボールドに追加します。
Add to New Group (新規グループに追加)	新しいドメイングループを作成し、選択した項目を追加します。選択した項目は、関連付けられていたグループから削除されます。
Align (整列)	選択したオブジェクトを水平 / 垂直方向に整列します。詳細については、 499 ページの表 E-2 を参照してください。
Arrange Applications (アプリケーションの配置)	アプリケーションアイコンを関連付けられているドライバセットアイコンの周囲に配置します。チェックマークは、ドライバセットの現在のレイアウトを示します。レイアウトを設定すると、接続するアプリケーションがすべて自動的にレイアウトにはめこまれます。詳細については、 499 ページの表 E-3 を参照してください。
Change to eDirectory Tree (eDirectory ツリーに変更)	アイデンティティボールドを eDirectory™ ツリーに変更します。設計者モードの場合、このオプションにはボールドの代わりにツリーが表示されます。これは表示の違いであり、機能的には同じです。

操作	説明
Change to Identity Vault/Metadirectory (アイデンティティボールド/メタディレクトリに変更)	eDirectory ツリーをアイデンティティボールドに変更します。開発者モードの場合、このオプションにはツリーの代わりにボールドが表示されます。これは表示の違いであり、機能的には同じです。
Clear Domain Contents (ドメインコンテンツのクリア)	選択したドメイングループからすべての項目を削除します。
Copy Operations (コピー操作)	既存のオブジェクトから情報をコピーできます。詳細については、 500 ページの表 E-4 を参照してください。
Credential Provisioning (資格情報のプロビジョニング)	Novell SecretStore® および Novell® SecureLogin 資格情報リポジトリでアプリケーション資格情報を管理するためのポリシーを作成および変更できます。詳細については、 500 ページの表 E-5 を参照してください。
Data Flow (データフロー)	選択したアプリケーションの同期方向を指定します。詳細については、 500 ページの表 E-6 を参照してください。
Delete (削除)	選択したオブジェクトを削除します。
Distribute (等間隔に配置)	選択したオブジェクトを自動的に等間隔に配置します。詳細については、 501 ページの表 E-7 を参照してください。
Domain Group (ドメイングループ)	ドメイングループをプロジェクトに追加します。ドメイングループはネストにできます。
Driver (ドライバ)	選択したドライバを管理します。詳細については、 501 ページの表 E-8 を参照してください。
E-mail Templates (電子メールテンプレート)	選択したアイデンティティボールドによる通知の送信先として電子メールサーバを指定します。詳細については、 502 ページの表 E-10 を参照してください。
Entitlements (エンタイトルメント)	選択したドライバのエンタイトルメントを変更します。詳細については、 503 ページの表 E-11 を参照してください。
Export Driver to Configuration File (ドライバを環境設定ファイルにエクスポート)	ドライバの環境設定を XML ファイルにエクスポートします。iManager はこの形式を使用できます。Designer はこの形式を再インポートできます。詳細については、 395 ページのセクション 17.8「ファイルへのエクスポート」 を参照してください。
Export driver set to Configuration File (ドライバセットを環境設定ファイルにエクスポート)	ドライバセットを XML ファイルにエクスポートします。iManager はこの形式を使用できます。Designer はこの形式を再インポートできます。詳細については、 395 ページのセクション 17.8「ファイルへのエクスポート」 を参照してください。
Export Identity Vault to Configuration File (アイデンティティボールドを環境設定ファイルにエクスポート)	アイデンティティボールドを XML ファイルにエクスポートします。iManager はこの形式を使用できます。Designer はこの形式を再インポートできます。詳細については、 395 ページのセクション 17.8「ファイルへのエクスポート」 を参照してください。
Identity Vault (アイデンティティボールド)	アイデンティティボールドを、モデラスペースまたは既存のドメイングループに追加します。

操作	説明
Import Driver Configuration from File (ドライバ環境設定をファイルからインポート)	iManager によりエクスポートされたファイルを読み込みます。詳細については、 160 ページのセクション 8.3「ドライバ環境設定ファイルのインポート」 を参照してください。
Live Operations (ライブ操作)	モデリング中の操作やデザイン操作とは異なり、実行時にただちに有効になる Designer 操作が用意されています。詳細については、 503 ページの表 E-12 を参照してください。
Manage Schema (スキーマの管理)	Schema Manager(スキーママネージャ)を起動します。選択したアイデンティティボールドまたはディレクトリのスキーマ設定を操作します。
Mark/Unmark as Firewall (ファイアウォールのマーク/マーク解除)	ドライバがファイアウォールを介して通信するかどうかをマークできるようになります。開発者モードで使用します。ドライバアイコンが表示されていない場合、ファイアウォールアイコンは表示されません。
Password Sync (パスワード同期)	パスワード同期のフローを設定および表示します。詳細については、 298 ページのセクション 13.7「パスワードの統合」 を参照してください。
Properties (プロパティ)	アイデンティティボールド、ドライバセット、ドライバ、およびアプリケーションの設定を行います。
Redo Change Location (場所の変更をやり直す)	項目を元の場所に戻します。
Remote Control Desktop (リモートコントロールデスクトップ)	選択したアプリケーションのリモートコントロールセッションを開始します。開始するには、ホストサーバで既存の VNC サーバが実行されている必要があります。
Run Configuration Wizard (環境設定ウィザードの実行)	順を追ってドライバを作成します。ウィザードのフォームに入力すると、入力内容を反映したドライバを設定するポリシーが Designer により自動生成されます。
Select Connected Applications (接続されたアプリケーションを選択)	ドライバセットまたはアイデンティティボールドに接続されているすべてのアプリケーションを選択します。ドライバセットに接続されているアプリケーションが複数ある場合に便利です。簡単にまとめて移動または削除でき、ひとつひとつ探して選択する必要はありません。
Show/Hide this Application's Subsystems (アプリケーションのサブシステムを表示/非表示)	アプリケーションまたはオペレーティングシステムのサブシステムをモデル化できます。たとえば、Linux システムの場合は、サブシステムを開いて MySQL をドロップすると、Linux 上で実行するサブアプリケーションとして使用できます。これは表示上の機能ですが、アイデンティティソリューションを構築しているエンタープライズシステムの構造を正確に把握するのにとても便利です。
Show Driver Policy Sets (ドライバのポリシーセットを表示)	[Policy Set (ポリシーセット)] ビューを起動します。詳細については、 136 ページのセクション 7.7「[Policy Set (ポリシーセット)] ビュー」 を参照してください。
Show View: Dataflow (ビューの表示: データフロー)	アプリケーションとドライバとの間の情報の流れを [Developer (開発者)] ビューに表示します。詳細については、 271 ページの第 13 章「データフローの管理」 を参照してください。

操作	説明
Straighten Connections (接続項目の直線化)	選択した項目の接続線を直線化します。たとえば、ドライバへの接続線を直線化したり、ドライバセット内のすべての線、ドメイングループ内のすべての項目、またはプロジェクト全体を直線化したりできます。
Undo Change Location (場所の変更を元に戻す)	項目を元のステータスに戻します。
Undo Resize (サイズ変更を元に戻す)	項目を元のサイズに戻します。
Ungroup (グループの解除)	選択したグループを削除します。ただし、各項目はモデラに残ります。項目は、属していたグループの親に自動的に追加されます。

表 E-2 [Align (整列)] のサブメニュー

操作	説明
Align Bottom (下揃え)	選択したオブジェクトを下端で揃えます。
Align Center (中央揃え)	選択したオブジェクトを中央で水平方向に揃えます。
Align Left (左揃え)	選択したオブジェクトを左端で揃えます。
Align Middle (上下中央揃え)	選択したオブジェクトを中央で垂直方向に揃えます。
Align Right (右揃え)	選択したオブジェクトを右端で揃えます。
Align Top (上揃え)	選択したオブジェクトを上端で揃えます。

表 E-3 [Arrange Applications (アプリケーションの配置)] のサブメニュー

操作	説明
Arrangement Off (等間隔配置オフ)	以前に選択した自動配置方式を無効にします。
Box (ボックス)	アプリケーションアイコンをドライバセットアイコンの周囲に正方形に配置します。
Circle (円)	アプリケーションアイコンをドライバセットアイコンの周囲に円形に配置します。
Expand/Contract (展開 / 縮小)	アプリケーションアイコンのレイアウトを展開または縮小します。このオプションを選択するとダイアログボックスが開きます。[Factor (係数)] フィールドのスライドをドラッグしてレイアウトを変更します。
Fan Out - Bottom (扇形 - 下)	アプリケーションアイコンをドライバセットの下に扇形に配置します。
Fan Out - Left (扇形 - 左)	アプリケーションアイコンをドライバセットの左に扇形に配置します。
Fan Out - Right (扇形 - 右)	アプリケーションアイコンをドライバセットの右に扇形に配置します。

操作	説明
Fan Out - Top (扇形 - 上)	アプリケーションアイコンをドライバセットの上に扇形に配置します。
Half Circle (半円)	アプリケーションアイコンをドライバセットアイコンの周囲に半円形に配置します。
Star (星形)	アプリケーションアイコンをドライバセットアイコンの周囲に星形に配置します。

表 E-4 [Copy Operations (コピー操作)] のサブメニュー

操作	説明
Copy Settings (設定のコピー)	選択したオブジェクトの設定をコピーします。詳細については、70 ページのセクション 5.5 「コピーと貼り付け」を参照してください。
Copy Global Configuration Values (グローバル構成値をコピー)	グローバル構成値 (GCV) を、あるドライバセットから 1 つまたは複数の別のドライバセットに一括コピーします。これにより、GCV を特定の場所で設定して、その GCV 設定を選択したターゲットに適用できるようになります。

表 E-5 [Credential Provisioning (資格情報のプロビジョニング)] のサブメニュー

操作	説明
New Application Object (新規アプリケーションオブジェクト)	新しいアプリケーションオブジェクトを作成します。アプリケーションオブジェクトには、特定のアプリケーションで使用する静的シングルサインオンパラメータを格納します。詳細については、『Identity Manager ポリシービルダとドライバのカスタマイズガイド』の「Novell 資格情報プロビジョニングポリシー」を参照してください。
New Repository Object (新規リポジトリオブジェクト)	新しいリポジトリオブジェクトを作成します。リポジトリオブジェクトには、Novell SecretStore または Novell SecureLogin のどちらかの認証資格情報リポジトリで使用する静的環境設定情報が格納されます。詳細については、『Identity Manager ポリシービルダとドライバのカスタマイズガイド』の「Novell 資格情報プロビジョニングポリシー」を参照してください。

表 E-6 [Data Flow (データフロー)] のサブメニュー

操作	説明
Ignore both directions (両方向とも無視)	選択したオブジェクトが発行者チャンネル同期と購読者チャンネル同期をどちらも無視するよう選択します。詳細については、271 ページの第 13 章「データフローの管理」を参照してください。
Ignore from (購読者チャンネルを無視)	選択したオブジェクトが購読者チャンネルの同期を無視するよう選択します。詳細については、271 ページの第 13 章「データフローの管理」を参照してください。

操作	説明
Ignore to (発行者チャンネルを無視)	選択したオブジェクトが発行者チャンネル同期を無視するよう選択します。詳細については、 271 ページの第 13 章「データフローの管理」 を参照してください。
Publish (発行)	選択したオブジェクトについて発行者チャンネルを同期することを指定します (選択したオブジェクトからの双方向同期)。詳細については、 271 ページの第 13 章「データフローの管理」 を参照してください。
Subscribe (購読)	選択したオブジェクトの購読者チャンネルを同期することを指定します (選択したオブジェクトからの双方向同期)。詳細については、 271 ページの第 13 章「データフローの管理」 を参照してください。
Sync (同期)	選択したオブジェクトについて、発行者チャンネルと購読者チャンネルをどちらも同期することを指定します (双方向同期)。詳細については、 271 ページの第 13 章「データフローの管理」 を参照してください。

表 E-7 [Distribute (等間隔に配置)] のサブメニュー

操作	説明
Horizontal (水平)	選択したオブジェクトを水平方向に等間隔に配置します。
Vertical (垂直)	選択したオブジェクトを垂直方向に等間隔に配置します。

表 E-8 [Driver (ドライバ)] のサブメニュー

操作	説明
Deploy Driver (ドライバの展開)	選択したドライバを展開します。詳細については、 384 ページのセクション 17.3「ドライバのアイデンティティポールの展開」 を参照してください。
Driver Status (ドライバのステータス)	展開された環境での選択したドライバのステータスを表示します。
Export Driver to Configuration File (ドライバを環境設定ファイルにエクスポート)	選択したドライバの環境設定を XML ファイルにエクスポートします。これにより、ドライバの環境設定が移植可能になり、必要があれば複数の環境に適用できるようになります。詳細については、 395 ページのセクション 17.8「ファイルへのエクスポート」 を参照してください。
Import Policy (ポリシーのインポート)	事前定義されたポリシーを選択したドライバまたはチャンネルにインポートします。詳細については、 165 ページのセクション 8.4「アイデンティティポールのチャンネル、ポリシー、スキーマ項目のインポート」 を参照してください。
Import Channel (チャンネルのインポート)	事前定義されたチャンネルを選択したドライバにインポートします。詳細については、 165 ページのセクション 8.4「アイデンティティポールのチャンネル、ポリシー、スキーマ項目のインポート」 を参照してください。

操作	説明
Manage Schema (スキーマの管理)	Schema Manager(スキーママネージャ)を起動します。選択したアイデンティティボールドまたはディレクトリのスキーマ設定を操作します。
Password Sync (パスワード同期)	選択したドライバの [Password Synchronization Options (パスワード同期オプション)] ページを開きます。詳細については、 298 ページのセクション 13.7 「パスワードの統合」 を参照してください。
Properties (プロパティ)	選択したドライバの [Properties (プロパティ)] ページを表示します。
Restart Driver (ドライバの再起動)	選択したドライバを停止して再起動します。
Run Configuration Wizard (環境設定ウィザードの実行)	ドライバ環境設定ウィザードを起動します。表示される手順に従ってドライバやドライバセットを作成します。
Setup Driver Security (ドライバのセキュリティの設定)	[Driver Security Equals/Exclusions (ドライバの同等/排除セキュリティ)] ページが開きます。選択したドライバの同等セキュリティを設定します。
Show Driver Policy Sets (ドライバのポリシーセットを表示)	Designer の [Policy Set (ポリシーセット)] ビューを開きます。詳細については、 136 ページのセクション 7.7 「[Policy Set (ポリシーセット)] ビュー」 を参照してください。
Simulate (シミュレート)	選択したドライバに対してポリシー変換シミュレートプログラムを実行します。
Start Driver (ドライバの起動)	選択したドライバを起動します。
Stop Driver (ドライバの停止)	選択したドライバを停止します。

表 E-9 [Driver/driver sets Configuration (ドライバ/ドライバセット環境設定)] のサブメニュー

操作	説明
Import Attributes (属性のインポート)	選択したドライバ/ドライバセットに属性をインポートします。詳細については、 143 ページの第 8 章 「Designer へのインポート」 を参照してください。
Deploy Attributes (属性の展開)	選択したドライバ/ドライバセットから属性を展開します。詳細については、 381 ページの第 17 章 「展開とエクスポート」 を参照してください。

表 E-10 [E-mail Templates (電子メールテンプレート)] のサブメニュー

操作	説明
E-mail Server Properties (電子メールサーバのプロパティ)	電子メール通知を送信するよう電子メールサーバを設定します。パスワードイベントに関するユーザ通知に使用するテンプレートを編集します。詳細については、 213 ページのセクション 11.4 「電子メールサーバの設定」 を参照してください。

操作	説明
Edit Template (テンプレートの編集)	[E-mail Templates (電子メールテンプレート)] ダイアログボックスを開きます。選択したアイデンティティポータルに関連付けられている電子メールテンプレートを編集できます。詳細については、 207 ページの第 11 章「電子メール通知テンプレートの設定」 を参照してください。

表 E-11 [Entitlements (エンタイトルメント)] のサブメニュー

操作	説明
Add Entitlement (エンタイトルメントの追加)	エンタイトルメントウィザードが起動します。選択したドライバにエンタイトルメントを追加できます。詳細については、 181 ページの第 9 章「エンタイトルメント」 を参照してください。
Edit Entitlements (エンタイトルメントの編集)	選択したドライバに関連付けられている既存のエンタイトルメントの設定を編集します。詳細については、 181 ページの第 9 章「エンタイトルメント」 を参照してください。

表 E-12 [Live Operations (ライブ操作)] のサブメニュー

操作	説明
Browse Identity Vault (アイデンティティポールの参照)	eDirectory Object Manager (eDirectory オブジェクトマネージャ) が起動します。選択したアイデンティティポータルを表示したり、その属性を編集したりできます。詳細については、 327 ページのセクション 15.4「ディレクトリオブジェクトの管理」 を参照してください。
Compare all driver sets (すべてのドライバセットの比較)	環境設定を、すべてのモデル化されたドライバセットと、選択したアイデンティティポータルに現在展開されているドライバセットとを比較します。詳細については、 388 ページのセクション 17.6「比較機能の使用」 を参照してください。
Compare Driver (ドライバの比較)	環境設定を、モデル化されたドライバと現在展開されているドライバとで比較します。詳細については、 388 ページのセクション 17.6「比較機能の使用」 を参照してください。
Compare driver set (ドライバセットの比較)	環境設定を、モデル化されたドライバセットと現在展開されているドライバセットとで比較します。詳細については、 388 ページのセクション 17.6「比較機能の使用」 を参照してください。
Deploy all driver sets (すべてのドライバセットの展開)	選択したアイデンティティポールのすべてのモデル化されたドライバセットを展開します。詳細については、 383 ページのセクション 17.2「ドライバセットのアイデンティティポータルへの展開」 を参照してください。
Deploy Driver (ドライバの展開)	選択したドライバを展開します。詳細については、 384 ページのセクション 17.3「ドライバのアイデンティティポータルへの展開」 を参照してください。

操作	説明
Deploy driver set (ドライバセットの展開)	選択したドライバセットを展開します。詳細については、 383 ページのセクション 17.2「ドライバセットのアイデンティティボールドへの展開」 を参照してください。
Deploy E-mail Templates (電子メールテンプレートの展開)	選択した電子メールテンプレートを展開します。
Deploy Identity Vault (アイデンティティボールドの展開)	選択したアイデンティティボールドを展開します。詳細については、 382 ページのセクション 17.1「プロジェクトのアイデンティティボールドへの展開」 を参照してください。
Driver Configuration (ドライバ環境設定)	選択したドライバに関連する属性をインポートまたは展開します。詳細については、 502 ページの表 E-9 を参照してください。
driver set Configuration (ドライバセットの環境設定)	選択したドライバに関連する属性をインポートまたは展開します。詳細については、 502 ページの表 E-9 を参照してください。
Driver Status (ドライバのステータス)	展開された環境での選択したドライバのステータスを表示します。
Export/Deploy Schema (スキーマのエクスポート/展開)	モデル化されたアイデンティティボールドスキーマを展開済みのアイデンティティボールドに展開します。または、選択したアイデンティティボールドスキーマをファイル (.sch または .ldif 形式) でエクスポートします。詳細については、 381 ページの第 17 章「展開とエクスポート」 を参照してください。
Import Channel (チャンネルのインポート)	既存のドライバまたはアプリケーションからチャンネルをインポートします。詳細については、 165 ページのセクション 8.4「アイデンティティボールドからのチャンネル、ポリシー、スキーマ項目のインポート」 を参照してください。
Import Driver (ドライバのインポート)	既存のアイデンティティボールドからドライバをインポートします。詳細については、 152 ページのセクション 8.2「アイデンティティボールドからのドライバセットまたはドライバのインポート」 を参照してください。
Import driver set (ドライバセットのインポート)	既存のアイデンティティボールドからドライバセットをインポートします。詳細については、 152 ページのセクション 8.2「アイデンティティボールドからのドライバセットまたはドライバのインポート」 を参照してください。
Import E-mail Templates (電子メールテンプレートのインポート)	既存のアイデンティティボールドから電子メールテンプレートをインポートします。
Import from Identity Vault (アイデンティティボールドからのインポート)	既存のアイデンティティボールドからデータをインポートします。接続するアイデンティティボールドの認証資格情報を指定する必要があります。詳細については、 143 ページの第 8 章「Designer へのインポート」 を参照してください。
Import Policy (ポリシーのインポート)	既存のドライバからポリシーをインポートします。詳細については、 165 ページのセクション 8.4「アイデンティティボールドからのチャンネル、ポリシー、スキーマ項目のインポート」 を参照してください。

操作	説明
Import Schema (スキーマのインポート)	既存のアイデンティティボールドからスキーマをインポートします。詳細については、 165 ページのセクション 8.4「アイデンティティボールドからのチャンネル、ポリシー、スキーマ項目のインポート」 を参照してください。
Open iManager (iManager の起動)	iManager を開きます。eDirectory の管理に使用します。
Refresh Application Schema (アプリケーションスキーマのリフレッシュ)	選択したアプリケーションオブジェクトの更新されたスキーマをインポートします。
Restart Drivers (ドライバの再起動)	選択したオブジェクトに関連付けられているすべてのドライバを再起動します。
Setup Driver Security (ドライバのセキュリティの設定)	[Driver Security Equals/Exclusions (ドライバの同等/排除セキュリティ)] ページが開きます。選択したドライバの同等セキュリティを設定します。
Start Drivers (ドライバの起動)	選択したオブジェクトに関連付けられているすべてのドライバを起動します。
Stop Drivers (ドライバの停止)	選択したオブジェクトに関連付けられているすべてのドライバを停止します。

E.2 キーボード操作

次の表で、モデラで使用できるキーボードの一般的なショートカットについて説明します。

表 E-13 ショートカットキー

キー操作	説明
/	項目の次の接続に移動します。
\	項目の前の接続に移動します。
<Delete>	選択された項目または行を削除します。
<左矢印>	左に移動します。
<右矢印>	右に移動します。
<上矢印>	上に移動します。
<下矢印>	下に移動します。
<Alt>+<下矢印>	サブグループの中に移動します。
<Alt>+<上矢印>	サブグループの外へ移動します。
<Ctrl>+<=>	ズームインします。
<Ctrl>+<->	ズームアウトします。
<Ctrl>+<A>	現在のプロジェクトのすべてのオブジェクトを選択します。

キー操作	説明
<Ctrl>+<C>	選択されたオブジェクトをクリップボードにコピーします。
<Ctrl>+<F>	[Find (検索)] ダイアログボックスが開きます。プロジェクト内での検索ができます。
<Ctrl>+<V>	選択された場所にクリップボードの内容を貼り付けます。

主要な用語

F

表 F-1 Designer で使用される主な用語

アイコン	用語	説明
	アプリケーションオブジェクト	接続されたシステムを表します。該当するシステムは、データベースファイルまたは CSV ファイルです。
	ドライバオブジェクト	Identity Manager を実行している eDirectory™ ツリーにアプリケーションを接続するチャンネル、ポリシー、ルール、およびフィルタのコレクション。各ドライバは、異なるタスクを実行します。ポリシー、ルール、フィルタは、データを操作してそれらのタスクを実行する方法をドライバに伝えます。
	ドライバセット	1 か所に格納されている Identity Manager ドライバのコレクション。
	ドライバのプロパティショートカット	このショートカットをダブルクリックすると、オブジェクトの名前に関連付けられている [Properties (プロパティ)] ウィンドウが開きます。
	フィルタ	eDirectory との間で送受信できるオブジェクト (グループ、ユーザ、およびそれらに関連付けられた属性) を決めるゲートキーパーの役割を果たします。フィルタは、オブジェクトの送信を許可します。
	アイデンティティポータル	Identity Manager がインストールされている eDirectory ツリーを表します。
	通知コレクション	電子メール通知テンプレートのプレースホルダ。
	通知オブジェクト	通知テンプレート。パスワードイベント (パスワードヒントの要求など) に関する電子メール通知をユーザに送信するのに使用します。
	ポリシー	ルールと引数のコレクション。これを使用して、アイデンティティポータルとの間でイベントを送受信できるように、アプリケーションを設定します。ポリシーは、アイデンティティポータルやアプリケーションから受信するデータの操作に使用します。各ドライバは、異なるタスクを実行します。ポリシーは、ドライバに対し、タスクを実行するためのデータ操作方法を指示します。
	プロジェクト名	作成するプロジェクトの名前。プロジェクト名は <code>workspace\project name</code> ディレクトリに格納されます。

アイコン	用語	説明
	発行者チャンネル	ルールとポリシーの組み合わせ。Designer では、ドライバ全体の代わりに 1 つのチャンネルをインポートできます。購読者チャンネルと発行者チャンネルは、それぞれ情報が流れる方向を示しています。発行者チャンネルは、アプリケーション、データベース、または CSV ファイルからイベントを受け取り、eDirectory に送信します。購読者チャンネルと発行者チャンネルは独立に動作し、一方のチャンネルでのアクションは、もう一方のチャンネルには影響を与えません。
	スキーママッピング	Identity Manager はスキーママッピングを使用することで、接続システムを変更することなく、接続システムに情報を同期できます。スキーマは、接続されたシステムのすべてのクラスと属性を変換します。
	サーバオブジェクト	Identity Manager がインストールされているツリー内のサーバ。
	購読者チャンネル	ルールとポリシーの組み合わせ。Designer では、ドライバ全体の代わりに 1 つのチャンネルをインポートできます。購読者チャンネルは、eDirectory からイベントを受け取り、受信側システム (アプリケーション、データベース、または CSV ファイル) に送信します。購読者チャンネルと発行者チャンネルは独立に動作し、一方のチャンネルでのアクションは、もう一方のチャンネルには影響を与えません。
	XSLT	XSLT スタイルシートを表します。XSLT は DirXML スクリプトの代わりに使用されます。